# 2025
# 学修要項
# Syllabus シラバス

Kitasato University School of Pharmacy

**第１学年**

北里大学 薬学部
Kitasato University School of Pharmacy

# はじめに

この学修要項（シラバス）には、2025 年度入学の 1 年生が相模原キャンパスにおいて受講する授業科目の履修方法及びその授業内容が掲載されています。全体を熟読してください。その上で、疑問や不明なところがある場合は、クラス担任、チューター、教学センター事務室一般教育課・教務係に出向いて指導を受け、疑問を解明してください。

なお、大学における学生に対する公示伝達は、すべて掲示によって行われます。授業に関すること、試験に関すること、その他重要事項等は、すべて所定の掲示板または Web サイトに掲示されますので、見落としのないようにしてください。必ず掲示板及び Web サイトを見る習慣をつけることが肝要です。掲示の見落としを理由に、伝達された事項に対する責任を免れることはできません。特に注意してください。

**〈学修要項掲載内容〉**

○１年次における履修科目と授業内容

○履修方法と進級規程

○行事予定

○その他

# 目　　次

【2025 年度入学生】

1 年


**新入生の皆さんへ** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
**学部・研究科の概要** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
**理念・教育方針** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
**2025 年度「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」と「学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）」**・・・・・・・・・・・・・・・ 5
**Ⅰ．2025 年度 1 年次行事予定** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
**Ⅱ．1 年次科目の履修について** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
１．履修と単位制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
２．薬学部 1 年次授業科目一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
３．2025 年度薬学部時間割 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
４．履修登録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
５．講義 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
６．試験・成績 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
７．科目ナンバリング ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
８．その他 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
**Ⅲ．各種養成講座について** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
１．漢方医薬学履修プログラム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
２．NR・サプリメントアドバイザー養成講座及び健康食品管理士養成講座 ・・・・・・・・・・・ 40
**Ⅳ．単位互換制度** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
１．本学他学部の授業科目履修制度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
２．他大学との単位互換制度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
**Ⅴ．卒業及び 2 年次以降の授業科目**
１．カリキュラムツリー（薬学科・生命創薬科学科） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
２．2025 年度入学生カリキュラム・卒業要件単位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
**Ⅵ．薬学部学年進級規程（2025 年度入学生）** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
**Ⅶ．一般教育部教員一覧** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
**Ⅷ．一般教育部教室案内図** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
**Ⅸ．学部・学科・専攻の略号** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
**Ⅹ．講義内容（シラバス）** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
**Ⅺ．読替表（薬学科・生命創薬科学科）** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・406
**Ⅻ．参考**
１．薬剤師国家試験出題基準 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・410

# 新入生の皆さんへ

薬学部長　田辺　光男

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。北里大学薬学部の教職員一同、皆さんのご入学を心から歓迎いたします。

初年度は、相模原キャンパスで同級の友人とともに、また、課外活動などを通じて他学部の先輩や友人とともに、楽しく実りある学生生活を送られることを願っています。広々とした相模原キャンパスには無限の可能性が満ちていることと思います。

薬学部には、薬学科（6年制）と生命創薬科学科（4年制）の2学科が設置されています。各学科には、それぞれの人材養成の目的がまとめられています。

薬学科は、高度化・細分化された医療の中で、医薬品の適正使用を通して、医療の質を確保するための「薬の専門家」として活躍する薬剤師を養成することを、生命創薬科学科は、薬学関連領域における多様な人材需要に応えるため、薬剤師としてではなく、薬学の基礎的な知識・技能を基盤に、社会の多様な分野で活躍できる人材の育成を目的としています。それぞれの目的を達成するために、卒業時に皆さんに身につけてほしい資質と能力を「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」として、また、その目的達成のために実施するカリキュラム編成の方針を「教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）」として学修要項（シラバス）に掲載しています。これらは必ずご一読ください。両学科とも、皆さんには、豊かな人間性と倫理観及び高いコミュニケーション能力を身につけ、意欲的に課題を見いだして、その問題を解決する能力を培ってほしいと願っています。

薬学部では、低学年から高学年に向けて高度な薬学専門科目を学ぶようにカリキュラムが編成されています。したがって、低学年の科目内容が高学年の学習に密接に関わっています。また、薬学専門科目以外に、人間形成のための教育が全学年を通じて行われています。この他、1年次では、大学への導入教育、一般教養教育とともに、将来の進路を選択するためのキャリア養成科目も設置されています。科目の中には、一方的に教員から講義を聞くのではなく、自分の考えを発言したり、予めまとめた内容を発表したりする双方向の授業もありますので、積極的に参加してほしいと思います。また、薬学部では、1年次ばかりでなく、全学年を通じて実習科目が大きなウエートを占めています。実習は、講義で修得した知識を実体験しながら理解を深める大切な科目です。また、正確な技術の習得も重要な目的となりますので、一人一人が「主体的」に取り組んでほしいと思います。

薬学部では、1年次の皆さんのクラス主任・副主任を薬用植物園および大学病院薬剤部を兼務する教員が担当しています。また、白金キャンパスでは、薬学部教員がチューターとして相談に応じるシステムもあります。何か悩みや心配事がある場合には、教員や事務の人たちに遠慮なく相談してほしいと思います。一人で悩むのではなく誰かと話をすることは、冷静な判断のきっかけにもなり、解決のヒントが得られることが多々あります。

私達は未曾有の新型コロナウイルス感染症パンデミックを経験しましたが、その中でも歩みを止めることなく柔軟に授業形態を進化させ対応してきました。私達教職員一同は、皆さんが大学生としての自覚を持ち新たな気持ちで学生生活をスタートできることを願い、皆さんが大学で学ぶ機会を途切れることなく提供し、安心して学生生活を送られるよう準備しています。北里大学薬学部において、将来の夢と希望がかなえられるよう応援しています。

# 薬学部・薬学研究科の概要

薬学部は、1964（昭和 39）年に「質の高い薬剤師ならびに優秀な研究者・技術者を養成すること」を目的として、北里大学の 2 番目の学部（薬学科 1 学科）として設立された。翌年の 1965（昭和 40）年には、製薬学科を増設した。2006（平成 18）年には、薬学教育年限の延長にともない、「高度化した医療現場で活躍できる薬剤師の養成」を目的とした薬学科（6 年制）と「薬学関連分野の研究者や教育者など、薬学周辺領域で活躍できる人材の養成」を目的とした薬科学科（4 年制）の 2 学科を併置した。2010（平成 22）年、薬科学科は生命創薬科学科へと名称変更し現在に至っている。

薬学研究科は、高度な生命科学の精髄を極める専門教育の場として、1968（昭和 43）年に薬学専攻修士課程をもって発足し、1973（昭和 48）年には博士後期課程を開設した。開設当初から、「生命科学に関する最先端の基礎研究を重視」して、10 を越える専門分野の教育・研究を展開しつつ、1973（昭和 48）年には、修士課程に日本初の臨床薬学専門分野を開講し、臨床薬学の実践的教育・研究を大学院の教育課程に取り入れた。1977（昭和 52）年には臨床薬学研究室を開設、さらに、1995（平成 7）年に臨床薬学研究室の機能を充実拡大するため、薬学部附属臨床薬学研究センターに組織変更した。1999（平成 11）年度から「薬学履修コース」、「臨床薬学履修コース」及び「臨床統計学履修コース」からなるコース制を敷くことで教育・研究の特色を一層鮮明にした。臨床統計学履修コースは、わが国での臨床統計学の確立及び専門家の育成を目指して開設されたコースである。2006（平成 18）年度には、社会人を対象として、新薬開発分野で国際的に活躍できる高度専門家を育成することを目的とする「医薬開発学履修コース」を開設した。

薬学 6 年制教育の進行に伴い、2010（平成 22）年には修士課程に薬科学専攻「薬科学履修コース」を設置し、その後、2012（平成 24）年に博士課程薬学専攻「薬学履修コース」（修業年限 4 年）及び博士後期課程薬科学専攻「薬科学履修コース」（修業年限 3 年）を設置した。大学院の改組に伴い、「臨床統計学履修コース」及び「医薬開発学履修コース」は薬科学専攻へ組み込まれ，現在に至っている。

2008（平成 20）年度から 2021（令和 3）年度まで、本学が文部科学省から選定された「がんプロフェッショナル養成プラン」の一環として、博士後期課程に社会人を対象としたがん専門薬剤師の養成を目的とする「医療薬学－がん領域－履修コース」を設置した。

本学部及び本研究科では、これまでに 16,345 余名の薬学士、1,710 余名の修士、141 余名の博士を輩出し、これら卒業生・修了生は社会の第一線で活躍している。

2006（平成 18）年度からスタートした 6 年制薬学教育では、新たに 11 週にわたる長期実務実習が加えられた。本学では、関連病院の薬剤部長が薬学部教授あるいは准教授を兼務する教育体制が構築されており、臨床薬学研究・教育センターには 32 名の薬剤師免許を有する臨床教員が在席し、そのうち 16 名が付属病院薬剤部に配置され学部の講義・実習ととも

に実務実習を担当する。6 年制薬学教育の中でも極めて重要な病院実習を、希望する全ての学生が附属病院のいずれかで履修できる環境を整え、さらに薬学部教員が責任をもって教授する教育体制は、他の薬系大学では実施できない本学部の大きな特長である。さらに、臨床薬学研究・教育センターには 2 名の医師が専任教員として配置され、学部の講義と事前実習を担当している。

本学部では、一般教養や薬学的専門知識・技能・態度を修得する教育に加えて、医療人としての倫理観を醸成する教育にも力を入れている。一般教育部と連携した「倫理学」のみならず、薬学専門科目としての「医療倫理学」、医療現場を体験する「薬と仕事Ⅰ」、災害時医療や救命処置について学び、小グループでの討論や実技を中心に進められる「社会薬学実習」、附属病院を活用した「病院実習」や「医療ボランティア実習」などを通して、高い倫理観の醸成を図っている。その中の一つで 2 年次に開講される「社会薬学実習」では、災害時の初期対応や医療活動、傷病者に対する救命処置、医薬品等による健康被害を題材とした事例検討などを通して、学生に「いのち」と「医療プロフェッショナリズム」について考えさせる。この実習内容は文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」（2008（平成 20）年度）に選定され、高い評価を受けている。

一方、薬学部、医学部、看護学部、医療衛生学部、保健衛生専門学院、看護専門学校の学生が一堂に会して討議・発表を行う「チーム医療演習」、附属病院における「チーム医療病院実習」も医療人養成を重視する本学の大きな特長である。その他にも、特色ある教育として、薬学部附属東洋医学総合研究所や北里研究所病院と連携した「漢方医薬学履修プログラム」があり、「生薬学」や「東洋医学概論」等の講義に加えて、「漢方調剤実習」を行っている。また、健康食品に関する教育として「NR・サプリメントアドバイザー」や「健康食品管理士」の受験資格を取得できるカリキュラムを実施している。

研究面では、2007（平成 19）年度から 5 年間にわたり文部科学省のハイテク・リサーチ・センターに選定され、2013、2014（平成 25、26）、2016（平成 28）、2020（令和 2）年度には文科省研究設備整備費等補助金を受け、研究機器を整備し、医薬品の研究・開発に関わるプロジェクトを推進している。さらに、本学薬学研究科と東京医科歯科大学、お茶の水女子大学、学習院大学の 4 大学大学院が連携して大学院教育を高度化する取り組みは、文部科学省「戦略的大学連携支援プログラム」（2009～2011（平成 21～23）年度）及び「大学間連携共同教育推進事業」（2012～2016（平成 24～28）年度）に選定された。その後も継続して各大学大学院の特色ある科目や研究を共有することで、幅広い視野を持った生命科学・創薬科学研究者を養成する計画を推進している。

2015（平成 27）年には、北里大学特別栄誉教授で、元薬学部教授の大村 智 博士が、ノーベル生理学・医学賞を受賞した。大村博士の受賞を契機として、創薬・生命科学研究の更なる発展が期待される。

# 薬学部の理念・教育方針

【理念】

豊かな教養、深い専門知識、高い倫理観を有する、薬剤師ならびに薬学研究者の養成。

【教育方針】

薬学科(6 年制）は、医療の高度化・細分化・医薬分業の進展等に伴う医薬品の適正使用や薬害防止など、薬剤師に対する高度な社会的要請に応えるため、確固たる倫理観と洗練された技能を持ち、病院、薬局、製薬企業、保健・衛生行政等の幅広い職域で貢献できる使命感に溢れた薬剤師を養成することを目標としている。薬学科を卒業すると薬剤師国家試験受験資格が得られるが、薬学科で開講される授業に熱心に取り組むことにより、国家試験に合格するための充分な実力が涵養される。また、高学年には多彩な専門科目が配置されており、卒業後の進路に合わせて科目を選択することができるよう配慮されている。さらに、薬学科卒業後に大学院博士課程（薬学専攻：修業年限 4 年）へ進学して、薬学研究者・教育者の進路を選択することも可能である。

生命創薬科学科（4 年制）は、生命科学・創薬科学等の分野における研究者を始めとして、企業の医薬情報担当者や医薬品販売に携わる人材、行政関連分野に進む人材等、薬剤師としてではなく、薬学の知識をもって社会の様々な分野で活躍できる人材の育成を目指している。3 年次からの豊富な卒業研究を通して、論理的な思考に基づく問題発見・解決能力をある程度修得できるが、研究者を目指すには、卒業後に大学院修士課程（薬科学専攻：修業年限 2 年）・博士後期課程（薬科学専攻：修業年限 3 年）に進学して、研究能力の更なる向上を図る必要がある。生命創薬科学科では、基礎薬学教育に重点が置かれているが、医療関係者としての倫理観も醸成できるように科目編成されている。

## 2025 年度「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」と「学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）」

### １．薬学部

（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

薬学部では、最新の薬学的知識・技能のみならず、豊かな人間性と高い倫理観を備え、社会における様々な活動に、「薬」の視点を持って積極的に参画できる人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 基礎と臨床を両輪としたバランスのとれた薬学教育の展開、(2) 豊かな人間性と倫理観を醸成する教育の推進、(3) コミュニケーション能力を修得させる教育の推進、(4) 基礎と臨床が一体となった研究の展開とします。

（２）学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

薬学部では、基礎と臨床を融合させた教育により、豊かな人間性とコミュニケーション能力を有し、課題発見・問題解決能力を身につけて、最先端の研究から医療まで幅広い分野で活躍できる人材を育成することを目的としており、(1) 基礎または臨床薬学における高度な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用でき、(2) 豊かな人間性、高い倫理観とコミュニケーション能力を身につけ、(3) 課題発見・問題解決能力を有するものに学位を授与します。

（３）教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

薬学部では、低学年において、大学への導入教育、一般教養教育に加えて早期体験学習などを履修し、順次性・体系性に基づいた薬学専門科目を配置したカリキュラムが編成されています。また、薬学科・生命創薬科学科のいずれの学科でも、必要とされる高度な知識と技能・態度の修得だけでなく、倫理観醸成のための教育、全学年を通して人間形成のための教育を展開し、コミュニケーション能力の修得や課題発見・問題解決能力の醸成を重視する教育課程を編成しています。

### ２．薬学科

（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

薬学部薬学科では、高度化・細分化された医療の中で、医薬品の適正使用を通して、医療の質を確保するための「薬の専門家」として活躍する薬剤師を養成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 臨床薬学に関連した高度な専門教育と実務教育の充実、(2) 豊かな人間性と医療人としての高い倫理観を醸成する教育の推進、(3) チーム医療に資するためのコミュニケーション能力を修得させる教育の推進、(4) 薬学・医療の進歩と改善に資するための研究遂行意欲と課題発見・問題解決能力を涵養する教育、(5) 生涯にわたる自己研鑽と次世代育成への意欲と態度を培う教育の推進とします。

（２）学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

薬学部薬学科では、「薬の専門家」としての専門知識や技能とともに、豊かな人間性や生命の尊厳に関する深い認識を持ち、変化する社会や地域を見据えて、健康増進や医療の質向上に様々な分野で貢献できる人材を育成します。

卒業に必要な条件を充足し、下記のプログラムの到達目標に示された資質・能力を身につけたものに対して学位を授与します。

プログラムの到達目標（目標としての学修成果評価）

(1) 医療人としての倫理観

・患者・生活者の権利を尊重し、その利益を守るために倫理観をもって行動できる。
・法規・制度を遵守し、高い規範意識をもって、適切な判断と行動ができる。
・プロフェッショナルとして、質の高い医療に貢献する使命感と責任感を備えている。

(2) 信頼関係構築のためのコミュニケーション能力

・患者・生活者の心理、立場、環境、状態に配慮したコミュニケーションができる。
・患者・生活者のナラティブや多様性を理解し、個別性を尊重したコミュニケーションにより、相互の信頼関係を構築できる。

・他者との協働において、相手の意見を尊重し、自分の状況や考えを論理的に分かりやすく伝え、建設的なコミュニケーションができる。

(3) チーム医療に資する能力

・チーム医療を進めるにあたり、薬剤師に求められる役割と責任を理解し、適切に行動できる。
・チーム医療を進めるにあたり、他の医療関係職種の職能や果たすべき役割を理解して協働できる。
・患者・生活者、関係する多職種と情報を共有し、安全で質の高い医療・福祉・公衆衛生を提供できる。

(4) 医療現場や地域社会で必要とされる専門的な能力

・医療人の基盤となる、一人の人間として共通に持つべき一般教養を身につけ、医療を取り巻く規制・社会の現状と課題を理解している。
・基礎薬学の知識・技能を修得し、医療現場や地域社会でそれらがどのように活用されるかを理解している。
・衛生薬学の知識・技能を修得し、医療現場や地域社会で活用することで、人の健康の維持・増進に貢献する姿勢を備えている。
・医療薬学の知識・技能を修得し、個々の患者への責任ある薬物治療の実践にどのように応用されるかを理解している。
・適切な薬物治療の計画を立案した上で個別最適な薬物治療を提供し、薬学的管理によるファーマシューティカルケアを実践できる。
・医薬品等の規制に関する知識を修得し、社会の変化や多様化を踏まえて国民の健康な生活の確保に貢献する姿勢を備えている。
・情報科学をはじめとする先端的な科学技術に常に関心をもち、薬学的観点から適切に医療の質向上に活用する姿勢を備えている。

(5) 薬学・医療の進歩と改善に資するための研究遂行意欲と課題発見・問題解決能力

・研究倫理や法令等に関する知識を持ち、それらを遵守して研究に取り組むことができる。
・学術論文を正しく理解し、内容を簡潔にまとめることができる。
・自ら研究課題の設定を行い、多様な人と協働しながら、研究を主体的に行う姿勢を備えている。
・自ら身につけた専門知識・技能を活用して、特定の課題を解決するための適切な研究方法を選択し、研究計画を立案できる。
・研究計画に従って忠実に研究を遂行し、得られた研究結果を正確に解析・考察した上で、研究の結論を導くことができる。
・自身の考えを論理的に他者に説明、発表し、多様な意見を吟味した上で議論できる。
・薬学・医療の課題について自発的に情報収集し、継続的に探求する姿勢を備えている。

(6) 自律的・協働的な生涯学習の姿勢

・生涯にわたり学び続ける意義や必要性を理解し、自己研鑽を継続する意欲と態度を備えている。
・他者と協働しながら研鑽を続け、利他的に行動できる。

（3）教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

到達目標に達するための教育課程

〔カリキュラム編成〕

薬学部薬学科は６年制で、おおむね、第１学年の第Ⅰ期、第２学年から第４学年の第 II 期、第５学年から第６学年の第 III 期と学習内容から大きく３期に分けられます。

この３期６年間を通じて、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質・能力を修得するために、以下の方針に従いカリキュラムを編成しています。

(1) 初年次教育として、大学への導入教育、一般教養教育を展開するとともに、早期体験学習などによる将来に向けてのキャリア教育を行います。
(2) ヒューマニティ関連の講義および実習を通して、人間形成および医療人としての倫理観を醸成します。
(3) 能動的学修を通して、コミュニケーション能力を修得します。
(4) 低学年から順次的、体系的に基礎薬学に関連した講義・実習を配置し、医療現場や地域社会で必要とされる専門知識・技能を修得します。
(5) 低学年から順次的、体系的に衛生薬学に関連した講義・実習を配置し、人の健康の維持・増進に貢献するために必要な専門知識・技能を修得します。
(6) 低学年から順次的、体系的に医療薬学および臨床薬学に関連した講義・実習・演習を配置し、チーム医療に資する能力を修得します。

(7) 実習・演習、卒業研究などを通して、薬学・医療の進歩と改善に資する研究遂行意欲を醸成し、課題発見・問題解決能力や研究の実施に必須な研究倫理・法令等の知識を修得します。
(8) 実務実習、卒業研究、生涯学習セミナーなどを通して自己研鑽を継続する意欲を高めます。
(9) 実習や卒業研究などでの後輩の指導を通して後進を育成する意欲と態度を培います。

〔学修内容・方法〕
＜第Ⅰ期＞
第Ⅰ期では、医療人の基盤となる一般教養を身につけるとともに必要な基礎知識を修得するため、早期より薬学の専門知識の土台となる基礎教育やキャリア教育を進めるべく、以下の科目を学びます。
・外国語や文化、社会、健康の領域（人文科学、社会科学）や自然科学、数理・情報系も含む教養系科目
・早期体験学習、情報の利活用に関する科目
・基礎薬学に関する科目
・人間形成のためのヒューマニティ関連の科目

＜第 II 期＞
第 II 期は、順次性・体系性に基づき薬学専門科目を配置し、以下の科目を学びます。各科目の学習の到達目標の達成に最適化された多様な講義・実習・演習を実施するとともに、アクティブラーニングを通してコミュニケーション能力を身につける教育も展開します。
・薬学専門領域の知識・技能と課題発見・問題解決の基礎を修得するための基礎薬学、医療薬学、衛生薬学、法規/制度および臨床薬学に関する講義・実習・演習
・医療人としての倫理観を醸成し患者・生活者を理解するためのヒューマニティ関連の講義および実習
・調剤や薬物療法の実践において、個別最適化するために必要な基本的な能力を身につけるための病院・薬局実習事前実習

＜第 III 期＞
第 III 期は、前期までに身につけた専門知識や技能を駆使し、「薬の専門家」としての総合的な実践力を高めるために以下の科目を学びます。
・薬剤師の使命を果たす自覚と心構えを持ち、個々の患者に適切な薬物治療の計画を立案・提供し、多職種と連携しながら薬学的管理によるファーマシューティカルケアを実践する能力や、患者・生活者の立場を尊重して、最善の医療・福祉・公衆衛生を実現する能力を身につける病院・薬局実習
・研究活動を通じて、課題発見・問題解決に資する一連の能力や研究倫理・法令等の知識を修得し、後輩の指導等後進を育成する意欲と態度を培い、自己研鑽を継続する意欲を高める薬学卒業特別実習
・これまでに身につけた知識を体系的に学び直す中で、総合力・応用力を身につけ、実践的な薬剤師としての能力を身につける薬学総合講義
・チーム医療を進めるにあたり、薬剤師および他の医療関連職種の役割と責任を理解し、連携する多職種と円滑で効果的な情報交換を行う実践的な能力を培うチーム医療演習

〔学修成果の評価方法〕
本プログラムの学修成果である基礎学力については、主に第Ⅰ期第１学年から第 II 期第４学年の講義・実習・演習の終了時に、個々の授業の到達目標に適した評価方法（筆記テスト、課題レポート、プレゼンテーション、技能や態度の評価等）により、目標達成度を点数化し、総合的に評価します。医療人としての倫理観やコミュニケーション能力の評価は、ルーブリックを用いて全学年を通して形成的な評価を行います。第 III 期第５学年の「病院・薬局実習」では、ルーブリックを用いた技能・態度の評価と、実務実習記録報告会でのプレゼンテーションにより総合的に評価します。第 III 期第５学年から第６学年前期までに開講される講義等については、終了時に個々の授業の到達目標に適した評価方法（課題レポートおよびプレゼンテーション、態度の評価等）により、目標達成度を点数化し、総合的に評価します。第 III 期第５学年から第６学年前期における「薬学卒業特別実習」では、未知なる課題に対して計画立案から研究の遂行・考察等一連の取り組み方、卒業研究発表会でのポスター発表、および成果報告としての卒業論文をルーブリックにて総合的に評価します。第 III 期第６学年後期の「薬学総合講義」は、その目標達成度を筆記テストによって点数化し評価します。

これらの評価結果は、進級および卒業の認定に反映します。

## ３．生命創薬科学科

（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

薬学部生命創薬科学科では、薬学関連領域における多様な人材需要に応えるため、薬学の基礎的な知識･技能を基盤に、社会の多様な分野で活躍できる人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 薬学関連領域における基本的な知識･技能を修得させる教育の充実、(2) 豊かな人間性と倫理観を醸成する教育の推進、(3)「考える力」(薬学の進歩と改善に資するための研究遂行意欲と課題発見･問題解決能力)を涵養する教育の推進、(4) 科学的なコミュニケーション能力を修得させる教育の推進、(5) 科学的探究心を向上させる教育の推進とします。

（２）学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

薬学部生命創薬科学科では、生命科学・創薬化学などの領域における研究者・技術者をはじめとして、薬学関連リョウ域の幅広い専門知識・技能をもって様々な分野で活躍できる人材を育成します。
卒業に必要な条件を充足し、下記のプログラムの到達目標に示された資質・能力を身につけたものに対して学位を授与します。

プログラムの到達目標（目標としての学修成果評価）

(1) 薬学関連領域における幅広い専門的な能力
- 一人の人間として共通に持つべき一般教養を身につけ、薬学を取り巻く規制・社会の現状と課題を理解している。
- 生命科学・創薬科学・情報科学等の専門知識と技能を修得し、各専門領域が相互に深い関わりを持つことを理解している。
- 先端的な科学技術に常に関心をもち、薬学関連領域の進歩に活用する姿勢を備えている。

(2) 研究活動における高い倫理観
- 研究倫理や法令等に関する知識を持ち、それらを遵守して研究を遂行できる。
- 科学は信頼を基盤として成り立っていることを理解し、研究の公正な実施に向けて行動できる。

(3) 薬学関連領域の進歩と改善に資するための研究遂行意欲と課題発見・問題解決能力
- 薬学関連領域の課題発見・問題解決には、領域横断的な知識や技能の活用が必要であることを理解している。
- 薬学関連領域の学術論文等を自ら読解して、論理的・批判的に解釈・考察できる。
- 自ら研究課題の設定を行い、多様な人と協働しながら、研究を主体的に行う姿勢を備えている。
- 自ら身につけた専門知識・技能を活用して、特定の問題を解決するための戦略（道筋）を提案し、研究計画を立案できる。
- 計画に従って忠実に研究を遂行し、得られた研究結果を正確に解析・考察した上で、研究の結論を導くことができる。
- 薬学関連領域の課題について自発的に情報収集し、継続的に探求する姿勢を備えている。

(4) 課題発見・問題解決や研究成果の社会還元に必要なコミュニケーション・プレゼンテーション能力
- 自身の考えや伝えたい内容を、科学的に正確に表現し、多様な分野の人々に対して分かりやすく論理的にプレゼンテーションすることができる。
- 自身の考えに対する多様な意見を吟味した上で議論できる。
- 多様な分野の人々と積極的に意見交換を行い、異なる意見も尊重しながら協働で課題解決に取り組む態度を備えている。

(5) 自律的・協働的な生涯学習の姿勢
- 生涯にわたり学び続ける意義や必要性を理解し、自己研鑽を継続する意欲と態度を備えている。
- 他者と協働しながら研鑽を続け、利他的に行動できる。

（３）教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

到達目標に達するための教育課程

〔カリキュラム編成〕

薬学部生命創薬科学科は４年制で、おおむね、第１学年の第 I 期、第２学年から第３学年の第 II 期、第４学年の第 III 期と学習内容から大きく３期に分けられます。

この３期４年間を通じて、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質・能力を修得するために、以下の方針に従いカリキュラムを編成しています。

(1) 初年次教育として、大学への導入教育、一般教養教育を展開するとともに、早期体験学習などによる将来に向けてのキャリア教育を行います。
(2) 研究倫理関連の講義を通して、研究者として遵守すべき研究倫理や法令の知識を身につけます。
(3) 低学年から順次的、体系的に基礎薬学および薬学専門科目に関連した講義・実習を配置し、薬学関連領域における幅広い専門知識・技能をもって様々な分野で社会貢献できる人材を育成します。
(4) 実習・演習、卒業研究などを通して、薬学関連領域の進歩と改善に資するための研究遂行意欲を醸成し、課題発見・問題解決能力を修得します。
(5) 実習・演習、卒業研究などを通して、論理的に伝えるプレゼンテーション能力、建設的に議論できる能力、協働して課題解決に取り組むためのコミュニケーション能力を身につけます。
(6) 卒業研究や種々の研究集会への参加などを通して自己研鑽を継続する意欲を高めます。
(7) 実習や卒業研究などでの後輩の指導を通して後進を育成する意欲と態度を培う教育を行います。

〔学修内容・方法〕

＜第 I 期＞

第 I 期では、薬学関連領域で活躍できる人材の基盤となる一般教養を身につけるとともに必要な基礎知識を修得するため、早期より薬学の専門知識の土台となる基礎教育やキャリア教育を実施するとともに、研究意欲を高めるべく、以下の科目を学びます。

・外国語や文化、社会、健康の領域（人文科学、社会科学）や自然科学、数理・情報系も含む教養系科目
・早期体験学習（産官学の研究所訪問、過去の優れた研究の調査・発表）、情報の利活用に関する科目
・基礎薬学に関する科目
・人間形成のための教育であるヒューマニティ関連の科目

＜第 II 期＞

第 II 期は、薬学専門科目の順次性・体系性に基づき各科目を配置し、以下の科目を学びます。各科目の修得目標の達成に最適化された多様な講義・実習を実施します。

・薬学専門領域の知識・技能と課題発見・問題解決の基礎を修得するための薬学専門科目に関する講義と実習
・本学部および国内外で展開される最先端の研究に触れ、論理的・批判的に解釈・考察する能力を養成する講義

＜第 III 期＞

第 III 期は、前期までに身につけた専門知識や技能を駆使して、研究活動を通じて総合的な実践力を高める場として、以下の科目を学びます。

・自分の研究結果や考えを体系的および論理的に説明または発表する能力を養い、他者の主張を理解することに努めるとともに、批判的な吟味も行い、建設的に他者と議論する能力を培うための生命創薬科学特別演習
・先端的な研究を通じて、課題発見・問題解決に資する一連の能力や研究倫理・法令等の知識を修得し、後輩の指導等後進を育成する意欲と態度を培い、自己研鑽を継続する意欲を高める生命創薬科学卒業特別実習

〔学修成果の評価方法〕
本プログラムの学修成果である基礎学力については、主に第Ⅰ期第１学年から第 II 期第３学年の講義・実習の終了時に、個々の授業の到達目標に適した評価方法（筆記テスト、課題レポート、プレゼンテーション、技能や態度の評価等）により、目標達成度を点数化し、総合的に評価します。第 III 期第４学年に開講される講義・演習については、終了時に個々の授業の到達目標に適した評価方法（課題レポートおよびプレゼンテーション、態度の評価等）により、目標達成度を点数化し、総合的に評価します。第 III 期第４学年の「生命創薬科学卒業特別実習」では未知なる問題に対して計画立案から研究の遂行・考察等一連の取り組み方、卒業研究発表会での口頭発表・質疑応答、および成果報告としての卒業論文をルーブリックにて評価します。

# 2025 年度一般教育部行事予定

〔２０２５年〕　４　月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | |

１日～８日：オリエンテーション
５日：入学式
９日：前期授業開始日
２０日：開校記念日

５　月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

６日：みどりの日振替【授業日】

６　月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | | | | | |

１日：球技大会
８日：球技大会

７　月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | | |

１８日：前期補講日【通常授業無】
２１日：海の日【授業日】
２３日：前期補講日【通常授業無】
２４日：前期補講日【通常授業無】
３１日：前期授業終了

７月２５日～８月１日：前期試験

８　月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24/31 | 25 | 26 | ㉗ | ㉘ | ㉙ | ㉚ |

７月２５日～８月１日：前期試験

４日：１群科目補充実験予備日
２７日～３０日：前期追再試験

８月５日～９月７日：夏期休業

９　月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | | | | |

８月５日～９月７日：夏期休業

８日：後期授業開始日

１０月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |

１３日：スポーツの日【授業日】
３１日：北里祭準備日【通常授業無】

１１月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23/30 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |

１日～２日：北里祭
５日：北里研究所創立記念日
２４日：勤労感謝の日の振替【授業日】

１２月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 31 | | | |

１８日：後期補講日【通常授業無】
２３日：後期補講日【通常授業無】
２４日：後期補講日【通常授業無】

１２月２５日～１月４日：冬期休業

〔２０２６年〕　１　月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

１２月２５日～１月４日：冬期休業

５日～１４日：後期定期試験
１０日：後期授業終了

１月１５日～３月３１日：春期休業

２　月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | ⑤ | ⑥ | ⑦ |
| 8 | ⑨ | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |

５日～９日：後期追再試験

１月１５日～３月３１日：春期休業

３　月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 | | | | |

１月１５日～３月３１日：春期休業

※　の付いている日は休講日および休暇期間とする。ただし、期間中に補講や〇(追再試験)が実施される場合があるため、該当者は注意すること。

# 2025年度　薬学部1年生暦

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4月 | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| | 27 | 28 | 29 | 30 | | | |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5月 | | | | | 1 | 2 | 3 |
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6月 | | | | | | | |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| | 29 | 30 | | | | | |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7月 | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | | |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8月 | | | | | | 1 | 2 |
| | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| | 31 | | | | | | |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9月 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| | 28 | 29 | 30 | | | | |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10月 | | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11月 | | | | | | | 1 |
| | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| | 30 | | | | | | |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12月 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| | 28 | 29 | 30 | 31 | | | |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1月 | | | | | 1 | 2 | 3 |
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2月 | | | | | | | |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3月 | | | | | | | |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| | 29 | 30 | 31 | | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 新入生オリエンテーション／健康診断 | 4月　1日(月)～　8日(火) | 後期授業開始 | 9月　8日(月) |
| 入学式 | 4月　5日(土) | 後期履修変更期間 | 9月　11日(木)・12日(金) |
| 前期授業開始 | 4月9日(水) | 後期授業終了 | 薬学科：12月24日(水)<br>生命創薬科学科：1月22日(木) |
| 履修登録期間 | 4月11日(金)～ 12日(土) | 冬期休業 | 12月25日(木)～ 1月3日(土) |
| 履修変更期間 | 4月21日(月)・22日(火) | 後期試験 | 1月　5日(月)～ 10日(土) |
| 白金ガイダンス | 4月12日(土) | 早期体験実習<br>「創薬科学への招待」(生命創薬科学科) | 12月12日(金)～1月 22日(木) |
| 前期授業終了 | 7月24日(木) | 後期追再試験手続 | 1月下旬(予定) |
| 前期試験 | 7月25日(金)～7月31日(木) | 後期追再試験 | 2月5日(木)～9日(月) |
| 早期体験学習<br>「薬と仕事Ⅰ」(薬学科) | 8月5日(火)～ 8日(金) | 進級判定発表 | 3月　2日(月) |
| 夏期休業 | 8月　9日(土)～ 26日(火)<br>9月　1日(月)～　6日(土) | 球技大会 | 6月1日(日)・8日(日) |
| 前期追再試験手続 | 8月中旬(予定) | 白金祭 | 10月25日(土)・26日(日) |
| 前期追再試験 | 8月27日(水)～ 30日(土) | 北里祭 | 11月　1日(土)・ 2日(日) |

**＜休講について＞**

| | |
|---|---|
| 4月 30日(水) ・ 5月　1日(木) | (国民の祝日等の授業実施日振替のため) |
| 10月24日(金) | (白金祭準備のため) |

**≪白金キャンパス立入禁止日≫**

| | |
|---|---|
| 12月　6日(土)・7日(日) | (OSCE共用試験実施のため) |
| 1月30日(金)～2月1日(日) | (一般入学試験実施のため) |

**＜祝日・休日について＞**

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4月29日(火) | 昭和の日 | 7月21日(月) | 海の日<br>※授業実施日 | 11月　3日(月) | 文化の日 | 2月23日(月) 天皇誕生日 |
| 5月　3日(土) | 憲法記念日 | 8月11日(月) | 山の日 | 11月24日(月) | 勤労感謝の日振替<br>※授業実施日 | 3月20日(金) 春分の日 |
| 5月　4日(日) | みどりの日 | 9月15日(月) | 敬老の日 | 1月　1日(木) | 元日 | |
| 5月　5日(月) | こどもの日 | 9月23日(火) | 秋分の日 | 1月　12日(月) | 成人の日 | |
| 5月　6日(火) | みどりの日振替<br>※授業実施日 | 10月13日(月) | スポーツの日<br>※授業実施日 | 2月11日(水) | 建国記念の日 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 4月20日(日) | 開校記念日 | 11月　5日(水) | 北里研究所創立記念日 |

# Ⅱ．1年次科目の履修について

1．履修と単位制

一般教育部における履修科目は、1 群科目（幅広い視野と豊かな人間性を形成する科目： 人間形成の基礎科目、基礎教育科目、教養演習科目）、2 群科目（専門の基礎的知識・技術を形成する科目）、3 群科目（高度の専門的知識・技術を形成する科目）と 4 群科目（総合的な能力を形成する科目：単位互換科目、共同授業）に分かれており、また、各授業には必修・選択の別がある。各学科によって、履修すべき授業科目、必修・選択及び単位数に関してそれぞれ差異があるので、各人の所属する学科に十分留意して、履修科目を確認すること。

2．単位（制）と単位の計算基準

(1) 単位制

単位制とは、授業科目ごとに単位数を定め、その一定数の単位の取得をもって卒業（学士の学位取得）の要件とする制度である。

(2) 単位

①授業単位は、すべて学修活動 45 時間をもって 1 単位とすることを標準とする。

②1 年の学修時間を 30 週とし、学科目は 1 カ年 30 週をもって完結するものと、1 科目半年 15 週をもって完結するものがある。

③科目の授業時間数の 3 分の 2 以上出席し、試験、レポート等の成績を総合して合格と認められた学生に、定められた単位が与えられる。

④学科目の性質により、講義、演習及び実習に大別され、教室における授業時間が同じであっても、その単位の計算を異にすることがある。

(3) 単位の計算基準

授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを基準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね、15 時間から 45 時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

(4) 履修できる科目数・単位数の上限

1 年に履修できる 1～3 群科目の単位数は 50 単位未満とする。

薬学部1年次授業科目一覧　1群科目及び1年次における2・3・4群科目一覧

≪薬学科≫　　≪2025年度入学生≫

| | | 区分 | | 科目名 | 単位数 | 配当学年 | 履修期 | 必・選択区分 | 履修すべき単位数 | 履修上の注意 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1群科目 | 人間形成の基礎科目 | 文化の領域 | A区分 | 哲学の楽しみA・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 科学を考えるA・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 芸術の楽しみA・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 倫理学A・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | ◎人間形成の基礎科目 | ○原則として人間形成の基礎科目はAは前期、Bは後期科目 |
| | | | | 文学の楽しみA・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | ・文化の領域 | A、Bはそれぞれ独立した科目であるので、両方履修、または |
| | | | | 信仰と救いA・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | ・社会の領域 | どちらか一方の履修でもかまわない。 |
| | | 社会の領域 | | 日本国憲法A・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | ◎総合領域科目 | ○『倫理学A』または『倫理学B』のどちらか一つを必ず履修のうえ修得し、卒業要件を満たすこと。 |
| | | | | 法律の役割A・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | ・「仕事と人生」「農医連携論」 | ※なお、「倫理学A・B」はA区分に含まれる。 |
| | | | | 経済のしくみA・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | 上記A区分から4科目以上8単位以上 | ○「文化・社会の領域」履修希望者は抽選に参加すること。(後頁「履修登録」参照のこと) |
| | | | | 個人と社会A・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 政治のしくみA・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 文化人類学A・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 日本と国際社会A・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 環境を考えるA・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 歴史と人間A・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 心理学A・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | 健康の領域 | B区分 | 健康の科学A | 2単位 | | 前期 | 選択 | | ○「健康の科学C」、は前期・後期とも開講する。ただし、前期に単位を修得した場合、 |
| | | | | 健康の科学B | 2単位 | | 後期 | 選択 | | 後期は履修できない。(その他詳細は後頁「履修登録」参照のこと) |
| | | | | 健康の科学C | 2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | ○「健康の領域」履修希望者は抽選に参加すること。(後頁「履修登録」参照のこと) |
| | | | | 健康とスポーツ演習 | 2単位 | | 通年 | 選択 | | |
| | 総合領域科目 | 総合領域 | A区分 | 北里の世界 | 1単位 | | 後期 | 必修 | ○「北里の世界(必修科目)」は、 | ○「北里の世界」が不合格の場合は、2年次に進級できない。 |
| | | | | 農医連携論 | 1単位 | | 後期 | 選択 | 後期(薬学部指定枠)の科目を履修すること。 | |
| | | | | 仕事と人生 | 1単位 | | 前期 | 選択 | (前期の「北里の世界」は履修はできない。) | |
| | 基礎教育科目 | 外国語系 | B区分 | 英語AⅠ | 1単位 | 1 | 前期 | 必修 | | |
| | | | | 英語AⅡ | 1単位 | | 後期 | 必修 | | ○ 英語A・Bは、クラス分けテストの結果に基づいたクラスの授業を履修する。 |
| | | | | 英語BⅠ | 1単位 | | 前期 | 必修 | ◎人間形成の基礎科目 | |
| | | | | 英語BⅡ | 1単位 | | 後期 | 必修 | ・健康の領域 | |
| | | 数理・情報系 | | 数学 | 4単位 | | 通年 | 選択 | | |
| | | | | 発展数学A | 2単位 | | 前期 | 選択 | ◎基礎教育科目 | |
| | | | | 発展数学B | 2単位 | | 後期 | 選択 | ・数理・情報系のうち情報科学A・B・C | |
| | | | | 情報科学A | 2単位 | | 前期 | 選択 | | ○「情報科学A、B、C」履修希望者は抽選に参加すること。 |
| | | | | 情報科学B | 2単位 | | 後期 | 選択 | ◎教養演習科目 | (前期・後期ともに前期に募集を行う。 |
| | | | | 情報科学C | 2単位 | | 前期・後期 | 選択 | ・教養演習系 | 詳しい履修方法については後頁「履修登録」参照) |
| | | 自然科学系 | | 物理学 | 4単位 | | 通年 | 必修 | | |
| | | | | 物理学実験 | 1単位 | | 前期 | 必修 | | ○物理学実験、生物学実験は各日3・4・5時限に加えて45分間延長して |
| | | | | 生物学 | 4単位 | | 通年 | 必修 | 上記B区分(健康の領域、数理・情報系のうち情報科学A・B・Cおよび教養演習科目)から2科目以上4単位以上 | 実施する。 |
| | | | | 生物学実験 | 1単位 | | 前期 | 必修 | ※「数学」または「発展数学(A+B)」は、卒業要件の2科目4単位以上には含まない。 | ○各要習の履修は、自然科学系科目(物理学、化学、生物学)履修者で、 |
| | | | | 物理学要習 | 1単位 | | 前期 | 自由 | | 高等学校で「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」の科目が未履修である |
| | | | | 化学要習 | 1単位 | | 前期 | 自由 | | 学生を対象として展開する。 |
| | | | | 生物学要習 | 1単位 | | 前期 | 自由 | | ○1群自然科学系の自由科目(各1単位) |
| | 教養演習科目 | 教養演習系 | | 教養演習A | 2単位 | | 通年 | 選択 | | 物理学要習、化学要習、生物学要習 は卒業要件単位に含まない。 |
| | | | | 教養演習B | 1単位 | | 前期 | 選択 | ◎「数学」または「発展数学(A+B)」の | ○「教養演習系」履修希望者は抽選に参加すること。(後頁「履修登録」参照のこと) |
| | | | | 教養演習C | 1単位 | | 後期 | 選択 | いずれか4単位以上選択必修。 | |
| | | | | 大学基礎演習 | 1単位 | | 前期・後期 | 選択 | ※クラス分け結果に基づき必ず履修すること。 | |
| | | | | 言語と文化A | 2単位 | | 通年 | 選択 | | |
| | | | | 言語と文化B | 2単位 | | 通年 | 選択 | | |
| 2群科目 | | | | 化学 | 1単位 | | 前期 | 必修 | | |
| | | | | 基礎有機化学 | 1単位 | | 前期 | 必修 | | |
| | | | | 代数学 | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| | | | | 統計学 | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| | | | | 有機化学Ⅰ | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| | | | | 情報リテラシー(演習含) | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| 3群科目 | | | | 薬学概論 | 1単位 | | 前期 | 必修 | | ○「薬学概論」「薬と仕事Ⅰ」「チーム医療論」のうち、1科目でも不合格の |
| | | | | 薬用植物学 | 1単位 | | 前期 | 必修 | | 場合は、2年次に進級できない。 |
| | | | | 薬と仕事Ⅰ | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| | | | | 解剖学 | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| | | | | 生化学Ⅰ | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| | | | | 生理学Ⅰ | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| | | | | チーム医療論 | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| | | | | 臨床心理学入門 | 1単位 | | 後期 | 選択 | | |
| 4群科目 | | | | 単位互換科目＊ | | | 前期・後期 | 自由 | | |
| | | | | 日本語入門Ⅰ | 1単位 | | 前期 | 自由 | | 留学生対象 |
| | | | | 日本語入門Ⅱ | 1単位 | | 前期 | 自由 | | 留学生対象 |
| | | | | 日本語Ⅰ | 1単位 | | 後期 | 自由 | | 留学生対象 |
| | | | | 日本語Ⅱ | 1単位 | | 後期 | 自由 | | 留学生対象 |

＊1999年4月から発足した首都圏西部大学互換協定に基づく単位互換協定および本学他学部の授業科目履修制度に基づく単位互換科目

薬学部1年次授業科目一覧　1群科目及び1年次における2・3・4群科目一覧

≪生命創薬科学科≫　　≪2025年度入学生≫

| | | 区分 | | 科目名 | 単位数 | 配当学年 | 履修期 | 必・選択区分 | 履修すべき単位数 | 履修上の注意 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1群科目 | 人間形成の基礎科目 | 文化の領域 | A区分 | 哲学の楽しみA・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 科学を考えるA・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 芸術の楽しみA・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 倫理学A・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | ◎人間形成の基礎科目 | ○原則として人間形成の基礎科目はAは前期、Bは後期科目 |
| | | | | 文学の楽しみA・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | ・文化の領域 | A、Bはそれぞれ独立した科目であるので、両方履修、または |
| | | | | 信仰と救いA・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | ・社会の領域 | どちらか一方の履修でもかまわない。 |
| | | 社会の領域 | | 日本国憲法A・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | ◎総合領域科目 | ○『倫理学A』または『倫理学B』のどちらか一つを必ず履修のうえ修得し、卒業要件を満たすこと。 |
| | | | | 法律の役割A・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | ・「農医連携論」 | ※なお、「倫理学A・B」はA区分に含まれる。 |
| | | | | 経済のしくみA・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | 上記A区分から4科目以上8単位以上 | ○「文化・社会の領域」履修希望者は抽選に参加すること。（後頁「履修登録」参照のこと） |
| | | | | 個人と社会A・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 政治のしくみA・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 文化人類学A・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 日本と国際社会A・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 環境を考えるA・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 歴史と人間A・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | | | 心理学A・B | 各2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | |
| | | 健康の領域 | B区分 | 健康の科学A | 2単位 | | 前期 | 選択 | | ○「健康の科学C」、は前期・後期とも開講する。ただし、前期に単位を修得した場合、 |
| | | | | 健康の科学B | 2単位 | | 後期 | 選択 | | 後期は履修できない。（その他詳細は後頁「履修登録」参照のこと） |
| | | | | 健康の科学C | 2単位 | | 前期・後期 | 選択 | | ○「健康の領域」履修希望者は抽選に参加すること。（後頁「履修登録」参照のこと） |
| | | | | 健康とスポーツ演習 | 2単位 | | 通年 | 選択 | | |
| | 総合領域科目 | 総合領域 | A区分 | 北里の世界 | 1単位 | | 後期 | 必修 | ○「北里の世界（必修科目）」は、 | ○「北里の世界」「仕事と人生」のうち、1科目でも不合格の場合は、 |
| | | | | 農医連携論 | 1単位 | | 後期 | 選択 | 後期（薬学部指定枠）の科目を履修すること。 | 2年次に進級できない。 |
| | | | | 仕事と人生 | 1単位 | | 前期 | 必修 | （前期の「北里の世界」は履修はできない。） | |
| | 基礎教育科目 | 外国語系 | B区分 | 英語AⅠ | 1単位 | 1 | 前期 | 必修 | | |
| | | | | 英語AⅡ | 1単位 | | 後期 | 必修 | | ○　英語A・Bは、クラス分けテストの結果に基づいたクラスの授業を履修する。 |
| | | | | 英語BⅠ | 1単位 | | 前期 | 必修 | ◎人間形成の基礎科目 | |
| | | | | 英語BⅡ | 1単位 | | 後期 | 必修 | ・健康の領域 | |
| | | 数理・情報系 | | 数学 | 4単位 | | 通年 | 選択 | | |
| | | | | 発展数学A | 2単位 | | 前期 | 選択 | ◎基礎教育科目 | |
| | | | | 発展数学B | 2単位 | | 後期 | 選択 | ・数理・情報系のうち情報科学A・B・C | |
| | | | | 情報科学A | 2単位 | | 前期 | 選択 | | ○「情報科学A、B、C」履修希望者は抽選に参加すること。 |
| | | | | 情報科学B | 2単位 | | 後期 | 選択 | ◎教養演習科目 | （前期・後期ともに前期に募集を行う。 |
| | | | | 情報科学C | 2単位 | | 前期・後期 | 選択 | ・教養演習系 | 詳しい履修方法については後頁「履修登録」参照） |
| | | 自然科学系 | | 物理学 | 4単位 | | 通年 | 必修 | | |
| | | | | 物理学実験 | 1単位 | | 前期 | 必修 | | ○物理学実験、生物学実験は各日3・4・5時限に加えて45分間延長して |
| | | | | 生物学 | 4単位 | | 通年 | 必修 | 上記B区分（健康の領域、数理・情報系のうち情報科学A・B・Cおよび教養演習科目）から2科目以上4単位以上 | 実施する。 |
| | | | | 生物学実験 | 1単位 | | 前期 | 必修 | ※「数学」または「発展数学（A+B）」は、卒業要件の2科目4単位以上には含まない。 | ○各要習の履修は、自然科学系科目（物理学、化学、生物学）履修者で、 |
| | | | | 物理学要習 | 1単位 | | 前期 | 自由 | | 高等学校で「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」の科目が未履修である |
| | | | | 化学要習 | 1単位 | | 前期 | 自由 | | 学生を対象として展開する。 |
| | | | | 生物学要習 | 1単位 | | 前期 | 自由 | | ○1群自然科学系の自由科目（各1単位） |
| | 教養演習科目 | 教養演習系 | | 教養演習A | 2単位 | | 通年 | 選択 | | 物理学要習、化学要習、生物学要習　は卒業要件単位に含まない。 |
| | | | | 教養演習B | 1単位 | | 前期 | 選択 | ◎「数学」または「発展数学（A＋B）」の | ○「教養演習系」履修希望者は抽選に参加すること。（後頁「履修登録」参照のこと） |
| | | | | 教養演習C | 1単位 | | 後期 | 選択 | いずれか4単位以上選択必修。 | |
| | | | | 大学基礎演習 | 1単位 | | 前期・後期 | 選択 | ※クラス分け結果に基づき必ず履修すること。 | |
| | | | | 言語と文化A | 2単位 | | 通年 | 選択 | | |
| | | | | 言語と文化B | 2単位 | | 通年 | 選択 | | |
| 2群科目 | | | | 化学 | 1単位 | | 前期 | 必修 | | |
| | | | | 基礎有機化学 | 1単位 | | 前期 | 必修 | | |
| | | | | 代数学 | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| | | | | 統計学 | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| | | | | 有機化学Ⅰ | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| | | | | 情報リテラシー（演習含） | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| 3群科目 | | | | 薬学概論 | 1単位 | | 前期 | 必修 | | ○「薬学概論」「創薬科学への招待」のうち、1科目でも不合格の場合は、 |
| | | | | 薬用植物学 | 1単位 | | 前期 | 必修 | | 2年次に進級できない。 |
| | | | | 創薬科学への招待 | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| | | | | 解剖学 | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| | | | | 生化学Ⅰ | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| | | | | 生理学Ⅰ | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| | | | | チーム医療論 | 1単位 | | 後期 | 選択 | | |
| | | | | 生命創薬科学研究概説 | 1単位 | | 後期 | 必修 | | |
| 4群科目 | | | | 単位互換科目＊ | | | 前期・後期 | 自由 | | |
| | | | | 日本語入門Ⅰ | 1単位 | | 前期 | 自由 | | 留学生対象 |
| | | | | 日本語入門Ⅱ | 1単位 | | 前期 | 自由 | | 留学生対象 |
| | | | | 日本語Ⅰ | 1単位 | | 後期 | 自由 | | 留学生対象 |
| | | | | 日本語Ⅱ | 1単位 | | 後期 | 自由 | | 留学生対象 |

＊1999年4月から発足した首都圏西部大学互換協定に基づく単位互換協定および本学他学部の授業科目履修制度に基づく単位互換科目

# ２０２５年度　薬学部　時間割

| 1年生 | 薬学科 |
|---|---|

●講義室については一般教育部時間割等を確認すること。
●講義時間　①【相模原キャンパス】１限9:00～10:30、２限10:40～12:10、３限13:00～14:30、４限14:40～16:10、５限16:20～17:50
　　②【白　金キャンパス】１限9:15～10:45、２限10:55～12:25、３限13:25～14:55、４限15:05～16:35、５限16:45～18:15



| 週 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | 53 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 曜日 時限 | 3/31 ～ 4/6 | 4/7 ～ 4/13 | 4/14 ～ 4/20 | 4/21 ～ 4/27 | 4/28 ～ 5/4 | 5/5 ～ 5/11 | 5/12 ～ 5/18 | 5/19 ～ 5/25 | 5/26 ～ 6/1 | 6/2 ～ 6/8 | 6/9 ～ 6/15 | 6/16 ～ 6/22 | 6/23 ～ 6/29 | 6/30 ～ 7/6 | 7/7 ～ 7/13 | 7/14 ～ 7/20 | 7/21 ～ 7/27 | 7/28 ～ 8/3 | 8/4 ～ 8/10 | 8/11 ～ 8/17 | 8/18 ～ 8/24 | 8/25 ～ 8/31 | 9/1 ～ 9/7 | 9/8 ～ 9/14 | 9/15 ～ 9/21 | 9/22 ～ 9/28 | 9/29 ～ 10/5 | 10/6 ～ 10/12 | 10/13 ～ 10/19 | 10/20 ～ 10/26 | 10/27 ～ 11/2 | 11/3 ～ 11/9 | 11/10 ～ 11/16 | 11/17 ～ 11/23 | 11/24 ～ 11/30 | 12/1 ～ 12/7 | 12/8 ～ 12/14 | 12/15 ～ 12/21 | 12/22 ～ 12/28 | 12/29 ～ 1/4 | 1/5 ～ 1/11 | 1/12 ～ 1/18 | 1/19 ～ 1/25 | 1/26 ～ 2/1 | 2/2 ～ 2/8 | 2/9 ～ 2/15 | 2/16 ～ 2/22 | 2/23 ～ 3/1 | 3/2 ～ 3/8 | 3/9 ～ 3/15 | 3/16 ～ 3/22 | 3/23 ～ 3/29 | 3/30 ～ 4/5 |
| 月 1 | | | A･B | | こどもの日 | クラス：(選択科目)　C･Dクラス：英語ＡⅠ | | | | | | | | | | | | 前期試験 | 実験群予科備目日補充 | 山の日 | | | | | A | 敬老の日 | ･Bクラス：(選択科目) | | | | | | 北文里化祭の片日付 | C･Dクラス：英語ＡⅡ | | | | | | | 後期試験 | 成人の日 | | | | 追再試験 | | 天皇誕生日 | 進級発表 | | | | |
| 月 2 | | | A･B | | | クラス：英語ＡⅠ　C･Dクラス：(選択科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | A | | ･Bクラス：英語ＡⅡ | | | | | | | C･Dクラス：(選択科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 月 3 | | | A･B | | | クラス：(選択科目)　C･Dクラス：(選択科目)＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | A | | ･Bクラス：(選択科目) | | | | | | | C･Dクラ＼ス：有機化学Ⅰ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 月 4 | | | | | | 薬学概論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | A | | ･Bクラス：有＼機化学Ⅰ | | | | | | | C･Dクラス：(選択科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 月 5 | | | | | | 化学　基礎有機化学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | チーム | | | | | | | 医療論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 火 1 | | 健康診断 | | | 昭和の日 | (選択科目) | | | | | | | | | | | | 前期試験 | 薬と仕事Ⅰ | | | | | | 秋分の日 | (選択科目) | | | | | | | | | | | | 補講日 | | 後期試験 | 試験予備日 | | | | | | | | | | | |
| 火 2 | | | | | | (選択科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | (選択科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 火 3 | | | | | | 物理学 or 生物学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 物理学 or 生物学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 火 4 | | | | | | 物理学 or 生物学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 物理学 or 生物学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 火 5 | | | | | | (選択科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | (選択科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水 1 | オリエンテーション | | | | | 数学（①上級 or ②普通） | | | | | | | | | | | 補講日 | 前期試験 | 薬と仕事Ⅰ | | | 追再試験 | | | | 数学（①上級 | | | | | | 創北立里記研念究日所 | or ②普通） | | | | | | 補講日 | | 後期試験 | 試験予備日 | | | | 建国記念の日 | | | | | | | |
| 水 2 | | | | | | 数学（③普通 or ④基礎） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 数学（③普通 | | | | | | | or ④基礎） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水 3 | | | 生物学実験 | | | or 物理学実験　物理学実験 or 生物学実験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 生理学 | | | | | | | Ⅰ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水 4 | | | 生物学実験 | | | or 物理学実験　物理学実験 or 生物学実験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水 5 | | | 生物学実験 | | | or 物理学実験　物理学実験 or 生物学実験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | (選択科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木 1 | オリエンテーション | | | | | (選択科目) | | | | | | | | | | | 補講日 | 前期試験 | 薬と仕事Ⅰ | | | 追再試験 | | | | (選択科目) | | | | | | | | | | | | 補講日 | 元日 | 後期試験 | | | 追再試験 | | | | | | | | | | |
| 木 2 | | | | | | (選択科目)＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 北里の世界 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木 3 | | | A･B | | | クラス：(選択科目)＊　C･Dクラス：英語ＢⅠ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | A･Bクラス：代数学　C･Dクラス：英語ＢⅡ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木 4 | | | A･B | | | クラス：英語ＢⅠ　C･Dクラス：(選択科目)＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | A･Bクラス：英語ＢⅡ　C･Dクラス：代数学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 解剖学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金 1 | | | (選択科目)＊ | | | | | | | | | | | | | | 補講日 | 前期試験 | 試験予備日 | 薬と仕事Ⅰ | | 追再試験 | | | | 臨床心理学入門 | | | 白金祭準備 | 北里祭準備 | (選択科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金 2 | | | 仕事と人生(選択科目)／(選択科目)＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 生化 | | | | | 学Ⅰ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金 3 | | | 化学　基礎有機化学　化学　基礎有機化学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 統計 | | | | | 学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金 4 | | | 薬用植物学 ＼ 薬用植物学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 情報リテラシー | | | | | (演習含) | | | | | | 予備日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金 5 | | | (選択科目)＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土 1 | 入学式 | 白金ガイダンス | | | 憲法記念日 | | | | | | | | | | | | 前期試験 | ※ | 次の科目の見「薬と仕事Ⅰ」 | | | 追再試験 | | 学施設及び日程等の詳細は後日掲「情報リテラシー（演習含む）」 | | | 白金祭 | 北里祭 | 示する。 | | | | | | 白金構内立入禁止 | | | | | 後期試験 | | | 立白入金禁構止内 | | 追再試験 | | | | | | |
| 土 2 | | | | | | 選択科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土 3 | | | | | | クラスにより科目が異なる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土 4 | | | | | | 通年科目履修不可 | | ＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 日 1 | | | | 開校記念日 | みどりの日 | | | | 球技大会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 日 2 | | | | | | | | | | | | ※ 祝日授業日： | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 日 3 | | | | | | | | | | | | 5/6こどもの日振替（4/30に振替）、7/21海の日（5/1に振替） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 日 4 | | | | | | | | | | | | 10/13スポーツの日（振替なし）、11/24勤労感謝の日（振替なし） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 日 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

# ２０２５年度　薬学部　時間割

| 1年生 | 生命創薬科学科 |
|---|---|

●講義室については一般教育部時間割等を確認すること。
●講義時間　①【相模原キャンパス】１限9:00～10:30、２限10:40～12:10、３限13:00～14:30、４限14:40～16:10、５限16:20～17:50
②【白　金キャンパス】１限9:15～10:45、２限10:55～12:25、３限13:25～14:55、４限15:05～16:35、５限16:45～18:15

| 週 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | 53 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 曜日 時限 | 3/31～4/6 | 4/7～4/13 | 4/14～4/20 | 4/21～4/27 | 4/28～5/4 | 5/5～5/11 | 5/12～5/18 | 5/19～5/25 | 5/26～6/1 | 6/2～6/8 | 6/9～6/15 | 6/16～6/22 | 6/23～6/29 | 6/30～7/6 | 7/7～7/13 | 7/14～7/20 | 7/21～7/27 | 7/28～8/3 | 8/4～8/10 | 8/11～8/17 | 8/18～8/24 | 8/25～8/31 | 9/1～9/7 | 9/8～9/14 | 9/15～9/21 | 9/22～9/28 | 9/29～10/5 | 10/6～10/12 | 10/13～10/19 | 10/20～10/26 | 10/27～11/2 | 11/3～11/9 | 11/10～11/16 | 11/17～11/23 | 11/24～11/30 | 12/1～12/7 | 12/8～12/14 | 12/15～12/21 | 12/22～12/28 | 12/29～1/4 | 1/5～1/11 | 1/12～1/18 | 1/19～1/25 | 1/26～2/1 | 2/2～2/8 | 2/9～2/15 | 2/16～2/22 | 2/23～3/1 | 3/2～3/8 | 3/9～3/15 | 3/16～3/22 | 3/23～3/29 | 3/30～4/5 |
| 月 | 3/31 | 4/7 | 4/14 | 4/21 | 4/28 | 5/5 | 5/12 | 5/19 | 5/26 | 6/2 | 6/9 | 6/16 | 6/23 | 6/30 | 7/7 | 7/14 | 7/21 | 7/28 | 8/4 | 8/11 | 8/18 | 8/25 | 9/1 | 9/8 | 9/15 | 9/22 | 9/29 | 10/6 | 10/13 | 10/20 | 10/27 | 11/3 | 11/10 | 11/17 | 11/24 | 12/1 | 12/8 | 12/15 | 12/22 | 12/29 | 1/5 | 1/12 | 1/19 | 1/26 | 2/2 | 2/9 | 2/16 | 2/23 | 3/2 | 3/9 | 3/16 | 3/23 | 3/30 |
| 1 | | | S1･S2 | | | こどもの日 | クラス：(選択科目)　S3･S4クラス：英語ＡⅠ | | | | | | | | | | | 前期試験 | 実験予備日 | 一群科目補充 | 山の日 | | | | S1 | 敬老の日 | ･S2クラス：(選択科目) | | | | | | 北里祭 | 文化の日 | S3･S4クラス：英語ＡⅡ | | | | | | | | 後期試験 | 成人の日 | 招待 | 創薬科学への | | 追再試験 | | 天皇誕生日 | 進級発表 | | | | |
| 2 | | | S1･S2 | | | | クラス：英語ＡⅠ　S3･S4クラス：(選択科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | S1 | | ･S2クラス：英語ＡⅡ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | S1･S2 | | | | クラス：(選択科目)　S3･S4クラス：(選択科目)＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | S1 | | ･S2クラス：(選択科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | 薬学概論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | S1･ | | S2クラス：有 | | | | 機化学Ⅰ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | 化学 | | | | | | 基礎有機化学 | | | | | | | | | | | | | | チーム医療論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 火 | 4/1 | 4/8 | 4/15 | 4/22 | 4/29 | 5/6 | 5/13 | 5/20 | 5/27 | 6/3 | 6/10 | 6/17 | 6/24 | 7/1 | 7/8 | 7/15 | 7/22 | 7/29 | 8/5 | 8/12 | 8/19 | 8/26 | 9/2 | 9/9 | 9/16 | 9/23 | 9/30 | 10/7 | 10/14 | 10/21 | 10/28 | 11/4 | 11/11 | 11/18 | 11/25 | 12/2 | 12/9 | 12/16 | 12/23 | 12/30 | 1/6 | 1/13 | 1/20 | 1/27 | 2/3 | 2/10 | 2/17 | 2/24 | 3/3 | 3/10 | 3/17 | 3/24 | 3/31 |
| 1 | | 健康診断 | | | 昭和の日 | (選択科目) | | | | | | | | | | | | 前期試験 | | | | | | | | 秋分の日 | (選択科目) | | | | | | | | | | | | | 補講日 | | 後期試験 | 試験予備日 | 招待 | 創薬科学への | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | (選択科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | (選択科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | 物理学 or 生物学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 物理学 or 生物学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | 物理学 or 生物学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 物理学 or 生物学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | (選択科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | (選択科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水 | 4/2 | 4/9 | 4/16 | 4/23 | 4/30 | 5/7 | 5/14 | 5/21 | 5/28 | 6/4 | 6/11 | 6/18 | 6/25 | 7/2 | 7/9 | 7/16 | 7/23 | 7/30 | 8/6 | 8/13 | 8/20 | 8/27 | 9/3 | 9/10 | 9/17 | 9/24 | 10/1 | 10/8 | 10/15 | 10/22 | 10/29 | 11/5 | 11/12 | 11/19 | 11/26 | 12/3 | 12/10 | 12/17 | 12/24 | 12/31 | 1/7 | 1/14 | 1/21 | 1/28 | 2/4 | 2/11 | 2/18 | 2/25 | 3/4 | 3/11 | 3/18 | 3/25 | 4/1 |
| 1 | オリエンテーション | | | | | 数学（①上級 or ②普通） | | | | | | | | | | | 補講日 | 前期試験 | | | | 追再試験 | | 数学（①上級 | | | | | | | | 創立記念日 | 北里研究所 | or ②普通） | | | | | 補講日 | | 後期試験 | 試験予備日 | 招待 | 創薬科学への | | 建国記念の日 | | | | | | | |
| 2 | | | | | | 数学（③普通 or ④基礎） | | | | | | | | | | | | | | | | | | 数学（③普通 | | | | | | | | | or ④基礎） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | 生物学実験 | | | | or 物理学実験 | | | | 物理学実験 or 生物学実験 | | | | | | | | | | | | | | 生理学 | | | | | | | | | Ⅰ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | 生物学実験 | | | | or 物理学実験 | | | | 物理学実験 or 生物学実験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | 生物学実験 | | | | or 物理学実験 | | | | 物理学実験 or 生物学実験 | | | | | | | | | | | | | | (選択科目) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木 | 4/3 | 4/10 | 4/17 | 4/24 | 5/1 | 5/8 | 5/15 | 5/22 | 5/29 | 6/5 | 6/12 | 6/19 | 6/26 | 7/3 | 7/10 | 7/17 | 7/24 | 7/31 | 8/7 | 8/14 | 8/21 | 8/28 | 9/4 | 9/11 | 9/18 | 9/25 | 10/2 | 10/9 | 10/16 | 10/23 | 10/30 | 11/6 | 11/13 | 11/20 | 11/27 | 12/4 | 12/11 | 12/18 | 12/25 | 1/1 | 1/8 | 1/15 | 1/22 | 1/29 | 2/5 | 2/12 | 2/19 | 2/26 | 3/5 | 3/12 | 3/19 | 3/26 | 4/2 |
| 1 | オリエンテーション | | | | | (選択科目) | | | | | | | | | | | 補講日 | 前期試験 | | | | 追再試験 | | (選択科目) | | | | | | | | | | | | | | | 補講日 | | 元日 | 後期試験 | | 招待 | 創薬科学への | | 追再試験 | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | (選択科目)＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | 北里の世界 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | S1･S2 | | | クラス：(選択科目)＊　S3･S4クラス：英語ＢⅠ | | | | | | | | | | | | | | | | | | S1･S2クラス：代数学　S3･S4クラス：英語ＢⅡ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | S1･S2 | | | クラス：英語ＢⅠ　S3･S4クラス：(選択科目)＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | S1･S2クラス：英語ＢⅡ　S3･S4クラス：代数学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 解剖学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金 | 4/4 | 4/11 | 4/18 | 4/25 | 5/2 | 5/9 | 5/16 | 5/23 | 5/30 | 6/6 | 6/13 | 6/20 | 6/27 | 7/4 | 7/11 | 7/18 | 7/25 | 8/1 | 8/8 | 8/15 | 8/22 | 8/29 | 9/5 | 9/12 | 9/19 | 9/26 | 10/3 | 10/10 | 10/17 | 10/24 | 10/31 | 11/7 | 11/14 | 11/21 | 11/28 | 12/5 | 12/12 | 12/19 | 12/26 | 1/2 | 1/9 | 1/16 | 1/23 | 1/30 | 2/6 | 2/13 | 2/20 | 2/27 | 3/6 | 3/13 | 3/20 | 3/27 | 4/3 |
| 1 | | (選択科目)＊ | | | | | | | | | | | | | | | 補講日 | 前期試験 | 試験予備日 | | | 追再試験 | | 生命創薬科学 | | | | | | 白金祭準備 | 北里祭準備 | 研究概説 | | | | 予備日 | | | | | 後期試験 | 招待 | 創薬科学への | 白金構内立入禁止 | 追再試験 | | | | | | 春分の日 | | |
| 2 | | 仕事と人生 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 生化 | | | | | | | | 学Ⅰ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | 化学 | | | | | 基礎有機化学 | | 化学 | | 基礎有機化学 | | | | | | | | | | | | | 統計 | | | | | | | | 学 | | | | 予備日 | 創薬科学への招待 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | 薬用植物学 | | | | 薬用植物学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 情報リテラシー | | | | | | | | （演習含む） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | (選択科目)＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土 | 4/5 | 4/12 | 4/19 | 4/26 | 5/3 | 5/10 | 5/17 | 5/24 | 5/31 | 6/7 | 6/14 | 6/21 | 6/28 | 7/5 | 7/12 | 7/19 | 7/26 | 8/2 | 8/9 | 8/16 | 8/23 | 8/30 | 9/6 | 9/13 | 9/20 | 9/27 | 10/4 | 10/11 | 10/18 | 10/25 | 11/1 | 11/8 | 11/15 | 11/22 | 11/29 | 12/6 | 12/13 | 12/20 | 12/27 | 1/3 | 1/10 | 1/17 | 1/24 | 1/31 | 2/7 | 2/14 | 2/21 | 2/28 | 3/7 | 3/14 | 3/21 | 3/28 | 4/4 |
| 1 | 入学式 | 白金ガイダンス | | | 憲法記念日 | | | | | | | | | | | | 前期試験 | | | | | 追再試験 | | | | | | | | 白金祭 | 北里祭 | | | | | 白金構内立入禁止 | | | | | 後期試験 | | | 白金構内立入禁止 | 追再試験 | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | 選択科目 | | | | | | | | | | ※ | 次の科目の見 | | | | 学施設及び日程等の詳細は後日掲 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | クラスにより科目が異なる | | | | | | | | | | | 「薬と仕事Ⅰ」 | | | | 「情報リテラシー（演習含む）」 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | ＊ | 通年科目履修不可 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 日 | 4/6 | 4/13 | 4/20 | 4/27 | 5/4 | 5/11 | 5/18 | 5/25 | 6/1 | 6/8 | 6/15 | 6/22 | 6/29 | 7/6 | 7/13 | 7/20 | 7/27 | 8/3 | 8/10 | 8/17 | 8/24 | 8/31 | 9/7 | 9/14 | 9/21 | 9/28 | 10/5 | 10/12 | 10/19 | 10/26 | 11/2 | 11/9 | 11/16 | 11/23 | 11/30 | 12/7 | 12/14 | 12/21 | 12/28 | 1/4 | 1/11 | 1/18 | 1/25 | 2/1 | 2/8 | 2/15 | 2/22 | 3/1 | 3/8 | 3/15 | 3/22 | 3/29 | 4/5 |
| 1 | | | 開校記念日 | | みどりの日 | | | | 球技大会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 白金祭 | 北里祭 | | | 勤労感謝の日 | | 白金構内立入禁止 | | | | | | | | 白金構内立入禁止 | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※　祝日授業日：
5/6こどもの日振替（4/30に振替）、7/21海の日（5/1に振替）
10/13スポーツの日（振替なし）、11/24勤労感謝の日（振替なし）

# ４．履修

## ４－１）日程について

| | | 前　期 | 後　期 |
|---|---|---|---|
| ① | 抽選 | ４月　２日（水）～　６日（日）<br>【通年・前期・後期科目対象】 | ― |
| ② | 当選発表＆取消 | ４月　８日（火）　～　９日（水） | （取消のみ）９月　３日（水） |
| ③ | 授業開始 | ４月　９日（水） | ９月　８日（月） |
| ④ | 履修登録 | ４月１１日（金）～１２日（土） | ― |
| ⑤ | 追加抽選 | ４月１３日（日）～１４日（月）<br>【通年･前期･後期科目の残枠ある科目のみ対象】 | ９月　５日（金）～　６日（土）<br>【後期科目対象】 |
| ⑥ | 当選発表＆取消 | ４月１６日（水）～１７日（木） | ９月　８日（月）　～９日（火） |
| ⑦ | 履修変更 | ４月２１日（月）～２２日（火） | ９月１１日（木）～１２日（金） |

≪履修にあたっての基本事項≫

・年間の履修登録単位数は、**５０単位未満**とする。
　（１群科目中の自由科目/教職課程科目/教授会が特別に認めた科目を除く）
・同一時限に２科目重複して履修することはできない。
・同一名称の科目は、教員が異なっていても履修することはできない。
・履修登録していない授業科目の受講、試験受験は「無効」である。
・履修登録をしても、出席不良や試験を受験しなかった場合は「不合格」となることがある。

## ４－２）抽選応募から履修確定までの流れ

### ❶ 抽選

授業の性質や使用する機材の台数、教室の収容人数の関係により、受講者数に定員を設ける科目については授業開始前に抽選を行う。

≪注意事項≫
・「北里大学 一般教育部授業情報サイト」で詳細を確認し、抽選に応募すること。
・１年次に履修すべき授業科目および単位数などを必ず確認すること。
・期間内であれば、応募内容の確認や修正が可能である。

≪抽選実施科目≫
・哲学の楽しみA
・芸術の楽しみA、B
・倫理学A、B
・心理学A、B
・健康の科学A、B、C
・健康とスポーツ演習（M対象除く）
・情報科学A、B、C
・教養演習A、B、C
・大学基礎演習（OT対象除く）
・言語と文化A、B（M対象除く）

【一般教育部授業情報サイト】

以下にアクセスし、情報を確認したうえで、抽選に申込みしてください

北里大学 HP
⇒ 学部・大学院・併設校
⇒ 一般教育部 ⇒ 授業情報サイト
⇒ 一般教育部授業情報サイト
⇒ 履修・授業 ⇒ 抽選

## ❷ 当選発表＆取消

抽選システム上で当選者発表を行う。当選科目は、自動的に履修が確定するため、第1回目から授業に出席すること。やむを得ない事情等がある場合には、当選取消日に抽選システムから、取消を行うこと。

## ❸ 授業開始

必修科目、当選した科目については、第１回目の授業から出席すること。

抽選対象でない選択科目は、履修登録前でも出席が可能であるため、履修を検討している授業に出席してみたうえで、履修科目を決定すること。ただし、1回目から出席をとる授業もあるのでシラバスをよく確認すること。

## ❹ 履修登録

履修登録が必要な科目を各自確認し、WEB上（教学ポータル）で、履修登録を行う。

≪注意事項≫

・教学ポータルの稼働時間内（9:00～23:59）かつ履修登録期間中であれば何度でも変更可能。
・履修登録期間の終了間際は、アクセス集中により繋がりにくい場合があるため、早めに履修登録を行うこと。

▼履修登録が必要な科目
- 選択科目
- 抽選対象でない科目

▼既に履修登録されている科目
- 必修科目
- 抽選で当選した科目

【教学ポータル】

以下にアクセスし、期間内に履修登録すること。

北里大学 HP
⇒ 対象者別メニュー
⇒「在学生の方」

## ❺ 追加抽選

定員に空きがある科目のみ追加抽選を行う。「一般教育部授業情報サイト」で詳細を確認し、必要であれば申込みすること。

## ❻ 追加抽選の当選発表＆取消

抽選システム上で当選者発表を行う。当選科目は、自動的に履修が確定するため、授業に出席すること。やむを得ない事情等がある場合には、当選取消日に抽選システムから、取消を行うこと。

## ❼ 履修変更

履修が確定した科目は履修変更画面上に反映されているため、各自確認すること。必要であれば、「④履修登録」と同様の方法で、履修変更を行うこと。

## ４－３）聴講制度について

「聴講」とは、年間の履修登録単位数を超えている、もしくは規程により履修登録できないが、講義を受講したい場合に利用できる制度のことである。聴講を希望する場合は、教学センター事務室一般教育課にて手続きを行うこと。

ただし、聴講科目については単位が付与されないため、よく考えた上で手続きを行うこと。また、抽選科目の場合は、定員に空きがある場合に限る。

▼申請期限　（前期）５月末まで　　（後期）９月末まで

▼申請場所　　教学センター事務室一般教育課　教務係

## ４－４）既修得単位認定について

本大学は、教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学において履修した授業科目の修得単位を、60単位を超えない範囲で本大学において修得したものとみなす制度を実施している。この制度を希望する学生は、詳細を確認した上で、教学センター事務室一般教育課に申し出ること。

≪注意事項≫

①既修得単位認定者は、北里賞の対象外とする。

②既修得単位を認定された者は、認定された科目が配当されている年度の北島賞の選考対象外とする。

## ４－５）英語資格試験スコア保有者に対する単位認定について

薬学部では、英語資格試験の一定以上のスコア保有者に対する単位認定制度を実施している。本学が定める一定基準以上のスコアを保有する学生で、「英語ＢⅠ」・「英語ＢⅡ」の単位認定を申請したい場合は、詳細を確認した上で、教学センター事務室一般教育課に申し出ること。

≪注意事項≫

①認定科目は、北里賞の対象外とする。

②認定された者は、認定された科目が配当されている年度の北島賞の選考対象外とする。

## ４－６）復学者・留年生について

前年度休学者および留年した学生は、新年度のオリエンテーション初日に実施する「留年生ガイダンス」に出席し、事務手続きを行うこと。履修登録が正しく行われないと、進級出来なくなるなどの問題が生じる場合もあるため、授業開始前に履修すべき科目をクラス主任と確認し、履修登録を期限内に行うこと。授業開始後もクラス主任の指導に従うこと。なお、新入生オリエンテーション（入学式を除く）には必ず出席すること。

## ４－７）再評価制度について

留年した学生が、単位修得済科目の再評価を希望する場合は、当該科目の科目責任者の許可を得なければならない。希望する学生は、教学センター事務室一般教育課に申し出ること。再評価を許可された場合は、授業に出席し、試験を受験しなければならない。単位修得済科目の成績は担保され、学生に有利な評価（高得点）を最終評価とする。

# ５．講　　義

## ５－１）講義時間

講義時間は、原則として１日５時限で、次の通りである。

| 第１時限 | 第２時限 | 第３時限 | 第４時限 | 第５時限 |
|---|---|---|---|---|
| 9：00～<br>10：30 | 10：40～<br>12：10 | 13：00～<br>14：30 | 14：40～<br>16：10 | 16：20～<br>17：50 |

※但し、第６時限目（18：00～19：30）に、補講を行うことがある。

## ５－２）講義形態

講義は次の形態で行われる。

| | |
|---|---|
| 通年講義 | 毎週１回・もしくは２回で１年間行う。 |
| 半期講義 | 毎週１回・もしくは２回で前期または後期で終了する。 |
| 集中講義 | 一定期間にまとめて行う。時間割はその都度指示する。 |

## ５－３）休講・補講

① 大学または各授業科目の担当者において、やむを得ない事情が発生した場合には、授業を休講にすることがある。
② 休講は原則一般教育部授業情報サイト上で通知する。原則として休講日よりも前に掲載するが、急病等により、事前に通知できない場合は、授業当日の掲載になる場合がある。
③ 休講案内がないにもかかわらず３０分以上経過しても講義が開始されない場合は教学センター事務室一般教育課の指示に従うこと。
④ 休講となった授業については原則として補講を行う。補講の時間割や授業形態は、一般教育部授業情報サイト上で通知する。
⑤ 交通機関ストライキによる休講は次の通りとする。

１．ＪＲ、小田急電鉄、神奈川中央交通バスが全面ストライキを決行した場合、一般教育部における授業は休講とする。
　但し午前７時のニュースでストライキ中止が決定していれば、平常通り授業を行う。
２．上記ストライキと同規模の交通異常の状態が発生した場合においても休講とする。
　但し、判断が困難な場合には掲示または大学ホームページにより確認すること。

## ５－４）授業欠席について

病気またはその他やむを得ない事由により、**授業を１週間以上続けて欠席した場合**、及び３親等内の親族が死亡した場合は、教学センター事務室にて所定用紙を受け取り、手続きを進めること。なお、病気の場合は、医師の診断書を提出すること。

また、１週間未満の授業欠席については、各自で授業担当者にその旨を申し出ること。

## ５－５）「授業の振り返り」のためのアンケート実施について

一般教育部では、個々の授業について「授業の振り返り」のためのアンケートを前期・後期末に実施している。アンケートは、「授業と教員について」、「あなた自身について」のいくつかの項目、総合評価の項目、自由記述欄から構成される。

学生をより成長させることのできる良い授業を行うために、教員は授業やカリキュラムの改善に向けた取り組みを行っている。本アンケートは、その手がかりを得るために活用する。また、学生も自身の学習を振り返ることで学習の向上に役立ててほしい。アンケートの集計結果は、一般教育部ホームページに掲載する。

## ５－６）一般教育部授業情報サイトについて

スマートフォン用 QR コード

教学センター事務室一般教育課からの連絡事項（授業・試験関係等）は、一般教育部ホームページの「授業情報」ページより確認することができる。随時更新されるため、必ず確認すること。

［一般教育部　授業情報］https://www.kitasato-u.ac.jp/clas/campuslife/curriculum/index.html

# ６．試験・成績

履修登録している科目の成績は、学期末、学年末に実施される試験や、各科目のシラバスに記載されている評価方法に基づいた基準により「合格」と見なされたものについて、単位が付与される。一般教育部が開講する１群科目の試験については、定期試験、追試験、再試験、再受験がある。試験については、**必ず、「６－３）一般教育部試験細則」に目を通しておくこと。**確認を怠ったことによる、手続きの遅れや不備は理由とならないので注意すること。なお、一般教育部開講科目の試験期間については、2025 年度一般教育部行事予定を参照すること。

## ６－１）試験について

### ①　定期試験

定期試験の実施方法一覧および時間割は、前期は 6 月中旬、後期は 11 月中旬に学内掲示および一般教育部授業情報サイトへの掲載を以って発表する。各自で必ず確認を行うこと。

### ②　追試験、再試験

追試験は､病気その他やむを得ない事由により定期試験を受けることができなかった場合に実施される試験のことであり、事前の手続きが必要になる。

再試験は、平素の履修状況及び出席状況が良好であるにもかかわらず、定期試験の成績が合格点に達しなかった者について、行われることがある。

追試験及び再試験を実施する場合の実施方法一覧、時間割、申込日、手続き方法等については、一般教育部試験細則、学内掲示および一般教育部授業情報サイトへの掲載を以って知らせる。見落としのないよう注意すること。

### ③　再受験

やむを得ない事由により追再試験を受験できない場合は、当該追再試験当日に所属の学部事務室へ連絡し、再受験を願い出ること。詳細は一般教育部試験細則を確認すること。

## ６－２）成績について

### ①　合否結果

履修科目の合否結果については、各試験期間終了後から順次発表するので各自で確認すること。合否発表の確認方法については所属の学部事務室の指示に従うこと。なお、合否結果について、電話・メールでは一切回答しない。

### ②　１群科目合否確認（不合格理由の確認）制度について

１群科目の不合格科目について確認したい事柄がある場合、「合否確認申込書」を提出し、教員に不合格の理由を尋ねることができる制度がある。不合格科目の成績について、直接担当教員とやりとりをすることは禁止されているので、確認したい事項がある場合は必ずこの制度を利用すること。ただし、この制度は担当教員に対し、安易に再評価や再検討等の成績変更を求めるものではなく、また、具体的な根拠がなければ提出できない。

申込方法及び申込期間などの詳細については、学内掲示および一般教育部授業情報サイトへの掲出を以って知らせる。

### ③　成績表について

前期成績は、８月下旬以降、教学ポータルにて学生と保証人宛に通知する。また、学生本人へは、９月に行うクラス主任面談にて、追再試験結果を含めた成績表を配付する。学年末成績表は、３月中旬以降に教学ポータルにて学生と保証人宛に通知する。

なお、保証人への成績通知を希望しない場合は、年度初めにその旨を保証人連署の上、申請すること。

### ④　成績評価基準について

１群科目の成績は、到達目標の達成度合いに応じて評価する。(評価基準として複数の評価方法を用いる場合がある。)
具体的な成績評価の方法は、各科目シラバスに記載の通りとする。

# ６－３）一般教育部試験細則

**（総　　則）**

第１条　一般教育部が開講する科目の定期試験、追試験、再試験（以下「追再試験」という。）及び再受験については、この細則による。

**（定期試験）**

第２条　試験は原則として前期、後期の終りに「定期試験期間」を設けて行う。なお、定期試験期間に行う試験のほかに前期・後期最終週等の授業内に一般教育連合教授会の承認を得て行う「期間外試験」も定期試験に含める。また、定期試験をレポート課題により行う場合は、課題提出締切日の２週間以上前から課題を掲示（通知）することとする。

２　評価は、優（１００～８０点）、良（７９～７０点）、可（６９～６０点）、不可（５９～０点）の４種をもって表し、優・良・可を合格、不可を不合格とする。

３　一般教育連合教授会が特に定める場合を除いては、各科目の年間授業時間数（定期試験期間は含めない実授業時間数）の３分の１以上欠席した者は、当該科目のその年次の試験（成績）を無効とする。

４　すべての試験の場合に次の事項に注意しなければならない。

(1)　試験場においては、監督者の指示に従うこと。

(2)　試験場においては、所定の席順に着席すること。

(3)　学生証は机上の監督者の見易いところに明示すること。なお、学生証を忘れた者は所属の学部事務室等で受験許可証の交付を受けてからでないと受験できない。

(4)　教科書、参考書、ノート等の持込みは、監督者の指示に従うこと。

(5)　認められたもの以外は机上に置かないこと。

(6)　携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチ等をはじめとする電子機器は、電源を切ってカバン等の中にしまうこと。これらは時計としての使用も認めない。発見した場合は、不正行為と見なす可能性がある。

(7)　席順票が配付されたら学籍番号、氏名を記入して後席に回すこと。

(8)　答案用紙及び問題用紙等指定の場所に、学部学科、学籍番号、氏名等必要事項を必ず記入しなければならない。学籍番号、氏名の記入がない答案は原則無効とする。

(9)　試験開始後 20 分を超えての入場及び 25 分以内の退場は認めない。

(10) 答案を書き終えた者は、答案用紙を提出して退場すること。なお、答案は必ず提出すること。

(11) 不正行為又は同行為の疑いを受けるようなことは一切しないこと。不正行為又は同行為とみなされるような行為は学則に従い処分する。

５　試験を受験するに際し、学生証を携帯しない者に対する受験許可証発行手数料は、１日５００円とする。

**（追試験）**

第３条　追試験は、病気その他やむを得ない事由により定期試験を受けることができなかった場合に、一般教育部長に追試験の受験を許可された者について、一定の期間内に実施する。なお、定期試験が筆記試験以外の試験方法であった場合は、原則として追試験を行わないこととし、インフルエンザ等の伝染性疾患についても例外とはしない。

２　前項の事由により、追試験を願い出る者は、所定の期間内に追試験受験願をクラス主任又はチューターの承認を得たうえで所属の学部事務室等に提出しなければならない。この期間内に願い出ない者の追試験は認めない。

３　追試験受験願を提出するときは、欠席事由を証明する書類等を添付しなければならない。

４　追試験受験願の提出があった学部は、追試験受験願及び欠席事由を証明する書類等を取りまとめ、指定期日までに一般教育部長あてに提出する。

５　一般教育部長は定期試験欠席の事由が正当であり、かつ平素の履修状況及び出席状況が良好であると認められた者に限り、追試験の受験を許可する。なお、定期試験欠席の正当な事由と認められるのは、原則として次の場合である。

(1)　自己の病気又は怪我（医師の診断書又は療養中であったことを証明する書類を添付）

(2)　電車、バス等、公共交通機関の事故、または社会的にやむを得ない事情があると認められる公共交通機関の大幅な遅延（事故・遅延証明書添付）

(3) 三親等内の親族の死亡の場合（死亡診断書・埋葬許可書等（写）又は死亡が確認できる書類を添付）

（注）試験時間の誤認、バスの自然渋滞による遅延、自動車、バイク、自転車等の故障、寝ぼう等は認められないので注意すること。

６　追試験受験願を提出した者の受験許可、試験実施の期日、試験時間割等については、あらかじめ告示する。

７　追試験は原則として、前期においては後期授業開始前までに、また後期においては２月中旬までに実施する。

８　追試験の受験料は、各学部が定める試験内規又は試験細則に従うものとする。

9　追試験の成績は、満点を１００点とし、６０点以上を合格とする。

10　試験を受験するに際し、学生証を携帯しない者に対する受験許可証発行手数料は、１日５００円とする。

**（再試験）**

第４条　平素の履修状況及び出席状況が良好であるにもかかわらず、定期試験の成績が合格点に達しなかった者（定期試験欠席者のうち追試験受験資格のない者を含む。）については、一般教育連合教授会の承認を得て同一年度内に一回再試験を実施することがある。

2　再試験を願い出る者は、所定の期間内に、再試験申込書を所属の学部事務室等に提出しなければならない。この期間内に願い出ない者の再試験は認めない。

3　再試験の受験料は、各学部が定める試験内規又は試験細則に従うものとする。

4　再試験の成績は、満点を７０点とし、６０点以上を合格とする。ただし、医学部は７０点以上をすべて　６９点とし、６０点以上を合格とする。

5　再試験については、本細則第３条第６項及び第７項を準用する。

6　試験を受験するに際し、学生証を携帯しない者に対する受験許可証発行手数料は、１日５００円とする。

**（再受験）**

第５条　再受験は、病気その他やむを得ない事由により追再試験を受けることができなかった場合に、一般教育部長に再受験の受験を許可された者について、一定の期間内に実施する。なお、追再試験が筆記試験以外の試験方法であった場合は、原則として再受験を行わないこととし、インフルエンザ等の伝染性疾患についても例外とはしない。

2　前項の事由により、再受験を願い出る者は、当該追再試験実施当日の午後５時までに所属の学部事務室等へ連絡をし、所定の期間内に再受験受験願をクラス主任又はチューターの承認を得たうえで所属の学部事務室等に提出しなければならない。この期間内に願い出ない者の再受験は認めない。

3　再受験受験願を提出するときは、欠席事由を証明する書類等を添付しなければならない。

4　再受験受験願の提出があった学部は、再受験受験願及び欠席事由を証明する書類等を取りまとめ、指定期日までに一般教育部長あてに提出する。

5　一般教育部長は追再試験欠席の事由が正当であり、かつ平素の履修状況及び出席状況が良好であると認められた者に限り、再受験の受験を許可する。なお、追再試験欠席の正当な事由と認められるのは、原則として次の場合である。

(1)　自己の感染性疾患（※疑いを含む）（医師の診断書又は療養中であったことを証明する書類を添付）

≪対象となる感染症≫麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風疹、インフルエンザ、百日咳、水痘、咽頭結膜炎、結核、髄膜炎菌性髄膜炎、ノロウイルス腸炎、感染性腸炎、流行性角結膜炎、帯状疱疹、その他、学校保健安全法指定感染症(第一種～第三種)。

(2)　三親等内の親族の死亡の場合（死亡診断書・埋葬許可書等（写）又は死亡が確認できる書類を添付）

6　再受験受験願を提出した者の受験許可、試験実施の期日、試験時間割等については、対象者への連絡をもって告示する。

7　再受験は原則として、前期においては後期授業開始前までに、また後期においては２月中に実施する。

8　受験料は徴収しない。

9　評価については本細則の第３条第９項及び第４条第４項を適用する。

10　試験を受験するに際し、学生証を携帯しない者に対する受験許可証発行手数料は、１日５００円とする。

**（この細則の改廃）**

第６条　この細則の改廃は、教育委員会の議を経て、一般教育連合教授会が決定する。

附則

1　追試験及び再試験の受験料は、各学部が定める試験内規あるいは試験細則に従うものとする。

2　試験を受験するに際し、学生証を携帯しない者に対する受験許可証発行手数料は、１日５００円とする。

3　この細則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附則

1　この細則は、2024 年 4 月 19 日から施行する。

以　上

# 北里大学薬学部における試験及び成績評価に関する規程

2016年7月7日　制定
2025年2月6日　改正

（総則）

第1条　この規程は、薬学部に在籍する学生の試験及び成績評価（以下「評価」という。）に関する取扱いを定める。

（単位認定）

第2条　薬学部が開講する授業科目の単位は、単位認定者（科目責任者）が試験及びその他の適切な方法により学修の成果を総合的に評価して認定する。

（試験の種類及び方法）

第3条　単位を認定するための試験の種類は、原則として定期試験、追試験及び再試験とする。

2　前項に規定する各試験は、筆記、レポート及びその他の方法により実施する。

（成績評価）

第4条　評価は、優、良、可、不可の4種とし、100点から80点を優、79点から70点を良、69点から60点を可、59点以下を不可とし、優、良、可を合格、不可を不合格とする。

2　前条第1項に定める各試験に基づく評価は、次のとおりとする。

⑴　定期試験に基づく評価は、別に定める各科目の評価基準に従うものとし、最高点を100点とする。

⑵　追試験に基づく評価は、別に定める各科目の評価基準に従うものとし、最高点を90点とする。

⑶　再試験に基づく評価は、別に定める各科目の評価基準に従うものとし、最高点を70点とする。

（定期試験）

第5条　定期試験は、原則として通年科目にあっては後期末に実施し、半期科目にあっては開講期に応じ前期末及び後期末の授業内又は試験期間を設けて実施する。

2　前項に規定する通年科目のうち、一部の科目については、前期及び後期の2回試験を実施できるものとする。この場合の評価は、前期及び後期の試験結果に基づき、総合的に行うものとする。

3　定期試験に係る受験資格、受験者の遵守事項及びその他の事項は、別に定める。

（追試験及び再試験）

第6条　追試験は、定期試験を正当と認められる事由により受験できなかった者に対して実施する。

2　再試験は、原則として実施しない。

ただし、平素の履修状況及び出席状況が良好であるにもかかわらず、定期試験の成績が合格点に達しなかった者及び定期試験の欠席者のうち、追試験受験資格の無い者に対し同一年度内に1回再試験を実施することができる。

なお、追試験に基づく評価が不可の者について再試験は、実施しない。

3　追試験及び再試験は、原則として追試験及び再試験期間を設けてそれぞれ実施する。

4　追試験及び再試験に係る受験資格及びその他の実施事項は、別に定める。

（合格科目の再試験）

第7条　合格と判定された授業科目についての再試験は、実施しない。

（追試験及び再試験の未受験の取扱い）

第８条　追試験及び再試験を受験できなかった者で、正当な事由があると認められる場合は、改めて当該試験を実施（以下「再受験」という。）することができる。

ただし、次の各号に揚げる試験の再受験は実施しないこととする。

ア　薬学共用試験（OSCE、CBT）（薬学科４年次）

イ　薬学総合演習試験（薬学科６年次）

２　再受験の実施に係る事項については、別に定める。

（単位認定に基づく卒業及び及落判定）

第９条　単位認定に基づく卒業及び及落判定は、学部学年進級規程に基づき、薬学部教授会において行う。

（補足）

第 10 条　この規程に定めるもののほか、その他の必要な事項については、別に定める細則による。

２　一般教育部が開講する１群科目については、原則として一般教育部試験細則を適用する。

（この規程の改廃）

第 11 条　この規程の改廃は、教育委員会及び運営会議の議を経て、薬学部教授会において決定する。

附　則

１　この規程は、2017 年４月１日から施行する。

２　この規程は、2017 年度に実施する試験から適用する。

附　則（北学総第 2024-16418 号）

この規程は、2025 年４月１日から施行する。

# 北里大学薬学部における試験及び成績評価に関する細則

２０１６年　７月　７日　制定
２０１７年　４月　１日　改正
２０１７年　９月　１日　改正
２０１８年　９月　６日　改正
２０１９年　２月　７日　改正
２０２２年　６月１８日　改正
２０２３年　７月　６日　改正
２０２５年　３月　６日　改正

（趣旨）

第１条　この細則は、北里大学薬学部における試験及び成績評価に関する規程（以下「規程」という。）第 10 条第１項の規定に基づき、試験及び成績評価に関して必要な事項を定める。

（試験の区分及び実施期間）

第２条　規程第３条に規定する試験は、原則として次の区分により実施する。

| 試験区分 | 実　施　期　間 | |
|---|---|---|
| 前期定期試験 | ６月下旬及び７月中旬 | 左記の最終授業内又は |
| 後期定期試験 | １１月下旬及び１月上旬 | 薬学部暦に定める試験期間 |
| 前期追・再試験 | ８月下旬 | 薬学部暦に定める試験期間 |
| 後期追・再試験 | ２月上旬 | |
| 授業期間内評価 | 随時 | 授業期間内 |
| 実　習　試　験 | 随時 | 実習期間内 |

（受験資格）

第３条　規程第５条及び第６条に規定する定期試験、追試験及び再試験の受験資格は、次のとおりとする。

⑴　定期試験を受験できる要件は、次のとおりとする。

ア　履修登録科目であること。

イ　原則として実授業時間数の３分の２以上出席していること。

ウ　受験不許可の通達を受けていないこと。

⑵　追試験及び再試験の受験資格は、前号に規定する要件を満たしている者のほか、規程第６条第１項及び第２項に該当する者とする。

（追試験受験の正当な事由）

第４条　規程第６条第１項に規定する正当と認められる事由とは、原則として次の各号に掲げる事項とする。ただし、就職試験及び他大学等入学試験の受験については、正当と認められる事由に含まない。

ア　北里大学における出校停止が必要な感染症［必要書類：医師の診断書又は登校許可証］

イ　その他自己の病気又は怪我［必要書類：医師の診断書］

ウ　電車、バス等の公共交通機関の事故等による 20 分を超える遅延［同：遅延証明書］

エ　三親等内の親族の死亡［同：死亡が確認できる書類］

オ　その他教授会において正当と認められた事由

２　前項各号に該当しない者は、追試験の対象者から除外し、再試験受験の対象者とする。

（追試験受験の許可）

第５条　追試験の受験を願い出る者は、定期試験期間終了後３日以内に追試験受験許可願（様式第１。以下同じ）に前条第１項に規定する必要書類を添えて、白金キャンパス大学事務室教務課に提出しなければならない。

2　前項における書類を提出した者の追試験の受験許可は、単位認定者（科目責任者）の承認後、教授会において決定し、掲示をもって告示する。

（申込手続）

第6条　追試験受験許可者及び再試験受験対象者は、指定期間内に所定用紙に記入及び受験料分の証紙を購入の上、白金キャンパス大学事務室教務課にて当該試験の申込手続をしなければならない。

2　前項に規定する指定期間は、白金キャンパス大学事務室にて設定し、掲示により事前周知する。

3　第1項に規定する受験料は、1科目2,000円とする。なお、受験しなかった科目の受験料は返金しない。

（再受験の実施）

第7条　規程第8条に規定する再受験の実施は、次のとおりとする。

⑴　再受験を受験できる正当な事由は、次のとおりとする。

ア　北里大学における出校停止が必要な感染症［必要書類：医師の診断書又は登校許可証］

イ　電車、バス等の公共交通機関の事故等による20分を超える遅延［同：遅延証明書］

ウ　三親等内の親族の死亡［同：死亡が確認できる書類］

エ　その他教授会において正当と認められた事由

⑵　再受験を願い出る者は、追・再試験期間終了後3日以内に再受験許可願（様式第2。以下同じ）に前項に規定する必要書類を添えて、白金キャンパス大学事務室教務課に提出しなければならない。

⑶　前号における書類を提出した者の再受験の受験許可は、単位認定者（科目責任者）が決定する。

⑷　申込手続は、本細則第6条の規定を準用する。

⑸　受験料は、徴収しない。

⑹　評価は、規程第4条第2項を適用する。

⑺　再受験の実施日、実施方法等は、単位認定者（科目責任者）の判断によるものとし、追・再試験期間終了後、前期は9月中旬、後期は2月中に実施しなければならない。

2　再受験は、前項第6号に規定する期間内にあらかじめ日時を定めて1科目につき1回のみ実施する。ただし、所定の試験日に受験しなかった場合は、当該科目の評価を不可とする。

（受験者の遵守事項）

第8条　規程第3条に定める試験の受験者は、次の事項を遵守しなければならない。

⑴　試験開始10分前に定められた試験場に入場すること。

⑵　所定の席順（原則として学籍番号順）に着席すること。

⑶　所持品は、監督者が指示する場所に置くこと。

⑷　学生証は、机上の見やすいところに置くこと。

学生証を忘れた者は、本細則9条に基づき、受験許可証交付の手続を済ませること。

⑸　答案用紙に学年、学科、クラス、学籍番号、氏名等必要事項を記入すること。

学籍番号及び氏名の記入がない答案は、無効の取扱いとすること。

⑹　席順表に自己の学籍番号・氏名を記入して、速やかに後席にまわすこと。

⑺　教科書、参考書、ノートなどの使用は、監督者の指示に従うこと。

関数電卓（計算機）の持込可能科目について、計算機の貸出は行わないこと。

⑻　答案作成のために特に認められたもの以外の機器及び文具類は机上に置かずに鞄の中にしまって机の下に置くこと。

なお、試験の科目に関係するメモやコピー等が発見された場合は、不正行為と見なす。

⑼　答案作成については、以下を遵守すること。

ア　監督者から配付された答案用紙以外は用いてはならない。

イ　答案用紙は許可なくして室外に持ち出してはならない。

ウ　答案用紙の再交付は認めない。

エ　所定の時刻以後は答案を受理しない。

⑽　携帯電話等電子機器は電源を切り、他の携帯品と同じく鞄の中にしまって机の下に置くこと。

なお、携帯電話等電子機器をしまうかばんを所持していない場合は、試験監督に申し出て携帯電話等電子機器を保管する封筒を受け取り、机の下に置くこと。

⑾　腕時計型の「スマートウォッチ」及び眼鏡型の「スマートグラス」（通信機能・ＰＣ機能）などの持込みや着用をしないこと。発見した場合は不正行為とみなす。

⑿　帽子は脱いでかばんの中にしまって机の下に置くこと。

⒀　不正行為及び不正行為の疑いを受けるような行為は一切しないこと。そのような行為とみなされた場合には、学則及び諸規定により処分すること。

⒁　試験終了前に答案を提出した者は、直ちに退場すること。

試験終了後は退出の許可があるまで席を立たないこと。

⒂　試験開始後 20 分以降の入室及び 30 分以内の退出は認めないこと。

６年生「演習試験」においては、試験開始後 30 分以降の入室及び 40 分間以内の退出は認めないこと。

⒃　試験終了 5 分前からは、退出は認めないこと。

⒄　試験場内での秩序維持に関することは、全て監督者の指示に従うこと。

⒅　試験監督者の指示に従わなかった場合は、不正行為とみなし、受験停止とする。

（受験許可証）

第 9 条　学生証を忘れた者及び紛失による再発行手続中の者の取扱いは、次のとおりとする。

⑴　学生証を忘れた者には、白金キャンパス大学事務室にて受験許可証（白色）を交付する。

なお、手続に係る発行手数料は 500 円とし、当該試験日限り有効とする。

⑵　学生証再発行中の者には、白金キャンパス大学事務室にて受験許可証（桃色）を交付する。

なお、手続に係る発行手数料は無料とし、当該試験期間有効とする。

⑶　第 2 項及び第 3 項に規定する受験許可証には、手続の際に白金キャンパス大学事務室にて作成する学籍登録票の写しを添付しなければならない。

⑷　第 2 項及び第 3 項に規定する受験許可証及び学籍登録票の写しの交付された者は、当該試験日及び試験期間終了後に速やかに白金キャンパス大学事務室に返却しなければならない。

（不正行為）

第 10 条　不正行為をした者は、本細則第 2 条に規定する当該試験区分の受験を停止するとともに、当該試験区分における全ての試験の評価を不可とする。

なお、授業期間内評価及び実習試験については、当該科目の評価を不可とする。

2　不正行為をした者の処分は、当該学生及び試験監督者等者から事情聴取を行った上で、教授会において決定する。

（試験実施に係る委員会）

第 11 条　すべての試験実施に係る試験業務については、教育委員会がこれを担当し、教育委員長が統括する。

なお、6 年生の「演習試験」については、特別実習小演習委員会がこれを担当し、特別実習演習委員長が統括する。

2　前条第 2 項に規定する事情聴取については、学生指導委員会がこれを担当し、学生指導委員長が統括する。

（合否発表）

第 12 条　各授業科目の合否の発表については、次のとおりとする。

⑴　定期試験に基づく合否は、教学ポータル「PC 版」の Web 合否結果照会に随時掲載する。

⑵　追試験及び再試験受験に基づく合否は、当該試験期間で実施した全ての科目について同一日に教学ポータル「PC 版」の Web 合否結果照会に掲載する。

⑶　再受験に基づく合否は、再受験終了後に教学ポータル「PC 版」の Web 合否結果照会に随時掲載する。

（成績通知）

第 13 条　成績の通知については、次のとおりとする。

⑴　前期については、定期試験又は追再試験結果に基づく評価を含む累積の成績通知書を、原則として全学生の保証人あてに通知する。

⑵　後期については、追再試験終了をもって最終の評価とし、累積の成績通知書を原則として全学生の保証人あてに通知する。

２　本人への成績の配付方法及び時期については、次のとおりとする。

⑴　前期の成績は、後期開始後掲示により配付時期を明示し、チューターから配付する。

⑵　後期の成績は、及落判定が決定後掲示により配付時期を明示し、チューターから配付する。

（この細則の改廃）

第 14 条　この細則の改廃は、教育委員会及び運営会議の議を経て、教授会において決定する。

附　則

１　この細則は、２０１６年７月７日から施行する。

附　則

１　この細則は、２０１７年４月１日から施行する。

２　この細則は、２０１７年度に実施する試験から適用する。

附　則（北学総第 29-04495 号）

（施行期日）

この規程は、２０１７年９月１日から施行する。

附　則（北学総第 2018-06278 号）

この細則は、２０１８年１０月１日から施行する。

附　則（北学総第 2018-11851 号）

この細則は、２０１９年４月１日から施行する。

附　則（北学総第 2022-03865 号）

この細則は、２０２２年７月１日から施行する。

附　則（北学総第 2023-04807 号）

この細則は、２０２３年７月６日から施行する。

附　則（北学総第 2024-18207 号）

この細則は、２０２５年３月６日から施行する。

# 薬学部試験における不正行為者処分内規

１９７９年　７月１３日制定
２００７年　４月　１日改正
２０１９年　２月　７日改正

１　薬学部施行の試験において不正行為をした者は、本内規により処分する。
２　不正行為者の処分は、教授会が行う。
３　不正行為者の処分は、次のとおりとする。
⑴　不正行為が発生した科目から処分決定までは、受験停止とする。
⑵　不正行為をした者は、当該試験期間中の成績を全て無効としたうえ、無期停学処分とする。なお、実習試験及び定期・追再試験期間外に実施する試験において不正行為をした者は、当該科目の成績を無効としたうえ、無期停学処分とする。
⑶　従前の試験において不正行為に係る処分を受けた者が、その後の試験において不正行為をしたときは、退学処分とする。
⑷　代人受験をした者及び代人受験させた者は、退学処分とする。
４　不正行為者の処分決定後は、その結果を掲示板に４８時間以上告示し、保証人（父母）にその旨通知する。
５　不正行為者が外部機関の奨学生である時は、その旨各機関に報告する。
６　不正行為者は、在学中の学内表彰規程の対象者より除外する。
７　以上の取り扱いは、不正行為に関与した全ての者を対象とする。

附　則
この内規は１９７９年７月１３日から施行する。
附　則
この内規は２００７年４月１日から施行する。
附　則（北学総第 2018 - 11882 号）
この内規は２０１９年４月１日から施行する。

以　上

# 薬学部試験情報及び試験問題並びに合否確認に関する取扱い

２０１２年　6月２１日制定
２０１４年１２月　４日改正
２０１７年　9月　１日改正
２０１８年　9月　６日改正

薬学部で開講する科目の試験情報及び試験問題並びに合否確認については、本取り扱いの定めるところによる。

【試験情報に関して】

１．試験に関する内容について学生に周知する場合は、不平等が生じないように掲示による発表を基本とすること。試験に関する質問への回答は、講義時間内にのみ対応し、不平等がないよう、受講する学生全員の前で回答すること。

２．学生からの質問への個別対応は、試験期間中は行わないこととする。

３．過年度未修得科目については、学生への情報提供の手段が限られているので、試験範囲や（行われる場合は）補講実施等の情報を周知するよう、特に配慮すること。

【試験問題に関して】

４．試験問題の内容に関する問い合わせ（不適切問題等）は、試験時間内に試験監督者へ申し出るか、あるいは、試験終了後、所定の期間内に試験問題内容確認書（所定様式）を、白金キャンパス大学事務室に直接提出する。

なお、メール及びＦＡＸ等の提出は一切受け付けない。

また、試験問題内容確認書を提出する根拠に乏しい理由による問い合わせは、受け付けないこととする。

５．試験問題内容確認書の受付期間は、該当試験科目受験日の翌日（土・日曜日、祝日等の白金キャンパス大学事務室閉室日の場合は除く。）17 時までとする。

６．試験問題内容確認書が提出された場合は、学部長は、速やかに科目責任者に書面による対応を指示する。

７．科目責任者は、学部長より試験問題内容確認書の照会があった場合は、速やかに試験問題内容確認通知書に回答を作成し、学部長へ提出する。

８．試験問題内容確認書の回答は、白金キャンパス大学事務室を経て回答書により回答する。

【合否確認に関して】

９．科目責任者及び科目分担者は、合否結果を公表前には学生に告知しないこととする。

10．科目責任者は、担当科目の合否結果について、誰に対しても通知あるいは協議をしてはならない。ただし、科目分担者、教育委員長および学部教務担当者に対してはこの限りではない。

11．学生の合否結果は、掲示によって発表する。不合格となった学生が、当該科目の合否に関して問い合わせを行う場合は、学部による合否判定の公式発表後、所定の期間内に合否確認書（所定様式）により、チューター（１年生はクラス主任）を経て白金キャンパス大学事務室に直接提出する。なお、メール及びＦＡＸ等の提出は一切受け付けない。

１）特別の事由なく、単に再評価・再検討を願い出るもの
２）担当教員に情状を求めるもの
３）他の学生との対比上の不満のみを訴えるもの
４）試験結果（点数）の確認に関するもの
５）その他、合否確認書を提出する根拠に乏しいもの

12．合否確認書の受付期間は、掲示によって周知する。

13．合否確認書が提出された場合は、学部長は、速やかに科目責任者に書面による対応を指示する。

14．科目責任者は、学部長より合否確認書の照会があった場合は、速やかに合否確認通知書に回答を作成し、学部長へ提出する。

15．合否確認書の回答は、チューターを経て合否確認通知書により回答する。

附　則

この取り扱いは、２０１２年６月２１日から施行する。

附　則

この取り扱いは、２０１２年６月２１日から施行する。

附　則（北学総第 29 - 04495 号）

（施行期日）

この取り扱いは、２０１７年９月１日から施行する。

附　則（北学総第 2018 - 06344 号）

この取り扱いは、２０１８年１０月１日から施行する。

## ６－４）北里大学におけるＧＰＡ(Grade Point Average)制度について

対象科目の原成績（100 点～0 点）を、以下の計算式によるGPA 指数（以降「GP」）に変換し、各対象科目のGP に対象科目の単位数を乗じ、その総和を対象科目の単位数の総和で除した値をGPA として算出します。GPA の対象となる科目は、必修科目及び選択科目とします。なお、不可科目も含み、再履修科目は最終評価を基に計算します。

＜計算式＞

$$\frac{\text{(GP×修得単位数)の総和}}{\text{総履修登録単位数(「不可」の単位数を含む。)}}$$

GP＝（TS－55）／10　ただし、GP＜0.5 はGP＝0.0 とする

※GP:GPA 指数、TS:原成績（得点）

ただし、上記の計算式で計算しますが、他の一般的なGPA 制度（秀・優・良・可などの評価（レターグレード）からGP に換算）の範囲は4.0～1.0 であるため、通用性に配慮しGP「4.0」以上の値を一律「4.0」に、「0.5 以上1.0 以下」の値を一律「1.0」にしたGP を用いて計算します。

### ＜GPA 値に基づく学修指導について＞

成績不良による留年の場合は、GPA 値に基づき、学修指導が行われる場合があります。
過年度からの度重なる学修指導にも関わらず改善が見られない場合には、退学勧告が行われることがあります。

なお、GPA 制度はあくまでも学生の皆さんの学修意欲向上を目的としているため、むやみに退学勧告が行われることはありません。

## ６－５）表彰制度について

北里大学学生表彰規定に基づき、学業成績及び人物が優秀な者に、北島賞・北里賞を授与する。

Ⅰ．北里賞

故北里柴三郎博士の偉業にちなみ、薬学部の最高学年に在籍する学生の中から、学業成績及び人物が優秀な者を卒業に際し表彰する。

| | |
|---|---|
| 受 賞 者 | 薬　　学　　科：５人<br>生命創薬科学科：１人 |
| 選考基準 | 次の基準を満たす者から選考する。<br>薬　　学　　科：１年次から６年次までの必修科目の累積平均点上位５人<br>生命創薬科学科：１年次から４年次までの必修科目の累積平均点上位１人<br>ただし、留年者及び編入学者、学士入学者、及び必修科目の既修得科目認定を受けた者は、受賞候補者から除外する。 |
| 表　　彰 | 学位記授与式当日（３月）に賞状並びに記念品を授与する。 |

Ⅱ．北島賞

学祖の高弟である北島多一博士の偉業にちなみ、薬学部の最高学年を除く各学年次の在学生の中から、その年度の学業成績及び人物が優秀な者を表彰する。

| | |
|---|---|
| 受 賞 者 | 薬　　学　　科：１年次から５年次の各学年次からそれぞれ５人計 25 人<br>生命創薬科学科：１年次から３年次の各学年次からそれぞれ１人計　３人 |
| 選考基準 | 次の基準を満たす者から選考する。<br>薬　　学　　科：当該年度に履修した必修科目の平均点上位それぞれ５人<br>生命創薬科学科：当該年度に履修した必修科目の平均点上位それぞれ１人<br>ただし、当該学年の必修科目の既修得科目認定を受けた者は、受賞候補者から除外する。 |
| 表　　彰 | 学部オリエンテーション時（４月）に賞状並びに奨学金を授与する。 |

# ７．科目ナンバリング

北里大学では、開講されているすべての授業科目に以下のとおり意味づけ番号を付与している。各科目が教育課程の中でどのように分類されているのか、学習の段階や順序、科目間の関連などを表し、各シラバスの左上に提示している。

## ７－１）科目ナンバリングコード体系

| ① | ② | ③ | | ④ | ⑤ |
|---|---|---|---|---|---|
| 北里大学共通コード | | | － | 各学部／一般教育部のコード | |
| 学部・学科・専攻の略号<br>（英1～2文字） | 水準<br>（数字1文字） | 授業形態<br>（数字1～2文字） | | 学問分野<br>（英2文字） | 科目分類<br>（数字2文字） |

### ①　学部・学科・専攻略号コード

授業科目を開講する学部・学科・専攻の略号（英文字）1～2文字で表している。

| 学部・学科・専攻 | コード | 学部・学科・専攻 | コード | 学部・学科・専攻 | コード |
|---|---|---|---|---|---|
| **薬学部** | **P** | **理学部** | **S** | リハビリテーション学科 | ＲＥ |
| 薬学科 | ＰＰ | 物理学科 | ＳＰ | 理学療法学専攻 | ＰＴ |
| 生命創薬科学科 | ＰＬ | 化学科 | ＳＣ | 作業療法学専攻 | ＯＴ |
| **獣医学部** | **V** | 生物科学科 | ＳＢ | 言語聴覚療法学専攻 | ＳＴ |
| 獣医学科 | ＶＶ | **医療衛生学部** | **A** | 視覚機能療法学専攻 | ＯＶ |
| 動物資源科学科 | ＶＺ | 保健衛生学科 | ＨＳ | **未来工学部** | **ＦＲ** |
| グリーン環境創成科学科 | ＶＧ | 医療検査学科 | ＭＬ | データサイエンス学科 | ＦＵ |
| **医学部** | **M** | 医療工学科 | ＥＴ | **健康科学部** | **H** |
| **海洋生命科学部** | **MB** | 臨床工学専攻 | ＣＥ | 看護学科 | ＷＮ |
| **看護学部** | **N** | 診療放射線技師科学専攻 | ＲＴ | 医療検査学科 | ＷＬ |
| | | | | **一般教育部** | **L** |

### ②　水準コード

大学学則に定める1～4群科目の分類などのレベルを数字1文字で表している。

| | |
|---|---|
| 幅広い視野と豊かな人間性を形成する学士課程レベルの科目【1群科目】 | 1 |
| 専門の基礎的な知識・技術を形成する学士課程レベルの科目【2群科目】 | 2 |
| 高度の専門的な知識・技術を形成する学士課程レベルの科目【3群科目】 | 3 |
| 総合的な能力を形成する学士課程レベルの科目【4群科目】 | 4 |
| 「高度の専門的知識･技術を形成する学士課程レベルの科目【3群科目】」のうち、４年または６年間の学士課程において学修した成果を把握・測定する科目 | 5 |

### ③　授業形態コード

開講科目の授業形態を数字2文字で表している。1つの開講科目に講義と実験の形態がある場合は「13」とする。

| 講義 | 01 | 演習 | 02 | 実験 | 03 | 実習・実技 | 04 | その他 | 05 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

### ④　学問分野コード

各学部・学科・専攻において、学問分野等を英字2文字で表している。一般教育部は領域毎に分類している。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ＨＣ | 人間形成の基礎科目 | Basic Courses in the **H**umanities | 文化の領域 | **C**ulture |
| ＨＳ | 人間形成の基礎科目 | Basic Courses in the **H**umanities | 社会の領域 | **S**ociety |
| ＨＨ | 人間形成の基礎科目 | Basic Courses in the **H**umanities | 健康の領域 | **H**ealth |
| ＩＳ | 総合領域科目 | **I**nterdisciplinary **S**tudies | | |
| ＧＦ | 基礎教育科目 | Courses in **G**eneral Education | 外国語系 | **F**oreign Language |
| ＧＩ | 基礎教育科目 | Courses in **G**eneral Education | 数理 情報系 | **I**nformation Science and Mathematics |
| ＧＮ | 基礎教育科目 | Courses in **G**eneral Education | 自然科学系 | **N**atural Sciences |
| ＭＥ | 教養演習系科目 | **M**iscellaneous **E**lectives in Liberal Arts and Sciences | | |

### ⑤　科目分類コード

4年間または6年間を通じた教育課程全体の中で各授業科目は、どのように配置されているのか、その分類を数字2文字で表している。一般教育部では、開講科目を学則順に並べ、学問分野コード毎に通し番号を付与している。

## ７－２）一般教育部科目ナンバリング一覧

| | 区分 | 科目名 | ナンバリング |
|---|---|---|---|
| 人間形成の基礎科目 | 文化の領域 | 哲学の楽しみＡ | L101-HC01 |
| | | 哲学の楽しみＢ | L101-HC02 |
| | | 科学を考えるＡ | L101-HC03 |
| | | 科学を考えるＢ | L101-HC04 |
| | | 芸術の楽しみＡ | L101-HC05 |
| | | 芸術の楽しみＢ | L101-HC06 |
| | | 倫理学Ａ | L101-HC07 |
| | | 倫理学Ｂ | L101-HC08 |
| | | 文学の楽しみＡ | L101-HC09 |
| | | 文学の楽しみＢ | L101-HC10 |
| | | 信仰と救いＡ | L101-HC11 |
| | | 信仰と救いＢ | L101-HC12 |
| | 社会の領域 | 日本国憲法Ａ | L101-HS01 |
| | | 日本国憲法Ｂ | L101-HS02 |
| | | 法律の役割Ａ | L101-HS03 |
| | | 法律の役割Ｂ | L101-HS04 |
| | | 経済のしくみＡ | L101-HS05 |
| | | 経済のしくみＢ | L101-HS06 |
| | | 個人と社会Ａ | L101-HS07 |
| | | 個人と社会Ｂ | L101-HS08 |
| | | 政治のしくみＡ | L101-HS09 |
| | | 政治のしくみＢ | L101-HS10 |
| | | 文化人類学Ａ | L101-HS11 |
| | | 文化人類学Ｂ | L101-HS12 |
| | | 日本と国際社会Ａ | L101-HS13 |
| | | 日本と国際社会Ｂ | L101-HS14 |
| | | 環境を考えるＡ | L101-HS15 |
| | | 環境を考えるＢ | L101-HS16 |
| | | 歴史と人間Ａ | L101-HS17 |
| | | 歴史と人間Ｂ | L101-HS18 |
| | | 心理学A／心理学A（心理学概論） | L101-HS19 |
| | | 心理学B/心理学B（知覚・認知心理学） | L101-HS20 |
| | 健康の領域 | 健康の科学Ａ | L101-HH01 |
| | | 健康の科学Ｂ | L101-HH02 |
| | | 健康の科学Ｃ | L101-HH03 |
| | | 健康とスポーツ演習 | L104-HH04 |

| | 区分 | 科目名 | ナンバリング |
|---|---|---|---|
| 総合領域科目 | | 北里の世界 | L101-IS01 |
| | | 仕事と人生 | L101-IS02 |
| | | 農医連携論 | L101-IS03 |
| 基礎教育科目 | 外国語系 | 英語ＡⅠ | L102-GF01 |
| | | 英語ＡⅡ | L102-GF02 |
| | | 英語ＢⅠ | L102-GF03 |
| | | 英語ＢⅡ | L102-GF04 |
| | 数理・情報系 | 数学 | L101-GI01 |
| | | 統計学Ａ | L101-GI02 |
| | | 統計学ＢⅠ | L101-GI03 |
| | | 統計学ＢⅡ | L101-GI04 |
| | | 微分積分学Ａ | L101-GI11 |
| | | 微分積分学Ｂ | L101-GI12 |
| | | ベクトルと行列 | L101-GI13 |
| | | 数学の基礎 | L101-GI05 |
| | | 発展数学Ａ | L101-GI06 |
| | | 発展数学Ｂ | L101-GI07 |
| | | 情報科学Ａ | L101-GI08 |
| | | 情報科学Ｂ | L101-GI09 |
| | | 情報科学Ｃ | L101-GI10 |
| | 自然科学系 | 物理学 | L101-GN01 |
| | | 物理学実験 | L103-GN02 |
| | | 化学 | L101-GN03 |
| | | 化学実験 | L103-GN04 |
| | | 生物学 | L101-GN05 |
| | | 生物学実験 | L103-GN06 |
| | | 物理学要習 | L101-GN07 |
| | | 化学要習 | L101-GN08 |
| | | 生物学要習 | L101-GN09 |
| | | 地学 | L101-GN10 |
| | | 地学実験 | L103-GN11 |
| 教養演習科目 | | 教養演習Ａ | L102-ME01 |
| | | 教養演習Ｂ | L102-ME02 |
| | | 教養演習Ｃ | L102-ME03 |
| | | 大学基礎演習 | L102-ME04 |
| | | 言語と文化Ａ | L102-ME05 |
| | | 言語と文化Ｂ | L102-ME06 |

## ７－３）薬学部科目ナンバリングコード体系（薬学部2・3群科目）

（①～③は一般教育部と同様）

### ④　学問分野コード

薬学部における、学問分野等を英字2文字で表しています。

| | | |
|---|---|---|
| LA | 語学系 | Language |
| is | 総合領域 | Interdisciplinary Studies |
| IM | 数理・情報系 | Information Science and Mathematics |
| PC | 物理系 | Physics |
| CH | 化学系 | Chemistry |
| BI | 生物系 | Biology |
| PH | 生理・薬理系 | Physiology and Pharmacology |
| PK | 薬剤系 | Pharmacokinetics |
| CP | 臨床薬学系 | Clinical Pharmacy |
| hs | 衛生薬学系 | Pharmaceutical Health Science |
| LR | 法規・制度系 | Affairs law and Pharmaceutical regime |
| HU | ﾋｭｰﾏﾆｽﾞﾑ系 | Humanity |

### ⑤　科目分類コード

4年間または6年間を通じた教育課程全体の中で各授業科目は、どのように配置されているのか、その分類を数字2文字で表しています。

| | |
|---|---|
| 01 | １年次開講科目 |
| 02 | ２年次開講科目 |
| 03 | ３年次開講科目 |
| 04 | ４年次開講科目 |
| 05 | ５年次開講科目 |
| 06 | ６年次開講科目 |
| | 開講学年が複数にまたがる場合及び複数の学年で開講する場合は、低学年のコードで示す。 |

## ８．その他

### ８－１）薬学部情報ポータルサイトについて

白金キャンパス大学事務室からの連絡事項（教務 就職 奨学金 学生生活関係等）を北里大学薬学部情報ポータルサイトより確認することができる。毎日必ず確認すること。

○情報ポータルサイト　https://www1.pharm.kitasato-u.ac.jp/drupal/

### ８－２）薬学２群 ３群科目シラバス開講日の表示について

薬学２群・３群科目のシラバスについて、開講日には日付と時限を併記しています。（例：4/5③）

# １．漢方医薬学履修プログラム

**〔薬学科のみ〕**

**【開講の目的】**

北里大学は薬学部附属東洋医学総合研究所（生薬学研究室、漢方臨床研究室)、薬学部附属薬用植物園とあわせ北里研究所病院漢方鍼灸治療センター（以下、漢方鍼灸治療センターと略す・漢方診療科・漢方薬剤科等）などの漢方・生薬関連の施設が我が国で最も充実している環境にあることから、この北里大学の特徴を活用し、薬学部の教員と、漢方鍼灸治療センターの医師、薬剤師等による講義及び実習を組合せた教育プログラムを履修することによって、以下の教育目標を達成する。

現代医療で使用される生薬・漢方薬について理解し、医療用漢方製剤や OTC 漢方エキス製剤、その他の植物療法剤に関する適正な使用やエビデンスに基づいた有効性や安全性の説明ができるように、西洋医学（薬）と漢方医学（薬）の相違、漢方医学の治療方針、診断法、代表的な漢方処方の適用、適応疾患と適応処方、漢方薬の原料生薬や品質管理、漢方薬の調剤や製剤、服薬指導や使用上の注意、漢方薬の作用メカニズム、新薬の開発などに関する知識を修得することを目標とする。

漢方医薬学履修プログラム対応科目の一覧及び履修年次を以下に示す。本プログラムは、漢方調剤薬局実務実習の履修をもって修了とする。なお、各科目の詳細については、シラバスを参照すること。

**漢方医薬学履修プログラム対応科目一覧及び履修年次**

| 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 5 年 | 6 年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 薬用植物学 | 生薬学Ⅰ | 東洋医学概論 | 健康食品論※1 | 生薬・東洋医学精説※1 | |
| | 生薬学Ⅱ | 地域医療薬学Ⅰ | | | |
| | 初級太極拳演習※1、4 | | | | |
| 薬用植物園観察実習※2 | 生薬学実習<br>漢方調剤薬局基礎実習※3 | 漢方調剤薬局基礎実習※3 | | 漢方調剤薬局実務演習※1、5 | |

※1：網掛けは選択科目あるいは自由科目（他は必修科目）

※2：薬用植物学講義内で実施

※3：2 年次、生薬学Ⅱ内でオンライン見学。3 年次、東洋医学概論期間中に希望者を対象に少人数制（10 名/回）で実地見学を実施。

※4：東洋医学における養生法、気功法を学ぶ。定員各 10 名を予定（希望者が多い場合は抽選を行う)。なお、本演習は、漢方医薬学履修プログラムの修了要件には含まれない。

※5：5 日間。春期休暇および夏季休暇中に実施。定員 20 名（春期、夏期、各 10 名）を予定。漢方医薬学履修プログラム対応科目（但し、初級太極拳演習を除く）を全て履修・単位取得していること、及び実務実習（病院・保険薬局）を修了していることを履修条件とする。

## 2. NR・サプリメントアドバイザー養成講座及び食の安全管理士・健康食品管理士養成講座

**【開講の目的】**

特定保健用食品や栄養機能食品などの保健機能食品の制度は、食生活において、生活習慣病などの予防に食品の機能性を積極的に活用したいという社会的ニーズに応えるために創設されたものであり、これらを有効に活用することで、健康の維持増進だけでなく、疾病リスクの低減効果も期待できるようになってきた。しかし、一般的には、有効性や安全性が確認されていない健康食品などと混同されている場合も多く、ある種の健康食品を摂取することによる健康被害や医薬品との相互作用に関する問題も発生しており、保健機能食品や健康食品に関する正しい知識を取得することは、薬剤師にとっても重要な課題である。これらに関する知識をより積極的に関連付け、統合し、実用性の高い知識と技術を取得できるようにすることを目的として、**保健機能食品等の正しい情報提供の資格である「アドバイザリースタッフ」としての「NR・サプリメントアドバイザー」及び「健康食品管理士・食の安全管理士」**の資格認定試験の受験資格を取得できる本講座を開講した。

健康の維持・増進を目的として保健機能食品をはじめとする、いわゆる「健康食品」を摂取される方の中で、摂取との関連が疑われる健康被害が報告されることがある。

厚生労働省（https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000049348_00004.html）では、**アドバイザリースタッフ**とは、**いわゆる「健康食品」の摂取を検討されている方または既に摂取されている方が、自らの健康づくりを進める上で目的にあった食品や、食生活の状況、健康状態に応じて、安全かつ適切に選択することができるように、健康食品に含まれる成分の機能や活用方法等について、正しく情報を提供できる助言者のこと**である、と定義し、資格認定を行っている主な団体として、公益財団法人日本健康・栄養食品協会 「**食品保健指導士**」、一般社団法人日本食品安全協会 「**食の安全管理士・健康食品管理士**」 、一般社団法人日本臨床栄養協会「**NR・サプリメントアドバイザー**」 の 3 つを挙げている（50 音順）。

本校においては、NR・サプリメントアドバイザー養成講座指定科目を全て受講・単位取得した者（次頁以降の一覧表参照のこと）には、一般社団法人日本臨床栄養協会が実施する **NR・サプリメントアドバイザー**資格認定試験の受験資格（毎年 12 月）が与えられる。したがって、5 年次から受験可能となる。受験についての詳細は、日本サプリメントアドバイザー認定機構（日本臨床栄養協会）ウェブサイト http://www.jcna.jp/で確認すること。

また、健康食品管理士養成講座指定科目を全て受講・単位取得した者（次頁以降の一覧表参照のこと）には、一般社団法人日本食品安全協会が実施する「**食の安全管理士・健康食品管理士**」資格認定試験（毎年春 5 月・秋 12 月の2回）の受験資格が与えられる。こちらは、4 年次秋期の資格認定試験から受験可能である。なお詳細については、同協会のウェブサイト http://www.ffcci.jp/index.html で確認すること。

なお、いずれのアドバイザリースタッフの資格も、試験合格後、資格認定・資格更新のために、各協会の会員（有料）として登録する必要がある。その詳細についても、それぞれのウェブサイトで確認しておくこと。

**【各養成講座受講対象学科】**

※NR・サプリメントアドバイザー養成講座…薬学科のみ

※食の安全管理士・健康食品管理士養成講座…薬学科・生命創薬科学科

なお、資格取得試験の受験を希望する学生は、以下の指定科目を必ず履修しておくこと。

## NR・サプリメントアトバイザー 養成講座指定科目一覧及び対応科目・履修年次対照表
## （2015 年度以降入学生）

| 指定講座 | 対応科目と履修年次 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 3 年前期 | 3 年後期 | 4 年前期 | 4 年後期 |
| 栄養食品学特論 | 衛生化学Ⅰ | 衛生化学Ⅱ | 健康食品論 | |
| | | 調剤学 | | |
| | | 地域医療薬学Ⅰ | | |
| 臨床医学・薬学特論 | | 臨床生化学 | 健康食品論 | 医薬関連制度 |
| | | 生物薬剤学 | 臨床栄養学 | |
| | | 東洋医学概論 | | |
| 健康食品 | 衛生化学Ⅰ | 衛生化学Ⅱ | 健康食品論 | |
| | | 地域医療薬学Ⅰ | | 医薬品安全性学Ⅱ |
| 食品の表示 | | | 健康食品論 | |
| 食品の安全性と衛生管理 | | 衛生化学Ⅱ | | |
| 栄養・食生活、「健康食品」と生活習慣病 | 公衆衛生学Ⅰ | 臨床生理学Ⅰ | | 臨床生理学Ⅱ |
| | | 臨床生化学 | | |
| 栄養教育特論 | 医療心理学 | | 臨床栄養学 | |
| 科学的根拠に基づく栄養実践活動 | | | 医薬品安全性学Ⅰ | |
| | | | 公衆衛生学Ⅱ | |
| | | | 医薬品情報学 | |
| NR 倫理 | | | 健康食品論 | 医療倫理学 |
| | | | 臨床栄養学 | |
| 関連法規 | | 衛生化学Ⅱ | 薬事関係法規 | |
| | | | 健康食品論 | |
| | | | 公衆衛生学Ⅱ | |
| 健康科学・栄養学トピック | 公衆衛生学Ⅰ | | | |

| 演習科目 | 3 年前期 | 3 年後期 | 4 年前期 | 4 年後期 |
|---|---|---|---|---|
| 安心できるアドバイス | 公衆衛生学Ⅰ | | 病院・薬局実習事前実習 | |
| | 医療心理学 | | | |
| 科学的根拠に基づくアドバイス | 公衆衛生学Ⅰ | | プレゼンテーション実習 | |
| | | | 病院・薬局実習事前実習 | |

※1　複数の指定講座に対応している科目は、2 科目以降、網掛けして表している。

※2　各対応科目中の NR 養成指定講座に対応する範囲は、シラバス中の各科目の項に記載する。

## 食の安全管理士／健康食品管理士養成講座指定科目一覧及び対応科目・履修年次の対照表
## （2015 年度以降入学生）

| | 対応科目と履修年次 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 |
| 生化学（栄養化学を含む） | | 生化学Ⅱ<br>生化学Ⅲ | | |
| 解剖学 | 解剖学<br>生化学Ⅰ | | | |
| 生理学 | 生理学Ⅰ | 生理学Ⅱ | | |
| その他基礎医学系教科 | | 微生物学Ⅰ・Ⅱ<br>病理学<br>病態評価学 | ゲノム医学<br>臨床医学概論Ⅰ・Ⅱ<br>公衆衛生学Ⅰ<br>免疫学<br>臨床生化学 | |
| 専門科目 | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 |
| 健康食品学 | | | 地域医療薬学Ⅰ | 健康食品論 |
| 食品衛生学（講義） | | | 衛生化学Ⅰ・Ⅱ | |
| 食品衛生学を含む（実習） | | | 衛生化学実習 | |
| 臨床検査学又は臨床栄養学 | | | 疾病解析学 | 臨床栄養学 |
| 薬理学 | | 薬理学Ⅰ | | |
| 関係法規 | | | | 薬事関係法規 |

## 食の安全管理士／健康食品管理士養成講座指定科目一覧及び対応科目・履修年次の対照表
## （2024 年度以降入学生）

| | 対応科目と履修年次 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 |
| 生化学（栄養化学を含む） | | 生化学Ⅱ<br>生化学Ⅲ | | |
| 解剖学 | 解剖学<br>生化学Ⅰ | | | |
| 生理学 | 生理学Ⅰ | 生理学Ⅱ | | |
| その他基礎医学系教科 | | 微生物学Ⅰ・Ⅱ<br>病理学 | ゲノム医学<br>臨床医学概論Ⅰ・Ⅱ<br>公衆衛生学Ⅰ<br>免疫学<br>臨床生化学<br>臨床生理学Ⅰ | |
| 専門科目 | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 |
| 健康食品学 | | | 地域医療薬学Ⅰ | 健康食品論 |
| 食品衛生学（講義） | | | 衛生化学Ⅰ・Ⅱ | |
| 食品衛生学を含む（実習） | | | 衛生化学実習 | |
| 臨床検査学又は臨床栄養学 | | | 疾病解析学 | 臨床栄養学 |
| 薬理学 | | 薬理学Ⅰ | | |
| 関係法規 | | | | 薬事関係法規 |

# Ⅳ．単位互換制度について（薬学部）

## １．本学他学部の授業科目履修制度

本学では、他学部他学科他専攻の授業科目を履修できる制度を実施しています。この制度は、学部間の交流、協力を通じて教育課程の充実を図るとともに、学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上を図ることを目的とするものです。

### 〔履修できる学生〕

次の学部の１年生～４年生（６年生）

薬学部、獣医学部、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部

１年生は後期科目から出願できます。

### 〔履修できる科目数・単位数の上限〕

履修できる科目数・単位数の制限はありません。

ただし、看護学部では各単位互換制度（首都圏西部単位互換科目、他学部他学科他専攻の授業科目）を合わせて、当該学期中に合計４単位までの履修を上限とします。

### 〔各学部が開講する授業科目数〕

| 開講キャンパス / 開講学部 | 相模原キャンパス 開講授業科目 | 白金キャンパス 開講授業科目 | 十和田キャンパス 開講授業科目 |
|---|---|---|---|
| 薬学部 | | ４科目 | |
| 獣医学部 | ９科目 | | ８０科目 |
| 海洋生命科学部 | ２科目 | | |
| 看護学部 | １９科目 | | |
| 理学部 | ４７科目 | | |
| 医療衛生学部 | １２科目 | | |

※授業科目及び時間割等は大学ホームページ、シラバス等で確認してください。

### 〔出願期間〕

１.履修を希望する学生は、出願書を次の期日に所属学部事務室に提出してください。

１年生は後期科目から出願できます。

前期・通年科目　　２０２５年４月１日（火）～１０日（木）

後期科目　　２０２５年９月１日（月）～１０日（水）

２．受講の決定は、次の時期を予定しています。

前期・通年科目　　２０２５年４月中旬

後期科目　　２０２５年９月中旬

※出願書は大学ホームページからダウンロードしてください。

### 〔授業・試験〕

授業や試験は、開講する学部の教務暦や基準に定めるところにより実施し、評価され

ます。当該学部のシラバス等で確認してください。

**〔成績評価・履修科目・単位の扱い〕**

・科目を開講する学部の成績が所属学部での成績評価となります。
・履修した科目は、所属学部の４群科目（自由科目）として扱い、修得した単位は卒業要件単位には含めません。
・看護学部では、学生より申請があった場合、既設科目に読み替え可能な科目は、１０単位を上限に読み替え、卒業要件単位に含めます。読み替えは年度末に行います。
・単位認定については、学則２３条第３項により、入学前の既修得単位と合わせて６０単位を超えないものとします。

## ２．他大学との単位互換制度

地域の大学・短期大学が相互に単位互換協定を締結し、大学に所属する学生が、他の大学の授業科目を履修し取得した単位を、所属する大学の単位として認定しようとするものです。参加大学からは単位互換科目として、それぞれ特色ある授業科目や、他の大学にはないユニークな授業科目が提供され、学生諸君の関心や興味に応じた授業を行っています。

「自分の大学では学べない分野や内容について学んでみたい」「他大学の授業を受けることで広い考え方や見方を身につけたい」「ほかの大学の雰囲気に触れて大学とはどういうものか知りたい」と思っている方はぜひチャレンジしてみてください。

**〈首都圏西部大学単位互換協定〉**1999年発足

桜美林大学、鎌倉女子大学、北里大学、国士舘大学、相模女子大学、相模女子大学短期大学部、松蔭大学、高千穂大学、東京立正短期大学

**〈相模原・町田地域教育連携単位互換制度〉2024年発足**

青山学院大学、和泉短期大学、北里大学、相模女子大学・相模女子短期大学部、昭和薬科大学

**〔履修できる学生〕**

次の学部の１年生～４年生

薬学部、獣医学部、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部

※１年生は後期科目から出願できます。

※薬学部生・獣医学部生は1年（後期）のみ。

**〔履修できる科目数・単位数の上限〕**

獣医学部、海洋生命科学部、理学部では、履修できる科目数・単位数の制限はありません。

薬学部は２科目４単位、医療衛生学部は３０単位を上限とし、看護学部は各単位互換制度（首都圏西部単位互換科目、相模原・町田地域教育連携単位互換制度、他学部他学科他専攻の授業科目）を合わせて、当該学期中に合計４単位までの履修を上限とします。

〔開講される授業科目〕

授業科目の内容や時間割等は、本学ホームページで確認してください。

〔授業料〕

授業料及び科目履修手続き費用は無料です。

実験・実習・実技等でかかる教材費等については実費を徴収する場合があります。

〔出願日程〕

希望者は、科目履修出願書を次の期日までに所属学部事務室に提出してください。

前期科目：２０２５年４月１日（火）～４月１０日（木）

後期科目：２０２５年６月２日（月）～６月２０日（金）

※相模原・町田地域教育連携単位互換制度にかかる詳細は、本学ホームページの「単位互換について」のページで確認してください。

〔授業・試験〕

授業や試験は、開講する大学が定めるところにより実施し、採点されます。

当該大学のシラバス等で確認してください。

〔成績評価、履修科目・単位の扱い〕

・履修した科目は、所属学部の４群科目（自由科目）として扱い、修得した単位は卒業要件単位には含めません。

・獣医学部では、学科の授業科目に読み替え可能な科目は当該科目に読み替え、修得した単位は卒業要件単位に含めます。

・看護学部では、学生より申請があった場合、既設科目に読み替え可能な科目は、１０単位を上限に読み替え、修得した単位は卒業要件単位に含めます。

・医療衛生学部では、専攻の授業科目に読み替え可能な科目は当該科目に読み替え、修得した単位は卒業要件単位に含めます。

・単位認定については、学則２３条第３項により、入学前の既修得単位と合わせて６０単位を超えないものとします。

〔単位互換に関する情報〕

北里大学ホームページ(教育・研究)に単位互換に関する情報が掲出してありますのでご覧下さい。

# 薬学科（6年制）のカリキュラムツリー

（2025年度以降入学生）

| | | 第Ⅰ期 1年次 | 第Ⅱ期 2年次 | 第Ⅱ期 3年次 |
|---|---|---|---|---|
| F 臨床薬学 D 医療薬学 | 臨床薬学系 | チーム医療論①②③④⑤<br>薬と仕事Ⅰ①②③④⑤ | 薬と仕事Ⅱ①②③④ | 地域医療薬学Ⅰ③④<br>調剤学④⑤<br>**【医療ボランティア実習A・B①②】** |
| | 薬理・病態系 | | 病理学④<br>薬理学Ⅰ・Ⅱ④ | 薬理学Ⅲ④<br>**薬理学実習Ⅰ・Ⅱ④⑤**<br>薬物治療学Ⅰ・Ⅱ④⑤<br>臨床医学概論Ⅰ・Ⅱ④⑤<br>疾病解析学④⑤<br>臨床検査学Ⅰ④⑤<br>東洋医学概論④⑤ |
| | 薬剤系 | | | 物理薬剤学Ⅰ④<br>製剤学④<br>生物薬剤学④<br>**物理薬剤学実習④⑤**<br>**薬剤学実習④⑤** |
| E 衛生薬学 | 衛生薬学系 | | 【健康科学①④⑤】 | 衛生化学Ⅰ・Ⅱ④<br>公衆衛生学Ⅰ④<br>**衛生化学実習④⑤**<br>**公衆衛生学実習④⑤** |
| C 薬学基礎 | 生物・生理系 | 生物学④<br>生化学Ⅰ④<br>解剖学④<br>生理学Ⅰ④<br>**生物学実験④⑤** | 生化学Ⅱ・Ⅲ④<br>衛生物学Ⅰ・Ⅱ④<br>化学療法学Ⅰ④<br>生理学Ⅱ④<br>**生化学実習④⑤**<br>【細胞生物学④⑤】 | 免疫学④<br>化学療法学Ⅱ④<br>ゲノム医学④<br>**微生物学実習Ⅰ・Ⅱ④⑤**<br>【臨床生化学④】<br>【臨床生理学Ⅰ④⑤】 |
| | 化学系 | 化学④<br>基礎有機化学④<br>薬用植物学④<br>有機化学Ⅰ④ | 有機化学Ⅱ・Ⅲ④<br>生薬学Ⅰ・Ⅱ④<br>**医薬品化学実習④⑤**<br>**有機分析実習④⑤**<br>**生薬学実習④⑤**<br>**有機合成実習④⑤**<br>**定量分析実習④⑤** | 医薬品構造学Ⅰ④<br>合成化学Ⅰ・Ⅱ④<br>【医薬品構造学Ⅱ④⑤】 |
| | 物理系 | 物理学④<br>**物理学実験④⑤** | 生命物理化学Ⅰ・Ⅱ④<br>分析科学Ⅰ・Ⅱ④<br>**生命物理化学実習④⑤** | 放射薬品学④<br>分析化学Ⅲ④<br>【構造生命科学④⑤】<br>**【放射薬品学実習①④】** |
| B 社会と薬学 | 総合領域 | 薬学概論①②③④<br>北里の世界④⑥ | | |
| | 法規・制度系 | | **社会薬学実習①②③④** | |
| | ヒューマニズム系 | 【臨床心理学入門②③】 | 医療コミュニケーション論⑥ | 医療心理学①②③⑥ |
| | 数理・情報系 | 代数学④<br>統計学④<br>情報リテラシー（演習含む）④ | 薬学統計学④ | |
| 一般教養 | 語学系 | 英語AⅠ・Ⅱ④<br>英語BⅠ・Ⅱ④ | 英語CⅠ・Ⅱ④ | 【薬学英語Ⅰ⑤】<br>【薬学英語Ⅱ②④】 |

科目名の後ろの○数字はDP、＊は4、5年次開講科目　＊＊は5、6年次開講科目、【　】の科目は選択科目を表しています。

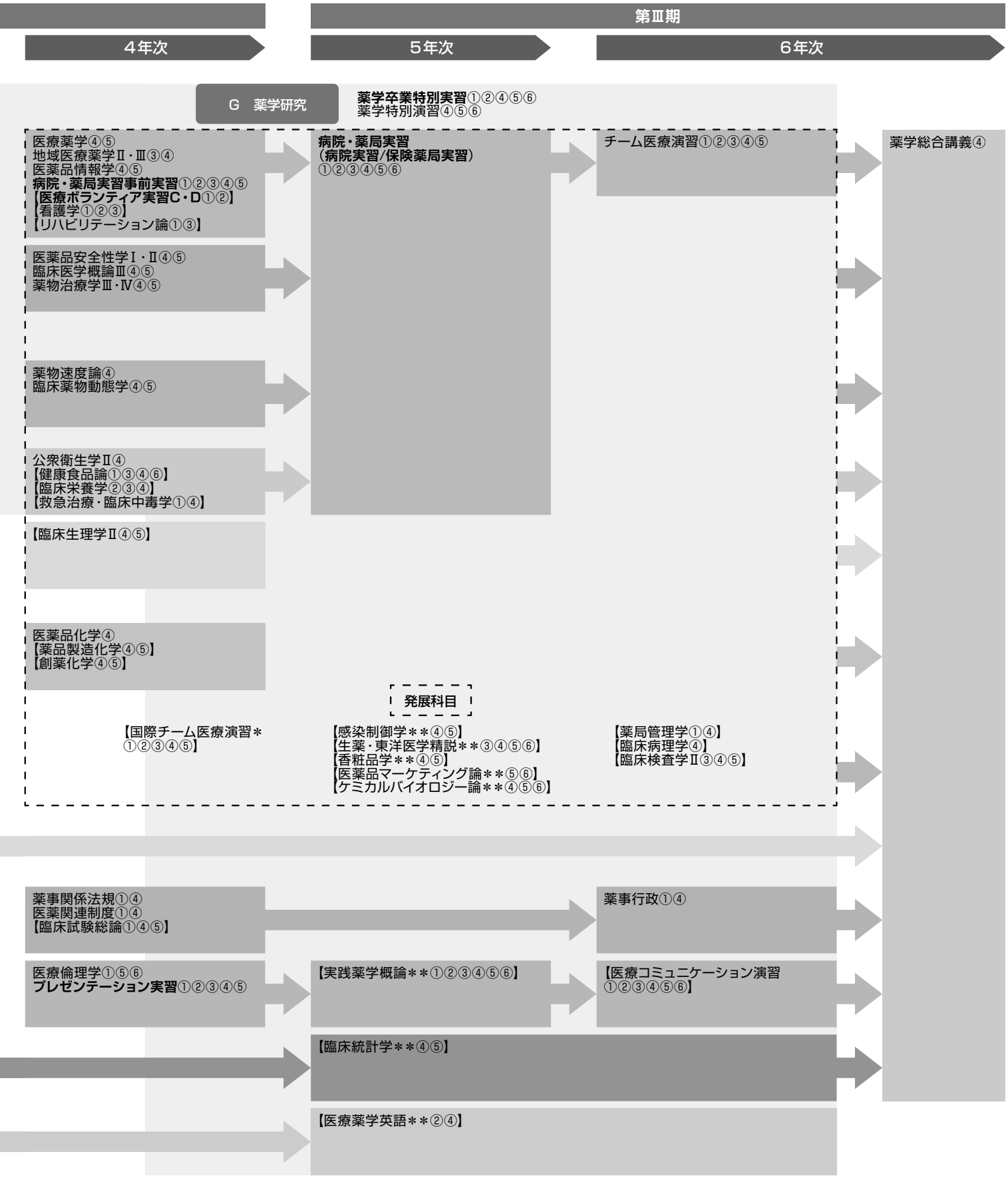
## 薬学科の学びの特徴

＜第Ⅰ期＞
第Ⅰ期では、医療人の基盤となる一般教養を身につけるとともに必要な基礎知識を修得するため、早期より薬学の専門知識の土台となる基礎教育やキャリア教育を進めます。

## ディプロマ・ポリシー（DP）

薬学部薬学科では、「薬の専門家」としての専門知識や技能とともに、豊かな人間性や生命の尊厳に関する深い認識を持ち、変化する社会や地域を見据えて、健康増進や医療の質向上に様々な分野で貢献できる人材を育成します。
卒業に必要な条件を充足し、右記のプログラムの到達目標に示された資質・能力を身につけたものに対して学位を授与します。

①医療人としての倫理観
②信頼関係構築のためのコミュニケーション能力
③チーム医療に資する能力
④医療現場や地域社会で必要とされる専門的な能力
⑤薬学・医療の進歩と改善に資するための研究遂行意欲と課題発見・問題解決能力
⑥自律的・協働的な生涯学習の姿勢




＜第Ⅱ期＞
第Ⅱ期は、順次性・体系性に基づき薬学専門科目を配置し、以下の科目を学びます。各科目の学習の到達目標の達成に最適化された多様な講義・実習・演習を実施するとともに、アクティブラーニングを通してコミュニケーション能力を身につける教育も展開します。

＜第Ⅲ期＞
第Ⅲ期は、前期までに身につけた専門知識や技能を駆使し、「薬の専門家」としての総合的な実践力を高めます。

# 生命創薬科学科(4年制)のカリキュラムツリー
(2025年度以降入学生)




## 生命創薬科学科の学びの特徴

<第Ⅰ期>
第Ⅰ期では、医療人の基盤となる一般教養を身につけるとともに必要な基礎知識を修得するため、早期より薬学の専門知識の土台となる基礎教育やキャリア教育を進めます。

## ディプロマ・ポリシー（DP）

薬学部生命創薬科学科では、生命科学・創薬科学等の領域における研究者・技術者をはじめとして、薬学関連領域の幅広い専門知識・技能をもって様々な分野で活躍できる人材を育成します。
卒業に必要な条件を充足し、右記のプログラムの到達目標に示された資質・能力を身につけたものに対して学位を授与します。

①薬学関連領域における幅広い専門的な能力
②研究活動における高い倫理観
③薬学関連領域の進歩と改善に資するための研究遂行意欲と課題発見・問題解決能力
④課題発見・問題解決や研究成果の社会還元に必要なコミュニケーション・プレゼンテーション能力
⑤自律的・協働的な生涯学習の姿勢




＜第Ⅱ期＞
第Ⅱ期は、順次性・体系性に基づき薬学専門科目を配置し、以下の科目を学びます。各科目の学習の到達目標の達成に最適化された多様な講義・実習・演習を実施するとともに、アクティブラーニングを通してコミュニケーション能力を身につける教育も展開します。

＜第Ⅲ期＞
第Ⅲ期は、前期までに身につけた専門知識や技能を駆使し、「薬の専門家」としての総合的な実践力を高めます。

2025年度入学生カリキュラム

【薬学科】PP25000

| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|---|---|---|---|---|---|
| **前　期** | | | | | |
| **1群科目** | **2群科目** | **2群科目** | **3群科目** | **3群科目** | **3群科目** |
| ◎ 英語ＡⅠ 1 | ◎ 英語ＣⅠ 1 | ◎ 医薬品構造学Ⅰ 1 | ◎ 医薬品化学 1 | 臨床統計学 1 | ◎ 薬事行政 1 |
| ◎ 英語ＢⅠ 1 | **3群科目** | **3群科目** | ◎ 薬物速度論 1 | ケミカルバイオロジー論 1 | 臨床統計学 1 |
| ◎ 物理学実験 1 | ◎ 有機化学Ⅱ 1 | ◎ 分析科学Ⅲ 1 | ◎ 公衆衛生学Ⅱ 1 | 香粧品学 1 | ケミカルバイオロジー論 1 |
| ◎ 生物学実験 1 | ◎ 分析科学Ⅰ 1 | ◎ 合成化学Ⅰ 1 | ◎ 臨床医学概論Ⅲ 1 | 医薬品マーケティング論 1 | 香粧品学 1 |
| **2群科目** | ◎ 生薬学Ⅰ 1 | ◎ 衛生化学Ⅰ 1 | ◎ 医薬品安全性学Ⅰ 1 | 医療薬学英語 1 | 医薬品マーケティング論 1 |
| ◎ 化学 1 | ◎ 生命物理化学Ⅰ 1 | ◎ 放射薬品学 1 | ◎ 医薬品情報学 1 | 終末期・緩和医療論 1 | 医療薬学英語 1 |
| ◎ 基礎有機化学 1 | ◎ 生化学Ⅱ 1 | ◎ 免疫学 1 | ◎ 薬事関係法規 1 | 生薬・東洋医学精説 1 | 終末期・緩和医療論 1 |
| **3群科目** | ◎ 微生物学Ⅰ 1 | ◎ 化学療法学Ⅱ 1 | ◎ 薬物治療学Ⅲ 1 | 感染制御学 1 | 生薬・東洋医学精説 1 |
| ◎ 薬学概論 1 | ◎ 生理学Ⅱ 1 | ◎ 薬理学Ⅲ 1 | ◎ 地域医療薬学Ⅱ 1 | **4群科目** | 感染制御学 1 |
| ◎ 薬用植物学 1 | ◎ 薬理学Ⅰ 1 | ◎ 臨床医学概論Ⅰ 1 | ◎ 医療薬学 1 | ※ 日本語入門Ⅰ(留学生対象) 1 | ◎ チーム医療演習 1 |
| ◎ 薬と仕事Ⅰ 1 | ◎ 病理学 1 | ◎ 物理薬剤学Ⅰ 1 | ◎ プレゼンテーション実習 1 | ※ 日本語入門Ⅱ(留学生対象) 1 | 医療コミュニケーション演習 1 |
| **4群科目** | ◎ 薬学統計学 1 | ◎ 薬物治療学Ⅰ 1 | 看護学 1 | | 薬局管理学 1 |
| ※ 日本語入門Ⅰ(留学生対象) 1 | ◎ 薬と仕事Ⅱ 1 | ◎ 医療心理学 1 | 物理薬剤学Ⅱ 1 | | 臨床検査学Ⅱ 1 |
| ※ 日本語入門Ⅱ(留学生対象) 1 | ◎ 医薬品化学実習 1 | ◎ 臨床検査学Ⅰ 1 | 健康食品論 1 | | 臨床病理学 1 |
| | ◎ 有機分析実習 1 | ◎ 公衆衛生学Ⅰ 1 | 臨床栄養学 1 | | ※ 漢方調剤薬局実務演習 1 |
| | ◎ 定量分析実習 1 | ◎ ゲノム医学 1 | ◇ 医療ボランティア実習Ｃ 1 | | ※ 臨床化学実習 1 |
| | ◎ 社会薬学実習 1 | ◎ 微生物学実習Ⅰ 1 | **4群科目** | | ※ 臨床検査総論実習 1 |
| | **4群科目** | ◎ 微生物学実習Ⅱ 1 | ※ 日本語入門Ⅰ(留学生対象) 1 | | **4群科目** |
| | ※ 日本語入門Ⅰ(留学生対象) 1 | ◎ 物理薬剤学実習 1 | ※ 日本語入門Ⅱ(留学生対象) 1 | | ※ 日本語入門Ⅰ(留学生対象) 1 |
| | ※ 日本語入門Ⅱ(留学生対象) 1 | 薬学英語Ⅰ 1 | | | ※ 日本語入門Ⅱ(留学生対象) 1 |
| | | 構造生命科学 1 | | | |
| | | 放射薬品学実習 1 | | | |
| | | ◇ 医療ボランティア実習Ａ 1 | | | |
| | | **4群科目** | | | |
| | | ※ 日本語入門Ⅰ(留学生対象) 1 | | | |
| | | ※ 日本語入門Ⅱ(留学生対象) 1 | | | |
| **後　期** | | | | | |
| **1群科目** | **2群科目** | **3群科目** | **3群科目** | **4群科目** | **3群科目** |
| ◎ 北里の世界 1 | ◎ 英語ＣⅡ 1 | ◎ 製剤学 1 | ◎ 医薬品安全性学Ⅱ 1 | ※ 国際チーム医療演習 1 | ◎ 薬学総合講義 15 |
| ◎ 英語ＡⅡ 1 | **3群科目** | ◎ 合成化学Ⅱ 1 | ◎ 医薬関連制度 1 | ※ 日本語Ⅰ(留学生対象) 1 | ※ 臨床生理学実習 1 |
| ◎ 英語ＢⅡ 1 | ◎ 有機化学Ⅲ 1 | ◎ 東洋医学概論 1 | ◎ 臨床薬物動態学 1 | ※ 日本語Ⅱ(留学生対象) 1 | ※ 臨床検査学実習 1 |
| **2群科目** | ◎ 分析科学Ⅱ 1 | ◎ 生物薬剤学 1 | ◎ 薬物治療学Ⅳ 1 | | ※ 医用工学概論実習 1 |
| ◎ 代数学 1 | ◎ 生薬学Ⅱ 1 | ◎ 衛生化学Ⅱ 1 | ◎ 地域医療薬学Ⅲ 1 | | **4群科目** |
| ◎ 統計学 1 | ◎ 生命物理化学Ⅱ 1 | ◎ 臨床医学概論Ⅱ 1 | ◎ 医療倫理学 1 | | ※ 日本語Ⅰ(留学生対象) 1 |
| ◎ 有機化学Ⅰ 1 | ◎ 生化学Ⅲ 1 | ◎ 疾病解析学 1 | 薬品製造化学 1 | | ※ 日本語Ⅱ(留学生対象) 1 |
| ◎ 情報リテラシー（演習含） 1 | ◎ 微生物学Ⅱ 1 | ◎ 薬物治療学Ⅱ 1 | 臨床試験総論 1 | | |
| **3群科目** | ◎ 化学療法学Ⅰ 1 | ◎ 調剤学 1 | 臨床生理学Ⅱ 1 | | |
| ◎ 解剖学 1 | ◎ 薬理学Ⅱ 1 | ◎ 地域医療薬学Ⅰ 1 | 救急治療・臨床中毒学 1 | | |
| ◎ 生化学Ⅰ 1 | ◎ 医療コミュニケーション論 1 | ◎ 衛生化学実習 1 | 創薬化学 1 | | |
| ◎ 生理学Ⅰ 1 | ◎ 生命物理化学実習 1 | ◎ 公衆衛生学実習 1 | リハビリテーション論 1 | | |
| ◎ チーム医療論 1 | ◎ 生薬学実習 1 | ◎ 薬理学実習Ⅰ 1 | ◇ 医療ボランティア実習Ｄ 1 | | |
| 臨床心理学入門 1 | ◎ 生化学実習 1 | ◎ 薬理学実習Ⅱ 1 | **4群科目** | | |
| **4群科目** | ◎ 有機合成実習 1 | ◎ 薬剤学実習 1 | ※ 国際チーム医療演習 1 | | |
| ※ 日本語Ⅰ(留学生対象) 1 | 細胞生物学 1 | 薬学英語Ⅱ 1 | ※ 日本語Ⅰ(留学生対象) 1 | | |
| ※ 日本語Ⅱ(留学生対象) 1 | 健康科学 1 | 医薬品構造学Ⅱ 1 | ※ 日本語Ⅱ(留学生対象) 1 | | |
| | ※ 初級太極拳演習(養生法演習) 1 | 臨床生理学Ⅰ 1 | | | |
| | **4群科目** | 臨床生化学 1 | | | |
| | ※ 日本語Ⅰ(留学生対象) 1 | ◇ 医療ボランティア実習Ｂ 1 | | | |
| | ※ 日本語Ⅱ(留学生対象) 1 | **4群科目** | | | |
| | | ※ 日本語Ⅰ(留学生対象) 1 | | | |
| | | ※ 日本語Ⅱ(留学生対象) 1 | | | |
| **通　年** | | | | | |
| **1群科目** | | | **3群科目** | **3群科目** | **3群科目** |
| ◎ 物理学 4 | | | ◎ 病院・薬局実習事前実習 4 | ◎ 病院・薬局実習 20 | 実践薬学概論 1 |
| ◎ 生物学 4 | | | | ◎ 薬学卒業特別実習 15 | |
| | | | | 実践薬学概論 1 | ◎ **薬学特別演習** 2 |

◎：必修科目，記号なし：選択科目，※：自由科目

5・6年次に同時開講している科目は、いずれかの学年でしか履修できない。

◇　医療ボランティア実習は、4単位のうち1単位までを卒業要件単位として認める。

(補) 1群選択科目は未記載。1群シラバス参照のこと。

**卒業要件単位**

| | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | 5年次 | | 6年次 | | 卒業単位 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 必修 | 選択 | 必修 | 選択 | 必修 | 選択 | 必修 | 選択 | 必修 | 選択 | 必修 | 選択 | 必修 | 選択 |
| 1群科目 | A区分 | 1 | 8※1 | | | | | | | | | | | 1 | 8 |
| | B区分 | 14 | 8※2 | | | | | | | | | | | 14 | 8 |
| 2群科目 | | 6 | | 2 | | 1 | | | | | | | | 9 | |
| 3群科目 | | 7 | ※3 | 28 | ※3 | 32 | ※3 | 21 | ※3 | 20 | ※3 | 34 | ※3 | 142 | 6 |
| 小計 | | 28 | 16 | 30 | | 33 | | 21 | | 20 | | 34 | | 166 | 22 |
| 計 | | | | | | | | | | | | | | 188 | |

A区分・・・文化の領域、社会の領域、総合領域科目

B区分・・・健康の領域、数理情報系のうち情報科学A・B・C、教養演習系

※1　上記A区分から４科目８単位修得（薬学部履修指定科目の倫理学A・Bのいずれか１科目選択必修）

※2　上記B区分から２科目４単位修得

　　上記B区分の数学または発展数学（A＋B）のいずれか４単位選択必修

※3　１～６年次で計６単位修得

(注)　自由科目は卒業要件単位に含まない。

# 2025年度入学生カリキュラム
# 【生命創薬科学科】PL25700

| １年 | | ２年 | | ３年 | | ４年 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **前　　期** | | | | | | | |
| **１群科目** | | **２群科目** | | **２群科目** | | **３群科目** | |
| ◎ 仕事と人生 | 1 | ◎ 英語Ｃ Ⅰ | 1 | ◎ 医薬品構造学Ⅰ | 1 | ◎ 薬事行政 | 1 |
| ◎ 英語Ａ Ⅰ | 1 | **３群科目** | | **３群科目** | | 薬事関係法規 | 1 |
| ◎ 英語Ｂ Ⅰ | 1 | ◎ 有機化学Ⅱ | 1 | ◎ ゲノム医学 | 1 | 医薬品化学 | 1 |
| ◎ 物理学実験 | 1 | ◎ 分析科学Ⅰ | 1 | ◎ 分析科学Ⅲ | 1 | 公衆衛生学Ⅱ | 1 |
| ◎ 生物学実験 | 1 | ◎ 生薬学Ⅰ | 1 | ◎ 合成化学Ⅰ | 1 | 医薬品安全性学Ⅰ | 1 |
| **２群科目** | | ◎ 生命物理化学Ⅰ | 1 | ◎ 衛生化学Ⅰ | 1 | 医薬品情報学 | 1 |
| ◎ 化学 | 1 | ◎ 生化学Ⅱ | 1 | ◎ 放射薬品学 | 1 | 薬物速度論 | 1 |
| ◎ 基礎有機化学 | 1 | ◎ 微生物学Ⅰ | 1 | ◎ 免疫学 | 1 | 臨床医学概論Ⅲ | 1 |
| **３群科目** | | ◎ 生理学Ⅱ | 1 | ◎ 化学療法学Ⅱ | 1 | 看護学 | 1 |
| ◎ 薬学概論 | 1 | ◎ 薬理学Ⅰ | 1 | ◎ 薬理学Ⅲ | 1 | 物理薬剤学Ⅱ | 1 |
| ◎ 薬用植物学 | 1 | ◎ 薬学統計学 | 1 | ◎ 構造生命科学 | 1 | 健康食品論 | 1 |
| **４群科目** | | ◎ 生命創薬科学Ⅰ | 1 | ◎ 創薬情報科学 | 1 | 臨床病理学 | 1 |
| ※ 日本語入門Ⅰ(留学生対象) | 1 | ◎ 医薬品化学実習 | 1 | ◎ 公衆衛生学Ⅰ | 1 | 臨床統計学 | 1 |
| ※ 日本語入門Ⅱ(留学生対象) | 1 | ◎ 有機分析実習 | 1 | ◎ 微生物学実習Ⅰ | 1 | ケミカルバイオロジー論 | 1 |
| | | ◎ 定量分析実習 | 1 | ◎ 微生物学実習Ⅱ | 1 | 香粧品学 | 1 |
| | | 社会薬学実習 | 1 | ◎ 物理薬剤学実習 | 1 | 医薬品マーケティング論 | 1 |
| | | 病理学 | 1 | 放射薬品学実習 | 1 | 生薬・東洋医学精説 | 1 |
| | | **４群科目** | | 物理薬剤学Ⅰ | 1 | 感染制御学 | 1 |
| | | ※ 日本語入門Ⅰ(留学生対象) | 1 | 薬物治療学Ⅰ | 1 | 薬物治療学Ⅲ | 1 |
| | | ※ 日本語入門Ⅱ(留学生対象) | 1 | 医療心理学 | 1 | 地域医療薬学Ⅱ | 1 |
| | | | | 臨床医学概論Ⅰ | 1 | 医療薬学 | 1 |
| | | | | 薬学英語Ⅰ | 1 | 臨床栄養学 | 1 |
| | | | | **４群科目** | | **４群科目** | |
| | | | | ※ 日本語入門Ⅰ(留学生対象) | 1 | ※ 日本語入門Ⅰ(留学生対象) | 1 |
| | | | | ※ 日本語入門Ⅱ(留学生対象) | 1 | ※ 日本語入門Ⅱ(留学生対象) | 1 |
| **後　　期** | | | | | | | |
| **１群科目** | | **２群科目** | | **３群科目** | | **３群科目** | |
| ◎ 北里の世界 | 1 | ◎ 英語Ｃ Ⅱ | 1 | ◎ 合成化学Ⅱ | 1 | 医薬関連制度 | 1 |
| ◎ 英語Ａ Ⅱ | 1 | **３群科目** | | ◎ 衛生化学Ⅱ | 1 | 医薬品安全性学Ⅱ | 1 |
| ◎ 英語Ｂ Ⅱ | 1 | ◎ 有機化学Ⅲ | 1 | ◎ 衛生化学実習 | 1 | 薬品製造化学 | 1 |
| **２群科目** | | ◎ 分析科学Ⅱ | 1 | ◎ 公衆衛生学実習 | 1 | 臨床薬物動態学 | 1 |
| ◎ 代数学 | 1 | ◎ 生薬学Ⅱ | 1 | ◎ 薬理学実習Ⅰ | 1 | 臨床試験総論 | 1 |
| ◎ 統計学 | 1 | ◎ 生命物理化学Ⅱ | 1 | ◎ 薬理学実習Ⅱ | 1 | 臨床生理学Ⅱ | 1 |
| ◎ 有機化学Ⅰ | 1 | ◎ 生化学Ⅲ | 1 | 薬剤学実習 | 1 | 救急治療・臨床中毒学 | 1 |
| ◎ 情報リテラシー(演習含) | 1 | ◎ 微生物学Ⅱ | 1 | 製剤学 | 1 | リハビリテーション論 | 1 |
| **３群科目** | | ◎ 化学療法学Ⅰ | 1 | 東洋医学概論 | 1 | 薬物治療学Ⅳ | 1 |
| ◎ 解剖学 | 1 | ◎ 薬理学Ⅱ | 1 | 生物薬剤学 | 1 | 地域医療薬学Ⅲ | 1 |
| ◎ 生化学Ⅰ | 1 | ◎ 細胞生物学 | 1 | 臨床医学概論Ⅱ | 1 | 医療倫理学 | 1 |
| ◎ 生理学Ⅰ | 1 | ◎ 生命創薬科学Ⅱ | 1 | 疾病解析学 | 1 | **４群科目** | |
| ◎ 生命創薬科学研究概説 | 1 | ◎ 生命物理化学実習 | 1 | 薬学英語Ⅱ | 1 | ※ 日本語Ⅰ(留学生対象) | 1 |
| ◎ 創薬科学への招待 | 1 | ◎ 生薬学実習 | 1 | 医薬品構造学Ⅱ | 1 | ※ 日本語Ⅱ(留学生対象) | 1 |
| チーム医療論 | 1 | ◎ 生化学実習 | 1 | 臨床生理学Ⅰ | 1 | | |
| **４群科目** | | ◎ 有機合成実習 | 1 | 臨床生化学 | 1 | | |
| ※ 日本語Ⅰ(留学生対象) | 1 | 健康科学 | 1 | 理論分子設計学 | 1 | | |
| ※ 日本語Ⅱ(留学生対象) | 1 | 医療コミュニケーション論 | 1 | 創薬化学 | 1 | | |
| | | **４群科目** | | 薬物治療学Ⅱ | 1 | | |
| | | ※ 日本語Ⅰ(留学生対象) | 1 | 調剤学 | 1 | | |
| | | ※ 日本語Ⅱ(留学生対象) | 1 | 地域医療薬学Ⅰ | 1 | | |
| | | | | **４群科目** | | | |
| | | | | ※ 日本語Ⅰ(留学生対象) | 1 | | |
| | | | | ※ 日本語Ⅱ(留学生対象) | 1 | | |
| **通　　年** | | | | | | | |
| **１群科目** | | | | | | **３群科目** | |
| ◎ 物理学 | 4 | | | | | ◎ 生命創薬科学特別演習 | 2 |
| ◎ 生物学 | 4 | | | | | ◎ 生命創薬科学卒業特別実習 | 15 |

◎：必修科目，記号なし：選択科目，※：自由科目

(補) １群選択科目は未記載。１群シラバス参照のこと。

## 卒業要件単位

| | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | 卒業単位 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 必修 | 選択 | 必修 | 選択 | 必修 | 選択 | 必修 | 選択 | 必修 | 選択 |
| 1群科目 | A区分 | 2 | 8※1 | | | | | | | 2 | 8 |
| | B区分 | 14 | 8※2 | | | | | | | 14 | 8 |
| 2群科目 | | 6 | | 2 | | 1 | | | | 9 | |
| 3群科目 | | 7 | ※3 | 27 | ※3 | 20 | ※3 | 18 | ※3 | 72 | 17 |
| 小計 | | 29 | 16 | 29 | | 21 | | 18 | | 97 | 33 |
| 計 | | | | | | | | | | 130 | |

A区分・・・文化の領域、社会の領域、総合領域科目
B区分・・・健康の領域、数理情報系のうち情報科学Ａ・Ｂ・Ｃ、教養演習系

※1 上記A区分から４科目８単位修得（薬学部履修指定科目の倫理学Ａ・Ｂのいずれか１科目選択必修）
※2 上記B区分から２科目４単位修得
　上記B区分の数学または発展数学（Ａ＋Ｂ）のいずれか４単位選択必修
※3 １～４年次で計１７単位修得
(注)自由科目は卒業要件単位に含まない。

# 薬学部学年進級規程（2025 年度入学生）

北里大学薬学部に在籍する学生の進級ならびに留年に関する扱いは、この規程の定めるところによる。

＜総則＞

第１条　進級、留年、卒業の決定については、学則により薬学部教授会で審議し、決定する。

第２条　履修すべき必修科目中、不合格科目の数が４科目以上の者は進級できない。

第３条　実験・実習科目に不合格科目を有する者は進級できない。

第４条　必修科目に不合格科目を有して進級する者は、４年次終了までに再試験を受験し当該不合格科目の単位を全て修得しなければならない。

第５条　３群選択必修科目に不合格科目を有して進級した者は、教授会の指示に従い、次年度以降の再試験に合格するか、もしくは、他の選択科目の単位を修得し、卒業要件の単位を充足しなければならない。

第６条　同一学年における在学年数は２年以内とする。（休学期間を除く）
上記に規定する期間を超えた者は学則により除籍する。

＜薬学科における１年次から２年次への進級に関する規程＞

第７条　薬学科における１年次に履修すべき必修科目は、以下とする。

〈１群科目〉　総合領域科目　　１科目（必修科目）
・総合領域　　北里の世界
基礎教育科目　　８科目（必修科目）
・外国語系　　英語ＡⅠ、英語ＡⅡ、英語ＢⅠ、英語ＢⅡ
・自然科学系　　物理学、物理学実験、生物学、生物学実験

〈２群科目〉　６科目（必修科目）
化学、基礎有機化学、代数学、統計学、有機化学Ⅰ、情報リテラシー（演習含む）

〈３群科目〉　７科目（必修科目）
薬学概論、薬用植物学、解剖学、薬と仕事Ⅰ、生化学Ⅰ、生理学Ⅰ、チーム医療論

２　薬学科における卒業要件となる１年次選択必修科目は、以下とする。

〈１群科目〉　人間形成の基礎科目
・文化の領域（Ａ区分）
なお、倫理学は薬学部履修指定科目であるので、「倫理学Ａ」または「倫理学Ｂ」のいずれか１科目は必ず履修し、単位を修得しなければならない。
・社会の領域（Ａ区分）

総合領域科目（Ａ区分）

上記Ａ区分から４科目８単位以上

人間形成の基礎科目

・健康の領域（Ｂ区分）

基礎教育科目（Ｂ区分）

・数理情報系のうち情報科学Ａ・Ｂ・Ｃ

教養演習科目（Ｂ区分）

・教養演習系

上記Ｂ区分から２科目４単位以上

数学または発展数学（Ａ＋Ｂ）のいずれか４単位以上選択必修。

３　特に指定するものを除き、１群自由科目（生物学要習、物理学要習、化学要習）および４群科目（自由科目および単位互換科目）は、本規程の適用外とする。

４　「北里の世界」「薬学概論」「チーム医療論」「薬と仕事Ⅰ」のうち１科目でも不合格を有する者は、２年次に進級できない。

＜薬学科における２年次から３年次への進級に関する規程＞

第８条　薬学科における２年次から３年次への進級については、総則第１条から第６条を適用する。

＜薬学科における３年次から４年次への進級に関する規程＞

第９条　薬学科における３年次から４年次への進級については、総則第１条から第６条を適用する。

＜薬学科における４年次から５年次への進級に関する規程＞

第１０条　薬学科における４年次から５年次への進級については、総則第１条、第３条、第４条、第５条、第６条を適用する。

第１１条　４年次終了までに必修科目の全てを修得した者が、共用試験（OSCE・CBT）に合格していない場合は、４年次から５年次への進級は認めるが、「病院・薬局実習」を履修することはできない。

＜薬学科における５年次から６年次への進級に関する規程＞

第１２条　薬学科における５年次から６年次への進級については、総則第１条、第３条、第５条、第６条を適用する。

２　第11条により「病院・薬局実習」が履修できない者は、留年とする。

第１３条　共用試験（OSCE・CBT）の有効期間の延長が認められる特別な事由により年度途中で「病院・薬局実習」の履修が継続できなくなった場合に限り、「病院・薬局実習」を６年次で履修することを教授会が認めた場合は、進級することができる。

＜薬学科における卒業要件に関する規程＞

第１４条　薬学科における卒業要件は、必修科目１６６単位、１群選択必修科目１６単位以上、３群選択

必修科目６単位以上、計１８８単位以上を修得しなければならない。

＜生命創薬科学科における１年次から２年次への進級に関する規程＞

第１５条　生命創薬科学科における１年次に履修すべき必修科目は、以下とする。

〈１群科目〉　総合領域科目　　２科目（必修科目）

・総合領域　　北里の世界、仕事と人生

基礎教育科目　　８科目（必修科目）

・外国語系　　英語ＡⅠ、英語ＡⅡ、英語ＢⅠ、英語ＢⅡ

・自然科学系　　物理学、物理学実験、生物学、生物学実験

〈２群科目〉　６科目（必修科目）

化学、基礎有機化学、代数学、統計学、有機化学Ⅰ、情報リテラシー（演習含む）

〈３群科目〉　７科目（必修科目）

薬学概論、薬用植物学、解剖学、創薬科学への招待、生化学Ⅰ、生理学Ⅰ、生命創薬科学研究概説

２　生命創薬科学科における卒業要件となる１年次選択必修科目は、以下とする。

〈１群科目〉　人間形成の基礎科目

・文化の領域（Ａ区分）

なお、倫理学は薬学部履修指定科目であるので、「倫理学Ａ」または「倫理学Ｂ」のいずれか１科目は必ず履修し、単位を修得しなければならない。

・社会の領域（Ａ区分）

総合領域科目（Ａ区分）

上記Ａ区分から４科目８単位以上

人間形成の基礎科目

・健康の領域（Ｂ区分）

基礎教育科目（Ｂ区分）

・数理情報系のうち情報科学Ａ・Ｂ・Ｃ

教養演習科目（Ｂ区分）

・教養演習系

上記Ｂ区分から２科目４単位以上

数学または発展数学（Ａ＋Ｂ）のいずれか４単位以上選択必修。

３　特に指定するものを除き、１群自由科目（生物学要習、物理学要習、化学要習）および４群科目（自由科目および単位互換科目）は、本規程の適用外とする。

４　「北里の世界」「薬学概論」「仕事と人生」「創薬科学への招待」のうち１科目でも不合格を有する者は、２年次に進級できない。

＜生命創薬科学科における２年次から３年次への進級に関する規程＞

第１６条　生命創薬科学科における２年次から３年次への進級については、総則第１条から第６条を適用する。

＜生命創薬科学科における３年次から４年次への進級に関する規程＞

第１７条　生命創薬科学科における３年次から４年次への進級については、総則第１条から第６条を適用する。

＜生命創薬科学科における卒業要件に関する規程＞

第１８条　生命創薬科学科における卒業要件は、必修科目９７単位、１群選択必修科目１６単位以上、３群選択必修科目１７単位以上、計１３０単位以上を修得しなければならない。

附　則（北学総第 2024-13221 号）

（施行日、適用）

1　この規程は、2025 年 4 月 1 日から施行する。

2　教授会が必要と認めた場合、この規程は特定年度に限ってその実施を変更することができる。

3　本規程の実施の細目は別に定める。

4　第 13 条に規定する共用試験の有効期間の延長が認められる特別な事由とは、事故や病気、経済的理由による一時的な勉学の中断、自然災害等により実習が行えなくなった場合などとする（留年や海外留学は特別な事由として認めない）。

5　2025 年度入学生から適用する。

なお、編入学生については、編入学する学年（入学年度）の進級規程を適用する。

2025 年 2 月 6 日　薬学部教授会承認

## 一般教育部教員一覧

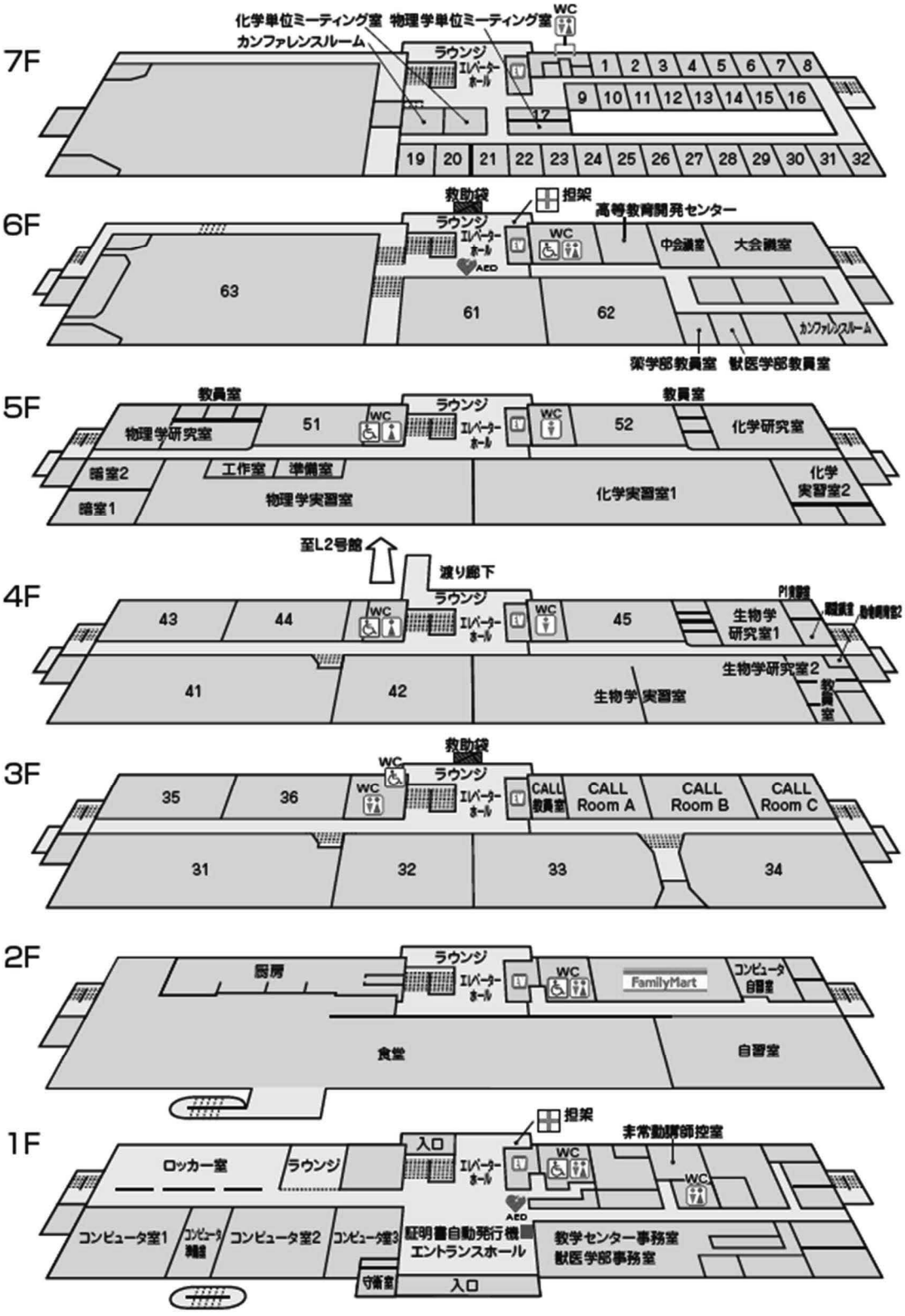
| | 職名 | 氏名 | 担当科目名 |
|---|---|---|---|
| 文化の領域 | 教授 | 大　石　敏　広 | 哲学の楽しみＡ・Ｂ、科学を考えるＡ・Ｂ、教養演習Ｂ・Ｃ |
| | 〃 | 小　林　亜津子 | 倫理学Ａ・Ｂ |
| | 〃 | 安　川　智　子 | 芸術の楽しみＡ・Ｂ、教養演習Ｃ、大学基礎演習 |
| | 准教授 | 風　岡　祐　貴 | 文学の楽しみＡ・Ｂ、教養演習Ａ |
| | 非常勤講師 | 鵜　澤　和　彦 | 哲学の楽しみＡ・Ｂ、倫理学Ａ・Ｂ |
| | 〃 | 星　　聖　子 | 芸術の楽しみＡ・Ｂ |
| | 〃 | 黒　崎　　剛 | 倫理学Ａ |
| | 〃 | 清　水　明　美 | 倫理学Ａ・Ｂ |
| | 〃 | 池　田　　透 | 倫理学Ｂ |
| | 〃 | 野　村　廣　之 | 文学の楽しみＡ・Ｂ |
| | 〃 | 榎　本　香　織 | 信仰と救いＡ・Ｂ |
| 社会の領域 | 教授 | 猪　瀬　貴　道 | 日本国憲法Ａ・Ｂ、法律の役割Ａ・Ｂ、教養演習Ａ |
| | 〃 | 畠　山　　禎 | 歴史と人間Ａ・Ｂ、教養演習Ｂ・Ｃ、大学基礎演習 |
| | 准教授 | 赤　澤　とし子 | 経済のしくみＡ・Ｂ、教養演習Ｃ、大学基礎演習 |
| | 〃 | 前　田　　崇 | 個人と社会Ａ・Ｂ、大学基礎演習 |
| | 講師 | 猪　原　敬　介 | 心理学A／心理学A（心理学概論）・心理学B／心理学B（知覚・認知心理学）、教養演習C、大学基礎演習 |
| | 非常勤講師 | 永　山　茂　樹 | 日本国憲法Ａ・Ｂ |
| | 〃 | 杉　山　　亮 | 政治のしくみＡ・Ｂ |
| | 〃 | 宮　下　克　也 | 文化人類学Ａ・Ｂ |
| | 〃 | 藤　巻　裕　之 | 日本と国際社会Ａ・Ｂ |
| | 〃 | 鈴　木　孝　弘 | 環境を考えるＡ・Ｂ |
| | 〃 | 中　山　友　則 | 心理学A/心理学A（心理学概論）　心理学B |
| | 〃 | 太　田　　碧 | 心理学Ｂ |
| 健康の領域 | 教授 | 北　川　　淳 | 健康の科学Ａ・Ｃ、健康とスポーツ演習、教養演習Ｃ |
| | 准教授 | 安　倍　希　美 | 健康の科学Ａ、健康とスポーツ演習、教養演習Ｃ |
| | 〃 | 永　見　智　行 | 健康の科学Ｂ・Ｃ、健康とスポーツ演習 |
| | 講師 | 池　村　　司 | 健康の科学Ｂ・Ｃ、健康とスポーツ演習 |
| | 〃 | 板橋ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 健康の科学Ｂ、健康とスポーツ演習 |
| | 兼担（海洋生命科学部教授） | 吉　永　龍　起 | 健康の科学Ｃ、農医連携論 |
| | 〃（海洋生命科学部講師） | 古　川　史　也 | 健康の科学Ｃ |
| | 〃（医療衛生学部准教授） | 渡　邊　裕　之 | 健康の科学Ｃ |
| | 〃（健康管理センター准教授） | 山　田　裕　子 | 健康の科学Ｃ、教養演習Ｂ |
| | 〃（健康管理センター講師） | 石　塚　昌　保 | 健康の科学Ｃ、教養演習Ｃ |
| | 兼任 | 今　井　雅　世 | 健康の科学Ｃ |
| | 〃 | 梶　山　和　美 | 健康の科学Ｃ |
| | 〃 | 森　岡　優　子 | 健康の科学Ｃ |

| | 職名 | 氏名 | 担当科目名 |
|---|---|---|---|
| 健康の領域 | 非常勤講師 | 山　北　満　哉 | 健康の科学Ａ |
| | 〃 | 阪　田　俊　輔 | 健康とスポーツ演習 |
| | 〃 | 西　岡　卓　哉 | 健康とスポーツ演習 |
| | 〃 | 和　田　太　一 | 健康とスポーツ演習 |
| 総合領域 | 兼担<br>(北里大学学長) | 砂　塚　敏　明 | 北里の世界 |
| | 〃<br>(北里大学副学長) | 市　川　尊　文 | 北里の世界 |
| | 〃<br>(海洋生命科学部准教授) | 阿見彌　典　子 | 北里の世界 |
| | 〃<br>(未来工学部教授) | 岡　　浩太郎 | 北里の世界 |
| | 〃<br>(大村研・学府教授) | 浅　見　行　弘 | 北里の世界 |
| | 〃<br>(北里大学学長補佐) | 向　井　孝　夫 | 仕事と人生、農医連携論 |
| | 〃<br>(薬学部教授) | 清　野　正　子 | 仕事と人生 |
| | 〃<br>(理学部准教授) | 伊　藤　道　彦 | 仕事と人生、農医連携論 |
| | 〃<br>(医療衛生学部教授) | 髙　橋　香代子 | 仕事と人生 |
| | 〃<br>(健康管理センター講師) | 中　村　陽　子 | 仕事と人生、教養演習Ｃ |
| | 〃<br>(薬学部教授) | 小　林　義　典 | 農医連携論 |
| | 〃<br>(獣医学部准教授) | 柿　野　　亘 | 農医連携論 |
| | 〃<br>(医学部教授) | 堤　　明　純 | 農医連携論 |
| | 〃<br>(医学部准教授) | 齋　藤　有紀子 | 農医連携論 |
| | 〃<br>(医療衛生学部教授) | 清　　和　成 | 農医連携論 |
| | 非常勤講師 | 饗　庭　尚　子 | 農医連携論 |
| 外国語系（英語） | 教授 | 和治元　義　博 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ、英語ＢＩ、英語ＢＩＩ |
| | 〃 | 平　井　清　子 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ |
| | 准教授 | Ｊ．Ａ．ガダード | 英語ＢＩ、英語ＢＩＩ、教養演習Ｃ |
| | 〃 | 中　戸　照　恵 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ、英語ＢＩ、英語ＢＩＩ |
| | 〃 | 野　口　敬　未 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ |
| | 講師 | Ｈ．カークウッド | 英語ＢＩ、英語ＢＩＩ |
| | 〃 | 橋　本　真　吾 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ |
| | 〃 | 森　景　真　紀 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ、英語ＢＩ、英語ＢＩＩ |
| | 〃 | 矢　野　奈　々 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ、英語ＢＩ、英語ＢＩＩ |
| | 非常勤講師 | 淺　間　正　通 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ |
| | 〃 | 飯　田　深　雪 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ |
| | 〃 | 池　谷　咲　良 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ |
| | 〃 | 石　井　義　明 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ |
| | 〃 | 大　塚　あゆみ | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ |
| | 〃 | 塩　谷　雅　之 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ |
| | 〃 | 長　浜　麻里子 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ |
| | 〃 | 原　　将　吾 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ |
| | 〃 | 真　鍋　聖　代 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ |
| | 〃 | 今　井　麻　紀 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ、英語ＢＩ、英語ＢＩＩ |

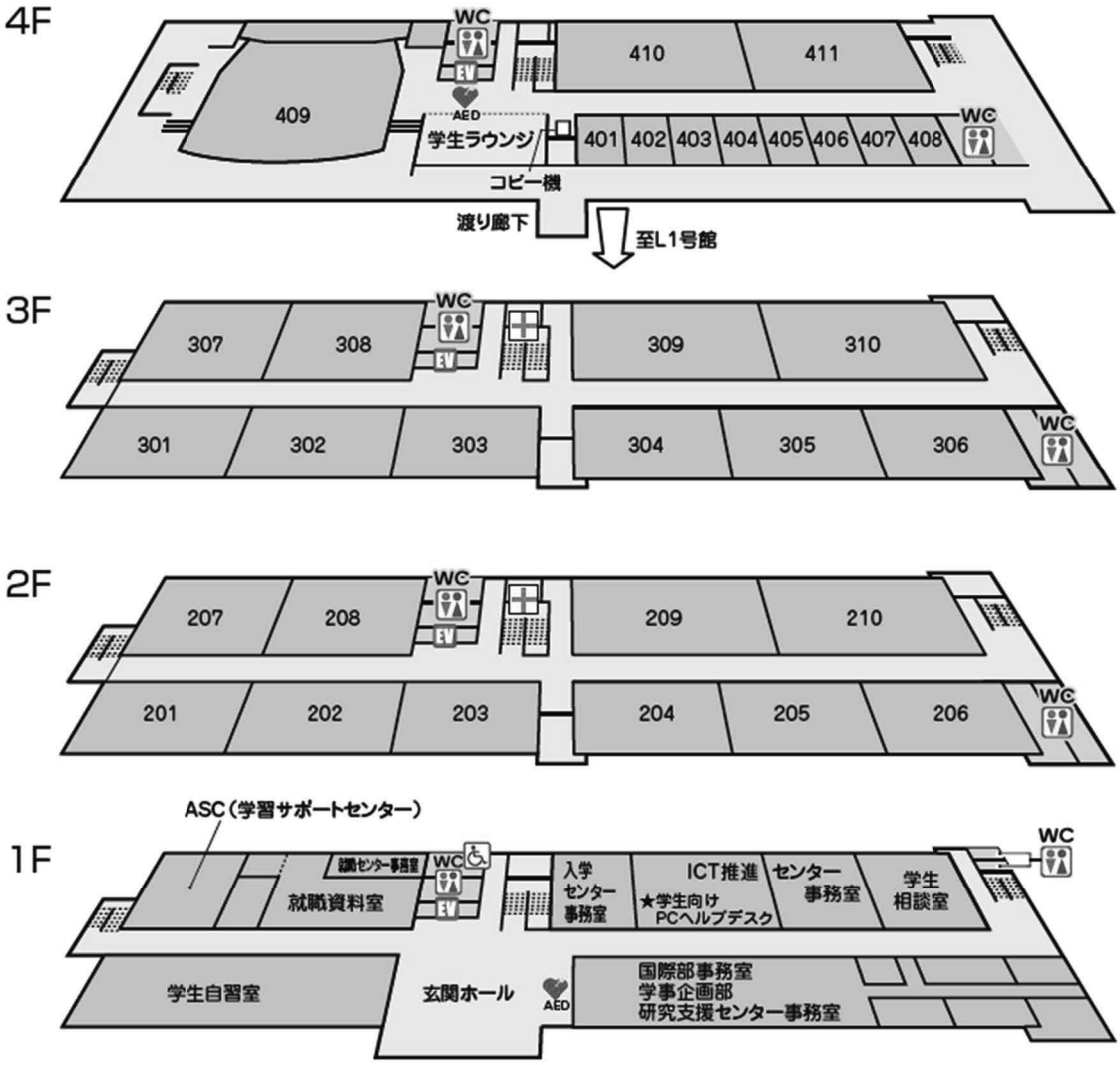
| | 職名 | 氏名 | 担当科目名 |
|---|---|---|---|
| 外国語系（英語） | 非常勤講師 | 亀　山　千　景 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ、英語ＢＩ、英語ＢＩＩ |
| | 〃 | 関　口　章　子 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ、英語ＢＩ、英語ＢＩＩ |
| | 〃 | 水　沼　佳津子 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ、英語ＢＩ、英語ＢＩＩ |
| | 〃 | 宮　瀬　順　子 | 英語ＡＩ、英語ＡＩＩ、英語ＢＩ、英語ＢＩＩ |
| | 〃 | D. K. ルスロ | 英語ＢＩ、英語ＢＩＩ |
| | 〃 | Ｐ．クィン | 英語ＢＩ、英語ＢＩＩ |
| | 〃 | P. マックウィリング | 英語ＢＩ、英語ＢＩＩ |
| | 〃 | Ｓ．イ | 英語ＢＩ、英語ＢＩＩ |
| | 〃 | Ｓ．マクレラン | 英語ＢＩ、英語ＢＩＩ |
| | 〃 | 平　　辰　彦 | 英語ＢＩ、英語ＢＩＩ |
| | 〃 | 谷　村　久美子 | 英語ＢＩ、英語ＢＩＩ |
| 数理・情報系 | 教授<br>(一般教育部長) | 伊　藤　真　吾 | 数学、統計学ＢＩ、ベクトルと行列、数学の基礎、発展数学Ａ・Ｂ、教養演習Ｃ |
| | 教授 | 渡　辺　一　雄 | 数学、統計学Ａ、統計学ＢＩ、ベクトルと行列、数学の基礎、教養演習Ｃ |
| | 准教授 | 酒　井　祐貴子 | 数学、微分積分学Ａ・Ｂ、教養演習Ｂ |
| | 〃 | 宮　﨑　　直 | 数学、微分積分学Ａ・Ｂ、教養演習Ｃ |
| | 講師 | 米　山　泰　祐 | 数学、統計学Ａ、教養演習Ｂ |
| | 非常勤講師 | 岡　田　篤　子 | 数学 |
| | 〃 | 小　川　健一郎 | 数学 |
| | 〃 | 後　藤　香代子 | 数学 |
| | 〃 | 吉　井　健太郎 | 数学 |
| | 〃 | 木　原　裕　充 | 数学、統計学Ａ |
| | 〃 | 松　元　久　明 | 数学、統計学Ａ |
| | 〃 | 永　並　健　吾 | 数学、統計学ＢＩ、統計学ＢＩＩ |
| | 〃 | 髙　橋　　翔 | 統計学Ａ |
| | 〃 | 宮　田　洋一郎 | 統計学ＢＩ |
| | 教授 | 福　田　　宏 | 情報科学Ａ・Ｂ・Ｃ、教養演習Ｃ |
| | 准教授 | 髙　橋　　勇 | 情報科学Ａ・Ｂ、教養演習Ｃ |
| | 講師 | 小　川　智　也 | 情報科学Ａ・Ｂ・Ｃ |
| | 〃 | 髙　野　保　真 | 情報科学Ａ・Ｂ、教養演習Ｃ |
| | 非常勤講師 | 原　　伸太郎 | 情報科学Ａ |
| | 〃 | 藤　田　智　子 | 情報科学Ａ・Ｂ |
| | 〃 | 吉　田　勝　彦 | 情報科学Ａ・Ｂ |
| 自然科学系 | 教授 | 山　本　　洋 | 物理学、物理学実験、物理学要習、教養演習Ｃ |
| | 准教授 | 廣　岡　秀　明 | 物理学、物理学実験 |
| | 〃 | 崔　　東　学 | 物理学、物理学実験 |
| | 講師 | 古　川　裕　之 | 物理学、物理学実験 |
| | 〃 | 吉　村　玲　子 | 物理学、物理学実験、物理学要習 |
| | 〃 | 川　上　言　美 | 物理学、物理学実験、物理学要習 |
| | 助教 | 塩　沢　健　太 | 物理学実験、物理学要習、大学基礎演習 |

| | 職名 | 氏名 | 担当科目名 |
|---|---|---|---|
| 自然科学系 | 非常勤講師 | 大　西　孝　明 | 物理学 |
| | 〃 | 關　山　　信 | 物理学、物理学要習 |
| | 教授 | 野　島　高　彦 | 化学、化学実験、化学要習、大学基礎演習 |
| | 〃 | 能　登　　香 | 化学、化学実験、化学要習 |
| | 准教授 | 宇　田　郁　子 | 化学、化学実験、化学要習 |
| | 〃 | 笠　原　康　利 | 化学、化学実験、化学要習 |
| | 講師 | 大　極　光　太 | 化学、化学実験、化学要習、教養演習Ｃ |
| | 〃 | 山　口　佳　美 | 化学、化学実験、化学要習 |
| | 非常勤講師 | 朝　倉　則　行 | 化学 |
| | 教授 | 和　田　浩　則 | 生物学、生物学実験、生物学要習 |
| | 〃 | 吉　田　　学 | 生物学、生物学実験、生物学要習 |
| | 准教授 | 坂　田　　剛 | 生物学、生物学実験、生物学要習、教養演習Ｃ |
| | 講師 | 加　藤　智　美 | 生物学、生物学実験、生物学要習 |
| | 〃 | 中　森　智　啓 | 生物学、生物学実験 |
| | 〃 | 増　本　三　香 | 生物学、生物学実験、生物学要習 |
| | 〃 | 西　村　真由子 | 生物学、生物学実験、生物学要習 |
| | 助教 | 山　本　貴　之 | 生物学実験 |
| | 〃 | 森　　真美子 | 生物学実験、生物学要習 |
| | 兼担<br>（薬学部准教授） | 古　平　栄　一 | 生物学実験 |
| | 〃<br>（薬学部助教） | 石　川　　寛 | 生物学実験 |
| | 〃<br>（薬学部助教） | 深　田　祐　輔 | 生物学実験 |
| | 非常勤講師 | 小田切　秀　穂 | 生物学 |
| | 〃 | 平　手　良　和 | 生物学 |
| | 〃 | 水　澤　奈々美 | 生物学 |
| | 〃 | 廣　木　眞　達 | 生物学、生物学実験 |
| | 〃 | 岩　崎　美　樹 | 生物学実験、生物学要習 |
| | 〃 | 峰　田　理　恵 | 生物学実験 |
| | 〃 | 森　下　由紀子 | 生物学実験 |
| 教養演習系 | 准教授 | 三　田　　順 | 教養演習A、言語と文化A・B（ドイツ語・ドイツ語圏文化）、言語と文化B（オランダ語圏文化） |
| | 講師 | 田　中　伸　明 | 教養演習Ｃ、大学基礎演習、言語と文化Ａ・Ｂ（ドイツ語・ドイツ語圏文化） |
| | 非常勤講師 | 井　口　三奈子 | 言語と文化Ａ（ドイツ語） |
| | 〃 | 橋　本　由紀子 | 言語と文化Ａ（ドイツ語） |
| | 〃 | 三　根　靖　久 | 言語と文化Ａ（ドイツ語） |
| | 〃 | 志　村　佳菜子 | 言語と文化Ａ（フランス語） |
| | 〃 | 黒　木　朋　興 | 言語と文化Ａ・Ｂ（フランス語・フランス語圏文化） |
| | 〃 | 真　部　清　孝 | 言語と文化Ａ・Ｂ（フランス語・フランス語圏文化） |
| | 〃 | 司　馬　　虹 | 言語と文化Ａ・Ｂ（中国語・中国語圏文化） |
| | 〃 | 鄭　　賢　熙 | 言語と文化Ａ（韓国語） |

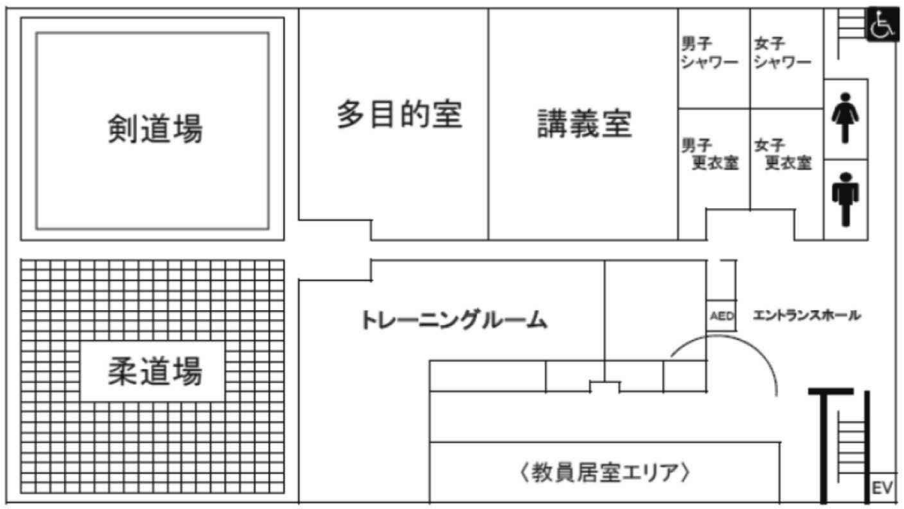
# L1号館


7F
化学単位ミーティング室
物理学単位ミーティング室
カンファレンスルーム
WC
ラウンジ
エレベーターホール
1 2 3 4 5 6 7 8
9 10 11 12 13 14 15 16
17
19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32
6F
救助袋
担架
高等教育開発センター
ラウンジ
エレベーターホール
WC
AED
中会議室
大会議室
63
61
62
カンファレンスルーム
薬学部教員室
獣医学部教員室
5F
教員室
物理学研究室
51
WC
ラウンジ
エレベーターホール
WC
52
教員室
化学研究室
暗室2
暗室1
工作室
準備室
物理学実習室
化学実習室1
化学実習室2
至L2号館
渡り廊下
4F
ラウンジ
エレベーターホール
WC
43
44
WC
45
生物学研究室1
生物学研究室2
41
42
生物学実習室
教員室
3F
救助袋
WC
ラウンジ
エレベーターホール
WC
35
36
CALL 教員室
CALL Room A
CALL Room B
CALL Room C
31
32
33
34
2F
厨房
ラウンジ
エレベーターホール
WC
FamilyMart
コンピュータ自習室
食堂
自習室
1F
担架
非常勤講師控室
入口
ロッカー室
ラウンジ
エレベーターホール
WC
WC
AED
コンピュータ室1
コンピュータ準備室
コンピュータ室2
コンピュータ室3
証明書自動発行機
エントランスホール
守衛室
入口
教学センター事務室
獣医学部事務室

## L2号館




## 総合体育館 1F



# 学部・学科・専攻の略号

| 学部・学科・専攻 | 英　文　名　称 | 略号 |
|---|---|---|
| **薬学部** | School of Pharmacy | **P** |
| 薬学科 | Faculty of Pharmacy | ＰＰ |
| 生命創薬科学科 | Department of Pharmaceutical Life Sciences | ＰＬ |
| **獣医学部** | School of Veterinary Medicine | **V** |
| 獣医学科 | Faculty of Veterinary Medicine | Ｖ |
| 動物資源科学科 | Department of Animal Science | Ｚ |
| グリーン環境創成科学科 | Department of Green Innovation and Environmental Bioscience | Ｇ |
| **医学部** | School of Medicine | **M** |
| **海洋生命科学部** | School of Marine Biosciences | **MB** |
| **看護学部** | School of Nursing | **N** |
| **理学部** | School of Science | **S** |
| 物理学科 | Department of Physics | ＳＰ |
| 化学科 | Department of Chemistry | ＳＣ |
| 生物科学科 | Department of Biosciences | ＳＢ |
| **医療衛生学部** | School of Allied Health Sciences | **A** |
| 保健衛生学科 | Department of Health Science | ＨＳ |
| 医療検査学科 | Department of Medical Laboratory Sciences | ＭＬ |
| 医療工学科 | Department of Medical Engineering and Technology | ＥＴ |
| 臨床工学専攻 | Clinical Engineering Course | ＣＥ |
| 診療放射線技術科学専攻 | Radiological Technology Course | ＲＴ |
| リハビリテーション学科 | Department of Rehabilitation | ＲＥ |
| 理学療法学専攻 | Physical Therapy Course | ＰＴ |
| 作業療法学専攻 | Occupational Therapy Course | ＯＴ |
| 言語聴覚療法学専攻 | Speech Therapy Course | ＳＴ |
| 視覚機能療法学専攻 | Orthoptics and Visual Science Course | ＯＶ |
| **未来工学部** | School of Frontier Engineering | **FR** |
| データサイエンス学科 | Department of Data Science | ＦＵ |
| **健康科学部** | School of Health Sciences | **H** |
| 看護学科 | Department of Nursing Science | ＷＮ |
| 医療検査学科 | Department of Medical Laboratory Science | ＷＬ |
| **一般教育部** | College of Liberal Arts and Sciences | **L** |

# X．講 義 内 容（シラバス）

# 科目掲載ページ一覧

## 薬学1群科目


［人間形成の基礎科目］
文化の領域 …… 69
社会の領域 …… 108
健康の領域 …… 150
［総合領域科目］ …… 180
［基礎教育科目］
外国語系
英語 …… 186
数理・情報系
数学、発展数学等 …… 216
情報科学 …… 225
自然科学系
物理学 …… 242
生物学 …… 247
自然科学系実験 …… 250
自然科学系要習 …… 254
［教養演習科目］
教養演習A・教養演習B・教養演習C …… 258
大学基礎演習 …… 289
言語と文化A・B …… 301


## 薬学2群科目


化学 …… 333
基礎有機化学 …… 337
代数学 …… 340
統計学 …… 344
有機化学Ⅰ …… 346
情報リテラシー(演習含) …… 350


## 薬学3群科目


薬学概論(薬学科) …… 355
薬学概論(生命創薬科学科) …… 358
薬用植物学 …… 361
薬と仕事Ⅰ …… 364
解剖学 …… 366
生化学Ⅰ …… 368
生理学Ⅰ …… 371
チーム医療論 …… 374
臨床心理学入門 …… 377
創薬科学への招待 …… 380
生命創薬科学研究概説 …… 383


## 薬学4群科目


日本語Ⅰ …… 389
日本語Ⅱ …… 391
日本語入門Ⅰ …… 393
日本語入門Ⅱ …… 395


## 特色ある教育科目


…… 397


○各担当者に付されている※印は、実務経験のある教員を表す。
○教員の当該科目の実務経験の有無については、ホームページに掲出の一覧を参照のこと。
○授業科目が関連する実務経験がある教員により行われている場合は、「実務経験のある教員による授業科目」と示す(2・3・4群科目のみ)。

# 薬 学 1 群 科 目

# 人間形成の基礎科目

## 文化の領域

人間形成の基礎科目「文化の領域」は、一般教育部が提供する１群科目において中核を成す科目群の１つです。１群科目は、大きく分けると、教養教育科目と基礎教育科目に分けることができます。基礎教育科目（英語、数理・情報、自然科学系各科目等）は、２年次以降に配当されている２群・３群科目（各専門分野に関わる科目）を履修する上での基礎的な知識を身につけてもらうための科目群ですが、教養教育科目（人間形成の基礎科目、総合領域科目、教養演習系科目等）は、一言で言えば社会人としての教養を身につけてもらうための科目群です。北里大学の学生である皆さんの多くは、４年または６年間の在学期間中にそれぞれの分野の専門的な知識と技術を身につけ、卒業後は各分野の専門職に就くことを目指していると思います。しかし、有能な専門職業人であるためには、単に専門的な知識・技術を身につけているだけでは、十分とは言えません。専門的な知識・技術だけでなく、社会人としての教養を身につけている必要があります。教養のある専門職業人であればこそ、他者に重んじられ、他者の信頼を得ることができ、専門職業人としての自らの職務をよりよく果たすことができるでしょう。豊かな教養は各人の人間的な魅力をより高め、社会生活・職業生活を円滑に送るための手助けをしてくれるのです。さらにまた、豊かな教養はこの先の長い人生を送っていく上での重要な拠り所の１つともなるでしょう。そのような教養をしっかりと身につけるつもりで、皆さんには人間形成の基礎科目「文化の領域」を履修してもらいたいと思います。

「文化の領域」に含まれる科目には、哲学の楽しみ・科学を考える・芸術の楽しみ・倫理学・文学の楽しみ・信仰と救いがあります。これらの科目群は、人間の精神生活に関わる学問（哲学・科学哲学・芸術学・倫理学・文学・宗教学）を基盤としています。こうした科目群を履修することによって、まずは豊かな感受性を育み、きちんとした倫理意識を養い、自立した大人としての自覚を深めてもらいたいと思います。その上でさらに、自分自身の頭で物事を考えることを学び、責任をもって判断を下し、自分自身の判断によって適切な行動が取れるような、他者から信頼される教養のある人間になってもらいたいと思います。

# 2025年度文化の領域　開講情報

**前期**

| 科目名 | 担当者 | 授業形態 | 開講曜日・時限 |
|---|---|---|---|
| 哲学の楽しみA | 大石　敏広 | 対面 | 火１／木２ |
| 哲学の楽しみA | 鵜澤　和彦 | 対面 | 月２／水１ |
| 科学を考えるA | 大石　敏広 | 対面 | 火２／木１ |
| 芸術の楽しみA | 安川　智子 | 対面 | 木２ |
| | | オンライン | 水１／水２／木１ |
| 芸術の楽しみA | 星　聖子 | 対面 | 火１／火２ |
| 倫理学A | 小林　亜津子 | オンライン | 木１／木２／金１／金２ |
| 倫理学A | 鵜澤　和彦 | 対面 | 月１／水２ |
| 倫理学A | 黒崎　剛 | 対面 | 水１／水２ |
| 倫理学A | 清水　明美 | 対面 | 金１／金２ |
| 文学の楽しみA | 風岡　祐貴 | 対面 | 火２／木１／木２ |
| 文学の楽しみA | 野村　廣之 | 対面 | 火１ |
| 信仰と救いA | 榎本　香織 | 対面 | 月１／月２ |

**後期**

| 科目名 | 担当者 | 授業形態 | 開講曜日・時限 |
|---|---|---|---|
| 哲学の楽しみB | 大石　敏広 | 対面 | 火２／木１ |
| 哲学の楽しみB | 鵜澤　和彦 | 対面 | 月２／水１ |
| 科学を考えるB | 大石　敏広 | 対面 | 火１／木２ |
| 芸術の楽しみB | 安川　智子 | 対面 | 木２ |
| | | オンライン | 水１／水２／木１ |
| 芸術の楽しみB | 星　聖子 | 対面 | 火１／火２ |
| 倫理学B | 小林　亜津子 | オンライン | 水５／木１／木２／金4 |
| 倫理学B | 池田　透 | 対面 | 水１／水２ |
| 倫理学B | 鵜澤　和彦 | 対面 | 月１／水２ |
| 倫理学B | 清水　明美 | 対面 | 金１／金２ |
| 文学の楽しみB | 風岡　祐貴 | 対面 | 火２／木１／木２ |
| 文学の楽しみB | 野村　廣之 | 対面 | 火１ |
| 信仰と救いB | 榎本　香織 | 対面 | 月１／月２ |

# 哲学の楽しみA（哲学しましょう）

Philosophy A

**科 目 概 要 ：** 2025年度　前期／2単位
**授 業 対 象 ：** 指定なし　火１or木２
**科目責任者 ：** 大石　敏広
**担　当　者 ：** 大石　敏広
**備　　考 ：** 科目ナンバリング：L101-HC01／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 哲学の一番の特徴は、とことんまで考え抜くという点にあると言えます。従って、哲学は、私たちが普段の生活において問題とすることのないことを考察の対象とすることになります。例えば、私たちはこの社会において他者と共に生きています。ここには特に何も問題はないように思われます。しかし、哲学は、「そもそも他者とは何なのか」、「他者は存在するのか」と問います。本講義では、哲学において問題となるテーマについて一緒に考察することを通して、とことん考え抜くという思考を体験してもらいます。それと同時に、哲学の意味について考えていきたいと思います。 |
| **教育内容** | まず、哲学の重要なテーマを毎回一つずつ取り上げ、それについて解説します。解説をしながら、理解度を確かめるために、立ち止まって考えをめぐらしてもらいます。次に、その問題について課題を与えますので、それについて各自考察してもらいます。最後に、討論の場を設けて、自己表現に挑戦してもらいます。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義では、教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布します。主にパワーポイントを用い、AV機器を利用します。講義において課題ワークを行い、できるだけディスカッションなどの機会を設ける予定です。一方向的な講義ではなく、双方向的な講義を行ないます。<br>【フィードバックの方法】<br>ワークについて講義内で皆で議論をし、次の講義の最初で解説をします。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：下記に挙げた参考書や、講義に関連のある哲学の本を読んでおく。<br>復習：ノートやプリントを参考に、その日のテーマについて再度自分で思考をめぐらし、自分の考えをまとめておく。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 大石　敏広 | ガイダンス | 講義の目標、講義の内容、講義の進め方、評価方法などについて説明します。哲学についての導入的な話をします。 |
| 2 | 大石　敏広 | 外界の知識 | 外界は存在するのでしょうか。私たちの周りの世界について、何をどのようにして知ることができるのかについて考えます。 |
| 3 | 大石　敏広 | 他者の心 | 他人は本当は、ロボットではないのか。他者の心・意識とは何か、他者の心・意識は存在するのかについて考えます。 |
| 4 | 大石　敏広 | 心身問題 | 私たちの心・精神と身体は別々のものなのか、一体のものなのか、私たちの心・精神と身体はどのような関係にあるのかについて考えます。 |
| 5 | 大石　敏広 | 私の存在 | 「私」と呼べる存在者は、世界に一人しかいないのでは？　私とは誰なのか、私とは何なのかについて考えます。 |
| 6 | 大石　敏広 | 言葉の意味 | 言葉には本当は意味は存在しないのでは？　私たちが普段使っている言葉の意味とは何か、私たちはどのように言葉を使っているのかについて考えます。 |
| 7 | 大石　敏広 | 過去の存在 | 過去が存在したという証拠はあるのでしょうか。過去とは何か、過去は存在するのかについて考えます。 |
| 8 | 大石　敏広 | 意志の自由 | あなたは本当に、意志の自由を持っていますか。自由意志は存在するのか、自由意志に従って行為するとはどういうことかについて考えます。 |
| 9 | 大石　敏広 | 善悪の基準 | 「ならぬものは、ならぬ」？　善悪の客観的な基準は存在するのか、道徳的判断は道徳的行為を引き起こす動機となるのかについて考えます。 |
| 10 | 大石　敏広 | 正義とは何か | 法は正義？　正義とは何か、ただ一つの正義が存在するのか、正しい不平等はあるのかについて考えます。 |
| 11 | 大石　敏広 | 人生の意味 | 人間はなぜ生きるのでしょうか。人生の意味・目的とは何か、私たちの人生そのものに意味はあるのかについて考えます。 |
| 12 | 大石　敏広 | 哲学特殊講義Ⅰ | 哲学の文献を読解しながら、その内容について皆で議論をします。 |
| 13 | 大石　敏広 | 哲学特殊講義Ⅱ | 哲学の文献を読解しながら、その内容について皆で議論をします。 |
| 14 | 大石　敏広 | 解説と討議 | これまで読解した哲学の文献についての質問に答えながら討議をする。 |
| 15 | 大石　敏広 | まとめ | これまでの講義の総括をします。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 哲学の徹底的な思考法を体験することができる。<br>多元的な思考ができる。<br>自分の見解をまとめ、他者に伝えることができる。<br>他者と討論して、自分の見解を発展させることができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>講義におけるワーク（50%）、最終課題ワーク（50%）、討論参加状況（＋α）によって成績評価します。なお、欠席は減点となります。<br>ワークの評価は、課題の内容を理解して自分の考えを提示しているかどうかを基準とします。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 積極的に講義に参加することを希望します。子供じみた意見だと躊躇しないでください。「子供はみな哲学者である」なお、疑問点などがある場合はそのままにせず、積極的に質問をしてください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | 流れとよどみ | 大森荘蔵 | 産業図書 | 1944 |
| 参考書 | 翔太と猫のインサイトの夏休み――哲学的諸問題へのいざない―― | 永井均 | 筑摩書房 | 880 |
| 参考書 | 規則のパラドックスー言語は無意味かーー | 大石敏広 | 晃洋書房 | 2268 |

# 哲学の楽しみB（環境を哲学する）

Philosophy B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　火２or木１
**科目責任者：** 大石　敏広
**担当者：** 大石　敏広
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HC02／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 環境哲学と呼ばれる学問があります。環境哲学では、環境問題の具体的なケースを扱うのではなく、環境問題の基礎を考察の対象としています。本講義では、環境哲学の基本的で重要なトピックを取り上げ、それについて理解を深めることによって、環境についての具体的な問題を解決していくための道筋・方法について皆さんと考えていきたいと思います。 |
| **教育内容** | まず、環境哲学のトピックを一つ一つ取り上げ、それについて説明していきます。次に、取り上げられたトピックに関連した課題を与えますので、それについて各自考えをめぐらせて、それを文章で表現してもらいます。最後に、討論の場を設けて、自己表現に挑戦してもらいます。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義では、教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布します。パワーポイントを用い、AV機器を利用します。課題ワークを行う場合もあります。ディスカッションの機会を設けます。一方向的な講義ではなく、双方的な講義を行ないます。<br>【フィードバックの方法】<br>ワークについて講義内で皆で議論をし、次の講義の最初で解説します。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：下記に挙げた参考書を読んでおく。また、その他の哲学の本を読んで、講義に関連する箇所を参照する。<br>復習：講義資料やプリントを整理し、講義内容を理解して、自分の意見をまとめる。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 大石　敏広 | ガイダンス | 講義目標、講義内容、講義方法、評価方法などについて説明します。 |
| 2 | 大石　敏広 | 環境哲学とは何か | どうして環境について哲学するのでしょうか。なぜ環境哲学が生まれてきたのか、環境哲学の主張内容を解説します。 |
| 3 | 大石　敏広 | 〈自然〉をめぐる哲学の歴史 | 自然に目を向けましょう。人間の視点から自然を見る立場と、自然そのものの視点に立つ立場との対立について考えます。自然についての様々な考え方に触れます。 |
| 4 | 大石　敏広 | 非-人間中心主義の諸見解 | 人間を中心とする考え方（人間中心主義）に対して、人間を中心としない考え方（非-人間中心主義）が生まれてきました。非-人間中心主義の様々な見解に触れます。 |
| 5 | 大石　敏広 | 自然には〈内在的価値〉があるか | 自然の価値？　自然には、それ自体の価値があるのか、人間にとっての価値しかないのかについて考えます。 |
| 6 | 大石　敏広 | 土地倫理 | 「土地倫理」の「土地」とは、単なる「地面、つち」ではありません。レオポルドが提示した土地倫理という考え方を取り上げ、その土地倫理とはどういう考え方なのかを理解します。 |
| 7 | 大石　敏広 | 土地倫理を批判的に考察する | 前回の講義の続き。土地倫理を批判的視点から考察し、土地倫理が内包する問題点、土地倫理から学ぶべき点について考えます。 |
| 8 | 大石　敏広 | ディープ・エコロジー | ディープ・エコロジーという考え方が一頃注目されました。その主張内容について理解します。 |
| 9 | 大石　敏広 | ディープ・エコロジーを批判的に考察する | 前回の講義の続き。ディープ・エコロジーを批判的視点から考察し、ディープ・エコロジーが内包する問題点、ディープ・エコロジーから学ぶべき点について考えます。 |
| 10 | 大石　敏広 | 倫理学理論と環境プラグマティズム | 環境プラグマティズムは現在最も有力な考え方です。その主張内容を理解し、その問題点、そこから学ぶべき点について考えます。 |
| 11 | 大石　敏広 | 哲学特殊講義Ⅰ | 哲学の文献を読解しながら、その内容について皆で議論をします。 |
| 12 | 大石　敏広 | 哲学特殊講義Ⅱ | 哲学の文献を読解しながら、その内容について皆で議論をします。 |
| 13 | 大石　敏広 | 哲学特殊講義Ⅲ | 哲学の文献を読解しながら、その内容について皆で議論をします。 |
| 14 | 大石　敏広 | 解説と討議 | これまで読解した哲学の文献についての質問に答えながら討議をします。 |
| 15 | 大石　敏広 | まとめ | これまでの講義の総括をします。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 環境問題に関する基礎的な議論において生じている対立を理解することができる。<br>多元的な思考ができる。<br>環境問題を解決する方法について考えるための補助線を得ることができる。<br>自分の意見をまとめ、他者と議論ができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>講義において提出してもらう課題ワーク（50%）、最終課題ワーク（50%）、討論参加状況によって成績評価します。なお、欠席は減点となります。<br>ワークの評価は、課題の内容を理解して自分の考えを提示しているかどうかを基準とします。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | どのような意見でもよいので、積極的に自分の意見を表現してください。連続した講義内容になることもあるので、できるだけ休まないようにしてください。疑問点などあれば、遠慮せずに質問してください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | 新・環境倫理学のすすめ | 加藤尚武 | 丸善 | 842円 |
| 参考書 | 環境と倫理〈新版〉 | 加藤尚武編 | 有斐閣 | 1,944円 |
| 参考書 | 沈黙の春 | レイチェル・カーソン | 新潮社 | 679円 |
| 参考書 | 苦海浄土 | 石牟礼道子 | 講談社 | 720円 |
| 参考書 | 哲学は環境問題に使えるのかーー環境プラグマティズムの挑戦 | アンドリュー・ライト、エリック・カッツ | 慶應義塾大学出版会 | 5,400円 |

# 哲学の楽しみA（生と死を考える　I）

Philosophy A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　月２or水１
**科目責任者：** 鵜澤　和彦
**担　当　者：** 鵜澤　和彦※
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-HC01／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | わたしたちは、世界や他者と関わりながら生きていますが、ふだんはその根拠について考えたりはしません。しかし、ひとたび生の転機や危機が訪れると、自分の生を振り返り、その根拠を尋ねるようになります。その場合「生きる」とは、そもそもどのようなことなのでしょうか。また、生きる主体である個人の「こころ」と「からだ」は、どのように関わるのでしょうか。そして「生」と「死」は、本来どのような関係にあるのでしょうか。哲学には、生をめぐる議論の知的遺産があります。今日の医学・医療・看護に関する思想も、哲学の遺産を活用しながら、新しい成果を生み出しています。本授業は、現代の医学哲学を手引きとし、人間の生と死について考えることを目的とします。 |
| **教育内容** | 医学哲学者の木村敏とヴィクトル・フォン・ヴァイツゼガーのテキストを講読し、その心身問題と死生観について学びます。哲学の諸概念については、日常の様々な事例や医療の症例分析などを挙げることで、その内容を具体的に把握できるようにします。さらに、テーマごとに行われるグループディスカッションを通して、内容理解の深化を図ります。その際、著者の主張の例証や反証を考えることで、互いに問題をよりよく理解し、それを言葉で表現できるように配慮します。【キーワード】ゲシュタルトクライス、生きているもの（生物）と生命そのものの差異、心身相関、間主観性、主観と主体、公共的と私的、境界、個体と集団、主体的身体、人間学的医学、環境との相即、二重の境界、死の人称的差異、医学への主体の導入、二人称の関係の共有 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>本授業は、授業支援システム（classroom）を使いながら講義形式で行います。クラスコードは 3fklogv です。各授業の終了時に、classroomを通じて、その授業に関する課題を出します。受講生は、次回の授業までに課題を送信してください。課題はclassroomを通して、評価をつけて返却されます。課題のフィードバックについては、テーマごとに行われるディスカッションの際、模範解答（参考資料）の配布という仕方で行われます。さらに、各テーマの終了時にグループディスカッションと全体発表を行い、様々な観点から内容理解の深化を図ります。なお、授業の出席・質問・感想は、出席票を兼ねたリアクションペーパーに記載してください。質問に対する返答（フィードバック）は、次回授業時に行います。教員との面談については、授業開始前や終了後にオフィスアワーの時間を作りますので、その時に教壇に来てください。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：受講生は授業前に教科書の該当箇所を読み、あらかじめ概要を把握しておいて下さい。また、参考書を使って、専門用語の意味等を調べたり、よく分からない表現や箇所を見つけたりしてください。（約2時間）。<br>復習：授業時に配布された資料（講義原稿と参考資料）を読み直してください。また、ディスカッションでの他の受講生の意見を参考にしながら、そのテーマに関する自分の理解や考えをノートにまとめてください（約2時間）。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 鵜澤　和彦 | 授業ガイダンス | 教員の自己紹介、授業目標、到達目標、授業内容、授業の進め方、受講上の注意、成績評価の方法と基準、教科書と参考書、classroomの使い方、そして、導入として「哲学とは何か」について説明します。 |
| 2 | 鵜澤　和彦 | 第1章　心身相関と間主体性<br>第１節　心身二元論を超えて | 「からだ」と「こころ」、わたしの身体の個別性とわたしの経験の個別性の相違、自然科学的な心身論と西洋哲学の心身論、意識体験の本質、自己及び他者の主観の理解としての「間主観性」について学びます。 |
| 3 | 鵜澤　和彦 | 第1章　心身相関と間主体性<br>第２節　主観と主体 | 主観という哲学用語の歴史的考察（Subjektという用語の歴史的変遷）、日本語における主観と主体のニュアンスの相違、自我及び自己の同義語としての主観、主観と客観に関して学習します。 |
| 4 | 鵜澤　和彦 | 第1章　心身相関と間主体性<br>３．公共的主観性と私的主観性 | 公共的と私的の区別、共生関係における間主観性（私的間主観性、主観的体験の共有ならびに一体感、身体的な生の共有）、第三者的な客観的関係における間主観性（公共的間主観性、純粋な意識の志向性）を学びます。 |
| 5 | 鵜澤　和彦 | 第1章　心身相関と間主体性 | 第1回から第3回までの課題の内容をふまえ、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。 |
| 6 | 鵜澤　和彦 | 第1章　心身相関と間主体性　４．ヴァイツゼガーの「主観・主体」 | ヴァイツゼガーの主観・主体の概念、環境世界との相即、相即の中断としての転機・危機、生物間の根拠（依存）関係、生物と生命そのものとの根拠（依存）関係、従来の主観及び主体概念との相違について学びます。 |
| 7 | 鵜澤　和彦 | 第1章　心身相関と間主体性<br>５．境界はどこか ― 個体と集団 | 個体としての生と社会集団としての生、社会集団と環境的世界との相即、生活史としての個人や共同体の歴史全体としての環境、境界としての主体の存在、個別的主体性と集団的個別性という二重の主体性について学習します。 |
| 8 | 鵜澤　和彦 | 第1章　心身相関と間主体性<br>６．主体的身体 | 人間の歴史的自己意識、人間存在の一回性・唯一性・交換不可能性、歴史としての自己意識の本質、人間と他の生物種との共通点としての身体（からだ）、環境への適応的行動との境界としてのからだ、こころとしてのからだに関して学習します。 |
| 9 | 鵜澤　和彦 | 第1章　心身相関と間主体性 | 第6回から第8回までの課題の内容をふまえ、そのテーマ、並びに、第1章全体に関してグループディスカッションと全体発表を行います。 |
| 10 | 鵜澤　和彦 | 第２章　人間学的医学における生と死<br>１．〈生きている〉というアクチュアリティ | 生の価値と目的をめぐる思索、「生きている」という生命の基本的な現実（アクチュアリティ―）と有限な限りを持つ実在（リアリティー）の区別、「生きていること」（生命そのもの）と「生きているもの」（生物）の区別について学びます。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 11 | 鵜澤　和彦 | 第２章　人間学的医学における生と死<br>２．環境との「相即」－生きることの本質 | 生きている有機体と環境世界との不即不離の相互関係（相即）、音楽の比喩による相即の説明、生物と環境世界との境界としての生、存在と存在者との存在論的差異（ハイデガー）、ライプニッツのモナド論を学習します。 |
| 12 | 鵜澤　和彦 | 第２章　人間学的医学における生と死<br>３．「二重の境界を生きる」 | 個体の活動と集団行動、生物の行動の「利己性」と集団全体の利益を考慮した「利他性」、自己の生命と集団の生命、各自の個別的な志向性と集団全体の志向性との二重性、生き物と生命そのものとの二重性について学びます。 |
| 13 | 鵜澤　和彦 | 第２章　人間学的医学における生と死<br>４．「〈死〉の人称的差異」 | 生の越境としての死、一人称・二人称・三人称の立場からの考察、一人称的立場からの死の経験の不可能性、三人称的立場からの客観的な死の理解 |
| 14 | 鵜澤　和彦 | 第２章　人間学的医学における生と死<br>５．「医学への主体の導入」－ 二人称の関係の共有 | 二人称的立場からの死のアクチュアリティの理解を学習します。 |
| 15 | 鵜澤　和彦 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①こころとからだを一体とみなす「心身医学」の哲学的基礎を学ぶことができる。②有機体の生命活動を説明するゲシュタルトクライスを通して、医療の対人関係のあり方を学ぶことができる。③人間の生と死についての哲学的洞察（生の相互性と死の連帯性）を学ぶことができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>定期試験５０%、課題５０%の総合評価。課題は、授業内容を正しく理解しているかどうか、そして、筋道を立てて自分の考えを表現しているかどうか、という基準で評価されます。また、ディスカッションへの積極的な参加は、その内容に応じて加点対象とします。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 病気などやむを得ぬ理由で欠席した場合、classroomにアップロードしてある教材（講義原稿や授業資料など）で欠席した授業の内容を自習しておいてください。また、classroomを通じて、欠席した授業の課題を提出すれば、その課題は加点対象とします。受講生の積極的な授業参加を望みます。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | NPO法人、学会研修、文部省SSH事業などの経験を踏まえ、現代の医療・介護問題の本質を明らかにし、哲学的・倫理学的な解決策を考える。とくに、生と死に関する哲学的考察が、医療現場にどのように応用できるかを説明する。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | からだ・こころ・生命 | 木村敏 | 講談社学術文庫 | 600円 |
| **参考書** | あいだ | 木村敏 | ちくま学芸文庫 | 950円 |
| **参考書** | ゲシュタルトクライス　知覚と運動の人間学 | ヴァイツゼッガー（著）、木村敏・浜中淑彦（訳） | みすず書房 | 7,150円 |
| **参考書** | 哲学の変換と知の越境 | 牧野、小野原、斎藤、山本編 | 法政大学出版局 | 3,000円 |

# 哲学の楽しみB（生と死を考える　Ⅱ）

Philosophy B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　月２or水１
**科目責任者：** 鵜澤　和彦
**担当者：** 鵜澤　和彦※
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HC02／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | わたしたちは、どのようにして他者のこころを理解できるのでしょうか。たとえば、患者による病の受け止め方やQOL（生活の質）は、たとえ同じ症状であったとしても、人によって相違があります。このような差異が生じる理由は、生の意義、価値、目的が、人に応じて異なるからです。感情や情動は、いわば理性的思考の前景として、その思考や決断に影響を与えています。この点を理解し、患者に適切な医療を提供するためには、その患者の「生を生それ自身から」理解する必要があります。本授業は、ディルタイの「生の解釈学」を通して、人間の社会的・歴史的生や他者理解の構造（体験－表現－理解）を明らかにし、医療における人間関係論の哲学的基礎を学ぶことを目的とします。 |
| **教育内容** | 「生の哲学」の起点となったディルタイ解釈学のテキストを講読し、具体例を挙げて、その内容を分かりやすく解説していきます。そして、生の解釈学が、人文社会科学（ドイツ語では「精神科学」）、ならびに、医療における人間関係論の哲学的基礎をなすことを明らかにしていきます。また、テーマごとに行われるグループディスカッションを通して、内容理解の深化を図ります。その際、著者の主張の例証や反証を考えることで、互いに問題をよりよく理解し、それを言葉で表現できるように配慮します。【キーワード】精神科学、体験・表現・理解（追体験）、歴史的世界の構成、自己と環境世界（他者も含む）との作用連関、心的生の獲得連関、個人並びに共同体の創造物としての生の表現、生の客観化あるいは客観態、解釈学的循環 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>本授業は、授業支援システム（classroom）を使いながら講義形式で行います。クラスコードは qtgzzek です。各授業の終了時に、classroomを通じて、その授業に関する課題を出します。受講生は、次回の授業までに課題を送信してください。課題はclassroomを通して、評価をつけて返却されます。課題のフィードバックについては、テーマごとに行われるディスカッションの際、模範解答（参考資料）の配布という仕方で行われます。さらに、各テーマの終了時にグループディスカッションと全体発表を行い、様々な観点から内容理解の深化を図ります。なお、授業の出席・質問・感想は、出席票を兼ねたリアクションペーパーに記載してください。質問に対する返答（フィードバック）は、次回授業時に行います。教員との面談については、授業開始前や終了後にオフィスアワーの時間を作りますので、その時に教壇に来てください。教科書は、ディルタイ全集第4巻の該当箇所「歴史的世界の構成」をPDFにして、受講生に提供します。受講生はclasroomから教科書をダウンロードしてください。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：受講生は授業前に教科書の該当箇所を読み、あらかじめ概要を把握しておいて下さい。また、参考書を使って、専門用語の意味等を調べたり、よく分からない表現や箇所を見つけたりしてください。（約2時間）。<br>復習：授業時に配布された資料（講義原稿と参考資料）を読み直してください。また、ディスカッションでの他の受講生の意見を参考にしながら、そのテーマに関する自分の理解や考えをノートにまとめてください（約2時間）。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 鵜澤　和彦 | 授業ガイダンス | 教員の自己紹介、授業目標、到達目標、授業内容、授業の進め方、受講上の注意、成績評価の方法と基準、教科書と参考書、classroomの使い方のほか、導入として、ディルタイの生涯と学説について説明します。 |
| 2 | 鵜澤　和彦 | 第1部　精神科学論（1） | 精神科学とは何か、精神科学の対象としての人間、心身の統一体としての人間について学びます。 |
| 3 | 鵜澤　和彦 | 第1部　精神科学論（2） | 自然科学と精神科学、生の表出と理解、認識と理解、体験・表現・理解の連関について学習します。 |
| 4 | 鵜澤　和彦 | A. 精神科学論のまとめ | 第２回と第３回までの授業の振り返りと課題の内容をふまえ、グループディスカッションと全体発表を行います。 |
| 5 | 鵜澤　和彦 | B. 精神科学と歴史理論の発達（１） | 自然科学と精神科学の構成（成り立ち）、および、それらの科学と論理学と認識論の関係、精神科学の構成（成り立ち）と歴史的意識について学びます。 |
| 6 | 鵜澤　和彦 | B. 精神科学と歴史理論の発達（２） | 歴史的世界の構成（成り立ち）の二つの方向、自然科学と精神科学の構成の相違を学習します。 |
| 7 | 鵜澤　和彦 | C. 第1章 対象的把握の構造 | 対象的把握とそれによって成立する心的連関、その心的連関全体の一部としての体験、感覚の比較、同等性と差異性、論理的思考、判断と代表、推論の構造、体験の二方向について学びます。 |
| 8 | 鵜澤　和彦 | 精神科学と歴史理論のまとめ | 第5回から第7回までの授業の振り返りと課題の内容をふまえ、グループディスカッションと全体発表を行います。 |
| 9 | 鵜澤　和彦 | 対象的把握における連関 | 第３部「精神科学の連関に関する一般的命題」第１章「対象的把握」第2節「対象的把握における連関」について学びます。 |
| 10 | 鵜澤　和彦 | 心理学と解釈学 | 第3部「精神科学の連関に関する一般的命題」第2章「精神科学の構造」第１節「生と精神科学」の個所を学習します。 |
| 11 | 鵜澤　和彦 | 生と精神科学 | 第3部「精神科学の連関に関する一般的命題」第2章「精神科学の構造」第１節「生と精神科学」の個所を学習します。 |
| 12 | 鵜澤　和彦 | 対象的把握のまとめ | 第9回から第11回までの授業の振り返りと課題の内容をふまえ、グループディスカッションと全体発表を行います。 |
| 13 | 鵜澤　和彦 | 精神的世界が与えられる諸方式 | 第２節「精神的世界が与えられる諸方式」１．体験から生じてくる代現の系列、２．理解における相互依存の関係、３．二つの科学の絶えざる相互作用による生の表出の漸次的な解明を学びます。 |
| 14 | 鵜澤　和彦 | 生の解釈学全体の振り返り | ディルタイ哲学に関する授業全体を振り返り、彼の思想が自己や他者の理解にどのように貢献するかを総括します。また、その現代的意義を要約します。 |
| 15 | 鵜澤　和彦 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①他者の心的生を理解する解釈学を通して、他者理解の構造と方法、並びに、精神科学の基礎を理解することができる。②自己と他者ないしは環境的世界との作用連関、そして、自己の心的生の獲得連関（表象、概念、判断、推論など）によって、各個人の意味・価値・目的の形成とそれらの相違を把握することができる。③生の解釈学が、心理療法の分野での臨床的応用に優れていることを知ることができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>定期試験５０%、課題５０%の総合評価。課題は、授業内容を正しく理解しているかどうか、そして、筋道を立てて自分の考えを表現しているかどうか、という基準で評価されます。また、ディスカッションへの積極的な参加は、その内容に応じて加点対象とします。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 病気などやむを得ぬ理由で欠席した場合、classroomにアップロードしてある教材（講義原稿や授業資料など）で欠席した授業の内容を自習しておいてください。また、classroomを通じて、欠席した授業の課題を提出すれば、その課題は加点対象とします。受講生の積極的な授業参加を望みます。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | NPO法人、学会研修、文部省SSH事業などの経験を踏まえ、現代の医療・介護問題の本質を明らかにし、哲学的・倫理学的な解決策を考える。とくに、生と死に関する哲学的考察が、医療現場にどのように応用できるかを説明する。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | 精神科学における歴史的世界の構成・ディルタイ全集第4巻 | ディルタイ著、西谷敬訳 | 法政大学出版局 | 25,000円 |
| **参考書** | ディルタイ　その哲学への案内 | ボルノー著、麻生建訳 | 未来社 | 2,500円 |
| **参考書** | ディルタイと現代 | 西村・牧野・舟山編 | 法政大学出版局 | 4,400円 |

# 科学を考えるA（科学技術と社会･倫理のつながり）

Philosophy of Science A

**科 目 概 要 ：** 2025年度　前期／2単位
**授 業 対 象 ：** 指定なし　火２or木１
**科目責任者 ：** 大石　敏広
**担　当　者 ：** 大石　敏広
**備　　考 ：** 科目ナンバリング：L101-HC03／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 現代社会は高度技術社会です。科学技術が社会の中に浸透しており、科学技術なしでは現代社会は成り立ちません。現代社会において私たちは、科学技術による恩恵のもとに生活しているのです。しかし、技術者が作ったものが時には、私たちに被害をもたらすこともあります。そこで、技術者が科学技術をどのように取り扱うべきかという問題について論じる技術者倫理という学問が成立しました。私たちも現代社会の一員である以上、科学技術をどのように取り扱っていくべきかという問題に無関心であってはなりません。本講義では、技術者倫理の問題を通して、現代社会において科学技術をどのように取り扱うべきかについて皆さんと考えていきたいと思います。 |
| **教育内容** | まず、技術者倫理の重要な論点を取り上げ、それぞれの論点ついて理解を深めていきます。次に、そうした理解を踏まえて、それぞれの論点について各自で思考をめぐらしてもらいます。最後に、議論の場を設け、自己表現に挑戦してもらいます。<br>キーワード：倫理的責任、倫理的問題、道徳的ジレンマ、リスク、安全、科学と環境、グローバルな視野、内部告発 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義は、教科書を中心に行いますが、それ以外の内容も取り扱います。パワーポイントを利用し、パワーポイントの資料やプリントを配布します。課題ワークを行う場合もあります。必要に応じてビデオを見ます。一方向的な講義ではなく、双方向的な講義を行ないます。<br>【フィードバックの方法】<br>ワークについて講義内で皆で議論をし、次の講義の最初で解説します。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：講義前に、教科書（できたら参考書も）の該当箇所を読んでおく。<br>復習：講義資料やプリントを参考に、再度教科書の該当箇所を読み、科学技術についての問題点をまとめる。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 大石　敏広 | ガイダンス | 講義目標、講義内容、講義方法、評価方法などについて説明します。科学技術の問題について誰が考えるべきかについて考えます。 |
| 2 | 大石　敏広 | 科学技術と技術者倫理 | 技術者倫理とは何か、なぜ技術者倫理が必要とされたのか、私たちは技術者倫理とどのようにつながっているのかについて説明します。 |
| 3 | 大石　敏広 | 科学技術と倫理的責任 | 科学技術は倫理とつながっています。科学技術を取り扱ううえで、どのような倫理的責任が必要とされるのかについて考えます。 |
| 4 | 大石　敏広 | 道徳的ジレンマ | 道徳的なジレンマが、重大な問題を引き起こす原因です。道徳的ジレンマとは何か、道徳的ジレンマと価値の問題がどのように関わっているのかについて考えます。 |
| 5 | 大石　敏広 | 倫理的問題の解決 | 科学技術が存在することによって、倫理的問題が生まれてきます。科学技術に関連して生じる倫理的問題をどのように解決していったらいいのかについて考えます。 |
| 6 | 大石　敏広 | 設計的思考 | 工学における設計という行為は興味深いものを含んでいます。工学の設計問題を解決する方法論が、倫理問題解決にどのように利用できるかについて考えます。 |
| 7 | 大石　敏広 | 科学技術のリスク・安全性 | 私たちの生活と科学技術のリスクは切っても切れない関係にあります。科学技術のリスク・安全性の問題において何が重要かについて考えます。 |
| 8 | 大石　敏広 | 科学技術と環境 | 科学技術について考えることは、環境について考えることです。科学技術は、環境破壊の主要原因だからです。科学技術が環境といかに関わっているかについて解説します。 |
| 9 | 大石　敏広 | 科学技術とグローバル化 | 科学技術とグローバル化がいかに関わっているかを理解し、どのようなグローバル的視野を持つべきかについて考えます。 |
| 10 | 大石　敏広 | 内部告発の問題 | 会社がひどい不正をしているとき、あなたは内部告発できますか。内部告発とは何か、どのような時に内部告発をすべきかについて考えます。 |
| 11 | 大石　敏広 | 内部告発の事例研究 | 内部告発についてのビデオを見て、どこに問題があるのか、自分は内部告発できるかなどについて考えます。 |
| 12 | 大石　敏広 | 科学哲学特殊講義Ⅰ | 科学哲学の文献を読解しながら、その内容について皆で議論をします。 |
| 13 | 大石　敏広 | 科学哲学特殊講義Ⅱ | 科学哲学の文献を読解しながら、その内容について皆で議論をします。 |
| 14 | 大石　敏広 | 解説と討議 | 科学哲学の文献についての質問に答えながら討議をします。 |
| 15 | 大石　敏広 | まとめ | これまでの講義の総括をします。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 科学技術と社会・倫理のつながりについて理解できるようになる。<br>科学技術の問題点について実感できる。<br>自分の意見をまとめることができる。<br>自分の意見を発展させることができる。<br>多元的な思考ができる。<br>自己表現ができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>講義において提出してもらう課題ワーク（50%）、最終課題ワーク（50%）、討論参加状況によって成績評価します。なお、欠席は減点となります。<br>ワークの評価は、課題の内容を理解して自分の考えを提示しているかどうかを基準とします。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | この講義では、知識を得ることよりもむしろ、知識をもとに自ら考え、まとめ、表現することが求められます。積極的に講義に参加してもらいたいと思います。講義中にワークをするので、できるだけ休まないようにしてください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 技術者倫理の現在 | 大石敏広 | 勁草書房 | 2,700円 |
| **参考書** | 技術者倫理の世界〈第3版〉 | 藤本温他 | 森北出版 | 2,052円 |
| **参考書** | はじめての工学倫理〈第3版〉 | 齊藤了文・坂下浩司編 | 昭和堂 | 1,512円 |
| **参考書** | 理系のための科学技術者倫理 | 直江清隆、盛永審一郎、大石敏広、他 | 丸善 | 2,592円 |

# 科学を考えるB（科学の限界について考える）

Philosophy of Science B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　火１or木２
**科目責任者：** 大石　敏広
**担当者：** 大石　敏広
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HC04／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 現代社会においては、遺伝子組み換え作物、原子力発電所、再生医療などをめぐる科学（技術）の問題が重大なものとして生じてきています。現在、こうした問題に私たちはどのように向き合っていったらいいのかが問われています。この問いに答えるためには、問題を専門家任せにすることはできません。本講義では、現代社会において生じている科学（技術）に関連した問題をどのように解決していったらいいのかについて考えるための手掛かりを提供したいと考えています。 |
| **教育内容** | まず、現代社会と科学（技術）の関わりをめぐるトピックを取り上げ、できるだけ具体的な事例を挙げながら説明していきます。次に、そのトピックに関する課題を提示しますので、それについて各自考えて、それを文章に表現してもらいます。最後に、討論の場を設けて、自己表現に挑戦してもらいます。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布します。パワーポイントとAV機器を使用します。ディスカッションの場を設けます。必要に応じてビデオを見ます。課題ワークを行う場合もあります。一方向的な講義ではなく、双方向的な講義を行ないます。<br>【フィードバックの方法】<br>課題ワークについて講義内で皆で議論をし、次の講義の最初で解説します。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：下記に挙げた参考書やその他の文献における講義に関連する部分を読んでおく。<br>復習：講義資料やプリントを参考に、講義で取り上げたテーマに関する問題点を明確にして、それについての自分の考えをまとめておく。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 大石　敏広 | ガイダンス | 講義の目標・内容、講義方法、評価方法について説明をします。 |
| 2 | 大石　敏広 | 科学（技術）の問題とは何か | 科学（技術）というものに着目してみましょう。どのように科学（技術）についての問題が生じてきたのかを考えます。 |
| 3 | 大石　敏広 | 科学の客観性 | 科学は客観的？　科学の客観性とはどういうものか、科学は本当に客観的なのかについて考えます。 |
| 4 | 大石　敏広 | 科学の確実性 | 科学は本当に確実？　科学の確実性とはどういうものか、科学がどの程度の確実性を有しているのかについて考えます。 |
| 5 | 大石　敏広 | トランス・サイエンスの問題 | 現代社会には、トランス・サイエンスの問題がゴロゴロしています。科学（技術）は必要だが、科学（技術）だけでは解決できない問題について考えます。 |
| 6 | 大石　敏広 | 科学と公共性の繋がり | 科学（技術）は、社会から独立していません。現代社会において、科学（技術）を公共性の観点から見直すことの重要性について考えます。 |
| 7 | 大石　敏広 | 科学的合理性と社会的合理性 | 二つの合理性があります。科学的な妥当性によって保障される科学的合理性と、公共での妥当性によって保障される社会的合理性の違いについて考えます。 |
| 8 | 大石　敏広 | 科学コミュニケーションの重要性 | 科学（技術）とコミュニケーションのつながりに着目します。科学（技術）に関わる問題を解決していくうえでのコミュニケーションの重要性について考えます。 |
| 9 | 大石　敏広 | コンセンサス会議 | 私たちは、科学（技術）の問題について合意できるでしょうか。社会的意思決定に市民が積極的に参加していく可能性について考えます。 |
| 10 | 大石　敏広 | サイエンス・ショップ | 科学（技術）の問題を解決するためには協力が必要です。専門家と非専門家が協働して問題を解決していく可能性について考えます。 |
| 11 | 大石　敏広 | 科学哲学特殊講義Ⅰ | 科学哲学の文献を読解しながら、その内容について皆で議論をします。 |
| 12 | 大石　敏広 | 科学哲学特殊講義Ⅱ | 科学哲学の文献を読解しながら、その内容について皆で議論をします。 |
| 13 | 大石　敏広 | 科学哲学特殊講義Ⅲ | 科学哲学の文献を読解しながら、その内容について皆で議論をします。 |
| 14 | 大石　敏広 | 解説と討議 | これまで読解した科学哲学の文献についての質問に答えながら討議をします。 |
| 15 | 大石　敏広 | まとめ | これまでの講義の総括をします。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 社会と科学（技術）の関わりについて考えることができるようになる。<br>現代社会において生じている科学（技術）の問題について理解できるようになる。<br>問題の解決法について理解できるようになる。<br>自分の意見をまとめることができるようになる。<br>自分の意見を発展させることができるようになる。<br>多元的な思考ができる。<br>自己表現ができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>講義において提出してもらう課題ワーク（50%）、最終課題ワーク（50%）、討論参加状況によって成績評価します。なお、欠席は減点となります。<br>ワークの評価は、課題の内容を理解して自分の考えを提示しているかどうかを基準とします。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 積極的な講義参加を希望します。講義のつながりがありますので、できるだけ休まないでください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | テクノリテラシーとは何か | 齊藤了文 | 講談社 | 1,728円 |
| 参考書 | 市民科学者として生きる | 高木仁三郎 | 岩波書店 | 886円 |
| 参考書 | 原発事故はなぜくりかえすのか | 高木仁三郎 | 岩波書店 | 756円 |
| 参考書 | 誰が科学技術について考えるのか――コンセンサス会議という実験 | 小林傳司 | 名古屋大学出版会 | 3,888円 |
| 参考書 | 技術者倫理の現在 | 大石敏広 | 勁草書房 | 2,700円 |

# 芸術の楽しみA（音楽の構造と分析）

Fine Arts and Music A

**科 目 概 要 ：** 2025年度　前期／2単位
**授 業 対 象 ：** 指定なし　水１or水２or木１or木２
**科目責任者 ：** 安川　智子
**担　当　者 ：** 安川　智子
**備　　考 ：** 科目ナンバリング：L101-HC05／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 「音楽」はどのような仕組みで音楽として成り立っているのでしょうか。雑音や騒音、生活音とはどこが違うのでしょうか。この授業では、西洋音楽を中心に様々な「音楽」を取り上げて、その成り立ちや構造を多角的に検証し、音楽を分析する様々な方法を学んでいきます。また音楽を分析することによって、新しい考え方、思考法を養うことを目的とします。 |
| **教育内容** | クラシック、J-POP、ジャズを中心に、ジャンルに囚われず毎回一つ以上の音楽作品を素材として、主に「音（録音）」と「楽譜」または「音声付き映像」をもとに分析していきます。基礎的な楽譜（五線譜）の読み方が分かっていることが望ましいですが、授業を通じて、楽譜の読み方を身につけることもできます。なお、2025年度は木曜２限のみ対面授業、そのほかはオンライン授業となります。 |
| **教育方法** | 【この授業は木曜２限のみ対面授業、水曜（１、２限）と木曜１限はオンライン授業です】<br>教材はプリント（pdf）を配布し、参考書を活用します。講義、鑑賞を経て、毎回受講生自ら音楽作品について能動的に考えを書く時間をとります。質問やよいコメントについては、次の授業やGoogle Classroom上にて回答または紹介します。<br>【フィードバックの方法】授業内でのコメント紹介、質問への回答。<br>【Google Classroomクラスコード】水・木共通：i64ay65 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：各回でとりあげる楽曲について、クラシック音楽については、ナクソス・ミュージック・ライブラリー等で聴いておくとよい。予習時間として毎回1時間程度が期待される。<br>復習：授業内で分からなかった専門用語は、必ず図書館の辞書等で調べ、それでも分からない点については次の授業で質問する。授業内で紹介した音楽を積極的にCD・ナクソス等で鑑賞し、紹介した参考文献を少しでも手に取って読んでみること。復習時間として毎回2時間程度が期待される。<br>その他レポート作成に要する時間も含めて、計60時間の授業時間外学習が期待される。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 安川　智子 | 授業ガイダンス | 授業内容や進め方についてのガイダンス。 |
| 2 | 安川　智子 | 音楽のジャンルと構造 | 音楽作品に向き合うにあたっての前提や視点について解説します。 |
| 3 | 安川　智子 | J-POPから始めよう | ポピュラー音楽の構造について　いくつかの名曲をもとに基本的な分析のポイントを解説します |
| 4 | 安川　智子 | 音楽理論の基礎（楽典） | 音楽を分析する上で最低限必要となる理論的な知識を、ひきつづきJ-POPを素材に解説します。 |
| 5 | 安川　智子 | バロック音楽 | ポピュラー音楽との親和性も高いバロック時代の西洋音楽を、パッヘルベルのカノン～バッハまで、構造から分析します。 |
| 6 | 安川　智子 | ピアノとピアノ作品 | ピアノという楽器の誕生によって生まれた、西洋の古典派音楽の仕組みを解説します。（D. スカルラッティ～） |
| 7 | 安川　智子 | モーツァルトの音楽 | モーツァルトの鍵盤作品を中心に、ひきつづき西洋の古典派音楽とその形式について学びます。 |
| 8 | 安川　智子 | ベートーヴェンと長調・短調 | ベートーヴェンの音楽を例に、長調と短調をどのように使って音楽を構成しているのか、解説します。 |
| 9 | 安川　智子 | 調について | 様々な楽曲を例に、西洋音楽やJ-POPでも基本となる音楽の「調」「調性」についてさらに理解を深めます。 |
| 10 | 安川　智子 | 声楽曲 | 歌詞のある声楽曲を例に、器楽曲との違いや共通点を探ります。 |
| 11 | 安川　智子 | ジャズ、洋楽 | ジャズやビートルズなどの洋楽の魅力を探ります。 |
| 12 | 安川　智子 | 西洋以外の音楽（ワールドミュージック） | 日本も含めた、西洋以外の国々の音楽について、あるいはジャンル横断型の音楽について、これまでとは異なる構造と分析法を探ります。 |
| 13 | 安川　智子 | リクエスト曲 | みなさんからのリクエストをもとに、新しい楽曲の魅力を分析によって探ってみます。 |
| 14 | 安川　智子 | 自由課題 | 試験対策として、各自で気になる音楽を持ち寄り、これまでの授業で取り組んだ音楽例と照らし合わせながら、分析してみましょう。講師が適宜アドバイスを行います。 |
| 15 | 安川　智子 | まとめとフィードバック | 授業の総括とこれまでの質問に対する解説 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1）西洋音楽や演劇の基礎知識を身につける。<br>2）音楽の聴き方や音楽の分析についての様々な方法を知る。<br>3）自分自身で実践的に音楽を分析することができる。<br>4）現在の音楽文化に関心をもち、その進む方向性について考え、評価することができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：学期末試験 実施時期：試験期間内<br>期末試験（50%）、その他授業内課題、参加度など（50%） |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 音楽を鑑賞して楽しむだけでなく、なぜ名曲なのか、なぜ多くの人に受け入れられるのか、音楽がどのように人の心を動かすのか、など様々な観点から分析し、音楽について考える方法を知ることで、より深い音楽との付き合い方ができるようになります。また時代を超えて残る名作品から、現代を生き抜く知恵を学びましょう。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | 神曲のツボ！　「カッコいい」の構造分析 | 坪口昌恭 | アルテスパブリッシング | 2,000円 |
| 参考書 | 歌詞のサウンドテクスチャー | 木石岳 | 白水社 | 2,970円 |
| 参考書 | 調性で読み解くクラシック | 吉松隆 | ヤマハミュージックメディア | 950円 |
| 参考書 | ハーモニー探究の歴史―思想としての和声理論 | 西田紘子・安川智子編著 | 音楽之友社 | 2,700円 |
| 参考書 | 一般音楽論 | 清水響 | リットーミュージック | 2,750円 |

# 芸術の楽しみB（西洋音楽の歴史と鑑賞）

Fine Arts and Music B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　水１or水２or木１or木２
**科目責任者：** 安川　智子
**担当者：** 安川　智子
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HC06／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 西洋音楽（クラシック音楽）を中心に、今日のコンサートで取り上げられている名曲や傑作を歴史のなかに位置付け、鑑賞法を学びます。そのうえで「コンサート」という社会活動を出発点に、「作品ー演奏ー鑑賞」の一連の音楽創作と受容活動を現代や未来の社会のなかに位置づけ、音楽が人間の精神や生活に与える影響について考えます。 |
| **教育内容** | 毎回一つ以上の音楽作品を素材として、作品の背景や歴史を学び、鑑賞していきます。基礎的な楽譜（五線譜）の読み方が分かっていることが望ましいですが、授業を通じて、楽譜の読み方を身につけることもできます。また音楽作品だけでなく「音楽批評」もとりあげ、人がどのように鑑賞しているのかについて、意見を交換します。<br>2025年度は木曜２限のみ対面授業、そのほかはオンライン授業となります。 |
| **教育方法** | 【この授業は木曜２限のみ対面授業、水曜（１、２限）と木曜１限はオンライン授業です】<br>教材はプリント（pdf）を配布し、参考書を活用します。なお本学はナクソス・ミュージック・ライブラリーと契約していますので、音源教材として利用します。講義、鑑賞を経て、毎回受講生自ら音楽作品について能動的に考えを書く時間をとります。質問やよいコメントについては、次の授業やGoogle Classroom上にて回答または紹介します。<br>【フィードバックの方法】授業内でのコメント紹介、質問への回答。<br>【Google Classroomクラスコード】水・木共通：6jfhcdv |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：各回でとりあげる楽曲について、ナクソス・ミュージック・ライブラリー等で聴いておくとよい。予習時間として毎回1時間程度が期待される。<br>復習：授業内で分からなかった専門用語は、必ず図書館の辞書等で調べ、それでも分からない点については次の授業で質問する。授業内で紹介した音楽を積極的にCD・ナクソス等で鑑賞し、紹介した参考文献を少しでも手に取って読んでみること。復習時間として毎回2時間程度が期待される。<br>その他レポート作成に要する時間も含めて、計60時間の授業時間外学習が期待される。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 安川　智子 | 授業ガイダンス | 授業内容や進め方についてのガイダンス。 |
| 2 | 安川　智子 | 西洋音楽史とコンサート | これから学ぶ「西洋音楽史」の概観と、現代の日本におけるクラシック・コンサートの在り方について |
| 3 | 安川　智子 | ベートーヴェンと交響曲 | コンサートの中心にある「交響曲」とは何か、ベートーヴェンを中心に解説します。 |
| 4 | 安川　智子 | ピアノ音楽とピアニスト | ピアノやピアノ・ソナタ、そのほかピアノのための音楽作品を歴史とともに解説し、ピアニストの違いによっていかに異なるかを考えていきます。 |
| 5 | 安川　智子 | 室内楽 | ピアノと弦楽器、管楽器などを用いた少人数の室内楽作品について、その歴史や成り立ちとともに、鑑賞法を学びます。 |
| 6 | 安川　智子 | まとめとクイズ | これまでの復習と音源クイズを行います。 |
| 7 | 安川　智子 | 古楽のコンサート | ピリオド楽器について、「古楽」のコンサートについて。「古楽」と「モダン」の越境について |
| 8 | 安川　智子 | 宗教合唱曲 | オラトリオやミサ曲から受難曲まで、宗教合唱曲の成り立ちと鑑賞法について |
| 9 | 安川　智子 | ヴィヴァルディとJ.S.バッハの音楽 | バロック時代を代表するイタリアのヴィヴァルディとドイツのバッハについて、その重要性と鑑賞法について |
| 10 | 安川　智子 | まとめとクイズ | これまでの復習と音源クイズを行います。 |
| 11 | 安川　智子 | さまざまな管弦楽曲 | 交響曲以外の管弦楽曲について　標題つきの管弦楽作品について |
| 12 | 安川　智子 | 声楽曲とオペラ | 演奏会形式のオペラや、舞台演出付きのオペラ、そのほか声楽を含む音楽作品の魅力を探ります。 |
| 13 | 安川　智子 | バレエとミュージカル | バレエ音楽やミュージカル作品の魅力を探ります |
| 14 | 安川　智子 | まとめとクイズ | これまでのまとめと最後の音源クイズ、そして簡単な鑑賞レポート（または音楽批評）を執筆します。 |
| 15 | 安川　智子 | 鑑賞レポートのフィードバック | レポートとそれについてのまとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | １）西洋音楽の基礎知識を身につける。２）作曲家や音楽作品を歴史のなかに位置づけることができる。<br>３）音楽の聴き方についての様々な方法を知り、聴く耳を養う。<br>４）音楽批評のあり方を検証し、現在の音楽文化に関心をもち、その進む方向性について考え、評価することができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：クイズとレポート 実施時期：試験期間外<br>期末の小レポート（50%）、その他授業内課題（音源クイズ）、参加度など（50%） |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 音楽を鑑賞して楽しむだけでなく、なぜ名曲なのか、なぜ多くの人に受け入れられるのか、音楽がどのように人の心を動かすのか、など様々な観点から分析し、音楽について考える方法を知ることで、より深い音楽との付き合い方ができるようになります。また時代を超えて残る名作品から、現代を生き抜く知恵を学びましょう。前期の芸術の楽しみA（音楽）や後期の教養演習C（安川）を合わせて履修することで、より立体的に学ぶことができます。また可能ならぜひ実際のコンサートに足を運んでみましょう。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | 決定版　はじめての音楽史 | 久保田慶一ほか | 音楽之友社 | 2,000円 |
| 参考書 | つながりと流れがよくわかる西洋音楽の歴史 | 岸本宏子ほか | アルテスパブリッシング | 2,200円 |
| 参考書 | 楽譜をまるごと読み解く本 | 西村 理/沼口 隆/沼野 雄司/松村 洋一郎/安田 和信 | ヤマハミュージックメディア | 1,045円 |
| 参考書 | オペラ　愛の壊れるとき　名作がしかける涙のレトリック | 長木誠司 | 音楽之友社 | 2,750円 |
| 参考書 | ミュージカルの解剖学 | 長屋晃一 | 春秋社 | 2,600円 |

# 芸術の楽しみA（西洋美術史）

Fine Arts and Music A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　火１or火２
**科目責任者：** 星　聖子
**担　当　者：** 星　聖子※
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-HC05／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 本講義では、絵画、彫刻、建築といった美術作品を通じ、先史時代から近代に至るまでの西洋文化の展開を概観する。これにより学生は、現代社会の重要な一翼を担う西洋文化圏の思想背景を理解し、国際社会で活動するための基本的教養を身につける。 |
| **教育内容** | 先史時代から20世紀初頭に至るまでの西洋美術の展開を、各時代に隆盛した様式（形の特徴）とともに概観する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>多数のスライドを用い、実際に作品分析を行いつつ、その文化、思想、社会背景について解説する。<br>【フィードバックの方法】<br>各回ごとに、学習支援システム上にアンケートを設け、授業内、復習時に生じた質問、所感を受け付け、必要に応じて全体へのコメントフィードバックを行う。<br>また作品情報を記したスライドリストを学習支援システム（下記リンクよりアクセス可）に置くので、必要に応じてプリントアウトし、授業に利用すること。<br>スライドリストを参照したい人は、第1回目の授業に1ページ目をプリントアウトして持参すること。<br>googleclassroomクラス名：芸術の楽しみA　2025年度　担当：星　聖子<br>googleclassroom招待リンク：https://classroom.google.com/c/NzM2NDQ2MzIwMzIz?hl=ja&cjc=vpmzdxg<br>クラスコード：vpmzdxg |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：前回の授業内容をノートにより確認しておくこと。<br>復習：授業内容をノートにまとめ、必要であれば、参考文献を用い、復習をすること。<br>準備学習の目安時間：4時間／回 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 星　聖子 | 西洋美術史１ | 先史美術～エジプト美術 |
| 2 | 星　聖子 | 西洋美術史２ | 古代エーゲ海美術～ギリシャ・アルカイック美術 |
| 3 | 星　聖子 | 西洋美術史３ | ギリシャ・クラシック美術～ギリシャ・ヘレニズム美術 |
| 4 | 星　聖子 | 西洋美術史４ | ローマ美術～初期キリスト教美術 |
| 5 | 星　聖子 | 西洋美術史５ | ビザンティン美術 |
| 6 | 星　聖子 | 西洋美術史６ | ロマネスク美術 |
| 7 | 星　聖子 | 西洋美術史７ | ゴシック美術 |
| 8 | 星　聖子 | 西洋美術史８ | ルネサンス美術１ |
| 9 | 星　聖子 | 西洋美術史９ | ルネサンス美術２ |
| 10 | 星　聖子 | 西洋美術史１０ | ルネサンス美術３～マニエリスム |
| 11 | 星　聖子 | 西洋美術史１１ | バロック美術 |
| 12 | 星　聖子 | 西洋美術史１２ | ロココ美術～革命期の美術 |
| 13 | 星　聖子 | 西洋美術史１３ | 新古典主義、ロマン主義 |
| 14 | 星　聖子 | 西洋美術史１４ | 写実主義～印象主義～象徴主義、世紀末美術 |
| 15 | 星　聖子 | 解説 | 授業全体を通じての疑問点、さらなる関心事項について個別に解説する。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 西洋美術における様式の概念を理解し、その特徴を自分なりにイメージできるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：レポート 実施時期：試験期間外<br>期末レポート評価100%<br>授業内にて、レポート課題を公表し、レポート作成に必要な論理展開の方法など、取り組み方についての解説を行う。その際、大学生以上のレポートに必要となる項目（考察、引用の作法など）、評価基準について説明する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 様式の特徴は、多くの作例を見て、その共通点を自ら見いだすことにより初めて把握できるものです。授業では、スライドで多数の作例を提示します。授業に出席し、「自分なりの」様式を見いだすよう努めて下さい。様式を理解することにより、身近な建築や展覧会で見る美術作品などを、豊かな視野で楽しめるようになりましょう。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 担当教員は、民間企業において、宇宙利用開発の要素技術開発エンジニアとしての勤務経験を有します。美術史と専門分野は異なりますが、論理的に対象を分析する手法については共通点があります。この授業では、美術作品を対象に、歴史状況を材料とした論理的作品分析手法を用いて、様式の解説を進めていきます。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | 西洋美術史ハンドブック | 高階 秀爾、三浦 篤(編) | 新書館 | 1,995円 |
| 参考書 | カラー版 西洋美術史 | 高階 秀爾 | 美術出版社 | 1,995円 |
| 参考書 | 美術の物語 | E.H.ゴンブリッチ | ファイドン | 7,329円 |

# 芸術の楽しみB（西洋美術の図像学）

Fine Arts and Music B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　火１or火２
**科目責任者：** 星　聖子
**担当者：** 星　聖子※
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HC06／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 美術鑑賞において、作品に表されている意味内容を理解することは、新たな鑑賞の観点を開くものであり、芸術を楽しむひとつの要素となろう。本講義では、西洋美術に登場する物語、説話また様々な象徴物について解説する。これにより学生は、芸術作品に親しむと同時に、西洋文化を構成する基本的な枠組みであるキリスト教と古典古代についての基礎教養を身につける。 |
| **教育内容** | 西洋美術に表される主題は様々であるが、その中でもキリスト教説話とギリシア神話は重要な部分を占める。これらの主題の基本的な物語内容を作品を見ながら解説し、同時に西洋文化の約定に基づく様々な象徴についても明らかにしていく。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>スライドを用い、多数の作品を参照しながら、物語、説話についての解説を行う。<br>【フィードバックの方法】<br>各回ごとに、学習支援システム上にアンケートを設け、授業内、復習時に生じた質問、所感を受け付け、必要に応じて全体へのコメントフィードバックを行う。<br>また作品情報を記したスライドリストを学習支援システム（下記リンクよりアクセス可）に置くので、必要に応じてプリントアウトし、授業に利用すること。<br>スライドリストを参照したい人は、第1回目の授業に1ページ目をプリントアウトして持参すること。<br>googleclassroomクラス名：芸術の楽しみB　2025年度　担当：星　聖子<br>googleclassroom招待リンク：https://classroom.google.com/c/NzM2NDQ2NjIyNzcx?hl=ja&cjc=dlrsr2k<br>クラスコード：dlrsr2k |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：前回のノートを見直し、内容を把握しておくこと。<br>復習：授業内容をノートにまとめ、必要であれば、参考文献に目を通し、復習しておくこと。<br>準備学習の目安時間：4時間／回 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 星　聖子 | 図像学とは何か？ | 作品の意味内容を理解する上で必要となる図像学という学問について説明する。 |
| 2 | 星　聖子 | ギリシア神話１ | 太古の神々についての物語解説 |
| 3 | 星　聖子 | ギリシア神話２ | オリュンポスの神々についての物語解説１ |
| 4 | 星　聖子 | ギリシア神話３ | オリュンポスの神々についての物語解説２ |
| 5 | 星　聖子 | ギリシア神話４ | 英雄とトロイア戦争についての物語解説１ |
| 6 | 星　聖子 | ギリシア神話５ | 英雄とトロイア戦争についての物語解説２ |
| 7 | 星　聖子 | ギリシア神話６ | 英雄とトロイア戦争についての物語解説３ |
| 8 | 星　聖子 | キリスト教説話１ | キリスト教の基礎知識についての解説 |
| 9 | 星　聖子 | キリスト教説話２ | キリスト伝１:キリストの幼年時代についての解説１ |
| 10 | 星　聖子 | キリスト教説話３ | キリスト伝２:キリストの幼年時代についての解説２ |
| 11 | 星　聖子 | キリスト教説話４ | キリスト伝３：:キリストの公生涯についての解説 |
| 12 | 星　聖子 | キリスト教説話５ | キリスト伝４：キリストの受難伝についての解説１ |
| 13 | 星　聖子 | キリスト教説話６ | キリスト伝５：キリストの受難伝についての解説２ |
| 14 | 星　聖子 | キリスト教説話７ | キリスト伝６：復活後のキリストおよび最後の審判についての解説 |
| 15 | 星　聖子 | 解説 | 授業全体を通じての疑問点、さらなる関心事項について個別に解説する。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 西洋美術に表されるキリスト教説話およびギリシア神話について、おおよその流れを理解できるようになる。同時に、西洋文化の根幹をなすキリスト教および古典古代のギリシア・ローマに関する基礎知識を身につける。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：レポート 実施時期：試験期間外<br>期末レポート評価100%<br>授業内にてレポート課題を公表し、レポート作成に必要な論理展開の方法など、取り組み方についての解説を行う。その際、大学生以上のレポートに必要となる項目（考察、引用の作法など）、評価基準について説明する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 毎回スライドでたくさんの作品を見ていく授業です。授業に出席し、物語の流れをつかむよう努めて下さい。美術作品に表される物語を理解することにより、豊かな作品鑑賞の世界を広げていきましょう。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 担当教員は、民間企業において、宇宙利用開発の要素技術開発エンジニアとしての勤務経験を有します。美術史と専門分野は異なりますが、論理的に対象を分析する手法については共通点があります。この授業では、美術作品を対象に、歴史状況を材料とした論理的作品分析手法を用いて、作品内容の解説を進めていきます。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | 西洋美術解読事典 | J・ホール | 河出書房新社 | 5,040円 |
| 参考書 | 図説 ギリシア神話「神々の世界」篇 | 松島 道也 | 河出書房新社 | 1,890円 |
| 参考書 | 図説 ギリシア神話「英雄たちの世界」篇 | 松島 道也・岡部紘三 | 河出書房新社 | 1,890円 |
| 参考書 | 西洋絵画の主題物語〈1〉聖書編 | 諸川 春樹 | 美術出版社 | 2,940円 |
| 参考書 | 西洋絵画の主題物語〈2〉神話編 | 諸川 春樹 | 美術出版社 | 2,940円 |

# 倫理学A

Ethics A

**科 目 概 要 ：** 2025年度　前期／2単位
**授 業 対 象 ：** 指定なし　木１or木２／ P学部　金１or金２／ N学部　金１or金２／ A学部　金１or金２
**科目責任者 ：** 小林　亜津子
**担　当　者 ：** 小林　亜津子
**備　　考 ：** 科目ナンバリング：L101-HC07／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 科学技術の「進歩」は、人類に多くの恩恵を与えています。しかし、同時に、環境破壊を始めとした、人類の生存をも脅かしかねない数多くの問題をももたらしています。ヒトゲノム・プロジェクトによる遺伝子解読技術、体外授精や代理母等の生殖医療技術にみられる生命操作など、現代の最先端技術は今も驚異的な展開を示し、これまで考えられもしなかった様々な倫理問題を引き起こしています。授業では、科学技術が、人間の生命・環境・日常生活に大きく介入することによって生じてきた現代の倫理問題を検討していきます。 |
| **教育内容** | 生命倫理・環境倫理の代表的なトピックを毎回一つずつ取り上げ、具体的なケースを検討しながら、議論を整理していきます。技術の急速な進歩がつぎつぎと投げかける新しい問題に、倫理学が追いつかないという状況が生じていることを知ってもらいます。その上で、それぞれの技術に対するガイドラインを、皆さん自身に作成してもらいたいと思います。 |
| **教育方法** | 【この授業は全てオンラインで実施します】<br>教科書を2冊使用し、オンラインで行います。授業プリント等は、授業開始前にGoogle Classroom上で配布します。それぞれのテーマについて、教科書と講義映像を使いながら、具体的な事例に即して、授業を展開していきます。講義の終わりに、随時、その時々のテーマに応じたリアクションペーパーを書いて、Google Classroom上に提出してもらいます。【フィードバックの方法】印象的な意見などがあれば、適宜、紹介します。<br>【Google Classroomクラスコード】木1：sprrccx　木2：cukeznu　金1：mt2ept6　金2：mi5pp4n |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>課題図書：小林亜津子著『はじめて学ぶ生命倫理』ちくまプリマー新書、2011年、小林亜津子著『看護のための生命倫理＜改訂三版＞』ナカニシヤ出版、2019年<br>予習：テーマに関連した記事をインターネットで検索したり、参考書内の該当するテーマの章に目を通しておく（120分程度）。<br>復習：授業ノートにもう一度目を通し、授業内で触れた事件等について自分で調べてみる（120分程度）。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 小林　亜津子 | 授業ガイダンス | 講義内容や授業の進め方、評価方法について説明する。 |
| 2 | 小林　亜津子 | ドーピングとスマートドラッグ | ドーピングやスマートドラッグはなぜいけないのか？エンハンスメント（治療を超えた医療的介入）の倫理問題を考える。 |
| 3 | 小林　亜津子 | DIと家族 | DI（非配偶者間人工授精）によって子どもをもうけた夫婦やシングルマザーと、生まれた子どもとの関係をめぐる問題を検討していく。 |
| 4 | 小林　亜津子 | DIチルドレンの出自を知る権利 | 生物学上の父親を知りたい！と願うDIチルドレン（人工授精児たち）の心情と、ドナーや精子バンク側の対応について、現状を紹介しながら考えていく。 |
| 5 | 小林　亜津子 | 脳死と臓器移植 | 脳死とはどのような状態か？それは人の「死」なのか？さらに子どもの臓器提供や親族優先提供など、移植医療のもたらす倫理問題を考える。 |
| 6 | 小林　亜津子 | いのちの始まりは誰が決めるのか | 受精卵はいつから人になるのか？胎児は人間？ヒト胚や胎児の道徳地位と中絶をめぐる議論を紹介し、中絶胎児の組織利用やヒト胚の研究利用について考えていく。 |
| 7 | 小林　亜津子 | 子どもの自己決定権 | 子どもが安楽死を希望したらどうするか？「親に言わないで」と言われたら？未成年者の医療同意や守秘義務について考える。 |
| 8 | 小林　亜津子 | 安楽死 | 安楽死をめぐる現状と議論を紹介し、その倫理問題を検討していく。 |
| 9 | 小林　亜津子 | 減胎（減数）手術 | 体外受精や人工授精による多胎妊娠と減胎手術。生殖医療技術の「裏側」に置き去りにされてきた問題を考える。 |
| 10 | 小林　亜津子 | 真実を伝えること（病名告知） | 患者に不治の病を告知することについて考える。 |
| 11 | 小林　亜津子 | 代理母出産は許されるか | 代理母出産によって生じてきたさまざまな倫理的トラブルを、アメリカのある家族のケースを中心に考えていく。 |
| 12 | 小林　亜津子 | アニマルライツ（動物の権利） | 保健所にもち込まれた動物たちのゆくえとは？保健所の犬や猫の殺処分について、アニマルライツの観点から検討する。 |
| 13 | 小林　亜津子 | 出生前診断 | 出生前診断と選択的人工妊娠中絶をめぐる倫理問題を検討していく。 |
| 14 | 小林　亜津子 | 病院の不正を知ったらどうするか | ビジネスエシックス（企業倫理）内で提唱されているホイッスルブローイング（内部告発）を医療機関に適用できるかを考える。 |
| 15 | 小林　亜津子 | 解説と確認 | 期末レポートについての確認および個別指導 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 生命倫理・環境倫理に託されている諸課題がいかに解決しがたく、また身近な問題であるかということについて、みずから考えることによって実感できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：試験期間外<br>授業中に提出してもらうリアクションペーパー（70%）、14回目の授業で出してもらう総合課題（30%）の内容で評価します。但し、総合課題の提出は、単位付与の条件とします。<br>※詳細については、初回のガイダンス時に周知します |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | この授業では、何かを「知る」というよりは、みずから問題意識をもって「考える」ことが求められます。安易に答えを出さず、ねばりづよく自分のスタンスの確立に努めてもらいたいと思います。文章を書いたり、考えることが好きな人、歓迎します。尚、本授業では抽選を行ないます。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | はじめて学ぶ生命倫理ーいのちは誰が決めるのかー | 小林亜津子 | ちくまプリマー新書 | 858円 |
| **教科書** | 看護のための生命倫理＜改訂三版＞ | 小林亜津子 | ナカニシヤ出版 | 2,640円 |
| **参考書** | 生殖医療はヒトを幸せにするのかー生命倫理から考えるー | 小林亜津子 | 光文社新書 | 836円 |
| **参考書** | QOLって何だろうー医療とケアの生命倫理ー | 小林亜津子 | ちくまプリマー新書 | 858円 |
| **参考書** | 生命倫理のレッスンー人体改造はどこまで許されるのか？ー | 小林亜津子 | 筑摩書房 | 1,210円 |

# 倫理学B

Ethics B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** P学部　水５／ A学部　水５／ 指定なし　木１or木２or金４
**科目責任者：** 小林　亜津子
**担当者：** 小林　亜津子
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HC08／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 生命科学や医療技術の進展にともなって、私たちは人間の「生命」を、ある程度人為的に操作することができるようになってきました。人間の生と死が、自然の運命にまかされるのではなく、私たちの道徳的選択による問題となっています。安楽死や中絶、臓器移植など、生命倫理に託されたさまざまな課題を検討していくことによって、生と死という人間にかんする限りなく深い問題を、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。 |
| **教育内容** | 生命倫理は、医療技術と人間性との新しい接点を探る倫理的な試みであると共に、インフォームド・コンセントや患者の自己決定権など、医学の倫理問題をも包括した学問領域です。授業では、生命倫理の代表的なトピックを毎回一つずつ取り上げ、具体的なケースを検討していきます。日本やアメリカで実際に起こった事件等を紹介しながら、議論を整理していきます。 |
| **教育方法** | 授業はすべてオンラインで行います。教科書を2冊使用します。それぞれのテーマについて、講義動画等を用いながら、授業を展開していきます。講義後に、毎回、その時々のテーマについてのリアクションペーパーを書いて、Google Classroom上に提出してもらいます。【フィードバックの方法】印象的な意見などがあれば、適宜、紹介します。<br>【Google Classroomクラスコード】後期授業開始までにWebシラバス、一般教育部授業情報サイトに記載 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>課題図書：教科書2冊を使用します。<br>予習：テーマに関連した記事をインターネットで検索したり、教科書内の該当するテーマの章に目を通しておく（120分程度）。<br>復習：授業ノートにもう一度目を通し、授業内で触れた事件等について自分で調べてみる（120分程度）。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 小林　亜津子 | 授業ガイダンス | 講義内容や授業の進め方、評価方法について説明する。 |
| 2 | 小林　亜津子 | 臓器売買は許されるか | 海外の臓器売買の現状とその倫理問題について考える。 |
| 3 | 小林　亜津子 | 患者の秘密を守るべきか | 守秘義務はなぜ必要なのか？守秘義務が解除される場合とは？医療者の守秘義務について考える。 |
| 4 | 小林　亜津子 | 新生児の治療停止 | 重度の障害をもって生まれてきた新生児の治療を停止してよいか。 |
| 5 | 小林　亜津子 | 遺伝子スクリーニングとプライバシー | ヒトゲノム・プロジェクトによる遺伝子診断技術のもたらしたELSIを考える。 |
| 6 | 小林　亜津子 | 宗教上の理由による輸血拒否 | 宗教上の理由から、生命をかけて輸血を拒否する患者に、どう対処したらよいかを考える。 |
| 7 | 小林　亜津子 | 動物を食べてもよいか | われわれは菜食主義者になるべきか？倫理的肉食主義者とは？普段の食生活を、アニマルライツの観点から見直していく。 |
| 8 | 小林　亜津子 | デザイナー・ベビーは許されるか | 男女生み分けや救世主きょうだい（ドナーとしての子ども）など、着床前診断による生命の選択は許されるのかを考える。 |
| 9 | 小林　亜津子 | 医師による自殺幇助 | アメリカの死神医師・ケボーキアンの裁判をめぐるドキュメントを紹介しながら、医療者による自殺幇助の是非を考える。 |
| 10 | 小林　亜津子 | 医療資源の配分 | 限られた医療資源を、どの患者に与えればよいのかという究極の選択について考える。 |
| 11 | 小林　亜津子 | 臨床試験の倫理問題 | ヒトを対象とした臨床試験の倫理問題を検討する。 |
| 12 | 小林　亜津子 | 動物実験は許されるか | 動物実験の是非を、人間と動物との違いは成り立つのか？という問題にさかのぼって考える。 |
| 13 | 小林　亜津子 | 認知症高齢者のコンピテンス | 認知症高齢者の判断能力の「判断」、医療に対する同意について考える。 |
| 14 | 小林　亜津子 | 結合双生児の分離手術 | シャム双生児の分離手術について検討する。 |
| 15 | 小林　亜津子 | 解説と確認 | 期末レポートについての確認および個別指導 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 生命倫理の諸課題をしっかり体で感じ取ることができる。例えば「インフォームド・コンセント」という言葉についても、単に「知識」として知るだけでなく、それがどのような具体的状況のなかで問題となり、実際の臨床の現場でいかなる事態において求められてくるのかを体感することができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>毎回提出してもらうリアクションペーパー（70%）、および14回目の総合課題の内容（30%）で評価します。但し、総合課題の提出は、単位付与の条件とします。<br>※詳細については、初回のガイダンス時に周知する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | この授業では、何かを「知る」というよりは、みずから問題意識をもって「考える」ことが求められます。授業の目標は、必ずしも「正解」を見つけることではありません。安易に答えを出さず、ねばりづよく自分のスタンスの確立に努めてもらいたいと思います。文章を書いたり、考えることが好きな人、歓迎します。尚、本授業では、抽選を行ないます。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | はじめて学ぶ生命倫理 | 小林亜津子 | ちくまプリマー新書 | 858円 |
| **教科書** | 看護のための生命倫理＜改訂三版＞ | 小林亜津子 | ナカニシヤ出版 | 2,640円 |
| **参考書** | QOLって何だろうー医療とケアの生命倫理ー | 小林亜津子 | ちくまプリマー新書 | 858円 |
| **参考書** | 生殖医療はヒトを幸せにするのかー生命倫理から考えるー | 小林亜津子 | 光文社新書 | 836円 |
| **参考書** | 生命倫理のレッスンー人体改造はどこまで許されるのか？ー | 小林亜津子 | 筑摩書房 | 1,210円 |

# 倫理学A（生命･医療倫理学系統講義　I）

Ethics A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　月１or水２
**科目責任者：** 鵜澤　和彦
**担　当　者：** 鵜澤　和彦※
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-HC07／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | よき医療とはどのようなことでしょうか。わたしたちは、肉親やペットの死を悼むことで「いのち」の尊厳や神聖さ(SOL)に気づきます。他方で、医療技術の進歩にともない、医療を自分で選択する機会も増えつつあります。たとえば、終末期患者が「生活の質」(QOL)を維持するために、延命治療の中止や安楽死を求めてくるケースもあります。この場合、医療従事者は、SOLとQOLとのモラル・ジレンマをどのように考えたらよいのでしょうか。本授業は、こうした問題を考えながら、生命・医療倫理に関する基礎的知識を習得し、医療従事者としての表現力、思考力、判断力を養うことを目的とします。 |
| **教育内容** | 医療現場におけるモラル・ジレンマの分析を通じて、その背景にある価値観の対立を理解します。さらに、医療従事者として相応しい行動・態度がとれるよう医療・看護倫理の諸原則も学びます。なお、各回のテーマをより具体的に捉えるために、視聴覚教材（ＶＴＲや映画の一部）を活用します。【キーワード】インフォームド・コンセント、緩和治療、医療パターナリズム、セデーション（鎮静）、安楽死、ヒポクラテスの誓い、インフォームド・アセント、未成年後見人、代理同意、コンピテンスの臨床基準、生命倫理の原則（自律尊重、仁恵、無危害、正義）。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>本授業は、授業支援システム（classroom）を使いながら講義形式で行います。クラスコードは mn2uvni です。各授業の終了時に、classroomを通じて、その授業に関する課題を出します。受講生は、次回の授業までに課題を送信してください。課題はclassroomを通して、評価をつけて返却されます。課題のフィードバックについては、テーマごとに行われるディスカッションの際、模範解答（参考資料）の配布という仕方で行われます。さらに、各テーマの終了時にグループディスカッション（任意参加）と全体発表を行い、様々な観点から内容理解の深化を図ります。なお、授業の出席・感想・質問は、出席票を兼ねたリアクションペーパーに記載してください。質問に対する返答（フィードバック）は、次回授業時に行います。教員との面談については、授業開始前や終了後にオフィスアワーの時間を作りますので、その時に教壇に来てください。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：受講生は授業前に教科書の該当箇所を読み、あらかじめ概要を把握しておいて下さい。また、参考書を使って、専門用語の意味等を調べたり、よく分からない表現や箇所を見つけたりしてください（約2時間）。<br>復習：授業時に配布された資料（講義原稿と参考資料）を読み直してください。また、全体ディスカッションでの他の受講生の意見を参考にしながら、そのテーマに関する自分の考えをノートにまとめてください（約2時間）。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 鵜澤　和彦 | 授業ガイダンス | 教員の自己紹介、授業目標、到達目標、授業内容、授業の進め方、受講上の注意、成績評価の方法と基準、教科書と参考書、生命・医療倫理学の必要性、classroomの使い方について説明します。 |
| 2 | 鵜澤　和彦 | 倫理学とは何か | 倫理学の基本概念、具体的には、道徳と倫理学の相違、倫理学の問題領域と方法論、事実命題と規範命題、記述倫理と規範倫理、生命・医療倫理学の成立史（ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言など）について解説します。 |
| 3 | 鵜澤　和彦 | 終末期医療（１）：第1章　いのちの終わりは誰が決めるのか | 死の概念、患者の自己決定権、インフォームド・コンセント（ＩＣ）、パターナリズム、いのちの「終わり」の選択（①セデーション、②自然死、③安楽死、④延命治療）を解説し、それぞれの問題点とそれに関するモラル・ジレンマを明らかにします。 |
| 4 | 鵜澤　和彦 | 終末期医療（２）：第1章　いのちの終わりは誰が決めるのか | がん告知に関する法整備、がん告知についての統計、がん告知の問題、終末期患者への対応、死の受容に関する五段階説（エリザベス・キューブラーロス）、医療資源の配分などの問題を考えていきます。 |
| 5 | 鵜澤　和彦 | 終末期医療（３）：第1章　いのちの終わりは誰が決めるのか | 医療資源の配分における正義の原則、医学思想史及び医師の職業倫理の観点から「ヒポクラテスの誓い」を説明し、さらに「生命の神聖さ」(SOL)と「生活の質」(QOL)の概念について解説します。 |
| 6 | 鵜澤　和彦 | 終末期医療（４）：第1章　いのちの終わりは誰が決めるのか | 第１回から第４回の課題の内容をふまえ、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。 |
| 7 | 鵜澤　和彦 | 小児医療（１）：第2章　子供の医療は誰が決めるのか | ホスピタリズムと幼児の能力（ヤヌシュ・コルチャック、内藤寿七郎）、幼児の精神的な病気（スピッツ）、インフォームド・アセント（ＩＡ）の概念、親の許諾、患児の賛同、ＩＡの適用例、日本におけるＩＡの実施率について考察します。 |
| 8 | 鵜澤　和彦 | 小児医療（２）：第2章　子供の医療は誰が決めるのか | 拒食症の概念ならびに事例分析１：拒食症の少女の事例を取り上げ、子供・医師、両親・裁判官の間でどのように価値観が対立するかを明らかにします。また、パターナリズムと治療の拒否権に関する問題を考察します。 |
| 9 | 鵜澤　和彦 | 小児医療（３）：第2章　子供の医療は誰が決めるのか | 事例分析２：宗教的理由から輸血を拒否した少年の事例を取り上げ、子供・医師、両親・裁判官の間でどのように価値観が対立するかを明らかにします。さらに、仁恵原理とパターナリズムの概念、医療パターナリズムの正当化基準について考察します。 |
| 10 | 鵜澤　和彦 | 小児医療（４）：第2章　子供の医療は誰が決めるのか | 第5回から第8回の課題の内容をふまえ、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。 |
| 11 | 鵜澤　和彦 | コンピテンス（１）：第3章　判断能力は誰が決めるのか | 判断能力のない患者（生まれながらに判断能力を持ちえない患者と事故や病気で判断能力を失った患者）、リビング・ウィル、成年後見、代理同意（ＰＣ）、ＰＣの基準（最高利益と代理判断）及び問題点、臓器移植法改正、家族の範囲について考察します。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 12 | 鵜澤　和彦 | コンピテンス（２）：第3章　判断能力は誰が決めるのか | 自律原理とコンピテンス（自律概念、判断能力の概念、コンピテンスの概念）、生命倫理の基本原則（自立尊重原則、仁恵原則、無危害原則、正義原則）とその衝突、コンピテンス判定の問題について説明します。 |
| 13 | 鵜澤　和彦 | コンピテンス（３）：第3章　判断能力は誰が決めるのか | 精神機能検査、コンピテンスの臨床基準（①選択及びコミュニケーション能力、②理解力、③本人の意思決定と価値観の整合性、④妄想や幻影の排除、⑤選択の合理性）、スライディング・スケールを説明します。 |
| 14 | 鵜澤　和彦 | コンピテンス（４）：第3章　判断能力は誰が決めるのか | 第9回から第１2回の課題の内容をふまえ、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。 |
| 15 | 鵜澤　和彦 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①人の誕生と死に関する倫理的問題を列挙し、それに関する自分の考えや立場を理由づけることができるようになる。②自分で問題を考え、それを文章にまとめることができるようになる。③生命・医療倫理の歴史や現状を踏まえ、国際的な視野から日本の医療制度の課題や問題点について自分の考えが持てるようになる。④医療の担い手が守るべき倫理規範とその思想的背景を説明できるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>定期試験５０%、課題５０%の総合評価。課題は、授業内容を正しく理解しているかどうか、そして、自分の考えを筋道を立てて表現しているかどうか、という基準で評価されます。また、classroomのフォーラムや全体ディスカッションへの積極的な参加は、その内容に応じて加点対象とします。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 病気などやむを得ぬ理由で欠席した場合、classroomにアップロードしてある教材（講義原稿など）で欠席した授業の内容を学習しておいてください。また、欠席した授業の課題をclassroomを通じて提出すれば、その課題は加点対象とします。受講生の積極的な授業参加を望みます。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | NPO法人、学会研修、文部省SSH事業などの経験を踏まえ、現代の医療・介護問題の本質を明らかにし、倫理学的な解決策を考える。とくに、医療現場におけるモラル・ジレンマの理解と解決の道筋を付ける際に、医療者がどのように考え、対応すべきかを説明する。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | はじめて学ぶ生命倫理 | 小林亜津子 | ちくまプリマー新書 | 780円 |
| **参考書** | 生命医学倫理 | トム・Ｌ・ビーチャム他 | 成文堂 | 7,350円 |
| **参考書** | ケアの向こう側　看護職が直面する道徳的・倫理的矛盾 | ダニエル F. チャンブリス 著、浅野 祐子 訳 | 日本看護協会出版会 | 3,000円 |
| **参考書** | 哲学の変換と知の越境 | 牧野、小野原、斎藤、山本編 | 法政大学出版局 | 3,000円 |

# 倫理学B（生命･医療倫理学系統講義　Ⅱ）

Ethics B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　月１or水２
**科目責任者：** 鵜澤　和彦
**担　当　者：** 鵜澤　和彦※
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-HC08／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | わたしたちは今日、新型出生前診断(NIPT)を通じて、胎児の遺伝的疾患を容易に、また、高い精度で発見することが可能になりました。生殖補助医療(ART)の技術革新は、妊婦の不妊治療の改善や身体的・精神的負担の軽減を目的としていますが、実際には、胎児のいのちを選別する手段とも化しています。また、このようないのちの選別は、胎児の人工妊娠中絶にとどまらず、動物のいのちの扱い方にも見られます。わたしたちは、胎児や動物のいのちを自分たちの都合で扱ってよいのでしょうか。それとも、いのちの選別は、道徳的に許されないことなのでしょうか。本授業は、先端医療技術の発展によって新たに生じたモラル・ジレンマを取り上げ、生命・医療倫理学の焦眉の問題を考えることを目的とします。 |
| **教育内容** | 医療現場におけるモラル・ジレンマの分析を通じて、その背景にある価値観の対立を理解します。さらに、医療従事者として相応しい行動・態度がとれるよう医療・看護倫理の諸原則も学びます。なお、各回のテーマをより具体的に捉えるために、視聴覚教材（ＶＴＲや映画の一部）を活用します。【キーワード】生殖医療、精子バンク、着床前診断、デザイナー・ベビー、結合双生児、形態と価値、人間の尊厳、愛護動物、実験動物、飼育動物、種差別、共感の倫理学、動物実験、人工妊娠中絶、プロ・ライフ、プロ・チョイス、連続性と同一性、中絶生存胎児。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>本授業は、プロジェクターと授業支援システム（classroom）を使いながら講義形式で行います。クラスコードはe6qhl6f です。各授業の終了時に、classroomを通じて、その授業に関する課題を出します。受講生は、次回の授業までに課題を送信してください。課題は、classroomを通して、評価をつけて返却されます。課題のフィードバックについては、テーマごとに行われるディスカッションの際、模範解答（参考資料）の配布という仕方で行われます。さらに、各テーマの終了時にグループディスカッションと全体発表を行い、様々な観点から内容理解の深化を図ります。なお、授業の出席・感想・質問は、出席票を兼ねたリアクションペーパーに記載してください。質問に対する返答（フィードバック）は、次回授業時に行います。教員との面談については、授業開始前や終了後にオフィスアワーの時間を作りますので、その時に教壇に来てください。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：受講生は授業前に教科書の該当箇所を読み、あらかじめ概要を把握しておいて下さい。また、参考書を使って、専門用語の意味等を調べたり、よく分からない表現や箇所を見つけたりしてください（約2時間）。<br>復習：授業時に配布された資料（講義原稿と参考資料）や返却された課題のコメントを読み直してください。また、グループディスカッションでの他の受講生の意見を参考にしながら、そのテーマに関する自分の考えをノートにまとめてください（約2時間）。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 鵜澤　和彦 | 授業ガイダンス | 教員の自己紹介、授業目標、到達目標、授業内容、授業の進め方、受講上の注意、成績評価の方法と基準、教科書と参考書、生命・医療倫理学の必要性（映画「ガタカ」の例）、classroomの使い方について説明します。 |
| 2 | 鵜澤　和彦 | 生殖医療（１）：第4章　いのちの「質」は誰が決めるのか | 生殖（補助）医療の概念・種類・歴史、人工授精と体外受精、着床前診断、羊水検査、エコー検査、精子バンク、子供のいのちの質、子供に対する責任、デザイナー・ベビーについて説明します。 |
| 3 | 鵜澤　和彦 | 生殖医療（２）：第4章　いのちの「質」は誰が決めるのか | 新型の着床前診断（アレイＣＧＨ法）、新型の出生前診断（ＮＩＰＴ）、遺伝カウンセリング、遺伝子ビジネス、子どもの出自及び出自を知る権利、ドナーの匿名性の原則、生殖医療の社会的認知の問題を解説します。 |
| 4 | 鵜澤　和彦 | 生殖医療（３）：第4章　いのちの「質」は誰が決めるのか | これまでの授業のまとめに関する資料を読み、グループディスカッションと全体発表を行います。 |
| 5 | 鵜澤　和彦 | 結合双生児（１）：第5章　　双子の生死は誰が決めるのか | 結合双生児の概念、医学的な形態分類と統計、分離手術、事例分析１：ジョディとメアリ、出生時の状況、分離手術をめぐる立場の相違（ＳＯＬ、最善利益）、裁判所の判決について考察します。 |
| 6 | 鵜澤　和彦 | 結合双生児（２）：第5章　　双子の生死は誰が決めるのか | 事例分析２：ラクシュミ、出生時の状況、村人の反応、両親の対応、形態と価値、認識の構造、人間の判別基準、人間の尊厳、二つの事例の比較、障害者差別、差別の構造について解説します。 |
| 7 | 鵜澤　和彦 | 結合双生児（３）：第5章　　双子の生死は誰が決めるのか | これまでの授業のまとめに関する資料を読み、グループディスカッションと全体発表を行います。 |
| 8 | 鵜澤　和彦 | 動物倫理（１）：第6章　いのちの優先順位は誰が決めるのか | 区別と差別の概念、差別の起源、同情と共感の概念、救命ボートの思考実験、人間とチンパンジーの相違、集団を管理する知性、ピーター・シンガーの種差別の概念、功利主義を考察します。 |
| 9 | 鵜澤　和彦 | 動物倫理（２）：第6章　いのちの優先順位は誰が決めるのか | 人間と動物の区別の徴表（精神的活動、社会的活動、生物学的特徴）、両者の共通点（動物行動学：デズモンド・モリス）、人間と動物の関わり（ペット、実験動物、畜産動物）を解説します。 |
| 10 | 鵜澤　和彦 | 動物倫理（３）：第6章　いのちの優先順位は誰が決めるのか | 動物実験の現状（３Ｒの原則、動物に関連する法令および指針、動物実験の法規制の国際比較）、人間中心主義、功利主義的立場、共感の倫理学、生命中心主義について考察します。 |
| 11 | 鵜澤　和彦 | 動物倫理（４）：第6章　いのちの優先順位は誰が決めるのか | これまでの授業のまとめに関する資料を読み、グループディスカッションと全体発表を行います。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 12 | 鵜澤　和彦 | 妊娠中絶（１）：第7章　いのちの始まりは誰が決めるのか | プロ・チョイス（中絶賛成派ＮＡＲＡＬ）とプロ・ライフ（中絶反対派ＮＲＬＣ）の対立、両立場の比較、胎児を人と認める時（①受精、②着床、③人の形、④出産、⑤配偶子）、胚の連続性と人格の自己同一性を解説します。 |
| 13 | 鵜澤　和彦 | 妊娠中絶（２）：第7章　いのちの始まりは誰が決めるのか | プロ・ライフの二重結果原理、減胎（減数）中絶の概念、医師の発言、減数手術の論拠、生存中絶胎児の概念、英国ウェストミッドランド州の調査研究、中絶廃止運動家ジャンナ・ジェッセンのケースについて考察します。 |
| 14 | 鵜澤　和彦 | 妊娠中絶（３）：第7章　いのちの始まりは誰が決めるのか | これまでの授業のまとめに関する資料を読み、グループディスカッションと全体発表を行います。 |
| 15 | 鵜澤　和彦 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①人の誕生と死に関する倫理的問題を列挙し、それに関する自分の考えや立場を理由づけることができるようになる。②自分で問題を考え、それを文章にまとめることができるようになる。③生命・医療倫理の歴史や現状を踏まえ、国際的な視野から日本の医療制度の課題や問題点について自分の考えが持てるようになる。④医療の担い手が守るべき倫理規範とその思想的背景を説明できるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>定期試験５０％、課題５０％の総合評価。課題は、授業内容を正しく理解しているかどうか、そして、自分の考えを筋道を立てて表現しているかどうか、という基準で評価されます。また、classroomのフォーラムや授業への積極的な参加は、その内容に応じて加点対象とします。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 病気などやむを得ぬ理由で欠席した場合、classroomにアップロードしてある教材（講義原稿など）で欠席した授業の内容を把握しておいてください。また、欠席した授業の課題をclassroomを通じて提出すれば、その課題は加点対象とします。受講生の積極的な授業参加を望みます。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | NPO法人、学会研修、文部省SSH事業などの経験を踏まえ、現代の医療・介護問題の本質を明らかにし、倫理学的な解決策を考える。とくに、医療現場におけるモラル・ジレンマの理解と解決の道筋を付ける際に、医療者がどのように考え、対応すべきかを説明する。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | はじめて学ぶ生命倫理 | 小林亜津子 | ちくまプリマー新書 | 780円 |
| **参考書** | リベラル優生学のパラドックスーゲノム編集における遺伝的多様性をめぐってー | 鵜澤和彦 | 北里大学一般教育紀要第25号 | 0円 |
| **参考書** | 哲学の変換と知の越境 | 牧野、小野原、斎藤、山本編 | 法政大学出版局 | 3,000円 |
| **参考書** | 動物の解放 | ピーター・シンガー | 技術と人間 | 4,620円 |

# 倫理学A（倫理学とはなにか）

Ethics A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　金１or金２
**科目責任者：** 清水　明美
**担当者：** 清水　明美
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HC07／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 倫理学とは、どういうものか、どのような発想方法があるのかといった基礎的知識を取り上げます。<br>みなさんは、友達や親子といった日常的な人間関係から、進路の決定、就職後の専門的な決断に至るまで、常に、「よい・わるい」を考え、また考えることを要求されています。今まで、無意識に行われてきた決断の底に、何があるのか、どのような思考法が用いることができるのかを知ることによって、人生の問題を深く、強く考える能力を養いたいと思います。 |
| **教育内容** | 倫理学の定義と、主たる方法論を、ヨーロッパの様々な思想家の思想と、その成立背景を例に説明します。<br>生命・環境・職業といった現代の応用倫理学の分野で多用されている「功利主義」の理論と「カントの道徳哲学」を軸として、現代に生きる専門職、科学者等に必要な思考能力を養います。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義内容、理解に必要なデータや、思想家の文章の抜粋などは授業中にプリントにして配布します。また、毎回リアクションペーパーで感想や質問を書いてください。何について学んだか明らかである限り質問や感想に優劣は付けませんので、のびのびと書いてください。多かった誤解、重要な質問や意見を取り上げて、次回の授業でフィードバックし、理解を深めます。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：日常生活や自分の研究で、授業でとりあげられるような問題があるかどうか考えてみましょう。新聞やインターネットで医療や生命の倫理に関連のあるニュースを探し保存しておきましょう。<br>復習：授業の内容を自分のことばで手短かに説明する文章を書いてみましょう。また、習ったことのどこがわからないか。習ったことに対して自分はどう考えるかを明らかにし、文章で表現してみましょう。クラスメートの疑問や意見に自分ならどう答えるか考えてみましょう。<br>予習・復習ともに１コマあたり４時間程度を目安とします。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 清水　明美 | イントロダクション | あなたと倫理学 |
| 2 | 清水　明美 | 倫理学の定義１ | 倫理学ということば……「よい」「わるい」について考えるとはどういうことか |
| 3 | 清水　明美 | 倫理学の定義２ | 倫理学のはじまり……なぜ、倫理学という人間の営みが始まったのか |
| 4 | 清水　明美 | 倫理学の定義３ | 倫理学の領域……「よさ」「わるさ」と科学的真理のちがい |
| 5 | 清水　明美 | 倫理学の定義４ | 倫理学と他の文化活動との関係……倫理学と法律・倫理学と宗教 |
| 6 | 清水　明美 | 功利主義の理論１ | 「みんなのしあわせ」を考える思想は、どのようにして生まれたのか。 |
| 7 | 清水　明美 | 功利主義の理論２ | ベンサムの思想と快楽計算の方法……しあわせを数値化する |
| 8 | 清水　明美 | 功利主義の理論３ | ミルの思想とその時代背景……格差社会と心身の満足 |
| 9 | 清水　明美 | 功利主義の理論４ | ミルの思想と、規則功利主義のその後……「しあわせのルール」を発見する方法 |
| 10 | 清水　明美 | 内面の倫理１ | カントの道徳哲学の背景……カントはなぜわたしたちの道徳を掘り下げたのか。 |
| 11 | 清水　明美 | 内面の倫理２ | カントによる「道徳的思考法」の分析……わたしたちの良心に、なにが起こっているのか |
| 12 | 清水　明美 | 内面の倫理３ | 良心の根底にある人格の尊厳……基本的人権が尊重される理由 |
| 13 | 清水　明美 | 内面の倫理４ | 尊厳ある人間の責任……他者、動物、自然を尊重する義務はどのようにして説明されるのか。 |
| 14 | 清水　明美 | 道徳の否定 | ニーチェの道徳批判……倫理的な生き方は本当に必要なのか。 |
| 15 | 清水　明美 | 前期のまとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 生命の尊さや、環境の保護、科学者の責任といった、現代の「応用倫理学」領域で使用されている主要な方法論が生まれた時代背景と真の意義を根底から理解することによって、一人の人間として、また、専門職、科学者として、深く悩み、合理的な決断ができるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：レポート 実施時期：試験期間内<br>毎回のリアクションペーパー提出で平常点(50%）リアクションペーパーに優劣はつけませんが3行以上書くこと、プリントだけを見て書かないこと。学期末レポート（50%）様々な倫理学者のものの考え方を正しく理解し、現実の問題に応用できているかどうかで評価します。欠席は規定数を超えないこと。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 悩んだり、迷ったりすることは、しばしばネガティブに捉えられがちですが、この教室では思う存分悩み、迷ってください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | 『入門講義　倫理学の視座』 | 新田孝彦 | 世界思想社 | 2,000円 |

# 倫理学A（人間的自由はどこまで拡大できるか）

Ethics A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　水１or水２
**科目責任者：** 黒崎　剛
**担当者：** 黒崎　剛
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HC07／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 人間的な自由の拡大とその結果としての最近半世紀の科学知識と技術の爆発的な発展、特に生命と医療の分野におけるその展開に伴って、これまでの人間の生活には有り得なかったような事態が現実のものとなっており、そこから従来の我々の常識や倫理観では処理しきれず、対策や適応をせまられるような問題が次々に起こってきている。それらの問題は人間の生命に関わるだけに、すべての人の利害に関わり、また人間存在そのものの根本に触れる問題であり、たとえ暫定的なものであっても、早急な解決を必要としている。この講義ではそれらの問題のなかから現状と論点を提示し、考えてもらうことにする。 |
| **教育内容** | 現在の倫理学の重大問題は、科学技術、そして最近の生命科学の驚異的な発展によって、私たちがこれまでまったく自明のものとみなしていた多くの「価値」「規範」がその地位を失おうとしているところにある。そこで、この授業では、生命科学と医療の分野でここ二、三十年の間に起った変動にともなって提起されてきた問題を取り上げる。すなわち「生命倫理」をテーマとする。「A」ではそのうち、「自己決定権」にまつわる問題を考察する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>指定の教科書を用いての講義形式。言葉、概念だけの話で理解しにくいものについては、視聴覚教材で補う。<br>【フィードバックの方法】<br>質問の時間をとり、答える。その他に特に決まった形式はない。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>事前に教科書に目を通しておき、当日の話の要点がどこにあるのか、見通しをつけておくこと。興味をもった対象については、授業の後で関連する図書や新聞記事、判例などを探し、読んでみることを勧める。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒崎　剛 | 第1回：オリエンテーション | 受講するか決定するための全体のガイダンス |
| 2 | 黒崎　剛 | 生命倫理で何が問題となっているのか | なぜいま倫理学において「生命」というテーマが論じられるのか、その理由を解説する。 |
| 3 | 黒崎　剛 | インフォームド・コンセントと自己決定権の思想（1）――その歴史的由来 | 「インフォームド・コンセント」という概念の歴史的由来 |
| 4 | 黒崎　剛 | インフォームド・コンセントと自己決定権の思想（2） | 医療倫理の新旧について |
| 5 | 黒崎　剛 | インフォームド・コンセントと自己決定権の思想（3） | インフォームド・コンセントとはいかなる「思想」であるか |
| 6 | 黒崎　剛 | インフォームド・コンセントと自己決定権の思想（4） | インフォームド・コンセント型医療の利点と問題点 |
| 7 | 黒崎　剛 | 安楽死・尊厳死（1） | 安楽死の定義 |
| 8 | 黒崎　剛 | 安楽死・尊厳死（2） | 海外の安楽死事情 |
| 9 | 黒崎　剛 | 安楽死・尊厳死（3） | 日本における安楽死をめぐる判例（日本の場合） |
| 10 | 黒崎　剛 | 安楽死・尊厳死（4） | 尊厳死の思想 |
| 11 | 黒崎　剛 | 人工妊娠中絶の議論（1） | 女性の自己決定論との関わりで |
| 12 | 黒崎　剛 | 人工妊娠中絶の議論（2） | 生命の尊厳との関係 |
| 13 | 黒崎　剛 | 人工妊娠中絶の議論（3） | 人工妊娠中絶の賛否両論 |
| 14 | 黒崎　剛 | 人工妊娠中絶の議論（4） | 中絶をめぐる対立の可能な解決法 |
| 15 | 黒崎　剛 | まとめ | 生命倫理における自己決定権と自由の概念 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 課題とされているそれぞれの問題について、基礎レベルの科学知識に基づいて、自分なりの主張が持てるようにする。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br><br>期末試験（６０％）、平常点（４０％）と配分する。出席については、講義数の3分の1以上欠席したものは試験（成績）を無効とする。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 生命倫理ではあるが、特に医療者の倫理を意識せず、患者になり得る人たちの目線で考えてみて下さい。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 『生命倫理の教科書』［第２版］　2022年 | 黒崎剛・吉川栄省編著／小島優子・竹村香織・金澤秀嗣著 | ミネルヴァ書房 | 3,000円 |

# 倫理学B（人間的自由はどこまで拡大できるか）

Ethics B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　水１or水２
**科目責任者：** 池田　透
**担　当　者：** 池田　透
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-HC08／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 人間的な自由の拡大とその結果としての最近半世紀の科学知識と技術の爆発的な発展、特に生命と医療の分野におけるその展開に伴って、これまでの人間の生活には有り得なかったような事態が現実のものとなっており、そこから従来の我々の常識や倫理観では処理しきれず、対策や適応をせまられるような問題が次々に起こってきている。それらの問題は人間の生命に関わるだけに、すべての人の利害に関わり、また人間存在そのものの根本に触れる問題であり、たとえ暫定的なものであっても、早急な解決を必要としている。この講義ではそれらの問題のなかから現状と論点を提示し、考えてもらうことにする。 |
| **教育内容** | 現在の倫理学の重大問題は、科学技術、そして最近の生命科学の驚異的な発展によって、私たちがこれまでまったく自明のものとみなしていた多くの「価値」「規範」がその地位を失おうとしているところにある。そこで、この授業では、生命科学と医療の分野でここ二、三十年の間に起った変動にともなって提起されてきた問題を取り上げる。すなわち「生命倫理」をテーマとする。<br>「B」ではそのうち「生命操作」にまつわる問題（脳死と臓器移植、人工生殖、遺伝子操作）を考察する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>指定の教科書を用いての講義形式。言葉、概念だけの話で理解しにくいものについては、視聴覚教材で補う。<br>【フィードバックの方法】<br>質問の時間をとり、答える。その他に特に決まった形式はない。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>事前に教科書に目を通しておき、当日の話の要点がどこにあるのか、見通しをつけておくこと。授業の後で興味を持った対象に関連する図書や新聞記事、判例などを探し授業内容を確認する。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 池田　透 | オリエンテーション | 生命操作をめぐる生命倫理 |
| 2 | 池田　透 | 脳死論――生死決定の基準について | 生死決定の基準について |
| 3 | 池田　透 | 死と臓器移植との関係 | 脳死と臓器移植における現実問題と思想問題 |
| 4 | 池田　透 | 臓器移植論 | 思想的対立とその解消のために |
| 5 | 池田　透 | 人工生殖の現状と問題点（1） | 人工生殖についての基礎知識 |
| 6 | 池田　透 | 人工生殖の現状と問題点（2） | 「代理母」と家族問題 |
| 7 | 池田　透 | 人工生殖の現状と問題点（3） | 生殖医療のビジネス的展開 |
| 8 | 池田　透 | 人工生殖の現状と問題点（4） | 人工生殖の生命操作手段としての利用 |
| 9 | 池田　透 | 遺伝子操作論（1） | 遺伝子を知り、操作するとはどういうことか |
| 10 | 池田　透 | 遺伝子操作論（2） | 遺伝子操作に対する不安 |
| 11 | 池田　透 | 遺伝子操作論（3） | 優生学とエンハンスメント |
| 12 | 池田　透 | 遺伝子操作論（4） | 遺伝子操作の哲学的諸問題 |
| 13 | 池田　透 | 遺伝子操作論（5） | 資本主義と遺伝子操作問題との関係 |
| 14 | 池田　透 | まとめ（1） | 医療倫理への概観 |
| 15 | 池田　透 | まとめ（2） | 倫理学原論（規範倫理学）と医療倫理との関連と生命倫理の未来への展望 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 課題とされているそれぞれの問題について、学生が自分なりの主張を持てるようにする。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>期末試験（６０%）、平常点（=出席点（４０%）と配分する。出席については、講義数の3分の1以上欠席したものは試験（成績）を無効とする。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 生命倫理ではあるが、特に医療者の倫理を意識せず、患者になり得る人たちの目線で考えてみて下さい。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 『生命倫理の教科書』［第２版］　2022年 | 黒崎剛・吉川栄省編著／小島優子・竹村香織・金澤秀嗣著 | ミネルヴァ書房 | 3,000円 |

# 文学の楽しみA（ドイツ文学に触れる）

Literature A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　火２or木１or木２
**科目責任者：** 風岡　祐貴
**担当者：** 風岡　祐貴
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HC09／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | この講義では、ドイツ文学をきっかけにして外国文学に慣れ親しむことを目的とします。これまで学校教育の中で文学作品を読み、または本を買ったり借りたりして文学作品に触れてきた学生もいると思います。ただ外国文学となると敷居が高く、たとえ本を開いても不自然な翻訳に戸惑ったこともあると思います。この授業では一人で読むには難しい外国文学の作品をほかの受講者と一緒に読むことで、文学を身近に感じてもらえたらと考えています。 |
| **教育内容** | 外国文学、とりわけドイツ文学について学びます。具体的には18世紀ドイツの作家ゴットホルト・エフライム・レッシング（Gotthold Ephraim Lessing, 1729年～1781年）の作品を読みます。ドイツ文学についての講義ですが、翻訳を用いるためドイツ語の知識は不要です。またヨーロッパの文学を読むために必要な聖書や神話の知識も学んでいきます。さらに作品読解に加えて、日本語の表現や語彙を身につける練習を行う予定です。<br>なおシラバスで予定している項目は授業の進捗状況によって変更することがあります。 |
| **教育方法** | ＜この授業は全て対面で実施します＞<br>板書と資料と視聴覚資料を用いて講義を行います。加えて受講者の間で議論する時間を作ります。<br>【フィードバックの方法】<br>講義の中で参加者が書いたリアクションペーパーを適宜紹介し、質問などに回答します。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習　次回学ぶ事項について本やインターネットなどで調べておいてください。<br>復習　配布資料などを見返してわからなかったところはないか確認してください。課題に取り組む時間なども合わせると60時間程度が見込まれます。 |

| 回 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 講義の趣旨や進め方について説明する。 |
| 2 | 18世紀ドイツ1 | 18世紀ドイツの社会や政治の仕組みについて解説する。 |
| 3 | 18世紀ドイツ2 | 18世紀ドイツの啓蒙について解説する。 |
| 4 | 作家の生涯 | レッシングの生涯を同時代の歴史などに関連づけて解説する。 |
| 5 | 手紙1 | レッシングが友人に向けた書いた手紙を読む。 |
| 6 | 後期の詩1 | 『リート　スペイン語からの翻訳より』を読む。（鍵括弧で括られた部分は詩のタイトル） |
| 7 | 手紙2 | レッシングが友人に向けた書いた手紙を読む。 |
| 8 | 初期の詩1 | 『私』を読む。 |
| 9 | 初期の詩2 | 『自然の三つの領域』を読む。 |
| 10 | 初期の詩3 | 『乾杯』を読む。 |
| 11 | 初期の詩4 | 『怠惰の礼賛』を読む。 |
| 12 | 初期の詩5 | 『読者にあてた格言詩』を読む。 |
| 13 | 課題 | 課題に取り組む。 |
| 14 | 課題のフィードバック | 課題に取り組んだ結果をほかの受講者に向けて報告し、教員からフィードバックを得る。 |
| 15 | まとめ | 個々の履修者の質問等に答える。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1．外国文学の作品をその背景知識を理解しながら一人でも読み進めることができる。<br>2．翻訳の限界と可能性を知る。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：試験期間内<br>リアクションペーパー（50%）とこの講義の最後に行う課題（50%）<br>リアクションペーパーは毎回授業の終わりに提出してください。<br>欠席、遅刻、途中退出など授業態度に問題のある学生は減点します。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 私の専門はドイツ文学で、そのおもしろさや新しさを知ってもらいたいと思い、この講義計画を立てました。高校時代に忙しくて本を読めなかった人や何となくむつかしそうで嫌厭してしまった人にも、この機会にその楽しさを少しでも感じてもらえたらと思っています。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 資料を配布します | | | |

# 文学の楽しみB（ドイツ文学に触れる）

Literature B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　火２or木１or木２
**科目責任者：** 風岡　祐貴
**担当者：** 風岡　祐貴
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HC10／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | この講義では、ドイツ文学をきっかけにして外国文学に慣れ親しむことを目的とします。これまで学校教育の中で文学作品を読み、または本を買ったり借りたりして文学作品に触れてきた学生もいると思います。ただ外国文学となると敷居が高く、たとえ本を開いても不自然な翻訳に戸惑ったこともあると思います。この授業では一人で読むには難しい外国文学の作品をほかの受講者と一緒に読むことで、文学を身近に感じてもらえたらと考えています。 |
| **教育内容** | 外国文学、とりわけドイツ文学について学びます。具体的には19世紀ドイツの作家ハインリヒ・ハイネ（Heinrich Heine, 1797年～1856年）の作品を読みます。ドイツ文学についての講義ですが、翻訳を用いるためドイツ語の知識は不要です。またヨーロッパの文学を読むために必要な聖書や神話の知識も学んでいきます。さらに作品読解に加えて、日本語の表現や語彙を身につける練習を行う予定です。<br>なおシラバスで予定している項目は授業の進捗状況によって変更することがあります。 |
| **教育方法** | ＜この授業は全て対面で実施します＞<br>板書と資料と視聴覚資料を用いて講義を行います。加えて受講者の間で議論する時間を作ります。<br>【フィードバックの方法】<br>講義の中で参加者が書いたリアクションペーパーを適宜紹介し、質問などに回答します。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習　次回学ぶ事項について本やインターネットなどで調べておいてください。<br>復習　配布資料などを見返してわからなかったところはないか確認してください。課題に取り組む時間なども合わせると60時間程度が見込まれます。 |

| 回 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 講義の趣旨や進め方について説明する。 |
| 2 | 19世紀ドイツ1 | 19世紀ドイツの社会や政治の仕組みについて解説する。 |
| 3 | 19世紀ドイツ2 | 19世紀ドイツとフランス革命について解説する。 |
| 4 | 作家の生涯 | ハイネの生涯を同時代の歴史などに関連づけて解説する。 |
| 5 | ハイネの詩1 | 『あまおとめ』を読む。（鍵括弧で括られた部分は詩のタイトル） |
| 6 | ハイネの詩2 | 『花の乙女』を読む。 |
| 7 | ハイネの詩3 | 『ローレライ』を読む。 |
| 8 | ハイネの詩4 | 『二人の擲弾兵』を読む。 |
| 9 | ハイネの詩5 | 『うるわしき五月に』を読む。 |
| 10 | ハイネの詩6 | 『歌の翼に』を読む。 |
| 11 | ハイネの詩7 | 『ベルシャザル』を読む。 |
| 12 | ハイネの詩8 | 『蓮の花』を読む。 |
| 13 | 課題 | 課題に取り組む。 |
| 14 | 課題のフィードバック | 課題に取り組んだ結果をほかの受講者に向けて報告し、教員からフィードバックを得る。 |
| 15 | まとめ | 個々の履修者の質問等に答える。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1．外国文学の作品をその背景知識を理解しながら一人でも読み進めることができる。<br>2．翻訳の限界と可能性を知る。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：試験期間内<br>リアクションペーパー（50%）とこの講義の最後に行う課題（50%）<br>リアクションペーパーは毎回授業の終わりに提出してください。<br>欠席、遅刻、途中退出など授業態度に問題のある学生は減点します。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 私の専門はドイツ文学で、そのおもしろさや新しさを知ってもらいたいと思い、この講義計画を立てました。高校時代に忙しくて本を読めなかった人や何となくむつかしそうで嫌厭してしまった人にも、この機会にその楽しさを少しでも感じてもらえたらと思っています。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 資料を配布します | | | |

# 文学の楽しみA（宮沢賢治精読）

Literature A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　火１
**科目責任者：** 野村　廣之
**担当者：** 野村　廣之
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HC09／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | ＜キーワード：作品解釈／教養／思考力＞宮澤賢治の短編童話を題材にして、文学作品の分析・解釈の技法を修得してもらいます。本来、文学作品の楽しみ方は個々の読者に委ねられていて、読者は作品を自由に解釈することができます。しかし、作品分析・解釈の技法と呼ぶべきものがあり、これを知っていることによって、個々人の解釈も、より豊かなものとなり得るし、また文学作品を、よりよく楽しむことができるようになります。この授業の最終的な目的は、作品分析・解釈の技法を学ぶことによって、より豊かな教養を身につけるための有力な手段の一つを履修者が身につけることにあります。さらに、「分析・解釈する」とは「論理的に考える」ことに他なりません。私は宮澤賢治の童話作品を分析・解釈するこの授業において、履修者にできるだけ「論理的に考えさせる」こと、さらには考える過程で「自分自身の内面を見つめなおさせる」こと、を意図しています。この授業は「論理的な思考力」「内省に至る思考力」を身につけるための訓練であり、「遊び」ではありません。 |
| **教育内容** | ＜キーワード：宮澤賢治／短編童話＞この授業では、宮澤賢治の童話集『新編　銀河鉄道の夜』（新潮文庫）に収録されている短編童話を取り上げます（したがって、指定した教科書『新編　銀河鉄道の夜』は必ず購入し、授業時には毎回持ってくること）。全部で9編の童話を取り上げる予定ですが、それらの作品をできるだけ細かく分析し解釈してみようと思います。単に私が自分の分析と解釈を説明するだけでなく、受講者である君たち自身の分析と解釈もできるだけ披露してもらい、そうした双方向的な授業によって多様な解釈を生み出していきたいと思います。 |
| **教育方法** | ＜対面授業を行います＞<br>＊この授業は毎回教室で行う対面授業（講義型授業）です。しかし、履修者は、以下で説明する授業課題（予習課題）を提出するために、GoogleClassroom のこの授業のコースに必ず登録しなければなりません。GoogleClassroomへの登録の仕方は第１回目の授業時に説明します。<br>＊毎週火曜日の授業の終わりに、次回授業のための授業課題を出題します。さらに、その日の午後、この授業のGoogleClassroomコース内にその日出題された授業課題の回答受付窓口を開設します。必ずGoogleドキュメントを使用して回答を作成し、それを4日後の土曜日の 15:00 までにGoogleClassroom内で提出してください。これが毎回の授業を受講するための予習となります。 また、どのような理由があろうとも、提出期限後の後出しは決して認めません。授業課題の回答は、オンラインで提出するので、たとえ新型コロナ・インフルエンザに感染した場合でも、配慮はしません。最初の授業課題は、第2回授業の終わりに出題する第3回授業のための授業課題となります。（第1回目の授業の終わりには授業課題は出題されません。）<br>【フィードバックの方法】<br>＊授業課題の回答に対しては評価（点数付け）はしません。しかし、毎回20人程度の回答を添削して、回答者に返却します（仮に履修者が60人であるとすると、3回に1回自分の回答が添削されることになります）。また、授業課題に対する私自身の回答を授業内で説明します。さらに、履修者の回答例（良い回答例と悪い回答例）を、書いた人の氏名等を伏せた上で、授業内でいくつか紹介し、どこが良いのか、 どこが良くないのか、何が余計なのか、何が欠けているのか、どこに注意しなければいけないのか、どこをどう直せばよいのか、等々を説明するので、自分の回答が授業内で紹介される可能性があることをあらかじめ承知しておいてください。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：その回の授業で取り上げる作品をあらかじめ必ず読んで、授業課題（予習課題）の回答を作成する。（毎回、2時間程度）<br>復習：授業内での分析・解釈と自分自身の分析・解釈の違いを確認し、自分の分析・解釈の妥当性を検証する。授業の内容に関して、別の意見や疑問があれば、GoogleClassroomのストリームを使用して質問するか、または次回の授業時に口頭で質問する。（毎回、2時間程度） |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 野村　廣之 | ガイダンス１<br>この授業のやり方／成績評価の方法／宮澤賢治とはどのような作家であるのか | この授業について詳しく説明します。履修希望者は必ず第１回目の授業に参加すること。 |
| 2 | 野村　廣之 | ガイダンス２<br>物語の構造／作品分析・解釈とは何か | 物語とはどのようなものなのか、作品を分析・解釈するとはどのようなことなのか、を説明します。 |
| 3 | 野村　廣之 | 「よだかの星」 | 「よだかの星」の作品分析と解釈を行う。 |
| 4 | 野村　廣之 | 「カイロ団長」 | 「カイロ団長」の作品分析と解釈を行う。 |
| 5 | 野村　廣之 | 「黄いろのトマト」 | 「黄いろのトマト」の作品分析と解釈を行う。 |
| 6 | 野村　廣之 | 「ひのきとひなげし」 | 「ひのきとひなげし」の作品分析と解釈を行う。 |
| 7 | 野村　廣之 | 「シグナルとシグナレス」 | 「シグナルとシグナレス」の作品分析と解釈を行う。 |
| 8 | 野村　廣之 | 「マリヴロンと少女」 | 「マリヴロンと少女」の作品分析と解釈を行う。 |
| 9 | 野村　廣之 | 「猫の事務所」 | 「猫の事務所」の作品分析と解釈を行う。 |
| 10 | 野村　廣之 | 「セロ弾きのゴーシュ」 | 「セロ弾きのゴーシュ」の作品分析と解釈を行う。 |
| 11 | 野村　廣之 | 「銀河鉄道の夜」（１） | 「銀河鉄道の夜」に関連する詩作品「冬と銀河ステーション」の分析と解釈を行う。 |
| 12 | 野村　廣之 | 「銀河鉄道の夜」（２） | 「銀河鉄道の夜」の作品分析を行う。 |
| 13 | 野村　廣之 | 「銀河鉄道の夜」（３） | 引き続き「銀河鉄道の夜」の作品分析を行う。 |
| 14 | 野村　廣之 | 「銀河鉄道の夜」（４） | 引き続き「銀河鉄道の夜」の作品分析と解釈を行う。 |
| 15 | 野村　廣之 | 個別指導 | 個々の履修者の質問等に答える。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ＊宮澤賢治の童話作品がどのような特徴を持つ作品であるのかを説明できる。<br>＊この授業で学んだことを応用して、文学作品を自分なりに分析・解釈をすることができる。<br>＊文学作品を読み、分析・解釈することを通して、自分自身の教養を深め、自分自身の内面を見つめなおすことができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>平常点と期末試験をもとにして、成績評価を行います（平常点：50点満点、期末試験：50点満点、合計100点満点）。<br>平常点とは、毎回事前に出題する授業課題（予習課題）に対する回答提出状況に基づく点数です。授業課題（予習課題）の回答に対しては、基本的に、評価（点数付け）はしません。きちんと提出したかどうか、を問題とします。ただし、課題にきちんと答えていない場合は未提出扱いとします。なお、課題の回答は必ず無料ソフトであるGoogleドキュメントを使用して作成し、Googleドキュメントファイルとして提出しなさい。Googleドキュメントファイル以外のファイル形式の回答は、すべて未提出扱いとします。注意しなさい。予習課題回答の未提出（扱い）1回ごとに平常点50点満点から5点マイナスとします。また、どのような理由があろうとも、提出期限後の後出しは決して認めません。授業課題（予習課題）の回答は、オンラインで提出するので、たとえ新型コロナ・インフルエンザに感染した場合でも、配慮はしません。また、ChatGPT等の生成AIソフトを使用したと判断される回答を提出した場合は、その時点で成績評価を不可とすることがあります。この授業の授業課題（予習課題）を作成する際には、決してChatGPT等の生成AIを使用してはならない。注意しなさい。<br>期末試験は、この授業の到達目標である「この授業で学んだことを応用して、文学作品を自分なりに分析・解釈することができる」が、どの程度達成されているかを確かめるための筆記試験です。期末試験では、教科書『新編　銀河鉄道の夜』（新潮文庫）のみ持込可とします。<br>出欠席について：第3回授業から第14回授業までの12回分の授業において、4回以上欠席した場合は、不可とします。第1回第2回授業は試し期間として、不可となる要件には含めません。また、新型コロナ・インフルエンザ等の感染症のために欠席した場合や教職課程における介護体験のために欠席した場合は、事務室からの連絡に基づいて、出席扱いとします。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 教科書（テキスト）について。この授業では、宮澤賢治『新編　銀河鉄道の夜』（新潮文庫版）を教科書（テキスト）として使用し、この本に収録されている作品の分析と解釈を行います。ですので、教科書（テキスト）がないと受講できません。宮澤賢治『新編　銀河鉄道の夜』（新潮文庫版）は、特殊な本ではなく、教科書販売所でなくとも、市中の一般書店で普通に販売されている本です。履修を決めた場合には、できるだけ早く教科書（テキスト）を手に入れなさい。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 『新編　銀河鉄道の夜』 | 宮澤賢治 | 新潮文庫 | 円 |
| **参考書** | 『群像　日本の作家12　宮澤賢治』 | | 小学館 | 円 |

# 文学の楽しみB（カフカ講義）

Literature B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　火１
**科目責任者：** 野村　廣之
**担　当　者：** 野村　廣之
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-HC10／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | ＜キーワード：作品解釈／教養／思考力＞フランツ・カフカの小説作品を題材にして、文学作品の分析・解釈の技法を修得してもらいます。本来、文学作品の楽しみ方は個々の読者に委ねられていて、読者は作品を自由に解釈することができます。しかし、作品分析・解釈の技法と呼ぶべきものがあり、これを知っていることによって、個々人の解釈も、より豊かなものとなり得るし、また文学作品を、よりよく楽しむことができるようになります。この授業の最終的な目的は、作品分析・解釈の技法を学ぶことによって、より豊かな教養を身につけるための有力な手段の一つを履修者が身につけることにあります。さらに、「分析・解釈する」とは「論理的に考える」ことに他なりません。フランツ・カフカの小説作品を分析・解釈するこの授業において、履修者にできるだけ「論理的に考えさせる」こと、さらには考える過程で「自分自身の内面を見つめなおさせる」こと、を私は意図しています。この授業は「論理的な思考力」「内省に至る思考力」を身につけるための訓練であり、「遊び」ではありません。 |
| **教育内容** | ＜キーワード：フランツ・カフカ／小説作品＞この授業では、フランツ・カフカの小説作品を全部で10編取り上げ、それらの小説作品を分析し解釈してみようと思います。単に私が自分の分析と解釈を説明するだけでなく、受講者である君たち自身の分析と解釈もできるだけ披露してもらい、そうした双方向的な授業によって多様な解釈を生み出していきたいと思います。 |
| **教育方法** | ＜対面授業を行います＞<br>＊この授業は毎回教室で行う対面授業（講義型授業）です。しかし、履修者は、以下で説明する授業課題（予習課題）を提出するために、GoogleClassroom のこの授業のコースに必ず登録しなければなりません。<br>GoogleClassroomへの登録の仕方は第１回目の授業時に説明します。<br>＊毎週火曜日の授業の終わりに、次回授業のための授業課題を出題します。さらに、その日の午後、この授業のGoogleClassroomコース内にその日出題された授業課題の回答受付窓口を開設します。必ずGoogleドキュメントを使用して回答を作成し、それを4日後の土曜日の 15:00 までにGoogleClassroom内で提出してください。これが毎回の授業を受講するための予習となります。 また、どのような理由があろうとも、提出期限後の後出しは決して認めません。授業課題の回答は、オンラインで提出するので、たとえ新型コロナ・インフルエンザに感染した場合でも、配慮はしません。最初の授業課題は、第2回授業の終わりに出題する第3回授業のための授業課題となります。（第1回目の授業の終わりには授業課題は出題されません。）<br>【フィードバックの方法】<br>＊授業課題の回答に対しては評価（点数付け）はしません。しかし、毎回20人程度の回答を添削して、回答者に返却します（仮に履修者が60人であるとすると、3回に1回自分の回答が添削されることになります）。また、授業課題に対する私自身の回答を授業内で説明します。さらに、履修者の回答例（良い回答例と悪い回答例）を、書いた人の氏名等を伏せた上で、授業内でいくつか紹介し、どこが良いのか、 どこが良くないのか、何が余計なのか、何が欠けているのか、どこに注意しなければいけないのか、どこをどう直せばよいのか、等々を説明するので、自分の回答が授業内で紹介される可能性があることをあらかじめ承知しておいてください。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：その回の授業で取り上げるテクスト（短編であれば全テクスト、長編の場合は指定した部分テクスト）をあらかじめ必ず読んで、授業課題（予習課題）の回答を作成する。（毎回、2時間程度）<br>復習：授業内での分析・解釈と自分自身の分析・解釈の違いを確認し、自分の分析・解釈の妥当性を検証する。授業の内容に関して、別の意見や疑問があれば、GoogleClassroomのストリームを使用して質問するか、次回の授業内で口頭で質問する。（毎回、2時間程度） |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 野村　廣之 | フランツ・カフカの生涯（１） | フランツ・カフカの生涯の前半部分について説明します。 |
| 2 | 野村　廣之 | フランツ・カフカの生涯（２） | フランツ・カフカの生涯の後半部分について説明します。 |
| 3 | 野村　廣之 | 短編「家長の心配」・「皇帝の使者」 | 短編「家長の心配」・「皇帝の使者」の作品分析と解釈を行う。 |
| 4 | 野村　廣之 | 短編「最初の苦悩」 | 短編「最初の苦悩」の作品分析と解釈を行う。 |
| 5 | 野村　廣之 | 短編「判決」 | 短編「判決」の作品分析と解釈を行う。 |
| 6 | 野村　廣之 | 短編「火夫」 | 短編「火夫」の作品分析と解釈を行う。 |
| 7 | 野村　廣之 | 中編「変身」 | 中編「変身」の作品分析と解釈を行う。 |
| 8 | 野村　廣之 | 長編「審判」（その１） | 長編「審判」の作品分析と解釈を行う。（その１） |
| 9 | 野村　廣之 | 長編「審判」（その２） | 短編「流刑地で」の作品分析と解釈を行う。（その２） |
| 10 | 野村　廣之 | 短編「流刑地で」 | 短編「流刑地で」の作品分析と解釈を行う。 |
| 11 | 野村　廣之 | 短編「断食芸人」 | 短編「断食芸人」の作品分析と解釈を行う。 |
| 12 | 野村　廣之 | 長編「城」（その１） | 長編「城」の作品分析と解釈を行う。（その１） |
| 13 | 野村　廣之 | 長編「城」（その２） | 長編「城」の作品分析と解釈を行う。（その１） |
| 14 | 野村　廣之 | 長編「城」（その３） | 長編「城」の作品分析と解釈を行う。（その３） |
| 15 | 野村　廣之 | 個別指導 | 個々の履修者の質問等に答える。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ＊フランツ・カフカの小説作品がどのような特徴を持つ作品であるのかを説明できる。<br>＊この授業で学んだことを応用して、文学作品を自分なりに分析・解釈をすることができる。<br>＊文学作品を読み、分析・解釈することを通して、自分自身の教養を深め、自分自身の内面を見つめなおすことができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>平常点と期末試験をもとにして、成績評価を行います（平常点：50点満点、期末試験：50点満点、合計100点満点）。<br>平常点とは、毎回事前に出題する授業課題（予習課題）に対する回答提出状況に基づく点数です。授業課題（予習課題）の回答に対しては、基本的に、評価（点数付け）はしません。きちんと提出したかどうか、を問題とします。ただし、課題にきちんと答えていない場合は未提出扱いとします。なお、課題の回答は必ず無料ソフトであるGoogleドキュメントを使用して作成し、Googleドキュメントファイルとして提出しなさい。Googleドキュメントファイル以外のファイル形式の回答は、すべて未提出扱いとします。注意しなさい。予習課題回答の未提出（扱い）1回ごとに平常点50点満点から5点マイナスとします。また、どのような理由があろうとも、提出期限後の後出しは決して認めません。授業課題（予習課題）の回答は、オンラインで提出するので、たとえ新型コロナ・インフルエンザに感染した場合でも、配慮はしません。また、ChatGPT等の生成AIを使用したと判断される回答を提出した場合は、その時点で成績評価を不可とすることがあります。この授業の授業課題（予習課題）を作成する際には、決してChatGPT等の生成AIを使用してはならない。注意しなさい。期末試験は、この授業の到達目標である「この授業で学んだことを応用して、文学作品を自分なりに分析・解釈することができる」が、どの程度達成されているかを確かめるための筆記試験です。<br>出欠席について：第3回授業から第14回授業までの12回分の授業において、4回以上欠席した場合は、不可とします。第1回第2回授業は試し期間として、不可となる要件には含めません。また、新型コロナ・インフルエンザ等の感染症のために欠席した場合や教職課程における介護体験のために欠席した場合は、事務室からの連絡に基づいて、出席扱いとします。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 教科書（テキスト）について。この授業では、原田義人訳のカフカ作品の日本語訳をテキストとして使用し、カフカ作品の分析と解釈を行います。原田義人訳のカフカ作品の日本語訳は、青空文庫に収録されており、無料で読むことができます。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 原田義人訳のカフカ作品の日本語訳 | | 青空文庫 | 無料 |
| **参考書** | 『若き日のフランツ・カフカ』 | クラウス・ヴァーゲンバッハ | ちくま文庫 | 円 |
| **参考書** | 『フランツ・カフカ』 | マックス・ブロート | みすず書房 | |
| **参考書** | 筑摩世界文学大系『カフカ』 | フランツ・カフカ | 筑摩書房 | |

# 信仰と救いA（世界や日本の宗教について知る）

Religious Studies A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　月1or月2
**科目責任者：** 榎本　香織
**担当者：** 榎本　香織
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HC11／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 科学の時代とされる今日の世界においてなお、宗教は無視できない影響力を持ち続けています。国際政治の場面において大きなニュースとなることも多いですが、わたしたちの身の回りでも宗教的なものの姿を目にすることは少なくありません。この授業では、世界や日本における様々な宗教の成り立ちと歴史的な展開を確認することで、現代に生きるわたしたちにとって宗教とは何かという問題を考えてみたいと思います。 |
| **教育内容** | 宗教の定義は複雑で、いざ考えると実は難しいです。前期ではまず宗教的行為が人類の始まりから既に存在していたところから始め、世界の代表的な宗教を取り上げたいと思います。人類の進化と宗教という大きな輪郭の話題から始まり、個別の宗教――ユダヤ教、キリスト教、イスラーム、仏教といった世界の宗教、日本の神道や民俗宗教や新宗教や現代宗教、そして多くの宗教で通底する代表的な宗教現象について触れていきます。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>本講義ではパワーポイントを用い、レジュメを毎回配布します。必要に応じてAV機器も利用します。講義の合間にみなさんにも小さな話題を投げかけ、考えてもらうこともあります。<br>【フィードバックの方法】<br>講義の最後に毎回リアクションペーパーを記入、提出してもらいます。次回講義の初めにそれらのフィードバックを行います。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 予習：講義のテーマに沿った本や紹介する参考書を読み、予め概略を確認する（2時間）<br>復習：講義内容を整理し、関連した本や論文を読んだり、身近な宗教施設について調べてみる（2時間） |

| 回 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | イントロダクション | 授業の進め方について説明。私たちが普段意識する「宗教（Religion）」とは何かについて、その語源を元に考えていきます。 |
| 2 | 人類の歴史と宗教 | 宗教はどのように誕生し発展したきたのかを、人類の進化（進化生物学）の観点から俯瞰していきます。 |
| 3 | 宗教形態の基礎知識 | 宗教の代表的な形態であるアニミズム、多神教、一神教などについて説明します。 |
| 4 | 世界の主要な宗教（ユダヤ教） | 「戒律の宗教」と呼ばれるユダヤ教について、その歴史と信仰の特徴について触れていきます。 |
| 5 | 世界の主要な宗教（キリスト教） | キリスト教を開いたイエスについて、その時代背景と基本的な教えについて見ていきます。 |
| 6 | 世界の主要な宗教（イスラーム） | 開祖ムハンマドの生きた時代とその生涯、イスラームの教えの特徴について見ていきます。 |
| 7 | 世界の主要な宗教（仏教） | 開祖ブッダの生涯と教え、そしてブッダの死後仏教がどのように世界へ展開していったかを見ていきます。 |
| 8 | 日本の宗教（仏教） | 中国から流入してきた大乗仏教が日本でどのように展開したか。歴史的な宗派の発生と宗派ごとの違いについて俯瞰します。 |
| 9 | 日本の宗教（神仏習合） | 日本の仏教と神道は時に融合し、一つの宗教体系として長らく定着してきました。その中身について詳しく触れていきます。 |
| 10 | 日本の宗教（民俗宗教、新宗教） | 日本文化の中で習慣的に私たちが行っている宗教行事や、普段は触れる機会が限定的な新宗教について見ていきます。 |
| 11 | 日本の宗教（ニューエイジ、スピリチュアリティ） | 「〇〇教」という括りには入らない、20世紀後半より増加してきた宗教文化（ニューエイジ、スピリチュアリティ）の歴史と特徴について触れていきます。 |
| 12 | 宗教現象について（祈り、儀礼） | 世界中の多くの宗教で共通してみられる現象である「祈り」「儀礼」とはいったい何かについて、改めて考えてみたいと思います。 |
| 13 | 宗教現象について（シャーマニズム） | 宗教に特有の現象である「シャーマニズム（神など超自然的力と直接交信し、人間との間を取り持つ文化」について触れていきます。 |
| 14 | 宗教現象について（カルト問題） | 私たちの社会においてしばしば耳にする「カルト」について、何が問題なのかについて触れていきます。 |
| 15 | まとめ | 前期のまとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 宗教学の基本姿勢を身につけることで、宗教の本質と現象を学問的に把握することができる<br>世界の諸々の宗教に関する基礎的な知識を得ることで、柔軟な考え方を身に付ける<br>他者と自己の文化について知見を深め、現代社会の問題を的確に考察することができる |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：定期試験 実施時期：試験期間<br>毎回のリアクションペーパー提出（授業を通じて何を感じ、考えたかを纏める）により、授業内容がきちんと理解されているか、主体的に考察がなされているかを判定します。学期末にはそれまでの授業の総復習となるテストを定期試験期間中に行います。最終的にリアクションペーパーや授業時の参加態度などの通常時（履修登録期間を除く。50%）＋期末定期試験（50%）で成績を付けます。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 宗教学は人間についての学問でもあります。人間の深みに至る学問であるがゆえに個人的な好き嫌いを感じたり、馴染みのない多くの信仰や儀礼のあり方を理解することは難しいかもしれません。しかし人々がそれらの背後で何を求めてきたのか、何を今も求めているのか考えることは、他者を（あるいは自分自身を）理解し受け入れることの第一歩となるでしょう。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | エッセンシャル版　図解世界５大宗教全史 | 中村圭志 | ディスカヴァー・トゥエンティワン | 1,320円 |
| 参考書 | 100のインフォグラフィックで世界を知る〈世にも美しい教養講義〉超図解・宗教 | マチュー・グランプレ他 | ディスカヴァー・トゥエンティワン | 2,200円 |
| 参考書 | いまを生きるための宗教学 | 島園進、奥村倫明編 | 丸善出版 | 4,180円 |

# 信仰と救いB（宗教について、より深く考える）

Religious Studies B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　月1or月2
**科目責任者：** 榎本　香織
**担当者：** 榎本　香織※
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HC12／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 日本人は無宗教だと言われたり、自身でもそのように考えている人が多いようです。けれどもよく目を凝らしてこの社会を見てみると、宗教が意外なところで重要な役割を果たしていたり、通常は宗教と無関係だと思われている事柄にも宗教的な背景や要素が潜んでいたりすることに気づくでしょう。とはいえ、そもそも「宗教」とは何でしょうか？　この授業では「宗教」についての基礎へと立ち返り、この問題をとりまくさまざまな事情を解きほぐします。それにより、現代社会を「宗教」という観点から理解する視野を獲得します。 |
| **教育内容** | 「信仰と救いA」が各宗教を縦断的に見てきたのに対し「信仰と救いB」は宗教の諸現象を横断的に見ていきます。すなわち、多くの宗教を構成する神話や伝説、聖と俗といった「宗教的世界観」、祈りや儀礼、修行や戒律といった「宗教的行為」、そしてメディア、ジェンダー、公共性、いのちといった現代社会のテーマと宗教がどのようにかかわっているのかを学ぶことで、宗教が、実は私たちの生活空間に様々な形で影響を与えていることを学びます。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>本講義ではパワーポイントを用い、レジュメを毎回配布します。講義の合間にみなさんにも小さな話題を投げかけ、考えてもらうこともあります。<br>【フィードバックの方法】<br>講義の最後に毎回リアクションペーパーを記入、提出してもらいます。次回講義の初めにそれらのフィードバックを行います。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 予習：講義のテーマに沿った本や紹介した参考書を読み、予め概略を確認する（2時間）<br>復習：講義内容を整理、紹介した本や論文を読んだり、身近なところで学んだテーマを見つけてみる（2時間） |

| 回 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | イントロダクション | 「宗教学を学ぶとはどういうことか」を説明します。宗教学とは何か、どのような分野があるのか、代表的な研究者の業績とともに見ていきます。 |
| 2 | 宗教と宗教学 | 「宗教」と「宗教学」はどう違うのか？対象へ向ける視点の違いなど、学問として宗教を扱う際に必要なポイントを見ていきます。 |
| 3 | 宗教的世界観１「神話・伝説」 | 神話とは何か、どのような機能があるか、そして神話が現代においてどのような意味や意義があるかを見ていきます。 |
| 4 | 宗教的世界観２「聖と俗、ハレとケ」 | 宗教を宗教たらしめる概念「聖と俗」、日本独自の宗教空間の区切りである「ハレとケ」について論じます。 |
| 5 | 宗教的世界観３「死生観、他界観」 | 「死後どうなるか、どこへ行くか」という死生観と他界観を多くの宗教が持っています。代表的な宗教の他界観を紹介し比較していきます。 |
| 6 | 宗教的行為１「祈り」 | 信仰の有無にかかわらず私たちは「祈る」ことをします。そもそも祈りとは何か？「祈り」の中身について考えていきます。 |
| 7 | 宗教的行為２「儀礼」 | 聖なるものと関わるための一連の行為を「儀礼」と呼びます。年中行事や通過儀礼もそのひとつです。その構造と機能から、儀礼が何のために存在するかを考えます。 |
| 8 | 宗教的行為３「修行、戒律」 | 心身を鍛える「修行」と様々な約束事を守る「戒律」は宗教の中でどのような役割をもっているのか。様々なかたちの修行や戒律の中身に触れていきます。 |
| 9 | 宗教的行為４「祭り」 | 祭りの中で人々は熱狂しますが、宗教にも多くの祭りがあります。どのような祭りがあり、それぞれどのような意味があるかを見ていきます。 |
| 10 | 宗教的行為５「呪術、科学と宗教」 | 目的の為に超自然的な力を利用する行為「呪術」は学問的にどのように探究されてきたかを辿り、そして現代の呪術の実情にも触れていきます。 |
| 11 | 現代社会と宗教１「宗教とメディア」 | 日本の公共放送の中で、実は宗教番組は最も古いジャンルの一つです。公共放送が宗教をどのような目的でどう扱ってきたか、その歴史を見ていきます。 |
| 12 | 現代社会と宗教３「宗教と公共性」 | 政教分離の観点から日本の宗教は公共性が薄いと考えられています。宗教と社会福祉活動について、東日本大震災の事例を中心に紹介していきます。 |
| 13 | 現代社会と宗教４「宗教とウェルビーイング」 | 近年、よりよく生きる（well being）ための宗教の可能性が再考されています。「信仰」「幸福」などの主観的幸せとは異なる形で宗教が持つ「よりよく生きる」ための社会的仕組みについて見ていきます。 |
| 14 | 現代社会と宗教５「宗教といのち」 | 宗教への関心が薄く（無く）ても、死をめぐる事柄に関心を持つ人は多いです。現在、宗教はいのちのありかたとどう向き合っているか、「臨床宗教師」「スピリチュアルケア」を一例に見ていきます。 |
| 15 | まとめ | 後期のまとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 宗教学の基本姿勢を身につけることで、宗教の本質と現象を学問的に理解・説明できる<br>宗教の本質や機能に関する基礎的な知識を体系的に得ることで、現代社会の問題を立体的に考察できる |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：定期試験 実施時期：試験期間<br>毎回のリアクションペーパー提出（授業を通じて何を感じ、考えたかを纏める）により、授業内容がきちんと理解されているか、主体的に考察がなされているかを見ます。学期末にはそれまでの授業の総復習となるテストを定期試験期間中に行います。最終的にリアクションペーパーや授業時の参加態度などの通常時（履修登録期間を除く。50%）＋期末定期試験（50%）で成績を付けます。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 日々の生活に目を凝らせば、様々な場面で宗教的な現象や可能性が見つかります。それらについて適切な距離と視線をもって向き合うことができれば、現代社会に生きる上での他者やわたしたち自身について深く理解するためのヒントが得られるでしょう。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 第13－15回授業では、公共空間における宗教側の実践について、現場で得た知見も共有していきたいと思います。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | 宗教学キーワード | 島園進、葛西健太、福島信吉、藤原聖子 | 有斐閣 | 2,090円 |
| 参考書 | 隠される宗教、顕れる宗教・国内編Ⅱ（いま宗教に向き合う２） | 池澤優、藤原聖子、堀江宗正、西村明 編 | 岩波書店 | 2,530円 |
| 参考書 | しあわせの宗教学 | 櫻井義秀 編 | 法蔵館 | 2,750円 |

# 人間形成の基礎科目

## 社会の領域

人間形成の基礎科目「社会の領域」は、一般教育部が提供する１群科目において中核を成す科目群の１つです。１群科目は、大きく分けると、教養教育科目と基礎教育科目に分けることができます。基礎教育科目（英語、数理・情報、自然科学系各科目等）は、２年次以降に配当されている２群・３群科目（各専門分野に関わる科目）を履修する上での基礎的な知識を身につけてもらうための科目群ですが、教養教育科目（人間形成の基礎科目、総合領域科目、教養演習系科目等）は、一言で言えば社会人としての教養を身につけてもらうための科目群です。北里大学の学生である皆さんの多くは、４年または６年間の在学期間中にそれぞれの分野の専門的な知識と技術を身につけ、卒業後は各分野の専門職に就くことを目指していると思います。しかし、有能な専門職業人であるためには、単に専門的な知識・技術を身につけているだけでは、十分とは言えません。専門的な知識・技術だけでなく、社会人としての教養を身につけている必要があります。教養のある専門職業人であればこそ、他者に重んじられ、他者の信頼を得ることができ、専門職業人としての自らの職務をよりよく果たすことができるでしょう。豊かな教養は各人の人間的な魅力をより高め、社会生活・職業生活を円滑に送るための手助けをしてくれるのです。さらにまた、豊かな教養はこの先の長い人生を送っていく上での重要な拠り所の１つともなるでしょう。そのような教養をしっかりと身につけるつもりで、皆さんには人間形成の基礎科目「社会の領域」を履修してもらいたいと思います。

「社会の領域」に含まれる科目には、日本国憲法・法律の役割・経済のしくみ・個人と社会・政治のしくみ・文化人類学・日本と国際社会・環境を考える・歴史と人間・心理学があります。これらの科目群は、人間の社会生活に関わる学問（法学・経済学・社会学・政治学・文化人類学・国際関係論・環境論・歴史学・心理学）を基盤としています。こうした科目群を履修することによって、まずは人間社会における様々なしくみやルールを学び、卒業後には社会人としての自覚をしっかり持てるようになってもらいたいと思います。その上でさらに、自分自身の頭で物事を考えることを学び、責任をもって判断を下し、自分自身の判断によって適切な行動が取れるような、他者から信頼される教養のある人間になってもらいたいと思います。

# 2025年度社会の領域　開講情報

前期

| 科目名 | 担当者 | 授業形態 | 開講曜日・時限 |
|---|---|---|---|
| 日本国憲法A | 猪瀬　貴道 | 対面 | 水１ |
| | | オンライン | 火１ |
| 日本国憲法A | 永山　茂樹 | 対面 | 金１／金２ |
| 法律の役割A | 猪瀬　貴道 | 対面 | 水２ |
| | | オンライン | 月１ |
| 経済のしくみA | 赤澤　とし子 | 対面 | 水１／水２／木１／木２ |
| 個人と社会A | 前田　崇 | オンライン | 月１／月２／金１／金２ |
| 政治のしくみA | 杉山　亮 | 対面 | 金１／金２ |
| 文化人類学A | 宮下　克也 | 対面 | 水１／水２ |
| 日本と国際社会A | 藤巻　裕之 | 対面 | 金１／金２ |
| 環境を考えるA | 鈴木　孝弘 | オンライン | 月１／月２ |
| 歴史と人間A | 畠山　禎 | 対面 | 火４／金３／金４ |
| 心理学A/心理学A（心理学概論） | 猪原　敬介 | オンライン | 木１／木２／金１／金２ |
| 心理学A/心理学A（心理学概論） | 中山　友則 | 対面 | 火１／火２／水１／水２ |

後期

| 科目名 | 担当者 | 授業形態 | 開講曜日・時限 |
|---|---|---|---|
| 日本国憲法B | 猪瀬　貴道 | 対面 | 水１ |
| | | オンライン | 火１ |
| 日本国憲法B | 永山　茂樹 | 対面 | 木１／木２ |
| 法律の役割B | 猪瀬　貴道 | 対面 | 水２ |
| | | オンライン | 月１ |
| 経済のしくみB | 赤澤　とし子 | 対面 | 水１／水２／木１／木２ |
| 個人と社会B | 前田　崇 | オンライン | 月１／月２／金１／金２ |
| 政治のしくみB | 杉山　亮 | 対面 | 金１／金２ |
| 文化人類学B | 宮下　克也 | 対面 | 水１／水２ |
| 日本と国際社会B | 藤巻　裕之 | 対面 | 金１／金２ |
| 環境を考えるB | 鈴木　孝弘 | オンライン | 月１／月２ |
| 歴史と人間B | 畠山　禎 | 対面 | 火４／金１／金４ |
| 心理学B/心理学B（知覚・認知心理学） | 猪原　敬介 | オンライン | 木１／木２／金１／金２ |
| 心理学B | 中山　友則 | 対面 | 火１／火２ |
| 心理学B | 太田　碧 | 対面 | 火４／火５ |

# 日本国憲法A

The Constitution of Japan A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　火１
**科目責任者：** 猪瀬　貴道
**担　当　者：** 猪瀬　貴道
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-HS01／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 国家の基本法である「憲法」について学ぶことを通して、社会における責任ある一員として、個人の自由と社会的秩序が両立する社会の構築に寄与できるように成長するための土台をつくる。 |
| **教育内容** | 日本の現行憲法である日本国憲法の「人権」に関する規定を中心に学ぶ。日本国憲法の条文に沿って、憲法が保障する基本的人権の意義、内容、およびその制約について基礎知識を修得するとともに、関連する重要事例を素材に憲法において人権が保障される意義を考える。具体的には下記の授業内容に沿って進めるが、進捗状況によって多少の調整を行う。 |
| **教育方法** | 【オンライン授業科目】<br>本科目は、インターネットを用いた学習管理システム（LMS（Google Classroomを使用予定））を用いたオンライン方式で授業を行う。LMSへのリンクは北里大学一般教育部ウェブサイトに記載するので科目名、履修する曜日と時限に注意して各自で登録する。最新のブラウザが利用可能なパソコン（タブレット等を含む）および通信容量無制限（または大容量）のインターネット回線を準備することが望ましい。<br>【指示に従った事前学修】<br>まず、授業日から次の授業日までの間にLMS上の学修指示（各回の教科書のページの読み方のポイントなど）にしたがって、教科書を用いた自己学修を行う。調べた用語やポイントを整理した授業ノートを履修者自身が作成する。LMS上に設定された教科書の内容の理解を確認する課題を指定された日時までに解答・提出する。<br>【教員による解説動画の視聴】<br>授業日には、LMSにアップロードされて公開される教員による解説動画を視聴して、自分で作成したノートに追記や修正を行う。視聴後には、疑問を持った点や関心を持った点についてLMS上のコメントペーパーに入力する。<br>【フィードバックの方法】<br>LMSや教員による解説動画において学生からのコメントペーパーや課題について履修者全体に対してフィードバックする。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間（授業期間全体）】<br>※各授業回あたり予習・復習を合わせて約４時間の自己学習を想定しているが、自由に配分して良い（たとえば試験対策やレポート作成に重点的に時間を配分するなど）。また、以下の内容は参考例として記載するが履修者が自分で考えて下記の「到達目標」の達成に必要な内容で自由に実施する。<br>予習：日本国憲法の関連条文や教科書の該当ページに目を通しておき、わからない部分を把握しておく<br>復習：教科書やLMSに示された資料などを読み直して授業ノートを補足して整理する |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 猪瀬　貴道 | 科目説明と導入 | 科目の位置づけ、授業の進め方（LMSの利用方法を含む）、成績評価の方法などの詳細、この科目で学ぶ内容の概要を説明する。2回目の授業回までにこの科目のLMSを必ず確認すること。 |
| 2 | 猪瀬　貴道 | 日本国憲法の成立 | 日本国憲法の成立過程、受容と定着の背景、大日本帝国憲法との比較とその異同について学ぶことで、日本国憲法の特徴を理解する。 |
| 3 | 猪瀬　貴道 | 基本的人権とは何か | 人権宣言の理念と歴史、人権保障の国際化、憲法上の権利の分類、人権の主体について学ぶことで、基本的人権の意義について理解する。 |
| 4 | 猪瀬　貴道 | 包括的基本権 | 幸福追求権、新しい人権、自己決定権など包括的基本権について学ぶ。（日本国憲法第13条）※以下（第〇条）は日本国憲法の条文番号を示す |
| 5 | 猪瀬　貴道 | 法の下の平等 | 平等権と平等原則について学ぶことで、法の下の平等について考える。（第10条・第14条） |
| 6 | 猪瀬　貴道 | 精神的自由（1） | 精神的自由のうち、思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則について学ぶ。（第19条・第20条） |
| 7 | 猪瀬　貴道 | 精神的自由（2） | 精神的自由のうち、表現の自由、報道の自由、知る権利について学ぶ。（第21条） |
| 8 | 猪瀬　貴道 | 精神的自由（3） | 精神的自由のうち、表現の自由の限界、集会の自由、学問の自由について学ぶ。（第21条・第23条） |
| 9 | 猪瀬　貴道 | 人身の自由 | 人身の自由として位置づけられる、奴隷的拘束からの自由、刑事手続の原則を学ぶ。（第18条・第31条～第39条） |
| 10 | 猪瀬　貴道 | 経済的自由 | 経済的自由の内容、経済的自由に対する規制、財産権の保障について学ぶ。（第22条・第29条） |
| 11 | 猪瀬　貴道 | 社会権的基本権（1） | 社会権の基本的な考え方について理解して、生存権、教育を受ける権利を学ぶ。（第25条～第26条） |
| 12 | 猪瀬　貴道 | 社会権的基本権（2） | 社会権のうち、労働基本権について学ぶ。（第27条～第28条） |
| 13 | 猪瀬　貴道 | 国務請求権と参政権 | 国家賠償請求権、刑事補償請求権、参政権、請願権について学ぶ。（第17条・第40条・第32条・第15条・第16条） |
| 14 | 猪瀬　貴道 | 人権の実現と統治のしくみ | ここまで学んできた日本国憲法による人権保障の全体像、人権と憲法上の権利、平等と自由の関係について整理した上で、統治のしくみの概要を学ぶ。 |
| 15 | 猪瀬　貴道 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 日本国憲法における人権保障に関する規定ついて基本的知識を修得する。さまざまな人権の意味や内容について理解する。それらの基本的知識に基づいて憲法による人権保障の意義や課題について、歴史的経緯や裁判で判断された事例などを正確に踏まえて考察して、論理的・説得的に説明できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 「LMSにおける課題（小テスト）」（30%）および「期末試験」（70%）により評価する。期末試験については、憲法による人権保障の意義と課題について、この科目（授業および自己学修）を通して修得した知識に基づく問題、日本国憲法の人権規定の内容や意義、関連する裁判事例とその判決内容についての問題を出題する。以上を基本的な評価方法とした上で、各授業回コメントペーパーによる加点を行う。成績評価の方法は前年までと異なることがある。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 憲法改正の議論が報道などで取り上げられることも増えています。憲法について知識をもう一度整理して自分の考えを持てるようになりましょう。授業をきっかけにして教員から教えてもらうだけではなく自ら積極的に学んでいきましょう。関連する内容を扱う科目として後期に開講する「日本国憲法B」のほか、「法律の役割A・B」「政治のしくみA・B」「経済のしくみA・B」などがあります。<br>この科目および同じ科目名の対面授業科目について、成績分布やLMS課題の提出状況などを個別の履修者を特定できない方法で比較分析して、分析結果を公表する可能性があります。 |

**教員免許取得のための選択科目**

| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | | |
|---|---|---|---|---|
| **種別** | **書名** | **著者･編者** | **発行所** | **定価(円)** |
| **教科書** | 『論点　日本国憲法―憲法を学ぶための基礎知識』（第2版） | 安念潤司・小山剛・青井未帆・宍戸常寿・山本龍彦 | 東京法令出版 | 2,860円 |
| **参考書** | 『憲法への招待』（新版） | 渋谷秀樹 | 岩波新書（岩波書店） | 924円 |
| **参考書** | その他の参考書については授業やLMSで紹介する。 | | | 円 |

# 日本国憲法B

The Constitution of Japan B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　火１
**科目責任者：** 猪瀬　貴道
**担当者：** 猪瀬　貴道
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HS02／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 国家の基本法である「憲法」について学ぶことを通して、社会における責任ある一員として、個人の自由と社会的秩序が両立する社会の構築に寄与できるように成長するための土台をつくる。 |
| **教育内容** | 日本の現行憲法である日本国憲法の「統治」に関する規定を中心に取り上げる。「立憲主義」「三権分立」「法の支配」など憲法における国家の統治に関する基本原則について日本国憲法の条文を参照しながら理解するとともに、憲法において国の統治が規定されていることの意義を考える。具体的には下記の授業内容に沿って進めるが、進捗状況によって多少の調整を行う。 |
| **教育方法** | 【オンライン授業科目】<br>本科目は、インターネットを用いた学習管理システム（LMS（Google Classroomを使用予定））を用いたオンライン方式で授業を行う。LMSへのリンクは北里大学一般教育部ウェブサイトに記載するので科目名、履修する曜日と時限に注意して各自で登録する。最新のブラウザが利用可能なパソコン（タブレット等を含む）および通信容量無制限（または大容量）のインターネット回線を準備することが望ましい。<br>【指示に従った事前学修】<br>まず、授業日から次の授業日までの間にLMS上の学修指示（各回の教科書のページの読み方のポイントなど）にしたがって、教科書を用いた自己学修を行う。調べた用語やポイントを整理した授業ノートを履修者自身が作成する。LMS上に設定された教科書の内容の理解を確認する課題を指定された日時までに解答・提出する。<br>【教員による解説動画の視聴】<br>授業日には、LMSにアップロードされて公開される教員による解説動画を視聴して、自分で作成したノートに追記や修正を行う。視聴後には、疑問を持った点や関心を持った点についてLMS上のコメントペーパーに入力する。<br>【フィードバックの方法】<br>LMSや教員による解説動画において学生からのコメントペーパーや課題について履修者全体に対してフィードバックする。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間（授業期間全体）】<br>※各授業回あたり予習・復習を合わせて約４時間の自己学習を想定しているが、自由に配分して良い（たとえば試験対策やレポート作成に重点的に時間を配分するなど）。また、以下の内容は参考例として記載するが履修者が自分で考えて下記の「到達目標」の達成に必要な内容で自由に実施する。<br>予習：日本国憲法の関連条文や教科書の該当ページに目を通しておき、わからない部分を把握しておく<br>復習：教科書やLMSに示された資料などを読み直して授業ノートを補足して整理する |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 猪瀬　貴道 | 科目説明と導入 | 科目の位置づけ、授業の進め方（LMSの利用方法を含む）、成績評価の方法などの詳細、この科目で学ぶ内容の概要を説明する。2回目の授業回までにこの科目のLMSを必ず確認すること。 |
| 2 | 猪瀬　貴道 | 日本国憲法の成立 | 日本国憲法の成立過程、受容と定着の背景、大日本帝国憲法との比較とその異同について学ぶことで、日本国憲法の特徴を理解する。 |
| 3 | 猪瀬　貴道 | 国民主権と象徴天皇制 | 国民主権、代表民主制、天皇の地位・役割について学ぶ。（日本国憲法前文、第1条～第8条）※以下（第〇条）は日本国憲法の条文番号 |
| 4 | 猪瀬　貴道 | 平和主義 | 平和主義の考え方を学び、戦争放棄と戦力不保持が憲法において規定されることの意義を考える。（前文、第9条） |
| 5 | 猪瀬　貴道 | 基本的人権の保障 | 人権宣言の理念と歴史、人権保障の国際化、憲法上の権利の分類、人権の主体について学ぶことで、基本的人権の意義について理解する。 |
| 6 | 猪瀬　貴道 | 立法権（国会）（1） | 立法権を担う国会の機能や役割に関する日本国憲法の規定を学び、二院制の意義と課題について考える。（第41条～第64条） |
| 7 | 猪瀬　貴道 | 立法権（国会）（2） | 立法権を担う国会の機能や役割に関する日本国憲法の規定を学び、二院制の意義と課題について考える。（第41条～第64条） |
| 8 | 猪瀬　貴道 | 行政権（内閣）（1） | 行政権を担う内閣の機能や役割に関する日本国憲法の規定を学び、議院内閣制の意義と課題について考える。（第65条～第75条） |
| 9 | 猪瀬　貴道 | 行政権（内閣）（2） | 行政権を担う内閣の機能や役割に関する日本国憲法の規定を学び、議院内閣制の意義と課題について考える。（第65条～第75条） |
| 10 | 猪瀬　貴道 | 司法権（裁判所）（1） | 司法権を担う裁判所の機能や役割に関する日本国憲法の規定を学び、司法制度の意義と課題を考える。（第76条～第82条） |
| 11 | 猪瀬　貴道 | 司法権（裁判所）（2） | 司法権を担う裁判所の機能や役割に関する日本国憲法の規定を学び、司法制度の意義と課題を考える。（第76条～第82条） |
| 12 | 猪瀬　貴道 | 財政 | 財政（国家の予算・決算、税制）に関する日本国憲法の規定を学び、日本の財政について考える。（第83条～第91条） |
| 13 | 猪瀬　貴道 | 地方自治 | 地方自治に関する日本国憲法の規定を学び、国と地方の関係、地方分権について考える。（第92条～第95条） |
| 14 | 猪瀬　貴道 | 憲法の最高法規と憲法による統治 | 日本国憲法の最高法規性と改正手続、違憲審査制について学び、憲法による統治の意義と意義を考える。（第96条～第99条） |
| 15 | 猪瀬　貴道 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 憲法に基づく統治のしくみの基本的知識を修得する。それらの基本的知識に基づいて、日本国憲法における統治のしくみの意義や課題について、歴史的経緯や裁判で判断された事例などを正確に踏まえたうえで考察して、論理的・説得的に説明できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 「LMSにおける課題（小テスト）」（30%）および「期末試験」（70%）により評価する。期末試験については、憲法による統治の意義と課題についてこの科目（授業および自己学修）を通して修得した知識に基づく問題、日本国憲法の統治規定の内容や意義、解決案についての問題を出題する。以上を基本的な評価方法とした上で、各授業回コメントペーパーによる加点を行う。成績評価の方法は前年までと異なることがある。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 憲法改正の議論が報道などで取り上げられることも増えています。憲法について知識をもう一度整理して自分の考えを持てるようになりましょう。授業をきっかけにして教員から教えてもらうだけではなく自ら積極的に学んでいきましょう。関連する内容を扱う科目として前期に開講する「日本国憲法A」のほか、「法律の役割A・B」「政治のしくみA・B」などがあります。<br>この科目および同じ科目名の対面授業科目について、成績分布やLMS課題の提出状況などを個別の履修者を特定できない方法で比較分析して、分析結果を公表する可能性があります。 |

**教員免許取得のための選択科目**

| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | | |
|---|---|---|---|---|
| **種別** | **書名** | **著者･編者** | **発行所** | **定価(円)** |
| **教科書** | 『論点　日本国憲法―憲法を学ぶための基礎知識』（第2版） | 安念潤司・小山剛・青井未帆・宍戸常寿・山本龍彦 | 東京法令出版 | 2,860円 |
| **参考書** | 『憲法への招待』（新版） | 渋谷秀樹 | 岩波新書（岩波書店） | 924円 |
| **参考書** | その他の参考書については授業やLMSで紹介する。 | | | 円 |

# 日本国憲法A

The Constitution of Japan A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　水１
**科目責任者：** 猪瀬　貴道
**担　当　者：** 猪瀬　貴道
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-HS01／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 国家の基本法である「憲法」について学ぶことを通して、社会における責任ある一員として、個人の自由と社会的秩序が両立する社会の構築に寄与できるように成長するための土台をつくる。 |
| **教育内容** | 日本の現行憲法である日本国憲法の「人権」に関する規定を中心に学ぶ。日本国憲法の条文に沿って、憲法が保障する基本的人権の意義、内容、およびその制約について基礎知識を修得するとともに、関連する重要事例を素材に憲法において人権が保障される意義を考える。具体的には下記の授業内容に沿って進めるが、進捗状況によって多少の調整を行う。 |
| **教育方法** | 【対面授業科目】<br>本科目は、教室による対面授業で開講する。ただし、インターネットを用いた学習管理システム（LMS（Google Classroomを使用予定））を用いた授業を行う。LMSへのリンクは授業で告知するので各自で登録する。最新のブラウザが利用可能なパソコン（タブレット等を含む）および通信容量無制限（または大容量）のインターネット回線を準備することが望ましい。<br>【オンデマンド学修（自己学修）】<br>まず、授業日から次の授業日までの間にLMS上の学修指示（各回の教科書のページの読み方のポイントなど）にしたがって、教科書を用いた自己学修として調べた用語やポイントを整理した授業ノートを履修者自身が作成する。LMS上に設定された教科書の内容の理解を確認する課題を指定された日時までに解答・提出する。<br>【教員による解説授業（フィードバックを含む）】<br>教室において、教科書に基づいたスライドを用いた教員による解説授業を受け、自分で作成したノートに追記や修正を行う。授業後には、疑問を持った点や関心を持った点についてLMS上のコメントペーパーに入力する。<br>【フィードバックの方法】<br>LMSや授業において学生からのコメントペーパーや課題について履修者全体に対してフィードバックする。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間（授業期間全体）】<br>※各授業回あたり予習・復習を合わせて約４時間の自己学習を想定しているが、自由に配分して良い（たとえば試験対策やレポート作成に重点的に時間を配分するなど）。また、以下の内容は参考例として記載するが履修者が自分で考えて下記の「到達目標」の達成に必要な内容で自由に実施する。<br>予習：日本国憲法の関連条文や教科書の該当ページに目を通しておき、わからない部分を把握しておく<br>復習：教科書やLMSに示された資料などを読み直して授業ノートを補足して整理する |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 猪瀬　貴道 | 科目説明と導入 | 科目の位置づけ、授業の進め方（LMSの利用方法を含む）、成績評価の方法などの詳細、この科目で学ぶ内容の概要を説明する。2回目の授業回までにこの科目のLMSを必ず確認すること。 |
| 2 | 猪瀬　貴道 | 日本国憲法の成立 | 日本国憲法の成立過程、受容と定着の背景、大日本帝国憲法との比較とその異同について学ぶことで、日本国憲法の特徴を理解する。 |
| 3 | 猪瀬　貴道 | 基本的人権とは何か | 人権宣言の理念と歴史、人権保障の国際化、憲法上の権利の分類、人権の主体について学ぶことで、基本的人権の意義について理解する。 |
| 4 | 猪瀬　貴道 | 包括的基本権 | 幸福追求権、新しい人権、自己決定権など包括的基本権について学ぶ。（日本国憲法第13条）※以下（第〇条）は日本国憲法の条文番号を示す |
| 5 | 猪瀬　貴道 | 法の下の平等 | 平等権と平等原則について学ぶことで、法の下の平等について考える。（第10条・第14条） |
| 6 | 猪瀬　貴道 | 精神的自由（1） | 精神的自由のうち、思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則について学ぶ。（第19条・第20条） |
| 7 | 猪瀬　貴道 | 精神的自由（2） | 精神的自由のうち、表現の自由、報道の自由、知る権利について学ぶ。（第21条） |
| 8 | 猪瀬　貴道 | 精神的自由（3） | 精神的自由のうち、表現の自由の限界、集会の自由、学問の自由について学ぶ。（第21条・第23条） |
| 9 | 猪瀬　貴道 | 人身の自由 | 人身の自由として位置づけられる、奴隷的拘束からの自由、刑事手続の原則を学ぶ。（第18条・第31条～第39条） |
| 10 | 猪瀬　貴道 | 経済的自由 | 経済的自由の内容、経済的自由に対する規制、財産権の保障について学ぶ。（第22条・第29条） |
| 11 | 猪瀬　貴道 | 社会権的基本権（1） | 社会権の基本的な考え方について理解して、生存権、教育を受ける権利を学ぶ。（第25条～第26条） |
| 12 | 猪瀬　貴道 | 社会権的基本権（2） | 社会権のうち、労働基本権について学ぶ。（第27条～第28条） |
| 13 | 猪瀬　貴道 | 国務請求権と参政権 | 国家賠償請求権、刑事補償請求権、参政権、請願権について学ぶ。（第17条・第40条・第32条・第15条・第16条） |
| 14 | 猪瀬　貴道 | 人権の実現と統治のしくみ | ここまで学んできた日本国憲法による人権保障の全体像、人権と憲法上の権利、平等と自由の関係について整理した上で、統治のしくみの概要を学ぶ。 |
| 15 | 猪瀬　貴道 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 日本国憲法における人権保障に関する規定ついて基本的知識を修得する。さまざまな人権の意味や内容について理解する。それらの基本的知識に基づいて憲法による人権保障の意義や課題について、歴史的経緯や裁判で判断された事例などを正確に踏まえて考察して、論理的・説得的に説明できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 「LMSにおける課題（小テスト）」（30%）および「期末試験」（70%）により評価する。「期末試験」については、憲法による人権保障の意義と課題について、この科目（授業および自己学修）を通して修得した知識に基づく問題、日本国憲法の人権規定の内容や意義、関連する裁判事例とその判決内容についての問題を出題する。以上を基本的な評価方法とした上で、各授業回コメントペーパーによる加点を行う。成績評価の方法は前年までと異なることがある。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 憲法改正の議論が報道などで取り上げられることも増えています。憲法について知識をもう一度整理して自分の考えを持てるようになりましょう。授業をきっかけにして教員から教えてもらうだけではなく自ら積極的に学んでいきましょう。関連する内容を扱う科目として後期に開講する「日本国憲法B」のほか、「法律の役割A・B」「政治のしくみA・B」「経済のしくみA・B」などがあります。<br>この科目および同じ科目名のオンライン授業科目について、成績分布やLMS課題の提出状況などを個別の履修者を特定できない方法で比較分析して、分析結果を公表する可能性があります。 |

**教員免許取得のための選択科目**

| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | | |
|---|---|---|---|---|
| **種別** | **書名** | **著者･編者** | **発行所** | **定価(円)** |
| **教科書** | 『論点　日本国憲法―憲法を学ぶための基礎知識』（第2版） | 安念潤司・小山剛・青井未帆・宍戸常寿・山本龍彦 | 東京法令出版 | 2,860円 |
| **参考書** | 『憲法への招待』（新版） | 渋谷秀樹 | 岩波新書（岩波書店） | 924円 |
| **参考書** | その他の参考書については授業やLMSで紹介する。 | | | 円 |

# 日本国憲法B

The Constitution of Japan B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　水１
**科目責任者：** 猪瀬　貴道
**担　当　者：** 猪瀬　貴道
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-HS02／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 国家の基本法である「憲法」について学ぶことを通して、社会における責任ある一員として、個人の自由と社会的秩序が両立する社会の構築に寄与できるように成長するための土台をつくる。 |
| **教育内容** | 日本の現行憲法である日本国憲法の「統治」に関する規定を中心に取り上げる。「立憲主義」「三権分立」「法の支配」など憲法における国家の統治に関する基本原則について日本国憲法の条文を参照しながら理解するとともに、憲法において国の統治が規定されていることの意義を考える。具体的には下記の授業内容に沿って進めるが、進捗状況によって多少の調整を行う。 |
| **教育方法** | 【対面授業科目】<br>本科目は、教室による対面授業で開講する。ただし、インターネットを用いた学習管理システム（LMS（Google Classroomを使用予定））を用いた授業を行う。LMSへのリンクは授業で告知するので各自で登録する。最新のブラウザが利用可能なパソコン（タブレット等を含む）および通信容量無制限（または大容量）のインターネット回線を準備することが望ましい。<br>【オンデマンド学修（自己学修）】<br>まず、授業日から次の授業日までの間にLMS上の学修指示（各回の教科書のページの読み方のポイントなど）にしたがって、教科書を用いた自己学修として調べた用語やポイントを整理した授業ノートを履修者自身が作成する。LMS上に設定された教科書の内容の理解を確認する課題を指定された日時までに解答・提出する。<br>【教員による解説授業（フィードバックを含む）】<br>教室において、教科書に基づいたスライドを用いた教員による解説授業を受け、自分で作成したノートに追記や修正を行う。授業後には、疑問を持った点や関心を持った点についてLMS上のコメントペーパーに入力する。<br>【フィードバックの方法】<br>LMSや授業において学生からのコメントペーパーや課題について履修者全体に対してフィードバックする。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間（授業期間全体）】<br>※各授業回あたり予習・復習を合わせて約４時間の自己学習を想定しているが、自由に配分して良い（たとえば試験対策やレポート作成に重点的に時間を配分するなど）。また、以下の内容は参考例として記載するが履修者が自分で考えて下記の「到達目標」の達成に必要な内容で自由に実施する。<br>予習：日本国憲法の関連条文や教科書の該当ページに目を通しておき、わからない部分を把握しておく<br>復習：教科書やLMSに示された資料などを読み直して授業ノートを補足して整理する |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 猪瀬　貴道 | 科目説明と導入 | 科目の位置づけ、授業の進め方（LMSの利用方法を含む）、成績評価の方法などの詳細、この科目で学ぶ内容の概要を説明する。2回目の授業回までにこの科目のLMSを必ず確認すること。 |
| 2 | 猪瀬　貴道 | 日本国憲法の成立 | 日本国憲法の成立過程、受容と定着の背景、大日本帝国憲法との比較とその異同について学ぶことで、日本国憲法の特徴を理解する。 |
| 3 | 猪瀬　貴道 | 国民主権と象徴天皇制 | 国民主権、代表民主制、天皇の地位・役割について学ぶ。（日本国憲法前文、第1条～第8条）※以下（第〇条）は日本国憲法の条文番号 |
| 4 | 猪瀬　貴道 | 平和主義 | 平和主義の考え方を学び、戦争放棄と戦力不保持が憲法において規定されることの意義を考える。（前文、第9条） |
| 5 | 猪瀬　貴道 | 基本的人権の保障 | 人権宣言の理念と歴史、人権保障の国際化、憲法上の権利の分類、人権の主体について学ぶことで、基本的人権の意義について理解する。 |
| 6 | 猪瀬　貴道 | 立法権（国会）（1） | 立法権を担う国会の機能や役割に関する日本国憲法の規定を学び、二院制の意義と課題について考える。（第41条～第64条） |
| 7 | 猪瀬　貴道 | 立法権（国会）（2） | 立法権を担う国会の機能や役割に関する日本国憲法の規定を学び、二院制の意義と課題について考える。（第41条～第64条） |
| 8 | 猪瀬　貴道 | 行政権（内閣）（1） | 行政権を担う内閣の機能や役割に関する日本国憲法の規定を学び、議院内閣制の意義と課題について考える。（第65条～第75条） |
| 9 | 猪瀬　貴道 | 行政権（内閣）（2） | 行政権を担う内閣の機能や役割に関する日本国憲法の規定を学び、議院内閣制の意義と課題について考える。（第65条～第75条） |
| 10 | 猪瀬　貴道 | 司法権（裁判所）（1） | 司法権を担う裁判所の機能や役割に関する日本国憲法の規定を学び、司法制度の意義と課題を考える。（第76条～第82条） |
| 11 | 猪瀬　貴道 | 司法権（裁判所）（2） | 司法権を担う裁判所の機能や役割に関する日本国憲法の規定を学び、司法制度の意義と課題を考える。（第76条～第82条） |
| 12 | 猪瀬　貴道 | 財政 | 財政（国家の予算・決算、税制）に関する日本国憲法の規定を学び、日本の財政について考える。（第83条～第91条） |
| 13 | 猪瀬　貴道 | 地方自治 | 地方自治に関する日本国憲法の規定を学び、国と地方の関係、地方分権について考える。（第92条～第95条） |
| 14 | 猪瀬　貴道 | 憲法の最高法規と憲法による統治 | 日本国憲法の最高法規性と改正手続、違憲審査制について学び、憲法による統治の意義と意義を考える。（第96条～第99条） |
| 15 | 猪瀬　貴道 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 憲法に基づく統治のしくみの基本的知識を修得する。それらの基本的知識に基づいて、日本国憲法における統治のしくみの意義や課題について、歴史的経緯や裁判で判断された事例などを正確に踏まえたうえで考察して、論理的・説得的に説明できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 「LMSにおける課題（小テスト）」（30%）および「期末試験」（70%）により評価する。期末試験については、憲法による統治の意義と課題についてこの科目（授業および自己学修）を通して修得した知識に基づく問題、日本国憲法の統治規定の内容や意義、解決案についての問題を出題する。以上を基本的な評価方法とした上で、各授業回コメントペーパーによる加点を行う。成績評価の方法は前年までと異なることがある。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 憲法改正の議論が報道などで取り上げられることも増えています。憲法について知識をもう一度整理して自分の考えを持てるようになりましょう。授業をきっかけにして教員から教えてもらうだけではなく自ら積極的に学んでいきましょう。関連する内容を扱う科目として前期に開講する「日本国憲法A」のほか、「法律の役割A・B」「政治のしくみA・B」などがあります。<br>この科目および同じ科目名のオンライン授業科目について、成績分布やLMS課題の提出状況などを個別の履修者を特定できない方法で比較分析して、分析結果を公表する可能性があります。 |

**教員免許取得のための選択科目**

| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | | |
|---|---|---|---|---|
| **種別** | **書名** | **著者･編者** | **発行所** | **定価(円)** |
| **教科書** | 『論点　日本国憲法―憲法を学ぶための基礎知識』（第2版） | 安念潤司・小山剛・青井未帆・宍戸常寿・山本龍彦 | 東京法令出版 | 2,860円 |
| **参考書** | 『憲法への招待』（新版） | 渋谷秀樹 | 岩波新書（岩波書店） | 924円 |
| **参考書** | その他の参考書については授業やLMSで紹介する。 | | | 円 |

# 日本国憲法A

The Constitution of Japan A

**科 目 概 要 ：** 2025年度　前期／2単位
**授 業 対 象 ：** 指定なし　金１or金２
**科目責任者 ：** 永山　茂樹
**担　当　者 ：** 永山　茂樹
**備　　考 ：** 科目ナンバリング：L101-HS01／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | １、憲法が保障する人権についての基礎的知識を学習する。<br>２、人権の考え方を身につける。<br>３、社会問題を、人権の観点から考える。 |
| **教育内容** | 人権をめぐる諸問題を題材にして、過去・現在・将来の私たちは、それをどう解決してきたか、残された課題は何か、を理解させる |
| **教育方法** | 対面式の講義で行う。授業レジュメ（文書）はGoogle Classroomで配信するので、それを【印刷して】授業に持参すること。【フィードバック】提出されたレポートについては全体的な講評を講義で述べる。<br>なおクラスコードは、　qvopzps　である |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：各回講義で指定する予習課題に取り組む　各回2時間<br>復習：講義で紹介した資料を材料にしながら、関心のある問題について考えてみる　各回2時間 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 永山　茂樹 | 人権と人権宣言の歴史 | 人はなぜ人権と人権宣言をつくったか／近代の人権思想／人権宣言の歴史／ |
| 2 | 永山　茂樹 | 人権の分類 | どのようなものを人権とよぶか／人権の特徴／人権の分類／人権の持ち主／ |
| 3 | 永山　茂樹 | 平等（１） | 法の下の平等／憲法が禁じた差別／合理的な差別と不合理な差別／平等と自由の関係 |
| 4 | 永山　茂樹 | 平等（２） | 現代日本の性差別／現代日本の人種差別／競争こそが生きがい？競争至上主義をこえて／ |
| 5 | 永山　茂樹 | 心の自由（１） | 思想・良心の自由／「その人らしさ」の基礎になる思想・良心の自由／沈黙する自由／マインド・コントロール／「良心に反する行い」を強制できるか |
| 6 | 永山　茂樹 | 心の自由（２） | 信教の自由／信教の自由の限界／宗教と国家／政教分離をまもることの意義 |
| 7 | 永山　茂樹 | 表現の自由（１） | 表現の自由を保障する意義／政治的表現の自由／集会の自由／表現の自由の限界（他者の権利との関係） |
| 8 | 永山　茂樹 | 表現の自由（２） | 知る権利の大切さ／マスメディアの役割／秘密保護法の問題点 |
| 9 | 永山　茂樹 | 身体の自由 | 身体の自由／刑事裁判手続の概観／冤罪を防ぐために |
| 10 | 永山　茂樹 | 生存権 | 現代日本の貧困／健康で文化的な生活をいとなむ権利／生存権を実現する方法／朝日訴訟からまなぶこと |
| 11 | 永山　茂樹 | 教育権と学問の自由 | 教育をめぐる人権／教育のなかみはだれが決めるか／学校のなかの学生の権利／危機にたつ学問の自由 |
| 12 | 永山　茂樹 | 労働権 | 人間らしいはたらき方／ブラック企業とブラック・バイト／労働条件を改善するための団結権／労働権を保障するための制度（ダンダリンからまなぶこと） |
| 13 | 永山　茂樹 | 国際化と人権 | 人権を脅かすことにつながるグローバル化／人権を高めることにつながるグローバル化／平和のうちに生きる権利／国際人権法と日本国憲法 |
| 14 | 永山　茂樹 | 人権の実現 | あたらしい人権／人権を守る・発展させる主体はだれか／人権保障おける裁判所の役割／民主主義と人権／改憲と人権 |
| 15 | 永山　茂樹 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 社会・政治・経済・家族・学習生活など生活の全部面において、自己および他者の人権を尊重することができる。人権問題を解決し、人権を発展させることができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：レポート 実施時期：試験期間外<br>授業への参加　40%　　レポート　　60%　　に基づいて成績を評価する。授業への参加はリアクションペーパーの提出状況およびその内容で判定をする。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | わたしたちは、人権をまもり、人権を発展させ、人権とつきあって生きていかなければなりません。 |

**教員免許取得のための選択科目**

| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | | |
|---|---|---|---|---|
| **種別** | **書名** | **著者･編者** | **発行所** | **定価(円)** |
| **教科書** | 基礎からつくる立憲主義 | 石川裕一郎ほか | 学習の友社 | 1320円 |

# 日本国憲法B

The Constitution of Japan B

**科 目 概 要 ：** 2025年度　後期／2単位
**授 業 対 象 ：** 指定なし　木１or木２
**科目責任者 ：** 永山　茂樹
**担　当　者 ：** 永山　茂樹
**備　　考 ：** 科目ナンバリング：L101-HS02／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | １、法の支配と権力分立の基礎を理解する<br>２、国民主権の基礎を理解する<br>３、地方自治の基礎を理解する<br>４、平和主義の基礎を理解する |
| **教育内容** | 法の支配、権力分立など憲法の統治機構にかかわる諸原理を学ぶことによって、人権保障のために、公権力をどう動かすべきか／動かすべきではないかを理解させる |
| **教育方法** | 対面式の講義で行う。資料はGoogle Classroomに掲載するので、それを【印刷して】講義に持参する。【フィードバック】提出されたレポートについては全体的な講評を掲載する。<br>なお　クラスコードは　　k2datvo　である |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：各回講義で指定する予習課題に取り組む　各回2時間<br>復習：講義で紹介した資料を材料にしながら、関心のある問題について考えてみる　各回2時間 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 永山　茂樹 | 立憲主義と権力分立 | 立憲主義という概念の意味／国家権力を疑うことの大切さ／権力分立の原理／権力分立の変容と課題 |
| 2 | 永山　茂樹 | 国民主権 | 国民主権の原理／わたしたちが政治の主人公であること／国民主権を具体化する制度／みせかけだけの国民主権には要注意 |
| 3 | 永山　茂樹 | 国民代表（１） | 国民代表とはだれのことか／国民代表をどう働かせるか／国民代表の合格例と失格例／劇場政治 vs 熟慮と討議重視の議会制民主主義 |
| 4 | 永山　茂樹 | 国民代表（２） | 国民代表の選び方／選挙制度の比較・特徴／ゆがんでしまった選挙制度をただすこと |
| 5 | 永山　茂樹 | 国会 | 国会の位置づけ／国会がもつ立法権の意味／権利を守る法律・権利を制限する法律／内閣を統制する権限 |
| 6 | 永山　茂樹 | 内閣 | 内閣が行使する行政権の意味／議院内閣制の意味／内閣が衆議院を解散すること／内閣総理大臣の独裁政治 |
| 7 | 永山　茂樹 | 裁判所（１） | 裁判所がもつ司法権の意味／裁判という制度の特徴／「人の支配」と「法の支配」（選挙で勝つとなにをしても許される？）／民事裁判と刑事裁判 |
| 8 | 永山　茂樹 | 裁判所（２） | 裁判所・裁判官の独立を保障することの意義／裁判官の身分を保障する／国民が司法に参加することの意義と危険性（「民意にあった処罰」でいいのか） |
| 9 | 永山　茂樹 | 違憲審査制 | 違憲審査制度の概要／違憲判決の効力／人権保障としての違憲審査制／憲法秩序を保障する制度としての違憲審査制／日本におけるおもな違憲判決／ |
| 10 | 永山　茂樹 | 地方自治 | 地方自治の歴史／団体自治と住民自治／自治体の条例制定権／地域からはじまる人権保障と民主主義 |
| 11 | 永山　茂樹 | 平和主義（１） | 戦争違法化の歴史／差別的戦争観と無差別戦争観／国連憲章と日本国憲法９条の歴史的位置づけ |
| 12 | 永山　茂樹 | 平和主義（２） | 消極的平和と積極的平和／構造的暴力を取り除くことの重要さ／核兵器廃絶と武器生産の制限／平和的生存権の保障／「平和のための権利」の実現にむけた運動 |
| 13 | 永山　茂樹 | 憲法改正 | 公務員が負う「憲法を尊重し擁護する義務」／憲法改正手続と国民投票／軟性憲法・硬性憲法／変えやすい憲法は良い憲法か／立憲主義の意義 |
| 14 | 永山　茂樹 | 日本国憲法史 | 日本国憲法の歴史（憲法原理の定着前～憲法の定着～定着後）／基本的人権と民主主義と平和を追求する運動としての憲法擁護／ |
| 15 | 永山　茂樹 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 統治機構に関する基礎を身につけ、主権者として政治に携わる能力が発揮できる |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：レポート 実施時期：試験期間外<br>授業への参加　40%　　レポート　　60%　　に基づいて成績を評価する。授業への参加はリアクションペーパーの提出状況およびその内容で判定をする。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 憲法理念にもとづいた政治（憲法政治）がまっとうに行われないところでは、人権保障はありえないとおもいます。２１世紀、人権保障のために国の統治制度はどうあるべきか、考えましょう。 |

**教員免許取得のための選択科目**

| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | | |
|---|---|---|---|---|
| **種別** | **書名** | **著者･編者** | **発行所** | **定価(円)** |
| **参考書** | 国会を取り戻そう | 石川裕一郎ほか | 現代人文社 | 1,944円 |

# 法律の役割A（法学入門）

Jurisprudence A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　月１
**科目責任者：** 猪瀬　貴道
**担　当　者：** 猪瀬　貴道
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-HS03／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 法（法学）の基本的考え方や代表的な法分野の基礎知識を学ぶことを通して、社会における法の役割を理解するとともに、社会における責任ある一員として、自律的に行動できるように成長するための土台をつくる。 |
| **教育内容** | 法（法学）全体の考え方の基礎となる概念、手続、体系と分類などの概要について学ぶ。また、社会生活を送る中で関係する法律について基本構造や基本的考え方を取り上げて、社会生活をおくるなかで遭遇するさまざまな場面においてどのような法がどのように機能しているのかを考える。具体的には下記の授業内容に沿って進めるが、進捗状況によって多少の調整を行う。 |
| **教育方法** | 【オンライン授業科目】<br>本科目は、インターネットを用いた学習管理システム（LMS（Google Classroomを使用予定））を用いたオンライン方式で授業を行う。LMSへのリンクは北里大学一般教育部ウェブサイトに記載するので科目名、履修する曜日と時限に注意して各自で登録する。最新のブラウザが利用可能なパソコン（タブレット等を含む）および通信容量無制限（または大容量）のインターネット回線を準備することが望ましい。<br>【指示に従った事前学修】<br>まず、授業日から次の授業日までの間にLMS上の学修指示（各回の教科書のページの読み方のポイントなど）にしたがって、教科書を用いた自己学修を行う。調べた用語やポイントを整理した授業ノートを履修者自身が作成する。LMS上に設定された教科書の内容の理解を確認する課題を指定された日時までに解答・提出する。<br>【教員による解説動画の視聴】<br>授業日には、LMSにアップロードされて公開される教員による解説動画を視聴して、自分で作成したノートに追記や修正を行う。視聴後には、疑問を持った点や関心を持った点についてLMS上のコメントペーパーに入力する。<br>【フィードバックの方法】<br>LMSや教員による解説動画において学生からのコメントペーパーや課題について履修者全体に対してフィードバックする。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間（授業期間全体）】<br>※各授業回あたり予習・復習を合わせて約４時間の自己学習を想定しているが、自由に配分して良い（たとえば試験対策やレポート作成に重点的に時間を配分するなど）。また、以下の内容は参考例として記載するが履修者が自分で考えて下記の「到達目標」の達成に必要な内容で自由に実施する。<br>予習：教科書の該当ページや関連する法令に目を通しておき、わからない部分を把握しておく<br>復習：教科書やLMSに示された資料などを読み直して授業ノートを補足して整理する |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 猪瀬　貴道 | 科目説明と導入 | 科目の位置づけ、授業の進め方（LMSの利用方法を含む）、成績評価の方法などの詳細、この科目で学ぶ内容の概要を説明する。2回目の授業回までにこの科目のLMS）を必ず確認すること。 |
| 2 | 猪瀬　貴道 | 法と契約 | 「法」とは何か、「契約」とは何か（『プレップ法と法学』（以下『プレップ』）1〜28ページ） |
| 3 | 猪瀬　貴道 | 法と国家と法律 | 法の機能、法と国家の関係、法と法律（『プレップ』30〜59ページ） |
| 4 | 猪瀬　貴道 | 法の本質と人間 | 法の妥当性、法の本質の思想、法における人間（『プレップ』62〜95ページ） |
| 5 | 猪瀬　貴道 | 法の機能と私法の基本原則 | 公法・私法、所有権、契約自由、法的責任（『プレップ』98〜120ページ） |
| 6 | 猪瀬　貴道 | 法の現代化と法文化 | 社会権、社会法、法継受、日本人の法意識（『プレップ』122〜153ページ） |
| 7 | 猪瀬　貴道 | 法の分類 | 六法、法源、一般法と特別法（『プレップ』156〜185ページ） |
| 8 | 猪瀬　貴道 | 大学生と法 | 大学生の法的立場、契約と消費者、学生生活（『大学生が知っておきたい生活の中の法律』（以下『生活の中の法律』）1〜20ページ） |
| 9 | 猪瀬　貴道 | 仕事と法 | 働くこと、就職活動、労働者の保護（『生活の中の法律』21〜40ページ） |
| 10 | 猪瀬　貴道 | 家族と法 | 婚姻（成立・解消）、子ども（『生活の中の法律』41〜54ページ） |
| 11 | 猪瀬　貴道 | 生活と法 | 税、社会保険、犯罪と刑罰、交通事故（『生活の中の法律』55〜74ページ） |
| 12 | 猪瀬　貴道 | 高齢社会と法 | 社会保障制度、相続（『生活の中の法律』75〜88ページ） |
| 13 | 猪瀬　貴道 | 将来社会と法 | 民主主義、憲法の理念、市民社会、国際平和（『生活の中の法律』89〜102ページ） |
| 14 | 猪瀬　貴道 | 法を学ぶ意義 | 全体の振り返りと法学の意義（『プレップ』188〜194ページ） |
| 15 | 猪瀬　貴道 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 法学の基本的な考え方と授業で取り上げた法的概念や法令について基本的知識を修得する。それらの基本的知識に基づいて、社会のなかで法律や法が果たしている役割やその意義や課題について、歴史や先例などを正確に踏まえて考察して、論理的・説得的に説明できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | LMSにおける課題（30%）および期末試験（70%）により評価する。期末試験については、さまざまな法律が関わる状況について法に基づく説明を求める問題、この科目（授業および自己学修）を通して修得した知識に基づき社会生活における「法律の役割」に関する問題を出題する。以上を基本的な評価方法とした上で、各授業回のコメントペーパーによる加点を行う。成績評価の方法は前年までと異なることがある。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 法律について自分にはあまり関係ないと思っていませんか。2022年4月からは成年年齢も18歳に引き下げられ、法的に保護される立場から独立した立場になります。法律は専門家に任せる部分も大きいですが、市民として社会生活を送るうえで法律の基礎的知識を身につけることが求められます。授業をきっかけにして教員から教えてもらうだけではなく自ら積極的に学んでいきましょう。関連する内容を扱う科目として後期に開講する「法律の役割B」のほか、「日本国憲法A・B」「政治のしくみA・B」などがあります。<br>この科目および同じ科目名の対面授業科目について、成績分布やLMS課題の提出状況などを個別の履修者を特定できない方法で比較分析して、分析結果を公表する可能性があります。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 『プレップ法と法学』 | 倉沢康一郎 | 弘文堂 | 1,100円 |
| **教科書** | 『大学生が知っておきたい生活の中の法律』 | 細川幸一 | 慶應義塾大学出版会 | 1,980円 |
| **参考書** | 『法学六法 '24』 | 池田真朗ほか（編集代表） | 信山社 | 1,100円 |
| **参考書** | その他の参考書については授業およびLMSで紹介する。 | | | 円 |

# 法律の役割B（国際社会の法）

Jurisprudence B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　月1
**科目責任者：** 猪瀬　貴道
**担当者：** 猪瀬　貴道
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HS04／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 法の分野のひとつである国際法を学ぶことを通して、現代社会における国際法の役割や国家間関係を理解し、国際社会の構成員の一人として問題解決を考えるために必要な知識と視野を身につけて成長するための土台をつくる。 |
| **教育内容** | 国際社会において機能しているルールである国際法について全体像を学ぶ。国際法の歴史、性質、主体、規律対象、紛争解決などの基礎知識を修得する。現行の国際法制度について学ぶとともに、現在や将来の課題について法による問題解決を考える。具体的には下記の授業内容に沿って進めるが、進捗状況によって多少の調整を行う。 |
| **教育方法** | 【オンライン授業科目】<br>本科目は、インターネットを用いた学習管理システム（LMS（Google Classroomを使用予定））を用いたオンライン方式で授業を行う。LMSへのリンクは北里大学一般教育部ウェブサイトに記載するので科目名、履修する曜日と時限に注意して各自で登録する。最新のブラウザが利用可能なパソコン（タブレット等を含む）および通信容量無制限（または大容量）のインターネット回線を準備することが望ましい。<br>【指示に従った事前学修】<br>まず、授業日から次の授業日までの間にLMS上の学修指示（各回の教科書のページの読み方のポイントなど）にしたがって、教科書を用いた自己学修を行う。調べた用語やポイントを整理した授業ノートを履修者自身が作成する。LMS上に設定された教科書の内容の理解を確認する課題を指定された日時までに解答・提出する。<br>【教員による解説動画の視聴】<br>授業日には、LMSにアップロードされて公開される教員による解説動画を視聴して、自分で作成したノートに追記や修正を行う。視聴後には、疑問を持った点や関心を持った点についてLMS上のコメントペーパーに入力する。<br>【フィードバックの方法】<br>LMSや教員による解説動画において学生からのコメントペーパーや課題について履修者全体に対してフィードバックする。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間（授業期間全体）】<br>※各授業回あたり予習・復習を合わせて約4時間の自己学習を想定しているが、自由に配分して良い（たとえば試験対策やレポート作成に重点的に時間を配分するなど）。また、以下の内容は参考例として記載するが履修者が自分で考えて下記の「到達目標」の達成に必要な内容で自由に実施する。<br>予習：日本国憲法の関連条文や教科書の該当ページに目を通しておき、わからない部分を把握しておく<br>復習：教科書やLMSに示された資料などを読み直して授業ノートを補足して整理する |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 猪瀬　貴道 | 科目説明と導入 | 科目の位置づけ、授業の進め方（LMSの利用方法を含む）、成績評価の方法などの詳細、この科目で学ぶ内容の概要を説明する。2回目の授業回までにこの科目のLMSを必ず確認すること。 |
| 2 | 猪瀬　貴道 | 国際法の成立 | 近代国際法、ヨーロッパ国際法、普遍的国際法（教科書Chapter 1）※以下（Chapter○）は教科書の該当箇所 |
| 3 | 猪瀬　貴道 | 国際法総論と国家 | 国際法の法的拘束力、存立形式、効力、責任、国際社会の構成単位としての国家（Chapter 2・3） |
| 4 | 猪瀬　貴道 | 国家間関係 | 条約法、外交関係、領事関係（Chapter 4） |
| 5 | 猪瀬　貴道 | 領域 | 国家領域、特殊地域、宇宙（Chapter 5） |
| 6 | 猪瀬　貴道 | 海洋法 | 海洋法の歴史、海域の区分、海域の境界画定（Chapter 6） |
| 7 | 猪瀬　貴道 | 国際組織 | 国際組織の概要、国連、専門分野の国際組織、地域的国際組織（Chapter 7） |
| 8 | 猪瀬　貴道 | 個人 | 国籍、難民、人権（Chapter 8） |
| 9 | 猪瀬　貴道 | 国際犯罪 | 国際犯罪の概念、国による処罰、国際刑事裁判所、犯罪人引渡し（Chapter 9） |
| 10 | 猪瀬　貴道 | 国際経済 | GATT/WTO、貿易、知的財産権、地域統合（Chapter 10） |
| 11 | 猪瀬　貴道 | 環境問題 | 国際環境法、環境条約（Chapter 11） |
| 12 | 猪瀬　貴道 | 紛争の平和的解決 | 国際紛争解決手段、国際裁判、国際司法裁判所、国際海洋法裁判所（Chapter 12） |
| 13 | 猪瀬　貴道 | 安全保障 | 国際社会における戦争、武力不行使原則、集団安全保障、国連平和維持活動（Chapter 13） |
| 14 | 猪瀬　貴道 | 武力紛争 | 武力紛争法の概要、敵対行為の規律、中立法、軍縮法（Chapter 14） |
| 15 | 猪瀬　貴道 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 授業で取り上げた法的概念や条約などについて基本的知識を修得する。それらの基本的知識に基づいて現代社会のさまざまな課題について現行の国際法制度の適用や変更による問題解決について、歴史や先例などを正確に踏まえて考察して、論理的・説得的に説明できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | LMSにおける課題（30%）および期末試験（70%）により評価する。期末試験（履修者数などによってレポートとする場合がある）については、この科目（授業および自己学修）を通して修得した知識に基づき国際法の特徴、意義、課題に関する問題、国際法の各分野の歴史的な展開、特徴、意義、課題などについて出題する。以上を基本的な評価方法とした上で、各授業回コメントペーパーによる加点を行う。成績評価の方法は前年までと異なることがある。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 現代社会のさまざまな課題について法に基づいて考えてみませんか。現代社会においては国際社会の一員として国際法の基礎知識を身につけて自分の意見を持つことが重要になっています。授業をきっかけにして教員から教えてもらうだけではなく自ら積極的に学んでいきましょう。関連科目として前期に開講する「法律の役割A」のほか、「日本国憲法A・B」「日本と国際社会A・B」などがあります。<br>この科目および同じ科目名の対面授業科目について、成績分布やLMS課題の提出状況などを個別の履修者を特定できない方法で比較分析して、分析結果を公表する可能性があります。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 『ビジュアルテキスト国際法』（第3版） | 加藤信行・植木俊哉・森川幸一・真山全・酒井啓亘・立松美也子 | 有斐閣 | 2,640円 |
| 参考書 | 『コンパクト学習条約集』（第3版） | 芹田 健太郎 （編） | 信山社 | 1,100円 |
| 参考書 | その他の参考書については授業およびLMSで紹介する。 | | | 円 |

# 法律の役割A（法学入門）

Jurisprudence A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　水２
**科目責任者：** 猪瀬　貴道
**担　当　者：** 猪瀬　貴道
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-HS03／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 法（法学）の基本的考え方や代表的な法分野の基礎知識を学ぶことを通して、社会における法（法律）の役割を理解するとともに、社会における責任ある一員として、自律的に行動できるように成長するための土台をつくる。 |
| **教育内容** | 法（法学）全体の考え方の基礎となる概念、手続、体系と分類などの概要について学ぶ。また、社会生活を送る中で関係する法律について基本構造や基本的考え方を取り上げて、社会生活をおくるなかで遭遇するさまざまな場面においてどのような法がどのように機能しているのかを考える。具体的には下記の授業内容に沿って進めるが、進捗状況によって多少の調整を行う。 |
| **教育方法** | 【対面授業科目】<br>本科目は、教室による対面授業で開講する。ただし、インターネットを用いた学習管理システム（LMS（Google Classroomを使用予定））を用いた授業を行う。LMSへのリンクは授業で告知するので各自で登録する。最新のブラウザが利用可能なパソコン（タブレット等を含む）および通信容量無制限（または大容量）のインターネット回線を準備することが望ましい。<br>【オンデマンド学修（自己学修）】<br>まず、授業日から次の授業日までの間にLMS上の学修指示（各回の教科書のページの読み方のポイントなど）にしたがって、教科書を用いた自己学修として調べた用語やポイントを整理した授業ノートを履修者自身が作成する。LMS上に設定された教科書の内容の理解を確認する課題を指定された日時までに解答・提出する。<br>【教員による解説授業（フィードバックを含む）】<br>教室において、教科書に基づいたスライドを用いた教員による解説授業を受け、自分で作成したノートに追記や修正を行う。授業後には、疑問を持った点や関心を持った点についてLMS上のコメントペーパーに入力する。<br>【フィードバックの方法】<br>LMSや授業において学生からのコメントペーパーや課題について履修者全体に対してフィードバックする。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間（授業期間全体）】<br>※各授業回あたり予習・復習を合わせて約４時間の自己学習を想定しているが、自由に配分して良い（たとえば試験対策やレポート作成に重点的に時間を配分するなど）。また、以下の内容は参考例として記載するが履修者が自分で考えて下記の「到達目標」の達成に必要な内容で自由に実施する。<br>予習：教科書の該当ページや関連する法令に目を通しておき、わからない部分を把握しておく<br>復習：教科書やLMSに示された資料などを読み直して授業ノートを補足して整理する |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 猪瀬　貴道 | 科目説明と導入 | 科目の位置づけ、授業の進め方（LMSの利用方法を含む）、成績評価の方法などの詳細、この科目で学ぶ内容の概要を説明する。2回目の授業回までにこの科目のLMS）を必ず確認すること。 |
| 2 | 猪瀬　貴道 | 法と契約 | 「法」とは何か、「契約」とは何か（『プレップ法と法学』（以下『プレップ』）1〜28ページ） |
| 3 | 猪瀬　貴道 | 法と国家と法律 | 法の機能、法と国家の関係、法と法律（『プレップ』30〜59ページ） |
| 4 | 猪瀬　貴道 | 法の本質と人間 | 法の妥当性、法の本質の思想、法における人間（『プレップ』62〜95ページ） |
| 5 | 猪瀬　貴道 | 法の機能と私法の基本原則 | 公法・私法、所有権、契約自由、法的責任（『プレップ』98〜120ページ） |
| 6 | 猪瀬　貴道 | 法の現代化と法文化 | 社会権、社会法、法継受、日本人の法意識（『プレップ』122〜153ページ） |
| 7 | 猪瀬　貴道 | 法の分類 | 六法、法源、一般法と特別法（『プレップ』156〜185ページ） |
| 8 | 猪瀬　貴道 | 大学生と法 | 大学生の法的立場、契約と消費者、学生生活（『大学生が知っておきたい生活の中の法律』（以下『生活の中の法律』）1〜20ページ） |
| 9 | 猪瀬　貴道 | 仕事と法 | 働くこと、就職活動、労働者の保護（『生活の中の法律』21〜40ページ） |
| 10 | 猪瀬　貴道 | 家族と法 | 婚姻（成立・解消）、子ども（『生活の中の法律』41〜54ページ） |
| 11 | 猪瀬　貴道 | 生活と法 | 税、社会保険、犯罪と刑罰、交通事故（『生活の中の法律』55〜74ページ） |
| 12 | 猪瀬　貴道 | 高齢社会と法 | 社会保障制度、相続（『生活の中の法律』75〜88ページ） |
| 13 | 猪瀬　貴道 | 将来社会と法 | 民主主義、憲法の理念、市民社会、国際平和（『生活の中の法律』89〜102ページ） |
| 14 | 猪瀬　貴道 | 法を学ぶ意義 | 全体の振り返りと法学の意義（『プレップ』188〜194ページ） |
| 15 | 猪瀬　貴道 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 法学の基本的な考え方と授業で取り上げた法的概念や法令について基本的知識を修得する。それらの基本的知識に基づいて、社会のなかで法律や法が果たしている役割やその意義や課題について、歴史や先例などを正確に踏まえて考察して、論理的・説得的に説明できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | LMSにおける課題（30%）および期末試験（70%）により評価する。期末試験については、さまざまな法律が関わる状況について法に基づく説明を求める問題、この科目（授業および自己学修）を通して修得した知識に基づき社会生活における「法律の役割」に関する問題を出題する。以上を基本的な評価方法とした上で、各授業回のコメントペーパーによる加点を行う。成績評価の方法は前年までと異なることがある。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 法律について自分にはあまり関係ないと思っていませんか。2022年4月からは成年年齢も18歳に引き下げられ、法的に保護される立場から独立した立場になります。法律は専門家に任せる部分も大きいですが、市民として社会生活を送るうえで法律の基礎的知識を身につけることが求められます。授業をきっかけにして教員から教えてもらうだけではなく自ら積極的に学んでいきましょう。関連する内容を扱う科目として後期に開講する「法律の役割B」のほか、「日本国憲法A・B」「政治のしくみA・B」などがあります。<br>この科目および同じ科目名のオンライン授業科目について、成績分布やLMS課題の提出状況などを個別の履修者を特定できない方法で比較分析して、分析結果を公表する可能性があります。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 『プレップ法と法学』 | 倉沢康一郎 | 弘文堂 | 1,100円 |
| **教科書** | 『大学生が知っておきたい生活の中の法律』 | 細川幸一 | 慶應義塾大学出版会 | 1,980円 |
| **参考書** | 『法学六法 '24』 | 池田真朗ほか（編集代表） | 信山社 | 1,100円 |
| **参考書** | その他の参考書については授業およびLMSで紹介する。 | | | 円 |

# 法律の役割B（国際社会の法）

Jurisprudence B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　水2
**科目責任者：** 猪瀬　貴道
**担当者：** 猪瀬　貴道
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HS04／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 法の分野のひとつである国際法を学ぶことを通して、現代社会における国際法の役割や国家間関係を理解し、国際社会の構成員の一人として問題解決を考えるために必要な知識と視野を身につけて成長するための土台をつくる。 |
| **教育内容** | 国際社会において機能しているルールである国際法について全体像を学ぶ。国際法の歴史、性質、主体、規律対象、紛争解決などの基礎知識を修得する。現行の国際法制度について学ぶとともに、現在や将来の課題について法による問題解決を考える。具体的には下記の授業内容に沿って進めるが、進捗状況によって多少の調整を行う。 |
| **教育方法** | 【対面授業科目】<br>本科目は、教室による対面授業で開講する。ただし、インターネットを用いた学習管理システム（LMS（Google Classroomを使用予定））を用いた授業を行う。LMSへのリンクは授業で告知するので各自で登録する。最新のブラウザが利用可能なパソコン（タブレット等を含む）および通信容量無制限（または大容量）のインターネット回線を準備することが望ましい。<br>【オンデマンド学修（自己学修）】<br>まず、授業日から次の授業日までの間にLMS上の学修指示（各回の教科書のページの読み方のポイントなど）にしたがって、教科書を用いた自己学修として調べた用語やポイントを整理した授業ノートを履修者自身が作成する。LMS上に設定された教科書の内容の理解を確認する課題を指定された日時までに解答・提出する。<br>【教員による解説授業（フィードバックを含む）】<br>教室において、教科書に基づいたスライドを用いた教員による解説授業を受け、自分で作成したノートに追記や修正を行う。授業後には、疑問を持った点や関心を持った点についてLMS上のコメントペーパーに入力する。<br>【フィードバックの方法】<br>LMSや授業において学生からのコメントペーパーや課題について履修者全体に対してフィードバックする。 |
| **準備学習（予習・復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間（授業期間全体）】<br>※各授業回あたり予習・復習を合わせて約４時間の自己学習を想定しているが、自由に配分して良い（たとえば試験対策やレポート作成に重点的に時間を配分するなど）。また、以下の内容は参考例として記載するが履修者が自分で考えて下記の「到達目標」の達成に必要な内容で自由に実施する。<br>予習：日本国憲法の関連条文や教科書の該当ページに目を通しておき、わからない部分を把握しておく<br>復習：教科書やLMSに示された資料などを読み直して授業ノートを補足して整理する |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 猪瀬　貴道 | 科目説明と導入 | 科目の位置づけ、授業の進め方（LMSの利用方法を含む）、成績評価の方法などの詳細、この科目で学ぶ内容の概要を説明する。2回目の授業回までにこの科目のLMSを必ず確認すること。 |
| 2 | 猪瀬　貴道 | 国際法の成立 | 近代国際法、ヨーロッパ国際法、普遍的国際法（教科書Chapter 1）※以下（Chapter○）は教科書の該当箇所 |
| 3 | 猪瀬　貴道 | 国際法総論と国家 | 国際法の法的拘束力、存立形式、効力、責任、国際社会の構成単位としての国家（Chapter 2・3） |
| 4 | 猪瀬　貴道 | 国家間関係 | 条約法、外交関係、領事関係（Chapter 4） |
| 5 | 猪瀬　貴道 | 領域 | 国家領域、特殊地域、宇宙（Chapter 5） |
| 6 | 猪瀬　貴道 | 海洋法 | 海洋法の歴史、海域の区分、海域の境界画定（Chapter 6） |
| 7 | 猪瀬　貴道 | 国際組織 | 国際組織の概要、国連、専門分野の国際組織、地域的国際組織（Chapter 7） |
| 8 | 猪瀬　貴道 | 個人 | 国籍、難民、人権（Chapter 8） |
| 9 | 猪瀬　貴道 | 国際犯罪 | 国際犯罪の概念、国による処罰、国際刑事裁判所、犯罪人引渡し（Chapter 9） |
| 10 | 猪瀬　貴道 | 国際経済 | GATT/WTO、貿易、知的財産権、地域統合（Chapter 10） |
| 11 | 猪瀬　貴道 | 環境問題 | 国際環境法、環境条約（Chapter 11） |
| 12 | 猪瀬　貴道 | 紛争の平和的解決 | 国際紛争解決手段、国際裁判、国際司法裁判所、国際海洋法裁判所（Chapter 12） |
| 13 | 猪瀬　貴道 | 安全保障 | 国際社会における戦争、武力不行使原則、集団安全保障、国連平和維持活動（Chapter 13） |
| 14 | 猪瀬　貴道 | 武力紛争 | 武力紛争法の概要、敵対行為の規律、中立法、軍縮法（Chapter 14） |
| 15 | 猪瀬　貴道 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 授業で取り上げた法的概念や条約などについて基本的知識を修得する。それらの基本的知識に基づいて現代社会のさまざまな課題について現行の国際法制度の適用や変更による問題解決について、歴史や先例などを正確に踏まえて考察して、論理的・説得的に説明できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | LMSにおける課題（30%）および期末試験（70%）により評価する。期末試験（履修者数などによってレポートとする場合がある）については、この科目（授業および自己学修）を通して修得した知識に基づき国際法の特徴、意義、課題に関する問題、国際法の各分野の歴史的な展開、特徴、意義、課題などについて出題する。以上を基本的な評価方法とした上で、各授業回コメントペーパーによる加点を行う。成績評価の方法は前年までと異なることがある。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 現代社会のさまざまな課題について法に基づいて考えてみませんか。現代社会においては国際社会の一員として国際法の基礎知識を身につけて自分の意見を持つことが重要になっています。授業をきっかけにして教員から教えてもらうだけではなく自ら積極的に学んでいきましょう。関連科目として前期に開講する「法律の役割A」のほか、「日本国憲法A・B」「日本と国際社会A・B」などがあります。<br>この科目および同じ科目名のオンライン授業科目について、成績分布やLMS課題の提出状況などを個別の履修者を特定できない方法で比較分析して、分析結果を公表する可能性があります。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 『ビジュアルテキスト国際法』（第3版） | 加藤信行・植木俊哉・森川幸一・真山全・酒井啓亘・立松美也子 | 有斐閣 | 2,640円 |
| 参考書 | 『コンパクト学習条約集』（第3版） | 芹田 健太郎 （編） | 信山社 | 1,100円 |
| 参考書 | その他の参考書については授業およびLMSで紹介する。 | | | 円 |

# 経済のしくみA

Economics A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　水１or水２or木１or木２
**科目責任者：** 赤澤　とし子
**担当者：** 赤澤　とし子
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HS05／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 現代社会のさまざな出来事、私たちが直面するさまざまな問題を経済との関係から捉え考える―経済学的な視点からものごとを見る眼を養う―ことを目的とする。具体的には、本講義では社会保障の問題を取り上げる。社会保障制度は私たちの暮らしに直接大きく関わってくるものであり、その改革はわが国の重要政策課題である。病気になったとき、介護が必要になったときに安心して適切な医療や介護サービスを受けることができるのだろうか。老後の生活費となる年金は大丈夫なのだろうか。仕事と子育て、仕事と介護の両立はできるだろうか。もし、生活が困窮してしまったら…。こうした人々の不安要因に対処するための社会保障制度について、そのしくみを理解するとともに、制度のあり方を経済学的な視点からも考察し、自分なりの考えを述べられるようになることを目指す。 |
| **教育内容** | 人口減少、少子高齢化の進展、厳しい財政状況、格差問題などが生じている中で、今、社会保障制度のあり方が問われている。本講義では、社会保障制度が私たちのライフサイクルとどう関わっているのかを概観し、わが国の社会保障制度の体系と財政状況、セーフティネットとしての社会保障の機能を説明する。医療保険、介護保険、年金保険といった社会保険を中心に、社会保障制度を構成する各制度の基本的しくみを解説するとともに、各制度の課題や改革の方向性を考える。 |
| **教育方法** | 授業は対面の講義形式で行う。<br>教科書は使用せず、毎回、講義資料を配付する（Google Classroomに掲載する場合もある）。また、各テーマに関連するビデオを適宜活用し、理解や議論を深める一助としたい。<br>ここで取り上げる社会保障制度に関し、「今、何が問題で、その問題にどう向き合い、どのような解決策が考えられるか」を常に問うていきたい。<br>質疑応答は授業内やメールにて行う。<br>Google Classroomを利用することもあるので、受講生は必ず登録すること。クラスコードの提示等詳細は初回のガイダンス時に説明する。<br>【フィードバックの方法】<br>提出されたリアクション・ペーパーや課題に対しては、主要な意見や特徴的な興味深い見解を紹介したり、誤解のある点にコメントするなど講評を行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【予習・復習や課題提出のための学習時間を含め授業時間以外に必要な学習の総時間は60時間】<br>予習：講義で取り上げるテーマに関連するニュース等に目を配り、問題意識を持って自ら調べてみること。<br>復習：講義内容をノートにまとめ、問題点や課題、対策などについて、自ら検討してみること。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 赤澤　とし子 | ガイダンス・イントロダクション | 講義の概要説明―社会保障とは何か。<br>講義の進め方や受講上の注意事項を説明する。 |
| 2 | 赤澤　とし子 | 少子・高齢、人口減少社会と社会保障 | 少子高齢・人口減少社会と向き合う。人口減少のメカニズム、少子化の人口学的要因、少子高齢化が社会保障制度に及ぼす影響などについて考える。 |
| 3 | 赤澤　とし子 | 社会保障制度の全体像 | 社会保障制度の体系と機能、社会保障制度を構成する各制度の概要を説明する。 |
| 4 | 赤澤　とし子 | 社会保障と財政 | 国の一般会計歳出の最大費目となっているのが社会保障関係費。今や社会保障制度を抜きに国の財政は語れないと言える。増大する社会保障給付費とその財源問題について考える。 |
| 5 | 赤澤　とし子 | 社会保障と経済 | 国民負担率と経済をめぐる議論、大きな政府か小さな政府か、社会保障と経済成長の関係などについて考える。 |
| 6 | 赤澤　とし子 | 「格差・貧困」と社会保障 | 格差拡大と貧困率上昇がもたらすものは。「貧困の連鎖」、「深刻化する子どもの貧困」、「格差･貧困」問題に対してどのような社会保障政策やその他の施策が必要かを考える。 |
| 7 | 赤澤　とし子 | 医療保険制度① | 保険診療のしくみと医療保険制度の体系について説明する。 |
| 8 | 赤澤　とし子 | 医療保険制度② | 医療保険制度の近年の改革と今後の課題：国保・被用者保険の財政運営の健全化、高齢者医療制度のあり方、「負担能力に応じた負担」などについて検討する。 |
| 9 | 赤澤　とし子 | 介護保険制度① | 介護保険制度創設の背景と介護保険制度の概要を説明する。 |
| 10 | 赤澤　とし子 | 介護保険制度② | 介護保険制度の近年の改革と今後の課題：費用負担のあり方、介護人材の確保・外国人材の受け入れ、介護離職問題、ヤングケアラー問題、家族介護者の働き方や家族介護者に必要な支援などについて考える。 |
| 11 | 赤澤　とし子 | 年金制度① | 公的年金制度の意義と制度のしくみを説明する。 |
| 12 | 赤澤　とし子 | 年金制度② | 公的年金制度の近年の改革と今後の課題：マクロ経済スライド、短時間労働者に対する被用者保険適用の更なる拡大、高齢期の年金受給のあり方、国民年金保険料納付期間の延長、世代間格差問題などについて考える。 |
| 13 | 赤澤　とし子 | 「全世代型」社会保障制度の構築 | 高齢者も若者も安心できる全世代型社会保障制度とは。深刻化する少子化問題を中心に、少子化対策とそれに必要な財源問題について考える。 |
| 14 | 赤澤　とし子 | ディスカッション | 講義で扱ったテーマについて、テーマ別に議論する。 |
| 15 | 赤澤　とし子 | まとめ | 講義全体のまとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 社会保障制度の意義を理解するとともに、その体系と機能、社会保険の基本的しくみを説明できるようになる。取り上げた社会保障制度の諸問題やその対応策について分析、自らの考えを論理的に述べることができるようになる。さまざまな社会問題、身近な社会の出来事を経済の側面（経済学的視点）からも捉え考えることができるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>各回の課題やリアクション・ペーパー（25%）と期末試験（75%）に基づき、総合的に評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 社会保障制度は私たちの暮らしと密接に関わるものです。団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）になる2025年。そして2040年には団塊ジュニア世代がみな高齢者となり、高齢者人口がピークを迎え、現役世代が急速に減少する社会となります。こうした2040年代を見据えた社会保障制度改革が求められています。私たちに直接影響してくる問題です。日頃から、社会保障に関する話題に敏感になってみてください。そして自分自身で考えてみてください。自分自身の暮らしのことを、社会のことを・・・。<br>受講にあたってのより詳細な注意事項等は初回のガイダンスの際にお伝えします。<br>なお、授業内容・授業計画については、進捗状況などによって、多少変更する場合もあり得ますこと、ご了承ください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 教科書は使用せず、講義資料を配付する。 | | | 円 |
| **参考書** | 参考書は講義の中で適宜紹介する。 | | | 円 |

# 経済のしくみB

Economics B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　水１or水２or木１or木２
**科目責任者：** 赤澤　とし子
**担　当　者：** 赤澤　とし子
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-HS06／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 現代社会のさまざな出来事、私たちが直面するさまざまな問題を経済との関係から捉え考える―経済学的な視点からものごとを見る眼を養う―ことを目的とする。本講義では、健康・医療の問題を取り上げる。私たちにとって自分の健康、家族の健康、「健康」は大きな関心事であり、その健康や生命に直結するのが「保健・医療」である。しかし、健康の問題は「保健・医療」だけで解決するものではなく、働き方や職場環境、居住環境、地域などさまざまな私たちを取り巻く社会経済的要因が関係してくる。健康寿命を伸ばし、誰もが必要なときに適切な医療が受けられるようにするにはどうすればよいのだろうか。日本の健康・医療の分野の問題点はどこにあって、それをどう解決していけばよいのか、超高齢社会のわが国における保健・医療のあり方を経済学の視点からも考察し、自分なりの考えを述べられるようになることを目指す。 |
| **教育内容** | 医療（ヘルスケア）サービスは、通常の財・サービスとは違った特性をもっており、市場メカニズムだけに任せておいたのでは問題が生じるため、そこには政府の様々な規制が存在している。医療サービスの持つ特性を踏まえ、医療制度のあり方を効率性と公平性の観点から考えていく。需要サイドと供給サイド、両者を結びつける医療サービスの供給体制や医療保険の基礎理論について学び、現代日本の医療が抱える問題点を明らかにし、その解決策を探る。これからの日本の望ましい医療のあり方を考える。 |
| **教育方法** | 授業は対面の講義形式で行う。<br>教科書は使用せず、毎回、講義資料を配付する（Google Classroomに掲載する場合もある）。また、各テーマに関連するビデオを適宜活用し、理解と議論を深める一助としたい。<br>ここで取り上げる健康・医療問題に関し、「今、何が問題で、その問題にどう向き合い、どのような解決策が考えられるのか」を常に問うていきたい。<br>質疑応答は授業内、メールにて行う。<br>Google Classroomを利用することもあるので、受講生は必ず登録すること。クラスコードの提示等詳細は初回のガイダンス時に説明する。<br>【フィードバックの方法】<br>提出されたリアクション・ペーパーや課題に対しては、主要な意見や特徴的な興味深い見解を紹介したり、誤解のある点にコメントするなど講評を行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【予習・復習や試験に備えた学習時間を含め授業時間以外に必要な学習の総時間は60時間】<br>予習：医療や健康問題、講義で取り上げるテーマに関連するニュース等に目を配り、問題意識を持って自ら調べてみること。<br>復習：講義内容をノートにまとめ、問題点や課題、対策などについて、自ら検討してみること。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 赤澤　とし子 | ガイダンス・イントロダクション | 講義の概要説明：医療（健康）経済の全体像<br>講義の進め方や受講上の注意事項を説明する。 |
| 2 | 赤澤　とし子 | 医療サービスの特性① | サービス一般の持つ特性から医療サービスの問題を考える。 |
| 3 | 赤澤　とし子 | 医療サービスの特性② | 不確実性、情報の非対称性など、医療サービスの持つ経済的特性から医療問題を考える。 |
| 4 | 赤澤　とし子 | 医療サービスの特性③ | 外部性など医療サービスの持つ経済的特性から医療問題を考える。 |
| 5 | 赤澤　とし子 | 医療保険① | 保険とは？<br>社会保険と民間保険の相違点とは。 |
| 6 | 赤澤　とし子 | 医療保険② | 医療保険の基礎理論：「公的医療保険はなぜ必要なのか」、「医療保険とモラル・ハザード」について説明する。 |
| 7 | 赤澤　とし子 | 医療保険③ | 公的医療保険の給付の範囲、混合診療問題をめぐる議論を概観する。 |
| 8 | 赤澤　とし子 | 医療技術の経済評価（費用対効果評価） | 医療技術の経済評価とは。日本でも医薬品や医療機器の経済評価（費用対効果評価）が導入された。経済評価が求められるようになった背景と分析・評価方法の解説。費用対効果評価の海外での活用状況を概観しながら、問題点や課題を考える。 |
| 9 | 赤澤　とし子 | 医療サービスの提供体制① | 外来医療の機能分化と連携：大病院外来の患者集中問題への対応 |
| 10 | 赤澤　とし子 | 医療サービスの提供体制② | 医療・介護提供体制の改革の２本柱である「地域包括ケアシステム」と「地域医療構想」について解説するとともに、その課題を考える。地域包括ケアシステムとは。地域包括ケアの下での医療を考える。 |
| 11 | 赤澤　とし子 | 医療サービスの提供体制③ | 医療・介護提供体制の改革の２本柱である「地域包括ケアシステム」と「地域医療構想」について解説するとともに、その課題を考える。地域医療構想とは。その評価と今後の課題。 |
| 12 | 赤澤　とし子 | 医療サービスの提供体制④ | 医師の偏在対策を考える。地域間、診療科目間の偏在がもたらすものは。患者への影響は。偏在是正のため対策を考察する。 |
| 13 | 赤澤　とし子 | 医療サービスの提供体制⑤ | 医師の働き方改革を考える。医師の働き方改革を進めながら医療を守るために必要なことは。医師・看護師等医療従事者の働き方、患者の医療の受け方を考察する。 |
| 14 | 赤澤　とし子 | ディスカッション | 講義で扱ったテーマについて、テーマ別に議論する。 |
| 15 | 赤澤　とし子 | まとめ | 講義全体のまとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 保健・医療サービスの特性を理解し、公的介入の意義や課題を説明できるようになる。取り上げた健康・医療の諸問題やその対応策について分析、自らの考えを論理的に述べることができるようになる。さまざまな社会問題、身近な社会の出来事を経済の側面（経済学的視点）からも捉え考えることができるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>各回の課題やリアクション・ペーパー（25%）と期末試験（75%）に基づき、総合的に評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 新型コロナウイルス感染症のパンデミックを経験し、必要なときに適切な医療サービスが受けられるか、医療の問題がこれまで以上に切実な問題であることを痛感する今日この頃です。経済学の視点からのアプローチは、健康・医療問題の把握や制度のあり方を検討するのに役立つはずです。「経済学の眼」で見てみると、これまで気づかなかった保健・医療の一面が見えてくるかもしれません。<br>受講にあたってのより詳細な注意事項等は初回のガイダンスの際にお伝えします。<br>なお、授業内容・授業計画については、進捗状況などによって、多少変更する場合もあり得ますこと、ご了承ください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 教科書は使用せず、講義資料を配付する。 | | | 円 |
| **参考書** | 参考書は講義の中で適宜紹介する。 | | | 円 |

# 個人と社会A（想像力を拓く社会学1）

Sociology A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　月１or月２or金１or金２
**科目責任者：** 前田　崇
**担当者：** 前田　崇※
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HS07／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | この授業の目的は、学生がこの授業の修了時に、社会学・教育社会学の理論と方法や基礎知識を理解し、身近な社会問題や社会現象を批判的・複眼的（クリティカル）に捉え、理論や根拠に基づいて論理的に考えることができるようになることである。 |
| **教育内容** | いじめ、学校、学力、能力、就職、キャリア、恋愛、結婚、家族など、身近な社会現象や社会問題を題材にして、社会学・教育社会学の理論と方法、研究の知見を説明する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全てオンラインで実施します】<br>講義形式。講義は教科書と配布するプリント資料に沿って進める。毎回の授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらう。<br>【フィードバックの方法】双方向型の授業にするため、教員はリアクション・ペーパー・レターを作成し、フィードバックを行う。<br>【Google Classloomクラスコード】Webシラバス、一般教育部授業情報サイトに記載 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習・復習：教科書と配布資料に目を通す。授業ナビの関連文献の中から各自が関心を持った文献を読む。授業で示した課題を行う。準備学習（予習・復習）に必要な時間は60時間程度。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 前田　崇 | ガイダンス | 一般教育の意義を説明する。授業の目的と到達目標、授業の進め方、評価の方法、試験問題や配点の説明、受講上の注意などの説明を行う。社会学・教育社会学の見方やスタンスの概略を説明する。 |
| 2 | 前田　崇 | 社会学の理論と方法（１） | 社会学の定義と特徴を説明する。社会学や教育社会学の理論について説明する。 |
| 3 | 前田　崇 | 社会学の理論と方法（２） | 社会学の方法（社会調査法）について説明する。特に量的調査の方法について、調査・分析の事例を用いて説明する。 |
| 4 | 前田　崇 | いじめを複眼的に考える（１） | 学校におけるいじめ問題のとらえ方、現状を理解し、原因、解決策を考える。なぜいじめは起こるのか？どうしたらいじめを防止できるのか？ |
| 5 | 前田　崇 | いじめを複眼的に考える（２） | リアクションペーパーレターを用いて、いじめ問題の解決策に関する学生の コメントを紹介し、フィードバックと補足説明を行う。 |
| 6 | 前田　崇 | 近代化と近代学校教育の成立（１） | 近代学校教育の成立と変容を理解する。学校の社会的な機能とは何か？学歴社会の仕組みはどうつくられたのか？ |
| 7 | 前田　崇 | 近代化と近代学校教育の成立（２） | 近代学校教育の成立と変容を理解する。学校の社会的な機能とは何か？学歴社会の仕組みはどうつくられたのか？「ゆとり教育」が導入される背景と学力論争の歴史を考察する。 |
| 8 | 前田　崇 | 近代化と近代学校教育の成立（３） | 近代学校教育の成立と変容を理解する。学校の社会的な機能とは何か？学歴社会の仕組みはどうつくられたのか？「ゆとり教育」が導入される背景と学力論争の歴史を考察する。 |
| 9 | 前田　崇 | 教育改革と学力問題（１） | 「学力」とは何か？「ゆとり教育」と学力論争、各種の学力調査の結果、真正の学力論・評価論について説明する。 |
| 10 | 前田　崇 | 教育改革と学力問題（２） | 「能力」とは何か？教育改革と「新しい能力」・「ポスト近代型能力」、台頭する「新しい能力」の概要と動向を説明する。「能力」や「能力主義」に関する知見や批判について検討する。 |
| 11 | 前田　崇 | 教育改革と学力問題（３） | 学力格差と社会階層について概説する。学力に影響を与える要因や効果のある学校論、教育の効果に関する研究などについて説明する。 |
| 12 | 前田　崇 | 就職・仕事と「キャリア教育」 | 日本型雇用システムの揺らぎと移行の危機、「キャリア」教育の功罪、近年の就職の状況等について説明する。 |
| 13 | 前田　崇 | 若者と恋愛・結婚・家族 | いつから若者はクリスマスを恋人同士で過ごさなければならなくなったのか？恋愛、結婚、家族形成とこれらをめぐる言説や社会状況を歴史社会学的な視点から理解し、検討する。 |
| 14 | 前田　崇 | 社会と教育の構想 | 今後の社会と教育の構想に関する研究や議論を検討し、考察する。今後の社会のあり方をどうするのか、どのような社会や教育をつくっていくのか、人はどのように生きていくのかについて考える。 |
| 15 | 前田　崇 | まとめ | まとめを行う。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①社会学・教育社会学の理論や社会調査の方法を想起することができる。②社会学・教育社会学の基本的な用語や考え方を想起することができる。③社会現象や社会問題を批判的・複眼的に捉え、理論や根拠に基づいて論理的に考えることができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：あり　　実施時期：試験期間内<br>定期試験（80%）、授業内のリアクション・ペーパーや課題の内容（20%）によって成績評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 教職課程の科目ではありませんが、教員志望の学生さんはぜひ受講してください。身近な社会現象や社会問題に対する常識やステレオタイプな見方から自由になって、複眼的・批判的に物事を考えられるようになってください。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 病院における Institutional Researcher の経験を踏まえ、社会調査法の内容を扱う第3回の授業において、社会調査の 設計・調査・データ分析・報告の事例を紹介・説明する。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 想像力を拓く教育社会学 | 髙橋均編著 | 東洋館出版社 | 2860円 |
| 参考書 | 社会学入門 | 見田宗介 | 岩波書店 | 946円 |

# 個人と社会B（想像力を拓く社会学2）

Sociology B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　月１or月２or金１or金２
**科目責任者：** 前田　崇
**担　当　者：** 前田　崇
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-HS08／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | この授業の目的は、学生がこの授業の修了時に、社会学の理論と方法や基礎知識を理解し、身近な社会問題や社会現象を批判的・複眼的（クリティカル）に捉え、理論や根拠に基づいて論理的に考えることができるようになることである。 |
| **教育内容** | コミュニケーション、マクドナルド、ディズニーなど、身近な社会現象や社会問題を題材にして、社会学の理論と方法、研究の知見を説明する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全てオンラインで実施します】<br>講義形式。講義は配布するプリント資料に沿って進める。毎回の授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらう。<br>【フィードバックの方法】双方向型の授業にするため、教員はリアクション・ペーパー・レターを作成し、フィードバックを行う。<br>【Google Classloomクラスコード】後期授業開始までにWebシラバス、一般教育部授業情報サイトに記載 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習・復習：教科書と配布資料に目を通す。授業ナビの関連文献の中から各自が関心を持った文献を読む。授業で示した課題を行う。準備学習（予習・復習）に必要な時間は60時間程度。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 前田　崇 | ガイダンス | 一般教育の意義を説明する。授業の目的と到達目標、授業の進め方、評価の方法、試験問題や配点の説明、受講上の注意などの説明を行う。社会学の見方やスタンスの概略を説明する。 |
| 2 | 前田　崇 | 社会学の理論と方法（１） | 社会学の定義と特徴を説明する。比較歴史社会学の考え方を説明する。 |
| 3 | 前田　崇 | 社会学の理論と方法（２） | 社会学の理論と方法について説明する。 |
| 4 | 前田　崇 | 相互行為の社会学（１） | 行為論について学ぶ。行為、社会的行為に関する基礎知識を説明する。 |
| 5 | 前田　崇 | 相互行為の社会学（２） | コミュニケーション論、相互行為論、アイデンティティ論に関する基礎知識と考え方を説明する。 |
| 6 | 前田　崇 | 相互行為の社会学（３） | コミュニケーション論、相互行為論、アイデンティティ論、差別論、共生論に関する基礎知識と考え方を説明する。 |
| 7 | 前田　崇 | 組織の社会学ー近代社会と官僚制ー | 近代化と官僚制組織の特徴や機能・逆機能について説明する。 |
| 8 | 前田　崇 | 社会変動の社会学（１）ー近代社会と合理化ー | 社会のマクドナルド化の特徴を説明する。マクドナルド化のメリット・デメリットを考える。 |
| 9 | 前田　崇 | 社会変動の社会学（２）ー近代社会と合理化ー | 社会のマクドナルド化の問題点を説明する。マクドナルド化の問題点に対する考えとその根拠・理由を考える。リアクションペーパーレターを用いて、受講者の考えを共有するとともに、教員からフィードバックと補足説明を行う。 |
| 10 | 前田　崇 | 社会変動の社会学（３）ー現代社会と消費社会化・情報化ー | 現代社会の特質と課題を説明する。ディズニー化や再魔術化、高度消費社会・情報化社会と環境問題・資源問題について考える。 |
| 11 | 前田　崇 | 社会変動の社会学（４）ー現代社会と消費社会化・情報化ー | 現代社会の特質と課題を説明する。ディズニー化や再魔術化、高度消費社会・情報化社会と環境問題・資源問題について考える。 |
| 12 | 前田　崇 | 社会問題の社会学 | ディズニー化や再魔術化、高度消費社会・情報化社会と環境問題・資源問題について考える。少年犯罪の社会問題化について考える。 |
| 13 | 前田　崇 | 社会構想の社会学（１） | 現代社会は歴史社会学的にどのように位置付けられるのか、未来の社会はどうなるのか、人の生き方はどうなるのかを考える。 |
| 14 | 前田　崇 | 社会構想の社会学（２） | 今後の社会のあり方をどうするのか、どのような社会をつくっていくのか、人はどのように生きていくのかについて考える。 |
| 15 | 前田　崇 | まとめ | まとめを行う。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①社会学の理論や社会調査の方法を想起することができる。②社会学の基本的な用語や考え方を想起することができる。③社会現象や社会問題を批判的・複眼的に捉え、理論や根拠に基づいて論理的に考えることができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：あり　　実施時期：試験期間内<br>定期試験（80%）、授業内のリアクション・ペーパーや課題の内容（20%）によって成績評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 身近な社会現象や社会問題に対する常識やステレオタイプな見方から自由になって、複眼的・批判的に物事を考えられるようになってください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | 想像力を拓く教育社会学 | 髙橋均 | 東洋館出版社 | 2860円 |
| **参考書** | 社会学入門 | 見田宗介 | 岩波書店 | 946円 |

# 政治のしくみA（キーワードで考える政治）

Political Science A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　金１or金２
**科目責任者：** 杉山　亮
**担　当　者：** 杉山　亮
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-HS09／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 宙を駈ける星は天体望遠鏡を使わなければ見えない。細菌は顕微鏡、ウィルスは電子顕微鏡、体内の様子は内視鏡を使わなければ観察できない。いずれも、目に入っているにもかかわらず、遠すぎたり小さすぎたりして見えなかったり、皮膚・筋肉に覆われて見えなかったりするのである。人間は見えないものを見るために多くの器具を開発してきた。政治も同様である。普段何気なく目にしているだけでは観察できないし、まして理解することはできない。政治を観察し、それについて考えるためには特殊な概念や用語を必要とする。本講義では政治、特に日本のそれを考える上で必要な概念を紹介する。 |
| **教育内容** | 本講義では、政治を考える上で必須となる概念を学習する。具体的には”政治”という現象がどのようなものとして考えられてきたのか、政治を動かす力はいかなるものか、どのような政治を目指すべきと考えられてきたのか、などを検討する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>原則として対面で行う。講義ごとにプリント（レジュメ）を配布し、解説する。講義終了時には感想や質問を書いたコメントペーパーの提出を求める。授業資料ならびに課題の提示はGoogle Classroomを通じて行う。電子メールなど他のオンラインツールも使用する可能性がある。また、講義方法に変更がある場合は第１回ガイダンスで告知する。<br>【フィードバックの方法】授業内容に関する質問への応答、ならびに提出された課題に対する全体講評は毎回の講義冒頭で行う。しかし、講義内容によっては授業資料のみで行う場合もある。 |
| **準備学習（予習・復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：原則として不要である。講義で課題が出された場合は、その課題について良く考えておくこと。<br>復習：教科書、参考書、そのほか授業内で紹介した文献を読み、授業内容に関する理解を深めること。また、時事問題に関するニュースを多様なメディアを通じて積極的に吸収していくことも有効である。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 杉山　亮 | イントロダクションー政治とは何か | 本科目の狙い、授業の進め方、成績評価の方法などの説明 |
| 2 | 杉山　亮 | 権力論事始め | 政治を駆動する力である権力について考える |
| 3 | 杉山　亮 | 権力を探り出す | 権力は社会のどこに見出せるのだろうか。目に見えず触れられもしない権力を見出し、分析するために考案された様々な方法を紹介する。 |
| 4 | 杉山　亮 | 型にはめる権力 | ２０世紀に入ると権力が存在する社会構造がむしろ権力の主体を規定したり、社会構造が権力者と権力を振るわれる者を規定するのだという見方が出て来た。ここではミシェル・フーコーの権力論を紹介する。 |
| 5 | 杉山　亮 | 隠蔽する/見え方を変える権力 | 権力は人に何かを強制するだけではない。事実を人々の目から隠し、物事の見方を変化させる権力も存在する。そんな微細な形で働く権力について検討する。 |
| 6 | 杉山　亮 | 「デモクラシー」って何だろう？ | 耳にしない日はない「デモクラシー」。だが、その意味するところは必ずしも自明ではない。どのような状態が理想的なデモクラシーなのだろうか。デモクラシーの理想とはどこにあるのだろうか。 |
| 7 | 杉山　亮 | 「代表制」を考える | 「誰かが誰かを代表する」なんて本当に可能なのだろうか？どうやったら代表したことになるのだろうか。代表制とデモクラシーの関係を検討する。 |
| 8 | 杉山　亮 | 政治に参加するー政治参加ー | 人は何故投票に行くのだろうか？投票以外に政治に意志を届ける方法は無いのだろうか？人が政治にかかわる時はどんな時だろうか？ |
| 9 | 杉山　亮 | 政治意識 | 人々の政治に対する考え方や価値観は政治をどのように変えるのだろうか。社会を形作る無数の人間たちの政治に対する考え方を捉え、政治に生かす方法はあるのだろうか？ |
| 10 | 杉山　亮 | 選挙制度が作る政治のかたち | 選挙は単なる多数決ではない。投じられた一票の数え方によって政治のかたちが変化する。様々な選挙制度をそれが織りなす政治の風景と併せて考えてみよう。 |
| 11 | 杉山　亮 | 「政党」って何だろう？ | 「政党」ほど胡散臭い目で見られる言葉もないだろう。では、政党は何故必要なのだろうか。何をしているのだろうか。 |
| 12 | 杉山　亮 | 政党組織 | 政党は無数の人間たちの意見を一つの主張や政策にまとめ上げている。それを可能にするのが政党組織による「党内民主主義」である。政党内でどのような意見調整が行われているのか見てみよう。 |
| 13 | 杉山　亮 | 政党システムと政党間協力 | 政党が複数存在し、競合する状態を「政党システム」という。この政党システムはどのようにして生まれ、機能するのだろうか。そして、政党の中で行政府を差配する勢力が作るものが「政権」である。政権はいかにして生まれるのか。 |
| 14 | 杉山　亮 | 政権と意思決定 | 政党も政権も無数の人の集まりである以上、意思決定には複雑なプロセスがいる。また、政権の意志がそのまま政策になるわけではない。政策についての考え方を見てみよう。 |
| 15 | 杉山　亮 | 質疑応答 | 講義総括・質疑応答・レポートに関する質問受付 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①政治という営為の特質を理解するにあたって必要となる基礎的な概念・理論を習得することができる。<br>②政治に対する観点（パースペクティヴ）の多様性をふまえつつ、政治において生じる諸問題を複数の観点から分析することができる。<br>③ごく身近な日常生活のうちにある「政治」の契機を見出し、「批判的」に物事を考えることができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：レポート 実施時期：<br>レポート：７０%、平常点：３０%<br>平常点について：講義ごとに意見・感想を書いたコメントペーパーの提出を求める。提出されたものの内、講義に資すると思われるものは次回講義の冒頭で紹介する。1回紹介されるごとに平常点3点を加算する。<br>レポートについて：授業期間中にテーマを出題し、それに基づく論述を求める。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | ・受講者の理解度に応じて授業計画・授業内容を一部変更する可能性がありますので、ご了承ください。<br>・講師の発問には誤解や未熟を恐れず積極的に反応してください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | 『ここから始める政治理論（有斐閣ストゥディア）』 | 田村哲樹、松元雅和、乙部延剛、山崎望 | 有斐閣 | 2,090円 |
| **参考書** | 『新版 現代政治理論（有斐閣アルマ）』 | 川崎修、杉田敦（編） | 有斐閣 | 2,200円 |
| **参考書** | 『政治学への第一歩（有斐閣ストゥディア）』 | 砂原庸平、稗田健志、多湖淳 | 有斐閣 | 2,090円 |
| **参考書** | 『政治学（第２版）』 | 川出吉枝/谷口将紀 | 東京大学出版会 | 2,420円 |
| **参考書** | 『政治学入門―歴史と思想から学ぶ（有斐閣ストゥディア）』 | 河野有理、犬塚元、森川輝一 | 有斐閣 | 2,530円 |

# 文化人類学A（「当たり前」のことの相対化、そして再認識へ。）

Cultural Anthropology A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　水１or水２
**科目責任者：** 宮下　克也
**担当者：** 宮下　克也
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HS11／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 「人類学は人間に向かって大きな鏡を差し出し、無限の変化を示す己の姿をそこに見てとらせる」～クライド・クラックホーン～<br>これは、半世紀前にある文化人類学者が著書『Mirror For Man（人間のための鏡）』で述べた言葉である。本講義では、グローバル化が進む21世紀社会のなかで、他者と共生していくために必要な下記の視点を身につけることを目標とする。<br>1. 自文化を最高のものとみなし、それを基準として異文化を捉えようとする自文化中心主義的態度を否定する視点<br>2. すべての文化には独自の意味体系があることを認めた上で、異文化を理解しようとする文化相対主義的視点<br>3. “Mirror For Man”としての文化人類学的視点を身につけることを目指す。 |
| **教育内容** | 私たちは、自分の育った社会の文化的価値観を自然と身につけ、それを基準に異文化をみてしまう。本講義では、こうした人間に潜む自文化中心的思考を自覚することから始まり、それを批判しつつ異文化の多様な価値観を考察することを目指す。また、異文化を知ることで、自文化において「常識＝当たり前」とされていることを相対化し再検討してみたい。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>・講義形式で行う　　・映像や音楽を必要に応じて用いる。<br>・リアクションペーパーを課し、授業の理解度を確認する場合もある。<br>・特定のテキストは使用しない。テーマ毎に参考文献を紹介する。<br>【フィードバックの方法】<br>フィードバックに関しては、リアクションペーパーにて行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：合計60時間】<br>予習：シラバスと事前に配布されたレジュメを読み、指定さえたキーワードや自分で関心のあるワードに関してインターネットや図書館で調べておくこと（1時間）。<br>復習：レジュメを見直し、担当講師が講義の中で発した「問題」に関してインターネットや図書館などを利用しさらに深い理解を目指し自分の考えをレジュメの余白部分にまとめておくこと（3時間）。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 宮下　克也 | 「私」と「あなた」の違い－他者理解への第一歩－ | 「差異」をキーワードに他者の存在を考える。 |
| 2 | 宮下　克也 | 文化とは？ | 学説史を通して文化人類学者の「文化」に対する考えを紹介する。 |
| 3 | 宮下　克也 | ジェンダー | 「僕たち」/「私たち」は、生まれながらにして「男である」/「女である」のか？　それとも後天的に「男になる」/「女になる」のか？ |
| 4 | 宮下　克也 | 通過儀礼－社会的に「大人」になる方法－ | 年齢を重ね身体が成長すれば自然に「大人」になれるのだろうか？　社会のなかで「大人になる」ということは、いかなることなのか？ |
| 5 | 宮下　克也 | ケガレ論 | 「秩序」･「境界」･「認識」をキーワードに社会におけるケガレを考える。 |
| 6 | 宮下　克也 | 交換論－社会・人間関係をみる方法－ | お歳暮やクリスマスプレゼントが果たす社会的機能とは？　多様な交換形態を紹介し、交換論から社会関係や人間関係の分析を試みる。 |
| 7 | 宮下　克也 | 宗教と世界観 | 宗教や世界観から社会を分析する。 |
| 8 | 宮下　克也 | 前半のまとめ | これまでの流れの総復習 |
| 9 | 宮下　克也 | 身体と知識－身体がおぼえている知識/言語化されない知識－ | 「われわれは語れる以上のことができる」（M.ポランニー）。このポランニーのことばを手がかりに身体に埋め込まれいる知識について考えたい。 |
| 10 | 宮下　克也 | 共同性と暴力－「お笑い」と「狂気」は紙一重？－ | 冗談を言ったはずが「笑えないよ！」と怒りをかう。なぜ怒りをかうのか？―G.ベイトソンのコミュニケーション理論から共同性とその逸脱について考える。 |
| 11 | 宮下　克也 | 親族・家族・民俗生殖理論 | 父子あるいは母子の関係は､文化によって多様である｡各文化の民俗生殖理論を通して､親子･家族･親族といった｢当たり前｣の概念･関係を相対化し､さらには近年の生殖医療についての検討も試みる。 |
| 12 | 宮下　克也 | 死 | 死、他界、そして死者になることを考える。 |
| 13 | 宮下　克也 | 生命の比較文化 | 胎児は「人」なのか？キリスト教的世界観と日本における「胎児」に対する認識の相違を検討する。 |
| 14 | 宮下　克也 | 質的研究法としての人類学 | 人類学の調査・研究法について。 |
| 15 | 宮下　克也 | まとめ | 講義の総まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ・文化相対主義的視点の理解。<br>・論理的思考ができるようになること。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験。論述形式で、問いに対して講義で学習した理論や概念を正しく使用して 論理的に説明ができているか否かを採点の基準とする。 実施時期：試験期間内<br>リアクションペーパーも評価の対象とする。評価の内訳はレポート試験80%、リアクションペーパーが20%。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 知的好奇心が旺盛で学習意欲のある学生の受講を望みます。受講者には、〔授業中の私語厳禁〕と〔授業開始後、30分以降の入室厳禁〕を厳守してもらいます。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | 文化人類学[カレッジ版] 第3版 | 波平恵美子 | 医学書院 | 2630 |

# 文化人類学B（異質なるものとの共存）

Cultural Anthropology B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　水１or水２
**科目責任者：** 宮下　克也
**担当者：** 宮下　克也
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HS12／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 21世紀に生きる私たちは、地域社会、国家、そして地球社会の一員である。現代社会は、価値観が激しく多様化している。地域、国家、地球のそれぞれのレベルで価値観や規範が異なる場合、私たちはどれを優先すべきなのであろうか？複合社会に生きる私たちの生きる術を検討する。 |
| **教育内容** | 地域社会固有の価値観と、その地域をとりまく外部の「異質なるもの」が対立し、あるいは接合していく過程を、言語、宗教、芸術、そして医療などを通して考察する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>・講義形式　　・映像や音楽を必要に応じて用いる。<br>・毎回の講義でリアクションペーパーを課す。<br>・特定のテキストは使用しない。講義の際にテーマに応じた参考文献を紹介する。<br>・フィードバックに関しては、リアクションペーパーにて行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：合計60時間】<br>予習：シラバスを読み、気になるキワードなどをインターネットや図書館など調べること（1時間）。<br>復習：レジュメを見直し、講義の内容に関して、インターネットや図書館などを利用し深い理解を目指し自分の考えをレジュメの余白部分にまとめておくこと（3時間）。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 宮下　克也 | 文化とは？①―「伝統」と「革新」― | 文化人類学における「文化」に対する考え方を紹介し、さらに「伝統」と「革新」の関係性をあるいは「文化の創造」について考える。 |
| 2 | 宮下　克也 | 文化とは？②―時代の先端を行く「伝統」文化 | 「伝統」的とされるヨーロッパ建築を各時代の文脈に位置づけ、「伝統」概念を再考する。 |
| 3 | 宮下　克也 | 「文化」をみる／みられる「文化」 | 西洋人からみた日本文化のイメージと日本人からみた西洋文化のイメージを分析し、「文化」を考え直す。 |
| 4 | 宮下　克也 | 「国際人」について考える | 画家の藤田嗣治の一生を通して、自文化を知ること、生かすことを考える。 |
| 5 | 宮下　克也 | 自然観の比較文化1 | 和辻哲郎の「東洋と西洋の芸術意志の違い」をヒントに日本（東アジア）とキリスト教世界における〈自然〉観の比較を試みる。 |
| 6 | 宮下　克也 | 自然観の比較文化2 | 日本式庭園とフランス式庭園の差異から日本と西洋の自然観の差異を考える。 |
| 7 | 宮下　克也 | 移民とアイデンティティー | フランスを事例に移民、エスニック・アイデンティティー、国籍の問題を考える。 |
| 8 | 宮下　克也 | 「在日」コリアン① | 戦後日本のスター力道山を通して「在日」コリアンについて考える。 |
| 9 | 宮下　克也 | 「在日」コリアン② | 国籍とエスニック・アイデンティティーの関係を考察する。 |
| 10 | 宮下　克也 | マルチ・エスニック社会<br>―他者との共存― | 多民族社会ハワイを事例にして、他民族共存の可能性を検討する。 |
| 11 | 宮下　克也 | イスラム原理主義① | 映画を通してイスラム社会を考察する。 |
| 12 | 宮下　克也 | イスラム原理主義② | グローバリズムの文脈においてイスラム原理を考える。 |
| 13 | 宮下　克也 | 医療と人類学① | 「病」を文化・社会的な文脈で考える。 |
| 14 | 宮下　克也 | 医療と人類学② | 多文化共生社会における医療の多様化を考える。 |
| 15 | 宮下　克也 | まとめ | 総復習：国際化時代の共生の在り方の確認 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ・現代社会が多様な価値観に基づく複合社会であることを認識できるようになる。そしてそれぞれの価値観を尊重する姿勢を身につける。<br>・価値観の異なる「他者」との接し方に注意を払うことのできるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>リアクションペーパーも評価の対象とする。評価の比率は、試験60%、リアクションペーパーが40%。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 文化人類学Ａが基礎編で、文化人類学Ｂは応用編ですが、Ａを受講していない学生も歓迎します。世界のことを広く知りたいと思う学生、そしてその広い世界のなかに自分を位置づけてみたい学生に受講していただきたいと思います。ただし、受講者には次の２点を守ってもらいます。授業中の私語厳禁。授業開始後、30分以降の入室はしない。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | 詳論 文化人類学：基本と最新のトピックを深く学ぶ | 桑山敬己/綾部真雄編集 | ミネルヴァ書房 | 3300 |

# 日本と国際社会A（冷戦と国際現代史）

International Society A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　金１or金２
**科目責任者：** 藤巻　裕之
**担当者：** 藤巻　裕之
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HS13／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 冷戦構造を理解せずに、現在の変動する国際社会の諸問題と日本の位置を深く知ることはできない。<br>そのために、本授業では以下のことを教育目標とする。<br>1. 国際社会の成立過程を理解できる<br>2. イデオロギー対立と冷戦構造を理解し議論ができる<br>3. 国際社会における日本の位置を理解し議論ができる |
| **教育内容** | 本講座では第二次大戦後の冷戦期の国際政治を学ぶ。イデオロギー対立によって分断された第二次世界大戦後の世界は、米ソ直接対決による世界戦争の勃発は防がれた。しかし、世界中で「代理戦争」と呼ばれる地域紛争が起こった。本講座では、はじめにウェストファリア体制によって成立した国民国家体系を確認したあと、冷戦下の様々な問題を取り上げ、冷戦構造を理解する。<br>キーワード： 国際社会と国民国家の成立過程、冷戦構造の理解、国際社会における日本の位置の理解 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>1. 一つのテーマを2回に分けて講義し理解を深める。一週目は講義を中心に行い、二週目は映像や読書課題などを提示する。<br>2. 不定期にレポート執筆、またはレポート解説などを行う。授業開始時に前回レポートや質問への教員からのフィードバックをパワーポイントなどを用いて解説する。<br>3. 中間まとめ期末まとめをそれぞれ行う予定である。中間試験の解答返却時に解説（フィードバック）を行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習としては、該当するテキストの章を熟読し、また関連する資料を最低でも2時間は読み、メモをつくる時間を確保すること。授業では疑問や意見を確認する時間にして欲しい。<br>復習：配布レジュメと授業ノートをまとめる時間と関連する資料を読む時間を最低でも2時間は確保すること。期末試験の際にテキストを再読し、授業ノートの見直しで済むようにして欲しい。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 藤巻　裕之 | ガイダンス | 国際政治を勉強する意味 |
| 2 | 藤巻　裕之 | 国際関係論序論（１） | 国際社会と国民国家の形成を理解する |
| 3 | 藤巻　裕之 | 国際関係論序論（２） | 国際社会と国民国家の形成を理解する： 動画視聴 |
| 4 | 藤巻　裕之 | 冷戦が終わって起きた湾岸戦争 | 冷戦終結直後の1993年の湾岸戦争はどのような意味を持ったのか |
| 5 | 藤巻　裕之 | 冷戦が始まった（１） | 冷戦構造はどのように定着していったのか、その過程を探る |
| 6 | 藤巻　裕之 | 冷戦が始まった（２） | 冷戦構造を定着させたいくつかの要因の紹介、動画視聴 |
| 7 | 藤巻　裕之 | ドイツが東西に分割された（１） | 冷戦の象徴であるベルリン壁建設の過程とその国際政治における意味を探る |
| 8 | 藤巻　裕之 | ドイツが東西に分割された（２） | ベルリン壁と米国の関係を中心に。動画視聴 |
| 9 | 藤巻　裕之 | 中間まとめ | 中間まとめ |
| 10 | 藤巻　裕之 | スターリン批判（１） | ソ連の政治とはどのようなものだったのか |
| 11 | 藤巻　裕之 | スターリン批判（２） | ソ連の政治とはどのようなものだったのか、動画視聴 |
| 12 | 藤巻　裕之 | キューバ危機（１） | 冷戦の最前線となったキューバ |
| 13 | 藤巻　裕之 | キューバ危機（２） | 冷戦の最前線となったキューバ、動画視聴 |
| 14 | 藤巻　裕之 | ソ連の崩壊と冷戦の終わり | ソ連が目指したものは何だったのか？冷戦が終わったことで平和になったのか？ |
| 15 | 藤巻　裕之 | 期末まとめ | 期末まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1. 履修者は教科書を読解し、講義を聞き、そして、自分の考えを論理的に執筆することができる<br>2. 履修者は冷戦史を学習することで現在の国際社会の諸問題を議論できる<br>3. 履修者はこれからの日本の役割を議論できる |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：定期試験 実施時期：試験期間内<br>①中間試験：40%<br>②期末試験：60%<br>中間、期末試験をもとに総合的に評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 現在の日本と国際社会を理解するためには冷戦史を学習することは重要です。<br>国際社会を一緒に考えてみましょう。<br>教科書は批判的に読んでください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | そうだったのか！現代史 | 池上彰 | 集英社文庫 | 724円 |

# 環境を考えるA（環境問題の本質的理解）

Environmental Society A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし　月１or月２
**科目責任者：** 鈴木　孝弘
**担当者：** 鈴木　孝弘※
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HS15／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 記録的「猛暑」、頻発する「集中豪雨」、「竜巻」発生、「巨大台風」などの異常気象。それによる「熱中症」や中国大陸から飛来する「PM2.5」などの環境問題。他方、「太陽光発電」や「電気自動車」の普及促進など、刻々と変化する日常生活。 世界が直面している環境問題について正しい知識を持つことは、専門分野を学ぶ上での基盤になり、また現代社会を生きる上で重要な資質である。<br>この講義では、様々な環境問題を人間社会と環境の関わりを通して考えることを目的とし、最新の情報・データに基づいて、環境問題発生のメカニズム、現状、対策等を論じる。<br>※）この講義は「環境を考えるB」とともに通年で履修することが望ましい。それによって複雑化している現代環境問題の全体像の理解がさらに深まる。 |
| **教育内容** | 環境問題の本質的理解のためには、本来は先ず現場を自分の目で見て知ることが最も大事である。そのため、VTRなどの映像資料を取り入れて授業を進める。本講義では、公害の発生、水質汚濁、土壌汚染、ヒートアイランド現象、酸性雨、化学物質の問題などを学ぶ。なお、地球環境問題や野生生物の絶滅などのグローバルな環境問題は、「環境を考えるB」でテーマとして取り上げる。 |
| **教育方法** | 【この授業は全てオンラインで実施します】<br>黒板とパワーポイントを用いた講義形式で実施する。適宜、映像資料で内容の理解が深まるよう授業を進め、環境を保全する資質・能力を高めるとともに、社会科学と自然科学の両面から客観的に環境問題を理解できる資質を養う。授業の終了時に授業内容に関する小テストを実施し、また、特定のテーマについてレポート(添削して返却）を課すこともある。【フィードバックの方法】これらの課題については、次回の授業で模範解答を提示する。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>＜予習＞<br>・授業開始の前日までに、教科書に目を通し、次回の授業内容を把握しておくこと。<br>・教科書の太字の専門用語（キーワード）の意味等を理解しておくこと。<br>＜復習＞<br>・授業の内容をノートに整理して復習しておくこと。<br>・授業の内容に関係する最近の新聞記事等を調べ、まとめておくこと。<br>予習・復習の学習時間の目安は、それぞれ2時間程度である。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 鈴木　孝弘 | ガイダンス・環境を考える | 人・社会と環境、 自然との関係 |
| 2 | 鈴木　孝弘 | 人間と環境 | 文明の発達にともなう人間と環境の関わり |
| 3 | 鈴木　孝弘 | 公害防止と環境保全（1） | 公害の歴史、最近の公害 |
| 4 | 鈴木　孝弘 | 公害防止と環境保全（2） | 環境法の体系、環境アセスメント |
| 5 | 鈴木　孝弘 | 水資源と人間活動（1） | 水の特異性、地球上の水 |
| 6 | 鈴木　孝弘 | 水資源と人間活動（2） | 水の汚染 |
| 7 | 鈴木　孝弘 | 水資源と人間活動（3） | 都市の水道水と浄水場 |
| 8 | 鈴木　孝弘 | 都市の環境問題と自然（1） | 下水道、河川の治水対策 |
| 9 | 鈴木　孝弘 | 都市の環境問題と自然（2） | 干潟の役割、ヒートアイランド現象 |
| 10 | 鈴木　孝弘 | 人間活動による大気汚染（1） | 微小粒子状物質、酸性雨 |
| 11 | 鈴木　孝弘 | 人間活動による大気汚染（2） | 大気汚染対策、光化学スモッグ |
| 12 | 鈴木　孝弘 | 化学物質と環境（1） | 環境中の化学物質 |
| 13 | 鈴木　孝弘 | 化学物質と環境（2） | 化学物質過敏症、土壌汚染 |
| 14 | 鈴木　孝弘 | 化学物質と環境（3） | 有害な化学物質、化学物質の管理 |
| 15 | 鈴木　孝弘 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 環境問題に関心を持ち、その本質を理解できる。さらに、人間と社会システムとの関係を考え、環境の大切さについて配慮しながら日々の大学生活を送り、大学を卒業してから社会で次世代のための環境保全を基盤においた仕事や各種活動ができるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>定期試験（60%）、小テストとレポート（40%）。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 化学や生物、地学などの予備知識は不要であるが、毎回の授業内容が多岐にわたるため、体系的に学べるよう授業を進める。「環境を考えるB」と併せて受講することによって、現代の環境問題の全体像を理解できる。より詳しい予習・復習のためには、参考書を参照すること。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 静岡県生活環境部水質保全課・大気保全課で環境行政を担当し、大気や水質の環境基準を工場や事業所が守っているか否かのデータのチェックを行い、行政処分や立入調査を行って、現場の環境保全活動に関する業務を行った。この経験を授業内容にできるだけ含め、教科書だけでは学べない実際の環境問題の理解が深まるように活用していく。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 新しい環境科学（新版）:環境問題の基礎知識をマスターする | 鈴木 孝弘 著 | 駿河台出版社 | 2,420円 |
| 参考書 | 新・地球環境百科 | 鈴木 孝弘 著 | 駿河台出版社 | 3,080円 |

# 環境を考えるB（持続可能な社会をめざして）

Environmental Society B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし　月１or月２
**科目責任者：** 鈴木　孝弘
**担当者：** 鈴木　孝弘※
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HS16／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 現在、世界の平均気温は年々上昇し続けており、地球温暖化問題は世界全体の最も大きな課題となっている。この講義では、地球温暖化、森林破壊と生物多様性、ごみ処理問題などに関する環境問題の基礎知識を教示し、現代の環境問題発生のメカニズム、現状、対策等の考え方を学ぶことを目的とする。物事を俯瞰し、システマティックに全体をとらえて出来るだけ客観的な思考をする力を同時に養うことも目指す。<br>※）この講義は「環境を考えるＡ」とともに通年で履修することが望ましい。そのことによって、現在の環境問題の全体像を的確に捉えることができる。 |
| **教育内容** | 環境問題のなかでも将来世代に影響を及ぼす主要な問題について、その学問的・科学的基本と内容理解、実態・問題点と対策についてテキストを用いて説明する。この講義では、地球温暖化、森林破壊と生物多様性、循環型社会の構築など、グローバルな環境問題を中心について論じる。前期の「環境を考えるＡ」とは独立した内容になっているため、この科目からでも履修することができる。 |
| **教育方法** | 【この授業は全てオンラインで実施します】<br>黒板とパワーポイントを用いた講義形式で実施する。適宜、映像資料で内容の理解が深まるよう授業を進め、環境を保全する資質・能力を高めるとともに、社会科学と自然科学の両面から客観的に環境問題を理解できる資質を養う。授業の終了時に授業内容に関する小テストを実施し、また、特定のテーマについてレポート(添削して返却）を課すこともある。【フィードバックの方法】これらの課題については、次回の授業で模範解答を提示する。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>＜予習＞<br>・授業開始の前日までに、教科書に目を通し、次回の授業内容を把握しておくこと。<br>・教科書の青字の専門用語（キーワード）の意味等を理解しておくこと。<br>＜復習＞<br>・授業の内容をノートに整理して復習しておくこと。<br>・授業の内容に関係する最近の新聞記事を調べ、まとめておくこと。<br>予習・復習の学習時間の目安は、それぞれ2時間程度である。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 鈴木　孝弘 | ガイダンス | 本講義の内容・進め方, グローバルな環境問題 |
| 2 | 鈴木　孝弘 | 地球温暖化とCO2 (1) | CO2という物質 |
| 3 | 鈴木　孝弘 | 地球温暖化とCO2 (2) | CO2の特性と温室効果 |
| 4 | 鈴木　孝弘 | 地球温暖化とCO2 (3) | CO2の発生と吸収 |
| 5 | 鈴木　孝弘 | 低炭素社会の構築（1） | 温暖化の影響 |
| 6 | 鈴木　孝弘 | 低炭素社会の構築（2） | 国際的な取り組み |
| 7 | 鈴木　孝弘 | 低炭素社会の構築（3） | 温暖化対策技術 |
| 8 | 鈴木　孝弘 | 森林破壊と生物多様性（1） | 世界の森林破壊の現状と対策 |
| 9 | 鈴木　孝弘 | 森林破壊と生物多様性（2） | 生態系と生物多様性 |
| 10 | 鈴木　孝弘 | 森林破壊と生物多様性（3） | 外来生物の影響 |
| 11 | 鈴木　孝弘 | 循環型社会の構築　(1) | 循環型社会とは |
| 12 | 鈴木　孝弘 | 循環型社会の構築　(2) | 3R, 広がるリサイクル |
| 13 | 鈴木　孝弘 | 循環型社会の構築　(3) | ゼロエミッション、エコタウン |
| 14 | 鈴木　孝弘 | 江戸のライフスタイル | 循環型社会江戸,「もったいない」 |
| 15 | 鈴木　孝弘 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 地球温暖化などのグローバルな環境問題に関心を持ち、その本質を理解できる。さらに、自然環境と人間および社会システムとの関係をシステマティックに捉える基礎力を養うことにより、将来、人間活動と環境との相互作用に基盤をおいた物事の捉え方・思考によって多様な社会で活動ができるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>定期試験（60%）、小テストとレポート（40%）。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 前期の「環境を考えるＡ」と同じ教科書を用いるが、本科目から受講し、より詳しい予習・復習を志向する場合には、参考書を参照することが必要である。化学や生物、地学などの予備知識は不要であるが、毎回の授業内容が多岐にわたるため、体系的に学べるよう授業を進める。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 静岡県生活環境部水質保全課・大気保全課で環境行政を担当し、大気や水質の環境基準を工場や事業所が守っているか否かのデータのチェックを行い、行政処分や立入調査を行って、現場の環境保全活動に関する業務を行った。この経験を授業内容にできるだけ含め、教科書だけでは学べない実際の環境問題の理解が深まるように活用していく。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 新しい環境科学（新版）:環境問題の基礎知識をマスターする | 鈴木　孝弘　著 | 駿河台出版社 | 2,420円 |
| 参考書 | 新・地球環境百科 | 鈴木　孝弘　著 | 駿河台出版社 | 3,080円 |

# 心理学A/心理学A(心理学概論)

Psychology A/ Psychology A(Introduction to Psychology)

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位

**授業対象：** 指定なし（HS学科臨床心理学コース，OT専攻，ST専攻を除く）　木１or木２or金１or金２／［必修］HS学科臨床心理学コース　木１or木２or金１or金２／［必修］OT専攻　木１or木２or金１or金２／［必修］ST専攻　木１or木２or金１or金２

**科目責任者：** 猪原　敬介

**担当者：** 猪原　敬介

**備考：** 科目ナンバリング：L101-HS19／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 人間の心について，実験や調査を用いて科学的に検討するのが心理学である。これらの方法によって示される人間の「心」は，日常生活から感じ取れる「心」とは異なることがある。心理学が示す「心」を知ることによって，受講生それぞれの人間観を作る材料を提供する。 |
| **教育内容** | 現代心理学を幅広く概説する（「心理学B」とは別内容である）。私たちの心には意識できる部分とできない部分があり，意識できない心の働きは，日常生活の感覚よりもはるかに大きいことなどについて講義し，受講生に考える機会を持ってもらう。 |
| **教育方法** | すべてオンデマンド型（動画をGoogle Classroomにアップロードしておくので，受講生の都合の良いタイミングで視聴する）のオンライン講義である。スライド，動画等の視聴覚資料を中心に講義形式で行う。講義は配布するプリント資料に沿って進める。<br>【フィードバックの方法】<br>毎回の授業では，課題への回答や，何らかの意見を求める。それらの回答や意見に対して，次回の授業で教員から回答をフィードバックする。<br>【Google Classroomクラスコード】<br>木・金共通：sff3s6v |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：次回の授業のキーワードについて，書籍やWebで調べ，概要を把握しておくこと。<br>復習：配布資料を再読し，学んだ概念の具体例を自分自身の中に探す。授業で紹介する文献や資料を読む。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 猪原　敬介 | オリエンテーション：心理学とは，心理学の歴史 | 心理学とは何か，古くから現在までにどのような発展があったか，近接領域と融合する学際領域としての心理学，について講義する。授業の進め方と評価方法についても説明する。 |
| 2 | 猪原　敬介 | 認知心理学１：意識できない認知の働き | 私たちは自らの理解や行動が，自らの意識によって決定されていると思いがちである。実際には意識下において膨大な認知処理が働いている。様々な例で意識下の認知処理を紹介する。 |
| 3 | 猪原　敬介 | 認知心理学２：長期記憶の構造・虚記憶 | 記憶力の良し悪しは私たちの大きな関心事だが，実は記憶には様々な種類があり，単純に記憶の良し悪しを比較することはできない。記憶の分類と変容について講義する。 |
| 4 | 猪原　敬介 | 社会心理学１：社会的認知 | 私たちは自らの成功と失敗の原因をどのように考えていて，そのことが次の行動にどのように影響するか，解説する。 |
| 5 | 猪原　敬介 | 社会心理学２：偏見 | 偏見とは何か。どのように生じ，なぜ消し去りがたいのか，解説する。 |
| 6 | 猪原　敬介 | 社会心理学３：同調・傍観者効果 | 人間はその社会性ゆえに，周囲の人間からの影響を受けやすい。同調現象はその最たる例である。集団心理の事例と理論について解説する。 |
| 7 | 猪原　敬介 | 性格心理学１：性格の理論 | 穏やかな人，怒りっぽい人。几帳面な人，大雑把な人。私たちは様々な方法で人の「性格」を把握しようとする。心理学において「性格」はどのように捉えられているだろうか。代表的な理論について説明し，自他の性格について考える。 |
| 8 | 猪原　敬介 | 性格心理学２：バーナム効果・血液型性格占いの誤解について | 人から良い印象を持たれるためには，どうすれば良いのか。また，他者に誤った印象を抱かないためには，どうすれば良いのか，解説する。また，「バーナム効果」と言われる現象についても説明する。 |
| 9 | 猪原　敬介 | 臨床心理学１：臨床心理学とは・ストレス | 臨床心理学とはどのような領域か，ストレスとそれによる心身症について解説する。 |
| 10 | 猪原　敬介 | 臨床心理学２：精神疾患 | 特に患者数の多い精神疾患として，うつ，不安症，統合失調症について述べる。 |
| 11 | 猪原　敬介 | 臨床心理学３：心理療法 | 精神疾患を治療するための心理療法について，その種類や特徴について解説する。 |
| 12 | 猪原　敬介 | 発達心理学１：愛着 | 愛着の理論と，愛着の欠乏がもたらす悲劇的な結果について解説する。 |
| 13 | 猪原　敬介 | 発達心理学２：生得的能力 | 人間は生まれながらにして社会に適応し，生きていくための様々な能力を備えている。それら生得的能力について解説する。 |
| 14 | 猪原　敬介 | 発達心理学３：社会性の発達・心の理論 | 心の理論を中心に，人間の社会性の発達について解説する。 |
| 15 | 猪原　敬介 | 総括 | これまでの授業を振り返る。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 認知心理学，社会心理学，性格心理学，神経心理学，臨床心理学，発達心理学のこれまでの研究成果を知り，他者に概要を説明できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：試験期間外<br>毎回の提出物（Google Classroom上での回答・レポートが主です）にもとづく評価(100%)。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 下記で紹介している本は「参考書」であり，購入必須ではありません。心理学をもっと知りたい人のために紹介しています。図書館にも入れてありますので，興味のある人はそちらでまず読んでみると良いと思います。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | 心理学 第5版補訂版 | 鹿取・杉本・鳥居・河内　編 | 東京大学出版会 | 2,640円 |

# 心理学B/心理学B(知覚･認知心理学)

Psychology B/ Psychology B(Psychology of Perception and Cognition)

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位

**授業対象：** 指定なし（HS学科臨床心理学コース，OT専攻，ST専攻を除く）　木１or木２or金１or金２／［必修］HS学科臨床心理学コース　木１or木２or金１or金２／［必修］OT専攻　木１or木２or金１or金２／［必修］ST専攻　木１or木２or金１or金２

**科目責任者：** 猪原　敬介

**担当者：** 猪原　敬介

**備考：** 科目ナンバリング：L101-HS20／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 人間の心について，実験や調査を用いて科学的に検討するのが心理学である。これらの方法によって示される人間の「心」は，日常生活から感じ取れる「心」とは異なることがある。心理学が示す「心」を知ることによって，受講生それぞれの人間観を作る材料を提供する。 |
| **教育内容** | 現代心理学を幅広く概説する（「心理学A」とは別内容である）。私たちの「知」はどのように獲得・形成されたのか，などのテーマについて講義し，受講生に考える機会を持ってもらう。 |
| **教育方法** | すべてオンデマンド型（動画をGoogle Classroomにアップロードしておくので，受講生の都合の良いタイミングで視聴する）のオンライン講義である。スライド，動画等の視聴覚資料を中心に講義形式で行う。講義は配布するプリント資料に沿って進める。<br>【フィードバックの方法】<br>毎回の授業では，課題への回答や，何らかの意見を求める。それらの回答や意見に対して，次回の授業で教員から回答をフィードバックする。<br>【Google Classroomクラスコード】木1・2,金1・2共通：bm6ql3il |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：次回の授業のキーワードについて，書籍やWebで調べ，概要を把握しておくこと。<br>復習：配布資料を再読し，学んだ概念の具体例を自分自身の中に探す。授業で紹介する文献や資料を読む。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 猪原　敬介 | オリエンテーション：心理学とは | 心理学とは何か，授業の進め方，心理学の歴史について，古くはどんなアプローチが取られ，現在までにどのような発展があったかを説明する。最新の心理学は，近接領域と融合する学際領域である。心理学の広がりについて説明し，これ以降の講義内容の見通しを与える。 |
| 2 | 猪原　敬介 | 知覚・認知１：視覚 | 私たちの視覚は外界をそのまま映すカメラではない。脳による多彩な処理を受けて私たちの視覚を生み出しているのである。視覚の仕組みを中心に，私たちの感覚に存在する錯覚について解説し，こうした脳の処理を実感してもらう。 |
| 3 | 猪原　敬介 | 知覚・認知２：短期記憶 | 記憶の分類方法には様々なものがあるが，短期的な記憶と長期的な記憶の違いは日常生活でも意識されるところだろう。短期的な記憶が私たちの心理の様々なところに影響することが近年分かっている。これらの知見について紹介する。 |
| 4 | 猪原　敬介 | 知覚・認知３：ワーキングメモリ | 短期記憶の概念は近年発展しており，私たちの日常生活における短期的な記憶機能をより良く反映する概念としてワーキングメモリが提案されている。ワーキングメモリの概念とその重要性について解説する。 |
| 5 | 猪原　敬介 | 知覚・認知４：意識と脳 | 脳と心は同一ではないが，心がその大部分を脳を基盤としていることは確かだろう。脳への外科手術を行った事例などから，脳と心の関係を考える。 |
| 6 | 猪原　敬介 | 学習１：学習の基礎的メカニズム | 人間は高度な学習能力を持つが，その基礎となるメカニズムはどういったものだろうか。単純でありながら応用範囲の広い「条件づけ」を中心に解説する。 |
| 7 | 猪原　敬介 | 学習２：動機づけ | やる気（動機づけ）を出す，あるいは，出させるには，どうすれば良いだろうか。心理学で提唱されている理論について説明する。 |
| 8 | 猪原　敬介 | 学習３：臨界期と第二言語習得 | 母語，そして外国語あるいは第2言語と，私たちは言葉を学習する高い能力を持っている。言語学習について知られている知見を紹介する。 |
| 9 | 猪原　敬介 | 発達障害１：自閉スペクトラム症・ADHD | 人口の数パーセントの割合で存在すると言われる発達障害について，最新知見を述べる。 |
| 10 | 猪原　敬介 | 発達障害２：学習症・ディスレクシア | その人の知的水準に対して，著しく読み書きを苦手とする発達障害として，ディスレクシアがある。その事例や理論について解説する。 |
| 11 | 猪原　敬介 | 知能１：知能検査とIQ | 知能検査・知能指数とは何か，どのように測定するのか，解説する。 |
| 12 | 猪原　敬介 | 知能２：知能の理論 | 知能とは一体何か。これまでの議論の変遷と現状について解説する。 |
| 13 | 猪原　敬介 | 遺伝と環境１：行動遺伝学とフリン効果 | 私たちの知能や性格，あるいは精神疾患になるかならないかは，遺伝や環境からどのような影響を受けるのだろうか。行動遺伝学の知見を踏まえつつ，解説する。 |
| 14 | 猪原　敬介 | 遺伝と環境２：遺伝と環境の相互作用 | 行動遺伝学的方法論に基づく推定によれば，遺伝は心の個人差に比較的強く影響している。一方で，前回説明したフリン効果からは，環境の強い影響が示唆される。遺伝と環境の相互作用について解説する |
| 15 | 猪原　敬介 | 総括 | これまでの授業を振り返る。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 知覚・認知心理学を中心に心理学の研究成果を知り，他者に概要を説明できる |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>毎回の提出物（Google Classroom上での回答・レポートが主です）にもとづく評価(100%)。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 下記で紹介している本は「参考書」であり，購入必須ではありません。心理学をもっと知りたい人のために紹介しています。図書館にも入れてありますので，興味のある人はそちらでまず読んでみると良いと思います。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | 心理学 第5版補訂版 | 鹿取・杉本・鳥居・河内　編 | 東京大学出版会 | 2,640円 |

# 心理学A/心理学A(心理学概論)

Psychology A/ Psychology A(Introduction to Psychology)

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位

**授業対象：** 指定なし（HS学科臨床心理学コース，OT専攻，ST専攻を除く）　火１or火２or水１or水２／［必修］HS学科臨床心理学コース　火１or火２or水１or水２／［必修］OT専攻　火１or火２or水１or水２／［必修］ST専攻　火１or火２or水１or水２

**科目責任者：** 中山　友則

**担当者：** 中山　友則

**備考：** 科目ナンバリング：L101-HS19／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 人間の心について，実験や調査を行い，科学的に検討するのが心理学である。その研究対象は人間の広い意味での行動であり，その行動がなぜ生起したのか，背後にある心の動きを考えていく。では，実際にそうした人間行動に対して現代の心理学はどう説明するのか。心理学の考え方や研究成果の解説し，それを通して，人間理解に必要な知識，考え方を習得する。また，心理学研究で示される心の話題は，日常経験と異なることもある。それらを知ることによって，各自の心に対する理解をさらに深めることを目的とする。 |
| **教育内容** | 現代心理学のうちパーソナリティ（個性と関わる）や動機づけ（やる気を起こさせるなど），人間関係，発達（人はどのように成長するのか）といったテーマを中心に概説する（心理学Bとは異なる内容である）。こうした内容は，日常においても比較的身近に，具体的な経験があることも多い。解説することで，目的に述べた人間理解，日常と心理学との違いについて考えていくことになる。また，性格や発達では障害，症例に関係する内容も解説する機会がある。知識を得，各自がそうした問題を考える機会を持ってもらう。また，内容に関連した心理テスト（調査や実験）を体験してもらい実際の心理学研究に触れる機会を数回設ける予定である。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>スライドとそれをPDF化した資料を活用しながら講義形式で進める。資料は授業前に事前にアップロードするため各自で確認すること。ダウンロード可の設定にする（著作物を除く）ため，目を通し，自身の興味・関心などを明確化しておくことを推奨する。授業後には，授業参加の有無と授業理解度を確認し，平常点の資料とするため，リアクション・ペーパーを提出してもらう。それらの回答や意見に対して，次回の授業で教員から回答をフィードバックする。<br>【フィードバックの方法】<br>リアクションで記述された内容から質問を中心にピックアップし，教員の回答を含めて資料と同様にPDFにしてアップロードする。また，次回授業時に口頭での補足も行う。リアクションの内容によってはその後の授業回で体系的に取り扱うこともある。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：次回の授業のキーワードについて，配布資料，書籍やWeb等で調べ，概要を把握しておくように。<br>復習：配布資料に再度目を通し，学んだ概念の具体例を自分自身の中に探す。授業で紹介する文献や資料を読む。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 中山　友則 | 心理学とは何か | 人に心があるということを心理学ではどう考え，どのようにアプローチするのか，そして，心理学が目指すところは何か，心理学で何がわかるかについて解説する。授業の進め方と評価方法についても説明する。 |
| 2 | 中山　友則 | パーソナリティ心理学1：類型論的な考え方 | 人間の広い意味での性格についての考え方の一つである類型論について，その代表的な理論を解説する。また，この類型論に分類される心理テストも行う予定である。 |
| 3 | 中山　友則 | パーソナリティ心理学2：特性論的な考え方 | 人間の広い意味での性格についての考え方の一つであり，現在の主流的な考え方にもつながっている特性論について，その代表的な理論を解説する。また，この特性論に分類される心理テストも行う予定である。 |
| 4 | 中山　友則 | 動機づけ1：内発的動機付け，外発的動機付け | 人はなぜ行動するのか。行動を引き起こす原因としての動機の機能と種類について，さまざまな観点（内発的動機づけと外発的動機づけ，欲求階層説など）から解説する。また，動機づけの傾向などを測定する心理テストも行う予定である。 |
| 5 | 中山　友則 | 動機づけ２：欲求不満，適応など | 欲求が満たされないとき人はどのように振る舞うのか，欲求不満の原因，欲求不満耐性，適応と不適応の問題を考える。 |
| 6 | 中山　友則 | 社会心理学1：対人認知（バイアス等） | 私たちが他者と出会ったとき，どのような情報に基づいてその人物を評価，判断するのか，そうした評価がさまざまな情報に左右されるといった対人認知の際の歪みについて解説する。 |
| 7 | 中山　友則 | 社会心理学2：態度（態度，説得） | 他者に対する評価がなされれば，その人物に対する態度が形成される。態度とは何か，また，そうした態度を変容させるにはどうすれば良いのかについて解説する。 |
| 8 | 中山　友則 | 社会心理学3：態度（援助や魅力） | 他者に対する態度の一つとして，実際に援助を行う，魅力を感じるといったものがある。他者を助ける行為はどういった理由から起きるのか。また，他者が助けを必要とする状況でありながら助けないという行動はどうして起きるのか，どういった人が魅力的な人として捉えられるかについても解説する。 |
| 9 | 中山　友則 | 感情心理学 | 他者に対する態度には感情も含まれる。人の感情にはどういったものがあるのか，また，感情はどのように生起するのかについて解説する。また，感情を理解できない障害についても解説する。 |
| 10 | 中山　友則 | 集団心理 | 心理学における集団は広く言えば他者がいる状況である。他者がいる状況で個人の行動がどのように変わるのか，また，集団で物事を実行するとどういったことが起こるのかについて解説する。 |
| 11 | 中山　友則 | 発達心理学1：遺伝と環境 | 人が発達するとはどういうことか，また，発達はどのように規定されるのかについて，発達研究の歴史を踏まえながら解説する。 |
| 12 | 中山　友則 | 発達心理学2：子供の発達 | 青年期以前の子供がどのように発達していくのかについて，ピアジェの認知発達理論や愛着の発達について解説する。また，そうした年齢期にみられる発達の障害についても解説する。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 13 | 中山　友則 | 発達心理学3：青年以降の発達 | エリクソンの生涯発達理論の概要を解説するとともに，青年期以降のこころの発達過程を辿る。 |
| 14 | 中山　友則 | 教育心理学 | これまでの内容を踏まえつつ，主に乳児期から青年期にかけての人間の精神および知能の発達や人格形成などと教育の関係を取り上げる教育心理学について解説する。 |
| 15 | 中山　友則 | 総括 | これまでの授業を振り返る。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | パーソナリティ心理学，社会心理学，発達心理学を中心にこれまでの研究成果，理論などを知り，他者に概要を説明できる。<br>また，心理テストも含めて心理学の心に対する考え方を理解することで，自身の心についても改めて見つめ理解をより深める。<br>また，これらを通して，他者理解に対する姿勢を深める。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：レポート 実施時期：試験期間外<br>毎回提出してもらうリアクション・ペーパーにもとづく平常点（50%）および学期末のレポート（50%）により総合評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | リアクション・ペーパーには，その回の授業でどのようなことが理解できたか，自分のこれまでの体験とつなげてどのようなことを考えたか，あるいは疑問に思ったことなどを中心に，積極的に書き込んでもらいたいと思います。なお，直接的に授業に関係がないものでも，心理学（もっと言えば人）に関わることであれば書き込んでもらって構いません。上に書いたように，質問を中心にフィードバックで返答するか，授業に取り入れるかをしたいと思います。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 毎回教員が作成した資料を用意する | | | 円 |
| **参考書** | はじめて出会う心理学（第3版） | 長谷川・東条・大島・丹野・廣中 | 有斐閣アルマ | 2,200円 |
| **参考書** | よくわかる心理学 | 無藤・森・池上・福丸 | ミネルヴァ書房 | 3,300円 |
| **参考書** | 心理学 新版 (New Liberal Arts Selection) | 無藤・森・遠藤・玉瀬　著 | 有斐閣 | 4,620円 |

# 心理学B
Psychology B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし（HS学科臨床心理学コース，OT専攻，ST専攻を除く）　火１or火２／［必修］OT専攻　火１or火２／［必修］ST専攻　火１or火２
**科目責任者：** 中山　友則
**担当者：** 中山　友則
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HS20／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 人間の心について，実験や調査を行い，科学的に検討するのが心理学である。その研究対象は人間の広い意味での行動であり，その行動がなぜ生起したのか，その背後にある心の動きを考えていく。では，実際にそうした人間行動に対して現代の心理学はどう説明するのか。心理学の考え方や研究成果の解説をし，それを通して，人間理解に必要な知識，考え方を習得する。また，心理学研究で示される心の話題は，日常経験と異なることもある。それらを知ることによって，各自の心に対する理解をさらに深めることを目的とする。 |
| **教育内容** | 現代心理学のうち学習心理学や認知心理学といった内容を扱う（心理学Aとは異なる内容である）。これらは主に人間の知がどのように獲得・形成されるのかといった問題と関連する。こうした内容を，心理学で行われている実験の体験なども行いながら解説していく。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>スライドとそれをPDF化した資料を活用しながら講義形式で進める。資料は授業前に事前にアップロードするため各自で確認すること。ダウンロード可の設定にする（著作物を除く）ため，目を通し，自身の興味・関心などを明確化しておくことを推奨する。授業後には，授業参加の有無と授業理解度を確認し，平常点の資料とするため，リアクション・ペーパーを提出してもらう。それらの回答や意見に対して，次回の授業で教員から回答をフィードバックする。<br>【フィードバックの方法】<br>リアクション・ペーパーに記述された内容から質問を中心にピックアップし，教員の回答を含めて資料と同様にPDFにしてアップロードする。また，次回授業時に口頭での補足も行う。リアクション・ペーパーの内容によってはその後の授業回で体系的に取り扱うこともある。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：次回の授業のキーワードについて，配布資料，書籍やWeb等で調べ，概要を把握しておくように。<br>復習：配布資料を再読し，学んだ概念の具体例を自分自身の中に探す。授業で紹介する文献や資料を読む。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 中山　友則 | 心理学とは何か | 特に今後の内容と関わることから心理学の歴史について触れながら，心理学とは何かについて解説する。授業の進め方と評価方法についても説明する。 |
| 2 | 中山　友則 | 学習心理学1：条件づけ | 人間は生まれてからさまざまな事を学習するが，そうした学習の基礎的なメカニズムはどうなっているのか。日常で利用されることも多い条件づけについて解説する。 |
| 3 | 中山　友則 | 学習心理学2：条件づけ以外の学習 | 前回に引き続き，人間の学習について条件づけ以外の学習，特に社会的学習について解説する。また，学習心理学の手法を応用している心理療法についても触れる。 |
| 4 | 中山　友則 | 知覚心理学1：視覚 | 人間のものを見る仕組みがどうなっているのか。我々が最終的に感じているのは物理世界そのものではなく，脳によって処理された世界である。この好例が錯視である。錯視を実際に提示しながら，物理世界と知覚世界の違いについて解説する。 |
| 5 | 中山　友則 | 知覚心理学2：視覚以外 | 人間の情報の大部分は視覚からであるが，それ以外の感覚の仕組みはどうなっているのか。視覚以外の感覚の特徴について，関連する現象も取り上げながら解説する。 |
| 6 | 中山　友則 | 認知心理学1：記憶と忘却 | これ以降，何回かにわたり記憶について説明するにあたり，そもそも心理学において記憶がどう定義されているのかや，記憶の分類について解説する。また，記憶することに対して，忘却するとは何かについても解説する。 |
| 7 | 中山　友則 | 認知心理学2：短期記憶（作動記憶） | 短期記憶は「今、私（自分）」が行っているさまざまな活動と関連する記憶である。実験の体験を通して，短期記憶について解説するとともに，それが障害された場合にどのような困難が考えられるのかも解説する。 |
| 8 | 中山　友則 | 認知心理学3：長期記憶 | より良く覚えたい，ということは多くの人が思ったことがあるだろう。それには長期記憶が深くかかわってくる。長期記憶について解説し，よりよく覚えるためのさまざまな記憶方法について紹介する。 |
| 9 | 中山　友則 | 認知心理学4：日常認知 | 認知は人間の日々のさまざまな活動と密接な関係にある。現在ではそうした日常の中での認知の役割について活発に研究がなされている。どういった日常認知研究があるのか，そこから得られた知見が本当に日常に還元されているのかについて解説・考察する。 |
| 10 | 中山　友則 | 認知心理学5：目撃証言，虚記憶 | 目撃証言とは，事件や事故の目撃者が経験した出来事の記憶に基づいて報告することであり，記憶が関わってくる。では，その記憶に基づく目撃証言は正確なのだろうか。目撃証言を歪める要因や，正確な情報を得る方法について解説する。また，近い話として虚記憶についても説明する |
| 11 | 中山　友則 | 意識と脳，高次脳機能障害 | 人間の心の大部分はおそらく脳に基盤があると考えられる。では脳を損傷してしまった場合にはどのような問題が生じるのか。脳損傷における事例を紹介し，脳と心の問題について考える。 |
| 12 | 中山　友則 | 思考・推論・意思決定・問題解決1：問題解決，意思決定 | 問題解決のプロセスと種々の問題解決の手法として，試行錯誤学習，類推，洞察，アルゴリズムとヒューリスティックスについて解説する。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 13 | 中山　友則 | 思考・推論・意思決定・問題解決2：思考・推論 | 帰納的推論と演えき的推論をめぐる人間の論理的思考の特徴について解説するとともに，創造的思考とは何かについて考察する。 |
| 14 | 中山　友則 | 言語心理学 | 人間はコミュニケーションの主な手段として言語を利用する。では我々はどのように言語を獲得していくのだろうか。言語の発達について解説するとともに，言語が果たす役割について考える。 |
| 15 | 中山　友則 | 総括 | これまでの授業を振り返る。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 知覚・認知心理学を中心にこれまでの研究成果，理論などを知り，他者に概要を説明できる。<br>心理学研究の方法について知り，科学的な方法によって意見を述べるという点の重要さを理解し，自身の物事への考え方を深める。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：レポート 実施時期：試験期間外<br>毎回提出してもらうリアクション・ペーパーにもとづく平常点（50%）および学期末のレポート（50%）により総合評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | リアクション・ペーパーには，その回の授業でどのようなことが理解できたか，自分のこれまでの体験とつなげてどのようなことを考えたか，あるいは疑問に思ったことなどを中心に，積極的に書き込んでもらいたいと思います。なお，直接的に授業に関係がないものでも，心理学（もっと言えば人）に関わることであれば書き込んでもらって構いません。上に書いたように，質問を中心にフィードバックで返答するか，授業に取り入れるかをしたいと思います。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 毎回プリント資料を配付する。 | | | 円 |
| **参考書** | はじめて出会う心理学（第3版） | 長谷川・東条・大島・丹野・廣中 | 有斐閣アルマ | 2,200円 |
| **参考書** | よくわかる心理学 | 無藤・森・池上・福丸 | ミネルヴァ書房 | 3,300円 |
| **参考書** | 心理学 新版 (New Liberal Arts Selection) | 無藤・森・遠藤・玉瀬　著 | 有斐閣 | 4,620円 |

# 心理学B
Psychology B

**科 目 概 要 ：** 2025年度　後期／2単位
**授 業 対 象 ：** 指定なし（HS学科臨床心理学コース，OT専攻，ST専攻を除く）　火４or火５／［必修］OT専攻　火４or火５／［必修］ST専攻　火４or火５
**科目責任者 ：** 太田　碧
**担　当　者 ：** 太田　碧
**備　　考 ：** 科目ナンバリング：L101-HS20／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 心理学ではこころのはたらきについて実験・調査・観察などを通して科学的に検討している。これらの研究を概観することで心理学の知識や考え方を身につけ，理解を深めることを目的とする。 |
| **教育内容** | おもに知覚心理学・学習心理学・認知心理学の内容について概観する（心理学Aとは異なる内容である）。授業内で紹介する各分野の古典となる研究や用語，具体例について理解する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>スライドと配布資料を利用して対面での講義形式で進める。外部ドライブに配布資料をアップロードするので，事前に確認する。授業に出席のうえ，理解度の確認と平常点の資料のためのリアクションペーパーを提出し，授業後には指示された課題に取り組む。次回の授業で教員からリアクションペーパーや課題のフィードバックを行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：次回の授業のキーワードについて調べ，内容や疑問点を整理しておくこと。<br>復習：授業内で指示された課題に取り組む，配布資料を再読する，授業内で扱った概念や用語を用いる身近な例や具体例を考える，関連文献を読むなどすること。 |

| 回 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション・心理学とは | 本講義の進め方や成績評価方法について説明，また心理学の歴史について解説する。 |
| 2 | 心理学の研究法 | 実験・調査・検査などの研究手法について解説する。 |
| 3 | 知覚1：知覚の基礎知識 | ゲシュタルト，図と地，感覚閾など，知覚心理学の基本的な概念を解説する。 |
| 4 | 知覚2：知覚の特性 | 視覚・聴覚，色・運動の知覚などに関する特性を解説する。 |
| 5 | 知覚3：顔 | 顔の知覚・認知に関して解説する。 |
| 6 | 学習1：条件付け | 古典的条件付けとオペラント条件付けを中心に，学習に関する古典的な知識について解説する。 |
| 7 | 学習2：さまざまな学習 | 潜在学習・観察学習など，さまざまな学習についての基礎知識を解説する。 |
| 8 | 学習3：学習法 | 効果的な学習法について解説する。 |
| 9 | 記憶1：記憶の基礎知識 | 注意・処理水準・ワーキングメモリなどについて解説する。 |
| 10 | 記憶2：記憶情報 | 長期記憶・短期記憶など，記憶の分類とその機能について解説する。 |
| 11 | 動機付け | 内発的動機づけ・外発的動機づけなどの基本的な概念を解説する。 |
| 12 | 思考 | 推論や意思決定のバイアスについて解説する。 |
| 13 | 言語 | 言語の果たす役割や理解について解説する。 |
| 14 | パーソナリティ | パーソナリティの概念や測定法について解説する。 |
| 15 | 総括 | これまでの講義を振り返りまとめる。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | おもに知覚心理学・学習心理学・認知心理学の理論や方法，用語について知り，説明できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>授業に出席のうえ提出するリアクションペーパーによる平常点（45%），授業後の課題（55%）。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 教科書は指定せず，毎講義，資料を配布します。学習した内容に関してより理解を深めたい場合には，参考書等を購入して読んでください。リアクションペーパーでは，授業内での疑問点・さらに詳細な説明がほしい箇所・学習した概念に当てはまる自身の経験など，コメントをしてください。個別にフィードバック，または全体で共有すべき話題については次回授業内でフィードバックを行います。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 毎回，資料を配布する。 | | | |
| **参考書** | 心理学要論　こころの世界を探る [改訂版] | 福田由紀　著 | 培風館 | 2,640円 |

# 人間形成の基礎科目

## 健康の領域

人類史上からみて、本来動くことがあたりまえであるはずのヒトが、極めて短期間に極度の運動不足状態に陥っていることは、明らかに不自然なことと言えよう。今や生活習慣病のほとんどが、運動不足と深く関わっていることが指摘されている。青少年期は子供から大人への成長期にあたり最も重要な時期である。これからの学生生活を健やかに過ごす為にも、身体運動技能や健康学の知識を修得してもらいたいと願い、「健康の領域」では下記のように講義、及び演習形態に大別した授業を展開する。

＜健康の科学＞

健康は、総合的観点から追求すべき緊急の課題であることを理解し、生涯にわたって健康の保持増進に関する実践者、推進者としての意識を高めてほしい。「健康の科学」では、科学的事実に基づいた知見を身近な話題を例に、わかりやすく伝え、その知識を諸君自身の問題として活かしてもらえるよう授業を行う。各担当教員の専門性に基づき、スポーツ科学、トレーニング科学、発育・発達などの内容を取り入れている。これらの知識は諸君が毎日の生活を送る上でも重要であり、その影響は卒業後にまで及ぶと考えられる。

「健康の科学Ａ」(前期)と「健康の科学Ｂ」(後期)は、単独の教員による講義で、それぞれ複数開講される。「健康の科学Ｃ」(前期)・(後期)は複数の教員によるオムニバス形式の講義で、前後期ともに１コマのみ開講される。２科目を履修することは可能であるが、同一記号の科目重複履修（異なる曜日のＡを２つ、Ｂを２つ、前期と後期のＣを２つ）はできないことに注意すること。

なお、講義は全てオンライン形式で行い、履修者定員を上限160名とする。

＜健康とスポーツ演習＞

生命科学を目指す本学に入学した学生は、学生生活はもとより、生涯にわたって健康に関わる素養を実践する技法、手法を習慣づけることが望ましい。

そのことを踏まえ自ら学ぶ「健康とスポーツ演習」の授業を展開する。

健康とスポーツ演習は、同一コマ（時限）の履修希望者数に応じて「対面とオンラインの併用」または「全て対面」の形式で行われる。「対面授業とオンラインの併用」では、実技に加えてルール解説、ストレッチやトレーニング方法の紹介、健康の維持増進に関する講義、課題の実施等を行う。

# 健康の科学A

Health Science A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし（PT専攻を除く）　火１／［自由］PT専攻　火１
**科目責任者：** 北川　淳
**担当者：** 北川　淳
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HH01／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 健康の維持増進や生活習慣病予防に対する運動の効果について修得する。特に，運動生理・生化学の知見を導入し，運動の持つ様々な効果や栄養についての基礎知識を学ぶ。これらの内容を理解し，自分自身の健康管理に役立てること目標とする。さらに，医療・生命科学系大学の卒業生として健康の推進者になった時に，現場で実践できるような基礎知識を習得する。 |
| **教育内容** | 授業初期（1～3回）は健康や栄養，運動の基礎知識，飲酒・喫煙の影響について述べることから始める。<br>中期（4～8回）では運動生理・生化学の基礎知識を基に，運動による身体の応答や長期的な変化等について述べる。<br>後期（9～14回）では生活習慣病予防に対する運動の効果を中心に解説する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全てオンラインで実施します】<br>教科書とともにパワーポイントによる動画を用いたオンライン講義形式とする。必要に応じて補足のためのプリントをオンライン上で提示する。また，健康に関する新聞記事を用い，教科書で学んだ内容との関連について解説する。<br>【フィードバックの方法】<br>毎回リアクションペーパーを提出し，翌週に主なコメント（5～10件程度）に対応する双方向とする。<br>【Google Classroomクラスコード】<br>uuwusmy |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間以外に必要な予習・復習時間：60時間（試験のための学習時間も含む）】<br>予習：授業前には教科書に目を通し，概要を把握しておくこと。<br>復習：授業内容ノートを確認し、理解が不十分な箇所は教科書を読み返すこと。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 北川　淳 | ガイダンス（日付：4/15） | 授業内容の説明（各回の主な内容を簡単に解説する）。<br>「健康」の定義についても考える。どのような時に「健康」と思うだろうか？ |
| 2 | 北川　淳 | 健康に関連する要因（4/22） | 「平均寿命」と「健康寿命」の相違と問題点を解説することから始める。<br>生活習慣病，肥満，飲酒や喫煙が健康に与える影響について説明を加える。 |
| 3 | 北川　淳 | 栄養・代謝（5/6） | 5大栄養素の役割や摂取量について解説する。<br>摂取した栄養素はどのように代謝（分解）されるか？ |
| 4 | 北川　淳 | エネルギー供給系と骨格筋（5/13） | 運動時のエネルギー源となるATP（アデノシン三リン酸）の供給について解説する。さらに骨格筋について，筋線維と運動種目との関係について解説する。 |
| 5 | 北川　淳 | 運動と骨格筋（5/20） | 筋の収縮様式やトレーニングと筋肥大等について解説する。これらの知識を踏まえて，筋力トレーニング法や筋肉痛や肉離れが発生する原因について説明を加える。 |
| 6 | 北川　淳 | 運動と神経系（5/27） | 中枢神経（脳・脊髄）と末梢神経（自律神経と末梢神経）について説明後，「運動と脳との関係」や「神経系と骨格筋との関係」などの最近の知見について解説する。 |
| 7 | 北川　淳 | 運動と循環（6/3） | 心臓の機能・構造と血液の循環について説明後，「運動時の心臓の働き」や「トレーニングによる心機能変化」などについて解説する。 |
| 8 | 北川　淳 | 運動と呼吸（6/10） | 肺におけるガス交換，酸素摂取量などについて説明後，運動・スポーツと最大酸素摂取量との関係などについて解説する。 |
| 9 | 北川　淳 | 身体組成と肥満（6/17） | 身体組成（脂肪と除脂肪）について説明後，「体脂肪率の測定原理」や「肥満の種類」などについて解説する。 |
| 10 | 北川　淳 | 運動処方（6/24） | 健康や体力の維持・増進を目的とする「運動処方」や心拍数を用いた運動強度の設定方法などについて解説する。 |
| 11 | 北川　淳 | 骨粗鬆症についての概論（7/1） | 女性に多く発症する骨粗鬆症。その理由について骨量の加齢変化，骨代謝，危険因子などについて解説する。 |
| 12 | 北川　淳 | 骨粗鬆症の予防（7/8） | 運動（どのような運動を行うべきか？）と栄養（どのような栄養素や食品を摂取すべきか？）による予防について解説する。 |
| 13 | 北川　淳 | 痛風（高尿酸血症）（7/15） | 男性に多く発症する痛風（高尿酸血症）。尿酸代謝，食事や運動の影響等について説明する。運動選手に痛風は多い？ |
| 14 | 北川　淳 | 運動と健康（7/22） | 「熱中症」，「サルコペニアやフレイル（加齢に伴う筋萎縮や全身の虚弱化）」，「生活習慣病」などと運動との関係について解説する。 |
| 15 | 北川　淳 | まとめ（7/29） | まとめ。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ① 健康科学，生理学，解剖学，栄養学の基礎知識について説明できる。<br>② 運動生理・生化学の基礎知識を習得し，運動の持つ様々な効果を説明できる。<br>③ これらの知識を教養として身につけ、自身や家族などの健康管理に役立てられるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：レポート 実施時期：試験期間外<br>評価基準：期末のレポート課題（80%），毎回のリアクションペーパー（20%）の両方において，講義内容を正しく理解した記述内容であるか総合的に評価する。<br>なお，リアクションペーパー未提出は欠席扱いとして減点とする。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | この科目を通して，生涯にわたり運動習慣を持つことの必要性を理解してください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 入門運動生理学（第4版） | 勝田　茂　編著 | 杏林書院 | 2,530円 |

# 健康の科学A（足底からみるWell-Being）

Health Science A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし（PT専攻を除く）　水１／［自由］PT専攻　水１
**科目責任者：** 安倍　希美
**担当者：** 安倍　希美※
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HH01／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 近年、主観的・客観的Well-Beingが注目されています。本授業では足底を足がかりとして　①身体の構造とその仕組み・発育　②運動のメカニズム・発達　③運動スキルの表記法・伝授法、動きの美　④芸術・芸能・情動　⑤老化と介護を共に学びます。思考・動作・感情の文字化による他者との交流より、主観と客観を往来し、思考能力とコミュニケーション能力を拡大・深化させ、皆でWell-Beingを総合的に捉える幅広い教養と豊かな人間性を形成します。 |
| **教育内容** | 身体の構造とその仕組みや人々が地域・文化を理解し感動と共に健康に生きる事について、必要な基礎知識とその実際・適切な表現法を学び、個人の知から知の共有を導き、Well-Beingを総合的捉える意義を共に学びます。 |
| **教育方法** | 【この授業は全てオンラインで実施します】<br>オンデマンド型。LMS（学習支援ソフト）の資料と、医学映像教育センター配信映像（5タイトル程）によります。「（教員からの）質問」への回答で理解確認・知識定着、6-11回の文字「交流」での知の共有とインスピレーションの誘発、これらを踏まえた前期末の「レポート」作成。全体連絡や「学生からの質問」もLMS等にて適切に対応。<br>【フィードバックの方法】アンケートには次々回頃迄に解説を提示、交流へは教員も参加して雰囲気を醸成。<br>【Google Classroomクラスコード】Webシラバス、一般教育部授業情報サイトに記載 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：講義1回につき30分、資料の確認、赤ちゃんや高齢者を含む人や動物、自然・地域への興味等（７時間30分）<br>復習：同3時間30分、「質問」回答による知識定着、交流への参加とレポート作成による視野拡大等（52時間30分） |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 安倍　希美 | ガイダンス | 授業内容や評価法、Well-Beingとは、諸注意等 |
| 2 | 安倍　希美 | 発育発達　～赤ちゃんは丸で平～ | 発育発達の概観、体型・姿勢、性差、研究法 |
| 3 | 安倍　希美 | 身体計測、身体発育　～さんざん苦労して赤ちゃんの体重1年間で3倍9kg！～ | 身体計測点、身体各部位の長育（身長）・量育（体重）・周育（頭囲等）・幅育（肩幅等）、乳幼児の身体計測・身体発育値 |
| 4 | 安倍　希美 | 姿勢と反射、身体の構造と運動<br>～北里先生の像曰、前腕急げ～ | 姿勢の名称と意味、反射とそのレベル、身体の構造と運動：骨・筋肉（骨格筋）・関節とその可動域、身体部位 |
| 5 | 安倍　希美 | 運動制御、発達スクリーニング<br>～スクリーニングで素早くクリーンに～ | 運動制御：近位制御と遠位制御、粗大運動と微細運動、発達の方向性（近位～遠位等）、スクリーニング、DENVERⅡ |
| 6 | 安倍　希美 | 運動発達、交流1<br>～動物好きな人！お待たせしました！～ | ロコモーションの個体発達：寝返り～這う～歩行～走行、系統発生：動物との比較（四肢運動順序・足底や下肢の形状等） |
| 7 | 安倍　希美 | 歩行のメカニズム、交流2<br>～ハイハイにバイバイするハイガード～ | 歩行と走行、歩行の正常と異常、歩行の時間因子（離接・接地等）と距離因子（歩幅・歩隔等）、歩行時の足底の動き |
| 8 | 安倍　希美 | スキルとその伝授、交流3　～運動神経はううんどうしようもなく無い～ | スキルと伝達様式：手取り足取り、模範演技・模倣演技・言語、基本動作の習熟、近位と足底（遠位）、五感と第六感 |
| 9 | 安倍　希美 | スポーツスキルと美、交流4<br>～ダイナミズムは大成美流夢？～ | スポーツにおけるスキルと美の認識可能性･ダイナミズム（流動性・躍動感）、記録法：動画・連写・1コマ、カラー・白黒 |
| 10 | 安倍　希美 | 芸術スキルと情動表現、交流5<br>～足底を測定～ | 芸術における高度な情動表現とスキルの分析：能楽・歌舞伎・日本舞踊・バレエの分析の視点、足底動作の特徴、見所と鑑賞 |
| 11 | 安倍　希美 | 民俗芸能・三番叟（さんばそう）、<br>交流6　～三葉でも幸福招く三番叟～ | 神楽等の民俗芸能、三番叟：邪気払・鎮魂と供養、六根清浄、自然と神に直結した健康への祈り、魂が打ち震えるとは |
| 12 | 安倍　希美 | 芸術資料のデジタル化<br>～クリエィティブな顧問達と世界旅行～ | 世界の美術館等の公開する芸術・芸能のデジタル化資料の閲覧方法、著作権等の利用上の留意点、ダイナミズムの認識可能性 |
| 13 | 安倍　希美 | 老化、生きるとは<br>～百寿者は千手成アン！～ | 老化の概念とプロセス、認知症・ロコモ（略称）・フレイル・サルコペニア等、歩行の退化、将来の為に今なすべき事 |
| 14 | 安倍　希美 | 介護とその予防～特養はお得よなの？～ | 介護、介護保険制度、介護予防、健康寿命、任意後見人制度等 |
| 15 | 安倍　希美 | 個別指導 | 個別指導、レポートの確認（7月中にオンライン提出）等 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①「質問」回答（週末頃迄）により要点整理し、基本的知識を定着させる継続的学習ができる<br>②「交流」に積極的に参加し思考・動作・感情の文字化、主観と客観の往来、思考と交流の拡大深化ができる<br>③以上を踏まえ自ら素材を用意し「レポート」を作成し、Well-Beingを総合的に捉える努力ができる<br>素材例：1）出生から現在迄の身長・体重等、2）歩行とその発達・老化、3）スポーツや芸術場面の動作 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>①「質問」への回答に誠実に取り組み基本的知識を定着させる、継続的学習意欲（30%）<br>②「交流」での知と感情の文字化、自己再認識、知と感動の共有化への積極的意欲（加点対象）（30～40%）<br>③自ら素材を用意した「レポート」にて、感動と共にWell-Beingを総合的に捉えようとする意欲（30～40%） |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 人間の何気ない動き、地域に残る文化・民俗芸能等に関心を持って下さい。今まで気付かなかった人間の奥深さが解るかもしれません。オンラインで大変でしょうが、困った事は遠慮なく連絡下さい。都合により若干の内容変更がありえます。参考書は購入不要で、復習が大事。合言葉は「大丈夫！」ですよ。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 企業の技術室でのアナログ資料をデジタル資料化する実務経験より、生身の人間の周辺にて生じるアナログ資質のデジタル化の可能性・適切性・再現性・限界等について、適時実例を示しながら説明し、その概念を学生が期末レポート、更には今後の人生において反映させ物事を捉える視野を拡大できるよう活用する。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | からだの発達　身体発達学へのアプローチ | 高石昌弘 | 大修館書店 | 2,500円 |
| 参考書 | 写真で見る乳幼児検診の神経学的チェック法 | 前川喜平、小枝達也 | 南山堂 | 5,800円 |
| 参考書 | 動作学事始め　増補第２版 | 大道等 | 杏林書院 | 4,120円 |
| 参考書 | 日本舞踊の基礎 | 花柳千代 | 東京書籍 | 4,400円 |
| 参考書 | 100歳の美しい脳 | デヴィッド スノウドン (著), 藤井留美 (訳) | DHC | 1,600円 |

# 健康の科学A

Health Science A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし（PT専攻を除く）　月1or月2／［自由］PT専攻　月1or月2
**科目責任者：** 山北　満哉
**担当者：** 山北　満哉
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HH01／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 人々の健康には、運動、食事、睡眠といった生活習慣が密接に関連していることは周知のとおりである。<br>しかし、健康に関わる要因は個人の生活習慣だけではなく、その生活習慣を形成する所得や友人関係、地域環境などの社会的・心理的・物理的要因も健康の決定因子となる。<br>本科目では、生活習慣及び社会環境と健康の関連を科学的証拠（エビデンス）に基づいて理解し、健康に関する科学的知識を発展させることを目的とする。さらに、その知識の獲得により、自らの健康の保持増進に主体的に取り組むとともに、自分に関わる周囲の人の健康のために何を実践すべきかを考えられるようになることを目的とする。 |
| **教育内容** | 全体を通じて、健康行動をはじめ、あらゆる行動は環境の影響を受けるという視点から健康との関連を概説する。<br>前半は、飲酒・喫煙、食事・ダイエット、睡眠、身体活動等の生活習慣と健康の関連、後半は社会経済状況や人間関係、物理的環境等と健康の関連について、社会環境の視点を入れて解説する。 |
| **教育方法** | ■オンデマンド形式での講義<br>※YouTubeに限定公開した講義動画を用いる。資料や講義についての情報提示はGoogle Classroom を用いる。<br>※Google Form を用いたミニレポート課題（授業への質問、意見、感想等）にて毎回の講義内容の確認を行う。<br>■課題に対するフィードバックの方法<br>・ミニレポートの質問・疑問への回答や感想に対する返答 (5件程度) を翌週の授業冒頭に行う（匿名）。<br>・確認テストの正答をGoogle Formにて開示し、質問などあれば限定公開のメッセージ等にて対応する。<br>【Google Classroom クラスコード】▶月曜1限：frubbou　▶月曜2限：tejowqy |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間以外に必要な予習・復習時間：60時間】<br>予習：授業内容を把握し、関連する情報を入手しておく。<br>復習：授業で得た情報を実生活で実践するとともに、世の中でどのように取り上げられているかを確認する。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 山北　満哉 | ガイダンス<br>社会環境の影響 | ※授業で考えて欲しい一例（授業の一部で取り扱います）<br>・あなたがとった行動はすべて自分の意思ですか？　など |
| 2 | 山北　満哉 | 健康の理解、日本の状況 | ・コンタクトレンズをしている私は健康ですか？<br>・少子高齢社会は大学生には関係ない？日本ガチヤバ　など |
| 3 | 山北　満哉 | 飲酒・喫煙と健康 | ・私は飲める人？飲めない人？「酒は百薬の長」はもう古い？<br>・加熱式タバコってどうなのよ？　など |
| 4 | 山北　満哉 | 食生活と健康 | ・大学生の食生活で特に足りないものは？<br>・健康によい食品とは？　など |
| 10 | 山北　満哉 | 肥満・やせと健康 | ・肥満は伝染する？<br>・妊婦さんのダイエットでこどもが太る？　など |
| 5 | 山北　満哉 | ダイエット | ・ダイエットは、すればするほど太っちゃう？<br>・イベントじゃないのよダイエットは、はっは～　など |
| 6 | 山北　満哉 | 身体活動・運動の意義 | ・ドッジボールのうまい子はなぜモテる？<br>・1時間座っていると寿命は何分縮む？　など |
| 7 | 山北　満哉 | ストレス・睡眠と健康 | ・ストレスをストレスと思わなければ・・・・・？<br>・脳を持たないヒドラも眠るということは？　など |
| 8 | 山北　満哉 | 主要疾病とその予防因子① | ・メタボリックリンドローム、循環器疾患を予防するには？<br>・生活習慣病は本当に「生活習慣」病ですか？　など |
| 9 | 山北　満哉 | 主要疾病とその予防因子② | ・がん、ロコモティブシンドローム、認知症を予防するには？<br>・あなたか私、どちらかががんになる？　など |
| 11 | 山北　満哉 | 社会経済状況と健康 | ・収入と健康の関係。確固たる事実<br>・お金持ちには肥満者が多い？少ない？　など |
| 12 | 山北　満哉 | こどもの貧困と健康 | ・ちびまる子ちゃんと花輪君はどちらが幸せですか？<br>・こどもは社会の宝物、こどもの頃は人生の宝物　など |
| 13 | 山北　満哉 | 人のつながりと健康 | ・日本が長寿である理由は自動販売機が多いことでわかる？<br>・なんで日本では落とした財布が戻ってくるの？　など |
| 14 | 山北　満哉 | 近隣・社会環境と健康 | ・世の中がディズニーランドだったら、人は健康になる？<br>・犬を飼うと痩せる？　など |
| 15 | 山北　満哉 | まとめ、解説と確認 | 学修内容の確認（質問と解説） |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①疾病の原因となる危険因子（生活習慣・社会環境要因）を挙げ、それらの関連について説明できる。<br>②身体活動・運動などの予防行動の意義、疾病予防効果について説明できる。<br>③自身の健康や社会における健康問題について、必要な改善策や取るべき行動を判断できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：確認テスト 実施時期：試験期間外<br>1. 毎回のミニレポート（60%）　※ミニレポートの未提出は欠席とする。<br>2. 確認テスト（40%）※ Google Formを用いた確認テストにより知識の定着を評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 単位取得のために履修するのではなく、自分の生活や将来に活かすために履修をして下さい。<br>講義内で毎回1回（2~3分程度）、座位行動をブレイクするための休憩（軽く身体を動かす時間）を入れます。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | 新版 生活健康科学 第2版 | 小田切陽一編 | 三共出版 (2022.4) | 2,750円 |
| 参考書 | 運動生理学<br>-生理学の基礎から疾病予防まで | 小山勝弘・安藤大輔編 | 三共出版 (2021.4) | 2,750円 |
| 参考書 | 健康になる技術　大全 | 林英恵 | ダイヤモンド社 (2023.2) | 2,200円 |
| 参考書 | 健康格差対策の進め方<br>効果をもたらす5つの視点 | 近藤尚己 | 医学書院 (2016.10) | 2,750円 |

# 健康の科学B（スポーツ，運動を題材に）

Health Science B

**科 目 概 要 ：** 2025年度　後期／2単位
**授 業 対 象 ：** 指定なし（PT専攻を除く）　水１／［自由］PT専攻　水１
**科目責任者 ：** 永見　智行
**担　当　者 ：** 永見　智行※
**備　　考 ：** 科目ナンバリング：L101-HH02／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 少子高齢社会である現代日本において，ひとりひとりが自身の，そして周囲の人々の身体的，精神的，社会的な健康を維持，増進させることが必要不可欠である．授業を通じて，運動・栄養・休養が健康に与える影響の重大性を理解し，獲得した健康・スポーツ科学の情報を単なる知識として留めるのではなく，日常生活での実践，有意義なスポーツ活動につなげられるようにすることを目標とする．また国際的な大型スポーツイベントが日本国内で続く中，「する」，「見る」，「支える」といった様々なスポーツとの関わり方を学ぶことも目標とする． |
| **教育内容** | 授業前半では日本における健康，体力の現状，ヒトがどのような仕組みで体を動かすことができるのか，様々な観点から学ぶ．<br>授業後半ではトップアスリートの身体の特徴，運動の巧みさの発達，体力トレーニングの原理や，運動によるケガについて学ぶ． |
| **教育方法** | 【この授業は全てオンラインで実施します】<br>スライド，映像を用いたオンデマンドでの講義形式とする．毎時間，講義の映像資料，PDF資料を配布する．講義の終わりには毎回課題（感想，意見，疑問を記す小レポート，小テストなど）に回答してもらう．主にGoogle Classroomを用いて実施する．<br>【フィードバックの方法】<br>課題への回答された内容について、次回の講義時に解説を行う． |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間】授業時間外学習には，レポート試験への取り組み時間も含む．<br>予習：次回の授業内容を把握し，関連する知識，情報を参考書や日々のニュース，報道で入手しておく．<br>復習：配布した資料を熟読，整理し，実生活とのつながりを考え，実践する． |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 永見　智行 | ガイダンス | 授業内容・進め方，成績評価法を把握する． |
| 2 | 永見　智行 | 運動と疾患．健康問題への対策 | 運動によって病気を防げるか．日常の運動量を把握する．健康関連施策，地域社会の取り組み，生涯スポーツを知る． |
| 3 | 永見　智行 | 運動の仕組み1 | 骨格筋の構造と機能について知る． |
| 4 | 永見　智行 | 運動の仕組み2 | 骨格筋の内部構造と，筋力の決定要因を知る． |
| 5 | 永見　智行 | 運動の仕組み3 | 骨の構造と機能，骨格筋と関節の動きの関連を知る． |
| 6 | 永見　智行 | 体力トレーニング１ | トレーニングの原理原則，レジスタンストレーニングの効果と方法について知る． |
| 7 | 永見　智行 | 運動の仕組み4 | 運動に必要となるエネルギーの供給機構について知る． |
| 8 | 永見　智行 | 体力トレーニング２ | エネルギーの基となる栄養素と，脂肪を燃焼させる持久系トレーニングの効果と方法について知る． |
| 9 | 永見　智行 | 体力トレーニング３，運動の仕組み５ | どんな順序でトレーニングを進めると効果的か知る．運動スキルに関連する脳神経系の基礎を知る． |
| 10 | 永見　智行 | 運動スキル | どう運動を学習し獲得するか，練習の効果を知る． |
| 11 | 永見　智行 | トップアスリートの身体 | トップアスリートとそうでない人の運動，身体はどう違うか，同じか．様々な競技の特性を知る． |
| 12 | 永見　智行 | 運動とケガ | 障害・外傷の発生機序と予防・リハビリテーション法について知る． |
| 13 | 永見　智行 | 心肺蘇生法・応急処置 | スポーツや日常における，いざという時の対処を学ぶ． |
| 14 | 永見　智行 | 競技スポーツにおけるデータの活用 | 近年の競技スポーツの現場で，身体やボールの動きなどの情報がどのように取得され，活用されているか知る． |
| 15 | 永見　智行 | まとめ | まとめ．個別相談にも対応する． |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1. 日本における健康，体力の現状，改善に向けた取り組みを理解する．<br>2. ヒトの身体の構造や機能，運動の仕組みを理解し，説明できる．<br>3. 自分のみならず，周囲の人々の健康増進，様々な立場でのスポーツ参加に向けた取り組みを行える． |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>授業中に毎回実施する課題と，筆記試験により総合的に評価する．課題の未提出のほか，授業への積極的な参加態度が見られない場合は減点とする．<br>授業内課題30%：期末筆記試験70% |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | スポーツと健康は密接な関係にあります．健康や体力，運動に関する正しい情報，知識を持ち，またスポーツの奥深さを知ることで，自分や他者の生涯に渡る健康増進に寄与できるようにしましょう． |
| **実務経験の授業への活用方法** | プロ野球球団にてデータ・映像分析に従事した経験を活かし，その現状について取り扱う． |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | 新・スポーツ生理学 | 村岡功 | 市村出版 | 3,240円 |
| 参考書 | これからの健康とスポーツの科学 第４版 | 安部孝，琉子友男 | 講談社 | 2,592円 |
| 参考書 | 教養としてのスポーツ科学　改訂版 | 早稲田大学スポーツ科学学術院編 | 大修館書店 | 2,376円 |

# 健康の科学B

Health Science B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし（PT専攻を除く）　火１／［自由］PT専攻　火１
**科目責任者：** 池村　司
**担　当　者：** 池村　司
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-HH02／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 健康を決定する因子は様々あり，単に疾病が存在しないことを健康と定義しない．健康は人々の生活の質に関わる重要なテーマであるが，複雑な一面を持ち，疾病の有無以外の因子を含めて総合的に判断する必要がある．本授業では科学的根拠に基づいた健康に関連する知識を学び，健康について深い理解を促すことを目的とする．その中で運動や栄養，休養といった生活習慣が健康に及ぼす影響や，健康の維持増進を図るための適切な生活習慣についてを学び，得た知識を自身または他者の健康の維持増進のために応用できるようになることも本授業の目的とする． |
| **教育内容** | 授業初期は，健康の概念や健康問題といった健康に関する理解を深めるための知識を扱う．中期は休養・運動・栄養といった生活習慣と健康との関わりを理解するための基礎知識を扱う．後期は生活習慣と健康の関係や，健康の維持増進を目的とした生活習慣についての内容を扱う． |
| **教育方法** | 【この授業は全てオンラインで実施します】<br>すべての授業をオンライン形式で行う．google classroomを通して資料の配布や課題の提示・提出を行う．資料内容を基に学習し，学習後，リアクションペーパーやミニテスト等の課題に取り組む．不明な点はgoogle classroomのコメント機能やメールを利用して担当教員へ質問をする．ミニテストについては，採点後に解説を付けてフィードバックする．コメントシートについては，全体の理解を促すような質問や疑問をピックアップし，回答集を作成する．回答集はクラスルームの授業資料に格納することで，全体に向けてフィードバックする．<br>【フィードバックの方法】<br>クラスルームの授業資料に格納.<br>【Google Classroomクラスコード】tzo3t5i |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：シラバスにて授業内容を事前に確認し，インターネットや書籍を利用して学習内容に沿った知識を調べる．<br>復習：授業で得た知識をノート等に整理し，実生活に応用する． |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 池村　司 | オリエンテーション | 本講義の目的と概要や諸注意事項，成績評価方法等の説明を行う． |
| 2 | 池村　司 | 健康の概念 | 過去から現在までの健康の概念の変容の過程を把握する．現代が抱える健康問題について解説する． |
| 3 | 池村　司 | 健康問題への対策 | 健康問題を解決するための政策を解説する．地域社会が抱える健康問題とその取り組みについての説明を加える． |
| 4 | 池村　司 | 人体の構造と機能（筋系） | 健康科学分野に関連の深い器官系として，筋系の構造と機能について解説する． |
| 5 | 池村　司 | 人体の構造と機能（心臓血管系） | 健康科学分野に関連の深い器官系として，心臓血管系の構造と機能について解説する． |
| 6 | 池村　司 | 発育発達と老化 | 今後生じるであろうライフイベント（出産，子育て，介護等）に対応できるよう，人体が如何にして成長し，老化するのかを解説する． |
| 7 | 池村　司 | 自身の健康状態の評価法 | 自身の健康状態を評価する方法について学ぶ． |
| 8 | 池村　司 | 生活習慣病 | 日本人の死因上位を占める生活習慣病に関する理解を深める． |
| 9 | 池村　司 | 運動と健康① | 運動と健康の関係について解説する． |
| 10 | 池村　司 | 運動と健康② | 健康維持・増進のための運動とはどのようなものかを理解する．また，ライフスタイルや健康状態を基に，個々に適した運動内容の選択方法について学ぶ． |
| 11 | 池村　司 | 栄養と健康① | 栄養と健康の関係について解説する． |
| 12 | 池村　司 | 栄養と健康② | 健康維持・増進のための栄養摂取について解説する．自身の食習慣を評価する方法を学ぶ． |
| 13 | 池村　司 | 休養と健康 | ストレッサーとストレス反応についての知識と，休養を含むストレッサーに対する対処法について理解を深める． |
| 14 | 池村　司 | 飲酒・喫煙・薬物と健康 | 飲酒・喫煙・薬物が心身へ及ぼす影響についての理解を深める． |
| 15 | 池村　司 | まとめ | 前回までの授業内容を復習し，疑問や質問について個別に対応する． |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1）現代における健康の捉え方や，健康問題の現状と改善への取り組みを説明できる．<br>2）生活習慣と健康との関りについて理解し，適切な生活習慣について説明できる．<br>3）自己の健康状態や生活習慣を振り返り，改善することができる． |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：<br>ミニテスト等の毎回の課題を定期試験の代わりとして評価する．成績は，課題(70%)，授業態度(30%)を含めて総合的に判断する．また，課題提出の有無で出欠を確認する． |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 健康に関する幅広い知識を得ること以外にも，ここで学んだ知識を実生活に応用することを意識して授業に臨んで下さい． |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | 健康・運動・スポーツの科学 | 九州大学健康科学センター | 大修館書店 | 1,980円 |
| **参考書** | 人体の構造と機能 | エレイン N. マリーブ | 医学書院 | 5,500円 |
| **参考書** | 新しい栄養学 | 坂本清・堀口美恵子 | 三共出版 | 2,200円 |
| **参考書** | 運動生理学 | 池上晴夫 | 朝倉書店 | 3,520円 |

# 健康の科学C

Health Science C

**科 目 概 要 ：** 2025年度　前期／2単位
**授 業 対 象 ：** 指定なし（PT専攻を除く）　木１／［必修］PT専攻　木１
**科目責任者 ：** 北川　淳
**担　当　者 ：** 北川　淳／山田　裕子※／今井　雅世※／森岡　優子※／梶山　和美※／渡邊　裕之※／池村　司／吉永　龍起／古川　史也
**備　　考 ：** 科目ナンバリング：L101-HH03／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 心身ともに健康な学生生活を送るための知識を身につける。「心の健康」，「栄養」，「寿命」など健康に関する身近な内容や，「食資源」，「災害時の医療体制」など健康を取り巻く環境について理解する。さらに，運動（競技スポーツも含む）を継続する上で重要な「スポーツ外傷」や「スポーツ傷害」に関する知識についても身につける。これらを通して豊かな健康の維持・向上ができるように「運動・栄養・休養」に関する基礎的な知識を習得することをめざす。 |
| **教育内容** | 人間の生体機構やストレス対応，運動の持つ様々な効果や食事の大切さ，トレーニング方法などについて医療系，健康科学，運動生理学などを専門とする教員がオムニバス形式で講義する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全てオンラインで実施します】<br>各教員が1週または2週にわたり講義形式の動画配信（Google Classroomによる)を行う。<br>1週の講義の場合は，動画視聴後にレポート提出や小テストに解答する。<br>2週の講義の場合は，1週目にリアクションペーパーや課題を提出し，2週目にレポート提出や小テストに解答する。<br>【フィードバックの方法】<br>担当教員によって以下のいずれかの方法によって行う。<br>①1週目に課題を設定し，翌週に代表的な回答例について解説を行う。<br>②2週目に授業内テストを実施し，翌週に模範解答を提示する。<br>③提出したリアクションペーパーに対しては，翌週に主なコメント（5～10件程度）に対応する。<br>【Google Classroomクラスコード】pe6g43j |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間以外に必要な予習・復習時間：60時間（試験のための学習時間も含む）】<br>予習：ガイダンス時に各担当者の講義概要について説明する。<br>　　各講義前には内容を把握するとともに用語の意味を理解しておくこと。<br>復習：授業内容ノートに確認しておくこと。また繰り返しの視聴により理解を深める。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 北川　淳 | ガイダンス（日付：4/10） | 講義内容，展開の仕方，評価方法など授業全般について説明を行う。その後、健康の概念について解説する。 |
| 2 | 山田　裕子 | ストレスと心の健康（4/17） | 適応と不適応の違いやストレス対処方略について。 |
| 3 | 山田　裕子 | 人間関係とコミュニケーション（4/24） | 場面や立場の違いを考慮した望ましいコミュニケーションについて。 |
| 4 | 今井　雅世 | 栄養学概論：日本人の食生活の現状と望ましい栄養のとり方（5/8） | 国民栄養調査の結果と日本人の食事摂取基準および一人暮らしの食事の工夫。 |
| 5 | 森岡　優子 | 栄養学応用：生涯にわたる食事の重要性（5/15） | 医療職として修得すべき内容の一つとして，生活習慣病予防の食事療法などについて解説する。 |
| 6 | 梶山　和美 | 日本の災害医療体制について（5/22） | 日本の災害医療体制および自助，共助，公助の必要性について。 |
| 7 | 梶山　和美 | 災害時のチーム医療について（5/29） | 災害時のチーム医療と救援者のメンタルヘルスについて。 |
| 8 | 吉永　龍起 | ストレスと寿命（6/5） | 老化と寿命決定の過程におけるストレスの多様な働きを学ぶ。 |
| 9 | 古川　史也 | 魚類における浸透圧とイオン（6/12） | 魚類の体内におけるイオンおよび浸透圧調節機構について学ぶ。 |
| 10 | 渡邊　裕之 | スポーツ傷害とは（6/19） | スポーツ外傷の分類とスポーツ外傷発生のメカニズムについて解説する。 |
| 11 | 渡邊　裕之 | スポーツ傷害の予防（6/26） | スポーツ傷害予防のための戦略と予防を実施した際の効果について解説する。 |
| 12 | 池村　司 | 運動と健康（有酸素運動）（7/3） | 有酸素運動が心身に及ぼす効果について解説する。 |
| 13 | 池村　司 | 運動と健康（無酸素運動と身体活動）（7/10） | 無酸素運動および，生活行動による身体活動が心身に及ぼす効果について解説する。 |
| 14 | 北川　淳 | 骨粗鬆症（7/17） | 女性に多く発症する骨粗鬆症に関して，骨量の加齢変化，骨代謝，予防法等について解説する。 |
| 15 | 北川　淳 | まとめ（7/31） | 授業全体の総括的なまとめを行う。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①自分自身の健康やその管理方法について理解できる。<br>②健康とスポーツの科学，スポーツ医学などの基礎知識を習得する。<br>③長い人生を心身ともに健康で過ごして行くために実践的な知識を教養として身につける。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>　　各教員のレポート課題や授業内テスト（90%）とリアクションペーパー（10%）で総合的に評価する。<br>評価基準：レポート課題は，該当授業の要点を的確に把握しているかを基準に評価する。<br>　　授業内テストは，設問に対する回答を採点して評価する。<br>なお，授業内テストの未受講やレポート未提出，リアクションペーパー未提出は欠席扱いとして減点とする。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 自己の健康について興味がある，また健康に関する幅広い知識を習得したい人は必見です。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 山田裕子：学生相談室における臨床心理士としての経験を踏まえ、大学入学後の新しい環境下でのストレス対処法や人間関係の築き方について概説する。<br>今井雅世・森岡優子：病院での管理栄養士としての経験を踏まえ、一人暮らしの栄養に関する注意点や医療従事者として最低限必要な知識について概説する。<br>梶山和美：病院での看護師としての経験を踏まえ、災害発生時の医療体制や初動対応などについて概説する。<br>渡邊裕之：病院での理学療法士としての経験を踏まえ、スポーツ傷害ついて概説する。 |

# 健康の科学C
Health Science C

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし（PT専攻を除く）　木１／［必修］PT専攻　木１
**科目責任者：** 北川　淳
**担当者：** 北川　淳／石塚　昌保※／今井　雅世※／森岡　優子※／梶山　和美※／渡邊　裕之※／永見　智行／吉永　龍起／古川　史也
**備考：** 科目ナンバリング：L101-HH03／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 心身ともに健康な学生生活を送るための知識を身につける。「心の健康」，「栄養」，「寿命」など健康に関する身近な内容や，「食資源」，「災害時の医療体制」など健康を取り巻く環境について理解する。さらに，運動（競技スポーツも含む）を継続する上で重要な「スポーツ障害・スポーツ外傷」，「骨格筋の役割」，「トレーニング方法」に関する知識についても身につける。豊かな健康の維持・向上ができるように「運動・栄養・休養」に関する基礎的な知識を習得することを目指す。 |
| **教育内容** | 人間の生体機構やストレス対応，運動の持つ様々な効果や食事の大切さ，トレーニング方法など医療系，健康科学，運動生理学などを専門とする教員がオムニバス形式で講義する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全てオンラインで実施します】<br>各教員が1週または2週にわたり講義形式の動画配信（Google Classroomによる)を行う。<br>1週の講義の場合は，動画視聴後にレポート提出や小テストに解答する。<br>2週の講義の場合は，1週目にリアクションペーパーや課題を提出し，2週目にレポート提出や小テストに解答する。<br>【フィードバックの方法】<br>担当教員によって以下のいずれかの方法によって行う。<br>①1週目に課題を設定し，翌週に代表的な回答例について解説を行う。<br>②2週目に授業内テストを実施し，翌週に模範解答を提示する。<br>③提出したリアクションペーパーに対しては，翌週に主なコメント（5～10件程度）に対応する。<br>【Google Classroomクラスコード】v64ikq3 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間以外に必要な予習・復習時間：60時間（試験のための学習時間も含む）】<br>予習：ガイダンス時に各担当者の講義概要について説明する。<br>　　各講義前には内容を把握するとともに用語の意味を理解しておくこと。<br>復習：授業内容ノートを確認しておくこと。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 北川　淳 | ガイダンス（日付：9/11） | 講義内容，展開の仕方，評価方法など授業全般について。<br>健康の概念について。 |
| 2 | 石塚　昌保 | ストレスと心の健康（9/18） | 適応と不適応の違いやストレス対処方略について。 |
| 3 | 石塚　昌保 | 人間関係とコミュニケーション（9/25） | 場面や立場の違いを考慮した望ましいコミュニケーションについて。 |
| 4 | 今井　雅世 | 栄養学概論：日本人の食生活の現状と望ましい栄養のとり方（10/2） | 国民栄養調査の結果と日本人の食事摂取基準および一人暮らしの食事の工夫。 |
| 5 | 森岡　優子 | 栄養学応用：生涯にわたる食事の重要性（10/9） | 医療職として修得すべき内容の一つとして，生活習慣病予防の食事療法などについて解説する。 |
| 6 | 吉永　龍起 | ストレスと寿命（10/16） | 老化と寿命決定の過程におけるストレスの多様な働きを学ぶ。 |
| 7 | 古川　史也 | 魚類における浸透圧とイオン（10/23） | 魚類の体内におけるイオンおよび浸透圧調節機構について学ぶ。 |
| 8 | 梶山　和美 | 日本の災害医療体制について（10/30） | 日本の災害医療体制および自助，共助，公助の必要性について。 |
| 9 | 梶山　和美 | 災害時のチーム医療について（11/6） | 災害時のチーム医療と救援者のメンタルヘルスについて。 |
| 10 | 渡邊　裕之 | スポーツ傷害とは（11/13） | スポーツ外傷の分類とスポーツ外傷発生のメカニズムについて解説する。 |
| 11 | 渡邊　裕之 | スポーツ傷害の予防（11/20） | スポーツ傷害予防のための戦略と予防を実施した際の効果について解説する。 |
| 12 | 永見　智行 | スポーツと骨格筋（11/27） | 人の運動を司る骨格筋の構造・機能を知る。 |
| 13 | 永見　智行 | 体力トレーニング（12/4） | トレーニングの原理原則、種類や効果を知る。 |
| 14 | 北川　淳 | 骨粗鬆症（12/11） | 女性に多く発症する骨粗鬆症に関して，骨量の加齢変化，骨代謝，予防法について解説する。 |
| 15 | 北川　淳 | まとめ（1/8） | 授業全体の総括的なまとめを行う。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①自分自身の健康やその管理方法について理解できる。<br>②健康とスポーツの科学，スポーツ医学などの基礎知識を習得する。<br>③長い人生を心身ともに健康で過ごして行くために実践的な知識を教養として身につける。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>　　各教員のレポート課題または授業内テスト（90%）とリアクションペーパー（10%）で総合的に評価する。<br>評価基準：レポート課題は，該当授業の要点を的確に把握しているかを基準に評価する。<br>　　授業内テストは，設問に対する回答を採点して評価する。<br>なお，授業内テストの未受講やレポート未提出，リアクションペーパー未提出は欠席扱いとして減点とする。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 自己の健康について興味がある，また健康に関する幅広い知識を習得したい人は必見です。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 石塚昌保：学生相談室における臨床心理士としての経験を踏まえ、大学入学後の新しい環境下でのストレス対処法や人間関係の築き方について概説する。<br>今井雅世・森岡優子：病院での管理栄養士としての経験を踏まえ、一人暮らしの栄養に関する注意点や医療従事者として最低限必要な知識について概説する。<br>梶山和美：病院での看護師としての経験を踏まえ、災害発生時の医療体制や初動対応などについて概説する。<br>渡邊裕之：病院での理学療法士としての経験を踏まえ、スポーツ傷害ついて概説する。 |

# 健康とスポーツ演習

## 【授業形態】

● 健康とスポーツ演習は、「対面とオンラインの併用」または「全て対面」の形式で行われる。

| 科目名 | 授業期間 | 授業内容 |
|---|---|---|
| 健康とスポーツ演習 | 通年 | 授業は学内の施設を使用し、講義、各種スポーツ（球技・軽スポーツなど）を展開する。単位は通年（前・後期）履修して２単位とする。 |

※「健康とスポーツ演習」を履修する場合、医学部以外の学部では指定枠はないので、表１の開講曜日時限の中から１つ、希望の曜日時限を選択すること。

※医学部（M）のみ水曜４限の学部指定枠になっている（表１参照）。

## 【科目と担当者(定員)】

**表１〈健康とスポーツ演習〉**

| 曜日 | ２限 | ３限 | ４限 |
|---|---|---|---|
| 月 | 永見智行<br>池村　司 | 永見智行<br>板橋クリストファーマリオ | 安倍希美<br>板橋クリストファーマリオ |
| 火 | 安倍希美<br>池村　司<br>板橋クリストファーマリオ | | 安倍希美<br>池村　司 |
| 水 | 北川　淳<br>永見智行<br>池村　司 | | **【医学部指定枠】**<br>北川　淳<br>永見智行<br>池村　司 |
| 木 | 北川　淳<br>安倍希美<br>西岡卓哉 | 北川　淳<br>西岡卓哉 | 西岡卓哉 |
| 金 | 北川　淳<br>永見智行<br>板橋クリストファーマリオ | 板橋クリストファーマリオ<br>和田太一 | 阪田俊輔<br>和田太一 |

各定員は42名程度（教職含む）。

※「健康とスポーツ演習」の履修希望者は、オリエンテーション期間中に抽選システムによる抽選への申込みが必要である。詳細は授業情報サイト掲出の動画による科目説明にて指示がある。

※医学部指定枠では抽選は行わず、授業クラスは人数や男女比等を考慮した上で決定する。

※初回授業は、「一般教育部　授業情報サイト」に掲載される「初回授業実施場所一覧」を確認の上、指定された講義室に集合すること（更衣不要）。

## 【総合的な留意事項】

### 1. 授業展開について

①天候や地面の状況等により、授業内容が変更になることがある。
②授業で使用する用具（各種ラケット･ソフトボール用具･ゴルフクラブなど全て）は、健康科学単位で準備している。但し、私物を持参して使用することもできる。
③各種目の実施場所は、室内種目（バレーボール･バスケットボール･バドミントン・卓球など）は総合体育館。屋外種目（テニス･ソフトボール･サッカー･ゴルフなど）は第一総合グラウンドで行うが、雨天時は総合体育館又は講義室等を使用して行うので、その日の連絡事項（掲示）に従うこと。
④必ず健康診断を受診すること。

### 2. 運動着について

①授業には運動着（個人の常識ある判断を尊重する）で出席すること。
②寒暖等の気象変化による服装は、各担当教員の指示を受けること。
③施設管理上の面から、総合体育館使用の時は室内専用シューズとし、土足厳禁とする。
④屋外種目実施の場合は、テニスが可能な底が平らなシューズを準備すること。

### 3. この科目の履修方法について

①４月1日に公開する動画で行われる各学部別の「科目説明」で、健康科学単位に関するガイダンスを受ける。
②この科目を履修したいが支障のある人は事前に健康科学単位に相談すること。
③「健康とスポーツ演習」の履修を希望する場合は、ガイダンスでの指示を念頭に、各自で時間割表と学修要項（シラバス）を熟読・理解し、履修可能な時限と授業内容を確認すること。そしてオリエンテーション期間中に抽選システムによる抽選に申し込むこと（第３希望まで入力可能）。希望者が多い場合には抽選で決定する。
④抽選を行った場合、履修可否の結果は初回の授業が開始するまでに学部・学科毎に抽選システム上に掲載されるので、よく確認すること。なお定員に余裕のある時限が生じた際には、第2回抽選が行われる場合があるので、希望者は募集状況を確認し迅速に行動すること。

**【体育施設･運動用具など使用上の注意】**

(1) 全て、使用前よりも良好な状態にしておくように心掛ける。
（コート整備・用具整頓・掃除など）
(2) 床･コート･グラウンド面の保全や安全性のため、運動靴を必ず履く。
また、コート･グラウンドの表面が軟弱な場合は使用しない。
(3) 体育館･コート･グラウンド内では喫煙、飲食を禁止する。
(4) 更衣室･シャワー･トイレ等は、汚さないように留意して使用する。
(5) 盗難防止のために更衣室内には貴重品等は放置せず、授業実施場所へ持参するなど、自己管理を原則とする。

# 健康とスポーツ演習（積極的に体を動かそう!）

Health Sports Seminar

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位
**授業対象：** 指定なし（M学部，PT専攻を除く）　水２／［自由］PT専攻　水２
**科目責任者：** 北川　淳
**担当者：** 北川　淳
**備考：** 科目ナンバリング：L104-HH04／授業形態：実習・実技

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 運動が不足した生活は，肥満・高血圧・糖尿病・ガンなど様々な疾患を引き起こす。したがって，学生時代に運動習慣を身につけ，生涯にわたり運動を継続してゆくことは，長い人生を健康に過ごす上で重要である。<br>本科目では，スポーツを通して健康と体力の増進・運動技能の向上・運動習慣の形成，自己の健康管理能力の向上を図り，生涯スポーツへの契機を修得する。また，同じ種目を選択したメンバーと円滑なコミュニケーションを保つための態度や能力を身につける。 |
| **教育内容** | 健康とスポーツとの関係を科学的に理解するために「対面による演習2回（体を動かす）とオンライン1回（基本動作の動画説明や健康・スポーツ科学に関する動画学習など）」をローテーションで行う。<br>対面による演習授業は体育館，グラウンド，テニスコートにて行う。集団スポーツであるソフトボール，バレーボールでは，基本技術の指導後，試合（ゲーム）の時間を多く取り入れ，その中で適切なプレーができるよう指導する。テニス，バドミントンの授業では，基本技術を活用して主にダブルスのゲームを楽しむ。<br>オンラインでは，生涯にわたって健康で過ごすための運動生理学的知識を体系的に解説する。 |
| **教育方法** | 【この授業は対面とオンラインを併用して実施します】<br>バレーボールやソフトボールでは男女別または混合チームでの練習やゲームを予定している。<br>硬式テニス，バドミントンではボールやシャトルの各種打ち方を動画による説明と演習で実践し，基本練習とゲームを行う。<br>屋外種目の雨天時や夏期高温時（30℃越）には，体育館（トレーニングルームや武道場）への変更もありうる。<br>【フィードバックの方法】<br>各種目では基本練習中やゲーム中に，状況に応じて個別やチームに指導（アドバイスや見本を示す）を行う双方向型の授業を行う。<br>オンライン授業の時は，内容に関する課題（リアクションペーパー）を提出する。代表的な提出内容を数例（5件程度）まとめた形で全体に対してフィードバックする。<br>【Google Classroomクラスコード】<br>授業時に教員から案内します。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間以外に必要な予習・復習時間：30時間】<br>授業以外の日常生活の中でも，トレーニングルームを利用するなど積極的に身体を動かし，体力向上を目指す時間等も含む。<br>予習：各種目のルール等（必要に応じてプリント配布）を確認する。<br>オンライン講義の場合は「各授業内容記載の語句」を調べておく。<br>復習：演習内容をノートにまとめておくこと。オンライン授業では繰り返しの視聴により理解を深める。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 北川　淳 | ガイダンス（日付：4/9）<br>【対面】 | 教室で一年間の授業内容の説明と諸注意を行い，その後全員で自己紹介を行ってもらいます。更衣不要。 |
| 2 | 北川　淳 | バレーボール①（4/16）<br>【対面】 | ボールに慣れる（2人一組でオーバーハンド・アンダーハンドレシーブ）。サーブ練習後，ゲームを行う。 |
| 3 | 北川　淳 | 運動に関する科学的知識①（4/23）<br>【ｵﾝﾗｲﾝ】 | スポーツ種目の動作には”運動連鎖”という「複数の関節を連動させる動作」が重要である。この仕組みを知っておくと，演習で行う各種目や部活動を行う上で役立つ。そこで，オンライン授業1回目に，動画による動作分析をもとに解説する。 |
| 4 | 北川　淳 | トレーニングルーム利用説明（5/7）<br>【対面】 | 総合体育館1階には設備が充実したトレーニングルームがある。トレーニング（有酸素トレーニングや筋力トレーニング）機器の利用方法について指導する。 |
| 5 | 北川　淳 | バレーボール②（5/14）<br>【対面】 | 攻撃方法の基本練習（トス，アタック，サーブなど）後ゲームを行い，これらのプレーを実践してみる。 |
| 6 | 北川　淳 | 健康に関する科学的知識（5/21）<br>【ｵﾝﾗｲﾝ】 | 健康の定義やダイエットの基礎知識（1ヶ月で1kg痩せるには）などについて解説する。 |
| 7 | 北川　淳 | バレーボール③（5/28）<br>【対面】 | 基本練習後ゲームを行い，3段攻撃を目指す。 |
| 8 | 北川　淳 | バドミントン①（6/4）<br>【対面】 | 各種ショット（ドライブ，ハイクリア，ドロップ，スマッシュ，ヘアピン）を指導する。これらのショットを用いて，コート半面でシングルス（1対1の試合）を行う。 |
| 9 | 北川　淳 | 運動に関する科学的知識②（6/11）<br>【ｵﾝﾗｲﾝ】 | 運動時のエネルギー供給や筋線維組成（短距離タイプかマラソンタイプか）について説明する。 |
| 10 | 北川　淳 | バドミントン②（6/18）<br>【対面】 | 各種ショットの基本練習，サーブ練習を行った後，ダブルスゲームのルールを説明する。ルールを理解した後にダブルスゲームを行う。 |
| 11 | 北川　淳 | バドミントン③（6/25）<br>【対面】 | 基本練習後ダブルスゲームを行い，ゲーム中に各種ショットができることを目指す。 |
| 12 | 北川　淳 | 運動に関する科学的知識③（7/2）<br>【ｵﾝﾗｲﾝ】 | 骨格筋の収縮様式について解説する。筋トレのコツ，筋肉痛や病気の予防に役立てる。 |
| 13 | 北川　淳 | ソフトボール①（7/9）<br>【対面】 | キャッチボール、トスバッティング、ノックなどを行いボールに慣れる。 |
| 14 | 北川　淳 | ソフトボール②（7/16）<br>【対面】 | 基本練習後，チーム編成を行いゲームを行う。<br>（男女別を予定） |
| 15 | 北川　淳 | 個別指導（7/30）<br>【対面】 | 必要に応じて，個別指導や質問等の対応を行う。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 16 | 北川　淳 | 後期はじまり<br>運動に関する科学的知識④（9/10）<br>【ｵﾝﾗｲﾝ】 | 筋肥大のメカニズム，筋トレと有酸素運動の順番が違うと？<br>病気の予防に対する運動の効果について解説する。 |
| 17 | 北川　淳 | ソフトボール③（9/17）<br>【対面】 | 受講者全体のレベルや男女比を考慮した上で，男女別または男女混合でゲームを行う。 |
| 18 | 北川　淳 | グランド種目選択（9/24）<br>【対面】 | ソフトボール，サッカー，グランドゴルフなどから選択する。 |
| 19 | 北川　淳 | 運動に関する科学的知識⑤（10/1）<br>【ｵﾝﾗｲﾝ】 | 心拍数を用いた運動強度の考え方や最大酸素摂取量と運動種目との関係について説明する。 |
| 20 | 北川　淳 | グランド種目選択（10/8）<br>【対面】 | ソフトボール，サッカー，グランドゴルフなどから選択する。 |
| 21 | 北川　淳 | 硬式テニス①（10/15）<br>【対面】 | ラケットの持ち方，構え方，タイミングの取り方などを説明することから始める。硬式のテニスボールに慣れるため，ショートテニス（距離を短くしてペアで打つ）から始まり，簡易ゲームを行う。 |
| 22 | 北川　淳 | 運動に関する科学的知識⑥（10/22）<br>【ｵﾝﾗｲﾝ】 | 肥満のタイプや体脂肪率の測定方法，「隠れ肥満，細マッチョ」等について科学的に解説する。 |
| 23 | 北川　淳 | 硬式テニス②（10/29）<br>【対面】 | 基本技術のレベルアップ。ショートテニスとボレーが継続することを目指す。次にサーブを練習し，シングルス（1対1）ゲームを体験する。ダブルスゲームのルール，審判法，運営法の説明を行った後，ダブルスゲームを体験する。 |
| 24 | 北川　淳 | 硬式テニス③（11/12）<br>【対面】 | 基本練習後，各コートに3～4ペア配置し，ダブルスゲームを行う。 |
| 25 | 北川　淳 | 運動に関する科学的知識⑦（11/19）<br>【ｵﾝﾗｲﾝ】 | 体力が「ある，ない」とは？<br>「体力の正体（定義・種類）」や「健康と体力との関係」について解説する。 |
| 26 | 北川　淳 | 硬式テニス④（11/26）<br>【対面】 | 男女でペアを組む，テニス経験者と初心者がペアを組むなどして，様々なレベルの人たちとテニスが楽しめることを体験する。 |
| 27 | 北川　淳 | 屋外種目選択（12/3）<br>【対面】 | 硬式テニスまたはグラウンドゴルフ（木製のクラブとボールを用い，芝生グラウンドに設置したコースを廻る簡易ゴルフ）を行う。 |
| 28 | 北川　淳 | 運動に関する科学的知識⑧（12/10）<br>【ｵﾝﾗｲﾝ】 | 自宅で実施可能なトレーニングについて解説する。 |
| 29 | 北川　淳 | 体育館アリーナ種目<br>（12/17）【対面】 | バレーボール，バドミントン，バスケットボールなどから選択する。 |
| 30 | 北川　淳 | 個別指導（1/7）<br>【対面】 | 必要に応じて，個別指導や質問等の対応を行う。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | バレーボール：サーブに対するレシーブがコントロールできる。スパイクを打つことができる。<br>バドミントン：サーブと基本ショットが安定して打てる。スマッシュが決まる。<br>硬式テニス：ストロークやボレーが5往復程度連続してできる。<br>ソフトボール：三振をしない。ゴロの捕球やスローイングが安定してできる。フライをキャッチできる。<br>これら技術的な目標の他に，協調性やリーダーシップを発揮し，生涯にわたる運動の重要性を理解することができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>各種目の進歩度（30%），受講態度（40%），チームやパートナーに対する貢献度（30%：実施種目を過去部活動で行ってきた者は到達目標に達しているので）を総合して評価する。なお，欠席は減点とする。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 受験勉強中は運動する機会が無かったと思いますので，スポーツの楽しさや爽快感を再確認し，生涯にわたって継続できる運動（種目）を見つけてください。 |

**教員免許取得のための選択科目**

| | |
|---|---|
| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 |

# 健康とスポーツ演習（～動きを作ろう、仲間と作ろう!～）

Health Sports Seminar

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位
**授業対象：** 指定なし（M学部，PT専攻を除く）　火２／［自由］PT専攻　火２
**科目責任者：** 安倍　希美
**担当者：** 安倍　希美※
**備考：** 科目ナンバリング：L104-HH04／授業形態：実習・実技

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 人生100年時代の到来と言われ、ギリギリまで自力で動き認知症に負けず健康寿命を伸ばすことは重要です。本授業では簡単な手話も契機に「様々な仲間と共に動きを作る」過程に焦点を当てます。各スポーツを示す手話はその動きの特徴を端的に捕えています。またスポーツの成立背景からスポーツ間にも様々な関係があり、有効的な動作の基本型を「看破」できれば様々に適応可能で、これは過去の経験から動作を予測する新しい回路の形成を促す事に繋がります。以上より現在のみならず将来の健康にも思いを巡らせ、豊かな人間性を醸成していく事を目指します。 |
| **教育内容** | LMS（学習支援ソフト）を使用したオンデマンドのオンラインと対面を併用したハイブリッド形式、原則的にはオンライン1回と対面2回をセットとし1つのスポーツ種目を学習　①オンライン：各種目の基礎知識・基本動作、動画を参考に素振りや手話によるイメージ形成、常時視聴可能な医学映像教育センター配信映像を利用したテーマ学習等、知識理解と動作イメージの確認の為の「（教員からの）質問（への）回答」　②対面：オンラインで習得した知識とイメージを基盤とし、多様な参加者との交流の中でスキル獲得とイメージ定着を体験的・効果的に目指し、その過程を授業後の「質問回答」で確認　③後期末に「レポート」を作成し動作と健康的生活の獲得について俯瞰的に考察 |
| **教育方法** | 【この授業は対面とオンラインを併用して実施します】<br>①オンライン：LMSに提示する資料・動画等は週末頃迄に受講　②対面：全体・グループ・レベル別等の段階的学習<br>③「質問回答」は次回授業迄に、「全体連絡」や「学生からの質問」はオンラインを主として対面でも対応<br>【フィードバックの方法】教員は必要に応じ動きの出来栄え等にコメントし、「質問回答」には後日解説を提示<br>【Google Classroomクラスコード】Webシラバス、一般教育部授業情報サイトに記載 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】<br>予習：常に周囲の人・競技選手や動物の動き等に興味を持ち観察、基本動作の素振り・イメトレ等の恒常的実施<br>復習：「質問回答」の確認、成功と失敗の峻別と理由、今後の課題の数値化・文字化、後期末に「レポート」作成 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 安倍　希美 | ガイダンス　【対面】<br>（L1・L2等の教室） | 自己紹介、内容・方法・評価等の説明、怪我・”盗難”注意<br>LMS使用法確認のためにスマホかノートパソコン等持参 |
| 2 | 安倍　希美 | 授業と仲間に慣れる　【対面】<br>（体育館2F予定） | 全体：仲間と手話を交え自己紹介しながら軽運動等で交流！<br>怪我予防のために事前に自分で身体を動かしておくこと |
| 3 | 安倍　希美 | バドミントン1　【オンライン】 | 基礎知識：歴史背景・ルール・安全管理、基本技術・練習法、手話、個人練習：姿勢・グリップ・素振り、テーマ学習 |
| 4 | 安倍　希美 | バドミントン2　【対面】 | 全体：素振り、サーブ・ドライブ・クリア・スマッシュ・ドロップ等、ローテーションラリー（シングルス＆ダブルス） |
| 5 | 安倍　希美 | バドミントン3　【対面】 | 全体：素振り・上記ストローク・ローテーションラリー大会 |
| 6 | 安倍　希美 | バレーボール1　【オンライン】 | 基礎知識：（上同様）、個人練習：レシーブ―＆パスの姿勢・サーブの素振り・アタックのイメトレ等、テーマ学習 |
| 7 | 安倍　希美 | バレーボール2　【対面】 | 全体：ドリブル・キャッチボール・スロー＆レシーブ・チェストパス、グループ：円陣パス・ワンバウンドミニゲーム |
| 8 | 安倍　希美 | バレーボール3　【対面】 | グループ（男女合同等）：アンダーレシーブ・オーバーパス・アタック・サーブ、メンバーチェンジをしながら3ゲーム程度 |
| 9 | 安倍　希美 | 卓球・バスケットボール【オンライン】 | 基礎知識、個人練習：姿勢・素振り・イメトレ、テーマ学習 |
| 10 | 安倍　希美 | バスケットボール・種目ローテーション【対面】 | 全体：バスケットボール基礎練習、卓球・バスケットボール・バドミントン等のローテーション、様々な人柄や動きに対応 |
| 11 | 安倍　希美 | 種目ローテーション2　【対面】 | 卓球・バレーボール・バドミントンのローテーションでゲーム |
| 12 | 安倍　希美 | ソフトボール1　【オンライン】 | 基礎知識、個練習人：姿勢・グリップ・素振り、テーマ学習 |
| 13 | 安倍　希美 | ソフトボール2　【対面】 | 基礎練習：キャッチボール（アンダー・オーバー・ゴロ・フライ）・バッティング、グループ：4人→６人程でバッティング |
| 14 | 安倍　希美 | ソフトボール3　【対面】 | グループ（男女合同）：協力して準備運動・基礎練習、ゲーム |
| 15 | 安倍　希美 | 前期の確認・個別指導　【対面】 | 夏休みの生活、評価は後期末に行うので前期末の中間評価は無 |
| 16 | 安倍　希美 | フライングディスク1　【オンライン】 | 基礎知識、個人練習：スナップ・紙皿投げ、テーマ学習 |
| 17 | 安倍　希美 | フライングディスク2　【対面】 | 全体：フォア＆バックハンドでの握り方と投げ方<br>グループ：アルティメット・デイスタンス等のゲーム |
| 18 | 安倍　希美 | ソフトボール4　【対面】 | グループ：仲間と相談＆協力し準備運動・基礎練習、ゲーム |
| 19 | 安倍　希美 | テニス1　【オンライン】 | 基礎知識、個人練習：姿勢・グリップ・素振り、テーマ学習 |
| 20 | 安倍　希美 | テニス（硬式）2　【対面】 | 初心者：素振り・テニスマシン（グラウンドストローク等）<br>経験者：サーブ・ワンバウンドローテーションラリー |
| 21 | 安倍　希美 | テニス（硬式）3　【対面】 | 初心者：素振り・テニスマシン使用（各種ストローク等）<br>経験者：サーブ・ローテーションラリー（単＆複） |
| 22 | 安倍　希美 | 応急手当　【オンライン】 | 心肺蘇生法：乳児・小児・成人・感染症対応、三角巾法、体温異常等、個人練習：ペットボトルでの圧迫練習等、テーマ学習 |
| 23 | 安倍　希美 | テニス（硬式）4　【対面】 | 全体：サーブ・ローテーションラリー、グループ：レベル別等 |
| 24 | 安倍　希美 | 選択種目1　【対面】 | グループ：仲間と相談＆協力して準備運動・基礎練習・ゲーム<br>テニス・ソフトボール・サッカー等 |
| 25 | 安倍　希美 | ゴルフ様スポーツ1　【オンライン】 | ゴルフ、グラウンド・ゴルフ、ターゲットバードゴルフ等の基礎知識、個人練習：姿勢・グリップ・素振り、テーマ学習 |
| 26 | 安倍　希美 | ゴルフ様スポーツ2　【対面】 | グラウンド・ゴルフ～グループ：クラブ・ボールに慣れゲーム<br>ターゲットバードゴルフ～グループ：クラブ・ボールに慣れる |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 27 | 安倍　希美 | 選択種目2　【対面】 | グループ：相談＆協力して準備運動・基礎練習・ゲーム<br>ソフトボール・ドッジボール・ゴルフ様スポーツ等 |
| 28 | 安倍　希美 | ウォーキング1、レポート（A4版半分程度、12月中提出）の確認【オンライン】 | 望ましい姿勢・歩幅・シューズ等、目標設定、スマホでの管理<br>レポート書式：1.タイトル　2.授業内容の要約　3.動き作りの過程　4.考察・感想　5.今後の展望　6.参考 |
| 29 | 安倍　希美 | ウォーキング2、年間の活動について<br>【対面】 | スマホと共にウォーキング、天候が良ければ大学周辺でグリーンスポーツの体験を兼ねる、年間の活動について、お別れ会 |
| 30 | 安倍　希美 | 個別指導　【対面】 | 個別指導・質問対応 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①「オンライン授業」で基礎知識とイメージ形成を「質問回答」での確認を含め自主的に習得する事ができる<br>②「対面授業」で交流スキルを発揮して動きのコツを看破し、その過程を「質問回答」で確認する事ができる<br>③以上の総合的学習より、将来を俯瞰的に展望し健康的な人生模索を含む効果的な「レポート」が作成できる |
| **成績評価の方法と基準** | ①基礎知識の習得と能力に応じた素振りやイメトレ等を「質問回答」も利用して実効的に実現できた（30%）<br>②動きのコツを看破し動き作りに効率的に取り組み、その過程を「質問回答」で確認する事ができた（40%）<br>③有機的な学習より将来に亘る健康的人生へのイメージ形成を含む俯瞰的「レポート」が作成できた（30%）<br>～ 体調不良等で思い通りに授業に参加できなくても、深く気にせずにまずは相談して下さい～ |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 1）運動得意・苦手、几帳面・ずぼら、社交的・ボッチ、多趣味・無趣味など様々なタイプの人が来て下さい！普段は出会えない様々な仲間の様々な動作の中から「動きのコツ」を掴みましょう！　2）動きやすい服装で、室内の時は室内履き、屋外の時は帽子・スニーカー着用　3）天候や地面の状況等により内容・計画の一部を変更する場合は事前に周知します　4）気になる事は遠慮なく相談して下さい<br>～合言葉は「何とかなるだろう、うん！」「運動神経は、ううんどうしようもなく無い」～ |
| **実務経験の授業への活用方法** | 企業の技術室でのアナログ資料をデジタル資料化する実務経験より、生身の人間の周辺にて生じるアナログ資質のデジタル化の可能性・適切性等について、折に触れ実例を示しながら説明し、その概念を学生がレポート・今後の人生において反映させ、物事を捉える視野を拡大できるよう活用する。 |

**教員免許取得のための選択科目**

| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 |
|---|---|

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | 人間であること | 時実利彦 | 岩波新書 | 740円 |
| **参考書** | 動作学事始め　増補第２版 | 大道　等 | 杏林書院 | 4,120円 |
| **参考書** | 使える！スポーツ手話ハンドブック | 「スポーツ関連用語集」編集委員会 | 全日本ろうあ連盟 | 1,300円 |
| **参考書** | 観るまえに読む大修館スポーツルール2025 | 大修館書店編集部 | 大修館書店 | 2,200円 |
| **参考書** | 100歳の美しい脳 | デヴィッド スノウドン (著), 藤井留美 (翻訳) | DHC | 1,600円 |

# 健康とスポーツ演習

Health Sports Seminar

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位
**授業対象：** 指定なし（M学部，PT専攻を除く）　月２／［自由］PT専攻　月２
**科目責任者：** 永見　智行
**担当者：** 永見　智行※
**備考：** 科目ナンバリング：L104-HH04／授業形態：実習・実技

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 生活習慣病を始めとする様々な疾病は運動不足に起因すると言われる．生涯に渡って健康な生活を送るためには，できるだけ早期に運動習慣を身につけ，大学卒業後も運動を継続していくことが重要であろう．これに向けて本授業では，様々な種目を通してスポーツそのものの楽しさ，運動技術の奥深さを改めて理解し，生涯スポーツに取り組む姿勢を身につけることを最大の目標とする．その一環としてニュースポーツ，アダプテッドスポーツも取り入れ，誰もが参加出来るスポーツへの理解を深める．また特にチーム種目では，技術の向上，戦術・戦略の理解に向けて周囲と協力できるコミュニケーション能力を養うことも目標とする． |
| **教育内容** | 複数の個人スポーツ，チームスポーツに取り組む．いずれの種目でも，必要な知識，基礎技術を習得することのみならず，チームメートや相手を尊重し協力してスポーツに取り組む姿勢を身につける．特にチームスポーツでは，編成されたチーム内で互いに教え合い，技術の向上を図れるような環境を提供する． |
| **教育方法** | 【この授業は対面とオンラインを併用して実施します】<br>種目ごとに編成されたチーム・グループ内での基礎練習，チーム対抗のゲームを中心に行う．前期は体育館アリーナを，後期は屋外グラウンドを主に使用した対面授業にて行う．適宜動作映像を撮影し，これを自身が客観的に観察することで動作改善を図る．前期中にはトレーニングルーム利用方法の講習も行う．授業の取り組みを振り返り，毎回のまとめをGoogle Classroomから提出する．<br>感染症への対策として，更衣中や運動中の密集・密接・密閉を避けるとともに，授業前後での手洗い，手指および用具の消毒を，また熱中症等への対策として，休憩，水分補給時間の確保を徹底する．<br>【フィードバックの方法】<br>毎回の振り返りで提出された内容のうち，特徴的な見解や誤解について次回の授業でコメントする．また授業内で撮影する映像を用いて，身体動作やチームのフォーメーションの良し悪しなどを適宜解説する． |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】<br>予習：各種目のルールを把握し，未経験の種目はそのプレーの様子をインターネット上の映像等で確認し，理解しておく．<br>復習：授業の取り組みを振り返り，毎回のまとめをGoogle Classroomから提出する．次回への課題を把握する． |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 永見　智行 | ガイダンス<br>【対面】 | 授業内容や進め方，評価法，Google Classroomへの登録法について把握する． |
| 2 | 永見　智行 | 軽運動<br>【対面】 | クラスメイトとのアイスブレーク． |
| 3 | 永見　智行 | トレーニングルームの利用説明，ウォーミングアップ法の実践．<br>【対面】 | トレーニングルームの使用方法、トレーニング法について学ぶ．静的ストレッチングを実践し，効果を確認する． |
| 4 | 永見　智行 | ソフトバレーボール<br>【対面】 | 柔らかいボールを使ったバレーボール派生ゲームの実践． |
| 5 | 永見　智行 | バレーボール１<br>【対面】 | 両手でボールを打つ，「レシーブ」「トス」の基本技術練習．ゲームの説明，実施． |
| 6 | 永見　智行 | バレーボール２<br>【対面】 | ３段攻撃など連携を活かした戦術の練習．ゲームの実施． |
| 7 | 永見　智行 | バレーボール３<br>【対面】 | ゲームの実施． |
| 8 | 永見　智行 | バドミントン１<br>【対面】 | シャトルを「遠くへ打つ」技術の練習．ダブルスゲームの説明，実施． |
| 9 | 永見　智行 | バドミントン２<br>【対面】 | シャトルを「鋭く打つ」技術の練習．ダブルスゲームの実施． |
| 10 | 永見　智行 | バドミントン３<br>【対面】 | シャトルを「狙ったところへ打つ」技術の練習．ダブルスゲームの実施． |
| 11 | 永見　智行 | キンボール＆ボッチャ<br>【対面】 | ゲームのルール説明，実施． |
| 12 | 永見　智行 | フットサル１<br>【対面】 | ボールを「蹴る」基本技術の練習．ゲームの説明，実施． |
| 13 | 永見　智行 | フットサル２<br>【対面】 | 「パスをつなぐ」など連携を活かした戦術の練習．ゲームの実施． |
| 14 | 永見　智行 | フットサル３<br>【対面】 | ゲームの実施． |
| 15 | 永見　智行 | 個別指導<br>【対面】 | 必要に応じて個別に指導を行う． |
| 16 | 永見　智行 | ティーボール１<br>【対面】 | バットで「打つ」技術の練習．ゲームの説明，戦術の考案，実施． |
| 17 | 永見　智行 | ティーボール２<br>【対面】 | グローブで「捕る」技術の練習．ゲームの説明，戦術の考案，実施． |
| 18 | 永見　智行 | スポーツ動作の基礎理論１<br>【オンライン】 | ボールを「遠くへ投げる」、飛んでくるボールを上手に「捕る」方法を学ぶ． |
| 19 | 永見　智行 | ソフトボール１<br>【対面】 | ボールを「投げる」技術の練習．ゲームの説明，戦術の考案，実施． |
| 20 | 永見　智行 | ソフトボール２<br>【対面】 | ボールを「遠くへ投げる」，グローブで「ゴロやフライを捕る」技術の応用練習．ゲームの実施． |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 21 | 永見　智行 | テニス１<br>【対面】 | テニスラケットで「打つ」基本技術の練習．３対３ゲームの説明，実施. |
| 22 | 永見　智行 | テニス２<br>【対面】 | テニスラケットで「狙ったところへ打つ」技術の練習．ダブルスゲームの実施. |
| 23 | 永見　智行 | スポーツ動作の基礎理論２<br>【オンライン】 | 手に持ったラケットやボールを強く速く動かすための運動連鎖を学ぶ. |
| 24 | 永見　智行 | テニス３<br>【対面】 | テニスラケットで「ラリーを続ける」技術の練習．ダブルスゲームの実施. |
| 25 | 永見　智行 | ディスクゴルフ<br>【対面】 | フライングディスクを「投げる」「捕る」技術の練習．ゲームの説明，実施. |
| 26 | 永見　智行 | アルティメット１<br>【対面】 | フライングディスクを「狙ったところへ投げる」技術の練習．ゲームの説明，戦術の考案，実施. |
| 27 | 永見　智行 | アルティメット２<br>【対面】 | フライングディスクを「遠くへ投げる」「曲げる」技術の練習．ゲームの説明，戦術の考案，実施. |
| 28 | 永見　智行 | アルティメット３<br>【対面】 | 飛んでくるフライングディスクを「走りながらキャッチする」技術の練習．大きなコートでのゲーム実施. |
| 29 | 永見　智行 | スポーツ動作の基礎理論３<br>【オンライン】 | スポーツにおける相対的年齢効果について学び，その対策を考える. |
| 30 | 永見　智行 | 個別指導<br>【対面】 | 必要に応じて個別に指導を行う. |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1. 未体験のスポーツに触れ，スポーツの何が楽しいのか，面白いのかを理解し，運動習慣形成の礎とする.<br>2. 各運動技術に必要な体の動かし方，ゲームでの戦術や戦略を理解し，説明できる.<br>3. ひとつの目標に向けて仲間と協力できるコミュニケーション能力を身につける. |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>授業参加への意欲，主体的で積極的な態度，得られた学びの定着具合を，実技，課題提出をもって評価する（60%）．また技術（上手さ）そのものだけでなく，自分及び仲間の技術向上に向けた協力、コミニュケーション、取り組みを評価する（40%）．欠席は減点とする. |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 感染症，スポーツ傷害等への対策を徹底しながら，運動・スポーツの楽しさ，生活の中での意義を改めて感じ取れる授業にしたいと思います．これまで学校での体育にあまり良い思い出が無い，という学生も大歓迎です.<br>運動に適した服装，シューズ（グラウンド用，体育館用それぞれ）が必要です. |
| **実務経験の授業への活用方法** | プロ野球球団にてデータ・映像分析に従事した経験を活かし，授業で撮影する動作映像を用いて効率的な運動学習やチーム戦術の理解を促す. |

**教員免許取得のための選択科目**

| | |
|---|---|
| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 |

# 健康とスポーツ演習

Health Sports Seminar

**科 目 概 要 ：** 2025年度　通年／2単位
**授 業 対 象 ：** 指定なし（M学部，PT専攻を除く）　月３／［自由］PT専攻　月３
**科目責任者 ：** 永見　智行
**担　当　者 ：** 永見　智行※
**備　　考 ：** 科目ナンバリング：L104-HH04／授業形態：実習・実技

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 生活習慣病を始めとする様々な疾病は運動不足に起因すると言われる．生涯に渡って健康な生活を送るためには，できるだけ早期に運動習慣を身につけ，大学卒業後も運動を継続していくことが重要であろう．これに向けて本授業では，様々な種目を通してスポーツそのものの楽しさ，運動技術の奥深さを改めて理解し，生涯スポーツに取り組む姿勢を身につけることを最大の目標とする．その一環としてニュースポーツ，アダプテッドスポーツも取り入れ，誰もが参加出来るスポーツへの理解を深める．また特にチーム種目では，技術の向上，戦術・戦略の理解に向けて周囲と協力できるコミュニケーション能力を養うことも目標とする． |
| **教育内容** | 複数の個人スポーツ，チームスポーツに取り組む．いずれの種目でも，必要な知識，基礎技術を習得することのみならず，チームメートや相手を尊重し協力してスポーツに取り組む姿勢を身につける．特にチームスポーツでは，編成されたチーム内で互いに教え合い，技術の向上を図れるような環境を提供する． |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>種目ごとに編成されたチーム・グループ内での基礎練習，チーム対抗のゲームを中心に行う．前期は体育館アリーナを，後期は屋外グラウンドを主に使用した対面授業にて行う．適宜動作映像を撮影し，これを自身が客観的に観察することで動作改善を図る．前期中にはトレーニングルーム利用方法の講習も行う．授業の取り組みを振り返り，毎回のまとめをGoogle Classroomから提出する．<br>感染症への対策として，更衣中や運動中の密集・密接・密閉を避けるとともに，授業前後での手洗い，手指および用具の消毒を，また熱中症等への対策として，休憩，水分補給時間の確保を徹底する．<br>【フィードバックの方法】<br>毎回の振り返りで提出された内容のうち，特徴的な見解や誤解について次回の授業でコメントする．また授業内で撮影する映像を用いて，身体動作やチームのフォーメーションの良し悪しなどを適宜解説する． |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】<br>予習：各種目のルールを把握し，未経験の種目はそのプレーの様子をインターネット上の映像等で確認し，理解しておく．<br>復習：授業の取り組みを振り返り，毎回のまとめをGoogle Classroomから提出する．次回への課題を把握する． |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 永見　智行 | ガイダンス | 授業内容や進め方，評価法，Google Classroomへの登録法について把握する． |
| 2 | 永見　智行 | 軽運動 | クラスメイトとのアイスブレーク． |
| 3 | 永見　智行 | トレーニングルームの利用説明，ウォーミングアップ法の実践． | トレーニングルームの使用方法、トレーニング法について学ぶ．静的ストレッチングを実践し，効果を確認する． |
| 4 | 永見　智行 | ソフトバレーボール | 柔らかいボールを使ったバレーボール派生ゲームの実践． |
| 5 | 永見　智行 | バレーボール１ | 両手でボールを打つ，「レシーブ」「トス」の基本技術練習．ゲームの説明，実施． |
| 6 | 永見　智行 | バレーボール２ | ３段攻撃など連携を活かした戦術の練習．ゲームの実施． |
| 7 | 永見　智行 | バレーボール３ | ゲームの実施． |
| 8 | 永見　智行 | バドミントン１ | シャトルを「遠くへ打つ」技術の練習．ダブルスゲームの説明，実施． |
| 9 | 永見　智行 | バドミントン２ | シャトルを「鋭く打つ」技術の練習．ダブルスゲームの実施． |
| 10 | 永見　智行 | バドミントン３ | シャトルを「狙ったところへ打つ」技術の練習．ダブルスゲームの実施． |
| 11 | 永見　智行 | キンボール＆ボッチャ | ゲームのルール説明，実施． |
| 12 | 永見　智行 | フットサル１ | ボールを「蹴る」基本技術の練習．ゲームの説明，実施． |
| 13 | 永見　智行 | フットサル２ | 「パスをつなぐ」など連携を活かした戦術の練習．ゲームの実施． |
| 14 | 永見　智行 | フットサル３ | ゲームの実施． |
| 15 | 永見　智行 | 個別指導 | 必要に応じて個別に指導を行う． |
| 16 | 永見　智行 | ティーボール１ | バットで「打つ」技術の練習．ゲームの説明，戦術の考案，実施． |
| 17 | 永見　智行 | ティーボール２ | グローブで「捕る」技術の練習．ゲームの説明，戦術の考案，実施． |
| 18 | 永見　智行 | ソフトボール１ | ボールを「投げる」技術の練習．ゲームの説明，戦術の考案，実施． |
| 19 | 永見　智行 | ソフトボール２ | ボールを「遠くへ投げる」，グローブで「ゴロやフライを捕る」技術の応用練習．ゲームの実施． |
| 20 | 永見　智行 | ソフトボール３ | ゲームの実施． |
| 21 | 永見　智行 | テニス１ | 「フォアハンドで打つ」基本技術の練習． |
| 22 | 永見　智行 | テニス２ | 「バックハンドで打つ」技術の練習．ダブルスゲームの実施． |
| 23 | 永見　智行 | テニス３ | 「ラリーを続ける」技術の練習．ダブルスゲームの実施． |
| 24 | 永見　智行 | テニス４ | ダブルスゲームの実施． |
| 25 | 永見　智行 | ディスクゴルフ | フライングディスクを「投げる」「捕る」技術の練習．ゲームの説明，実施． |
| 26 | 永見　智行 | アルティメット１ | フライングディスクを「狙ったところへ投げる」技術の練習．ゲームの説明，戦術の考案，実施． |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 27 | 永見　智行 | アルティメット２ | フライングディスクを「遠くへ投げる」「曲げる」技術の練習．ゲームの説明，戦術の考案，実施． |
| 28 | 永見　智行 | アルティメット３ | 飛んでくるフライングディスクを「走りながらキャッチする」技術の練習．大きなコートでのゲーム実施． |
| 29 | 永見　智行 | アルティメット４ | ゲーム実施． |
| 30 | 永見　智行 | 個別指導 | 必要に応じて個別に指導を行う． |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1. 未体験のスポーツに触れ，スポーツの何が楽しいのか，面白いのかを理解し，運動習慣形成の礎とする．<br>2. 各運動技術に必要な体の動かし方，ゲームでの戦術や戦略を理解し，説明できる．<br>3. ひとつの目標に向けて仲間と協力できるコミュニケーション能力を身につける． |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>授業参加への意欲，主体的で積極的な態度，得られた学びの定着具合を，実技，課題提出をもって評価する（60%）．また技術（上手さ）そのものだけでなく，自分及び仲間の技術向上に向けた協力、コミニュケーション、取り組みを評価する（40%）．欠席は減点とする． |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 感染症，スポーツ傷害等への対策を徹底しながら，運動・スポーツの楽しさ，生活の中での意義を改めて感じ取れる授業にしたいと思います．これまで学校での体育にあまり良い思い出が無い，という学生も大歓迎です．<br>運動に適した服装，シューズ（グラウンド用，体育館用それぞれ）が必要です． |
| **実務経験の授業への活用方法** | プロ野球球団にてデータ・映像分析に従事した経験を活かし，授業で撮影する動作映像を用いて効率的な運動学習やチーム戦術の理解を促す． |

**教員免許取得のための選択科目**

| | |
|---|---|
| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 |

# 健康とスポーツ演習

Health Sports Seminar

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位
**授業対象：** 指定なし（M学部，PT専攻を除く）　水２／［自由］PT専攻　水２
**科目責任者：** 永見　智行
**担　当　者：** 永見　智行※
**備　　考：** 科目ナンバリング：L104-HH04／授業形態：実習・実技

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 生活習慣病を始めとする様々な疾病は運動不足に起因すると言われる．生涯に渡って健康な生活を送るためには，できるだけ早期に運動習慣を身につけ，大学卒業後も運動を継続していくことが重要であろう．これに向けて本授業では，様々な種目を通してスポーツそのものの楽しさ，運動技術の奥深さを改めて理解し，生涯スポーツに取り組む姿勢を身につけることを最大の目標とする．その一環としてニュースポーツ，アダプテッドスポーツも取り入れ，誰もが参加出来るスポーツへの理解を深める．また特にチーム種目では，技術の向上，戦術・戦略の理解に向けて周囲と協力できるコミュニケーション能力を養うことも目標とする． |
| **教育内容** | 複数の個人スポーツ，チームスポーツに取り組む．いずれの種目でも，必要な知識，基礎技術を習得することのみならず，チームメートや相手を尊重し協力してスポーツに取り組む姿勢を身につける．特にチームスポーツでは，編成されたチーム内で互いに教え合い，技術の向上を図れるような環境を提供する． |
| **教育方法** | 【この授業は対面とオンラインを併用して実施します】<br>対面授業では，体育館アリーナ，屋外グラウンドを使用し，種目ごとに編成されたチーム・グループ内での基礎練習，チーム対抗のゲームを中心に行う．適宜動作映像を撮影し，これを自身が客観的に観察することで動作改善を図る．前期中にはトレーニングルーム利用方法の講習も行う．オンライン授業ではGoogle Classroomにて，映像資料及び課題を掲示する．<br>いずれにおいても授業の取り組みを振り返り，毎回のまとめをGoogle Classroomから提出する．その内容について，次回の授業でコメントする．<br>対面授業での感染症への対策として，更衣中や運動中の密集・密接・密閉を避けるとともに，授業前後での手洗い，手指および用具の消毒を，また熱中症等への対策として，休憩，水分補給時間の確保を徹底する．<br>【フィードバックの方法】<br>毎回の振り返りで提出された内容のうち，特徴的な見解や誤解について次回の授業でコメントする．また授業内で撮影する映像を用いて，身体動作やチームのフォーメーションの良し悪しなどを適宜解説する． |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】<br>予習：各種目のルールを把握し，未経験の種目はそのプレーの様子をインターネット上の映像等で確認し，理解しておく．<br>復習：授業の取り組みを振り返り，毎回のまとめをGoogle Classroomから提出する．次回への課題を把握する． |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 永見　智行 | ガイダンス<br>【対面】 | 授業内容や進め方，評価法，Google Classroomへの登録法について把握する． |
| 2 | 永見　智行 | トレーニングの基礎理論<br>【オンライン】 | 持久的トレーニング，筋力トレーニングの効果，方法を学ぶ． |
| 3 | 永見　智行 | トレーニングルームの利用説明．ウォーミングアップ法の実践．<br>【対面】 | トレーニングルームの使用方法を学ぶ．静的ストレッチングを実践し，効果を確認する． |
| 4 | 永見　智行 | ディスクゴルフ<br>【対面】 | フライングディスクを「投げる」「捕る」技術の練習．ゲームの説明，実施． |
| 5 | 永見　智行 | スポーツ動作の基礎理論１<br>【オンライン】 | フライングディスクを「投げる」２つの方法について学ぶ． |
| 6 | 永見　智行 | アルティメット１<br>【対面】 | フライングディスクを「狙ったところへ投げる」技術の練習．ゲームの説明，戦術の考案，実施． |
| 7 | 永見　智行 | アルティメット２<br>【対面】 | フライングディスクを「遠くへ投げる」「曲げる」技術の練習．ゲームの説明，戦術の考案，実施． |
| 8 | 永見　智行 | スポーツ動作の基礎理論２<br>【オンライン】 | 運動スキルの発達について学ぶ． |
| 9 | 永見　智行 | アルティメット３<br>【対面】 | 飛んでくるフライングディスクを「走りながらキャッチする」技術の練習．大きなコートでのゲーム実施． |
| 10 | 永見　智行 | キンボール＆ボッチャ<br>【対面】 | ニュースポーツ，アダプテッドスポーツに触れる． |
| 11 | 永見　智行 | スポーツ動作の基礎理論３<br>【オンライン】 | 手に持ったラケットやボールを強く速く動かすための運動連鎖を学ぶ． |
| 12 | 永見　智行 | バドミントン１<br>【対面】 | シャトルを「遠くへ打つ」技術の練習．ダブルスゲームの説明，実施． |
| 13 | 永見　智行 | バドミントン２<br>【対面】 | シャトルを「鋭く打つ」技術の練習．ダブルスゲームの実施． |
| 14 | 永見　智行 | スポーツと安全１<br>【オンライン】 | いざという時の心肺蘇生法，応急処置を学ぶ． |
| 15 | 永見　智行 | 個別指導<br>【対面】 | 必要に応じて個別に指導を行う． |
| 16 | 永見　智行 | バドミントン３<br>【対面】 | チームメートと協力し，ポジションを様々に変化させてゲームを行う． |
| 17 | 永見　智行 | ソフトバレーボール<br>【対面】 | 柔らかいボールを使ったバレーボール派生ゲームの実践． |
| 18 | 永見　智行 | スポーツと安全２<br>【オンライン】 | スポーツ傷害の機序と予防法を学ぶ． |
| 19 | 永見　智行 | バレーボール１<br>【対面】 | 両手での「レシーブ」「トス」の基本技術練習．ゲームのルール説明，実施． |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 20 | 永見　智行 | バレーボール２<br>【対面】 | ３段攻撃など連携を活かした戦術の練習．ゲームの実施. |
| 21 | 永見　智行 | スポーツ動作の基礎理論４<br>【オンライン】 | バットやゴルフクラブなど，打具を両手に持って「振る」技術について学ぶ. |
| 22 | 永見　智行 | ティーボール１<br>【対面】 | バットで「打つ」技術の練習．ゲームのルール説明，戦術の考案，実施. |
| 23 | 永見　智行 | ティーボール２<br>【対面】 | バットで「打つ」技術の練習．戦術の考案，実施. |
| 24 | 永見　智行 | スポーツ動作の基礎理論５<br>【オンライン】 | ボールを「遠くへ投げる」、飛んでくるボールを上手に「捕る」方法を学ぶ. |
| 25 | 永見　智行 | ソフトボール１<br>【対面】 | ボールを「投げる」技術の練習．ゲームの説明，戦術の考案，実施. |
| 26 | 永見　智行 | ソフトボール２<br>【対面】 | ボールを「遠くへ投げる」，グローブで「捕る」技術の応用練習．ゲームの実施. |
| 27 | 永見　智行 | スポーツ動作の基礎理論６<br>【オンライン】 | スポーツにおける相対的年齢効果について学び，その対策を考える. |
| 28 | 永見　智行 | サッカー１<br>【対面】 | ボールを「蹴る」基本技術，「パスをつなぐ」の練習．ゲームの説明，実施. |
| 29 | 永見　智行 | サッカー２<br>【対面】 | ボールを鋭く「蹴る」技術，敵味方を見定めて「良いポジションを取る」の練習．ゲームの実施. |
| 30 | 永見　智行 | 個別指導<br>【対面】 | 必要に応じて個別に指導を行う. |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1. 未体験のスポーツに触れ，スポーツの何が楽しいのか，面白いのかを理解し，運動習慣形成の礎とする.<br>2. 各運動技術に必要な体の動かし方，ゲームでの戦術や戦略を理解し，説明できる.<br>3. ひとつの目標に向けて仲間と協力できるコミュニケーション能力を身につける. |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>授業参加への意欲，主体的で積極的な態度，得られた学びの定着具合を，実技，課題提出をもって評価する（60%）．また技術（上手さ）そのものだけでなく，自分及び仲間の技術向上に向けた協力、コミュニケーション、取り組みを評価する（40%）．欠席は減点とする. |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 感染症，スポーツ傷害等への対策を徹底しながら，運動・スポーツの楽しさ，生活の中での意義を改めて感じ取れる授業にしたいと思います．これまで学校での体育にあまり良い思い出が無い，という学生も大歓迎です.<br>運動に適した服装，シューズ（グラウンド用，体育館用それぞれ）が必要です. |
| **実務経験の授業への活用方法** | プロ野球球団にてデータ・映像分析に従事した経験を活かし，授業で撮影する動作映像を用いて効率的な運動学習やチーム戦術の理解を促す. |

**教員免許取得のための選択科目**

| | |
|---|---|
| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 |

# 健康とスポーツ演習

Health Sports Seminar

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位
**授業対象：** 指定なし（M学部，PT専攻を除く）　月２／［自由］PT専攻　月２
**科目責任者：** 池村　司
**担当者：** 池村　司
**備考：** 科目ナンバリング：L104-HH04／授業形態：実習・実技

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 身体不活動は死亡に対するリスク因子のトップ５に入り，そのリスクは肥満や喫煙に匹敵する．したがって，健康維持・増進を図るためには生活の中に運動・スポーツを取り入れ，継続することも重要である．また，スポーツの実践を通して自身の身体状態の確認ができるため，習慣的にスポーツを行う者は健康管理能力が高くなる．近年では労働現場において健康管理と生産性の関係が注目され，積極的に健康投資に取り組む「健康経営」が推奨されている．自己の健康管理能力は，社会で活躍するために併せ持つべき能力の１つといえよう．<br>本授業では，スポーツを介して生涯にわたって健康を維持するために必要な①スポーツの楽しさへの理解を促し，②幅広いスポーツ種目での基本的なルールの習得と技能の向上を目的とする．また，③チームスポーツ種目の実践を通してコミュニケーション能力を養うことも目的とする． |
| **教育内容** | 様々なスポーツ種目に取り組む．各スポーツ種目の基本的な技能とルールを教授し，ゲームを通してスポーツの楽しさを体験する．個々の技能向上を図るために，個人目標の設定と反省を行う．チーム戦を実施し，また，チームの課題について議論する機会を設ける等して，コミュニケーションを図れるような環境を提供する． |
| **教育方法** | 【この授業は対面とオンラインを併用して実施します】<br>対面形式では各スポーツ種目の①ルール説明と基本的な動作の練習，②ゲームの実践，および③チーム戦を実施する．チーム戦の前に個人の技能に関する目標を設定する．チーム戦後に自己評価と技能向上のための具体的な解決策をまとめ，課題として提出する．<br>オンライン形式では，各スポーツ種目のルール説明と基本的な動作の練習や，健康づくりのための運動・スポーツに関する知識を学び，実践する．googleclassroomを通して資料の配布や課題の配布・提出を行う．資料内容を基に学習し，学習後に課題に取り組む．googleclassroomのコメント機能を利用して履修学生間でのディスカッションや，担当教員へ質問を行う．<br>課題へのフィードバックとして，次回の回答内容の質向上に生かせるよう，評価の高い回答や全体の理解を促すような疑問質問を，担当教員のコメント・回答を交えて全体に向けて紹介する．教員への質問等はメール，googleclassroomのコメント，および対面にて直接受け付ける．<br>【フィードバックの方法】<br>クラスルームの授業資料やストリーム，ならびに対面授業時に口頭にて行う．<br>【Google Classroomクラスコード】<br>授業時に教員から案内します． |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】<br>予習：実施するスポーツ種目の試合映像を確認する．基本的動作とルールといった該当種目に関わる知識を収集する．<br>復習：実施したスポーツ種目の基本的動作とルールを復習する．自身のパフォーマンスと，自身よりパフォーマンスが優れた者の差異について考察する． |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 池村　司 | ガイダンス<br>【対面】 | 本講義の目的と概要や諸注意事項，成績評価方法等の説明を行う． |
| 2 | 池村　司 | トレーニングルームの利用説明<br>【対面】 | トレーニングルームにて各種機器の使用方法やトレーンニングの方法について学ぶ． |
| 3 | 池村　司 | ディスクゴルフ<br>【対面】 | 基本動作（バックスロー・フォアスロー）の練習後，ゲームを行う． |
| 4 | 池村　司 | アルティメット①<br>【対面】 | ルールを説明する．基本動作（スローイング・キャッチング）の練習と，チーム練習を行う．次回の試合に備えて個人目標を決める． |
| 5 | 池村　司 | アルティメット②<br>【対面】 | チーム練習後，試合形式のゲームを行う．ゲーム毎にチーム全体の反省と改善点についてチーム内で話し合い，パフォーマンス向上を図る．次回の試合に備えて個人目標を設定する． |
| 6 | 池村　司 | テニス①<br>【対面】 | ルールの説明と，ストローク・サーブ・ボレー等の基本動作の練習を行う． |
| 7 | 池村　司 | テニス②<br>【対面】 | 基本動作の練習後，試合形式のゲームを行う．次回の試合に備えて個人目標を設定する． |
| 8 | 池村　司 | テニス③<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う． |
| 9 | 池村　司 | ティーボール<br>【対面】 | バッティング動作を中心とした基本的動作（バッティング・キャッチング・スローイング）の練習を行う．ティーボールのゲームを行う． |
| 10 | 池村　司 | ソフトボール①<br>【対面】 | 試合形式のゲームを行う．ゲーム毎にチーム全体の反省と改善点についてチーム内で話し合い，パフォーマンス向上を図る．次回の試合に備えて個人目標を設定する． |
| 11 | 池村　司 | ソフトボール②<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う． |
| 12 | 池村　司 | 卓球①<br>【対面】 | ルールを説明し，基本動作（サーブ・フォアハンドとバックハンドのストローク）の習得と向上のための練習を行う． |
| 13 | 池村　司 | 卓球②<br>【対面】 | 基本動作の練習後，試合形式のゲームを行う．次回の試合に備えて個人目標を設定する． |
| 14 | 池村　司 | 卓球③<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う． |
| 15 | 池村　司 | 個別指導<br>【対面】 | 必要に応じて個別に実技指導を行う． |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 16 | 池村　司 | バレーボール①<br>【対面】 | ルールの説明と基本動作（サーブ・レシーブ・アタック）の練習を行う. |
| 17 | 池村　司 | バレーボール②<br>【対面】 | チーム練習後，試合形式のゲームを行う．ゲーム毎にチーム全体の反省と改善点についてチーム内で話し合い，パフォーマンス向上を図る．次回の試合に備えて個人目標を設定する. |
| 18 | 池村　司 | バレーボール③<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う. |
| 19 | 池村　司 | アダプテッドスポーツ<br>【対面】 | アダプテッドスポーツ（ボッチャ，シッティングバレー，タスポニー等）のゲームを行う. |
| 20 | 池村　司 | 健康づくり運動①<br>【オンライン】 | 健康維持・増進のための運動について解説する．自身の生活に合った運動を計画する. |
| 21 | 池村　司 | バスケットボール①<br>【対面】 | ルールの説明と基本動作（パス・ドリブル・シュート）の練習を行う．試合形式のゲームを行う．次回の試合に備え，個人目標を決める. |
| 22 | 池村　司 | バスケットボール②<br>【対面】 | チーム練習後，試合形式のゲームを行う．ゲーム毎にチーム全体の反省と改善点についてチーム内で話し合い，パフォーマンス向上を図る．次回の試合に備えて個人目標を設定する. |
| 23 | 池村　司 | バスケットボール③<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う. |
| 24 | 池村　司 | バドミントン①<br>【対面】 | ルールの説明と基本動作（サーブとハイクリアやドライブ等のショット）の練習を行う. |
| 25 | 池村　司 | 健康づくり運動②<br>【オンライン】 | 健康維持・増進のための運動の，具体的な実施方法について解説する. |
| 26 | 池村　司 | バドミントン②<br>【対面】 | 基本動作の練習後，試合形式のゲームを行う．次回の試合に備えて個人目標を設定する. |
| 27 | 池村　司 | バドミントン③<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う. |
| 28 | 池村　司 | 種目選択<br>【対面】 | これまで行った室内種目の中から選択して行う. |
| 29 | 池村　司 | 運動神経とは<br>【オンライン】 | 運動神経が良い人・悪い人の違いについて，およびスポーツ動作を獲得し定着する過程について解説する. |
| 30 | 池村　司 | 個別指導<br>【対面】 | 必要に応じて個別に実技指導を行う. |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1）各スポーツ種目の基本的な技能とルールを実践・説明できる.<br>2）種目に対する理解と技能の向上を図れる.<br>3）他者とコミュニケーションを取りながら協力してスポーツを実施できる. |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>①積極的な授業態度（30%），②技能のレベル（10%），③個人の技能向上への取り組み（30%），④チームワークや他者の技能向上への貢献度（30%）を総合して評価する. |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 様々なスポーツ種目を扱います．生涯継続できるようなスポーツ種目を見つけることを意識して本授業に臨んで下さい.<br>本演習の受講には，スポーツウエアやシューズ（屋内・屋外用の両方）が必要です. |

**教員免許取得のための選択科目**

| | |
|---|---|
| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 |

# 健康とスポーツ演習

Health Sports Seminar

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位
**授業対象：** 指定なし（M学部，PT専攻を除く）　火２／［自由］PT専攻　火２
**科目責任者：** 池村　司
**担当者：** 池村　司
**備考：** 科目ナンバリング：L104-HH04／授業形態：実習・実技

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 身体不活動は死亡に対するリスク因子のトップ５に入り，そのリスクは肥満や喫煙に匹敵する．したがって，健康維持・増進を図るためには生活の中に運動・スポーツを取り入れ，継続することも重要である．また，スポーツの実践を通して自身の身体状態の確認ができるため，習慣的にスポーツを行う者は健康管理能力が高くなる．近年では労働現場において健康管理と生産性の関係が注目され，積極的に健康投資に取り組む「健康経営」が推奨されている．自己の健康管理能力は，社会で活躍するために併せ持つべき能力の１つといえよう．<br>本授業では，スポーツを介して生涯にわたって健康を維持するために必要な①スポーツの楽しさへの理解を促し，②幅広いスポーツ種目での基本的なルールの習得と技能の向上を目的とする．また，③チームスポーツ種目の実践を通してコミュニケーション能力を養うことも目的とする． |
| **教育内容** | 様々なスポーツ種目に取り組む．各スポーツ種目の基本的な技能とルールを教授し，ゲームを通してスポーツの楽しさを体験する．個々の技能向上を図るために，個人目標の設定と反省を行う．チーム戦を実施し，また，チームの課題について議論する機会を設ける等して，コミュニケーションを図れるような環境を提供する． |
| **教育方法** | 授業はオンライン形式と対面形式を織り交ぜて実施する．<br>対面形式では各スポーツ種目の①ルール説明と基本的な動作の練習，②ゲームの実践，および③チーム戦を実施する．チーム戦の前に個人の技能に関する目標を設定する．チーム戦後に自己評価と技能向上のための具体的な解決策をまとめ，課題として提出する．<br>オンライン形式では，各スポーツ種目のルール説明と基本的な動作の練習や，健康づくりのための運動・スポーツに関する知識を学び，実践する．google classroomを通して資料の配布や課題の配布・提出を行う．資料内容を基に学習し，学習後に課題に取り組む．google classroomのコメント機能を利用して履修学生間でのディスカッションや，担当教員へ質問を行う．<br>課題へのフィードバックとして，次回の回答内容の質向上に生かせるよう，評価の高い回答や全体の理解を促すような疑問質問を，担当教員のコメント・回答を交えて全体に向けて紹介する．教員への質問等はメール，google classroomのコメント，および対面にて直接受け付ける．<br>【フィードバックの方法】<br>クラスルームの授業資料やストリーム，ならびに対面授業時に口頭にて行う．<br>【Google Classroomクラスコード】<br>授業時に教員から案内します． |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】<br>予習：実施するスポーツ種目の試合映像を確認する．基本的動作とルールといった該当種目に関わる知識を収集する．<br>復習：実施したスポーツ種目の基本的動作とルールを復習する．自身のパフォーマンスと，自身よりパフォーマンスが優れた者の差異について考察する． |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 池村　司 | ガイダンス<br>【対面】 | 本講義の目的と概要や諸注意事項，成績評価方法等の説明を行う． |
| 2 | 池村　司 | トレーニングルームの利用説明<br>【対面】 | トレーニングルームにて各種機器の使用方法やトレーンニングの方法について学ぶ． |
| 3 | 池村　司 | ティーボール<br>【対面】 | バッティング動作を中心とした基本的動作（バッティング・キャッチング・スローイング）の練習を行う．ティーボールのゲームを行う． |
| 4 | 池村　司 | 運動神経とは<br>【オンライン】 | 運動神経が良い人・悪い人の違いについて，およびスポーツ動作を獲得し定着する過程について解説する． |
| 5 | 池村　司 | ソフトボール①<br>【対面】 | ルールを説明する．チーム練習と，試合形式でのゲームを行う．次回の試合に備え，個人目標を決める． |
| 6 | 池村　司 | ソフトボール②<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う． |
| 7 | 池村　司 | 運動・スポーツ実施の現状と課題<br>【オンライン】 | 運動・スポーツの定義と，我が国における運動・スポーツ実施の現状と課題について解説する． |
| 8 | 池村　司 | サッカー①<br>【対面】 | ルールの説明と，シュート・パス・ドリブル等の基本動作の練習を行う．試合形式のゲームを行う．次回の試合に備え，個人目標を決める． |
| 9 | 池村　司 | サッカー②<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標に照らし合わせて自身のプレーの反省を行う． |
| 10 | 池村　司 | 健康づくり運動①<br>【オンライン】 | 健康維持・増進のための運動について解説する．自身の生活に合った運動を計画する． |
| 11 | 池村　司 | 卓球①<br>【対面】 | ルールを説明し，基本動作（サーブ・フォアハンドとバックハンドのストローク）の練習を行う．試合形式のゲームを行う．次回の試合に備えて個人目標を設定する． |
| 12 | 池村　司 | 卓球②<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う． |
| 13 | 池村　司 | 健康づくり運動②<br>【オンライン】 | 健康維持・増進のための運動の，具体的な実施方法について解説する． |
| 14 | 池村　司 | アダプテッドスポーツ<br>【対面】 | アダプテッドスポーツ（ボッチャ，シッティングバレー，タスポニー等）のゲームを行う． |
| 15 | 池村　司 | 個別指導<br>【対面】 | 必要に応じて個別に実技指導を行う． |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 16 | 池村　司 | ディスクゴルフ<br>【対面】 | 基本動作（バックスロー）の練習後，ゲームを行う． |
| 17 | 池村　司 | フライングディスク（フォアスロー）<br>【オンライン】 | フライングディスク系の競技種目の紹介と，フォアスロー動作の解説と練習を行う． |
| 18 | 池村　司 | アルティメット①<br>【対面】 | ルールを説明する．基本動作（スローイング・キャッチング）の練習と，チーム練習を行う．次回の試合に備え，個人目標を決める． |
| 19 | 池村　司 | アルティメット②<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う． |
| 20 | 池村　司 | 持久力トレーニング<br>【オンライン】 | 健康関連体力の１つである持久力の向上を目的としたトレーニングについて解説する． |
| 21 | 池村　司 | バスケットボール①<br>【対面】 | ルールの説明と基本動作（パス・ドリブル・シュート）の練習を行う．試合形式のゲームを行う．次回の試合に備え，個人目標を決める． |
| 22 | 池村　司 | バスケットボール②<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う． |
| 23 | 池村　司 | トレーニングに対する身体の適応<br>【オンライン】 | トレーニングによって生じる身体の適応や，効果的なトレーニングについて解説する． |
| 24 | 池村　司 | バレーボール①<br>【対面】 | ルールの説明と基本動作（トス・サーブ・アタック）の練習を行う．試合形式のゲームを行う．次回の試合に備え，個人目標を決める． |
| 25 | 池村　司 | バレーボール②<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う． |
| 26 | 池村　司 | 筋力トレーニング<br>【オンライン】 | 健康関連体力の１つである筋力の向上を目的としたトレーニングについて解説する． |
| 27 | 池村　司 | バドミントン①<br>【対面】 | ルールの説明と基本動作（サーブとハイクリアやドライブ等のショット）の練習を行う．試合形式のゲームを行う．次回の試合に備え，個人目標を決める． |
| 28 | 池村　司 | バドミントン②<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う． |
| 29 | 池村　司 | ストレッチ<br>【オンライン】 | 健康関連体力の1つである柔軟性を維持・向上させるための，ストレッチの実践方法を解説する． |
| 30 | 池村　司 | 個別指導<br>【対面】 | 必要に応じて個別に実技指導を行う． |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1）各スポーツ種目の基本的な技能とルールを実践・説明できる．<br>2）種目に対する理解と技能の向上を図れる．<br>3）他者とコミュニケーションを取りながら協力してスポーツを実施できる． |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>①積極的な授業態度（30%），②技能のレベル（10%），③個人の技能向上への取り組み（30%），④チームワークや他者の技能向上への貢献度（30%）を総合して評価する．<br>※オンライン形式の授業分の評価について：課題の提出状況と内容から上記①～④を評価する． |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 様々なスポーツ種目を扱います．生涯継続できるようなスポーツ種目を見つけることを意識して本授業に臨んで下さい．<br>本演習の受講には，スポーツウエアやシューズ（屋内・屋外用の両方）が必要です． |

**教員免許取得のための選択科目**

| | |
|---|---|
| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 |

# 健康とスポーツ演習

Health Sports Seminar

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位
**授業対象：** 指定なし（M学部，PT専攻を除く）　水２／［自由］PT専攻　水２
**科目責任者：** 池村　司
**担　当　者：** 池村　司
**備　　考：** 科目ナンバリング：L104-HH04／授業形態：実習・実技

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 身体不活動は死亡に対するリスク因子のトップ５に入り，そのリスクは肥満や喫煙に匹敵する．したがって，健康維持・増進を図るためには生活の中に運動・スポーツを取り入れ，継続することも重要である．また，スポーツの実践を通して自身の身体状態の確認ができるため，習慣的にスポーツを行う者は健康管理能力が高くなる．近年では労働現場において健康管理と生産性の関係が注目され，積極的に健康投資に取り組む「健康経営」が推奨されている．自己の健康管理能力は，社会で活躍するために併せ持つべき能力の１つといえよう．<br>本授業では，スポーツを介して生涯にわたって健康を維持するために必要な①スポーツの楽しさへの理解を促し，②幅広いスポーツ種目での基本的なルールの習得と技能の向上を目的とする．また，③チームスポーツ種目の実践を通してコミュニケーション能力を養うことも目的とする． |
| **教育内容** | 様々なスポーツ種目に取り組む．各スポーツ種目の基本的な技能とルールを教授し，ゲームを通してスポーツの楽しさを体験する．個々の技能向上を図るために，個人目標の設定と反省を行う．チーム戦を実施し，また，チームの課題について議論する機会を設ける等して，コミュニケーションを図れるような環境を提供する． |
| **教育方法** | 【この授業は対面とオンラインを併用して実施します】<br>各スポーツ種目は，①ルール説明と基本的な動作の練習，②ゲームの実践，および③チーム戦を実施する．チーム戦の前に個人の技能に関する目標を設定する．チーム戦後に自己評価と技能向上のための具体的な解決策をまとめ，課題として提出する．課題の配布・提出はgoogleclassroomを用いて行う．課題へのフィードバックとして，次回の回答内容の質向上に生かせるよう，評価の高い回答を担当教員のコメントを交えて全体に向けて紹介する．教員への質問等はメール，および対面にて直接受け付ける．<br>【フィードバックの方法】<br>クラスルームの授業資料やストリーム，ならびに対面授業時に口頭にて行う．<br>【Google Classroomクラスコード】<br>授業時に教員から案内します． |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】<br>予習：実施するスポーツ種目の試合映像を確認する．基本的動作とルールといった該当種目に関わる知識を収集する．<br>復習：実施したスポーツ種目の基本的動作とルールを復習する．自身のパフォーマンスと，自身よりパフォーマンスが優れた者の差異について考察する． |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 池村　司 | ガイダンス<br>【対面】 | 本講義の目的と概要や諸注意事項，成績評価方法等の説明を行う． |
| 2 | 池村　司 | トレーニングルームの利用説明<br>【対面】 | トレーニングルームにて各種機器の使用方法やトレーンニングの方法について学ぶ． |
| 3 | 池村　司 | ティーボール<br>【対面】 | バッティング動作を中心とした基本的動作（バッティング・キャッチング・スローイング）の練習を行う．ティーボールのゲームを行う． |
| 4 | 池村　司 | 運動神経とは<br>【オンライン】 | 運動神経が良い人・悪い人の違いについて，およびスポーツ動作を獲得し定着する過程について解説する． |
| 5 | 池村　司 | ソフトボール①<br>【対面】 | ルールを説明する．チーム練習と，試合形式でのゲームを行う．次回の試合に備え，個人目標を決める． |
| 6 | 池村　司 | ソフトボール②<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う． |
| 7 | 池村　司 | 運動・スポーツ実施の現状と課題<br>【オンライン】 | 運動・スポーツの定義と，我が国における運動・スポーツ実施の現状と課題について解説する． |
| 8 | 池村　司 | サッカー①<br>【対面】 | ルールの説明と，シュート・パス・ドリブル等の基本動作の練習を行う．試合形式のゲームを行う．次回の試合に備え，個人目標を決める． |
| 9 | 池村　司 | サッカー②<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標に照らし合わせて自身のプレーの反省を行う． |
| 10 | 池村　司 | 健康づくり運動①<br>【オンライン】 | 健康維持・増進のための運動について解説する．自身の生活に合った運動を計画する． |
| 11 | 池村　司 | 卓球①<br>【対面】 | ルールを説明し，基本動作（サーブ・フォアハンドとバックハンドのストローク）の練習を行う．試合形式のゲームを行う．次回の試合に備えて個人目標を設定する． |
| 12 | 池村　司 | 卓球②<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う． |
| 13 | 池村　司 | 健康づくり運動②<br>【オンライン】 | 健康維持・増進のための運動の，具体的な実施方法について解説する． |
| 14 | 池村　司 | アダプテッドスポーツ<br>【対面】 | アダプテッドスポーツ（ボッチャ，シッティングバレー，タスポニー等）のゲームを行う． |
| 15 | 池村　司 | 個別指導<br>【対面】 | 必要に応じて個別に実技指導を行う． |
| 16 | 池村　司 | ディスクゴルフ<br>【対面】 | 基本動作（バックスロー）の練習後，ゲームを行う． |
| 17 | 池村　司 | フライングディスク（フォアスロー）<br>【オンライン】 | フライングディスク系の競技種目の紹介と，フォアスロー動作の解説と練習を行う． |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 18 | 池村　司 | アルティメット①<br>【対面】 | ルールを説明する．基本動作（スローイング・キャッチング）の練習と，チーム練習を行う．次回の試合に備え，個人目標を決める． |
| 19 | 池村　司 | アルティメット②<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う． |
| 20 | 池村　司 | 持久力トレーニング<br>【オンライン】 | 健康関連体力の１つである持久力の向上を目的としたトレーニングについて解説する． |
| 21 | 池村　司 | バスケットボール①<br>【対面】 | ルールの説明と基本動作（パス・ドリブル・シュート）の練習を行う．試合形式のゲームを行う．次回の試合に備え，個人目標を決める． |
| 22 | 池村　司 | バスケットボール②<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う． |
| 23 | 池村　司 | トレーニングに対する身体の適応<br>【オンライン】 | トレーニングによって生じる身体の適応や，適切なトレーニング内容について解説する． |
| 24 | 池村　司 | バレーボール①<br>【対面】 | ルールの説明と基本動作（トス・サーブ・アタック）の練習を行う．試合形式のゲームを行う．次回の試合に備え，個人目標を決める． |
| 25 | 池村　司 | バレーボール②<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う． |
| 26 | 池村　司 | 筋力トレーニング<br>【オンライン】 | 健康関連体力の１つである筋力の向上を目的としたトレーニングについて解説する． |
| 27 | 池村　司 | バドミントン①<br>【対面】 | ルールの説明と基本動作（サーブ・クリア・ドライブ・ヘアピン）の練習を行う．試合形式のゲームを行う．次回の試合に備え，個人目標を決める． |
| 28 | 池村　司 | バドミントン②<br>【対面】 | 練習後，試合を行う．個人目標と照らし合わせ，自身のプレーの反省を行う． |
| 29 | 池村　司 | ストレッチ<br>【オンライン】 | 健康関連体力の1つである柔軟性を維持・向上させるための，ストレッチの実践方法を解説する． |
| 30 | 池村　司 | 個別指導<br>【対面】 | 必要に応じて個別に実技指導を行う． |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1）各スポーツ種目の基本的な技能とルールを実践・説明できる．<br>2）種目に対する理解と技能の向上を図れる．<br>3）他者とコミュニケーションを取りながら協力してスポーツを実施できる． |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>①積極的な授業態度（30%），②技能のレベル（10%），③個人の技能向上への取り組み（30%），④チームワークや他者の技能向上への貢献度（30%）を総合して評価する． |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 様々なスポーツ種目を扱います．生涯継続できるようなスポーツ種目を見つけることを意識して本授業に臨んで下さい．<br>本演習の受講には，スポーツウエアやシューズ（屋内・屋外用の両方）が必要です． |

**教員免許取得のための選択科目**

| | |
|---|---|
| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 |

# 健康とスポーツ演習（汗を流しながら、クラスの人との交流を深めましょう。）

Health Sports Seminar

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位
**授業対象：** 指定なし（M学部，PT専攻を除く）　月３／［自由］PT専攻　月３
**科目責任者：** 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ
**担当者：** 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ※
**備考：** 科目ナンバリング：L104-HH04／授業形態：実習・実技

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | この科目では、「体力・技・コミュニケーション能力」を向上させ、健康で明るい大学生活と将来の社会生活に役立つ基盤の一端を構築することを目標とします。 |
| **教育内容** | 授業では身体活動を通じて「体力・技・コミュニケーション能力」の向上を目指します。なお、天候や履修者の状況等により、内容を一部変更する場合もあります。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>授業は全体学習を中心に展開し、加えて状況に応じてグループ学習を行います。<br>【フィードバックの方法】<br>課題に関する質問等については、授業中やメールにて受け付け、回答します。<br>【Google Classroomクラスコード】ruloe64 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習時間：30時間】<br>予習：次回の授業で取り扱う種目やテーマについて、本やインターネットで調べておくこと（毎回30分程度）。<br>復習：授業内容をノートにまとめておくこと（毎回30分程度）。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | ガイダンス4/14（教室） | 授業内容、評価基準、服装・シューズの説明等 |
| 2 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | トレーニングルーム利用説明4/21（トレーニングルーム） | 有酸素系・ウェイトトレーニング機器関連の使用方法を説明した後、実際にトレーニングを行う |
| 3 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | テニス①4/28（テニスコート） | テニス施設と用具の安全取り扱いについて説明、グラウンドストロークの基本練習、フォアハンドストロークからシングルスゲーム |
| 4 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | テニス②5/12（テニスコート） | グラウンドストロークの復習、バックハンドストロークからシングルスゲーム |
| 5 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | テニス③5/19（テニスコート） | オーバーハンドサービスの基本練習、サービスからシングルスゲーム |
| 6 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | テニス④5/26（テニスコート） | ボレーの基本練習、ダブルスゲーム形式（雁行陣、デュースサイド） |
| 7 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | テニス⑤6/2（テニスコート） | ボレーの復習、ダブルスゲーム形式（雁行陣、アドバンテージサイド） |
| 8 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | テニス⑥6/9（テニスコート） | トータル練習、サービスからダブルスゲーム |
| 9 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | テニス⑦6/16（テニスコート） | 前衛の練習（ポーチ、フェイント）、ダブルスゲーム |
| 10 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | テニス⑧6/23（テニスコート） | トータル練習、シングルス・ダブルスゲーム |
| 11 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 種目選択①6/30（テニスコート、グラウンド） | 屋外種目の中から成立する種目の自由選択（テニス、ソフトテニス、グラウンドゴルフ、ソフトボールなど） |
| 12 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 種目選択②7/7（テニスコート、グラウンド） | 屋外種目の中から成立する種目の自由選択（テニス、ソフトテニス、グラウンドゴルフ、サッカーなど） |
| 13 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 種目選択③7/14（テニスコート、グラウンド） | 屋外種目の中から成立する種目の自由選択（テニス、ソフトテニス、ゴルフ、ソフトボールなど） |
| 14 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 種目選択④7/21（テニスコート、グラウンド） | 屋外種目の中から成立する種目の自由選択（テニス、ソフトテニス、ゴルフ、サッカーなど） |
| 15 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 個別指導7/28 | 個別に指導する |
| 16 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 卓球①9/8（体育館1F） | 体育館施設と用具の安全取り扱いについて説明、各種ショットの基本練習、シングルスゲーム |
| 17 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 卓球②9/22（体育館1F） | 色々なサービスの練習、シングルスゲーム |
| 18 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 卓球③9/29（体育館1F） | ダブルスの動きに慣れる練習、ダブルスゲーム |
| 19 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 卓球④10/6（体育館1F） | トータル練習、シングルス・ダブルスゲーム |
| 20 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 卓球⑤10/13（体育館1F） | シングルス・ダブルスのハンディキャップマッチ |
| 21 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | バドミントン①10/20（体育館2F） | 用具の安全取り扱いについて説明、各種ショットの基本練習、シングルスゲーム |
| 22 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | バドミントン②10/27（体育館2F） | ショート・ロングサービスの練習、シングルスゲーム |
| 23 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | バドミントン③11/10（体育館2F） | ダブルスの動きに慣れる練習、ダブルスゲーム |
| 24 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | バドミントン④11/17（体育館2F） | トータル練習、シングルス・ダブルスゲーム |
| 25 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | バドミントン⑤11/24（体育館2F） | シングルス・ダブルスのハンディキャップマッチ |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 26 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 種目選択①12/1（体育館） | 体育館種目の中から成立する種目の自由選択（卓球、バドミントン、ピックルボール、バレーボールなど） |
| 27 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 種目選択②12/8（体育館） | 体育館種目の中から成立する種目の自由選択（卓球、バドミントン、ピックルボール、バスケットボールなど） |
| 28 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 種目選択③12/15（体育館） | 体育館種目の中から成立する種目の自由選択（卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボールなど） |
| 29 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 種目選択④12/22（体育館） | 体育館種目の中から成立する種目の自由選択（卓球、ピックルボール、バレーボール、バスケットボールなど） |
| 30 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 個別指導1/5 | 個別に指導する |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①困難な課題であっても、根気強く取り組むことができる<br>②他者を理解し、協力して行動することができる<br>③それぞれの種目のルールやマナーを理解し、教員の助言無しで試合を行うことができる<br>④安全に配慮して行動することができる |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>授業への参加状況や授業に取り組む姿勢（60%）、技術の向上（10%）、他者理解（10%）、ルール・マナーの理解（10%）、安全への配慮（10%） |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 降雨等によりグラウンドやテニスコートの状態が悪い場合は体育館にて行うため、体育館用シューズを用意してください。<br>体を動かすことの楽しさや爽快感、スポーツを通じて得られる仲間との交流を楽しんでください。<br>運動着、運動靴の準備を忘れないようにしてください。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | プロテニスプレーヤー、テニスコーチの経験を活かし、初心者には丁寧に分かりやすく、また中級・上級者には試合における戦術やメンタル・フィジカルのトレーニング方法をアドバイスします。 |

**教員免許取得のための選択科目**

| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | | |
|---|---|---|---|---|
| **種別** | **書名** | **著者･編者** | **発行所** | **定価(円)** |
| **参考書** | ステップアップ高校スポーツ | | 大修館書店 | |

# 健康とスポーツ演習（汗を流しながら、クラスの人との交流を深めましょう。）

Health Sports Seminar

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位
**授業対象：** 指定なし（M学部，PT専攻を除く）　火２／［自由］PT専攻　火２
**科目責任者：** 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ
**担当者：** 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ※
**備考：** 科目ナンバリング：L104-HH04／授業形態：実習・実技

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | この科目では、「体力・技・コミュニケーション能力」を向上させ、健康で明るい大学生活と将来の社会生活に役立つ基盤の一端を構築することを目標とします。 |
| **教育内容** | 授業では身体活動を通じて「体力・技・コミュニケーション能力」の向上を目指します。なお、天候や履修者の状況等により、内容を一部変更する場合もあります。 |
| **教育方法** | 【この授業は対面とオンラインを併用して実施します】<br>授業は全体学習を中心に展開し、加えて状況に応じてグループ学習を行います。<br>【フィードバックの方法】<br>課題に関する質問等については、授業中やメールにて受け付け、回答します。<br>【Google Classroomクラスコード】llh4u4v |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習時間：30時間】<br>予習：次回の授業で取り扱うテーマについて、本やインターネットなどで調べておくこと（毎回30分程度）。<br>復習：授業内容をノートにまとめておくこと（毎回30分程度）。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | ガイダンス4/15（教室）<br>【対面】 | 授業内容、評価基準、服装・シューズの説明等 |
| 2 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | テニス①4/22<br>【オンライン】 | シングルスのルールとグラウンドストロークについて学習する |
| 3 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | トレーニングルーム利用説明5/6（トレーニングルーム）<br>【対面】 | 有酸素系・ウェイトトレーニング機器関連の使用方法を説明した後、実際にトレーニングを行う |
| 4 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | テニス②5/13（テニスコート）<br>【対面】 | テニス施設と用具の安全取り扱いについて説明、グラウンドストロークの基本練習、フォアハンドストロークからシングルスゲーム |
| 5 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | テニス③5/20<br>【オンライン】 | 回転をかけるグラウンドストロークとオーバーハンドサービスについて学習する |
| 6 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | テニス④5/27（テニスコート）<br>【対面】 | グラウンドストロークの復習、バックハンドストロークからシングルスゲーム |
| 7 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | テニス⑤6/3（テニスコート）<br>【対面】 | オーバーハンドサービスの基本練習、サービスからシングルスゲーム |
| 8 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | テニス⑥6/10<br>【オンライン】 | ダブルスのルールとボレーについて学習する |
| 9 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | テニス⑦6/17（テニスコート）<br>【対面】 | ボレーの基本練習、ダブルスゲーム形式（雁行陣、デュースサイド） |
| 10 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | テニス⑧6/24（テニスコート）<br>【対面】 | ボレーの復習、ダブルスゲーム形式（雁行陣、アドバンテージサイド） |
| 11 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | バドミントン①7/1<br>【オンライン】 | 基本ショットとシングルス・ダブルスのルールについて学習する |
| 12 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | バドミントン②7/8（体育館1F）<br>【対面】 | 体育館施設と用具の安全取り扱いについて説明、各種ショットの基本練習、シングルスゲーム |
| 13 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | バドミントン③7/15（体育館1F）<br>【対面】 | ダブルスの動きに慣れる練習、ダブルスゲーム |
| 14 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 卓球①7/22<br>【オンライン】 | 基本ショットとシングルスのルールについて学習する |
| 15 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 個別指導7/29<br>【対面】 | 個別に指導する |
| 16 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 卓球②9/9（体育館1F）<br>【対面】 | 用具の安全取り扱いについて説明、各種ショットの基本練習、シングルスゲーム |
| 17 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 卓球③9/16（体育館2F）<br>【対面】 | 色々なサービスの練習、シングルスゲーム |
| 18 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 卓球④9/30<br>【オンライン】 | ダブルスのルールについて学習する |
| 19 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 卓球⑤10/7（体育館2F）<br>【対面】 | ダブルスの動きに慣れる練習、ダブルスゲーム |
| 20 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | 卓球⑥10/14（体育館2F）<br>【対面】 | トータル練習、シングルス・ダブルスゲーム |
| 21 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | ソフトボール①10/21<br>【オンライン】 | バッティングとルールについて学習する |
| 22 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | ソフトボール②10/28（グラウンド）<br>【対面】 | グラウンド施設と用具の安全取り扱いについて説明、キャッチングとバッティングの基本練習、ランナー無しからの試合（ティーボール） |
| 23 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | ソフトボール③11/4（グラウンド）<br>【対面】 | ダブルプレーの練習、ランナー1塁からの試合（ティーボール） |
| 24 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰﾏﾘｵ | ソフトボール④11/11<br>【オンライン】 | ピッチングについて学習する |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 25 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰ<br>ﾏﾘｵ | ソフトボール⑤11/18（グラウンド）<br>【対面】 | ピッチング練習、時間制の試合（攻撃側がピッチャーを行う） |
| 26 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰ<br>ﾏﾘｵ | ソフトボール⑥11/25（グラウンド）<br>【対面】 | ピッチング練習、時間制の試合（守備側がピッチャーを行う） |
| 27 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰ<br>ﾏﾘｵ | ゴルフ①12/2<br>【オンライン】 | 基本のスイングについて学習する |
| 28 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰ<br>ﾏﾘｵ | 種目選択①12/9（グラウンド、テニスコート）<br>【対面】 | 屋外種目の中から成立する種目の自由選択（テニス、ソフトテニス、ソフトボール、グラウンドゴルフなど） |
| 29 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰ<br>ﾏﾘｵ | 種目選択②12/16（グラウンド、テニスコート）<br>【対面】 | 屋外種目の中から成立する種目の自由選択（テニス、ソフトテニス、サッカー、ゴルフなど） |
| 30 | 板橋　ｸﾘｽﾄﾌｧｰ<br>ﾏﾘｵ | 個別指導1/6<br>【対面】 | 個別に指導する |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①困難な課題であっても根気強く取り組むことができる<br>②他者を理解し、協力して行動することができる<br>③それぞれの種目のルールやマナーを理解し、教員の助言無しで試合を行うことができる<br>④安全に配慮して行動することができる |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>授業への参加状況や授業に取り組む姿勢（60%）、技術の向上（10%）、他者理解（10%）、ルール・マナーの理解（10%）、安全への配慮（10%） |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 降雨等によりグラウンドやテニスコートの状態が悪い場合は体育館にて行うため、体育館用シューズを用意してください。<br>体を動かすことの楽しさや爽快感、スポーツを通じて得られる仲間との交流を楽しんでください。<br>運動着、運動靴の準備を忘れないようにしてください。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | プロテニスプレーヤー、テニスコーチの経験を活かし、初心者には丁寧に分かりやすく、また中級・上級者には試合における戦術やメンタル・フィジカルのトレーニング方法をアドバイスします。 |

**教員免許取得のための選択科目**

| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | | |
|---|---|---|---|---|
| **種別** | **書名** | **著者･編者** | **発行所** | **定価(円)** |
| **参考書** | ステップアップ高校スポーツ | | 大修館書店 | |

# 総合領域科目

総合領域には「北里の世界」「仕事と人生」「農医連携論」の３つの科目があります。「北里の世界」はみなさんに北里大学学生としての自覚と誇りを持っていただくための自校教育、「仕事と人生」は学生のうちから仕事に対する意識を高めるためのキャリア教育、「農医連携論」は持続可能な健康社会をつくることを目指した、食・環境と健康のつながりを理解するための北里大学ならではの教育です。

講義形態はいずれも、毎回異なる講師を学内外から招いてお話しいただきます。とはいえ講師から学生への一方通行にならないよう、みなさんとのコミュニケーションを重視して質疑応答の時間も設けます。

これらは、従来のいわゆる「学問」の範疇には入らない科目です。以前は大学一年次で学ぶ科目は教養教育か基礎教育のいずれかに分類されました。しかし、みなさんが将来、大学を卒業して社会人になると、自分の歩んできた道、これから歩む道、そして今の自分という存在を考えるようになります。自分は何だったのか、自分はどうなるのか、自分は何なのか、と。これらは「学問」を一つ修めたからといって「答」がたやすく見つかるものではありません。総合領域科目は従来の学問にはない視点から人間を考えることによって、この「答」のヒントを見つけていただくことを目指しています。

北里大学の学生になり、そして卒業生になるからには、北里大学で学んだ意義、そして自分の仕事の価値を考えてほしいと思います。

# 北里の世界

The World of Kitasato

**科目概要：** 2025年度　前期・後期／1単位
**授業対象：** 指定なし（P学部を除く）　金２　【前期】／［必修］P学部　木２　【後期】
**科目責任者：** 市川　尊文
**担当者：** 砂塚　敏明／市川　尊文／大村　智／石多　正男／檀原　宏文※／森　孝之／岡　浩太郎／浅見　行弘／阿見彌　典子
**備考：** 科目ナンバリング：L101-IS01／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 1年次の皆さんが、これから4年間あるいは6年間を北里大学ですごし、それぞれの専門課程へ進むにあたり、生物界の一部としての人類を見つめ、サイエンスやテクノロジーとの調和を図りながら「生命に対する畏敬の念」を持つという視点から、科学に基づいて考え行動する力を養成するために、以下のことを目標とします。<br>１．近代日本医学の黎明期を支え、免疫動物の血清を用いた画期的な予防治療法を発見し、細菌学・免疫学の基礎を築いた学祖・北里柴三郎の事績や生きた時代、そこに込められた思い、さらに、北里の学統を継承し、2015年ノーベル生理学医学賞を受賞した大村智特別栄誉教授の研究業績や、本学における学部・大学院の最先端の研究内容などを知ることにより、医療従事者・研究者・教育者などを志す者として、人類に恩恵を与える生命科学・医学の進展とその制御の重要性を理解する。<br>２．大学の理念は、基礎研究や応用を通して社会貢献をすることである。しかし、最先端の科学は、時として人間による制御を越えて自己増殖する危険性をはらんでおり、大きな倫理的な問題も惹起する。研究倫理を遵守することや大学という最高学府で学ぶことの意義を理解し、今後の学習に対する目標やモチベーションを獲得する。 |
| **教育内容** | 科学者としての北里柴三郎とその弟子たち、柴三郎が生きた時代背景を知り、北里研究所および北里大学の歩みをたどるとともに、生命科学・医学の最先端を知り、科学的なものの見方、考え方、学ぶことの面白さを理解する。<br>（キーワード）生命科学／北里柴三郎／細菌学／免疫学／感染制御／チーム医療／農医連携／創薬／臨床研究／福沢諭吉 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>学長、副学長をはじめ、大村特別栄誉教授、本学の教員、名誉教授、北里柴三郎記念博物館の職員など多彩な講師による多面的な視点によりオムニバス形式の講義を展開し、北里大学全体を俯瞰する。また教育効果を高めるため、課題を提示し、小論文試験を課す。講義はプリントやPC(プレゼンテーション)による講義形式、記念博物館見学によるフィールドワークで行う。<br>【フィードバックの方法】小論文の採点結果について、講師から総評としてコメントをGoogleClassroomでフィードバックする。 |
| **準備学習（予習・復習）** | 予習:授業内容に関連した文献を読んでおくこと。復習:授業中に取り上げた文献を読み直し自分の考えをまとめる。<br>授業時間外学習：29時間 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 砂塚　敏明<br>大村　智 | 【前期】4/11【後期】9/11<br>イントロダクション・<br>北里柴三郎先生の実学と私の研究 | イントロダクション、科目「北里の世界」について。<br>北里柴三郎博士の実学の思想を受け継いだ研究人生において数多く発見した化合物の中でも、特にノーベル賞受賞対象となったIvermectinと、その他代表的な化合物としてStaurosporineについて、どのように社会貢献しているかを述べる。 |
| 2 | 石多　正男 | 【前期】4/18【後期】9/18<br>北里柴三郎が生きた社会と文化 | 北里柴三郎が生きた1853年～1931年の日本、そしてヨーロッパの社会や文化はどのようなものだったのか。学祖の人格、そしてあのパワーを生み出した時代の諸相を考える。 |
| 3 | 檀原　宏文 | 【前期】4/25【後期】9/25<br>細菌学者としての北里柴三郎<br>～北里柴三郎の教育が<br>今に伝えること～ | ペスト菌は北里柴三郎とエルサンがそれぞれ独立に香港で発見した。しかし、ペスト菌の学名はYersinia pestis（エルサンのペスト菌）である。何故か。そして、北里柴三郎の教育が今に伝えること、とは何か。 |
| 4 | 森　孝之 | 【前期】5/2【後期】10/2<br>北里柴三郎による伝染病対策の基本 | 医療体制が未成熟な明治・大正時代に感染症と戦った細菌学者の生涯を辿る。<br>紆余曲折の人生を歩み現在に繋がる医療の安心・安全の基盤を築いた学祖・北里柴三郎の「実学の精神」を学ぶ。 |
| 5 | 岡　浩太郎 | 【前期】5/9【後期】10/9<br>北里柴三郎が現代に研究をしたのなら… | 北里柴三郎は嫌気性培養セットや亀の子シャーレを開発し、破傷風菌の純粋培養に成功した「創意と工夫」のひとであった。もし北里が現代に研究を行なっていたら、データサイエンスにも興味を持ったことであろう。学祖の研究に触れながらデータサイエンスと生命科学との関わりについて考えたい。 |
| 6 | 浅見　行弘 | 【前期】5/16【後期】10/16<br>研究者とは？科学者とは？研究とは？ | 研究者とは？科学者とは？について議論したい。特に、研究、記号論理学、討論の重要性について説明し、口頭発表における心構えを学ぶ。そして、現在の大村智記念研究所で行われている研究について紹介したい。 |
| 7 | 阿見彌　典子 | 【前期】5/23【後期】10/23<br>魚類の行動生理学研究を水産分野で役立てるために | 魚類を飼育して観察・解析することで何が得られるのか。どのようなことまでわかるのか。飼育実験の面白さと、水産への応用について考える。 |
| 8 | 市川　尊文 | 北里柴三郎記念博物館見学 | 資料・書簡・北里博士が実際に使用した実験器具等に接し、業績とその生涯を実感する。興味を持った点、感銘を受けた点などをレポートとして提出。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1．これから何をめざして進むべきか、自己探求のきっかけをつかみ、北里大学で学ぶことの意義や学び方を理解できる。<br>2．この授業で学修したことにより、自分は北里大学の学生として、どのように過ごすか。また、就職活動や留学の際などに「北里大学って、どんな大学ですか？何を学びましたか？」という質問に、どう回答するかを結び付けて考えることができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>①小論文試験：A4判　約1,200文字。出題担当者：石多、檀原、森。小論文提出：各課題提示の別途指示する。採点：各担当者の採点を合計して90点とする。②北里柴三郎記念博物館見学：10点（白金キャンパス、記念博物館内にて出欠を取る）。後期の見学期間等の詳細は別途掲示する。成績評価は①小論文試験と②記念博物館見学の合計100点満点で評価する。なお、小論文・見学課題をGoogleClassroomに提出できなかった場合に対しては、一切の救済措置はとらないので注意すること。また、小論文を出題する回の講義に出席していない者については、小論文の提出を認めない（履修変更により第3回から出席する学生について、第2回講義において出題される小論文課題に関しては別途措置を設けることとする）。見学課題についても、記念博物館内にて出席登録をしていない者の提出を認めない。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 積極的に取り組めば学生生活に自信と誇りが生まれる。自分の中の秘められた可能性を見つけてほしい。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 【檀原　宏文】<br>研究所での細菌研究を通して北里博士の功績に触れ、細菌学者としての北里博士や細菌学的意義を概説する。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | ラウソンレポート | 檀原宏文 | 北里柴三郎記念会発行 | |
| **参考書** | 北里柴三郎学術論文集 | 林志津江、森孝之、檀原宏文、手塚甫 | 学校法人北里研究所発行 | |
| **参考書** | 北里柴三郎　／　増補　北里柴三郎とその一門 | 長木大三 | 慶応義塾大学出版会 | |
| **参考書** | 破傷風菌論 | 北里柴三郎、中村桂子 | 哲学書房 | |
| **参考書** | 資料から見る北里柴三郎の功績 | 森孝之 | 学校法人北里研究所発行 | |

# 仕事と人生（～未来への羅針盤～）

Vocational Education

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位
**授業対象：** 指定なし　金２／［必修］PL学科　金２　《履修推奨科目》
**科目責任者：** 向井　孝夫
**担当者：** 向井　孝夫／髙橋　香代子※／中村　陽子※／伊藤　道彦※／金原　嘉子※／青木　友寛※／清野　正子※／佐々木　洋武※
**備考：** 科目ナンバリング：L101-IS02／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 「仕事と人生」の底流は、科学と技術の進化にしたがう社会構造の移り変わり、あるいはジェンダー等の理解を含む個と集団のつながりの変化にともない、常に変動する。生命科学を基盤とする様々な分野の話から、未知の世界を見聞して視野を広げ、「未来への羅針盤」として自身の今後の人生を考える契機とすることを、この講義の目的とする。 |
| **教育内容** | 北里大学の理念「いのちを尊び、生命の真理を探究し、実学の精神をもって社会に貢献する」に則り、多様な社会で働く人の生き方を見聞させることにより、夢や希望を抱かせ、向学心を高める。また、社会や考え方の多様性を認識させる。さらに、未知の世界を知らせ、視野や思考経路を広げることにより、社会を生き抜くための「理系＋αの知識と思考力・創造力」の必要性を理解させる。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>下記にあげる参考書等を材料とする、学内外の講師によるオムニバス形式の講義。<br>【フィードバックの方法】初回講義に課題を出し、それに対するレポートの内容を次回以降の講義内容に反映する。<br>【Google Classroomクラスコード】ygnu7bq |
| **準備学習（予習・復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：29時間】<br>予習：下記の「授業内容」にあげた参考書等の精読。　復習：講義を受け考えたこと、重要だと感じたことのまとめ。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 向井　孝夫<br>髙橋　香代子 | オリエンテーション<br>【学長補佐・就職センター長】<br>出会いの一つ一つが自分にとっての「仕事」をかたどっていく<br>【医療衛生学部 教授】（5/30） | 講師を紹介し、本講義の目的と全体像を示す。(講義ガイダンス)<br>作業療法士を目指して北里に入学し、大学から大学院へ進学、さらに米国留学へ。役割という意味での「仕事」の概念の変遷を、ライフステージにおける様々な出会いを通して紹介する。 |
| 2 | 中村　陽子 | 誰かとつながる、誰かに届ける<br>【健康管理センター 講師】（6/6） | 変動する社会で心理職の動向はどう変遷してきたのか、また、自分が心理職として様々な現場で仕事をしながらどのようなことを感じ、考えてきたのかを紹介する。 |
| 3 | 伊藤　道彦 | Passion・Art・Love・Scienceと仕事<br>【理学部 准教授】（6/13） | 研究・教育者・人間として、仕事と人生と世界への個人的アフォリズムを紹介：時代を、AIを楽しみ、未来を想像しよう！君の脳はDNAを凌駕する！ミームを変えよう！ |
| 4 | 金原　嘉子 | 「自分らしく幸せな働き方」を実現させるためのマインドを磨こう<br>【㈱サクセスフルエイジングサポート代表取締役】（6/20） | 看護師・保健師としての経験から学んだ「自分らしく幸せな働き 方」とは？そして、今から実践できる、その働き方を実現させるためのマインドの磨き方を紹介・体験する。 |
| 5 | 青木　友寛 | 私たちと食の未来～好きなことを仕事に選んだ私がさかなを通じて人生をデザインしていくまで～<br>【水産庁 漁政部 漁政課 広報班】<br>（6/27） | 世界の食料問題や我が国の食料事情等について概説したうえで、我が国の農林水産業、特に水産業の現状や課題について掘り下げて紹介する。その中で、国家公務員を就職先として選んだ経緯や水産庁で働いてきた自身の経験等を振り返り、受講者に向けて自分の人生やキャリアをデザインするためのヒントやそれらを考えてもらうためのきっかけを提供する。 |
| 6 | 清野　正子 | 薬学と仕事～北里生の未来について～<br>【薬学部 教授】（7/4） | 北里生のみなさんが、社会人として活躍する場所（仕事）を明確化・実現化するために、今、何を学び・経験するべきかを意識することができる。薬に魅力を感じて入学した薬学での学び（大学、大学院）やアメリカ留学を振り返り、今の仕事にどう繋がったのかを紹介する。 |
| 7 | 佐々木　洋武 | 『夢と現実』今の自分に出来る事<br>【Meiji Seikaファルマ(株) MR】<br>（7/11） | もしも自分の想い描いていた未来と少し違う場所に行きついてしまったら！？『将来の夢≠仕事』だとしても、やり抜く事と志の重要性を紹介する。 |
| 8 | 向井　孝夫 | まとめ（7/18） | 本講義での疑問、質問を受け付ける。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 自分に与えられた時間と環境を認識し、自己の特性を理解したうえで将来の進路選択を含め、大学生活4年間（あるいは6年間）でやるべきことを自ら考え、人生計画の概要を設計できるようにする。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：レポート 実施時期：試験期間外<br>学期末レポート（90点）、課題レポート（10点）により評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 講義から様々なことを学び、学生生活を有意義に過ごすためのプランをつくり、実践していくことを望みます。また、目標へ到達する道筋は一つではないので、受講後には是非とも友人とディスカッションをしてみてください。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | [高橋 香代子]　大学病院や医療衛生学部での実務経験から、北里大学での学生時代の経験が、どのように現在の仕事へと繋がっているか紹介する。　[中村 陽子]　医療機関や教育機関などで心理士（師）として仕事をした経験を伝える。　[伊藤 道彦]　研究所での基礎研究経験と本学での研究経験が、自身の研究人生（仕事）にどう関わってきたかを話す。　[金原 嘉子]　健康支援の実務経験、更に病院→行政→独立という働き方の変化から得られた学びと気づきを伝える。　[青木 友寛]　国家公務員として働いてきた経験等を紹介し、キャリアや人生をデザインすることについて考えてもらうヒントやきっかけを提供する。　[清野 正子]　大学にて教育と研究に従事してきた約30年間の経験について、自分の視点から、また送り出した卒業生の視点から、それぞれ話す。　[佐々木 洋武]　製薬会社での実務体験を踏まえ、激変する社会環境に於いて働くことの意義や心構え等を会社員の立場から紹介する。 |

| 種別 | 書名 | 著者・編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | 仕事が人をつくる（第1回） | 小関 智弘 | 岩波書店 | |
| 参考書 | 古くてあたらしい仕事（第2回） | 島田 潤一郎 | 新潮文庫 | |
| 参考書 | オス脳ミーム～男が戦争をする理由を進化学から解く～（第3回） | 伊藤 道彦 | 幻冬舎メディアコンサルティング | |
| 参考書 | どんな仕事も楽しくなる３つの物語（第4回） | 福島 正伸 | きこ書房 | |
| 参考書 | 道をひらく（第5回） | 松下 幸之助 | PHP研究所 | |
| 参考書 | チーズはどこへ消えた？（第6回） | スペンサー・ジョンソン | 扶桑社 | |
| 参考書 | すべては導かれている 逆境を超え、人生を拓く五つの覚悟（第7回） | 田坂 広志 | 小学館 | |

# 農医連携論
Agromedicine

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位
**授業対象：** 指定なし　火２　《履修推奨科目》
**科目責任者：** 向井　孝夫
**担　当　者：** 向井　孝夫／堤　明純※／齋藤　有紀子／吉永　龍起／伊藤　道彦／清　和成※／柿野　亘／小林　義典※／饗庭　尚子※／学事企画部
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-IS03／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 農医連携ってなんだろう？という疑問を持つ学生諸君も多いだろう。本学がすすめる農医連携は農を「食・環境・多様な生命」、「医」を「人の健康の維持・増進」と捉え、両者が互いに理解しあい密接に結びつくことで、持続可能な健康長寿社会の土台をつくることを目指している。本講義では、生命科学を基軸に学ぶ本学の学生が、持続可能な健康長寿社会をつくるために食や環境と心身の健康のつながりを理解することがいかに重要であるかを学び、現代社会あるいは将来起こり得る問題を幅広い視点で理解する。また、グループワーク、ディスカッションや発表を通して自分の意見を論理的に話す基礎能力を身につけることを最終目的とする。 |
| **教育内容** | 人の健康とは何かを解説した上で、健康に及ぼす正と負の影響に関する食や環境問題の現状を紹介する。また、学生諸君においても、身近な健康問題と食や環境とのつながりを自発的に調べてもらい、問題解決への道筋を議論し考えてもらう。なお、本講義は、種々の専門を持つ教員が担当することで、学生諸君は自身の専門外に目を向け、幅広い柔軟な考えを身に着けることができるようになることを期待する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>複数教員によるオムニバス方式の講義を実施する。また、あらかじめ提示された課題に対するレポートを提出する。最終講義日に課題についてグループワークを通して個人の意見を提示するとともに一つの意見に集約し、プレゼンテーションを行う。<br>【フィードバックの方法】グループごとにまとめられた発表に対して、複数の教員によるフィードバックをリアルタイムで行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：25時間】<br>予習：ガイダンス時に紹介する授業内容に関連した文献を読んでおくこと。<br>復習：授業中に取り上げた資料や文献を読み直すこと。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 向井　孝夫 | いまなぜ農医連携か？<br>～北里大学発　農医連携（概説）～ | 北里大学で農医連携を推進する意義を理解する。 |
| 2 | 堤　明純 | 健康とは？<br>～医学からみた農医連携～ | 健康とは何かを理解するとともに、疾病を予防し、健康な状態で生命を延伸し、身体的・精神的機能の増進をはかるために、食に関わる健康リスクと予防について視野を広げる。 |
| 3 | 吉永　龍起 | 海洋生物の多様性と健康とのつながり | 陸上の動植物と比べ、海洋生物は天然資源が多く利用されている。一方、海洋の生物資源は大変動する特性を持ち、また人間活動による影響も生じている。食料としてのみならず医薬品の開発にも重要な海洋生物の多様性を理解し、持続的に利用する方法について考える。 |
| 4 | 伊藤　道彦 | 陸生生物の多様性と健康とのつながり | 地球上には200万種ほどの生物種が存在すると考えられている。生命進化と生物多様性について、環境とゲノム進化という観点から概説する。さらに、生物の多様性・食・環境・疾病とのつながりを進化学的観点から考える。 |
| 5 | 清　和成 | 環境汚染と私たちの健康 | 人類は産業革命以後、物質的な豊かさの恩恵には恵まれたが、一方では有害物質の的確な管理や制御ができず、環境汚染や職業性暴露から多くの被害者を発生させてきた。また、開発途上国では、今なお基本的な衛生問題に直面している。現在の環境問題や衛生問題を、世界を見渡して解説・議論する。 |
| 6 | 柿野　亘 | SDG'sと持続可能な水田稲作農法 | SDG'sにおける目指すべきゴールのひとつである陸上生態系の保護・回復および持続可能な利用の推進に大きく影響を与える稲作農法を紹介し、今後の生態系保全と私たちの健康にも関わる稲作のあり方について考える。 |
| 7 | 堤　明純 | 医学からみた食の安全・安心 | 公衆衛生学的な視点から、食品の安全・衛生と食行動を材料に、健康障害の予防について考える。食品中の化学物質、微生物が健康に及ぼす影響及び評価について理解し、リスク回避のために生産、加工・流通、消費に渡って取るべき行動について考える。 |
| 8 | 小林　義典 | 食と医薬、生活習慣と健康<br>～東洋医学の視点から～ | 「健康長寿」は、現代人が実現すべき大きな目標の１つである。古来、人類は「不老長生」を夢とし、それを実現するために、様々な考察や試みが行われてきた。本講義では、「健康長寿」を実現するためのツールとしての食と医薬、生活習慣の改善について講義し、東洋医学の視点から考察する。 |
| 9 | 向井　孝夫<br>饗庭　尚子 | 農医連携による新しい試み<br>～動物介在療法の実践的取組～ | 北里大学メディカルセンターで実践している動物介在療法を紹介するとともに、その意義について理解する。 |
| 10 | 向井　孝夫<br>齋藤　有紀子 | 総合討論 | 21世紀における農医連携のあるべき姿を考える。そのために、学生の意見をとりまとめ、討論・発表する場を設置する。履修者数によってグループ分けし、数回に分けて行う。<br>【注意事項】<br>この講義は全10回です。10回目の最終講義は、履修者数によりグループ分けし、グループ毎に講義日が異なります（曜日・時限は変更なし）。<br>グループ及び10回目の講義日については後日掲示にてお知らせします。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 21世紀には農医連携の科学が不可欠であるとの理解ができる。農と医の歴史的背景が理解できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>評価はレポート60%（各講義のまとめ60%　課題に対するまとめ40%）と最後の講義時間に課すグループワークによる発表40%により評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 専門分野の境界を超えて、課題を解決する力をつけることが大切であることを伝えたいと思います。分野を超えた北里ならではの考え方が「農医連携」です。ぜひ受講して下さい。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 1）地域における食生活を含めた予防活動および食中毒に関する治療経験から食と健康とのつながりを解説する（堤）。2）JICA専門家として派遣された、タイ、ネパールでの環境問題、衛生問題に関する教育と調査、研究の経験を踏まえ、開発途上国の環境問題、衛生問題の実際について概説する（清）。3）民間企業研究所における機能性素材（食品を含む）の開発や薬剤師および太極拳指導員としての東洋医学の実践の経験を踏まえて、生活習慣の予防について、東洋医学の視点から考察する（小林）。4）病院での臨床経験を踏まえ、動物介在療法の意義及び実際の動物介在療法がどのように展開されるのかを概説する（饗庭）。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | 北里大学農医連携学術叢書第1号～第8号 | 陽　捷行 | 養賢堂 | |

# 基礎教育科目

## 外国語系
## 〔英語〕

### 教科の勉学に対する総論

本学に入学した学生の皆さんにとって、各自が今後専攻するいずれの分野においても、国際コミュニケーションの手段として、英語の運用能力を養成することが必須でしょう。そのため、本学の英語のカリキュラムは、社会生活および職業生活において実際に使える英語を身につけることを目指して組まれています。具体的には、四技能において英語を学び、自分の意志や考えを英語で伝達する能力の育成が重要視されています。このような目的を達成するため、一年次のカリキュラムは英語ＡⅠ、ＡⅡ、ＢⅠ、ＢⅡの各科目（それぞれ90分の授業で半期制）をできるだけ少人数で行えるようにクラスを編成してあります。

英語ＡⅠ（前期）、ＡⅡ（後期）は、学部・学科の特色を配慮した総合的英語運用能力の向上を目的とします。ここでは、各自の専攻分野での知識や大学生・社会人としての教養が身につくような教材やトピックを選んで学びます。ＢⅠ（前期）、ＢⅡ（後期）は、実際に役立つ英語によるコミュニケーション能力の向上に重点をおいており、プレゼンテーションやアカデミック・ライティングの基礎が学べる授業を一部で導入します。また、特定の場面で必要とされる会話表現が学べる授業も展開されます。英語Ａ、英語Ｂともに、皆さんには予習・復習を十分に行い、積極的な態度で授業に参加していただきたいと思います。

もちろん、コミュニケーションのための英語教育と言っても、“how to speak”と同時に“what to speak”の裏づけがともなわなければ、グローバル社会で役立つ英語とはいえないでしょう。特に、日進月歩の自然科学系の学問分野を専攻する皆さんは、やがて最新の論文を英語で読み、かつ、書いたりしなければならず、また、英語を使って国際的活動に参加する機会もますます増えています。従って、幅の広い教養と共に専門の知識に裏打ちされた英語力が一層必要なことは明らかです。専門分野との関連性を配慮し、総合的な英語力の養成を目指す英語ＡⅠ、ＡⅡ、海外での研究や活動を見据えた実用英語運用能力の養成を目的とするＢⅠ、ＢⅡコースは、そうした要請に応えるものです。また、学部によっては、各科目に基礎コースを設け、英語は不得意だけれど、基礎から習得しようとする学生の皆さんの便宜を図っています。

以上のように創意工夫されたカリキュラムをいかに活用するかは、ひとえに皆さんの旺盛な学習意欲にかかっています。さらに、コンピュータを利用した外国語学習施設＜CALL Room＞*が２部屋設置されているので、正規の授業と並行してこれらの施設を自学自習用としても十分に活用し、自ら主体的に英語を習得しようとする姿勢も同時に身につけて下さい。

＊キャンパスガイドおよび北里大学一般教育部ホームページ参照。

# 2025年度薬学部英語履修ガイド

## 英語ＡⅠ･ＡⅡ、ＢⅠ･ＢⅡ授業一覧表

| 薬　学　部 | 英語ＡⅠ・Ⅱ | |
|---|---|---|
| コ　ー　ス | 日時 | 担　当　者 |
| Pab,S1・2 （上級１） | 月２ | 水沼佳津子 |
| Pab,S1・2 （上級２） | | 森景真紀 |
| Pab,S1・2 （普通１） | | 淺間正通 |
| Pab,S1・2 （普通２） | | 未定 |
| Pcd,S3・4 （上級１） | 月１ | 水沼佳津子 |
| Pcd,S3・4 （上級２） | | 森景真紀 |
| Pcd,S3・4 （普通１） | | 淺間正通 |
| Pcd,S3・4 （普通２） | | 未定 |

| 薬　学　部 | 英語ＢⅠ・Ⅱ | |
|---|---|---|
| コ　ー　ス | 日時 | 担　当　者 |
| Pab,S1・2 （上級１） | 木４ | James A. Goddard |
| Pab,S1・2 （上級２） | | Hugh Kirkwood |
| Pab,S1・2 （普通１） | | 矢野奈々 |
| Pab,S1・2 （普通２） | | 平辰彦 |
| Pcd,S3・4 （上級１） | 木３ | (BI) Dustin Kyle Luthro<br>(BII) James A. Goddard |
| Pcd,S3・4 （上級２） | | Hugh Kirkwood |
| Pcd,S3・4 （普通１） | | 矢野奈々 |
| Pcd,S3・4 （普通２） | | 平辰彦 |

## 英語ＡⅠ･ＡⅡ、ＢⅠ･ＢⅡの履修ガイドライン

１．英語ＡⅠ・ＡⅡは、日本人教員による文法、講読を中心とした総合英語能力の養成を目標とした授業であり、専攻分野での知識や大学生・社会人としての教養が身につくような教材やトピックを選んで学ぶ。英語ＡⅠ（前期）とＡⅡ（後期）とは、別個に成績評価を出し、合格した学生に１単位ずつ与えるが、同一教員が同一学生を通年にわたって担当する。

２．英語ＢⅠ・ＢⅡは、実用英語能力の養成を目的としており、プレゼンテーションやアカデミック・ライティングの基礎を学べる授業を一部で導入する。英語ＢⅠ（前期）とＢⅡ（後期）とは、別個に成績評価を出し、合格した学生に１単位ずつ与えるが、同一教員が同一学生を通年にわたって担当する。ただし、Pcd,S3・4 （上級１）のクラスにおいては、ＢⅠはDustin Kyle Luthro、ＢⅡはJames A. Goddardが担当する。

３．英語ＡⅠ・ＡⅡおよび英語ＢⅠ・ＢⅡの習熟度別コース分けについて
Pab,S1・2クラスとPcd,S3・4クラスのブロック別で、上級１、上級２、普通１、普通２の４つのコース（英語Ａ・英語Ｂ共通）を設けて授業を行う。

(1)　コース分けはオリエンテーション期間中にプレイスメントテストを行い、その結果によって決める。コース分けの発表は一般教育部授業情報サイトに掲出する。割り当てられたコース以外に出席しても無効になるので、よく確認すること。

(2)　**一度確定したコースは、学年途中で変更することはできない（後期からのコース変更も認めない）**ので、一旦決まったからには必ず最後まで履修すること。

▽コンピュータを利用した外国語学習施設＜CALL Room＞が２部屋設置されているので、正規の授業と並んで自学自習用としても、最大限に活用して、英語力の向上を図ってもらいたい。
（キャンパスガイドおよび北里大学一般教育部ホームページ参照）

# 英語ＡⅠ
English A I

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位
**授業対象：** ［必修］P学部A・B，S１・２（上級）①　月２／［必修］P学部C・D，S３・４（上級）①　月１
**科目責任者：** 水沼　佳津子
**担　当　者：** 水沼　佳津子※
**備　　考：** 科目ナンバリング：L102-GF01／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | グローバル化に伴い、医療従事者が外国語の１つとして英語を学ぶ重要性はますます高まっている。当科目は医療英語を初めて学ぶ1年生を対象に，受講生が人体に関する英文の読解を通じて、基礎文法を確認しながら、パラグラフの構造などの知識を利用して、正確に、効率よく英文を読み解くことができるようになることを目的としている。 |
| **教育内容** | 各章ごとに人体に関する医学英単語を習得、教科書内の設問に答える形で内容を把握していく。和訳にこだわることなく、内容把握の正確さ、効率的な情報の取得をめざす。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>１：指定範囲の文章の構成（5文型）　２：文章の意味　３：単語の意味と発音の確認　4: 音読<br>以上が準備してあることを前提に、ランダムに学生に確認していく。また、ペアワーク、グループワークで内容についての理解を深める活動をする。<br>随時確認のためのミニテストを行う。<br>【フィードバックの方法】<br>フィードバックとして、ミニテストの結果の評価と問題点を授業内で解説 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：上記１，２，３，４を予習とする。最低0.5時間、また音読を疎かにしがちだが、必ずやってくること。<br>復習：その単元の語彙、文法、表現方法の確認　前回範囲のミニテストの準備を含め、最低0.5時間 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 水沼　佳津子 | ガイダンス　医療英語の語彙の特徴 | 授業の進め方の説明　医療英語の語彙の特徴を講義形式で説明 |
| 2 | 水沼　佳津子 | Chapter 1 | からだと心:医療に関する英文の導入となる語彙、内容を理解する。 |
| 3 | 水沼　佳津子 | Chapter 2 | 一般医療英語：ギリシャ語、ラテン語などを起源とする医療英語に親しむ文章を読む |
| 4 | 水沼　佳津子 | Chapter 3 | 心臓血管系：循環器系の説明文と語彙の理解 |
| 5 | 水沼　佳津子 | Chapter 3　Chapter 4 | 心臓血管系：循環器系の説明文と語彙の理解　確認と定着<br>リンパ系：リンパ系の説明文と語彙の理解 |
| 6 | 水沼　佳津子 | Chapter 4 | リンパ系：リンパ系の説明文と語彙の理解　確認と定着 |
| 7 | 水沼　佳津子 | Achievement Test　動画による学習 | Achievement Test：ここまでの内容の再確認を行う。<br>その後、医療に関する英語による動画を見、それに対する自分の意見をまとめる。 |
| 8 | 水沼　佳津子 | Achievement Test の講評と、動画による学習 | 7回に引き続き、医療に関する動画を見て、自分の意見を英語エッセーにまとめる。<br>Achievement Test の講評を行う。 |
| 9 | 水沼　佳津子 | Chapter 6 | 呼吸器系：呼吸器系の説明文と語彙の理解 |
| 10 | 水沼　佳津子 | Chapter 6 | 呼吸器系：呼吸器系の説明文と語彙の理解　確認と定着 |
| 11 | 水沼　佳津子 | Chapter 7 | 消化器系：消化器系の説明文と語彙の理解 |
| 12 | 水沼　佳津子 | Chapter 7 | 消化器系：消化器系の説明文と語彙の理解　確認と定着 |
| 13 | 水沼　佳津子 | e-learning | Call Roomを使用してTOEICの傾向と対策をさぐる |
| 14 | 水沼　佳津子 | Achievement Test 以降の質疑応答 | Achievement Test 以降の質疑応答 |
| 15 | 水沼　佳津子 | まとめ | 当期のまとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 医療に関する英文を、細部にこだわらず、しかし正確、効率的に読解する能力を獲得することが最終目的。<br>将来必要となる薬学の論文の読解の基礎を習得する。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>定期テスト50%　ミニテスト、その他の提出物'(e-learningを含む）25% 平常点（授業への積極的参加度、態度）25% 欠席は減点 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 医療に関する英単語は最初は馴染みがないために、習得するのに努力がいると思いますが、今後の専門的な学問への基礎となるものですから、意欲的に取り組んで頂きたいと思います。<br>ただ、硬い内容のみの90分の英語の授業は、忍耐を伴うものになりがちですので、時に楽しい内容も交え、メリハリの利いた充実した授業をみなさんと共に進めたいと考えています。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 学部を卒業後、外資系銀行（アメリカ）にて外為の実務をしていました。薬学とは全く異なる分野ですが、必要かつ十分な情報を、正確かつ効率的に把握し、伝達する必要性は嫌というほど、叩き込まれました。分野は違いますが、今後の皆さんのキャリアにも不可欠なものだと思っていますので、英語の授業を通じて伝えていければと思っています。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 医科系学生のための総合英語<br>English for Medical Students | 神山省吾　ローズマリー・オパチッチ　今村喜久子 | 南雲堂 | 2,800円 |
| **教科書** | 「薬学英語基本用語用例集」 | 瀬谷・西村・高津・平井 | 南雲堂 | 1,900円 |

# 英語AⅡ
English AⅡ

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位
**授業対象：** ［必修］P学部A・B，S１・２（上級）①　月２／［必修］P学部C・D，S３・４（上級）①　月１
**科目責任者：** 水沼　佳津子
**担当者：** 水沼　佳津子※
**備考：** 科目ナンバリング：L102-GF02／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 前期と同様、人体に関する英文の読解を通じて、基礎文法を確認しながら、パラグラフの構造などの知識を利用して、正確に、効率よく英文を読み解くことができるようになることを目的としている。 |
| **教育内容** | 各章ごとに人体に関する医学英単語を習得、教科書内の設問に答える形で内容を把握していく。和訳にこだわることなく、内容把握の正確さ、効率的な情報の取得をめざす。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>1：指定範囲の文章の構成（5文法）　２：文章の意味　３：単語の意味と発音の確認　4. 音読　が準備してあることを前提に、ランダムに学生に確認していく。また、ペアワーク、グループワークで内容についての理解を深める活動をする。逐次確認のためのミニテストを行う。<br>【フィードバックの方法】<br>フィードバックとして、ミニテストの結果の評価と問題点を授業内で解説。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：上記1,2,3,4を予習とする。最低0.5時間<br>復習：その単元の語彙、文法、表現方法の確認　最低0.5時間 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 水沼　佳津子 | 筋骨格系　(教科書以外のプリント使用<br>プリントはGoogle Classroomに掲載） | 筋骨格系；筋骨格系の説明文と語彙の理解 |
| 2 | 水沼　佳津子 | 筋骨格系 | 筋骨格系；筋骨格系の説明文と語彙の理解　確認と定着 |
| 3 | 水沼　佳津子 | Chapter 10 | 泌尿器系；泌尿器系の説明文と語彙の理解 |
| 4 | 水沼　佳津子 | Chapter 10 | 泌尿器系；泌尿器系の説明文と語彙の理解　確認と定着 |
| 5 | 水沼　佳津子 | Achievement Test　とDVD教材 | Achievement Test　（３０分）　ここまでの内容の再確認とDVDを見て医療について考える |
| 6 | 水沼　佳津子 | DVD<br>Achievement test の講評とDVD | まとめのテストの説明とDVD |
| 7 | 水沼　佳津子 | Chapter 11 | 内分泌系：内分泌系の説明文と語彙の理解 |
| 8 | 水沼　佳津子 | Chapter 11 | 内分泌系：内分泌系の説明文と語彙の理解　確認と定着 |
| 9 | 水沼　佳津子 | 感覚器系（教科書以外のプリント使用<br>Google Classroomに掲載） | 感覚器系の説明文と語彙の理解 |
| 10 | 水沼　佳津子 | 感覚器系 | 感覚器系の説明文と語彙の理解　確認と定着 |
| 11 | 水沼　佳津子 | Chapter 17 | 脳の生理に関する説明文と語彙の理解 |
| 12 | 水沼　佳津子 | Chapter 17 | 脳の生理に関する説明文と語彙の理解　確認と定着 |
| 13 | 水沼　佳津子 | e-learning | Call Roomを使用してTOEICの練習 |
| 14 | 水沼　佳津子 | 課題 | Achievement Test 以降の確認の課題 |
| 15 | 水沼　佳津子 | まとめ | 当期のまとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 医療に関する英文を、細部にこだわらず、しかし正確、効率的に読解する能力を獲得することが最終目的。<br>医療英語の基本的な語彙を獲得し、薬学の論文の読解の基礎が習得できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>定期テスト50% ミニテスト、その他の提出物(e-learningを含む）25% 平常点（授業への積極的参加度、態度）25% 欠席は減点 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 前期同様、医療に関する英単語に親しみながら、今後の専門的学問への基礎となる文章読解に意欲的に取り組んでいただきたいと思います。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 前期同様、必要かつ十分な情報を、正確かつ効率的に把握し、伝達する技能を、実務で培った経験から指導していきたいと思います。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 医科系学生のための総合英語<br>English for Medical Students | 神山省吾　ローズマリー・オパチッチ　今村喜久子 | 南雲堂 | 2,800円 |
| **教科書** | 「薬学英語基本用語用例集」 | 瀬谷・西村・高津・平井 | 南雲堂 | 1,900円 |

# 英語ＡⅠ
English A I

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位
**授業対象：** ［必修］P学部A・B，S１・２（上級）②　月２／［必修］P学部C・D，S３・４（上級）②　月１
**科目責任者：** 森景　真紀
**担　当　者：** 森景　真紀
**備　　考：** 科目ナンバリング：L102-GF01／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 薬学の専門に進む前段階として必要な英語力を「聴く」「読む」「話す」「書く」活動を通して養成する。英語で書かれた内容から必要な情報を収集し、その情報をただ鵜呑みにするのではなく、自分で複数の観点から論理的に考える“Critical Thinking”の姿勢を身に付ける。さらに、自身の考えを課題にそってまとめ、表現する力を習得することを目的とする。また、聞き手に理解してもらえる(intelligible)発音とイントネーションも同時に身に付ける。語学学習の楽しさを知り、自主的な英語学習の動機につなげていく。副教材の用語集を使用して、基本的な医療専門用語も身に付ける。 |
| **教育内容** | (1)「聴く」活動：会話を聴いてディクテーションを行う。日本語と英語の音韻的な違いについて入門的知識を学び、発音練習をする。<br>(2)「読む」活動：リーディング・ストラテジーを学ぶ。「読む」活動でライティングに活かせる知識も身に付けられることを学ぶ。<br>(3)「話す」活動：本文に関連したトピックについて考えを述べる練習をする。<br>(4) 文法学習：本文に出てきた文法・構文に焦点を当て、場面や文脈に即した用法を学習する。<br>(5)「書く」活動：本文に関連したトピックについて、パラグラフを書いてレポートする。<br>(6) 復習テスト：各ユニット終了時に語彙テストを行う。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>資料の配布/課題提出のためにGoogleClassroomに登録してください。<br>GoogleClassroomクラスコード（P学部C・D，S３・４（上級）②　月１）：euozwew<br>GoogleClassroomクラスコード（P学部A・B，S１・２（上級）②　月２）：rwtgs2f<br><br>【Vocabulary】<br>本文で使用される語句をマッチング問題で確認する。（必ず辞書で意味と発音の両方を確認してください。）<br>【Reading】<br>・段落ごとの内容を整理しながら文章全体の構造を把握し、論点を読み取る練習をする。<br>・パラグラフ構造を意識しながら文章全体の構造を立体的に捉える練習をする。<br>【Writing】<br>各ユニットで取り上げるライティングスキルについての解説を聴き、演習を行う。<br>【Listening&Speaking】<br>・各ユニットのテーマに関連したダイアローグを聴いて空欄を埋めるディクテーションを行う。<br>・日英語の音韻的規則の違いについての解説を聴き、リスニングと発音演習を行う。<br>【フィードバックの方法】<br>学生の授業中の発言に対しては随時行う。提出された答案・レポートの特徴的な見解や誤解については、次回の授業でクラス全体に匿名で提示してコメントする。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 授業時間外に必要な学習の時間：15時間<br>【予習】<br>① 本文を読んで、各パラグラフの要点を書き出す。<br>② 授業で指示された課題に取り組む。<br>【復習】<br>① 本文を読んで、Comprehension Questions B の問いに答える。<br>② 授業で指示された課題に取り組む。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 森景　真紀 | ガイダンス | (1) 授業の進め方、受講の注意点について<br>(2) 課題作成について（ファイル作成方法、提出方法など）<br>(3) これまでの英語学習についてのアンケート |
| 2 | 森景　真紀 | UNIT 1【No Car, Happy Life? Carless Cities in Spain　車のない街はパラダイスかもしれない】① | Reading：都市計画（本文前半）<br>Writing：Paragraph Structure and Organization |
| 3 | 森景　真紀 | UNIT 1【No Car, Happy Life? Carless Cities in Spain　車のない街はパラダイスかもしれない】② | Reading：都市計画（本文後半）<br>Writing：Paragraph Structure and Organization |
| 4 | 森景　真紀 | UNIT 1　Active Learning | Listening&Speaking<br>日英語比較の観点で学ぶ英語シリーズ①「音の種類」 |
| 5 | 森景　真紀 | UNIT 2【Science Fiction Is Not Fiction: Building Down and Building Underwater　SF が現実に：地下都市や海中都市は実現可能か？】① | Reading：建築（本文前半）<br>Writing：Introduction / Topic Sentence |
| 6 | 森景　真紀 | UNIT 2【Science Fiction Is Not Fiction: Building Down and Building Underwater　SF が現実に：地下都市や海中都市は実現可能か？】② | Reading：建築（本文後半）<br>Writing：Introduction / Topic Sentence |
| 7 | 森景　真紀 | UNIT 2　Active Learning | Listening&Speaking<br>日英語比較の観点で学ぶ英語シリーズ②「リズム」 |
| 8 | 森景　真紀 | UNIT 3【Save Summer Heat for Winter: Air Conditioning Past and Future　夏の暑さを保存して冬の暖房に：エアコンの過去と未来】① | Reading：環　境<br>Writing：Body / Supporting Sentences |
| 9 | 森景　真紀 | UNIT 3【Save Summer Heat for Winter: Air Conditioning Past and Future　夏の暑さを保存して冬の暖房に：エアコンの過去と未来】② | Reading：環　境<br>Writing：Body / Supporting Sentences |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 10 | 森景　真紀 | UNIT 3　Active Learning | Listening&Speaking<br>日英語比較の観点で学ぶ英語シリーズ③「子音連続」 |
| 11 | 森景　真紀 | UNIT 4 【Are You Ready for Cultured Meat?　シャーレから生まれた培養肉の衝撃：家畜が消える未来】① | Reading：バイオサイエンス<br>Writing：Conclusion / Concluding Sentence |
| 12 | 森景　真紀 | UNIT 4 【Are You Ready for Cultured Meat?　シャーレから生まれた培養肉の衝撃：家畜が消える未来】② | Reading：バイオサイエンス<br>Writing：Conclusion / Concluding Sentence |
| 13 | 森景　真紀 | UNIT 4　Active Learning | Listening&Speaking<br>日英語比較の観点で学ぶ英語シリーズまとめ |
| 14 | 森景　真紀 | まとめ | まとめ |
| 15 | 森景　真紀 | 解説と個別指導 | 解説と個別指導 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | (1) 科学的分野での英語による情報理解ができるようになる。<br>(2) 科学的なトピックにおいての批判的思考能力を身に付ける。<br>(3) 科学的分野で、具体例を示しながら英語による論理的な説明ができるようになる。また、専門知識を持たないひとにも分かりやすく説明するコミュニケーション能力も身に付ける。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>学習参加態度(10%)、小テスト（10%）、課題/レポート(20%)、e-learning課題（10%）、期末試験（50%）を総合して評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 毎回の授業スタート時に、各自で「今日の授業でここだけは覚えよう！」という目標を決めましょう。授業終了時には、ミニ講義レポートとして「今日の授業で気づいたことや学んだこと」を書いて提出してもらいます。（「学習参加態度」の採点対象となります。）受け身の姿勢ではなく、自ら考え、何か新たな気づきを得られるように取り組んでください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | Our Science―最新研究から読む世界のおもしろ科学 | 田中 博晃 / 山西 博之 / Bill Benfield | 成美堂 | 2,530円 |
| **教科書** | 薬学英語基本用語用例集 | 瀬谷幸男、西村月満、高津昌宏、平井清子、和治元義博、中村文紀 | 南雲堂 | 2,420円 |
| **参考書** | e-learning教材（オンライン学習ソフト） | | | 0円 |

# 英語ＡⅡ
English AⅡ

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位
**授業対象：** ［必修］P学部A・B，S１・２（上級）②　月２／［必修］P学部C・D，S３・４（上級）②　月１
**科目責任者：** 森景　真紀
**担当者：** 森景　真紀
**備考：** 科目ナンバリング：L102-GF02／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 薬学の専門に進む前段階として必要な英語力を「聴く」「読む」「話す」「書く」活動を通して養成する。英語で書かれた内容から必要な情報を収集し、その情報をただ鵜呑みにするのではなく、自分で複数の観点から論理的に考える“Critical Thinking”の姿勢を身に付ける。さらに、自身の考えを課題にそってまとめ、表現する力を習得することを目的とする。また、聞き手に理解してもらえる(intelligible)発音とイントネーションも同時に身に付ける。語学学習の楽しさを知り、自主的な英語学習の動機につなげていく。副教材の用語集を使用して、基本的な医療専門用語も身に付ける。 |
| **教育内容** | (1)「聴く」活動：会話を聴いてディクテーションを行う。日本語と英語の音韻的な違いについて入門的知識を学び、発音練習をする。<br>(2)「読む」活動：リーディング・ストラテジーを学ぶ。「読む」活動でライティングに活かせる知識も身に付けられることを学ぶ。<br>(3)「話す」活動：本文に関連したトピックについて考えを述べる練習をする。<br>(4) 文法学習：本文に出てきた文法・構文に焦点を当て、場面や文脈に即した用法を学習する。<br>(5)「書く」活動：本文に関連したトピックについて、英文を書いてレポートする。（リサーチペーパーを書いて提出）<br>(6) 復習テスト：各ユニット終了時に語彙テストを行う。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>資料の配布/課題提出のためにGoogleClassroomに登録してください。<br>GoogleClassroomクラスコード（P学部C・D，S３・４（上級）②　月１）：euozwew<br>GoogleClassroomクラスコード（P学部A・B，S１・２（上級）②　月２）：rwtgs2f<br><br>【Vocabulary】<br>本文で使用される語句をマッチング問題で確認する。（必ず辞書で意味と発音の両方を確認してください。）<br>【Reading】<br>・段落ごとの内容を整理しながら文章全体の構造を把握し、論点を読み取る練習をする。<br>・パラグラフ構造を意識しながら文章全体の構造を立体的に捉える練習をする。<br>【Writing】<br>各ユニットで取り上げるライティングスキルについての解説を聴き、演習を行う。<br>【Listening&Speaking】<br>・各ユニットのテーマに関連したダイアローグを聴いて空欄を埋めるディクテーションを行う。<br>・日英語の音韻的規則の違いについての解説を聴き、リスニングと発音演習を行う。<br>【フィードバックの方法】<br>学生の授業中の発言に対しては随時行う。提出された答案・レポートの特徴的な見解や誤解については、次回の授業でクラス全体に匿名で提示してコメントする。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 授業時間外に必要な学習の時間：15時間<br>【予習】<br>① 本文を読んで、全訳する/各パラグラフの要点を書き出す。<br>② 授業で指示された課題に取り組む。（各授業回ごとに指示します。）<br>【復習】<br>① 本文を読んで、Comprehension Questions B の問いに答える。<br>② 授業で指示された課題に取り組む。（各授業回ごとに指示します。） |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 森景　真紀 | 形態素で学ぶ薬学英語① | 語形成の観点から薬学英語を学ぶ（基本編） |
| 2 | 森景　真紀 | UNIT 6【Lost Wallet: Will You Ever Get it Back?　お金が入っているほど落とした財布は返ってくる？】① | Reading：行動科学（本文前半） |
| 3 | 森景　真紀 | UNIT 6【Lost Wallet: Will You Ever Get it Back?　お金が入っているほど落とした財布は返ってくる？】② | Reading：行動科学（本文後半） |
| 4 | 森景　真紀 | UNIT 6　Active Learning | Listening & Conversation<br>日英語比較の観点で学ぶ英語シリーズ④「音声変化」 |
| 5 | 森景　真紀 | UNIT 9【The Simple, Free Solution to Myopia? Just Go Outside!　外で遊ぶだけで近視予防？】① | Reading：人体・健康<br>Writing：Organization 5 (Problem & Solution part 2) |
| 6 | 森景　真紀 | UNIT 9【The Simple, Free Solution to Myopia? Just Go Outside!　外で遊ぶだけで近視予防？】② | Reading：人体・健康<br>Writing：Organization 5 (Problem & Solution part 2) |
| 7 | 森景　真紀 | UNIT 9　Active Learning | Listening & Conversation<br>日英語比較の観点で学ぶ英語シリーズ⑤「イントネーション」 |
| 8 | 森景　真紀 | UNIT 11【Placebo Effect Is Real: Fake Treatment Do Cure Patient「病は気から」は本当だった：偽薬で治る人体の不思議】① | Reading：人体・健康<br>Writing：Writing by Purpose 2 (Definition) |
| 9 | 森景　真紀 | UNIT 11【Placebo Effect Is Real: Fake Treatment Do Cure Patient「病は気から」は本当だった：偽薬で治る人体の不思議】② | Reading：人体・健康<br>Writing：Writing by Purpose 2 (Definition) |
| 10 | 森景　真紀 | UNIT 11　Active Learning | Listening & Conversation<br>日英語比較の観点で学ぶ英語シリーズまとめ |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 11 | 森景　真紀 | 形態素で学ぶ薬学英語② | 語形成の観点から薬学英語を学ぶ（応用編） |
| 12 | 森景　真紀 | リサーチペーパーライティング演習① | リサーチの方法、参考文献リストの作り方 |
| 13 | 森景　真紀 | リサーチペーパーライティング演習② | パンクチュエーション、文章の構成 |
| 14 | 森景　真紀 | まとめ | まとめ |
| 15 | 森景　真紀 | 質疑応答と個別指導 | 質疑応答と個別指導 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | (1) 専門的分野での英語による情報理解ができるようになる。<br>(2) 専門的なトピックにおいての批判的思考能力を身に付ける。<br>(3) 専門的分野で具体例を示しながら英語による論理的な説明ができるようになる。また、専門知識を持たないひとにも分かりやすく説明するコミュニケーション能力も身に付ける。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>学習参加態度(10%)、小テスト（10%）、課題/レポート(20%)、e-learning課題（10%）、期末試験（50%）を総合して評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 毎回の授業スタート時に、各自で「今日の授業でここだけは覚えよう！」という目標を決めましょう。授業終了時には、ミニ講義レポートとして「今日の授業で気づいたことや学んだこと」を書いて提出してもらいます。（「学習参加態度」の採点対象となります。）受け身の姿勢ではなく、自ら考え、何か新たな気づきを得られるように取り組んでください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | Our Science―最新研究から読む世界のおもしろ科学 | 田中 博晃 / 山西 博之 / Bill Benfield | 成美堂 | 2,530円 |
| **教科書** | 薬学英語基本用語用例集 | 瀬谷幸男、西村月満、高津昌宏、平井清子、和治元義博、中村文紀 | 南雲堂 | 2,200円 |
| **参考書** | e-learning教材（オンライン学習ソフト） | | | 0円 |

# 英語ＡⅠ
English A I

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位
**授業対象：** ［必修］P学部A・B，S１・２（普通）①　月２／［必修］P学部C・D，S３・４（普通）①　月１
**科目責任者：** 淺間　正通
**担　当　者：** 淺間　正通※
**備　　考：** 科目ナンバリング：L102-GF01／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 健康寿命の延伸に関わる医学および薬学分野での最新トピックに対する洞察を深めるために、専門性の高い英語表現に接し、英文に対する構造的理解のみならず辞書に頼ることなくコンテクスト（文脈）から類推し得る英文内容の把握力を身につける。 |
| **教育内容** | 5文型を柱とした英語表現の型に習熟していくとともに、コンテクストクルー（文脈の鍵）を手掛かりに未知語へのワードアタックが可能となるリーディングスキルおよびリスニングスキルを高めてゆく。また発信力育成の観点から、パラグラフライティングの特性にも習熟し、プレゼンテーションスキルへの応用視点への気づきを培ってゆく。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>Reading/Listening時における未知語接触・多義語接触・難解英文接触時への辞書依存から生じる文脈逸脱から脱却できるよう、適宜英語を授業展開言語として導入しながら意味類推の手法を理解できるように工夫を凝らしてゆく。したがって、読解・聴解にあっては意訳に重きをおき、プレゼンテーション・ライティングにあってはパラフレーズ能力が涵養できるよう授業展開してゆくこととなる。なお、理解の定着を確認するためにミニテストを導入し、LMS（Learning Management System)を活用して個別フィードバックを行ってゆく。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>（予習）<br>原則、各授業時にテキストの1 Unitを終えてゆくため、英文パッセージの内容把握はさることながら、それにまつわる練習問題を解いておく必要がある。ただし、内容が専門分野に関わるものであることからWeb等を通じて周辺知識の活性化を推進しておきたい。また、英作練習問題については敢えて語用的誤用に導かれやすいものが設けられているので、「自然な英語表現」という視点に立脚した和文英訳の課題意識のもとで予習しておくことが望まれる。<br>（復習）<br>本文に関わる練習問題として位置付けられている網掛けの多義語について、その代表的な用例文を毎回確認しておきたい。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 淺間　正通 | Introduction<br>Unit 1 | 授業ガイダンス、授業方法、予復習の留意点、評価方法等について説明する。<br>Nutrition and Fitness<br>栄養とフィットネスの正しい関わり合い |
| 2 | 淺間　正通 | Unit 2 | 24/7 Fitness Clubs<br>いつでもどこでもフィットネス |
| 3 | 淺間　正通 | Unit 3 | Exercise and Brain Function<br>運動で脳年齢の若返り |
| 4 | 淺間　正通 | Unit 4 | Exercise Therapy<br>運動療法は質とTPO次第 |
| 5 | 淺間　正通 | Unit 5 | To Age or Not to Age<br>高齢化社会を支える新たなテクノロジー |
| 6 | 淺間　正通 | Unit 6 | Riding into the Future<br>高まる電動自転車人気 |
| 7 | 淺間　正通 | Unit 7 | 3D Printing for Healthcare<br>健康維持への画期的技術応用 |
| 8 | 淺間　正通 | Unit 8 | Adaptive Sports<br>不可能を可能にするスポーツの進化系 |
| 9 | 淺間　正通 | Unit 9 | First Response<br>不測の事態に備えた応急手当 |
| 10 | 淺間　正通 | Unit 10 | Vaccinations ― Crucial or Dangerous<br>ワクチン接種をめぐる賛否両論 |
| 11 | 淺間　正通 | Unit 11 | Medical Tourism<br>メディカルツーリズムの是非 |
| 12 | 淺間　正通 | Unit 12 | Athletic Performance Enhancement<br>薬物使用の功罪 |
| 13 | 淺間　正通 | Unit 13 | Esports<br>eスポーツのジレンマ |
| 14 | 淺間　正通 | まとめ | 前期のまとめを行う。 |
| 15 | 淺間　正通 | 解説と確認 | 個別に解説と確認を行う。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ① 受講生はReading時における未知語・既知語に対するone-to-one equivalent(1語1訳）から脱却し得るための文脈類推の力を養う。<br>② 受講生はListening時における機能語/内容語の働きや音声の強弱に精通するとともに、chunk単位で聞き取れるスキルを養う。<br>③ 受講生はWriting時におけるStandalone ParagraphおよびEssay Paragraphの特性に習熟するスキルを養う。<br>④ 受講生はPresentation時における説得術諸相への認識を深める「気づき」力を養う。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>定期試験（50%)、『薬学英語基本用語用例集』単語テスト（15%)、内容理解ミニテスト（20%)、<br>プレゼンテーション（5%）、e-learning達成度 (10%）<br>授業欠席は減点する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 辞書引きをする際にはe-dictionaryまたはprinted dictionaryに関わらず決して初出画面および初出頁の初出語義に頼らず、用例に目を向けるようにしてください。また使用するテキストは、医療・健康・運動を中心に編まれたものですが、薬学に関わる専門用語が多発しています。したがって、『薬学英語基本用語用例集』の語彙と連関する語彙は絶えずメモ書きしながら語彙拡張に努めるようにしてください。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 北欧、とりわけフィンランドには研究テーマとの関連で、これまで数十回は足を運んで現地研究者と交流を重ねてきました。よって医療福祉の先進国家で得た参考知見を適宜披露していきたいと思っています。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | Alive and Active<br>健"幸"ライフ志向の総合英語 | Masamichi Asama / Nicholas Lambert / Iwao Yamashita | 南雲堂 | 2,200円 |
| **教科書** | 薬学英語基本用語用例集 | 瀬谷幸男　他 | 南雲堂 | 1,900円 |
| **参考書** | e-learning教材<br>［授業内で説明します］ | | | 0円 |

# 英語ＡⅡ
English AⅡ

**科 目 概 要 ：** 2025年度　後期／1単位
**授 業 対 象 ：** ［必修］P学部A・B，Ｓ１・２（普通）①　月２／［必修］P学部C・D，Ｓ３・４（普通）①　月１
**科目責任者 ：** 淺間　正通
**担　当　者 ：** 淺間　正通※
**備　　考 ：** 科目ナンバリング：L102-GF02／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 薬学分野における最新トピックに対する洞察を深めるために、専門性の高い英語表現に接し、英文に対する構造的理解のみならず辞書に頼ることなくコンテクスト（文脈）から類推し得る英文内容の把握力を身につける。 |
| **教育内容** | 5文型を柱とした英語表現の型に習熟していくとともに、コンテクストクルー（文脈の鍵）を手掛かりに未知語へのワードアタックが可能となるリーディングスキルおよびリスニングスキルを高めてゆく。また発信力育成の観点から、パラグラフライティングの特性にも習熟し、プレゼンテーションスキルへの応用視点への気づきを培ってゆく。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>Reading /Listening 時における未知語接触・多義語接触・難解英文接触時への辞書依存から生じる文脈逸脱から脱却できるよう、適宜英語を授業展開言語として導入しながら意味類推の手法を理解できるように工夫を凝らしてゆく。したがって、読解・聴解にあっては意訳に重きをおき、プレゼンテーション・ライティングにあってはパラフレーズ能力が涵養できるよう授業展開してゆくこととなる。なお、理解の定着を確認するためにミニテストを導入し、LMS（Learning Management System)を活用して個別フィードバックを行ってゆく。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>（予習）<br>原則、各授業時にテキストの1 Unitを終えてゆくため、英文パッセージの内容把握はさることながら、それにまつわる練習問題を解いておく必要がある。ただし、内容が専門分野に関わるものであることからWeb等を通じて周辺知識の活性化を推進しておきたい。また、英文和訳に関する練習問題については多義語にフォーカスされているのでしっかりと語義を見極めておきたい。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 淺間　正通 | Unit 1 | 授業ガイダンス、授業方法、予復習の留意点、評価方法等について説明する。<br>The Communication Process<br>伝達過程 |
| 2 | 淺間　正通 | Unit 2 | Médecins Sans Frontières (MSF) Charter<br>国境なき医師団 |
| 3 | 淺間　正通 | Unit 3 | What to Expect from Your Pharmacist<br>薬剤師の仕事 |
| 4 | 淺間　正通 | Unit 4 | Ivermectin, 'Wonder Drug' from Japan<br>日本発の「夢の薬」 |
| 5 | 淺間　正通 | Unit 5 | Cell Structure & Function<br>細胞の構造と機能 |
| 6 | 淺間　正通 | Unit 6 | Host Defense Mechanisms Against Infection<br>感染に対する宿主防御機構 |
| 7 | 淺間　正通 | Unit 7 | Water<br>なぜ水分が必要なのか |
| 8 | 淺間　正通 | Unit 8 | Air Pollution<br>大気汚染 |
| 9 | 淺間　正通 | Unit 9 | The Basics of Dementia<br>認知症の基礎 |
| 10 | 淺間　正通 | Unit 10 | Overview of Allergic Reactions<br>アレルギー反応の概要 |
| 11 | 淺間　正通 | Unit 11 | Treatments for High Blood Pressure<br>高血圧の治療法 |
| 12 | 淺間　正通 | Unit 12 | Influenza Vaccines<br>インフルエンザワクチン |
| 13 | 淺間　正通 | Unit 13 | Clinical Diabetes Management<br>糖尿病管理について |
| 14 | 淺間　正通 | 後期のまとめ | 後期のまとめを行う。 |
| 15 | 淺間　正通 | 解説と確認 | 個別に解説と確認を行う。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①　基本的な英語語彙にとどまることなく、医療や薬学分野に関する専門的な英語の語彙拡張を目指すこと。<br>②　医療や薬学分野に関する英文を正しく、そして効率的に読解できるスキルを身につけること。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>定期試験（50%)、『薬学英語基本用語用例集』単語テスト（15%)、内容理解ミニテスト（20%)、プレゼンテーション（5%）、e-learning達成度 (10%）<br>授業欠席は減点する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 辞書引きをする際にはe -dictionaryまたはprinted dictionaryに関わらず決して初出画面および初出頁の初出語義に頼らず、用例に目を向けるようにしてください。辞書引きをする際にはe -dictionaryまたはprinted dictionaryに関わらず決して初出画面および初出頁の初出語義に頼らず、用例に目を向けるようにしてください。また使用するテキストは、薬学を専攻する学生を対象に編まれたものですので専門用語が多発しています。したがってできるだけ長期記憶につながるように例文に位置付けた形で学ぶようにしてください。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 北欧、とりわけフィンランドには研究テーマとの関連で、これまで数十回は足を運んで現地研究者と交流を重ねてきました。よって医療福祉の先進国家で得た参考知見を適宜披露していきたいと思っています。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | English for Student Pharmacists 1<br>薬学生のための英語 1 | 日本薬学英語研究会　編 | 成美堂 | 2,800円 |
| 教科書 | 薬学英語基本用語用例集 | 瀬谷幸男　他 | 南雲堂 | 1,900円 |
| 参考書 | e-learning教材<br>［授業内で説明します］ | | | 0円 |

# 英語ＡⅠ

English A I

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位
**授業対象：** ［必修］P学部A・B，Ｓ１・２（普通）②　月２／［必修］P学部C・D，Ｓ３・４（普通）②　月１
**科目責任者：** 未定
**担　当　者：** 未定
**備　　考：** 科目ナンバリング：L102-GF01／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | |
| **教育内容** | |
| **教育方法** | |
| **準備学習（予習･復習）** | |

| 回 | 担当者 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 未定 | 初回授業時にアナウンスします。<br>WEBシラバスを確認してください。 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |
| 6 | | |
| 7 | | |
| 8 | | |
| 9 | | |
| 10 | | |
| 11 | | |
| 12 | | |
| 13 | | |
| 14 | | |
| 15 | | |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | . |
| **成績評価の方法と基準** | . |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 英語の授業は教科書を使用します。<br>教科書の情報は、WEBシラバスを確認して購入手続きを行ってください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | WEBシラバス参照 | | | |
| **参考書** | WEBシラバス参照 | | | |

# 英語AⅡ

English AⅡ

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位
**授業対象：** ［必修］P学部A・B，S１・２（普通）②　月２／［必修］P学部C・D，S３・４（普通）②　月１
**科目責任者：** 未定
**担　当　者：** 未定
**備　　考：** 科目ナンバリング：L102-GF02／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | |
| **教育内容** | |
| **教育方法** | |
| **準備学習（予習･復習）** | |

| 回 | 担当者 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 未定 | 初回授業時にアナウンスします。<br>WEBシラバスを確認してください。 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |
| 6 | | |
| 7 | | |
| 8 | | |
| 9 | | |
| 10 | | |
| 11 | | |
| 12 | | |
| 13 | | |
| 14 | | |
| 15 | | |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | . |
| **成績評価の方法と基準** | . |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 英語の授業は教科書を使用します。<br>教科書の情報は、WEBシラバスを確認して購入手続きを行ってください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | WEBシラバス参照 | | | |
| **参考書** | WEBシラバス参照 | | | |

# 英語ＢⅠ（English Discussion and Projects I）

English B I

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位
**授業対象：** ［必修］P学部Ａ・Ｂ，Ｓ１・２（上級）①　木４
**科目責任者：** J.A.ガダード
**担　当　者：** J.A.ガダード
**備　　考：** 科目ナンバリング：L102-GF03／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | The goals of this course goals are to:<br>1. Increase students' willingness to communicate in English (by increasing confidence and ability)<br>2. Increase students' English speaking (accuracy, fluency, pronunciation)<br>3. Increase student listening comprehension<br>4. Increase students 'written English (accuracy, vocabulary, length, complexity, creativity)<br>5. Create independent language study skills, good general academic skills, and encourage students to be creative thinkers. |
| **教育内容** | Students will follow a discussion textbook that includes listening texts and short speaking projects that may include research. Some units will include supplemental videos and readings in and out of class. Every unit will take about 3 classes. Some activities are online. |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>The instructor will have students form groups in which they will do all course projects. The instructor will assign listening, videos, presentations, debates, and discussions. Students will have to prepare some research for their speaking projects. Every unit will also have a written assignment. Every unit test will be online, to be taken on students' phones or computers.<br>【フィードバックの方法】<br>Feedback from the instructor will generally be sent by email using a learning management system (LMS). |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15 時間】<br>After each class, students should review the vocabulary and contents of the last lesson and prepare for the upcoming lesson (look at the discussion questions) . Student may also have to do online listening activities. For each koma (class), students should expect to spend an average of at least one hour on vocabulary review, speaking project preparation, or discussion preparation for the next class. |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | J.A.ガダード | Orientation and class administration | Review course goals / instructions. Check into the grading system and online system. Some communication activities will be done in this first class as well. Students will have a chance to choose the textbook units to be covered. |
| 2 | J.A.ガダード | Unit 1 --Technology, Tasks 1, 2 & 3 | Students will register and log into the online textbook, and students will perform tasks 1, 2 & 3 in class. This will include warm up questions / discussions, vocabulary activity, and listening / note-taking activities. |
| 3 | J.A.ガダード | Unit 1 --Student Choice, Tasks 4, 5, 6 & 7 | Students will perform tasks 4, 5, 6 & 7 in class. This will include warm-up questions / discussions, pair work, reading, speaking practice and discussions. |
| 4 | J.A.ガダード | Unit 1 --Student Choice, Tasks 9, 10 & 11 | Students will perform tasks 9, 10 & 11 in class. This will include warm-up questions / discussions, a presentation, a writing task and other activities. |
| 5 | J.A.ガダード | Unit 2 --Student Choice, Tasks 1, 2 & 3 | Students will perform tasks 1, 2 & 3 in class. This will include warm-up questions / discussions, vocabulary activity, and listening / note taking activities. |
| 6 | J.A.ガダード | Unit 2-Student Choice, Tasks 4, 5, 6 & 7 | Students will perform tasks 4, 5, 6 & 7 in class. This will include warm-up questions / discussions, pair work, reading, speaking practice and discussions. |
| 7 | J.A.ガダード | Unit 2 --Student Choice, Tasks 9, 10 & 11 | Students will perform tasks 9, 10 & 11 in class. This will include warm-up questions / discussions, a presentation, a writing task and other activities. |
| 8 | J.A.ガダード | Unit 3 --Student Choice, Tasks 1, 2 & 3 | Students will perform tasks 1, 2 & 3 in class. This will include warm-up questions / discussions, vocabulary activity, and listening / note taking activities. |
| 9 | J.A.ガダード | Unit 3 --Student Choice, Tasks 4, 5, 6 & 7 | Students will perform tasks 4, 5, 6 & 7 in class. This will include warm-up questions / discussions, pair work, reading, speaking practice and discussions. |
| 10 | J.A.ガダード | Unit 3 --Student Choice, Tasks 9, 10 & 11 | Students will perform tasks 9, 10 & 11 in class. This will include warm-up questions / discussions, a presentation, a writing task and other activities. |
| 11 | J.A.ガダード | Unit 4-Student Choice, Tasks 1, 2 & 3 | Students will perform tasks 1, 2 & 3 in class. This will include warm-up questions / discussions, vocabulary activity, and listening / note taking activities. |
| 12 | J.A.ガダード | Unit 4-Student Choice, Tasks 4, 5, 6 & 7 | Students will perform tasks 4, 5, 6 & 7 in class. This will include warm-up questions / discussions, pair work, reading, speaking practice and discussions. |
| 13 | J.A.ガダード | Unit 4-Student Choice, Tasks 9, 10 & 11 | Students will perform tasks 9, 10 & 11 in class. This will include warm-up questions / discussions, a presentation, a writing task and other activities. |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 14 | J.A.ガダード | Evaluation | Students will participate in an in-class evaluation for the course relating to the units that were covered. This evaluation maybe include multiple-choice questions and short essays. |
| 15 | J.A.ガダード | Course summary and wrap-up | Final summary, review, and conclusion of the course. |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | Upon completion of the course, students should be more willing and able to use English in a variety of tasks. They will also aim to have improved self-study skills. |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>Unit quizzes including unit vocabulary, listening and content -25%,<br>Speaking activities (accuracy, fluency, pronunciation, and creativity) -30%<br>Written activities (creativity, vocabulary, complexity, and length) -30%<br>Final exam based on unit vocabulary and content -15% |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | A student's initial English ability does not matter to me. A student who has low ability but always tries hard and participates in class will always receive a high grade. With effort, results will come. Let's work hard and Have Fun! |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | The English Course Discussion Book 2 - ISBN 978-4-9902962-6-1 | G. Ireland & M. Woollerton | The English Company | 2,500円 |

# 英語ＢⅠ（English Conversation）

English B I

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位
**授業対象：** ［必修］P学部Ｃ・Ｄ，Ｓ３・４（上級）①　木３
**科目責任者：** D.K.ルスロ
**担　当　者：** D.K.ルスロ
**備　　考：** 科目ナンバリング：L102-GF03／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | The goals of this course are:<br>1. To improve conversational competence through task-based activities.<br>2. To increase L2 independence/fluency in various situations.<br>3. To develop debate and discussion skills on diverse topics. |
| **教育内容** | The class will focus on functional language and interaction . Each lesson will have a language function and/or discussion topic along with appropriate situational dialogues and tasks for students to complete through partner and group conversation. To encourage an immersive environment and natural use of English, students will be given a variety of situational dialogues and roleplays. Internet resources such as Youtube will be utilized to provide authentic language use. |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>The instructor will provide a review speaking/listening quiz based on the previous lesson's target language and function in the beginning of each class. The instructor will then introduce the target language, goals, and topic/ theme of the lesson. This is followed by whole class brainstorming about said topic/theme. Students are then given dialogues to memorize and build on, pair/group work for drills and practice, then a larger group task for students to interact independently. This final task will determine whether students can use the language as directed and practiced as well as be the time for the instructor to decide daily scores. The instructor will end the class by reminding students of the speaking activity (homework) for the week and next week preparation using Google Classroom.<br><br>These include the following:<br>1. Review Quizzes<br>2. In-class Performance<br>3. After class speaking tasks<br><br>【フィードバックの方法】<br>All scores will be recorded on Google Classroom along with comments on each assignment. |
| **準備学習（予習･復習）** | [授業時間外に必要な学習の時間：15時間]<br>Students upload a short speaking task reflecting on the previous lesson's tasks on Google Classroom. Students will also prepare for a listening and/or speaking quiz at the beginning of each lesson. Questions and answers will also be given to students to prepare them for the themes and discussions of the following lessons. Each assignment may require 10-30 minutes for practice, recording, and uploading. |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | D.K.ルスロ | Class Intro | Getting students informed about and used to the rhythm/flow of the class with quick conversation practice/drill and buildup. Class rules. Setting up Google Classroom. |
| 2 | D.K.ルスロ | Relating to People | Learning how to use language to relate to people. |
| 3 | D.K.ルスロ | Chinese Zodiac | Using advanced adjectives to talk about personality and how it relates to you while explaining meaning of words. |
| 4 | D.K.ルスロ | The Good Ol' Days | Learning how different generations acted and what they believed in. Groups act in chosen generations. |
| 5 | D.K.ルスロ | Survival | Students are stuck in a deserted island and must work together to survive. |
| 6 | D.K.ルスロ | Make a New Country | Groups make a country and values. Groups then interact and discuss similarities and differences. |
| 7 | D.K.ルスロ | A Reluctant Patient | Students learn how to convince each other to better themselves as friends and doctors. |
| 8 | D.K.ルスロ | Murder Mystery | Listening activity to find inconsistent details in a story. Groups work to find the criminal through interrogation. |
| 9 | D.K.ルスロ | Movie/Game Review | Students work in pairs and make a movie/game review in discussion format , agreeing and disagreeing. YouTube for native speaker examples. Groups will then present. |
| 10 | D.K.ルスロ | Guided Meditation | Make a guided meditation based on given types focusing on breath and relaxed speaking. |
| 11 | D.K.ルスロ | Culture Clash | Make a humorous skit about people from different cultures having a culture clash. |
| 12 | D.K.ルスロ | Teach Us Language | Make a language lesson using the skills you have learned so far. |
| 13 | D.K.ルスロ | Lesson Day | Time to be the teachers and teach us a foreign language. |
| 14 | D.K.ルスロ | Cumulative Test | Students will be required to perform conversation tasks with the instructor based on at least 4 situations provided in previous lessons using the target language with fluency within 3 minutes . |
| 15 | D.K.ルスロ | Summary | Time to do make up work, ask questions, and finish up the semester. |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | The aim of this course is to improve English language learners' conversation abilities in a variety of contexts. Students will use background knowledge and language tools provided by the instructor to solve problems, negotiate meaning, and perform practical conversational tasks with as little dependence on written language as possible. Students will also be able to engage in a variety of speaking and conversation methods, such as compromising, debating, and speechmaking. |
| **成績評価の方法と基準** | In class speaking/listening quizzes:<br>(Target language/function use): ~25%<br><br>In class conversation tasks:<br>(completion): ~25%<br><br>After class speaking tasks:<br>(L2 use/completion): ~25%<br><br>Cumulative Test:<br>(fluency/target language/function use): ~25% |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | First, thank you for giving me the opportunity to teach you. I look forward to seeing you improve your English conversational skills through practicing with your peers and overcoming challenges. This class is designed to be fast-paced, yet not overwhelming, and help you speak with confidence. I look forward to seeing you and do not hesitate to ask questions. |

# 英語BⅡ（English Discussion and Projects Ⅱ）

English BII

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位
**授業対象：** ［必修］P学部A・B，S１・２（上級）①　木４／［必修］P学部C・D，S３・４（上級）①　木３
**科目責任者：** J.A.ガダード
**担当者：** J.A.ガダード
**備考：** 科目ナンバリング：L102-GF04／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | The goals of this course goals are to:<br>1. Increase students' willingness to communicate in English (by increasing confidence and ability)<br>2. Increase students' English speaking (accuracy, fluency, pronunciation)<br>3. Increase student listening comprehension<br>4. Increase students 'written English (accuracy, vocabulary, length, complexity, creativity)<br>5. Create independent language study skills, good general academic skills, and encourage students to be creative thinkers. |
| **教育内容** | Students will follow a discussion textbook that includes listening texts and short speaking projects that may include research. Some units will include supplemental videos and readings in and out of class. Every unit will take about 3 classes. Some activities are online. |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>The instructor will have students form groups in which they will do all course projects. The instructor will assign listening, videos, presentations, debates, and discussions. Students will have to prepare some research for their speaking projects. Every unit will also have a written assignment. .Every unit test will be online, to be taken on students' phones or computers.<br>【フィードバックの方法】<br>Feedback from the instructor will generally be sent by email using a learning management system (LMS). |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15 時間】<br>After each class, students should review the vocabulary and contents of the last lesson and prepare for the upcoming lesson (look at the discussion questions). Student may also have to do online listening activities. For each koma (class), students should expect to spend an average of at least one hour on vocabulary review, speaking project preparation, or discussion preparation for the next class. |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | J.A.ガダード | Orientation and class administration | Review course goals / instructions. Check into the grading system and online system. Some communication activities will be done in this first class as well. Students will have a chance to choose the textbook units to be covered. |
| 2 | J.A.ガダード | Unit 1 --Technology, Tasks 1, 2 & 3 | Students will register and log into the online textbook, and students will perform tasks 1, 2 & 3 in class. This will include warm up questions / discussions, vocabulary activity, and listening / note-taking activities. |
| 3 | J.A.ガダード | Unit 1 --Student Choice, Tasks 4, 5, 6 & 7 | Students will perform tasks 4, 5, 6 & 7 in class. This will include warm-up questions / discussions, pair work, reading, speaking practice and discussions. |
| 4 | J.A.ガダード | Unit 1 --Student Choice, Tasks 9, 10 & 11 | Students will perform tasks 9, 10 & 11 in class. This will include warm-up questions / discussions, a presentation, a writing task and other activities. |
| 5 | J.A.ガダード | Unit 2 --Student Choice, Tasks 1, 2 & 3 | Students will perform tasks 1, 2 & 3 in class. This will include warm-up questions / discussions, vocabulary activity, and listening / note taking activities. |
| 6 | J.A.ガダード | Unit 2-Student Choice, Tasks 4, 5, 6 & 7 | Students will perform tasks 4, 5, 6 & 7 in class. This will include warm-up questions / discussions, pair work, reading, speaking practice and discussions. |
| 7 | J.A.ガダード | Unit 2 --Student Choice, Tasks 9, 10 & 11 | Students will perform tasks 9, 10 & 11 in class. This will include warm-up questions / discussions, a presentation, a writing task and other activities. |
| 8 | J.A.ガダード | Unit 3 --Student Choice, Tasks 1, 2 & 3 | Students will perform tasks 1, 2 & 3 in class. This will include warm-up questions / discussions, vocabulary activity, and listening / note taking activities. |
| 9 | J.A.ガダード | Unit 3 --Student Choice, Tasks 4, 5, 6 & 7 | Students will perform tasks 4, 5, 6 & 7 in class. This will include warm-up questions / discussions, pair work, reading, speaking practice and discussions. |
| 10 | J.A.ガダード | Unit 3 --Student Choice, Tasks 9, 10 & 11 | Students will perform tasks 9, 10 & 11 in class. This will include warm-up questions / discussions, a presentation, a writing task and other activities. |
| 11 | J.A.ガダード | Unit 4-Student Choice, Tasks 1, 2 & 3 | Students will perform tasks 1, 2 & 3 in class. This will include warm-up questions / discussions, vocabulary activity, and listening / note taking activities. |
| 12 | J.A.ガダード | Unit 4-Student Choice, Tasks 4, 5, 6 & 7 | Students will perform tasks 4, 5, 6 & 7 in class. This will include warm-up questions / discussions, pair work, reading, speaking practice and discussions. |
| 13 | J.A.ガダード | Unit 4-Student Choice, Tasks 9, 10 & 11 | Students will perform tasks 9, 10 & 11 in class. This will include warm-up questions / discussions, a presentation, a writing task and other activities. |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 14 | J.A.ガダード | Evaluation | Students will participate in an in-class evaluation for the course relating to the units that were covered. This evaluation maybe include multiple-choice questions and short essays. |
| 15 | J.A.ガダード | Course summary and wrap-up | Final summary, review, and conclusion of the course. |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | Upon completion of the course, students should be more willing and able to use English in a variety of tasks. They will also aim to have improved self-study skills. |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>Unit quizzes including unit vocabulary, listening and content -25%,<br>Speaking activities (accuracy, fluency, pronunciation, and creativity) -30%<br>Written activities (creativity, vocabulary, complexity, and length) -30%<br>Final exam based on unit vocabulary and content -15% |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | A student's initial English ability does not matter to me. A student who has low ability but always tries hard and participates in class will always receive a high grade. With effort, results will come. Let's work hard and Have Fun! |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | The English Course Discussion Book 2 - ISBN 978-4-9902962-6-1 | G. Ireland & M. Woollerton | The English Company | 2,500円 |

# 英語ＢⅠ
English B I

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位
**授業対象：** ［必修］P学部A・B，S１・２（上級）②　木４／［必修］P学部C・D，S３・４（上級）②　木３
**科目責任者：** H.カークウッド
**担当者：** H.カークウッド
**備考：** 科目ナンバリング：L102-GF03／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | The purpose of the class is to:<br>1) Increase students' ability to understand spoken arguments in English<br>2) Increase students' ability to make spoken English arguments about academic content in English<br>3) Increase students' ability to support their ideas with reasons, examples, and evidence |
| **教育内容** | Students will listen to spoken arguments in English and complete activities based on these arguments. The students will then create recordings of their own arguments. The students will also study about how to make presentations in English before creating their own presentations. |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>The teacher will make audio recordings, quizzes, and assignments available in class and on a learning management system (LMS) website called Google Classroom.<br>【フィードバックの方法】<br>Feedback for tasks will be given with this system. |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>Students should use their class code to access Google Classroom. To complete assignments, students will research the class topics before practicing speeches and presentations about these topics. Students should then record these speeches using smartphones or similar devices and upload them to Google Classroom. Students should also complete listening quizzes and check their scores and the transcripts of the recordings (for practice quizzes) after being graded.<br>Students will need to complete the recording activities before the deadlines on the class schedule.<br>One task will require students to use Google Slides. To learn about how to use Google Classroom, Google Docs, and Google Slides please see https://sites.google.com/st.kitasato-u.ac.jp/gapps-howto/ (please access while logged into your student account). Using Microsoft PowerPoint or similar alternatives is also acceptable. |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | H.カークウッド | Introduction | The teacher will explain the class and students will practice using Google Classroom. Students will complete practice quizzes and practice making recordings. These practice activities will not affect the final grade. |
| 2 | H.カークウッド | Health and Well-being (1) | Students will listen to a speech about health and well-being. Students will complete a (practice) quiz based on the speech. Students will practice saying ideas about the speech in English. |
| 3 | H.カークウッド | Health and Well-being (2) | Students will listen to a speech about health and well-being. Students will complete a (graded) quiz based on the speech. Students will learn about presentation skills and start to prepare ideas for a speech about health and well-being in groups. |
| 4 | H.カークウッド | Health and Well-being (3) | Students will research information about, write, and record their own (graded) speeches about health and well-being. |
| 5 | H.カークウッド | Education (1) | Students will listen to a speech about education. Students will complete a (practice) quiz based on the speech. Students will practice saying ideas about the speech in English. |
| 6 | H.カークウッド | Education (2) | Students will listen to a speech about education. Students will complete a (graded) quiz based on the speech. Students will learn about presentation skills and start to prepare ideas for a speech about education in groups. |
| 7 | H.カークウッド | Education (3) | Students will research information about, write, and record their own arguments about education. |
| 8 | H.カークウッド | Science and Ethics (1) | Students will listen to a speech about science and ethics. Students will complete a (practice) quiz based on the speech. Students will practice saying ideas about the speech in English. |
| 9 | H.カークウッド | Science and Ethics (2) | Students will listen to a speech about science and ethics. Students will complete a (graded) quiz based on the speech. Students will learn about presentation skills and start to prepare ideas for a speech about science and ethics in groups. |
| 10 | H.カークウッド | Science and Ethics (3) | Students will research information about, write, and record their own arguments about science and ethics. |
| 11 | H.カークウッド | Urbanization and the Environment (1) | Students will listen to a speech about urbanization and the environment. Students will complete a (practice) quiz based on the speech. Students will practice saying ideas about the speech in English. |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 12 | H.カークウッド | Urbanization and the Environment (2) | Students will listen to a speech about urbanization and the environment. Students will complete a (graded) quiz based on the speech. Students will learn about presentation skills and start to prepare ideas for a speech about urbanization and the environment in groups. |
| 13 | H.カークウッド | Urbanization and the Environment (3) | Students will study materials about how to make a presentations in English. They will also see examples of English language presentation slides. They will use lesson time and homework time during Week 13 and Week 14 to finish this task. |
| 14 | H.カークウッド | Urbanization and the Environment (4) | Students will have time to work on their presentations during this class. The teacher will be available to give them help, particularly with the use of presentation software. |
| 15 | H.カークウッド | Lesson 15 Feedback and Final Questions | Early in the final week, students upload their presentations. They will be able to send questions to the teacher if they need help. They will also be able to send questions to the teacher about English B and get advice about how to improve their English in future. |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | This course aims to help students make presentations about topics in English in a way that is suitable for academic contexts. The focus will be mostly on practicing using vocabulary and grammar the students have learned before, but the teacher will also introduce new content. |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>1) Listening activities in class (x 4): 30%<br>2) Recorded speeches (x3): 40%<br>3) Final Recorded Presentation (x 1): 30% |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | You will attend classes each week, but you will also need to use Google Classroom to complete class activities. Please read the information at https://sites.google.com/st.kitasato-u.ac.jp/gapps-howto/ to understand how to use the Google Tools. Please check the class schedule carefully so you understand the deadlines for each assignment. If you have any problems, please contact me at kirkwood@st.kitasato-u.ac.jp. |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | All materials will be supplied by the teacher. | | | 0円 |
| **参考書** | All materials will be supplied by the teacher. | | | 0円 |

# 英語ＢⅡ

English BII

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位
**授業対象：** ［必修］P学部A・B，S１・２（上級）②　木４／［必修］P学部C・D，S３・４（上級）②　木３
**科目責任者：** H.カークウッド
**担当者：** H.カークウッド
**備考：** 科目ナンバリング：L102-GF04／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | The purpose of the class is to improve students' abilities to discuss academic topics in English. This means being able to say and support their ideas and being able to ask appropriate questions to help their discussion partners develop their ideas. |
| **教育内容** | The themes are the same as BI; however, this time students will need to cooperate to share their ideas about these themes.<br><br>Students will attend face-to-face classes and continue to use the LMS (Google Classroom) from English BI to complete tasks. However, whereas in BI the tasks were completed individually, BII will require students to work in assigned groups to participate in, record, and upload discussions. |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>In class, the teacher will give the students guidance and feedback about discussion skills. The teacher will assign groups to students for each unit (3 or 4 classes). In class the teacher will give feedback to help students complete a discussion that will contribute to their final grade.<br>【フィードバックの方法】<br>Feedback for the discussion tasks will be given with Google Classroom. |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>Outside of classes, students need to review the lesson materials and prepare for the discussions. They can use the LMS (Google Classroom) to do this. If students need more practice time or are unable to finish the recordings in the classroom they can also use tools such as Zoom to prepare for or finish tasks. |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | H.カークウッド | Lesson 1 Course Introduction | The teacher will explain the differences between English BI and BII. Students will practice English speaking and discussion skills in pairs and groups. |
| 2 | H.カークウッド | Lesson 2 Unit 1 Introduction (Opinions, Reasons, and Examples; Health and Well-being) | The teacher will introduce giving opinions, reasons, and examples in English.<br>Students will be assigned to groups and make introductions. They will do practice activities and brainstorm ideas about health and well-being. |
| 3 | H.カークウッド | Lesson 3 Unit 1 Practice Discussion (Opinions, Reasons, and Examples; Health and Well-being) | In groups, students will record the audio of their practice discussions about health and well-being using their smartphones. Two people will upload this to Google Classroom (one recording is a backup). If a student is absent in the following lesson, this discussion will be used to determine their score. |
| 4 | H.カークウッド | Lesson 4 Unit 1 Graded Discussion (Opinions, Reasons, and Examples; Health and Well-being) | Students will try to record an improved discussion about health and well-being. This discussion will contribute to the students' final grade. |
| 5 | H.カークウッド | Lesson 5 Unit 2 Introduction (Agreeing and Disagreeing; Science and Ethics) | The teacher will introduce agreeing and disagreeing in English.<br>Students will be assigned to new groups and make introductions. They will do practice activities and brainstorm ideas about science and ethics. |
| 6 | H.カークウッド | Lesson 6 Unit 2 Practice Discussion (Agreeing and Disagreeing; Science and Ethics) | In groups, students will record the audio of their practice discussions about science and ethics using their smartphones. Two people will upload this to Google Classroom (one recording is a backup). If a student is absent in the following lesson, this discussion will be used to determine their score. |
| 7 | H.カークウッド | Lesson 7 Unit 2 Graded Discussion (Agreeing and Disagreeing; Science and Ethics) | Students will try to record an improved discussion about science and ethics. This discussion will contribute to the students' final grade. |
| 8 | H.カークウッド | Lesson 8 Unit 3 Introduction (Giving Sources of Information; Urbanization and the Environment) | The teacher will introduce giving sources of information in English.<br>Students will be assigned to new groups and make introductions. They will do practice activities and brainstorm ideas about Urbanization and the Environment. |
| 9 | H.カークウッド | Lesson 9 Unit 3 Practice Discussion (Giving Sources of Information; Urbanization and the Environment) | In groups, students will record the audio of their practice discussions about urbanization and the environment using their smartphones. Two people will upload this to Google Classroom (one recording is a backup). If a student is absent in the following lesson, this discussion will be used to determine their score. |
| 10 | H.カークウッド | Lesson 10 Unit 3 Graded Discussion (Giving Sources of Information; Urbanization and the Environment) | Students will react to the teacher’s feedback to record an improved discussion about urbanization and the environment. Because students will need to wait for the teacher’s feedback they will have two weeks to complete Lesson 10. |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 11 | H.カークウッド | Lesson 11 Unit 4 Introduction (Organizing a Discussion; Making Original Discussion Topics) | The teacher will introduce organizing discussions in English.<br>Students will be assigned to groups and make introductions. They will do practice activities and start to think about original discussion topics. |
| 12 | H.カークウッド | Lesson 12 Unit 4 Choosing a Topic | For the final unit each group will choose a topic to discuss. This can be one suggested by the teacher or a topic created by the members of the group. However, since the topic should be an academic one, the group will need to ask the teacher to check the topics before they start practicing. |
| 13 | H.カークウッド | Lesson 13 Unit 4 Practice Discussion (Organizing a Discussion; Students' Chosen Topics) | In groups, students will record the audio of their practice discussions about their chosen topics using their smartphones. Two people will upload this to Google Classroom (one recording is a backup). If a student is absent in the following lesson, this discussion will be used to determine their score. |
| 14 | H.カークウッド | Lesson 14 Unit 4 Final Graded Discussion (Organizing a Discussion; Students' Chosen Topics) | Students will record an improved discussion about their chosen topic. They can change or modify their questions before making this recording. |
| 15 | H.カークウッド | Lesson 15 Feedback and Final Questions | In the final week, students will check their feedback for their final task. They will also be able to send questions to the teacher about English B and get advice about how to improve their English in future. |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | This course aims to help students discuss topics in English in a way that is suitable for academic contexts. The focus will be mostly on practicing using vocabulary and grammar the students have learned before, but the teacher will also introduce new content. |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>Unit 1 (Lesson 4) 1st Graded Discussion (15%)<br>Unit 2 (Lesson 7) 2nd Graded Discussion (25%)<br>Unit 3 (Lesson 10) 3rd Graded Discussion (25%)<br>Unit 4 (Lesson 14) Final Graded Discussion (35%) |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | In this semester most tasks will involve group work, therefore you need to communicate carefully with other group members. If you have an illness or problem that means you are unable to participate in group work for an extended period, please contact me as soon as possible so I can make the required adjustments.<br>If you have any issues or questions please email me at kirkwood@st.kitasato-u.ac.jp |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | All materials will be supplied by the teacher. | | | 0円 |

# 英語ＢⅠ
English B I

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位
**授業対象：** ［必修］P学部A・B，S１・２（普通）①　木４／［必修］P学部C・D，S３・４（普通）①　木３
**科目責任者：** 矢野　奈々
**担当者：** 矢野　奈々
**備考：** 科目ナンバリング：L102-GF03／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 医療・社会問題を考察しながら、「読む・聞く・書く・話す」の４技能にわたって総合的な英語力を養成することを目的とします。さらに医療をテーマとする映画を教材とすることで、聴解力をはじめ、医療系の語彙力や表現力を習得し、また映画のセリフをペアワークで実践することで医療現場で使える英語を身につけていきます。 |
| **教育内容** | 医療に関するトピックを扱ったテキストにより、内容を深め、総合的な英語力を習得します。また、医療の現場で役に立つ会話力をテキストと映像を使って身につけていきます。さらに、医療英語の基本的な用語、用例をオンライン学習ソフトとテキストにより学習します。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>ペアワークを導入し、スピーキング練習ではクラス内を回り、個別フィードバックを行います。リーディング、ライティングは事前に課題を割り当て、その発表に対する解説をしていきます。学期の最後に行うプレゼンテーションの準備では個別に英作文、発音等のチェックを行います。<br>【フィードバックの方法】<br>・テキスト内の新出単語から単語テストを行い、採点して返却します。<br>・テキストのReading Sectionは段落ごとに担当者を決めて授業内で訳してもらいますので、その際に意味が正しく取れているか解説します。<br>・プレゼンテーションの原稿については事前に解説をし、提出後にコメントします。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：オンライン学習で指定された個所についての自学自習。授業前にテキストの割り当てた部分の単語や用語を調べ、予習しましょう。<br>復習：新しく学んだ単語、フレーズは何度か繰り返し覚えるようにしておいてください。ペアワークで暗記した文章はよく確認しておいてください。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 矢野　奈々 | 前期ガイダンス | 授業の進め方、ペアワークについての説明と実施 |
| 2 | 矢野　奈々 | Chapter 1 | 嗜眠性脳炎についての読解問題と演習を中心に |
| 3 | 矢野　奈々 | Chapter 1 | リスニングとペアワークを中心に |
| 4 | 矢野　奈々 | Chapter 2 | Bronx と嗜眠性脳炎についての読解問題と演習を中心に |
| 5 | 矢野　奈々 | Chapter 2 | リスニングとペアワークを中心に |
| 6 | 矢野　奈々 | Chapter 3 | 実験段階の薬の使用についての読解問題、解説、リスニング、ペア・グループワーク |
| 7 | 矢野　奈々 | Chapter 4 | L-dopaの効用と副作用についての読解問題、解説、リスニング、ペアワーク |
| 8 | 矢野　奈々 | 『レナードの朝』(前半視聴) | 「嗜眠性脳炎」、「L-dopa」等のキーワードをおさえ、映画の前半部分を視聴 |
| 9 | 矢野　奈々 | 『レナードの朝』(後半視聴) | 映画の後半部分を視聴し、リアクションペーパーの提出準備 |
| 10 | 矢野　奈々 | Chapter 5 | リアクションペーパー提出。アマンタジンの効用と副作用についての読解問題、解説、リスニング、ペア・グループワーク |
| 11 | 矢野　奈々 | プレゼンテーションに向けた準備 | プレゼンテーションに向けた個別チェック |
| 12 | 矢野　奈々 | Chapter 1～5までの復習と解説 | テキストで扱ったこれまでの復習と解説 |
| 13 | 矢野　奈々 | プレゼンテーション | クラス内プレゼンテーション |
| 14 | 矢野　奈々 | まとめ | 前期授業のまとめ |
| 15 | 矢野　奈々 | 解説と個別指導 | 解説と個別指導 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1. 医療系英語の用語･用例を習得し、これに関する英文を正確に速く読解することができ､要点をまとめることができる。<br>2. 医療に関しての基本的な会話ができ、英語で表現することができる。<br>3. 医療関係の映画を見て、その内容を聞き取ることができ、要点をつかむことができる。<br>4. 分かりやすいプレゼンテーションをすることができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>前期試験50%、課題プレゼンテーション15%、オンライン学習ソフトの課題10%、学習参加態度及び授業(予習) 10%、リアクションペーパー10%、単語テスト5% を統合して評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 医療英語を映像と共に学ぶことで、単語やフレーズが印象的なシーンと共に頭に入ってくるのではないかと思います。毎回のペアワークを通して、徐々に活発に意見交換が英語でできるようになることを目指します。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | Oliver Sacks' Awakenings 『レナードの朝』で学ぶ医療問題とクリティカル・シンキング | 平井清子 | 南雲堂 | 1,900円 |

# 英語BⅡ
English BII

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位
**授業対象：** ［必修］P学部A・B，S１・２（普通）①　木４／［必修］P学部C・D，S３・４（普通）①　木３
**科目責任者：** 矢野　奈々
**担当者：** 矢野　奈々
**備考：** 科目ナンバリング：L102-GF04／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 前期に引き続き医療・社会問題を考察しながら、「読む・聞く・書く・話す」の４技能にわたって総合的な英語力を養成することを目的とします。さらに医療をテーマとする映画を教材とすることで、聴解力をはじめ、医療系の語彙力や表現力を習得し、また映画のセリフをペアワークで実践することで医療現場で使える英語を身につけていきます。 |
| **教育内容** | 医療に関するトピックを扱ったテキストにより、内容を深め、総合的な英語力を習得します。また、医療の現場で役に立つ会話力をテキストと映像を使って身につけていきます。さらに、医療英語の基本的な用語、用例をオンライン学習ソフトとテキストにより学習します。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>ペアワークを導入し、スピーキング練習ではクラス内を回り、個別フィードバックを行います。リーディング、ライティングは事前に課題を割り当て、その発表に対する解説をしていきます。学期の最後に行うプレゼンテーションの準備では個別に英作文、発音等のチェックを行います。前期のプレゼンテーションを振り返り、姿勢、アイコンタクト、ジェスチャーの改善もしていきます。<br>【フィードバックの方法】<br>・テキスト内の新出単語から単語テストを行い、採点して返却します。<br>・テキストのReading Sectionは段落ごとに担当者を決めて授業内で訳してもらいますので、その際に意味が正しく取れているか解説します。<br>・プレゼンテーションの原稿については事前に解説をし、提出後にコメントします。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：オンライン学習で指定された個所についての自学自習。授業前にテキストの割り当てた部分の単語や用語を調べ、予習しましょう。<br>復習：新しく学んだ単語、フレーズは何度か繰り返し覚えるようにしておいてください。ペアワークで暗記した文章はよく確認しておいてください。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 矢野　奈々 | Chapter 6 | 後期授業についてのガイダンスとChapter 6 の答え合わせと解説 |
| 2 | 矢野　奈々 | Chapter 7 | 欠神癲癇についての読解問題、解説、リスニング、ペアワーク |
| 3 | 矢野　奈々 | Chapter 7 | Chapter 7に関するトピックの続き、グループワーク |
| 4 | 矢野　奈々 | Chapter 8 | チックについての読解問題、解説、リスニング、ペアワーク |
| 5 | 矢野　奈々 | Chapter 9 | 安楽死に関する読解問題とグループでのディスカッションを中心に |
| 6 | 矢野　奈々 | 『レナードの朝』の映画を一部視聴し、テキストと比較する | 映画の字幕とテキストとの比較 |
| 7 | 矢野　奈々 | Chapter 6～9までの復習と解説 | 読解問題を中心に復習と演習を行う。 |
| 8 | 矢野　奈々 | Chapter 11 | パーキンソン病についての読解問題、解説、リスニング、ペアワーク |
| 9 | 矢野　奈々 | Chapter 11 | パーキンソン病に関するトピックの続き、グループワーク |
| 10 | 矢野　奈々 | Chapter 14 | 病気の症状についての用語、薬の形態に関する用語、読解問題、解説、リスニング、ペアワーク |
| 11 | 矢野　奈々 | プレゼンテーションに向けた準備 | プレゼンテーションに向けた個別チェック |
| 12 | 矢野　奈々 | 後期授業の復習と解説 | 後期の授業で扱った章の復習と解説 |
| 13 | 矢野　奈々 | プレゼンテーション | クラス内でのプレゼンテーション |
| 14 | 矢野　奈々 | まとめ | 後期授業のまとめ |
| 15 | 矢野　奈々 | 解説と個別指導 | 解説と個別指導 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1. 医療系英語の用語･用例を習得し、これに関する英文を正確に速く読解することができ､要点をまとめることができる。<br>2. 医療に関しての基本的な会話ができ、英語で表現することができる。<br>3. 医療関係の映画を見て、その内容を聞き取ることができ、要点をつかむことができる。<br>4. 分かりやすいプレゼンテーションをすることができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>後期試験50%、課題プレゼンテーション15%、オンライン学習ソフトの課題10%、学習参加態度及び授業(予習) 10%、リアクションペーパー10% 、単語テスト5%を統合して評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 前期に引き続き、ペア・グループワークを通して、徐々に活発に意見交換が英語でできるようになることを目指します。後期は学期末のプレゼンテーションに向けて、前期のプレゼンテーションの復習と共に発音、スピーキングの練習を強化していきます。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | Oliver Sacks' Awakenings『レナードの朝』で学ぶ医療問題とクリティカル・シンキング | 平井清子 | 南雲堂 | 1,900円 |

# 英語ＢⅠ
English B I

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位
**授業対象：** ［必修］P学部A・B，Ｓ１・２（普通）②　木４／［必修］P学部C・D，Ｓ３・４（普通）②　木３
**科目責任者：** 平　辰彦
**担　当　者：** 平　辰彦
**備　　考：** 科目ナンバリング：L102-GF03／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 医学・薬学系の専門分野の「薬」に焦点をあて、その語彙と知識を学ぶ英語ＢⅠでは、専門分野を意識したテキストを用い、コミュニケーション能力の向上に重点を置き、「読む・聞く・書く・話す」の４技能を総合的に養成することを目的とします。また最近の医薬品研究の成果や薬剤師の役割を英語で読み、アカデミック・ライティングやプレゼンテーションを通して英語で表現する力を養成することを目的とします。 |
| **教育内容** | 薬学研究は英語で発信されることが多いため、最新の医薬品の研究の動向についていくためには、専門の内容を英語で読み解く読解力が不可欠です。この授業では薬学に関する専門的な英語を読解するための基礎力をつけるため、薬学・医療に関するトピックを扱ったテキストを用いて医療・社会問題を考え、英文の内容を正しく理解する読解力を養い、語源を通して薬学の専門用語に関する語彙を増やし、「読む・聞く・書く・話す」の４技能を総合的に習得することを目指します。特に薬学の背景知識を学び、口頭でのプレゼンテ―ションやロール・プレイの発表。アカデミック・ライティングを実施し、リスニングの練習も実施し、聴覚力の養成を行い、読解力と聴覚力の英語の向上を目指します。前期のテキストは『現場で役立つ薬学英語表現』（南雲堂）を使用します。後期のテキストは『医学・薬学系の学生のための総合英語＜第３版＞』（南雲堂）を使用します。前期ではUnit 1で「薬とは何か」を読解し、薬の種類、効果・効能、服用期間、用量、薬の副作用、薬の保管方法などを学びます。Unit 2では「薬」を意味する英語の違いを学び、薬学で使用する専門用語を語源を通して学びます。Unit 3では病気の様々な症状について語源を通して学びます。Unit4では薬のタイプと目的について学びます。Unit12では薬局での薬剤師と患者の英語の会話をロール・プレイで発表します。語源についてのテキストは『語源で学ぶメディカル・イングリッシュ550』（南雲堂）を使用します。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>双方向の学習形式を取り、ペアーワークあるいはグループワーク、ロール・プレイなどを取り入れた対面授業で行います。授業では、テキストを中心にリスニング問題を解き、随時、ＣＤなどの教材を使用します。Unit 1では最初に英語で「薬とは何か」を読解し、薬の種類、効果・効能、服用期間、用量、薬の副作用、薬の保管方法などを学びます。Unit 2では「薬」を意味する英語の違いを学び、薬学で使用する専門用語を語源を通して学びます。Unit 3では、病気の様々な症状について語源を通して学びます。Unit4では、薬のタイプと目的について学びます。Unit12では、薬局での薬剤師と患者の英語の会話をロール・プレイで発表します。<br>【フィードバックの方法】<br>学生が提出したリアクション・ペーパーや課題レポートなどについては、次回の授業に解説します。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：１５時間】<br>予習：①指定されたリーディング文章を読み、わからない単語や語句を調べておく。②指定された練習問題に解答する。（0.5時間）<br>復習：①単語・語句の意味や表現の確認とリーディング文章の音読。②間違ったところなどの練習問題の解き直しを行う。（0.5時間）<br>少なくとも毎週1時間は予習・復習をすること。１５回の授業を通して１５時間を予習・復習に費やしましょう。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 平　辰彦 | 前期ガイダンス | 授業の進め方、授業の目的と到達目標、準備学習、成績評価の方法、Call Roomでの学習方法などの説明。テキストの構成、単元の内容、練習問題、単語の小テスト、ロールプレイについて概説する。 |
| 2 | 平　辰彦 | Unit 1　Introduction to Explaining Medicine（１） | 薬の種類、薬の効能・効果、投与方法、用量、頻度、時間、期間、副作用、使用制限、現病歴と現在の状態の説明を英語で理解する。 |
| 3 | 平　辰彦 | Unit 1　Introduction to Explaining Medicine（２） | 薬の種類、薬の効能・効果、投与方法、用量、頻度、時間、期間、副作用、使用制限、現病歴と現在の状態の説明を英語で説明する。演習としてComprehension QuestionsやExerciseをおこなう。 |
| 4 | 平　辰彦 | Unit 2　Types of Medicine:"What is this?"（１） | 「薬」を英語で何というか。medicineとmedicationの違いは何か。また薬剤師を英語で何というか。様々な「薬」の名称を英語の語源から学ぶ。 |
| 5 | 平　辰彦 | Call Roomの使用およびオンラインの英語学習方法について | Call Roomを使用してオンラインの英語学習方法について詳しく解説し、実際にCall Roomを使用し、オンライン英語を演習を通して体験する。 |
| 6 | 平　辰彦 | Unit 2 Types of Medicine:"What is this?"　（２） | 薬の英単語のリストに掲載されている様々な薬の英語の名称を語源を通して学び、Comprehension QuestionsやExerciseの演習を行う。 |
| 7 | 平　辰彦 | Unit 3 Symptoms:"What is it for ?"（１） | 薬のさまざまな症状をあらわす英語について、その英語の語源からそれぞれの症状について考える。 |
| 8 | 平　辰彦 | Unit 3　Symptoms:"What is it for ?"（２） | 薬のさまざまな症状をあらわす英語について、Exercisesを行い、それぞれの英語の意味を理解し、正確に英語を書けるようにする。 |
| 9 | 平　辰彦 | Unit 3 Symptoms:"What is it for ?"（３） | 薬のさまざまな症状をあらわす英語について、Exercisesを行い、それぞれの英語の意味を理解し、正確な英語を書けるようにする。 |
| 10 | 平　辰彦 | Unit 4　Learning Lab: Medicine Types and Purpose | 薬のタイプと目的の英語表現についてExercisesを行い、それぞれの英語表現を理解し、正確な英語が書けるようにする。 |
| 11 | 平　辰彦 | Unit 12 Over-the Counter Medicine Roleplay　（１） | 薬剤師と薬を購入しに来たお客様とのやりとりをペア―を組み、ロールプ・レイの練習を行う。 |
| 12 | 平　辰彦 | Unit 12 Over-the Counter Medicine Roleplay（２） | 薬剤師と薬を購入しに来たお客様とのやりとりのロール・プレイの発表を行う。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 13 | 平　辰彦 | 現場で役立つ薬学英語表現の総復習と前期授業のまとめ | 現場で役立つ薬学英語表現（Medication Explained )のUnit 1, Unit 2, Unit 3, Unit 4の総まとめ |
| 14 | 平　辰彦 | 現場で役立つ薬学英語表現の総まとめ | 現場で役立つ薬学英語表現（Medication Explained）のUnit 1～Unit 4の総まとめ |
| 15 | 平　辰彦 | 個別指導 | 前期試験の解説と学習内容の確認 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | １ある程度の長さの英文を正確に読み、内容を理解し、要点をまとめ、説明する力を身につける。<br>２薬学に関する語彙力をつけ、アカデミック・ライティングを書く力を身につける。<br>３薬楽に関する事柄を英語でプレゼンテーションやロール・プレイをする力を身につける。<br>４英語を聞いて、その内容を理解し、反応する力を身につける。<br>５薬学に関する内容を英語で話す力を身につける。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>評価基準：リアクションペーパーおよびロール・プレイの発表　１０％<br>オンライン学習ソフトの評価　１０％<br>定期試験　８０％<br>以上、総合評価とする。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 楽しみながら、英語にふれられるようにテキストは皆さんの興味のある薬学を主題にしたものを選びました。実際に英語を使う場面を想定しながら、授業に取り組んで下さい。英語力のアップに最も効果的なのは【音読】です。英語を何度も声に出して身体で覚えていきましょう。<br>また予習と復習に時間をかけてやることも大切です。それぞれ１時間以上は毎週やりましょう。わからないことは、そのままにしないで質問して下さい。授業では、ペアーワークあるいはグループワークも取り入れていく予定です。専門分野で英語を使いこなせれば、未来の可能性は大きく広がります。将来に結びつく英語の基礎をしっかりこの機会に習得して下さい。夢の実現のために頑張っていきましょう。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 現場で役立つ薬学英語表現 | ガニエ・グレン | 南雲堂 | 1、700円（税別） |
| **教科書** | 語源で学ぶメディカル・イングリッシュ５５０ | 平井美津子 | 南雲堂 | ２,４00円（税別） |
| **参考書** | オンライン学習ソフトの補助教材 | | | 0円 |

# 英語ＢⅡ
English BII

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位
**授業対象：** ［必修］P学部A・B，Ｓ１・２（普通）②　木４／［必修］P学部C・D，Ｓ３・４（普通）②　木３
**科目責任者：** 平　辰彦
**担　当　者：** 平　辰彦
**備　　考：** 科目ナンバリング：L102-GF04／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 英語ＢⅠに続き、医学・薬学系の専門分野の「薬」に焦点をあて、その語彙と知識を学ぶ英語ＢⅡでは、専門分野を意識したテキストを用い、コミュニケーション能力の向上に重点を置き、「読む・聞く・書く・話す」の４技能を総合的に養成することを目的とします。また最近の医薬品研究の成果や薬剤師の役割を英語で読み、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ロール・プレイを通して英語で表現する力を養成することを目的とします。 |
| **教育内容** | 薬学研究は英語で発信されることが多いため、最新の医薬品の研究の動向についていくためには、専門の内容を英語で読み解く読解力が不可欠です。この授業では、薬学に関する専門的な英語を読解するための基礎力をつけるため、薬学・医療に関するトピックを扱ったテキストを用いて、医療・社会問題を考え、英文の内容を正しく理解する読解力を養い、薬学の専門用語に関する語彙を増やし、「読む・聞く・書く・話す」の４技能を総合的に習得することを目指します。特に薬学の背景知識を学び、口頭でのプレゼンテ―ションやロール・プレイ、アカデミック・ライティングを行い、リスニングを練習し、聴覚力の養成も行い、読解力と聴覚力の英語の向上を目指します。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>双方向の学習形式を取り、ペアーワークあるいはグループワークなどを取り入れた対面授業で行います。授業では、テキストを中心にリスニング問題を解き、随時、ＣＤなどの教材を使用します。英語の語源を調べ、専門用語の語彙を増やし、各Unitの内容理解はクイズ形式で深めていきます。後期のテキストは『医学・薬学系の学生のための総合英語＜第３版＞』（南雲堂）を使用します。後期ではガイダンスの後、薬剤師と患者の会話のロール・プレイで発表。その後、テキストのUnit 6の「漢方薬とは何か」を読解し、「補完代替医療」としての漢方薬について学びます。また漢方薬に関する語源を調べ、その由来や漢方薬の歴史についても学びます。Unit 10では「薬物療法」と「精神医学」について学びます。Unit12では「感染症」について学びます。「精神医学」や「感染症」に関する英語の語源を調べ、その語の意味を深く探ります。語源についてのテキストは『語源で学ぶメディカル・イングリッシュ550』（南雲堂）を使用します。<br>【フィードバックの方法】<br>学生が提出したリアクション・ペーパーや課題レポートなどについて次回の授業で重要な項目について解説します。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：１５時間】<br>予習：①指定されたリーディング文章を読み、わからない単語や語句を調べておく。②指定された練習問題に解答する。（0.5時間）<br>復習：①単語・語句の意味や表現の確認とリーディング文章の音読。②間違ったところなどの練習問題の解き直しを行う。（0.5時間）<br>少なくとも毎週１時間は予習・復習をすること。１５回の授業を通して１５時間を予習・復習に費やしましょう。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 平　辰彦 | ガイダンス | 授業の進め方、授業の目的と到達目標、準備学習、成績評価の方法、Call Roomでの学習方法などの説明。テキストの構成、単元の内容、練習問題、リスニングテスト、ロール・プレイなどについての概説。 |
| 2 | 平　辰彦 | 現場で役立つ薬学英語表現のロール・プレイの発表―Unit 14 | Unit 14の薬剤師と患者の会話をロール・プレイで発表する。 |
| 3 | 平　辰彦 | Unit 6 (1) | Pre-Readingでは、薬理学などの英語の意味を調べ、「漢方」について書かれたReadingを読み、その内容の正誤を確認し、短い「漢方」についての会話を聴き、「漢方」とは、どういう働きを持つ薬なのかをリスニングを通して理解を深める。 |
| 4 | 平　辰彦 | Unit 6 (2) | 「漢方薬」についてのReadingを読み、その内容を問うReading Comprehension問題を行う。また短い会話を聴き、その内容を問うリスニングも実施します。 |
| 5 | 平　辰彦 | Call Roomを使用し、シェイクスピアの悲劇『ロミオとジュリエット』を映画化した映像作品の「薬剤師」が登場する場面を鑑賞する。 | 薬剤師の境遇と毒薬を取り上げたシェイクスピアの悲劇を映画化した映像作品を鑑賞し、当時の麻酔薬や毒薬について考える。 |
| 6 | 平　辰彦 | Unit 6 What Is Kampo?(３) | 「漢方薬」の種類、「漢方薬」の歴史、「漢方薬」を用いた補完代替医療の考え方、「漢方」を用いた治療方法、西洋医学との違いを理解する。 |
| 7 | 平　辰彦 | Unit 10－Pharmacotherapy and Psychiatry －Anti-anxiety Agents (1) | 精神医学の治療はこれまでに様々な治療薬や治療法が開発されてきました。しかしどの薬にもあるように副作用があります。ここでは精神疾患の治療薬の語源を調べ、その歴史を学びます。 |
| 8 | 平　辰彦 | Unit 10　－Pharmacotherapy and Psychiatry －Anti-anxiety Agents (2) | Pre-Readingでは「薬物療法」をはじめ、脳内の精神伝達物質の一種の「セロトニン」、選択的セロトニン再取り込みの阻害薬「SSRI」などの薬の説明を英語で理解し、「薬物療法」と「精神医学」についての英語の説明を理解し、Readingを読み、その内容を問う問題を行う。また短い会話を聴き、その内容を問うリスニングも実施します。 |
| 9 | 平　辰彦 | Unit 10　－Pharmacotherapy and Psychiatry －Anti-anxiety Agents (3) | 「薬物療法」や「精神医学」に関する英語の語源を調べ、それぞれの単語の生まれた時代背景を知り、その単語の意味がどのように変遷されたかを学ぶ。 |
| 10 | 平　辰彦 | Unit 12 Infection Diseases －A Measure of Lethality (1) | 「感染症」は今後、ますます増えてくることが予測されます。現在の「コロナ禍」の中、私たちは「感染症」と共に生きなければならないといわれています。ここでは、なぜ、「コロナ」のような「感染症」を収束することがむずかしいのか、そのメカニズムについて具体的な例をあげながら、関連する用語などの説明も行っていきます。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 11 | 平　辰彦 | Unit 12 Infection Diseases －A Measure of Lethality (2) | Pre-Readingでは「病原菌」をはじめ、「感染用量」などの「感染症」についての英語の説明を理解し、Readingを読み、その内容を問う問題を行う。また短い会話を聴き、その内容を問うリスニングも実施します。 |
| 12 | 平　辰彦 | Unit 12 Infection Diseases －A Measure of Lethality (3) | 「感染症」にかかわる語彙について、語源を調べ、その結果をアカデミック・ライティングでまとめる。 |
| 13 | 平　辰彦 | 「漢方薬と補完代替医療」「精神疾患の治療薬」「薬物療法」「心理療法」「感染症のメカニズム」「感染症の歴史」のまとめ | The Wonders of MedicineのUnit 6, Unit10, Unit12,Unit13の総復習と後期全体の確認・まとめ |
| 14 | 平　辰彦 | 後期授業の『医学・薬学系学生のための総合英語』の総まとめ | 『医学・薬学系学生のための総合英語』（The Wonders of Medicine<Third Edition>）のUnit ６・Unit10とUnit12・Unit 13のまとめ |
| 15 | 平　辰彦 | 個別指導 | 「漢方薬と補完代替医療」「精神疾患の治療薬」「薬物療法」「心理療法」「感染症のメカニズム」の後期試験の解説と学習内容の確認 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | １ある程度の長さの英文を正確に読み、内容を理解し、要点をまとめることができる。<br>２医学・薬学に関する語彙力をつけ、それに関する事柄を英語でプレゼンテ―ションすることができる。<br>３英語を聞いて、その内容を理解し、聞いた英単語を書き取ることができる。<br>４医学・薬学系の内容に関するアカデミック・ライティングの英作文を書くことができる。<br>５医学・薬学系の新しい事柄を積極的に学ぶことができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>リアクションペーパー　５％<br>リスニングテストおよびロール・プレイの発表　１０％<br>オンラインの英語学習ソフトの評価　１０％<br>定期試験　７５％<br>以上、総合評価とする。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 楽しみながら、英語に触れられるようにテキストは皆さんの興味ある薬学を主題にしたものを選びました。実際に英語を使う場面を想定しながら、授業に取り組んでください。ペアーワークやグループワークも取り入れていく予定です。授業への意欲的な参加に加え、日頃継続的に自学自習に取り組むことを望みます。語学学習は持続すれば必ず上達します。わからないことがあれば必ず質問すること。わからないままにはしないようにしてください。将来に結びつく英語の基礎をしっかりこの機会に習得して下さい。夢の実現のために頑張っていきましょう。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 医学・薬学系学生のための総合英語（第３版）The Wonders of Medicine (Third Edition) | 瀬谷幸男、髙津昌宏、西村月満、平井清子、和治元義博、他 | 南雲堂 | 1,900円（税別） |
| **教科書** | 語源で学ぶメディカル・イングリッシュ５０ | 平井美津子 | 南雲堂 | 2,400円（税別） |
| **教科書** | 現場で役立つ薬学英語表現 | ガニエ・グレン | 南雲堂 | 1,700円（税別） |
| **参考書** | オンライン学習ソフトの補助教材 | | | 0円 |

# 基礎教育科目

## 数理･情報系
## 〔数学、発展数学〕(P学部)

### ◆数学の勉学に対する総論

数学の授業には当然のことながら実験がありません。実験を行わずに理論の力によって問題の解答を得ようとするところに数学の授業の特徴があります。従って、計算を含めて論理を正確に、しかもスマートに使えることが大切です。

この社会が数量の概念を欠いては成立し得ないことから、数学は実に多方面に活用されています。物事を根本から考え、論理的に推論するという数学的な思考法および抽象化された表現法を体得することは専門科目のいろいろな場面で役に立つと思われます。数学は、サイエンスを学ぶ上での世界共通言語であるとも言えますので、生命科学を学ぶ当大学においては必須の科目と考えてよいでしょう。数学の勉強を通じて物事をじっくり考えるという習慣を身につけて下さい。

薬学部では数学の単位は、「数学」または「発展数学Ａ」＋「発展数学Ｂ」から４単位選択必修ということになっています。即ち、「数学」と「発展数学Ａ」＋「発展数学Ｂ」のどちらかをアンケート及びクラス分け試験の結果に基づき、履修することとなります。各クラスのレベルの目安は以下のようになっています。詳しくはシラバスを参照して下さい。

**（１）数学**〔水曜１限、水曜２限開講〕

大学１年生に対する標準的な微積分学を学ぶ科目ですが、高校での履修および習熟度に対応してクラスを以下の４つに分けて展開します。

▼①（上級）クラス：高校の「数学Ⅲ」までの内容を十分こなしていると思われる学生を対象
▼②（普通）クラス：高校の「数学Ⅲ」までの内容がある程度分かっている学生を対象
▼③（普通）クラス：　〃
▼④（基礎）クラス：主に、高校の「数学Ⅱ」までの内容を履修した学生を対象

**（２）発展数学Ａ・Ｂ**〔木曜１限開講〕

高校の数学Ⅲを修得している学生で、通常の「数学」の授業がもの足りないと思う学生のために用意された科目です。授業内容は、「数学」よりもやや広く・深くなっていて、応用も重視した授業です。

※アンケート及びクラス分け試験はオリエンテーション期間中に行います。クラス分け試験の方法等については、試験前に詳しく説明します。なお、結果については、WEB上に掲出します。

# 数学
Mathematics

**科目概要：** 2025年度　通年／4単位
**授業対象：** ［選択］P学部①（上級）　水１
**科目責任者：** 吉井　健太郎
**担　当　者：** 吉井　健太郎
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-GI01／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 微分積分学について一通りの基礎知識の習得、および数学的な思考力や問題解決能力の養成を目指す |
| **教育内容** | 微分積分学は自然科学において最も重要な学問の一つである。本講義では、1変数関数の微分積分からはじめて、2変数関数の微分および積分を扱う。1変数関数の微積分は高校でもある程度学んでいることと思うが、必要に応じて復習も行う。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義と演習により授業を展開する。講義では要点を絞った説明を心がけ、具体例を紹介する。<br>また、授業の進度に合わせてGoogle Classroom(以下LMS)にレポート課題を掲載する。レポート課題の回収もLMSを利用して行う。<br>フィードバック：レポート課題の添削・返却および模範解答の提示は1-2週間以内をめどにLMSを利用して行う。<br>前期末・後期末に行う試験の返却および模範解答の提示は行わないが、点数の開示を2-3週間以内をめどにLMSを利用して行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：総時間数：120時間】<br>予習：授業前に教科書の講義予定の部分をあらかじめ見ておくこと。各回1時間。<br>復習：授業後に講義の板書を書き写したノートとは別に内容をまとめたノートを作成すること。ノートは１か月後、半年後の自分自身が読んで理解できるようにまとめるとよい。また、問題演習で間違えた問題についてはなぜ間違えたのか直接の原因をメモし、解き直しをすること。各回3 時間。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 吉井　健太郎 | ガイダンス、数列の極限 | 授業の内容と進め方を説明する。また、数列の極限の定義と計算方法を紹介する。 |
| 2 | 吉井　健太郎 | 1変数関数の極限、連続性 | 1変数関数の極限と連続性の定義および計算方法を紹介する。 |
| 3 | 吉井　健太郎 | 合成関数、逆関数の定義 | 合成関数および逆関数について説明する。また、定義域を制限した三角関数の逆関数である逆三角関数の値の求め方や性質について紹介する。 |
| 4 | 吉井　健太郎 | 導関数と接線、微分法の諸公式 | 1変数関数に対して、そのグラフの接線の傾きを値とする関数として導関数を定義する。また、和・定数倍・積・商の微分法、合成関数の微分法、逆関数の微分法を紹介する。 |
| 5 | 吉井　健太郎 | 基本的な関数の導関数 | べき関数、指数関数、対数関数、三角関数、逆三角関数の導関数を紹介する。また、微分の計算練習を行う。 |
| 6 | 吉井　健太郎 | 対数微分法、パラメーター表示関数の微分法 | 関数を微分するとき、その関数の対数の微分を利用することで計算を簡略化できる場合があることを説明する。また、曲線のパラメーター表示とその接線の傾きの求め方を紹介する。 |
| 7 | 吉井　健太郎 | 高次導関数、ライプニッツの公式 | 関数に微分をくり返して得られるものとして高次導関数を定義し、いくつか例を紹介する。また、ライプニッツの公式などの高次導関数を求める計算に使われる公式を紹介する。 |
| 8 | 吉井　健太郎 | 平均値の定理 | ロルの定理・平均値の定理・コーシーの平均値定理について紹介する。 |
| 9 | 吉井　健太郎 | 不定形の極限 | ロピタルの定理による不定形の極限の計算方法と注意点を説明する。 |
| 10 | 吉井　健太郎 | 1変数関数のグラフの概形 | 微分を用いて、1変数関数の増減と極値、グラフの凹凸と変曲点を調べる方法を紹介する。 |
| 11 | 吉井　健太郎 | 1変数関数に対するテイラーの定理 | 1変数関数に対して多項式による近似を与える定理であるテイラーの定理、およびその特殊な場合であるマクローリンの定理について説明する。 |
| 12 | 吉井　健太郎 | 1変数関数のマクローリン展開 | マクローリンの定理の極限として得られるマクローリン展開について説明する。 |
| 13 | 吉井　健太郎 | 不定積分の定義と置換積分法、部分積分法 | 不定積分を定義し、基本的な関数の不定積分の公式を微分の公式から導出する。また、置換積分法を合成関数の微分法から導出し、部分積分法を積の微分法から導出し、それらを用いる不定積分の計算練習をする。 |
| 14 | 吉井　健太郎 | 有理関数の不定積分 | 部分分数展開などを用いた系統的な有理関数の不定積分の計算方法を紹介する。 |
| 15 | 吉井　健太郎 | まとめ | 前期の授業のまとめをする。 |
| 16 | 吉井　健太郎 | 定積分の定義と性質 | 定積分を定義し、いくつかの基本的な性質について説明する。 |
| 17 | 吉井　健太郎 | 微分積分学の基本定理、定積分の諸公式 | 微分積分学の基本定理と定積分に対する置換積分法と部分積分法を紹介し、定積分の計算練習を行う。 |
| 18 | 吉井　健太郎 | 図形の面積 | 定積分の計算を利用して、様々な図形の面積を求める方法を紹介する。極座標表示された図形の面積についても扱う。 |
| 19 | 吉井　健太郎 | 曲線の長さ | 定積分の計算を利用して、様々な図形の曲線の長さを求める方法を紹介する。極座標表示された曲線の面積についても扱う。 |
| 20 | 吉井　健太郎 | 広義積分 | 広義積分を定積分の極限として定義し、その計算練習を行う。 |
| 21 | 吉井　健太郎 | 2変数関数の極限、連続性 | 2変数関数とそのグラフの定義と例を紹介する。また、2変数関数の極限の計算方法や連続性について説明する。 |
| 22 | 吉井　健太郎 | 偏導関数 | 2変数関数に対して偏導関数を定義し、その計算練習を行う。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 23 | 吉井　健太郎 | 全微分可能性と接平面 | 2変数関数が全微分可能であることの定義と意味を説明する。また、全微分可能な2変数関数のグラフに対して、接平面を定義する。 |
| 24 | 吉井　健太郎 | 2変数合成関数の微分公式 | 2変数関数を合成して得られる関数の微分に関する公式を紹介する。 |
| 25 | 吉井　健太郎 | 2変数関数の高次偏導関数とテイラーの定理 | 2変数関数に偏微分をくり返して得られるものとして高次偏導関数を定義し、いくつか例を紹介する。また、2変数の場合のテイラーの定理を、1変数の場合のマクローリンの定理から導出する。 |
| 26 | 吉井　健太郎 | 2変数関数の極値 | 2変数関数の極大値と極小値を求める方法を説明し、計算練習を行う。 |
| 27 | 吉井　健太郎 | 重積分と累次積分 | 重積分を定義し、長方形などの単純な領域上の重積分は累次積分で表せることを紹介する。 |
| 28 | 吉井　健太郎 | 重積分の計算法 | 様々な領域上の重積分の計算を具体例を用いて説明する。 |
| 29 | 吉井　健太郎 | 重積分の変数変換 | 重積分の変数変換について説明する。特に、1次式による変数変換と極座標変換について詳しく扱う。 |
| 30 | 吉井　健太郎 | まとめ | 後期の授業のまとめをする。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1. 1変数関数の微積分の知識や計算技術の補強を行い、応用的な問題を解くことができる。<br>2. 2変数関数の微積分（偏微分や重積分）についての基本的な事項を理解し、応用することができる。<br>3. 単に計算ができるだけでなく、なぜそうなるのか、証明や数学的な理論を理解し、他者に説明できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 前期末・後期末の試験期間中に行う筆記試験と授業内のレポート課題の結果を用いて成績を評価する。<br>具体的には前期末試験40%、後期末試験 40%、レポート課題等20% の割合で評価し、100点満点に換算する。<br>60点以上を合格、60点未満を不合格とする。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 数学の学習は個人の自学自習でまかなえる部分もあるが、その一方で、複数の履修者が相互の学習を助け合うことも重要である。履修者各位はLMSや各種SNSの機能を利用するなどして、履修者同士で講義内容の疑問点や理解の度合いを確認しあうことが望ましい。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 微分積分学 | 加藤末広、勝野恵子、谷口哲也 | コロナ社 | 2,860円 |
| **参考書** | 微分積分概論 新訂版 | 高橋泰嗣，加藤幹雄 | サイエンス社 | 1,925円 |
| **参考書** | 詳解微分積分演習 基礎から本質の確かな理解へ | 加藤幹雄，柳研二郎，三谷健一，高橋泰嗣 | サイエンス社 | 2,310円 |
| **参考書** | 新版 演習微分積分 | 寺田文行，坂田ひろし | サイエンス社 | 2,305円 |
| **参考書** | やさしく語る微分積分 | 西岡康夫 | オーム社 | 2,530円 |

# 数学
Mathematics

**科目概要：** 2025年度　通年／4単位
**授業対象：** ［選択］P学部②（普通）　水１／［選択］P学部③（普通）　水２
**科目責任者：** 米山　泰祐
**担　当　者：** 米山　泰祐
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-GI01／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 自然科学を学ぶ上で必要と思われる数学の基本的な事項、計算力、さらに数理的なものの考え方の習得、育成をめざす。大学受験用の微積分とは少し視点を変え、与えられた問題を上手に解けるということだけでなく、自分の頭で諸概念をしっかり系統的に消化してもらいたい。それが微積分の習得やその応用のためにも、一番の早道になるはずである。 |
| **教育内容** | 高等学校で学んだ微積分の知識を土台に、微分積分の基礎をできるだけ分かりやすく具体的に解説する。特に後半の部分では、高校では取り上げられなかった多変数関数の解析的（微分積分学的な）取り扱いが中心目標になる。演習時間はできるだけ豊富に設ける予定なので積極的に参加をしてほしい。授業前は教科書に目を通し、概要を把握しておくこと。また授業後は授業内容をノートにまとめておくこと。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義形式。演習時間を多く取り入れる。授業は、各学生の習熟度に応じたクラス（①、②、③、④の４つのコース）により行われる。「数学」の「教科の勉学に対する総論」も参照のこと。<br>【フィードバックの方法】<br>授業中に課題を回収し、採点したものを次回もしくは次々回授業時に返却し、簡単な解説を行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：総時間数：120時間】<br>予習：授業前には教科書の予定されている箇所を1時間以上勉強しておく。<br>復習：授業後に内容をノートにまとめて、講義中に行った内容の問題をしっかりと解いておく（教科書や参考書の問題や講義中に出された問題など）。それを3時間以上行う。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 米山　泰祐 | 数列の極限 | 数列の極限を定義し、その性質を考察する。また、ネイピア数を導入する。 |
| 2 | 米山　泰祐 | 関数の極限 | １変数関数の極限の定義とその性質，極限値の計算方法などを説明する. |
| 3 | 米山　泰祐 | 関数の連続性、合成関数、逆関数 | 1変数関数の連続性、合成関数、逆関数について説明する。 |
| 4 | 米山　泰祐 | 逆三角関数 | 逆三角関数を定義し、その性質について説明する。 |
| 5 | 米山　泰祐 | 微分係数と接線、導関数 | 1変数関数に対して微分係数を定義し、それがグラフの接線の傾きに対応することを説明する。<br>また、導関数を定義しその性質についても説明する。 |
| 6 | 米山　泰祐 | 導関数の性質、合成関数の導関数 | 導関数の性質について説明し、その計算方法を紹介する。また、合成関数の導関数を求める方法についても紹介する。 |
| 7 | 米山　泰祐 | 基本的な関数の導関数 | 三角関数、指数関数、対数関数の導関数について説明する。 |
| 8 | 米山　泰祐 | 対数微分法、逆三角関数の導関数 | 対数微分法や逆三角関数の導関数について説明する。また、パラメータ表示された関数の導関数についても説明する。 |
| 9 | 米山　泰祐 | 高階導関数、ライプニッツの公式 | 高階導関数を定義し、その求め方を説明する。また、ライプニッツの公式を用いて高階導関数を求める方法についても説明する。 |
| 10 | 米山　泰祐 | ロピタルの定理 | ロピタルの定理を紹介し、この定理を利用して不定形の極限値を求める方法について説明する。 |
| 11 | 米山　泰祐 | 1変数関数のグラフ | 1変数関数のグラフの増減、極値、凹凸を調べる方法を紹介し、グラフの概形の描き方を説明する。 |
| 12 | 米山　泰祐 | テーラーの定理、マクローリンの定理 | テイラーの定理やマクローリンの定理を紹介する。　また、基本的な関数に対してマクローリンの定理を適用し、それを近似値の計算などに応用してみる。 |
| 13 | 米山　泰祐 | テイラー展開、マクローリン展開 | テイラーの定理、マクローリンの定理の極限として得られるテイラー展開、マクローリン展開について説明する。 |
| 14 | 米山　泰祐 | 不定積分 | 不定積分を定義し、その性質を説明する。 |
| 15 | 米山　泰祐 | まとめ | 課題により理解度を確認する。 |
| 16 | 米山　泰祐 | 置換積分 | 置換積分の方法を説明する。 |
| 17 | 米山　泰祐 | 部分積分 | 部分積分の方法を説明する。 |
| 18 | 米山　泰祐 | 有理関数の不定積分 | 有理関数の不定積分を求める方法を説明する。 |
| 19 | 米山　泰祐 | 無理関数の不定積分、定積分 | 無理関数の不定積分を求める方法を説明する。また、定積分を定義し、その性質について説明する。 |
| 20 | 米山　泰祐 | 定積分の計算 | 定積分のいろいろな計算方法について説明する。 |
| 21 | 米山　泰祐 | 定積分の応用 | 回転体の体積や曲線の長さなどを求める方法を紹介する。 |
| 22 | 米山　泰祐 | 広義積分、2変数関数 | 広義積分を定義し、具体例について計算してみる。　また、2変数関数を導入しその連続性などについて説明する。 |
| 23 | 米山　泰祐 | 偏導関数、全微分 | 偏導関数を定義し、その計算方法について説明する。また、全微分を定義し、その幾何的な意味を紹介する |
| 24 | 米山　泰祐 | 2変数合成関数の微分 | 2変数関数合成関数の微分公式（チェイン・ルールなど）について説明する。 |
| 25 | 米山　泰祐 | 2変数関数の極値 | 2変数関数の極値を定義し、それを求める方法を説明する。 |
| 26 | 米山　泰祐 | 2変数関数の極値（条件付き） | ラグランジュの方法を用いた2変数関数の最大値・最小値を求める方法を説明する。 |
| 27 | 米山　泰祐 | 重積分、累次積分 | 重積分の定義し、その計算方法を説明する。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 28 | 米山　泰祐 | 重積分の計算 | 前回に続き、いろいろな例題を使い重積分の計算方法を説明する。 |
| 29 | 米山　泰祐 | 変数変換 | 変数変換を用いた重積分の計算法を説明する。 |
| 30 | 米山　泰祐 | まとめ | 課題により理解度を確認する。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1. １変数関数の微積分については、新しい知識や計算技術の補強を完成させることができる。<br>2. 多変数関数の微分について、基本的な事項を理解してそれを自由に駆使することができる。<br>3. 既習の数学知識に加えさらに、 数学的思考力の強化をすることができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>通常時の課題・レポート（30%）、定期試験（70%）で評価する。欠席は減点する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | クラス分けに関しては、オリエンテーションの時に詳しく説明する。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 微分積分学 | 加藤末広、勝野恵子、谷口哲也 | コロナ社 | 2,730円 |
| **参考書** | 新微分積分I | 高遠節夫　他5名 | 大日本図書 | 1,728円 |
| **参考書** | 新微分積分II | 高遠節夫　他5名 | 大日本図書 | 1,836円 |

# 数学
Mathematics

**科目概要：** 2025年度　通年／4単位
**授業対象：** ［選択］P学部④（基礎）　水２
**科目責任者：** 吉井　健太郎
**担　当　者：** 吉井　健太郎
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-GI01／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 微分積分学についての基礎知識の習得、および数学的な思考力や問題解決能力の養成を目指す。 |
| **教育内容** | 微分積分学は自然科学において最も重要な学問の一つである。本講義では、１変数関数の微分積分からはじめて、2変数関数の微分法までを扱う。1変数関数の微積分は高校でもある程度学んでいることと思うが、必要に応じて復習も行う。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義と演習により授業を展開する。講義では要点を絞った説明を心がけ、具体例をできるだけ多く紹介し、問題演習を行うことで理解を深め、計算力を養う。<br>また、授業の進度に合わせてGoogle Classroom(以下LMS)にレポート課題を掲載する。レポート課題の回収もLMSを利用して行う。<br>フィードバック：レポート課題の添削・返却および模範解答の提示は1-2週間以内をめどにLMSを利用して行う。<br>前期末・後期末に行う試験の返却および模範解答の提示は行わないが、点数の開示を2-3週間以内をめどにLMSを利用して行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：総時間数：120時間】<br>予習：授業前に教科書の講義予定の部分をあらかじめ見ておくこと。各回1時間。<br>復習：授業後に講義の板書を書き写したノートとは別に内容をまとめたノートを作成すること。ノートは１か月後、半年後の自分自身が読んで理解できるようにまとめるとよい。また、問題演習で間違えた問題についてはなぜ間違えたのか直接の原因をメモし、解き直しをすること。各回3 時間。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 吉井　健太郎 | ガイダンス、数列の極限 | 授業の内容と進め方を説明する。また、数列の極限の定義と計算方法を紹介する。 |
| 2 | 吉井　健太郎 | 1変数関数の極限 | 1変数関数の極限の定義と計算方法を紹介する。 |
| 3 | 吉井　健太郎 | 1変数関数の連続性 | 1変数関数に関する連続性について説明する。 |
| 4 | 吉井　健太郎 | 逆関数、逆三角関数 | 単調な1変数関数に対して逆関数を定義する。また、定義域を制限した三角関数の逆関数である逆三角関数の値の求め方や性質について説明する。 |
| 5 | 吉井　健太郎 | 導関数と接線 | 1変数関数に対して、そのグラフの接線の傾き（微分係数）を値とする関数として導関数を定義する。さらに、べき関数の導関数、和・定数倍の微分法、接線の方程式を紹介する。 |
| 6 | 吉井　健太郎 | 積・商の微分法、合成関数の微分法 | 積・商の微分法と合成関数の微分法を紹介し、それを用いる微分の計算練習を行う。 |
| 7 | 吉井　健太郎 | 対数微分法、パラメーター表示関数の微分 | 関数を微分するとき、その関数の対数の微分を利用することで計算を簡略化できる場合があることを説明する。また、曲線のパラメーター表示とその接線の傾きの求め方を紹介する。 |
| 8 | 吉井　健太郎 | 高次導関数 | 関数に微分をくり返して得られるものとして高次導関数を定義し、いくつか例を紹介する。 |
| 9 | 吉井　健太郎 | ライプニッツの公式 | ライプニッツの公式などの高次導関数を求める計算に使われる公式を紹介し、それを用いる微分の計算練習を行う。 |
| 10 | 吉井　健太郎 | 平均値の定理 | ロルの定理・平均値の定理・コーシーの平均値定理について紹介する。 |
| 11 | 吉井　健太郎 | 不定形の極限 | ロピタルの定理による不定形の極限の計算方法と注意点を説明する。 |
| 12 | 吉井　健太郎 | 1変数関数のグラフの増減 | 微分を用いて、1変数関数の増減と極値を調べる方法を紹介する。 |
| 13 | 吉井　健太郎 | 1変数関数のグラフの凹凸 | 微分を用いて、1変数関数のグラフの凹凸と変曲点を調べる方法を紹介する。 |
| 14 | 吉井　健太郎 | 1変数関数に対するテイラーの定理とマクローリン展開 | 1変数関数に対して多項式による近似を与える定理であるテイラーの定理、およびその特殊な場合であるマクローリンの定理とマクローリンの定理の極限として得られるマクローリン展開について紹介する。 |
| 15 | 吉井　健太郎 | まとめ | 前期の授業のまとめをする。 |
| 16 | 吉井　健太郎 | 不定積分 | 不定積分を定義する。また、基本的な関数の不定積分の公式を微分の公式から導出する。 |
| 17 | 吉井　健太郎 | 置換積分法、部分積分法 | 置換積分法を合成関数の微分法から導出し、部分積分法を積の微分法から導出する。また、それらを用いる不定積分の計算練習を行う。 |
| 18 | 吉井　健太郎 | 有理関数の不定積分 | 部分分数展開などを用いた系統的な有理関数の不定積分の計算方法を紹介する。 |
| 19 | 吉井　健太郎 | 定積分の定義と性質 | 定積分を定義し、いくつかの基本的な性質について説明する。 |
| 20 | 吉井　健太郎 | 微分積分学の基本定理 | 微分積分学の基本定理を紹介し、定積分の計算練習を行う。 |
| 21 | 吉井　健太郎 | 定積分の諸公式 | 定積分に対する置換積分法と部分積分法を紹介し、それらを用いる計算練習を行う。 |
| 22 | 吉井　健太郎 | 広義積分 | 広義積分を定積分の極限として定義し、その計算練習を行う。 |
| 23 | 吉井　健太郎 | 2変数関数の定義と実平面上の集合 | 2変数関数を定義しその例を紹介する。また、実平面上の集合の分類について説明する。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 24 | 吉井　健太郎 | 2変数関数の極限、連続性 | 2変数関数の極限の計算方法や連続性について説明する。 |
| 25 | 吉井　健太郎 | 偏導関数 | 2変数関数に対して偏導関数を定義し、その計算練習を行う。 |
| 26 | 吉井　健太郎 | 全微分可能性と接平面 | 2変数関数が全微分可能であることの定義と意味を説明する。また、全微分可能な2変数関数のグラフに対して、接平面を定義する。 |
| 27 | 吉井　健太郎 | 2変数合成関数の微分公式 | 2変数関数を合成して得られる関数の微分に関する公式を紹介する。 |
| 28 | 吉井　健太郎 | 2変数関数の高次偏導関数 | 2変数関数に偏微分をくり返して得られるものとして高次偏導関数を定義し、いくつか例を紹介する。 |
| 29 | 吉井　健太郎 | 2変数関数の極値 | 2変数関数の極大値と極小値を求める方法を説明し、計算練習を行う。 |
| 30 | 吉井　健太郎 | まとめ | 後期の授業のまとめをする。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1. 基本的な微積分の計算( 教科書の問題の70 〜80% 位) ができる。また基本的な知識を使って応用問題を解くことができる。<br>2. 公式がなぜそうなったか、その定理がなぜ重要であるかなどを理解し、他者に説明できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 前期末・後期末の試験期間中に行う筆記試験と授業内のレポート課題の結果を用いて成績を評価する。<br>具体的には前期末試験40% 、後期末試験 40% 、レポート課題等20% の割合で評価し、100点満点に換算する。<br>60点以上を合格、60点未満を不合格とする。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 数学の学習は個人の自学自習でまかなえる部分もあるが、その一方で、複数の履修者が相互の学習を助け合うことも重要である。履修者各位はLMSや各種SNSの機能を利用するなどして、履修者同士で講義内容の疑問点や理解の度合いを確認しあうことが望ましい。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 微分積分学 | 加藤末広、谷口哲也、勝野恵子 | コロナ社 | 2,860円 |
| **参考書** | 微分積分概論 新訂版 | 高橋泰嗣，加藤幹雄 | サイエンス社 | 1,925円 |
| **参考書** | 詳解微分積分演習 基礎から本質の確かな理解へ | 加藤幹雄，柳研二郎，三谷健一，高橋泰嗣 | サイエンス社 | 2,310円 |
| **参考書** | 新版 演習微分積分 | 寺田文行，坂田ひろし | サイエンス社 | 2,035円 |
| **参考書** | やさしく語る微分積分 | 西岡康夫 | オーム社 | 2,530円 |

# 発展数学A（多変数関数の微積分）

Advanced Mathematics A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位

**授業対象：** 指定なし（G学科，M学部，S学部，HS学科，OT専攻，ST専攻，FR学部を除く）　木１／［自由］G学科　木１／［自由］HS学科　木１／［自由］OT専攻　木１／［自由］ST専攻　木１

**科目責任者：** 伊藤　真吾

**担当者：** 伊藤　真吾

**備考：** 科目ナンバリング：L101-GI06／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 高校の「数学Ⅲ」に相当する内容を学習済みであり、さらに高度な内容の数学を受講したいと希望する学生に対して開講する科目。多変数関数（主に2変数関数）の微分積分学の理解と偏微分・重積分等の計算能力を修得すること、また、講義を通して数理的なものの考え方を身につけることを目的とする。 |
| **教育内容** | yがxの関数であることをy=f(x)などと表し、これを1変数関数と呼ぶ。一方、zがxとyの関数であることをz=f(x,y)などと表し、これを２変数関数と呼ぶ。本講義の主な内容はこの2変数関数についての微分積分である。最初の5回は、2変数関数を学習する準備として、1変数関数について（高等学校の数学Ⅲで学習しない内容である）逆三角関数、ロピタルの定理、テーラーの定理、定積分の定義を解説する。5回目以降は、2変数関数の微分（偏微分という）、積分（重積分という）を解説する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>前半の75分程度は板書による講義形式で授業を進める。残りの15分程度は問題演習の時間に充てる。<br>【フィードバックの方法】演習問題は毎回提出してもらい、採点・添削したものを次回授業時に返却する。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：次回内容に関する教科書の該当部分を一通り読んでおくこと（1時間程度）。<br>復習：授業内容を復習し、配布プリントおよび教科書の演習問題に取り組むこと（3時間程度）。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 伊藤　真吾 | 逆三角関数 | 逆三角関数を定義し、その導関数・不定積分について学ぶ。 |
| 2 | 伊藤　真吾 | １変数関数の微分法(1)<br>ロピタルの定理 | ロルの定理、コーシーの平均値定理からロピタルの定理を導き、複雑な極限の計算方法について学ぶ。 |
| 3 | 伊藤　真吾 | １変数関数の微分法(2)<br>テーラーの定理 | テーラーの定理、マクローリンの定理の使い方を学ぶ。 |
| 4 | 伊藤　真吾 | １変数関数の定積分の定義 | １変数関数の定積分を定義し、微分積分学の基本定理について学ぶ。 |
| 5 | 伊藤　真吾 | ２変数関数の微分法(1)<br>２変数関数の基礎事項 | ２変数関数の定義、グラフ、連続性およびその極限、偏導関数の計算法について学ぶ。 |
| 6 | 伊藤　真吾 | ２変数関数の微分法(2)<br>全微分 | 2変数関数の全微分可能性、2変数関数のグラフの接平面、接平面と全微分可能性の関係について学ぶ。 |
| 7 | 伊藤　真吾 | ２変数関数の微分法(3)<br>高階偏導関数・合成関数の偏微分 | 2変数関数の高階変動関数および合成関数の偏微分の計算方法を学ぶ。 |
| 8 | 伊藤　真吾 | ２変数関数の微分法(4)<br>極大・極小 | ２変数関数の極大、極小の調べ方について学ぶ。 |
| 9 | 伊藤　真吾 | ２変数関数の微分法(5)<br>陰関数定理 | 陰関数の定理の原理を理解し、曲線の接線や陰関数の極値問題の解き方を学ぶ。 |
| 10 | 伊藤　真吾 | ２変数関数の微分法(6)<br>ラグランジュの未定乗数法 | 条件付き極値問題をラグランジュの未定乗数法を用いて解く方法を学ぶ。 |
| 11 | 伊藤　真吾 | ２変数関数の積分法(1)<br>２重積分の定義と意味 | 重積分の定義と幾何学的な意味、累次積分について学ぶ。 |
| 12 | 伊藤　真吾 | ２変数関数の積分法(2)<br>重積分の変数変換 | 重積分を変数変換により計算する方法（特に極座標変換による変換）について学ぶ。 |
| 13 | 伊藤　真吾 | ２変数関数の積分法(3)<br>体積や曲面積への応用 | 重積分を用いて、立体の体積や表面積を求める演習を行う。 |
| 14 | 伊藤　真吾 | ２変数関数の積分法(4)<br>広義積分 | 広義積分の定義を理解し、その計算方法を学ぶ。 |
| 15 | 伊藤　真吾 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | １．１変数関数にテーラーの定理を適用することができる。<br>２．偏微分の基本事項を理解し、偏導関数を求めることができる。<br>３．２変数関数の極大・極小を調べることができる。<br>４．陰関数を微分することができる。<br>５．重積分の基本事項を理解し、その値を計算することができる。<br>６．２重積分を利用して立体の体積を求めることができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>「毎回の講義における課題において授業内容を正しく理解できている(30%)」、「講義内容の理解度を問う定期試験(70%)」により評価する。なお、欠席は減点する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 分からないことは、遠慮なく質問してください。また、学生同士お互いに聞きあったり、教えたりすることも大切です。内容量が多く、進度は早いので、不明な点はできるだけ早く理解することが重要です。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 微分積分学 | 加藤 末広、勝野 恵子、谷口 哲也 | コロナ社 | 2,860円 |
| **参考書** | 入門微分積分 | 三宅敏恒 | 培風館 | 2,090円 |

# 発展数学B（ベクトル解析）

Advanced Mathematics B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位

**授業対象：** 指定なし（G学科，M学部，S学部，HS学科，OT専攻，ST専攻，FR学部を除く）　木１／［自由］G学科　木１／［自由］HS学科　木１／［自由］OT専攻　木１／［自由］ST専攻　木１

**科目責任者：** 伊藤　真吾

**担当者：** 伊藤　真吾

**備考：** 科目ナンバリング：L101-GI07／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 高度な内容の数学を受講したいと希望する学生に対して開講する科目。本講義では、ベクトル解析の基本的な概念を理解し、それらの計算ができるようになることを目的とする。 |
| **教育内容** | ベクトル解析は、3次元空間での微分積分学の理論で、数学的には多変数関数の微積分の続きである。他方、電磁気学の定式化に使われるなど物理学の分野でも必須の内容である。前半は、曲線、曲面、スカラー場、ベクトル場等の基本事項を解説し、後半は線積分、面積分、積分定理等の応用を解説する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>前半の75分程度は板書による講義形式で授業を進める。残りの15分程度は問題演習の時間に充てる。<br>【フィードバックの方法】演習問題は毎回提出してもらい、採点・添削したものを次回授業時に返却する。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：次回内容に関する教科書の該当部分を一通り読んでおくこと（1時間程度）。<br>復習：教科書およびプリントの演習問題に取り組むこと（3時間程度）。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 伊藤　真吾 | ベクトル | ベクトルについての復習（成分表示、大きさ、内積など）をする（教科書1.1節前半）。 |
| 2 | 伊藤　真吾 | ベクトルの外積 | 行列式の理論の初歩、ベクトルの外積について学ぶ（教科書1.1節後半）。 |
| 3 | 伊藤　真吾 | ベクトル値関数の微分 | ベクトル値関数の極限・連続性・微分を定義し、その計算方法を学ぶ（教科書1.2節）。 |
| 4 | 伊藤　真吾 | 空間曲線（１） | 空間曲線のベクトル方程式を定義し、弧長、接線ベクトル、法線ベクトル、弧長によるパラメータ付けについて学ぶ（教科書2.1節前半）。 |
| 5 | 伊藤　真吾 | 空間曲線（２） | フレネ・セレの公式について学ぶ（教科書2.1節後半）。 |
| 6 | 伊藤　真吾 | 空間曲面 | 空間曲面のベクトル方程式を定義し、曲面積の求め方を学ぶ（教科書2.3節、2.5節）。 |
| 7 | 伊藤　真吾 | スカラー場の勾配 | スカラー場の勾配を定義し、その幾何学的意味を学ぶ（教科書3.1節、3.2節）。 |
| 8 | 伊藤　真吾 | ベクトル場の発散 | ベクトル場の発散を定義し、その幾何学的意味を学ぶ（教科書3.3節）。 |
| 9 | 伊藤　真吾 | ベクトル場の回転 | ベクトル場の回転を定義し、その幾何学的意味を学ぶ（教科書3.4節）。 |
| 10 | 伊藤　真吾 | 第9回までの復習 | 問題演習を通して、第9回までの学習内容の復習を行う。 |
| 11 | 伊藤　真吾 | 線積分 | スカラー場およびベクトル場の線積分の定義とその計算方法について学ぶ（教科書4.1節）。 |
| 12 | 伊藤　真吾 | 面積分 | スカラー場およびベクトル場の面積分の定義とその計算方法について学ぶ（教科書4.2節）。 |
| 13 | 伊藤　真吾 | ガウスの発散定理・ストークスの定理 | 立体積分を定義してから、ガウスの発散定理、ストークスの定理とそれらの意義について学ぶ（教科書5.1節、5.3節前半）。 |
| 14 | 伊藤　真吾 | グリーンの定理 | グリーンの定理とその意義について学ぶ（教科書5.3節後半）。 |
| 15 | 伊藤　真吾 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | １．曲線、曲面、スカラー場、ベクトル場を正しく理解し、それらの具体的な計算ができる。<br>２．線積分、面積分、各積分定理を正しく理解し、それらの具体的な計算ができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>「毎回の講義における課題において授業内容を正しく理解できている（30%）」、「講義内容の理解度を問う定期試験（70%）」により評価する。なお、欠席は減点する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 発展数学A程度に相当する微積分学に関する知識（定積分の定義・テーラー展開・2変数関数の偏微分・2重積分）が必須です。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 理工系 ベクトル解析 | 香田温人・長町重昭 | 学術図書出版社 | 1,760円 |
| 参考書 | キーポイントベクトル解析 | 高木隆司 | 岩波書店 | 2,530円 |

# 基礎教育科目

## 数理･情報系
## 〔情報科学〕

### 教科の勉学に対する総論

#### 情報科学A、B

情報機器としてのパソコンの利用は現代では必須事項になっています。この教科では、そうした必要性に応じて情報科学の基礎となる概念の学習、文書作成、表計算、プレゼンテーション、インターネット、プログラミングなど種々の項目から２、３の項目を選んで、組み合わせの異なるいくつかのクラスを設定しています。どのクラスも出発は初心者でよいという考えで開講するので、当シラバスに書かれた学習項目と開講時限を考慮して随意に選択をしてください。

なお、薬学部と医療衛生学部の学生は、学部開講の情報系必修科目との関係から、より幅広く情報科学を学ぶために、情報科学Ａではなく情報科学Ｂ（または次のＣ）を選択する事をお勧めします。また、未来工学部の学生は情報科学Ａが必修科目となっています。

#### 情報科学C

パソコンにおいても利用権限の制限された一般ユーザと、全ての権限を与えられた管理ユーザが厳密に区別されるようになりました。情報科学Ａ、Ｂでは一般ユーザとしてのパソコンの利用を学びます。しかし、パソコンに新しい機能を追加したり、計測器を接続したり、ネットワークサーバとして利用したりするためには、管理ユーザとしての権限が必要になります。

情報科学Ｃでは、学生に管理ユーザとしての全権限を与えて、コンピュータハードウェア、ソフトウェアや周辺機器のインストール、ネットワーク管理などの仕組みを学びます。

#### 履修方法について

情報科学では、パソコン台数に限りがあるため、受講者数が定員を超えないよう、初回授業よりも前に抽選を開始します。履修希望者はこの抽選に参加して履修の許可を得る必要があります。ただし、未来工学部の情報科学Aは必修科目のため、抽選に参加する必要はありません。

具体的な募集については、学期の始めに一般教育部授業情報サイトに掲出されます。履修希望者は見落としのないよう注意してください。後期の分も、前期募集期間に募集し、後期になってからの募集は空きのある場合のみとなりますから注意してください。

※詳しくは次頁を参照してください。
※各時限には定員がありますので、注意して下さい。
※優先学科以外の学生も応募出来ます。優先は、抽選の際に優先されるという事です。

情報科学の設定時間詳細

| | 科目名 | 担当者 | 曜日 | 時限 | 定員 | 優先学科専攻等 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 前期 | 情報科学A | 髙野 | 月 | 2 | 40 | MB優先 |
| | 情報科学A | 髙橋 | 月 | 3・4 | 40 | |
| | 情報科学A | 髙野 | 火 | 1・2 | 40 | MB優先 |
| | 情報科学A | 髙野 | 火 | 5 | 40 | |
| | 情報科学A | 小川 | 火 | 4・5 | 40 | |
| | 情報科学C | 小川 | 火 | 2 | 14 | |
| | 情報科学A | 小川 | 水 | 1・2 | 40 | |
| | 情報科学A | 福田 | 水 | 2 5 | 40 | |
| | 情報科学A | 髙橋 | 木 | 1・2 | 40 | |
| | 情報科学A | 藤田 | 木 | 2・3・4 | 40 | |
| | 情報科学A | 福田 | 金 | 1・2 | 40 | |
| | 情報科学A | 吉田（勝） | 金 | 2 4・5 | 40 | |
| | 情報科学A | 吉田（勝） | 金 | 3 | 40 | FU必修 |
| | 情報科学A | 原 | 金 | 3・4 | 40 | FU必修 |
| | 情報科学C | 福田 | 金 | 4 | 14 | |
| 後期 | 情報科学B | 髙橋 | 月 | 1 | 40 | Z・G教職優先 |
| | 情報科学B | 髙橋 | 月 | 2 | 40 | |
| | 情報科学B | 髙野 | 月 | 3・4 | 40 | |
| | 情報科学B | 髙野 | 火 | 1 | 40 | Z・G・N・S教職優先 |
| | 情報科学B | 髙野 | 火 | 2 | 40 | HS優先 |
| | 情報科学B | 小川 | 火 | 4・5 | 40 | |
| | 情報科学C | 小川 | 火 | 2 | 14 | |
| | 情報科学B | 小川 | 水 | 1 | 40 | ML優先 |
| | 情報科学B | 小川 | 水 | 2 | 40 | |
| | 情報科学B | 福田 | 水 | 5 | 40 | |
| | 情報科学B | 髙橋 | 木 | 1 | 40 | |
| | 情報科学B | 髙橋 | 木 | 2 | 40 | OT優先 |
| | 情報科学B | 藤田 | 木 | 2・3 | 40 | |
| | 情報科学B | 福田 | 金 | 1 | 40 | ML優先、N・S教職優先 |
| | 情報科学B | 吉田（勝） | 金 | 2 | 40 | ML優先 |
| | 情報科学B | 吉田（勝） | 金 | 3 | 40 | RT優先 |
| | 情報科学B | 吉田（勝） | 金 | 4 | 40 | S教職優先 |
| | 情報科学C | 福田 | 金 | 4 | 14 | |

# 情報科学A
Information Science A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし（G学科，M学部，ML学科，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　水２or水５or金１or金２／［自由］G学科　水２or水５or金１or金２／［自由］ML学科　水２or水５or金１or金２／［自由］ET学科　水２or水５or金１or金２／［自由］PT専攻　水２or水５or金１or金２／［自由］ST専攻　水２or水５or金１or金２／［自由］OV専攻　水２or水５or金１or金２
**科目責任者：** 福田　宏
**担当者：** 福田　宏
**備考：** 科目ナンバリング：L101-GI08／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | コンピュータに慣れ親しむ。コンピュータとインターネットの仕組みを理解する。<br>コンピュータとインターネットを使って，情報を整理・分析し，情報収集や発信ができるようになる。 |
| **教育内容** | 初心者向け。以下の事を学ぶ。コンピュータの仕組みと使い方。コンピュータで情報を整理・分析する方法。<br>インターネットの仕組みと使い方。インターネットで情報を収集・発信する方法。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義とWindowsパソコンによる演習。講義資料と演習の教材は学習支援システムに掲載する。<br>【フィードバックの方法】教員との質疑応答，および学習支援システムによりフィードバックする。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>課題図書：学習支援システムに掲載する講義資料。<br>予習（毎回1時間）：学習支援システムに目を通して概要を把握し，講義ビデオを視聴しておく。<br>復習（毎回3時間）：終わらなかった課題を完成する。発展課題に取り組む。講義ビデオを視聴する。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 福田　宏 | オリエンテーション | 授業の紹介 |
| 2 | 福田　宏 | ソフトウエア | コンピュータとは何かをその歴史から学ぶ。コンピュータを動かすソフトウェアの役割と種類，基本ソフトウェア(OS)と応用ソフトウェア(通称アプリ)。 |
| 3 | 福田　宏 | ハードウェア | コンピュータのハードウェアの仕組みを学ぶ。コンピュータが論理回路で動作する原理を学び，実習で使うコンピュータのハードウェア構成を確認する。 |
| 4 | 福田　宏 | 文書作成(1) | Windowsの操作方法を確認し，Wordで文書を作成する。 |
| 5 | 福田　宏 | 文書作成(2) | 文書構造と装飾の分離，ページや図・表，参考文献番号の自動管理に留意して，理系形式の論文/レポートを作成する。 |
| 6 | 福田　宏 | 数式処理 | Maximaによる数式処理（因数分解や微積分）を学び，数学の問題を解く |
| 7 | 福田　宏 | 数式の書き方 | 数式まじりの理系文書を作る |
| 8 | 福田　宏 | 実験・観測データの整理 | Excelで，数値計算したり，実験・観測データを整理したりする |
| 9 | 福田　宏 | 表とグラフ | Excelで，理系論文で使われる標準的な形式の表やグラフを作る |
| 10 | 福田　宏 | データ解析 | Excelで，実験データを直線や曲線にフィッティングして統計処理（回帰分析）する方法を学ぶ |
| 11 | 福田　宏 | インターネットの仕組み | インターネットとWWWの歴史と仕組み，データを安全にやりとりするための基盤技術である公開鍵暗号の仕組みを学ぶ。ビデオ視聴する |
| 12 | 福田　宏 | インターネットの利用 | Webの全文検索とページランク，公式情報・学術情報の所在，電子メールの仕組みと教員との連絡におけるマナー |
| 13 | 福田　宏 | HTML | WebページはHTMLで書かれている事を学ぶ。ハイパーリンクと画像の入ったWebページを作成して，個人情報と著作権に留意して公開する。 |
| 14 | 福田　宏 | 最終課題 | 理系形式の文書作成，実験データのフィッティング，Webページ作成，ウィキペディアの編集，から興味のあるものを選択して最終課題として取り組む |
| 15 | 福田　宏 | 解説 | 授業内容や課題についての質問を受け付ける |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 理系文書の作成，実験データの図と表の作成と回帰分析に基づくデータのフッティング，簡単な数式処理，Webブラウザによる情報収集，学生メールによる教員と連絡，Webページ作成ができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>ほぼ毎回提出してもらう課題59%，最終課題41%で成績評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | コンピュータとインターネットの仕組みを知り，正しく利活用してください。 |

**教員免許取得のための選択科目**

| | |
|---|---|
| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 |

# 情報科学A
Information Science A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし（G学科，M学部，ML学科，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　月３or月４or木１or木２／［自由］G学科　月３or月４or木１or木２／［自由］ML学科　月３or月４or木１or木２／［自由］ET学科　月３or月４or木１or木２／［自由］PT専攻　月３or月４or木１or木２／［自由］ST専攻　月３or月４or木１or木２／［自由］OV専攻　月３or月４or木１or木２
**科目責任者：** 髙橋　勇
**担当者：** 髙橋　勇
**備考：** 科目ナンバリング：L101-GI08／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | コンピュータに慣れ親しむ。<br>コンピュータを用いて簡単なテキスト、表、グラフ、画像を作成する技能を身につける。<br>ネットワークの仕組みや構成の概要を理解し、演習を通じてそれらを活用するための基礎を身につける。<br>インターネットを介して情報を通信、収集、発信する方法を理解する。<br>ネットワークを利用する際の注意事項とマナー、関連する法律の概要を理解する。 |
| **教育内容** | 初心者を対象とします。下記の内容を扱います。<br>MS-Windowsを用いたコンピュータの基礎的な利用方法。Webブラウザを用いた情報収集。<br>メールの送受信とマナーの確認。表計算ソフトを用いた表とグラフの作成。<br>エディタを用いた文書作成。描画ソフトを用いた画像作成。HTMLによるWebページの作成。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>基礎概念を学習するための講義と、コンピュータを用いた演習を行います（演習が主）。<br>一部では、事前に動画等でオンデマンド型のオンライン学習をしてもらったうえで、授業時間中はそれを前提とした演習中心の学習をおこなう反転授業の形式を取り入れます。<br>Google Classroom を用いて事前学習の教材や資料の配布、小テスト、提出物の回収などを行います。<br>【フィードバックの方法】<br>各課題の採点の結果や再提出の指示などのフィードバックは主に Classroom 上で行います。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：事前学習の教材や連絡などは Classroom に掲載します。授業前に各自で確認して必要な学習をしてください。<br>復習：授業後には、 Classroom の機能を用いた小テストや小課題等を達成する必要があります。<br>全15回の授業を平均すると1回の授業ごとにおよそ4時間程度の予習・復習が必要です。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 髙橋　勇 | オリエンテーション | この授業の目的と内容、実施方法、評価方法の説明をします。 |
| 第2回 | 髙橋　勇 | コンピュータの基礎 1<br>：コンピュータの利用 | コンピュータの基本的な構成と動作(コンピュータの５大要素、ソフトウエアとハードウエア、基本ソフトと応用ソフト)について学び、コンピュータやアプリケーションの起動・終了の方法を学びます。 |
| 第3回 | 髙橋　勇 | コンピュータの基礎 2<br>：データとファイルの管理 | コンピュータ内部でのアプリケーションやデータの扱われ方や、Windowsでの管理方法（ファイルとフォルダ，ウインドウやタスクバー等）について学び、エディタでファイルを作る演習をします。 |
| 第4回 | 髙橋　勇 | ネットワークの基礎 1<br>：ネットワークの仕組み | コンピュータを用いた情報通信の仕組みの基礎を理解し、Webアプリケーションの種類と利用例について学びます。 |
| 第5回 | 髙橋　勇 | ネットワークの基礎 2<br>：情報検索 | Web検索の利用方法や高度な検索方法（AND検索、OR検索）について演習し、その基礎となるWebページの閲覧の仕組みや論理演算の考え方を学びます。 |
| 第6回 | 髙橋　勇 | ネットワークの基礎 3<br>：電子メール | 電子メールで情報を送受信する仕組みを学習し、実際に送受信の演習をします。また電子メールの本文を作成する際の注意事項やマナーなどについて学びます。 |
| 第7回 | 髙橋　勇 | ネットワークの基礎 4<br>：ネットワークと社会 | Webページ上の情報の信頼性や危険性、著作権、セキュリティ対策など、ネットワークを活用する際に必要となる基礎的な概念や法律の概要を学びます。 |
| 第8回 | 髙橋　勇 | コンピュータの基礎３<br>：表計算 | 数値データの扱い方の基礎として表計算のしくみを学び、表計算ソフトで表を作る演習をします。また、グラフを描く際に注意すべき事柄について考えます。 |
| 第9回 | 髙橋　勇 | 情報発信の仕組み 1<br>：WebサーバとHTML | Webページを公開するための技術的な手続きと注意事項について学びます。また、一般的な文書の構成とマークアップ言語の概念について学び、簡単なHTMLファイルを公開する演習をします。 |
| 第10回 | 髙橋　勇 | 情報発信の仕組み 2<br>：HTML入門・画像 | HTMLの基礎（見出しやハイパーリンク等）の学習をします。また、コンピュータ内部での画像の扱われ方について学び、描画ソフトを使って作成した画像をHTMLで利用する演習をします。 |
| 第11回 | 髙橋　勇 | Webページの作成 1<br>：課題作成 | オリジナルのWebページを作成します。 |
| 第12回 | 髙橋　勇 | Webページの作成 2<br>：課題作成 | オリジナルのWebページを作成します。 |
| 第13回 | 髙橋　勇 | Webページの作成 3<br>：課題作成 | オリジナルのWebページを作成します。 |
| 第14回 | 髙橋　勇 | Webページの完成<br>：授業全体の復習 | オリジナルのWebページを完成させます。また、授業全体の復習を行います。 |
| 第15回 | 髙橋　勇 | Webページの相互評価 | 各学生が作成したWebページを互いに閲覧して評価します。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 情報処理に関する高度基礎教育の実践として下記を目標とします。<br>・テキスト・画像・表計算のファイルを作成でき、それをフォルダを用いて管理できる。<br>・パソコンやネットワークの仕組み、動作原理、利用時の注意などの基礎的な質問に答えることができる。<br>・Web検索サイトを用いた情報収集、電子メールによる情報伝達、HTML文書による情報発信ができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>Google Classroom 上で出題する学習内容を確認するための小テストや小課題（Web検索、電子メール、表計算など）の達成状況（6割）と、作成したWebページが一定の条件（ページ数、リンクや画像の利用など）を満たせているかどうか（4割）で評価します。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 教材の提供や詳細な連絡は Google Classroom を用いておこないます。使い方は授業の中で説明します。第3回目から本格的に使い始めるので、それ以降は必ず週１回は内容を確認してください。<br>（下記の参考書は授業では使用しません。網羅的・発展的な学習をしたい場合に参考にできる選択肢のひとつと考えてください） |

**教員免許取得のための選択科目**

| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | | |
|---|---|---|---|---|
| **種別** | **書名** | **著者･編者** | **発行所** | **定価(円)** |
| **参考書** | 学生のためのアカデミック情報リテラシー | 阿部勘一, noa出版 | noa出版 | 1,334円 |

# 情報科学A
Information Science A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし（G学科，M学部，ML学科，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　火４or火５or水１or水２／［自由］G学科　火４or火５or水１or水２／［自由］ML学科　火４or火５or水１or水２／［自由］ET学科　火４or火５or水１or水２／［自由］PT専攻　火４or火５or水１or水２／［自由］ST専攻　火４or火５or水１or水２／［自由］OV専攻　火４or火５or水１or水２
**科目責任者：** 小川　智也
**担当者：** 小川　智也
**備考：** 科目ナンバリング：L101-GI08／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | コンピューターに慣れ親しむ。<br>情報化社会で必須となる、インターネットを使って情報を収集しコンピューターで整理・分析する技術を身につける。 |
| **教育内容** | 初心者を対象とする。<br>インターネット上の情報を収集・利用する際に知っておかなければならない注意事項、授業で使うWindowsパソコンの基本操作、情報の整理・分析に用いるMicrosoft Excelの使用法を学習する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義およびWindowsパソコンを使用した演習。<br>オンライン教材と、オンライン教育システムGoogle Classroomを使用する。オンライン教材の場所は授業中に示す。<br>【フィードバックの方法】課題と小テストの解説を授業中またはGoogle Classroom上で行なう。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>※授業時間外学習には、課題への取り組み時間も含む。<br>予習：オンライン教材に目を通しておくこと。<br>復習：操作方法等を復習すること。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 小川　智也 | オリエンテーション | この授業の紹介と説明。 |
| 2 | 小川　智也 | ネットワーク利用 | ネットワークの利便性と危険性、および著作権について。 |
| 3 | 小川　智也 | Windowsの基礎 | ファイルのコピー・移動・削除、文字入力などWindowsの基本操作と、タイピングの練習。 |
| 4 | 小川　智也 | Excelの基本操作と作表 | セル選択、データ入力などExcelの基本操作を学ぶ。表を作る。 |
| 5 | 小川　智也 | グラフ | 表のデータに基づいてグラフを作る。 |
| 6 | 小川　智也 | 書類作成 | 式と関数を利用して書類を作成する。 |
| 7 | 小川　智也 | 散布図と回帰分析 | データを収集して表と散布図を作る。回帰直線を求める。 |
| 8 | 小川　智也 | データベース | 表をデータベースとして操作する。 |
| 9 | 小川　智也 | データの収集と分析 | これまでに学んだことを応用して、データを収集し分析する。 |
| 10 | 小川　智也 | 図形と数式エディタ | 図形の描く。数式を書く。 |
| 11 | 小川　智也 | 課題 | 課題内容は第10回までの授業中に指示する。 |
| 12 | 小川　智也 | マクロとVBA | マクロ（手順を記憶し自動的に実行する機能）の使い方を学ぶ。マクロとVisual Basic for Applications（VBA）の関係を知り、簡単なプログラムを書く。 |
| 13 | 小川　智也 | VBAプログラミング | VBAプログラミングの基礎を学ぶ。 |
| 14 | 小川　智也 | カスタム関数 | VBAでカスタム関数（ユーザー定義関数）を作る。 |
| 15 | 小川　智也 | 個別指導 | 個別指導。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | インターネットを利用して情報を収集できる。<br>Excelを使ってデータを分析できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>この授業で学んだこと（VBAを除く）を応用してExcelファイルを作成する課題を出し、習熟度を評価する(70%)。<br>VBAの回は、各回の内容に関する小テストを毎回出し、理解度を評価する(3回、計30%)。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 情報化社会では、情報を収集・分析・整理する能力が重要です。インターネットを使った情報収集は多くの人が行なっていますが、パソコンによる情報の分析・整理にはある程度の技術と訓練が必要です。この授業で基本を身につけて下さい。欠席した場合は自習により補って下さい。 |

**教員免許取得のための選択科目**

| 科目 | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | | |
|---|---|---|---|---|
| **種別** | **書名** | **著者･編者** | **発行所** | **定価(円)** |
| **教科書** | オンライン教材を公開する。 | | | 円 |

# 情報科学A（インターネット・Word・PowerPoint・HTML）

Information Science A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位

**授業対象：** MB学部優先　月２or火１or火２／指定なし（G学科，M学部，ML学科，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　火５／［自由］G学科　火５／［自由］ML学科　火５／［自由］ET学科　火５／［自由］PT専攻　火５／［自由］ST専攻　火５／［自由］OV専攻　火５

**科目責任者：** 高野　保真

**担当者：** 高野　保真※

**備考：** 科目ナンバリング：L101-GI08／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | ・コンピュータやインターネットの仕組みを理解すること<br>・コンピュータに慣れ親しみ，大学で必要となるレポート作成方法を身につけること<br>・インターネット上への情報発信の方法を理解すること |
| **教育内容** | 以下の内容について学びます．<br>・講義形式によるコンピュータ・ネットワーク・インターネットの仕組み<br>・マイクロソフトオフィスによるレポート・プレゼンテーションなどの作成演習<br>・情報倫理を踏まえたメールやウェブブラウザなどのインターネットの利用演習<br>・ウェブページの作成演習 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>・スライド資料を用いた講義と，自分でパソコンを操作する演習で構成します．<br>・各授業の最後に，その日の感想・分かったこと・分からなかったことをまとめて，e-learning システムに登録してもらい，出席の代わりとします．その感想などに対して，個別のメッセージとしてフィードバックを行います．<br>・3 回のレポートを予定しています．各レポートについては，全体の講評を行い，個別にフィードバックを行います． |
| **準備学習（予習・復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習（総計15時間）：講義資料・解説ビデオを事前にe-learningシステム上に公開するので，各回1時間程度で授業の概要を把握しておいてください．<br>復習（総計30時間）：コンピュータの操作は毎回の積み重ねが重要なため，各回2時間程度の復習が必要です．特に，授業中に分かったと思った操作を繰り返し，本当に身に付けられるようにしましょう．<br>課題作成（総計15時間）：各課題について，授業内にも時間を取りますが，時間外に自分で計画を立てて進める必要があります． |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 高野　保真 | オリエンテーション | この授業の紹介 |
| 2 | 高野　保真 | 授業で使うオンラインシステム<br>キーボード<br>メール | 授業で使うシステムの使い方<br>キーボード練習<br>メールの送受信（学生メールの ID とパスワードが必要です） |
| 3 | 高野　保真 | メールの仕組み<br>ウェブブラウジング<br>検索 | メールの使い方の詳細と仕組みの解説<br>インターネットでの検索 |
| 4 | 高野　保真 | 検索の仕組み<br>ネットワーク<br>情報倫理 | 検索の仕組みの解説<br>ネットワークの仕組みの解説<br>インターネットを使う上での情報倫理 |
| 5 | 高野　保真 | コンピュータの仕組み<br>オペレーティングシステム<br>ファイル | コンピュータの仕組みの解説<br>オペレーティングシステムとは<br>ファイルの管理と共有方法 |
| 6 | 高野　保真 | 文書作成（Word） | Word の使い方 |
| 7 | 高野　保真 | レポート作成 | Word を使ったレポート作成 |
| 8 | 高野　保真 | プレゼンテーションソフト（PowerPoint） | PowerPoint の使い方 |
| 9 | 高野　保真 | レポート作成 | PowerPoint によるプレゼンテーション作成課題 |
| 10 | 高野　保真 | ウェブの仕組み | ウェブの仕組みの解説 |
| 11 | 高野　保真 | HTML の基礎 | HTML の解説 |
| 12 | 高野　保真 | HTML のタグ | HTML のタグの紹介 |
| 13 | 高野　保真 | HTML と CSS | CSS の解説 |
| 14 | 高野　保真 | レポート作成 | HTML を使ったウェブページの作成 |
| 15 | 高野　保真 | 解説 | 講義全体の内容に対する，個別の質問対応 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ・コンピュータ・ネットワークの基本的な仕組みを理解する<br>・レポート・プレゼンテーションをコンピュータで作成できるようになる<br>・メールやウェブブラウザなどのインターネットを安全に利用できるようになる<br>・ウェブ上で情報発信できるようになる |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>レポート課題 3 回（60%，計3回で各20%）と，各授業での課題（40%）の提出状況で評価します．授業で扱った操作を自分で応用できるかという点に主眼を置いて採点します．なお，他人の課題のコピーについては厳しく対処します．<br>未提出の課題についても厳しく対処し，追加の課題などで単位を認定することはありません． |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | これからの大学生活に向けてのコンピュータの仕組み・使い方の理解を重視した授業にしたいと思っています．自分で操作してみる演習が多くなると思うので，自発的に授業に参加することが求められます． |
| **実務経験の授業への活用方法** | ベンチャー企業でウェブページの作成・プログラミングなどを行っていました．その経験を活かして，実社会でも使われるようなツールを使って実践的な内容にしたいと思っています． |

**教員免許取得のための選択科目**

| | |
|---|---|
| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | ［改訂第5版］基礎からわかる情報リテラシー | 森本 尚之、奥村 晴彦 | 技術評論社 | 1,650円 |

# 情報科学A
Information Science A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし（G学科，M学部，ML学科，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　金２or金４or金５／［自由］G学科　金２or金４or金５／［自由］ML学科　金２or金４or金５／［自由］ET学科　金２or金４or金５／［自由］PT専攻　金２or金４or金５／［自由］ST専攻　金２or金４or金５／［自由］OV専攻　金２or金４or金５
**科目責任者：** 吉田　勝彦
**担当者：** 吉田　勝彦
**備考：** 科目ナンバリング：L101-GI08／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 近年の社会全般における情報化の流れに鑑み、コンピューターを日常的道具として使用できる能力を身に付けることが必要である。<br>そのためには、まずコンピューターの基本的動作及びソフトウェアの使用法を知ることが大切である。<br>さらに、様々な情報を様々な形でコンピューターに処理させるために、基本的なプログラミングに関する能力も身に付けることが重要となる。 |
| **教育内容** | 電子メールおよびネットワークの利用法とセキュリティーに関する知識を学ぶ。<br>インターネットからの情報の取得（ブラウザの利用法）を学ぶ。<br>問題を解析し，解決するための手続きの考察(表計算の使用法)，および結果の視覚化(データのグラフ化)について学ぶ。<br>基本的なプログラミングを学ぶ。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義および演習（演習が主）。<br>各人がそれぞれコンピューターを使用し、様々な操作を実際に行いながら学習する。<br>操作法は、講義中にモニターに表示しながら説明するとともに、ホームページ上に解説してあるものを各人が必要に応じて自習する。<br>【フィードバックの方法】<br>練習問題及び課題の作成中には各人の作業状況を確認し、質問や間違いに対してはその場で解説や注意を実施する。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：ホームページの解説に目を通し，内容を把握すると共に課題について予め考え準備しておくこと。<br>復習：授業内容を復習し修得しておくこと，やり残した課題がある場合は完成させ次回に持ち越さないこと。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 吉田　勝彦 | はじめに、基本操作 | 講義内容及びスケジュールの説明、コンピューター操作の基本 |
| 2 | 吉田　勝彦 | ネットワーク、インターネット | ホームディレクトリー、インターネットの使用法 |
| 3 | 吉田　勝彦 | 表計算の初歩 | 表計算ソフトの基本的使用法 |
| 4 | 吉田　勝彦 | 表計算の基礎１ | 数式の使い方，相対参照，絶対参照 |
| 5 | 吉田　勝彦 | 表計算の基礎２ | 関数の使用（基礎） |
| 6 | 吉田　勝彦 | 表計算の基礎３ | 関数の使用（応用） |
| 7 | 吉田　勝彦 | 課題作成 | 表計算を用いた課題を作成する |
| 8 | 吉田　勝彦 | プログラミングを始める | プログラムの作成に用いるソフトの準備：Excel VBA を使用<br>VBAを使用してプログラムを作成する手続き |
| 9 | 吉田　勝彦 | VBAの初歩 | VBAを使用したプログラムの初歩的な記述の仕方<br>プログラムを記述するために必要な基本的知識：変数 |
| 10 | 吉田　勝彦 | プログラミングの基礎1 | プログラムに構造を与える１：分岐処理 |
| 11 | 吉田　勝彦 | プログラミングの基礎2 | プログラムに構造を与える２：反復処理 |
| 12 | 吉田　勝彦 | プログラミングの応用１ | 大量のデータを扱う方法：配列 |
| 13 | 吉田　勝彦 | プログラミングの応用２ | 対話型のプログラムを作る |
| 14 | 吉田　勝彦 | 課題作成 | 課された課題の作成 |
| 15 | 吉田　勝彦 | 個別指導 | 提出課題について，指導が必要な者には解説する |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | メールのやり取りができる。インターネットから必要な情報を検索し取得できる。<br>取得したデータを基に、表計算ソフトを用いて計算することができる。<br>簡単な問題を解決する手段を論理的に考え、基本的な手続きに分解することでコンピューターのプログラムとして実現できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>毎回の講義において練習問題を課し、提出された練習問題の技術的内容に対する到達度に応じて評価する。<br>成績に対する割合：80%<br>講義終了時までに総合的な課題を課し、提出された課題の技術的内容に対する到達度に応じて評価する。<br>成績に対する割合：20%<br>講義中に説明した以上のことを自習し、用いた場合は加点する。<br>欠席に伴う遅れは自習により取り戻すこと。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | オフィスアワー：金曜日の昼休み |

**教員免許取得のための選択科目**

| | |
|---|---|
| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 |

# 情報科学A
Information Science A

**科目概要：** 2025年度　前期／2単位
**授業対象：** 指定なし（G学科，M学部，ML学科，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　木２or木３or木４／［自由］G学科　木２or木３or木４／［自由］ML学科　木２or木３or木４／［自由］ET学科　木２or木３or木４／［自由］PT専攻　木２or木３or木４／［自由］ST専攻　木２or木３or木４／［自由］OV専攻　木２or木３or木４
**科目責任者：** 藤田　智子
**担当者：** 藤田　智子
**備考：** 科目ナンバリング：L101-GI08／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 日常生活において重要な道具となったコンピュータに慣れ親しみ、基礎的な利用スキルを身に付ける。そのために、基本的動作及びアプリケーションソフトウェアの使用方法を理解する。 |
| **教育内容** | 初心者を対象とし、以下の内容について学修する。<br>・ブラウザを利用し、情報倫理を意識したインターネットからの情報の取得<br>・電子メールおよび、ネットワーク、情報倫理に関する知識<br>・オフィスソフトによる文書・表計算・プレゼンテーションの作成<br>・HTMLの基礎と簡単なWebページの作成 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義とWindowsパソコンを使用した演習を行う。演習に関しては、PDF資料の配布する。<br>・授業中にe-learningシステムを通してアンケートや課題がある。提出した課題は次回の授業でフィードバックを行う。<br>・総合演習課題を３つとExcelの授業内提出課題を１つ予定している。提出後に全体向けの講評を行うことでフィードバックする。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：e-learningシステム上で公開されている内容に従い、授業前に必要な学修をし授業内容を把握しておく。<br>復習：授業中に提示された課題を完成させ期限までに提出する。<br>全15回の授業を平均すると1回の授業ごとにおよそ4時間程度の予習・復習が必要となる。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 藤田　智子 | オリエンテーション | 授業の紹介とスケジュールなどについて説明します |
| 2 | 藤田　智子 | 授業で使うシステム<br>Windowsの基本操作 | この授業で使うシステムについて説明します。また、Windowsパソコンの基本的な操作方法について学修します |
| 3 | 藤田　智子 | インターネットの仕組みと情報倫理<br>電子メール | インターネットの概要および仕組みと著作権など情報倫理について解説します<br>また、Webブラウザや電子メールの利用方法について学修します |
| 4 | 藤田　智子 | タイピングとPowerPoint | プレゼンテーションの方法について学び、Microsoft PowerPointの基本操作動とアニメーションを含むプレゼンテーションスライドの作成方法を学修します |
| 5 | 藤田　智子 | Wordの基礎 | 文書作成ソフト Microsoft Wordの基本操作と、表や図を含むレポートを作成します |
| 6 | 藤田　智子 | Wordの応用 | 目次、図番号、スタイル機能などを利用し長文レポートを作成します |
| 7 | 藤田　智子 | Excelの基礎 | 表計算ソフト Microsoft Excelの基本操作とグラフ作成の方法について学修します |
| 8 | 藤田　智子 | 小テストとExcel&Wordの利用 | これまで学んだ内容を活用して、配布されたテキストファイルとExcelファイルを利用してレポートを作成します |
| 9 | 藤田　智子 | Excelの応用 | よく利用される関数とピボットテーブルについて学修します |
| 10 | 藤田　智子 | Excelまとめ | 今まで学修したExcelの機能をどこまで理解しているかを確認する授業内提出の課題作成します |
| 11 | 藤田　智子 | HTMLの基礎 | HTMLの基礎とHTMLを使って画像や表を含むWebページの記述方法について学修します |
| 12 | 藤田　智子 | スタイルシートの基礎 | スタイルシート（CSS）の基礎とHTMLおよびCSSの記述方法について学修します |
| 13 | 藤田　智子 | 総合演習１ | 指示された内容に従い、Webページを作成します<br>また時間に余裕がある学生は、自由作品を追加作成します |
| 14 | 藤田　智子 | 総合演習２ | 前回作成したWebページにCSSを追加します |
| 15 | 藤田　智子 | 個別指導 | 提出課題について、必要に応じて個別に質問対応をします |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ・電子メールが利用でき、情報倫理を意識しながらインターネットから必要な情報を検索し取得できるようになる<br>・オフィスソフトによる資料の作成、およびそれらを連携した資料の作成ができるようになる<br>・簡単なWebページを作成できるようになる |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>総合演習、および授業時に実施する小課題や小テストで評価する<br>評価割合：小テスト（30%）、Excelまとめ（30%）、総合演習１・２及び課題（40%） |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 教材の提供や詳細な連絡はe-Learningシステムを利用します。使い方は授業の中で説明します<br>欠席した場合は、e-Learningシステムで授業内容を確認し、 提出する課題は指定されている期限までに必ず提出するよにしましょう<br>これからの大学生活に向けて、基礎的なITスキルをいろいろな形で経験し、それぞれの経験が最終的に１つにまとまるような授業内容にしたいと考えています<br>本シラバスは、授業の習熟度などにより授業の流れが変更する場合があります。その場合は、e-Learningシステムにて情報を公開します |

**教員免許取得のための選択科目**

| | |
|---|---|
| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 資料はe-learningシステムを通して配布します。 | | | 0円 |

# 情報科学B
Information Science B

**科 目 概 要 ：** 2025年度　後期／2単位
**授 業 対 象 ：** 指定なし（G学科，M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　水５／［自由］G学科　水５／［自由］ET学科　水５／［自由］PT専攻　水５／［自由］ST専攻　水５／［自由］OV専攻　水５／N学部優先　金１／S学部教職履修者優先　金１／ML学科優先　金１
**科目責任者 ：** 福田　宏
**担　当　者 ：** 福田　宏
**備　　考 ：** 科目ナンバリング：L101-GI09／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | コンピュータに慣れ親しむ。簡単なプログラミングができるようになる。<br>プログラミング技法；構造化プログラミング，再帰的プログラミング，オブジェクト指向プログラミングを知る。<br>アルゴリズムとデータ構造，計算量など，プログラムを作り，動かすために必要な基礎知識を学ぶ。 |
| **教育内容** | 初心者向け。プログラミングの方法と基礎知識をプログラミング言語Javaによって学ぶ。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義および演習。講義資料と演習の教材は学習支援システムに掲載する。<br>【フィードバックの方法】教員との質疑応答，および学習支援システム等によりフィードバックする。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>課題図書：学習支援システムに掲載する講義資料。<br>予習（毎回1時間）：授業前には学習支援システムに目を通して概要を把握し，講義ビデオを視聴しておく。<br>復習（毎回3時間）：終わらなかった必修課題を完成させ，発展課題に取り組む。講義ビデオを視聴して復習する。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 福田　宏 | オリエンテーション | 授業の紹介 |
| 2 | 福田　宏 | コンピュータとプログラミング | コンピュータの歴史と概要，プログラミングとは何か説明する。プログラミング言語の歴史と種類，Javaの歴史と特徴を学ぶ。 |
| 3 | 福田　宏 | Hello, world | Hello, world!と表示するプログラムを作る。 |
| 4 | 福田　宏 | プログラム解説 | Hello, worldプログラムの内容を解説する。プログラムの読み方，書き方，インデント，および，エラーについて学ぶ。 |
| 5 | 福田　宏 | 入出力命令とJava API | 入出力命令を使ってプログラムを作る。パッケージとクラスで分類，整理された命令の一覧表(Java API)の読み方を学ぶ。 |
| 6 | 福田　宏 | 変数と演算 | 変数に数値を格納して式を計算する。四則演算と剰余 |
| 7 | 福田　宏 | 反復構造 | 命令を繰り返す反復構造を学ぶ。カウンタと合計，階乗の計算 |
| 8 | 福田　宏 | 多分岐構造，構造化プログラミング | 条件に応じて実行する命令を変える多分岐構造を学ぶ。構造化プログラミングの考え方を学ぶ。 |
| 9 | 福田　宏 | 配列，アルゴリズムとデータ構造 | 添え字のついた変数，配列と，疑似乱数を並び替えるプログラムを作り，アルゴリズムと計算量，データ構造について学ぶ。 |
| 10 | 福田　宏 | プログラムの段階的詳細化 | プログラムを小さなプログラム（メソッド）に分けて，階層的に作ってゆく段階的詳細化の考え方を学ぶ。すでに作ったプログラムをメソッドで再構築する。 |
| 11 | 福田　宏 | 再帰的プログラミング | 自分自身を呼び出すメソッドを使った再帰的プログラミングを学ぶ。応用として適応型数値積分をとりあげる。 |
| 12 | 福田　宏 | オブジェクト指向プログラミング | データとメソッドをひとつにまとめたクラスを使ったオブジェクト指向プログラミングを学ぶ。適応型数値積分の誤差計算をとりあげる。 |
| 13 | 福田　宏 | GUIのクラス | Java APIのGUIのクラスを利用（継承）して，ウィンドウやメニューを備えたグラフィカルなGUIプログラムを作る方法を学ぶ。 |
| 14 | 福田　宏 | JARと最終課題 | Javaプログラムをアプリケーション（JAR）にまとめる手順を紹介し，毎回の発展課題から選んだ最終課題に取り組む |
| 15 | 福田　宏 | 解説 | 授業内容や課題についての質問を受け付ける。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | プログラミング，構造化プログラミング，再帰的プログラミング，オブジェクト指向プログラミング，アルゴリズム，データ構造，計算量，ランダウの記号とは何かを説明できる。Javaでプログラミングができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>ほぼ毎回提出してもらう課題59%，最終課題41%で成績評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | あらゆる分野でプログラミングは必須の素養となりました。Java言語を通じて数値計算からGUIまで，プログラミングの様々な側面を学び，その楽しさを知って下さい。 |

**教員免許取得のための選択科目**

| | |
|---|---|
| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 |

# 情報科学B
Information Science B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位
**授業対象：** 指定なし（G学科，M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　月２or木１／ Z学科教職履修者優先　月１／ ［自由］G学科教職履修者優先　月１／ OT専攻優先　木２／ ［自由］G学科　月２or木１／ ［自由］ET学科　月２or木１／ ［自由］PT専攻　月２or木１／ ［自由］ST専攻　月２or木１／ ［自由］OV専攻　月２or木１
**科目責任者：** 髙橋　勇
**担　当　者：** 髙橋　勇
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-GI09／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | コンピュータに慣れ親しむ。<br>コンピュータの動作原理の概要を理解し、簡単なプログラムを作成する方法を身につける。<br>様々な分野で応用可能なオブジェクト指向の初歩的な考え方を理解する。 |
| **教育内容** | 初心者を対象とします。下記の内容を扱います。<br>プログラミング言語JAVAを用いた初歩的なプログラムの作成方法。<br>プログラムの背景にある概念（オブジェクト指向、アルゴリズム、論理演算など）。<br>演習を通じたプログラミングとコンピュータの基礎的な操作の具体的な体験。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>基礎的な概念を理解するための講義と、コンピュータを用いた演習を行います（演習中心）。<br>一部では、事前に動画等でオンデマンド型のオンライン学習をしてもらったうえで、授業時間中はそれを前提とした演習中心の学習をおこなう反転授業の形式を取り入れます。<br>Google Classroom を用いて事前学習の教材や参考資料の配布、小テスト、課題の回収などを行います。<br>【フィードバックの方法】<br>各課題の採点の結果や再提出の指示などのフィードバックは主に Classroom 上で行います。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：事前学習の教材や連絡などは Classroom に掲載します。授業前に各自で確認して必要な学習をしてください。<br>復習：授業後には、Classroom の機能を用いた小テストや小課題等を達成する必要があります。<br>なお、授業の後半では予習・復習の時間も使ってオリジナルプログラムを作成する必要があります。全15回の授業を平均すると1回の授業ごとにおよそ4時間程度の予習・復習が必要です。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 髙橋　勇 | オリエンテーション | この授業の目標、内容、授業の進め方、評価方法の説明をおこないます。 |
| 2 | 髙橋　勇 | コンピュータの基礎 | コンピュータの基本構成、内部でのアプリケーションやデータの扱われ方、Windowsでのファイルやフォルダの操作方法などについて学び、プログラムを作成する準備をおこないます。 |
| 3 | 髙橋　勇 | コンピュータとプログラム | コンピュータに情報を処理させる際の基本的な考え方、プログラミングとは何か、プログラムを実行する仕組み（ソースコードの作成とコンパイル）を学びます。 |
| 4 | 髙橋　勇 | 変数と演算 | JAVAを用いて、コンピュータに文字や数字を一時的に記録させたり計算させたりする方法の基礎（型，リテラル，変数，演算）を学びます。 |
| 5 | 髙橋　勇 | 文字列の演算と入出力 | ディスプレイにメッセージを表示させたり、プログラムの利用者がキーボードから入力した文字をコンピュータが利用できるようにする方法の基礎を学びます。 |
| 6 | 髙橋　勇 | オブジェクト指向 | オブジェクト指向の概念の基礎（クラス，インスタンス）と、メソッド呼び出しの方法を学びます。また、Javaで利用できるクラス群の説明書の読み方を学びます。 |
| 7 | 髙橋　勇 | 制御構造と条件式 | ひとつずつ順番に命令を実行させる方法（逐次構造）、記録した情報に応じて実行する命令を変えさせる方法（選択構造）、繰り返し命令を実行させる方法（反復構造）を学びます。 |
| 8 | 髙橋　勇 | 課題提出物の完成 | 見やすいプログラムの書き方を学び、これまで学習した知識をもとにプログラムをひとつ完成させます。 |
| 9 | 髙橋　勇 | 複雑なプログラム | 数字を大きい順に並べさせるプログラムの作成を通して、複雑な作業をコンピュータにさせる方法について体験的に学びます。 |
| 10 | 髙橋　勇 | JAVAとGUI | JAVAを用いて簡単なウインドウを表示させる方法について学びます。また、他人が作成したクラスを、正しい方法で再利用する方法について学びます。 |
| 11 | 髙橋　勇 | 課題プログラムの作成 1<br>＋ システム開発技法 | 前半：システム開発モデルについて学習し、プログラム開発の流れを学びます。<br>後半：テーマを決めてオリジナルのプログラムを作成します。 |
| 12 | 髙橋　勇 | 課題プログラムの作成 2<br>＋ 画像・著作権 | 前半：コンピュータでの画像の扱われ方と著作権について学習します。<br>後半：テーマを決めてオリジナルのプログラムを作成します。 |
| 13 | 髙橋　勇 | 課題プログラムの作成 3<br>＋ 課題提出物の確認 | 前半：この授業の評価方法と課題提出物の再確認を行います。<br>後半：テーマを決めてオリジナルのプログラムを作成します。 |
| 14 | 髙橋　勇 | 課題プログラムの完成と全体の復習 | オリジナルのプログラムを完成させます。<br>また、この授業で学習した内容全体の復習を行います。 |
| 15 | 髙橋　勇 | 学習内容の確認 | 自分が学習した内容をふりかえるレポートを作成します。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 情報処理に関する高度基礎教育の実践として下記を目標とします。<br>・プログラミング言語JAVAを用いて簡単なプログラムを作成できる（基礎的な演算と入出力の処理、３種類の制御構造の活用、既存のクラスの利用、ソースファイル等の管理を含む）。<br>・コンピュータ、プログラミング、オブジェクト指向に関する基礎的な質問に答えることができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>Google Classroom 上で出題する学習内容を確認するための「小テストと小課題の達成状況」（3割）と、「作成したプログラムが課題の条件（入出力や内部の実装方法の条件）を満たせているか、追加での工夫をどの程度しているか」（7割）に応じて評価します。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 教材の提供や詳細な連絡は Google Classroom を用いておこないます。使い方は授業の中で説明します。第3回目から本格的に使い始めるので、それ以降は必ず週１回は内容を確認してください。<br>なお、GUIのプログラミングは初歩的な内容のみ（ウインドウを開いてラベルを配置するところまで）を扱い、後半の課題プログラムの作成では、他人が作成したプログラムを再利用する方法を学習したうえで、こちらで用意したサポートプログラムを利用してプログラミングを行います。高度な学習をしたい場合は個別に問い合わせてください。 |

**教員免許取得のための選択科目**

| | |
|---|---|
| **科目** | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 |

# 情報科学B

Information Science B

**科 目 概 要 ：** 2025年度　後期／2単位

**授 業 対 象 ：** 指定なし（G学科，M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　火４or火５or水２／ ML学科優先　水１／［自由］G学科　火４or火５or水２／［自由］ET学科　火４or火５or水２／［自由］PT専攻　火４or火５or水２／［自由］ST専攻　火４or火５or水２／［自由］OV専攻　火４or火５or水２

**科目責任者 ：** 小川　智也

**担　当　者 ：** 小川　智也※

**備　　考 ：** 科目ナンバリング：L101-GI09／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | コンピューターに慣れ親しむ。<br>Ｃ言語でプログラムを書き、動作させることができるようになる。 |
| **教育内容** | 初心者を対象とする。<br>ネットワーク利用時の注意事項、Windowsパソコンの基本操作、Ｃ言語プログラミング。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義およびWindowsパソコンを使用した演習。<br>オンライン教材と、オンライン教育システムGoogle Classroomを使用する。オンライン教材の場所は授業中に示す。<br>【フィードバックの方法】小テストと課題の解説を授業中またはGoogle Classroom上で行なう。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>※授業時間外学習には、課題への取り組み時間も含む。<br>予習：オンライン教材に目を通しておくこと。<br>復習：文法（プログラミング言語の規則）等を復習すること。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 小川　智也 | オリエンテーション | この授業の紹介と説明。 |
| 2 | 小川　智也 | ネットワーク利用 | ネットワークの利便性と危険性、および著作権について。 |
| 3 | 小川　智也 | Windowsの基礎 | ファイルのコピー・移動・削除、文字入力などWindowsの基本操作と、タイピングの練習。Ｃ言語開発環境（Ｃ言語プログラムを動かすためのソフトウェア）の準備。 |
| 4 | 小川　智也 | Ｃ言語の基礎 | 機械語とプログラミング言語の関係を知り、Ｃ言語開発環境の役割と使い方を学ぶ。文字列表示および整数の四則演算を含む簡単なプログラムを作る。 |
| 5 | 小川　智也 | 整数と実数 | Ｃ言語において、整数と実数は扱われ方が異なること知り、正しく使い分ける。 |
| 6 | 小川　智也 | 変数と定数 | 変数（値を1つ記憶できる）と定数（値を文字列に置き換えたもの）の使い方。 |
| 7 | 小川　智也 | 数学関数 | 数学関数の使い方と応用例。 |
| 8 | 小川　智也 | 標準入力と型変換 | キーボードから値を入力する（標準入力）。整数と実数を相互に変換する（型変換）。 |
| 9 | 小川　智也 | 条件分岐と論理式 | if文の使い方を学ぶ。同時に、if文および繰り返し処理で必要となる論理式についても学ぶ。 |
| 10 | 小川　智也 | 繰り返し処理1 | for文の使い方を学ぶ。 |
| 11 | 小川　智也 | 繰り返し処理2 | while文の使い方を学ぶ。 |
| 12 | 小川　智也 | 繰り返し処理3 | 繰り返し処理の少し複雑な応用例として、二重ループを作る。 |
| 13 | 小川　智也 | 擬似乱数 | 擬似乱数の作り方と応用例。 |
| 14 | 小川　智也 | 課題プログラム作成 | 課題内容は第13回までの授業中に指示する。 |
| 15 | 小川　智也 | 個別指導 | 個別指導。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | Ｃ言語で条件分岐と繰り返し処理を使ったプログラムを作成することができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>基礎確認のための小テストまたは簡単なプログラム作成の問題をほぼ毎回出す(60点)。<br>プログラム作成の課題を出す(40点)。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | プログラミング言語の学習では積極的に自習する姿勢が大切です。分からない事があったら、教材を読むだけでなく、自分でプログラムを作って動作を確認して下さい。キーボードを多用するのでタイピングの練習が必要です。<br>欠席した場合は自習により補って下さい。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 情報通信研究機構での数値シミュレーションプログラム作成の経験を踏まえ、コンピューターで数値計算する意義について概説する。 |

**教員免許取得のための選択科目**

| 科目 | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | | |
|---|---|---|---|---|
| **種別** | **書名** | **著者･編者** | **発行所** | **定価(円)** |
| **教科書** | オンライン教材を公開する。 | | | 円 |

# 情報科学B（LaTeX・Python）

Information Science B

**科目概要：** 2025年度　後期／2単位

**授業対象：** 指定なし（G学科，M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　月３or月４／［自由］G学科　月３or月４／［自由］ET学科　月３or月４／［自由］PT専攻　月３or月４／［自由］ST専攻　月３or月４／［自由］OV専攻　月３or月４／Z学科優先　火１／［自由］G学科優先　火１／N学部優先　火１／S学部教職履修者優先　火１／HS学科優先　火２

**科目責任者：** 高野　保真

**担当者：** 高野　保真※

**備考：** 科目ナンバリング：L101-GI09／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 以下の内容により，プログラミングによる論理的な思考力を養います．<br>・文書に構造を与えて，形式の整ったレポートを作成すること<br>・プログラムの動作を理解し，基本的なプログラミングができるようになること |
| **教育内容** | ・TeX（テフ，テック）という文書組版システムを使って，表，図，数式・化学式の入った整形された文書を書く方法を学びます<br>・プログラミング言語 Python の基礎を学習し，実社会で用いられているプログラムを概観します |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>・スライド資料による講義を行います．<br>・各授業で，簡単な課題を出題し，提出されたものについて，個別にメッセージを送ってフィードバックを行います．<br>・全2回のレポートを予定しており，それぞれのレポート採点後に採点基準を発表し，全体向けの講評を行います．<br>・授業で使用するプログラミング環境（プログラムを記述・実行するソフト）はすべてウェブブラウザの上で実行できるようにします．そのため，予習・復習が自宅など大学外で利用可能です． |
| **準備学習（予習・復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習（総計15時間）：講義資料を事前にe-learningシステム上に公開するので，各回1時間程度で授業の概要を把握しておいてください．<br>復習（総計30時間）：プログラミングは毎回の積み重ねが重要なため，各回2時間程度の復習が必要です．特に欠席してしまった場合には，さらに復習時間をかけて追い付かないと一度に分からなくなると思います．<br>課題作成（総計15時間）：全2回の課題について，授業内にも時間を取りますが，時間外に自分で計画を立てて進める必要があります． |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 高野　保真 | オリエンテーション | この授業の紹介 |
| 2 | 高野　保真 | コンピュータとプログラム<br>プログラミング言語 | コンピュータの仕組みとプログラムの動作原理について概要<br>色々なプログラミング言語の紹介 |
| 3 | 高野　保真 | 文書組版システムTeXの紹介 | TeX の紹介 |
| 4 | 高野　保真 | LaTeX による文書作成（1） | 箇条書き，表，図の入った文書の作成 |
| 5 | 高野　保真 | LaTeX による文書作成（2） | 数式・化学式の入った文書の作成 |
| 6 | 高野　保真 | レポート（1） | LaTeX を利用したレポートの作成課題 |
| 7 | 高野　保真 | プログラムの構成要素 | プログラムの基本要素の解説 |
| 8 | 高野　保真 | バグ<br>Pythonとは | プログラムのバグとは何か<br>プログラミング言語 Python の紹介 |
| 9 | 高野　保真 | Pythonの基礎 | Pythonの基本要素の説明 |
| 10 | 高野　保真 | Python（分岐構文） | プログラムの重要な構成要素である「分岐」の説明 |
| 11 | 高野　保真 | Python（繰り返し構文） | プログラムの重要な構成要素である「繰り返し」の説明 |
| 12 | 高野　保真 | Python（関数と関数定義） | Pythonにおける関数定義と関数呼出しの説明 |
| 13 | 高野　保真 | Python（ライブラリ・データサイエンス） | 実社会で使われているライブラリを使った Python プログラムの概要 |
| 14 | 高野　保真 | レポート（2） | Python を使ったプログラム作成課題 |
| 15 | 高野　保真 | 解説 | 講義全体の内容に対する，個別の質問対応 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ・今後，論文・レポートを書くベースとなる形式の整ったレポートが作成できるようになる<br>・論理的な思考力を高めて，簡単なプログラムを作成できるようになる |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>普段の授業の課題（40%）とレポート（60%，計2回で各30%）という配分で課題を出題します．それぞれの課題は，授業で示したプログラムを自分で応用できているかを元に採点します．他人の課題のコピーについては厳しく対処します．<br>未提出の課題についても厳しく対処し，追加の課題などで単位を認定することはありません． |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 前半に扱う TeX は，論文を記述する際に利用するプログラミング言語ですので，1年生のうちから学習しておくことをおすすめします．特に，情報・物理・数学関係の研究に興味がある学生は，ぜひ履修してください．<br>また，後半には，プログラムの基礎構造を学びます．本授業で扱う Python は，現在注目を集めている機械学習や人工知能分野で用いられることが多く，プログラミングを専門としなくても教養として知っておくべき内容だと思っています．プログラミングに関しては自習がなければ身に付かないものだと思っているため，自習のために参考書を複数挙げました．発展的な内容に興味がある学生も歓迎します． |
| **実務経験の授業への活用方法** | ベンチャー企業でプログラマとして働いていました．その経験を活かして，実社会でも使われるようなツールを使って実践的なプログラミングを紹介できる内容にしたいと思っています． |

**教員免許取得のための選択科目**

| 科目 | 教職免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | | |
|---|---|---|---|---|
| **種別** | **書名** | **著者・編者** | **発行所** | **定価(円)** |
| **参考書** | LaTeX2ε 美文書作成入門（改訂第7版） | 奥村 晴彦，黒木 裕介 | 技術評論社 | 3,456円 |

# 情報科学C
Information Science C

**科目概要：** 2025年度　前期・後期／2単位
**授業対象：** 指定なし（G学科，M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻を除く）　火２／［自由］G学科　火２／［自由］ET学科　火２／［自由］PT専攻　火２／［自由］ST専攻　火２／［自由］OV専攻　火２
**科目責任者：** 小川　智也
**担当者：** 小川　智也
**備考：** 科目ナンバリング：L101-GI10／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | コンピューターに慣れ親しむ。<br>コンピューターとネットワークの仕組みを理解する。<br>コンピューターに様々な機能を追加して利用する事ができる。 |
| **教育内容** | 初心者を対象とする。<br>パソコンの解体と組立、計測器の接続、論理回路の作成などを行ないながら、コンピューターの仕組み、基本ソフトウェアと応用ソフトウェアの役割、測定とデータ処理、電気回路で計算する仕組み、インターネットとサーバーの仕組みを学ぶ。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義と演習。演習は、コンピューター本体とパーツ、周辺機器、ソフトウェアを使って行なう。<br>【フィードバックの方法】演習と課題の解説を授業中に行なう。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：60時間】<br>予習：Webページの資料に目を通しておくこと。<br>復習：作業内容や計算方法を再確認すること。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 小川　智也 | オリエンテーション | この授業の紹介と説明。 |
| 2 | 小川　智也 | ネットワーク利用 | ネットワークの利便性と危険性、および著作権について。 |
| 3 | 小川　智也 | コンピューターの歴史<br>オペレーティングシステム１ | コンピューターの歴史と仕組みの概要。オペレーティングシステム（Linux）のインストールと基本操作。タイピングの練習。 |
| 4 | 小川　智也 | Linuxの基礎１ | Linuxの基本操作とUNIXコマンド。 |
| 5 | 小川　智也 | Linuxの基礎２ | シェルスクリプト。 |
| 6 | 小川　智也 | Linuxの基礎３ | マルチユーザー環境について学ぶ。 |
| 7 | 小川　智也 | ハードウェア構成 | パソコンを解体して部品構成を把握し、組み立てて元に戻す。 |
| 8 | 小川　智也 | 2進数と論理演算 | 2進数と論理演算の関係について学ぶ。 |
| 9 | 小川　智也 | 論理回路と加算器 | 論理回路（論理演算する電気回路）と加算器（足し算する電気回路）の仕組みを学び、作成する。 |
| 10 | 小川　智也 | オペレーティングシステム２<br>計測 | オペレーティングシステム（Windows）のインストールと基本操作。パソコンに接続した計測器によるデータ記録。 |
| 11 | 小川　智也 | 応用ソフトウェア | オフィスソフトのインストールと使い方、およびデータ解析。 |
| 12 | 小川　智也 | 仮想マシンと遠隔ログイン | 仮想マシンのセットアップ。SSHによる遠隔ログイン。 |
| 13 | 小川　智也 | 課題 | 課題内容は第12回までの授業中に指示する。 |
| 14 | 小川　智也 | サーバー | Webサーバーを動かし、Webページを作る。 |
| 15 | 小川　智也 | 個別指導 | 個別指導。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 論理回路の仕組みを説明できる。<br>PCパーツを交換し、OSと応用ソフトウェアをインストールして設定できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>演習の習得度(60%)、課題(40%)。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 少人数の授業です。コンピューターの利用法はWebブラウザー、メールクライアント、オフィスソフトなどが一般的ですが、この授業ではそれらとは異なることを体験できます。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | オンライン教材を公開する。 | | | 円 |

# 基礎教育科目

## 自然科学系
## 〔物理学〕

### 教科の勉学に対する総論

物理学単位では、１群基礎教育科目として「物理学」、「物理学要習」、「物理学実験」を開講しています。「物理学実験」については、化学、生物学の実験と共に、自然科学系実験の紹介のページにまとめて記してあります。ここでは、「物理学」と「物理学要習」の講義について説明します。

**【物理学を学ぶ目的】**

身近な例を考えてみると、物理学の方法によっていかに正確に自然現象を記述できるかが分かります。例えば、太陽の周りを回る地球の運動は秒の単位で正確に計算されています。日食や月食が正確に予告通りに起きることは知っての通りです。もちろん、地球ばかりでなく、惑星の運動はすべて「物理学」の一分野である力学を用いて計算できます。この力学は、3つの簡単な法則が基礎となっています。このように、力学に限らず、数少ない基本的な法則に基づいて様々な自然現象を正確・精密に記述する方法が物理学によって学べます。

**【物理学は様々な分野の発展の基礎になっている】**

上述の惑星の運動の本質は、物理学者であったニュートンによって明らかにされましたが、現在では惑星の運動は地学や天文学の分野で扱われています。別の例として生命科学の分野を挙げると、DNAの２重らせん構造は、X線回折という物理学における実験方法を用いて、ワトソンとクリックにより解明され、メンデルによって統計的な現象として見いだされていた遺伝の法則に、核酸と呼ばれる分子における塩基の配列というミクロな理解が与えられました。このように、物理学は様々な分野の基礎になっています。

**【勉強する内容】**

ニュートンによって確立された、数少ない基本的な法則に基づいて様々な力学的現象を説明するという手法は、その後、弾性体や流体のつり合いや運動、物質の温度と熱、振動と波動、音と光、電気と磁気、原子や分子の構造解明などに適用され、基本法則の確立に成功を収めてきました。「物理学」の講義の内容は、各学部での必要性にも対応させながら、これらの分野から重要な項目を選択し、各学部向け講義のシラバスとして以下の頁に示してあります。

**【高等学校での履修状況に対応した講義】**

「物理学」の講義は、高等学校で物理基礎や物理を選択してこなかった受講生にも理解できる内容から始め、かつ、進級する学部の要請に対応したレベルまで進めるように行います。必要に応じて補講も行いますので、高校での履修経験にこだわることなく履修して下さい。

**【物理学要習】**

上記のように、「物理学」の講義は高等学校での多様な履修歴に対応させてすすめますが、「物理学要習」は、特に高等学校で物理を選択しなかった学生を対象に開講される科目です。高等学校の物理の中からテーマを限定して選び、簡単な実験を見せ、それが物理学でどのように説明できるかを解説し、それに続いて演習を行うことによって理解を深めます。これにより、「物理学」の講義がより平易に理解できるようになります。

# 物理学
Physics

**科目概要：** 2025年度　通年／4単位
**授業対象：** ［必修］P学部（普通）　火３
**科目責任者：** 廣岡　秀明
**担　当　者：** 廣岡　秀明
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-GN01／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 現象を整理し、分析することで、背後にある真理を見出すという物理学的な見方の習得を目指す。また、身近な物理量のおおよその大きさについて身につけ、数式の取り扱いについても習得する。 |
| **教育内容** | 日本薬学会のコアカリキュラムにのっとり、薬学を学ぶ上で必要となる基礎的な物理学的知識を、なるべく平易な言葉を用いて理解していく。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>運動や複雑な図形などを表示させたりするため、スライドを基本とする。話を聞きながらポイントを自分なりにメモするような訓練を行い、各自で独自のノートをまとめる形式で学習してもらいたい。また、スマートフォンやタブレット端末を用いて、双方向性を取り入れたWEBページを利用し、講義内課題をリアルタイムで評価しながら講義内容を展開していく。<br>【フィードバックの方法】<br>講義内および予習復習のために用意されたWEBサイトにて、課題提出、評価、質問応対などを行う。特に、講義内では、リアルタイムに集計された結果をもとに講評を行いながら、その後の講義を展開していく。講義外での自習時には、課題解答後すぐに解説が与えられる。また、ミニッツペーパー代わりにオンラインで記入された意見や感想は瞬時に公開され、共有される。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：120時間】<br>予習：講義終了時に、次回内容のアナウンスを行うので、該当項目について教科書に目を通して、疑問点などをまとめておくこと。<br>復習：講義後の学習としては、WEB上に用意してある学習教材を活用し、演習問題にも積極的に取り組むこと。<br>WEBで行う講義外学習については、1時間ごとに異なる課題が与えられるので、継続的かつ積極的に活用すること。<br>（1コマ当たり予習および復習などの講義外学習に要する時間：4時間） |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 廣岡　秀明 | オリエンテーション | 因果関係と相関関係の違い、電卓の利用方法、表やグラフの描き方、および講義用サイトの使い方 |
| 2 | 廣岡　秀明 | 基礎事項１ | 単位、物理量の表し方、測定値と不確かさ |
| 3 | 廣岡　秀明 | 基礎事項２ | 不確かさの評価法（ＡタイプとＢタイプ） |
| 4 | 廣岡　秀明 | 静力学の基礎１ | 力の表し方、重力と万有引力、作用と反作用 |
| 5 | 廣岡　秀明 | 静力学の基礎２ | 力のつり合い、張力、引っ張り強さ、ヤング率 |
| 6 | 廣岡　秀明 | 静力学の基礎３ | ばねの力、摩擦力 |
| 7 | 廣岡　秀明 | 静力学１ | 質点と剛体、回転と力のモーメント |
| 8 | 廣岡　秀明 | 静力学２ | 液体および気体による圧力 |
| 9 | 廣岡　秀明 | 静力学３ | 表面張力、パスカルの原理、アルキメデスの原理 |
| 10 | 廣岡　秀明 | 運動の基礎１ | 運動の表し方、等加速度運動 |
| 11 | 廣岡　秀明 | 運動の基礎２ | ニュートンの法則、運動方程式の解法、自由落下 |
| 12 | 廣岡　秀明 | 動力学１ | 水平投射、斜方投射、空気抵抗 |
| 13 | 廣岡　秀明 | 動力学２ | 等速円運動、単振動 |
| 14 | 廣岡　秀明 | エネルギー１ | 仕事、仕事率、運動エネルギーと位置エネルギー |
| 15 | 廣岡　秀明 | まとめ | 前期のまとめと解説 |
| 16 | 廣岡　秀明 | エネルギー２ | 力学的エネルギーの保存、回転運動エネルギー、慣性モーメント |
| 17 | 廣岡　秀明 | 波動の基礎１ | 正弦波の表し方 |
| 18 | 廣岡　秀明 | 波動の基礎２ | 波のエネルギー、波の強さ、デシベル表示、重ね合わせの原理 |
| 19 | 廣岡　秀明 | 波動の基礎３ | 波の反射（１次元）、ホイヘンスの原理、波の反射（２次元）、屈折、回折 |
| 20 | 廣岡　秀明 | 波動の基礎４＆音波の性質１ | 波の干渉、音波の基礎、うなり、弦の振動 |
| 21 | 廣岡　秀明 | 音波の性質２ | 気柱の振動、ドップラー効果 |
| 22 | 廣岡　秀明 | 音波の性質３＆光波の性質１ | 斜めドップラー効果、光波の基礎、分散、吸収 |
| 23 | 廣岡　秀明 | 光波の性質２ | 散乱、ものの見え方、光波のイメージ、偏光 |
| 24 | 廣岡　秀明 | 光波の性質３ | レンズ、光の干渉 |
| 25 | 廣岡　秀明 | レーザー | レーザーの原理と応用 |
| 26 | 廣岡　秀明 | 静電気の基礎１ | クーロン力、電場、静電誘導 |
| 27 | 廣岡　秀明 | 静電気の基礎２＆電気回路１ | 双極子モーメント、電位と電流、オームの法則 |
| 28 | 廣岡　秀明 | 電気回路２ | コンデンサーの性質 |
| 29 | 廣岡　秀明 | 電気回路３ | 電池、ＣＲ回路、半導体 |
| 30 | 廣岡　秀明 | まとめ | 後期のまとめと解説 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 物理的な概念や様々な現象を、まずは言葉を使って説明できる。次に、その言葉について、物理量を用いて表現できる。さらには、原理から数式等を用いて、演繹的に現象を説明できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>前期試験４０%、後期試験５０%、講義内課題１０%に加え、任意提出の自由課題、ＷＥＢ課題などを総合的に評価する。<br>現象を定性的に説明できれば可とし、数式等を用いて厳密に説明ができるレベルに応じて、良および優とする。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 毎回、ＷＥＢ上で行う課題の解答のため、スマートフォンあるいはタブレット端末（パソコン）を利用するので、いずれかを忘れずに持参するようにしてください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 医療系の基礎としての物理 | 廣岡秀明、崔東学、古川裕之、吉村玲子、山本洋 | 学術図書出版社 | 円 |
| **参考書** | 大学新入生のための物理入門第２版 | 廣岡秀明 | 共立出版 | 円 |

# 物理学
Physics

**科目概要：** 2025年度　通年／4単位
**授業対象：** ［必修］P学部（基礎）　火４
**科目責任者：** 廣岡　秀明
**担　当　者：** 廣岡　秀明
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-GN01／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 現象を整理し、分析することで、背後にある真理を見出すという物理学的な見方の習得を目指す。また、身近な物理量のおおよその大きさについて身につける。 |
| **教育内容** | 日本薬学会のコアカリキュラムにのっとり、薬学を学ぶ上で必要となる基礎的な物理学的知識を、なるべく平易な言葉を用いて理解していく。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>運動や複雑な図形などを表示させたりするため、スライドを基本とする。話を聞きながらポイントを自分なりにメモするような訓練を行い、各自で独自のノートをまとめる形式で学習してもらいたい。また、スマートフォンやタブレット端末を用いて、双方向性を取り入れたWEBページを利用し、講義内課題をリアルタイムで評価しながら講義内容を展開していく。<br>【フィードバックの方法】<br>講義内および予習復習のために用意されたWEBサイトにて、課題提出、評価、質問応対などを行う。特に、講義内では、リアルタイムに集計された結果をもとに講評を行いながら、その後の講義を展開していく。講義外での自習時には、課題解答後すぐに解説が与えられる。また、ミニッツペーパー代わりにオンラインで記入された意見や感想は瞬時に公開され、共有される。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：120時間】<br>予習：講義終了時に、次回内容のアナウンスを行うので、該当項目について教科書に目を通して、疑問点などをまとめておくこと。<br>復習：講義後の学習としては、ＷＥＢ上に用意してある学習教材を活用し、演習問題にも積極的に取り組むこと。<br>WEBで行う講義外学習については、1時間ごとに異なる課題が与えられるので、継続的かつ積極的に活用すること。<br>（1コマ当たり予習および復習などの講義外学習に要する時間：4時間） |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 廣岡　秀明 | オリエンテーション | 因果関係と相関関係の違い、電卓の利用方法、表やグラフの描き方、および講義用サイトの使い方 |
| 2 | 廣岡　秀明 | 基礎事項１ | 単位、物理量の表し方、測定値と不確かさ |
| 3 | 廣岡　秀明 | 基礎事項２ | 不確かさの評価法（ＡタイプとＢタイプ） |
| 4 | 廣岡　秀明 | 静力学の基礎１ | 力の表し方、重力と万有引力、作用と反作用 |
| 5 | 廣岡　秀明 | 静力学の基礎２ | 力のつり合い、張力、引っ張り強さ、ヤング率 |
| 6 | 廣岡　秀明 | 静力学の基礎３ | ばねの力、摩擦力 |
| 7 | 廣岡　秀明 | 静力学１ | 質点と剛体、回転と力のモーメント |
| 8 | 廣岡　秀明 | 静力学２ | 液体および気体による圧力 |
| 9 | 廣岡　秀明 | 静力学３ | 表面張力、パスカルの原理、アルキメデスの原理 |
| 10 | 廣岡　秀明 | 運動の基礎１ | 運動の表し方、等加速度運動 |
| 11 | 廣岡　秀明 | 運動の基礎２ | ニュートンの法則、運動方程式の解法、自由落下 |
| 12 | 廣岡　秀明 | 動力学１ | 水平投射、斜方投射、空気抵抗 |
| 13 | 廣岡　秀明 | 動力学２ | 等速円運動、単振動 |
| 14 | 廣岡　秀明 | エネルギー１ | 仕事、仕事率、運動エネルギーと位置エネルギー |
| 15 | 廣岡　秀明 | まとめ | 前期のまとめと解説 |
| 16 | 廣岡　秀明 | エネルギー２ | 力学的エネルギーの保存、回転運動エネルギー、慣性モーメント |
| 17 | 廣岡　秀明 | 波動の基礎１ | 正弦波の表し方 |
| 18 | 廣岡　秀明 | 波動の基礎２ | 波のエネルギー、波の強さ、デシベル表示、重ね合わせの原理 |
| 19 | 廣岡　秀明 | 波動の基礎３ | 波の反射（１次元）、ホイヘンスの原理、波の反射（２次元）、屈折、回折 |
| 20 | 廣岡　秀明 | 波動の基礎４＆音波の性質１ | 波の干渉、音波の基礎、うなり、弦の振動 |
| 21 | 廣岡　秀明 | 音波の性質２ | 気柱の振動、ドップラー効果 |
| 22 | 廣岡　秀明 | 音波の性質３＆光波の性質１ | 斜めドップラー効果、光波の基礎、分散、吸収 |
| 23 | 廣岡　秀明 | 光波の性質２ | 散乱、ものの見え方、光波のイメージ、偏光 |
| 24 | 廣岡　秀明 | 光波の性質３ | レンズ、光の干渉 |
| 25 | 廣岡　秀明 | レーザー | レーザーの原理と応用 |
| 26 | 廣岡　秀明 | 静電気の基礎１ | クーロン力、電場、静電誘導 |
| 27 | 廣岡　秀明 | 静電気の基礎２＆電気回路１ | 双極子モーメント、電位と電流、オームの法則 |
| 28 | 廣岡　秀明 | 電気回路２ | コンデンサーの性質 |
| 29 | 廣岡　秀明 | 電気回路３ | 電池、ＣＲ回路、半導体 |
| 30 | 廣岡　秀明 | まとめ | 後期のまとめと解説 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 物理的な概念や様々な現象を、まずは言葉を使って説明できる。次に、その言葉について、物理量を用いて表現できる。さらには、原理から数式等を用いて、演繹的に現象を説明できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>前期試験４０%、後期試験５０%、講義内課題１０%に加え、任意提出の自由課題、ＷＥＢ課題などを総合的に評価する。<br>現象を定性的に説明できれば可とし、数式等を用いて厳密に説明ができるレベルに応じて、良および優とする。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 毎回、ＷＥＢ上で行う課題の解答のため、スマートフォンあるいはタブレット端末（パソコン）を利用するので、いずれかを忘れずに持参するようにしてください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 薬学生のための物理入門 | 廣岡秀明 | 共立出版 | 円 |
| **参考書** | 大学新入生のための物理入門第２版 | 廣岡秀明 | 共立出版 | 円 |

# 基礎教育科目

## 自然科学系
## 〔生物学〕

### 教科の勉学に対する総論

１群基礎科目として「生物学」と「生物学実験」、及び高等学校と大学における学習のスムーズな接続を目的とした準備科目としての「生物学要習」を開講する。

**「生物学」**は、生物および生命の特性と生命現象についての基本的なことがらを科学的・体系的に理解し、さらに生物学的なものの考え方を身につけることを第一の目的としている。従って、個々の知識を獲得するだけでなく、講義全体を通じての内容の繋がりや生物学的意義、さらには、それぞれの知見が得られてきた過程や背景などを理解するように努めてほしい。講義内容は生物学の基本的事項を中心としており、今後、生物に関わる諸分野の勉学を行う際の基礎となるものである。所属学部や学科の分野に興味の的を絞らず、偏りなく内容を理解し、知識を得て、その知識を応用できるように準備することが大切である。高校生物の履修の有無に関わらず、新たな勉強をするつもりで授業を受けてほしい。

**「生物学実験」**は、生命現象の観察・実験の基礎的方法を体験し、自らの力で生命現象を把握・解析する姿勢を作るための第一歩である。従って、実験マニュアルの予習により、実験の目的をよく把握し、その方法をあらかじめ理解しておくように努力してほしい。実験は、出席し、自ら行い、まとめることが基本であり、履修の条件でもあることを常に念頭において受講してもらいたい。

**「生物学要習」**は、高等学校で「生物基礎」を履修しなかった学生を主な対象に、高等学校段階の生物学の基本的な基礎知識を身につけてもらい、大学での「生物学」の授業内容の理解に役立てることを目的としている。

# 生物学
Biology

**科目概要：** 2025年度　通年／4単位
**授業対象：** ［必修］P学部Ⅰ　火４／［必修］P学部Ⅱ　火３
**科目責任者：** 加藤　智美
**担当者：** 加藤　智美／小田切　秀穂
**備考：** 科目ナンバリング：L101-GN05／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 生命現象において普遍的な性質を共有しながら、多様な形態や働きを見せるのが生物の特性である。このような生物の特性を体系的に理解することを目標とし、そのために必要な生物学の基礎知識と生物学的思考力を身につける。<br>また、様々な生命現象を理解することで、生物学への興味を高めると同時に、生命現象を科学的に解析するための基礎を身につける。 |
| **教育内容** | 生命の普遍性と生物の多様性の２つの側面から、生命体の成り立ち、生物の階層構造、生命現象を支えるエネルギーの獲得と利用、生物の情報伝達のしくみ、生命の連続性と遺伝、生物の歴史と進化について解説する。バイオテクノロジー関連の最近の知見や授業内容に関連する新しい知見なども随時取り上げて解説する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>授業は教科書の内容に基づき、主にプロジェクターで資料や説明図を提示して、その内容を解説する形で進める。授業内容に関連するDVD鑑賞やアニメーション動画も活用する。提示する講義資料や書き込み用のプリントは「Google Classroom」を介して配布する。予めプリントを印刷するか、またはパソコンなどにダウンロードしてから授業に出席し、授業中は解説された内容をしっかりと聴いて、プリントや教科書に書き込むこと。また、毎回、授業内もしくは宿題として課題（授業内容に関する小テストやレポート）を提出してもらい、理解度を確認する。課題は「Google Classroom」を通して提出してもらうので、授業の時には必ずパソコンなどの操作可能な端末を持参すること。<br>【課題に対するフィードバックの方法】<br>小テストの結果は翌週までに点数とコメントをつけて返却する。レポート課題については、添削や返却はしないが、翌週の授業内で良いレポートの例を紹介して要点を解説する。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：120時間】<br>予習：予め次の回に使用するプリントを配布するので、プリントや教科書の該当箇所に目を通し、授業内容についての概要を把握しておくこと。<br>復習：講義資料や教科書を読み返して、授業内容を整理しておくこと。また、小テストの内容を復習し、教科書の章末に記載されている「確認問題」も解いてみること。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 加藤　智美 | イントロダクション | 年間の授業内容について概説する。<br>生物に共通する特性と生物学的階層性について学ぶ。 |
| 2 | 加藤　智美 | 細胞の構造と機能１ | 細胞を構成する物質（水、タンパク質、核酸）について学ぶ。 |
| 3 | 加藤　智美 | 細胞の構造と機能２ | 細胞を構成する物質（糖質、脂質）と細胞の基本構造について学ぶ。 |
| 4 | 加藤　智美 | 細胞の構造と機能３ | 細胞小器官および細胞膜の構造と機能について学ぶ。 |
| 5 | 加藤　智美 | 遺伝子とその働き１：転写 | 遺伝子とは何か、DNAの構造と遺伝子発現の機構を理解する。<br>転写のしくみについて学ぶ。 |
| 6 | 加藤　智美 | 遺伝子とその働き２：翻訳 | 遺伝子発現の機構を理解する。<br>翻訳によるタンパク質合成のしくみについて学ぶ。 |
| 7 | 加藤　智美 | エネルギーと代謝 | 代謝とは何か、生物におけるエネルギーの役割と流れを理解する。<br>生物のエネルギー通貨であるATPと生体触媒として機能する酵素について学ぶ。 |
| 8 | 加藤　智美 | 呼吸 | 呼吸について、主にグルコースの分解過程（解糖系、クエン酸回路、電子伝達系と化学浸透によるATP合成）を通して学ぶ。 |
| 9 | 加藤　智美 | 光合成 | 光合成の過程（光化学系と電子伝達系、カルビン・ベンソン回路）について学ぶ。 |
| 10 | 加藤　智美 | 細胞の活動１：細胞骨格と細胞運動 | 細胞骨格（中間径フィラメント、アクチンフィラメント、微小管）の構造と機能について学ぶ。<br>繊毛・鞭毛運動や筋収縮のメカニズムについて学ぶ。 |
| 11 | 加藤　智美 | 細胞の活動２：タンパク質の様々な機能 | タンパク質の様々な機能（輸送体、ホルモン、受容体、転写調節因子）について学ぶ。 |
| 12 | 加藤　智美 | 細胞間の情報交換１ | 細胞結合の様式について学ぶ。 |
| 13 | 加藤　智美 | 細胞間の情報交換２ | 細胞間の情報交換や情報伝達のしくみについて学ぶ。 |
| 14 | 加藤　智美 | 前期内容の総括 | 前期の授業内容を振り返り、復習する。 |
| 15 | 加藤　智美 | まとめ | 前期のまとめ |
| 16 | 加藤　智美 | 細胞の増殖１：DNAの複製 | DNAの構造を理解し、DNA複製のしくみについて学ぶ。 |
| 17 | 加藤　智美 | 細胞の増殖２：細胞周期と体細胞分裂 | 体細胞分裂の過程および細胞周期とその制御系について学ぶ。 |
| 18 | 加藤　智美 | 生殖と減数分裂 | 生殖の概要について理解する。<br>減数分裂の過程や有性生殖における減数分裂の生物学的意義について学ぶ。 |
| 19 | 加藤　智美 | 発生と分化 | 発生を制御する分子機構について学ぶ。 |
| 20 | 加藤　智美 | 生と死 | 細胞の再生と細胞死について学び、再生医療について理解する。<br>がんを含むさまざまな病気とその原因について学ぶ。 |
| 21 | 小田切　秀穂 | 学習内容の整理と知識の応用 | これまでの学習内容を整理し、関連する身近な生命現象について考える。 |
| 22 | 加藤　智美 | 生体の調節機構１ | 内分泌系（ホルモン）と自律神経系の基本的な作用機構について学び、生体の恒常性維持のしくみを理解する。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 23 | 加藤　智美 | 生体の調節機構２ | 神経伝達の基本的なしくみ（活動電位、シナプス）について学ぶ。<br>感覚器官と感覚受容のしくみについて学ぶ。 |
| 24 | 加藤　智美 | 生体の調節機構３ | 個体を守る免疫系とは何か、免疫のしくみについて学ぶ。 |
| 25 | 加藤　智美 | 生体の調節機構４ | 体液性免疫と細胞性免疫の基本的な作用機構について学ぶ。<br>免疫に関連した最近のトピックスについて学ぶ。 |
| 26 | 加藤　智美 | 生物の進化と多様性１：生物の進化史と進化の機構 | 生命の起源や細胞の起源に関する考え方、地球上の生物の歴史について学ぶ。<br>進化の機構についての現代の中心的な考え方について学ぶ。 |
| 27 | 加藤　智美 | 生物の進化と多様性２：生物の系統と分類 | 種の概念と種分化の機構について学ぶ。<br>リンネ式階層分類体系および進化的類縁関係に基づいた系統分類について学ぶ。 |
| 28 | 加藤　智美 | 生態系 | 生態系の構造と動態について学び、生物と環境との関わりを理解する。<br>生物多様性と環境の保全について考える。 |
| 29 | 加藤　智美 | 後期内容の総括 | 後期の授業内容を振り返り、復習する。<br>さらに、１年間の生物学の授業内容を総括する。 |
| 30 | 加藤　智美 | まとめ | 後期のまとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 生体を構成する物質の特性、細胞の基本構造と機能、生物におけるエネルギー代謝および情報伝達や恒常性維持のしくみについて説明できる。自己の複製方法、遺伝子の発現機構について分子レベルで説明できる。生物進化の過程とそのしくみ、多様な生物の世界について概説できる。各授業内容の相互的な関係性を理解することにより、生物の特性を体系的に理解できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>前期と後期の定期試験（筆記試験）の結果（70%）および課題（小テストやレポート）の提出状況や内容など（30%）により総合的に評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 授業内容についてわからないこと、興味や疑問を持つようなことがでてきたら、教科書や参考書などを活用し、自分で調べて考えてみましょう。このステップはとても大切です。それでも、調べれば調べるほど疑問に思うことが増えてくることもあります。その時は遠慮なく質問してください、一緒に考えましょう。<br>「Google Classroom」に参加登録した後は、生物学履修ガイドに必ず目を通しておきましょう。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 基礎から学ぶ　生物学・細胞生物学　第４版 | 和田勝 | 羊土社 | 3,520円 |
| **参考書** | キャンベル生物学 | J.B. Reece他著、池内昌彦他監訳 | 丸善出版 | 16,500円 |
| **参考書** | 細胞の分子生物学　第６版 | B.Alberts他著、中村佳子他監訳 | ニュートンプレス | 24,530円 |

# 基礎教育科目

## 自然科学系実験

### 自然科学系の実験について

自然科学は、自然現象の的確な観察（observation）とその正確な記述（description）にその基礎をおいています。この観察と記述についての能力を高めることは、自然科学にかかわるものにとって、必須のことです。１年次に開講される、自然科学系の各実験はこの自然科学の基礎を身につける第一歩です。物理学、化学、生物学の様々な分野の実験に自主的に取り組むことが、将来、みなさんがそれぞれの専門分野で学ぶための自然科学的基礎力を育てます。積極的に履修してください。

### 実験場所

・物理学　物理学実習室　　Ｌ１号館５階
・化学　　化学実習室　　Ｌ１号館５階
・生物学　生物学実習室　　Ｌ１号館４階
※一部オンライン授業

### 実験の評価

・実験は全回出席しなければなりません。
やむを得ぬ事情で欠席した場合に限り、所定の欠席届を提出し、後日、１～２回の補充実験を受講することができます。
・レポートは必ず指定された期日までに提出しなければなりません。

### 注意事項

・実験は午後１時より開始されます。開始時には指定された席ですぐに実験が開始できるよう準備を整えておいてください。
・各実験の詳細は、Ｌ１号館学生ロッカー前の掲示板および、実習室前の掲示版に掲示されますので注意しておいてください。
・実験が選択科目である学部・学科の学生が実験を履修する場合、対応する自然科学系の講義科目（物理学・化学・生物学）を必ず履修してください。

# 2025年度 自然科学教育センター実験日程表

| 学部<br>（ 学科 ） | 学科<br>［ 専攻 ］ | Ⅰ期<br>（ 前期前半 ） | Ⅱ期<br>（ 前期後半 ） | Ⅲ期<br>（ 後期前半 ） | Ⅳ期<br>（ 後期後半 ） | 実験曜日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 薬学部<br>P | PP(ABｸﾗｽ),<br>PL(S1,S2ｸﾗｽ) | 生物学 | 物理学 | | | 水曜日 |
| | PP(CDｸﾗｽ),<br>PL(S3,S4ｸﾗｽ) | 物理学 | 生物学 | | | 水曜日 |
| 獣医学部<br>V | 獣医学科<br>V | 物理学<br>（選択可）[1] | | 化学 | 生物学 | 木曜日 |
| | 動物資源科学科<br>Z | | 化学 | 物理学<br>（選択可）[1] | 生物学 | 金曜日 |
| | グリーン環境創成科学科<br>G | 化学 | 物理学 | 生物学 | | 木曜日 |
| 医学部<br>M | | 生物学 | | | | 金曜日 |
| 海洋生命科学部<br>MB | | | 生物学<br>《MB25001～<br>MB25155》 | 物理学《全クラス》<br>（選択可）[1] | 化学<br>《abcクラス》 | 金曜日 |
| | | 化学<br>《defクラス》 | | | 生物学<br>《MB25156～》 | 金曜日 |
| 医療衛生学部<br>A | 保健衛生学科<br>HS | 化学 | 物理学<br>（1科目選択）[2] | 生物学<br>（1科目選択）[2] | | 木曜日 |
| 医療衛生学部<br>A | 医療検査学科<br>ML | 生物学 | 物理学，化学<br>（1科目選択）[2] | | | 木曜日 |
| 医療衛生学部<br>（医療工学科）<br>ET | ［臨床工学］<br>CE | | 生物学 | 物理学 | 化学 | 木曜日 |
| | ［診療放射線技術科学］<br>RT | | 生物学<br>（2科目選択）[3] | 物理学<br>（2科目選択）[3] | 化学<br>（2科目選択）[3] | 木曜日 |
| 医療衛生学部<br>(ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科)<br>RE※ | ［理学療法学］<br>PT | | 化学，生物学<br>（1科目選択）[2] | | 物理学 | 木曜日 |
| | ［作業療法学］<br>OT | 物理学，生物学<br>（1科目選択）[2] | 化学<br>（1科目選択）[2] | | | 木曜日 |
| | ［言語聴覚療法学］<br>ST | 物理学<br>（選択可）[1] | 化学，生物学<br>（選択可）[1] | | | 木曜日 |
| | ［視覚機能療法学］<br>OV | 物理学 | 化学，生物学<br>（選択可）[1] | | | 木曜日 |
| 未来工学部<br>FR | データサイエンス学科<br>FU | | | 生物学 | 物理学 | 金曜日 |

1）**（選択可）**は任意選択。ただし、対応する講義科目も必ず履修すること。

2）**（1科目選択）**は１科目を講義と同じ組合せで選択。

3）**（2科目選択）**は２科目を講義と同じ組合せで選択。

　　は必修科目

※リハビリテーション学科は、4月のオリエンテーション時に実施するアンケートに必ず回答すること。

# 物理学実験

Laboratory Course in Physics

**科目概要：** 2025年度　集中／1単位

**授業対象：** ［必修］P学部／［必修］G学科／［必修］CE専攻／［必修］PT専攻／［必修］OV専攻／［必修］FR学部／［選択］V学科／［選択］Z学科／［選択］MB学部／［選択］HS学科／［選択］ML学科／［選択］RT専攻／［選択］OT専攻／［選択］ST専攻

**科目責任者：** 山本　洋

**担当者：** 山本　洋／廣岡　秀明／崔　東学／古川　裕之／吉村　玲子／川上　言美／塩沢　健太

**備考：** 科目ナンバリング：L103-GN02／授業形態：実験

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 力学・波動・電磁気学・熱力学・光学にかかわる現象に触れることにより、自然現象の基礎的な理解と物理的な実験手法について学ぶ。 |
| **教育内容** | 力学、波動、電磁気学、熱力学、光学の分野から典型的な現象を選び、それらの内容を理解するとともに、物理学の実験における測定法、データの記録法、理論式を用いたデータの処理法、関連した文献の利用法、結果の検討法について学ぶ。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>用意された実験テーマの中から、毎週1回1テーマずつ、計6テーマを行う。各実験は、実験装置の設定法、観察法、測定法、データ処理、実験結果のまとめ、結果の検討などからなる。毎回の実験内容をノートに記録し、担当の先生に提出して指導（フィードバック）を受ける。追加の課題が課される場合もある。課題については、授業内やホームページでの解答掲出、もしくは提出物へのコメント付与によるフィードバックを行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：3時間】<br>予習：実験前にテキストに目を通し、次回の実験の要点をノートにまとめておくこと。<br>復習：実験後はノートに記録した実験結果等を整理しておくこと。 |

| 回 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 重力加速度の測定 | ボルダの振り子の周期と長さを測定し、重力加速度を求める。あわせて、周期運動や重力、万有引力について理解する。 |
| 2 | 熱の輸送の実験 | ヒートポンプを用いて熱の輸送を測定し、熱と温度の概念、気体の膨張・収縮に伴う現象などについて理解する。 |
| 3 | 屈折率の測定 | 水銀ランプと分光計を用いてプリズムの屈折率を測定し、あわせて物質の光学的性質について理解する。 |
| 4 | 電気抵抗の測定 | 金属における電流電圧特性や、電気抵抗の温度変化を測定し、金属内での電気伝導のようすを理解する。 |
| 5 | ヤング率の測定 | サールの装置を用いて、荷重による針金の伸びからヤング率を測定し、物体の変形について理解する。 |
| 6 | 超音波による音速の測定 | オシロスコープを使って、超音波の伝達速度（音速）と波長を測定する。同時に波の性質について理解する。 |
| 7 | 光の干渉の実験 | ナトリウムランプの単色光の干渉を利用したニュートンリングの実験から、レンズの曲率半径を測定し、波の干渉について理解する。 |
| 8 | 電気回路の実験 | 現代エレクトロニクスの基礎として、基本的な電気素子の働きや、電気回路の応答の様子などについて理解する。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 物理現象と物理法則についての基礎的な理解を持つと同時に、物理学の様々な分野における測定機器を使用して測定値を読み取り、そのデータを整理された形でノートに記録できるようになる。さらに、理論式に測定値を代入して間接的な物理量を計算する方法やそのときの有効数字の扱い方、また文献の値と測定結果を比較した検討などが行えるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>予習の状況（20%）、実験への取り組み（30%）、実験ノートへの記入状況（30%）、提出課題の内容（20%）を総合的に評価する。6 つの実験テーマ全ての受講と実験終了、および指定された課題の提出を単位認定条件とする。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 高等学校で物理を学んだ学生には、その理解を更に深められる内容が用意されており、物理学を学んでこなかった学生でも、無理なく入っていける内容になっています。各テーマに担当の先生がつくので、分からないことは積極的に質問して理解を深め、実験を通して物理学の基本を習得してください。 |

**教員免許取得のための必修科目**

| | |
|---|---|
| **科目** | 教科及び教科の指導法に関する科目（中・高　理科） |
| **施行規則に定める科目区分** | ● 物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 物理学実験テキスト | 物理学研究室編 | 学術図書出版 | |

# 生物学実験

Laboratory Course in Biology

**科目概要：** 2025年度　集中／1単位

**授業対象：** ［必修］P学部／［必修］V学部／［必修］M学部／［必修］MB学部／［必修］ML学科／［必修］CE専攻／［必修］FR学部／［選択］HS学科／［選択］RT専攻／［選択］PT専攻／［選択］OT専攻／［選択］ST専攻／［自由］OV専攻

**科目責任者：** 和田　浩則

**担当者：** 和田　浩則※／吉田　学／坂田　剛／加藤　智美／増本　三香／西村　真由子※／中森　智啓／山本　貴之／廣木　眞達／岩崎　美樹※／峰田　理恵※／森下　由紀子※／森　真美子／古平　栄一／石川　寛／深田　祐輔

**備考：** 科目ナンバリング：L103-GN06／授業形態：実験

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 顕微鏡観察と生化学実験を行う。<br>生命現象に実際に触れることで「生物学」の講義の理解を深める。<br>実験器具の取り扱い方、スケッチやグラフの作成法を習得し、客観的な記録の重要性を認識する。<br>実験レポートの形式・書き方について学ぶ。 |
| **教育内容** | 実験は６項目からなる。顕微鏡実験（３項目）では、細胞と組織の観察を行い、顕微鏡の取り扱い方・スケッチの仕方を習得する。生化学実験（３項目）では、実験器具の取り扱い方、データの取り方、グラフの作成法を学ぶ。DNAの抽出、酵素活性、糖代謝についての実験を行い、生体物質の性質について理解する。実験レポートの作成法を習得する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>１つのクラスを、顕微鏡実験を先に行う組と生化学実験を先に行う組に分ける。はじめに実験の基本姿勢と実験レポートの書き方について説明する。各回ごとに実験の目的と背景を説明する。顕微鏡実験では、各自が決められた顕微鏡を用いて個別に行い、担当教員が顕微鏡の取り扱い方・スケッチの仕方を指導する。生化学実験は４～５名の班で行い、担当教員が実験器具の取り扱い方・データの取り方・グラフの描き方を指導する。実験終了後、教員が個別にスケッチやグラフを確認し、口頭試問と解説を行う。<br>【フィードバックの方法】<br>提出された実験レポートの内容を精査し、コメントを付して返却する。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：３時間】<br>予習：あらかじめ「生物学実験マニュアル」を読んで実験の内容や手順を予習して、実験に臨むこと。<br>復習：実験終了後は結果をまとめ、レポートを作成すること。 |

| 回 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 顕微鏡の取り扱い方 | 顕微鏡の構造と基本操作を学ぶ。ミクロメーターの使用法を学ぶ。花粉のプレパラートを用いてスケッチの仕方を学ぶ。実験レポートの作成方法について学ぶ。 |
| 2 | 体細胞分裂 | ヒヤシンスの根端分裂組織のプレパラートを作成する。体細胞分裂にともなう染色体の形態変化を観察し、スケッチを行う。 |
| 3 | 原生生物 | ゾウリムシの細胞小器官の形態を観察し、スケッチを行う。コンゴレッド染色されたイーストを用いて、摂食行動の観察を行い、食胞形成過程を記録する。 |
| 4 | 生化学実験の基礎 | 生化学実験の基本操作として、マイクロピペットの使用法、溶液の希釈法、グラフ（標準曲線）の作成法を学ぶ。サケの精巣からDNAを抽出し、酢酸カーミンを用いて染色する。 |
| 5 | 酵素活性 | ブタの肝臓から抽出した酸性ホスファターゼを、p-ニトロフェニルリン酸を基質として反応させ、酵素活性を測定する。pHを変えて測定を行い、この酵素が働く最適ｐHを求める。 |
| 6 | 発芽時における糖代謝 | コムギの芽生えを材料にして、発芽にともなうマルトースの貯蔵量とアミラーゼの酵素活性の変動を調べ、その関係を考察する。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 顕微鏡実験では観察の仕方を習得し、細胞レベルでの生命現象への理解を深める。生化学実験では生体物質の特性を調べ、分子レベルでの生命現象への理解を深める。実験レポートの目的を理解し、基本的な実験レポートの作成法を習得する。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>単位認定には、6項目すべての実験の履修（実験を終了してレポートを提出）が必要。その上で、提出されたレポートが形式に沿っていて、必要な内容を含んでいるかを評価する（100%）。遅刻、不真面目な態度、後片付けの不備は減点とする。大幅な遅刻は欠席扱いとする。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 同じ学部・学科・クラスであっても、実験の開始日が異なったり、顕微鏡実験か生化学実験かが異なることがあるので注意すること。遅刻・欠席をしないように体調を整えておくこと。<br>「生物学実験マニュアル」をあらかじめよく読んで予習をしておくこと。実験中不明な点は担当教員に質問すること。<br>グループ実験では、学生どうしの積極的なコミュニケーションが大切である。分からないことを教えあったり、議論したりしながら、協力して実験をすすめること。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 研究所における生命科学・医学系研究の経験を生かし、授業で取り扱う内容がどのように生命の深い理解を目指した研究や医療等につながっていくのかを折に触れて解説する。 |

**教員免許取得のための必修科目**

| | |
|---|---|
| **科目** | 教科及び教科の指導法に関する科目（中・高　理科） |
| **施行規則に定める科目区分** | ● 物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 生物学実験マニュアル | 北里大学一般教育部生物学実験マニュアル編集委員会 | 裳華房 | 2000円＋税 |

# 基礎教育科目

## 自然科学系要習

みなさんの中には、高等学校で「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」のいずれかが未履修で、大学での「物理学」、「化学」、「生物学」の授業の理解に不安を感じている人もいることと思います。自然科学教育センターでは、そのような学生がそれぞれの大学教育になるべくスムーズに接続するための準備教育として、「物理学要習」、「化学要習」、「生物学要習」を開講しています。各要習は、それぞれの科目の高等学校段階の最小限の基礎知識を身につけてもらい、大学段階の授業の理解に役立てることを目的としたものです。したがって、この科目は、それぞれの要習に対応する高等学校での科目が未履修である学生を対象として展開されます。要習を履修する場合は、対応する自然科学系の講義科目（物理学・化学・生物学）を必ず履修して下さい。この科目を履修するみなさんは、科目の目的をよく理解して、自然科学系基礎科目の勉強に励んで下さい。

**物理学要習 曜日時限別担当者一覧** ※オンライン授業　　単位認定者：山本　洋

| 時限／曜日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | | ※塩沢<br>(G・A対象) | | |
| 2 | | | ※川上<br>(G・MB・A対象) | | |
| 3 | | | | ※關山<br>(P・OV対象) | |
| 4 | | | | ※關山<br>(P・Z・FU対象) | |
| 5 | | ※吉村<br>(P・V・G・A対象) | | ※關山<br>(Z・MB・N・FU対象) | |

**化学要習 曜日時限別担当者一覧**　　単位認定者：野島　高彦

| 時限／曜日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | 宇田 | |
| 2 | | 笠原 | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | 大極 | | | |
| 5 | | 未定 | 山口 | | |

**生物学要習 曜日時限別担当者一覧**　　単位認定者：和田　浩則

| 時限／曜日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | | |
| 2 | | 岩崎 | | | 西村/吉田 |
| 3 | | | | | |
| 4 | 加藤/増本 | 坂田/森 | | | |
| 5 | | | | | |

# 物理学要習

Supplementary Physics

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位

**授業対象：** ［自由］P学部　火５or木３or木４／［自由］V学科　火５／［自由］Z学科　木４or木５／［自由］G学科　火５or水１or水２／［自由］MB学部　水２or木５／［自由］N学部　木５／［自由］A学部　火５or水１or水２／［自由］OV専攻　木３／［自由］FR学部　木４or木５

**科目責任者：** 山本　洋

**担当者：** 吉村　玲子／川上　言美／塩沢　健太／關山　信

**備考：** 科目ナンバリング：L101-GN07／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 高等学校で物理を学習してこなかった学生が、物理というものに馴染み、興味を持ち、大学における「物理学」の講義の理解に役立つ基礎的な知識を身につけることを目的とする。 |
| **教育内容** | 高等学校の「物理基礎」の内容を中心として重要と思われる部分を精選し、講義・演示実験・問題演習を通して学習する。「力と運動」「仕事とエネルギー」「熱と温度」「電気」「波」の他、物理学に必要な数学の基礎についても学習する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全てオンラインで実施します】<br>各項目について基本的な現象を実験（演示）し、目で見て直感的に理解してもらう。次に、演示した現象や演示に関連した法則などについて説明する。さらに、その場で問題演習を行い、現象や説明について理解できているかを確認する。担当教員により、理解しやすいよう説明、指導などのフィードバックを行う。課題については、授業内やホームページで解答を掲出することでフィードバックを行う。<br>【Google Classroomクラスコード】<br>全クラス共通：tfsbu37 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：21時間】<br>予習：講義前に要習ノートに目を通し、概略を把握しておくこと。<br>復習：講義後は不明確な部分について整理し、次回質問できるようにしておくこと。 |

| 回 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 基本概念 | 物理量の表し方、単位など物理学全般に共通する基本概念のほか、ベクトル、三角比と三角関数など物理学に必要な数学の基礎について学習する。 |
| 2 | いろいろな力 | 重力、垂直抗力、張力、弾性力、摩擦力などさまざまな力について学習する。 |
| 3 | 力のつり合い | 力の合成・分解、力の成分、力のつりあいについて学習する。 |
| 4 | 直線運動 I | 等速直線運動、速さ・移動距離・経過時間の関係およびグラフの読みとり方について学習する。 |
| 5 | 直線運動 II | 等加速度直線運動、加速度と速度・移動距離の関係、自由落下、垂直投射について学習する。 |
| 6 | 運動の法則 | 慣性の法則、運動の法則、作用・反作用の法則、運動方程式について学習する。 |
| 7 | 仕事と力学的エネルギー | 仕事と力学的エネルギーの関係、仕事率について学習する。 |
| 8 | 熱 | 温度、熱量、熱容量、比熱、熱と仕事について学習する。 |
| 9 | 静電気と電流 | 静電気、静電誘導、誘電分極、オームの法則、ジュール熱について学習する。 |
| 10 | 電流と磁場 | 磁力線、電流が作る磁場、フレミングの左手の法則、電磁誘導について学習する。 |
| 11 | 波の性質 | 波の種類と伝わり方、波の要素、縦波と横波、波の重ね合わせについて学習する。 |
| 12 | 総合演習 | これまでの学習内容全体の理解を確実にするための演習を行う。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 物理学に必要な単位、記号、用語、数学の基礎が身に付いており、力と運動、力学の法則、仕事と力学的エネルギー、熱、電気と磁場、波などの概念について説明できるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>毎回の授業への取り組み（80%）、および課題問題の提出（20%）で評価する。３分の２以上の講義への出席を単位認定の必要条件とする。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 物理に必要なものは「想像力」です。まずは演示実験を見て「直感的に物理を理解する」ことを心がけてください。意外な面白さを発見できることでしょう。また、授業中はアシスタントの先生も対応を行います。わからないところがあったら遠慮なく質問し、その場で理解するように努めてください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 物理学要習ノート | 物理学研究室編 | | 円 |
| 参考書 | 物理基礎318 | 國友正和　他 | 数研出版 | 762円 |

# 化学要習

Supplementary Chemistry

**科 目 概 要 ：** 2025年度　前期／1単位
**授 業 対 象 ：** ［自由］指定なし（M学部，S学部，FR学部を除く）　火２or火４or火５or水５or木１
**科目責任者 ：** 野島　高彦
**担　当　者 ：** 宇田　郁子／笠原　康利／山口　佳美／大極　光太
**備　　考 ：** 科目ナンバリング：L101-GN08／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 高等学校で化学を学んでこなかった人が、大学の「化学」の講義および「化学実験」をよりわかりやすく学べるようにする。 |
| **教育内容** | 高校教科書「化学基礎」の範囲から厳選された重要事項・理論を学習する。<br>キーワード：原子、分子、イオン、周期律、原子量、分子量、式量、物質量、ボガドロ定数、濃度、化学反応式、酸・塩基、酸化・還元 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>少人数クラスで双方向授業を行い、化学の基本が正しく理解できるようにする。毎時間演習問題を解く時間を設け、理解を確実なものにする。本科目は５クラスで展開されるが、内容はいずれも同じである。授業は、化学単位で編集した教科書「新版エレメンタリー　ケミストリー」とパワーポイント教材を用いて行う。また、講義毎にレポート課題を課す。<br>【フィードバックの方法】<br>レポート課題は、提出後の翌週に解説する。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習時間：19時間】<br>予習：各回の授業に対して，教科書に目を通すこと。<br>復習：テキストの演習問題・練習問題を復習し、課されたレポートをまとめること。 |

| 回 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 物質の構成 | 元素記号、純物質、単体と化合物、成分元素の検出、混合物の分離 |
| 2 | 原子の構造 | 同位体、電子配置、価電子 |
| 3 | 元素の周期表 | 周期律、金属元素、非金属元素 |
| 4 | イオンと分子 | イオン結合、共有結合、分子式、構造式、原子量、分子量、式量、モル質量 |
| 5 | 物質量 | アボガドロ定数、モル、アボガドロの法則 |
| 6 | 溶液の濃度 | 溶媒、溶質、質量パーセント濃度、モル濃度 |
| 7 | 化学式と化学反応式Ⅰ | 反応物、生成物、質量保存の法則 |
| 8 | 化学式と化学反応式Ⅱ | 化学量論 |
| 9 | 酸と塩基Ⅰ | 水素イオン、水酸化物イオン、酸・塩基の定義 |
| 10 | 酸と塩基Ⅱ | 価数、ｐH、電離度、強酸・弱酸、強塩基・弱塩基 |
| 11 | 酸化と還元Ⅰ | 酸化・還元の定義、酸化数 |
| 12 | 酸化と還元Ⅱ | 酸化剤、還元剤 |
| 13 | まとめ | １２回目までのまとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1) 大学の「化学」の講義が理解できる。<br>2) 大学の「化学実験」の内容が理解でき、支障なく実験を行うことができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>試験結果（80 %）および毎回のレポート（20 %）によって評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 講義内容がその時間内に理解できるよう授業を進めます。小さな疑問でも、遠慮なく質問して納得して下さい。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 新版エレメンタリー ケミストリー<br>（授業の際，証紙と交換で販売します。教学センター事務室で「化学要習テキスト」の証紙を1000円で購入して下さい。） | 北里大学 一般教育部 自然科学教育センター 化学単位 編集 | 学術図書出版社 | |

# 生物学要習

Supplementary Biology

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位
**授業対象：** ［自由］指定なし（M学部，S学部を除く）　月４or火２or火４or金２
**科目責任者：** 和田　浩則
**担当者：** 吉田　学※／坂田　剛／加藤　智美／増本　三香／西村　真由子※／岩崎　美樹※／森　真美子
**備考：** 科目ナンバリング：L101-GN09／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 高校で生物の授業を受けなかった学生が、［生物基礎］および［生物］の要点を学んで基礎的な知識を身につけ、「生物学」の講義を円滑に履修できるようにする。 |
| **教育内容** | 細胞の構造と機能、遺伝子の役割、動物の反応、生態系について説明する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>１０～３０名程度の少人数クラスでの授業を行う。講義は「生物学要習受講ノート」に沿って行い、「フォトサイエンス生物図録」から抜粋した資料をスクリーンに示しながら説明する。<br>【フィードバックの方法】<br>毎回提出する出席カードに書かれた質問について解説する。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：19時間】<br>予習：第１回の講義で「生物学要習受講ノート」を配布するので、毎回の該当部分を読んでおくこと。<br>復習：「生物学要習受講ノート」の「まとめの問題」および「自習」の項目を使って復習すること。 |

| 回 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 生物とは | 生物の共通性と多様性、細胞と細胞小器官 |
| 2 | エネルギーと代謝（１） | 生体物質、ATP、酵素 |
| 3 | エネルギーと代謝（２） | 呼吸と光合成 |
| 4 | 遺伝情報とその発現（１） | DNAと遺伝情報、DNAの複製 |
| 5 | 細胞の増殖と分化 | 細胞分裂、細胞周期、細胞の分化 |
| 6 | 遺伝情報とその発現（２） | 遺伝子の発現、RNA、転写と翻訳 |
| 7 | 生殖と遺伝 | 減数分裂、遺伝、突然変異 |
| 8 | 発生 | 体を構成する組織、動物の発生 |
| 9 | 動物の体内環境の維持（１） | 神経系、内分泌系 |
| 10 | 動物の体内環境の維持（２） | 恒常性、体液、血管系 |
| 11 | 免疫 | 免疫細胞、自然免疫、獲得免疫 |
| 12 | 生物の多様性と生態系 | 植生、バイオーム、保全 |
| 13 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 細胞の構造と機能、呼吸と光合成、遺伝子の複製と発現、細胞周期について説明できる。神経系、内分泌系、免疫による体内環境の維持について説明できる。生物の多様性と生態系について説明できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>筆記試験により評価する（100%）。単位認定には、第1回～第12回までの講義のうち3分の2以上（8回以上）の出席が必要。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | はじめて生物を勉強する人は用語の多さに戸惑うかもしれません。しかし、言葉の意味を正しく理解すれば、覚えることはそれほど難しいことではありません。「生物学要習受講ノート」は、予習・復習だけでなく、授業中に書き込むノートとして利用して下さい。「フォトサイエンス生物図録」には、授業で説明する以外にも多くの図が載っており、「生物学」の授業の参考書としても役に立ちます。出席カードには質問、意見、感想などを自由に記入して下さい。ASC（学習サポートセンター）では元高校教員の先生が、分かるまで丁寧に教えてくださいます。積極的に利用して、理解を深めるようにして下さい。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 研究所における生命科学・医学系研究の経験を生かし、授業で取り扱う内容がどのように生命の深い理解を目指した研究や医療等につながっていくのかを折に触れて解説する。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 新課程フォトサイエンス生物図録 | 嶋田正和他　監修 | 数研出版 | 880円＋税 |

# 教養演習系科目

教養演習系科目には、教養演習Ａ、Ｂ、Ｃ、大学基礎演習、言語と文化Ａ・Ｂがあります。これらは、みなさんの課題学習や議論あるいは実習活動等を主体とする、演習科目です。

## 履修に当たっての留意点

それぞれの科目には担当者によりいろいろな個性があります。また授業形態や授業の人数もいろいろです。履修希望者が受入予定人数より多い場合には抽選等によって受講者を決める授業もあります。多くの授業は少人数でおこなわれますが、中教室での講義形式の授業になる場合もあります。

したがって、履修にあたっては、シラバスをよく読んで授業の内容や形式などを十分に検討するとともに抽選の有無などについても気をつけてください。また、教養演習系科目においては、授業に出席し、積極的に参加することがとても重視されていることも忘れないでください。

## 教養演習A、B、C

担当教員がそれぞれの専門分野または関心領域を背景に演習のテーマを設定し、それぞれの方法で授業を進めていきます。みなさんが自ら課題を見いだし、それに取り組み、解決していく能力を育むことが、この科目の第一の目的です。さらに、みなさんに、普段なかなかふれる機会のない学問・研究を含む人間の活動の諸分野にふれる機会をもってもらい、人間としての幅を広げてもらうこともおおきな目的です。

通年２単位の科目には「教養演習Ａ」、前期１単位の科目には「教養演習Ｂ」、後期１単位の科目には「教養演習Ｃ」と科目名が付けられています。また、担当教員ごとにそれぞれの授業のテーマに沿った副題が付けられています。

## 大学基礎演習

高校生から大学生への円滑な移行を目指し、みなさんの大学での学習を応援する内容の演習となっています。この演習は「大学での勉強の仕方に不安がある人」「仲間と積極的に交わりながら勉強していきたい人」が、大学での学習方法を実践的に学び、身につけることを目的としています。この演習で大学での学び方の基礎を知り、他の授業で応用することで、みなさんの４年間（６年間）の学びがより確かなものになるでしょう。

この科目は半期１単位です。また、担当教員ごとにそれぞれの授業のテーマに沿った副題が付けられています。

## 言語と文化A･B

世界には多様な言語、文化、習慣、価値観があります。世界の人たちと協力しお互いに高めあっていける人となるには、英語以外の言語と英語圏以外の文化も学ぶとよいでしょう。この科目では、ドイツ語、フランス語、オランダ語、中国語、韓国語を学びつつ、言語を通じてその国の文化を学びます。内容は多岐にわたりますので、詳しい解説のページを別に設けました。詳しくはそちらを読んでください。

# 2025年度教養演習・大学基礎演習の履修受入予定一覧

授業の性質上、各授業の受入人数に制限を設ける。履修希望者が多い場合は、抽選を行うため、履修を考えている場合は必ず４月第１週目に実施される抽選に参加すること。抽選の手順については、本要項「3.履修登録」を参照すること。**当選した場合、原則履修放棄することはできないため、よく考えて抽選に参加すること。**

## 教養演習A(通年)

| 担当者 | 曜日時限 | 副題 | 授業形態 | 受入人数 |
|---|---|---|---|---|
| 風岡　祐貴 | 火１ | 古典ギリシャ語 | 対面 | １０ |
| 三田　　順 | 火２ | ベルギー・フランス語圏の社会と文学 | 対面 | ２０ |
| 猪瀬　貴道 | 木１ | 法制度の調査・考察を通して身につける学びのスキル | 対面 | １２ |

## 教養演習B(前期)

| 担当者 | 曜日時限 | 副題 | 授業形態 | 受入人数 |
|---|---|---|---|---|
| 酒井 祐貴子 | 火２ | ゼミ形式で学ぶ初等整数論入門 | 対面 | １０ |
| 大石　敏広 | 水２ | 論理的思考のトレーニングⅠ | 対面 | ２０ |
| 山田　裕子 | 水２ | 大学生のストレスとストレスマネジメント | 対面 | ４５ |
| 米山　泰祐 | 木２ | 大学数学に触れてみよう | 対面 | 制限なし |
| 畠山　　禎 | 金２ | 食べ物をつうじてみる世界史 | 対面 | １５ |

## 教養演習C(後期)

| 担当者 | 曜日時限 | 副題 | 授業形態 | 受入人数 |
|---|---|---|---|---|
| 安倍　希美 | 月２ | 共に学ぼう | 併用 | ３０ |
| 髙野　保真 | 月２or土５ | データサイエンスとAI | オンライン | 各１５ |
| 安川　智子 | 火２ | 音楽分析入門～歌とコード | 対面 | ２５ |
| 赤澤とし子 | 火５ | ライフスタイルの選択 | 対面 | ２０ |
| 田中　伸明 | 火５ | 音から楽譜へ--音の記録術 | 対面 | １５ |
| 北川　　淳 | 水１ | 多角的な視点による持続可能な未来への道標 | 対面 | ２０ |
| 石塚　昌保 | 水２ | 自分を知り人間関係を考える | 対面 | ２４ |
| 猪原　敬介 | 水２ | 自らの読書を問い直す | 対面 | １５ |
| 大石　敏広 | 水２ | 論理的思考のトレーニングⅡ | 対面 | ２０ |
| 宮﨑　　直 | 水２ | 代数学の考え方 | 対面 | ４０ |
| 畠山　　禎 | 金２ | パンデミック(感染症の世界的大流行)と社会 | 対面 | １５ |
| 福田　宏 | 金２ | 色彩情報処理入門 | 対面 | １６ |
| 中村　陽子 | 金４ | 身近な心理学 | 対面 | ３０ |

## 大学基礎演習(前期)※OT必修クラスを除く

| 担当者 | 曜日時限 | 副題 | 授業形態 | 受入人数 |
|---|---|---|---|---|
| 安川　智子 | 火２ | 大学生としての学び方 | 対面 | ２０ |
| 田中　伸明 | 火５ | 学術的な文章読解・作成術を身につける | 対面 | １５ |
| 野島　高彦 | 火５ | 理系スタイルのスタディ・スキル #リケスタ | 対面 | ２４ |
| 猪原　敬介 | 水２ | 大学生のための文章作成トレーニング | 対面 | １５ |
| 塩沢　健太 | 木２ | 大学生としての学び方 | 対面 | ２０ |
| 前田　崇 | 金５ | 大学生としての学び方 | 対面 | ２０ |

## 大学基礎演習(後期)

| 担当者 | 曜日時限 | 副題 | 授業形態 | 受入人数 |
|---|---|---|---|---|
| 畠山　　禎 | 火５ | 大学生としての学び方 | 対面 | １５ |

# 教養演習A（古典ギリシャ語）

Liberal Arts and Sciences Seminar A

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　火1／［自由］M学部　火1／［自由］ET学科　火1／［自由］PT専攻　火1／［自由］ST専攻　火1／［自由］OV専攻　火1／［自由］FR学部　火1

**科目責任者：** 風岡　祐貴

**担当者：** 風岡　祐貴

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME01／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 古典ギリシャ語の初級文法を理解する。さらに古典ギリシャ語を学ぶことによって、近代のヨーロッパの言語への関心を高める。 |
| **教育内容** | 古典ギリシャ語の基礎知識を習得するため、初級文法を一年間かけて学びます。具体的には、1回の授業につき教科書の一単元を割り当てる予定です。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>授業ではまず文法事項を解説し、練習問題を解きます。板書や視聴覚資料などを活用しながら進めます。なおシラバスで予定している文法事項は授業の進捗状況によって変更することがあります。<br>【フィードバックの方法】授業中に各自の課題の出来を確認し、解答を検討します。 |
| **準備学習（予習・復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】<br>予習　教科書で次に学ぶ単元を読み、理解できなかったところを明確にしてください。また事前に教員が指定した練習問題を解いておいてください。予習の目安時間は30分です。<br>復習　授業で解いた練習問題を声に出して何度も読んでください。復習の目安時間は30分です。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 風岡　祐貴 | 文字と発音 | アルファベット、母音の組織、子音の組織を説明する。 |
| 2 | 風岡　祐貴 | 気息記号とアクセント | 無気記号、有気記号、鋭アクセント、重アクセント、曲アクセントについて説明する。 |
| 3 | 風岡　祐貴 | 動詞の基本 | 動詞の活用（現在形）、ω動詞とμι動詞、不定詞について説明する。 |
| 4 | 風岡　祐貴 | 名詞の基本と第二変化名詞 | 名詞が性数格に応じてどのように変化するか説明する。 |
| 5 | 風岡　祐貴 | 格変化によるアクセント移動 | ἄνθρωποςとνῆσοςのアクセントの変化を説明する。 |
| 6 | 風岡　祐貴 | 定冠詞 | 定冠詞の格変化とその用法を説明する。 |
| 7 | 風岡　祐貴 | 不規則動詞 | εἰμίの活用を説明する。 |
| 8 | 風岡　祐貴 | 第一変化名詞 | τέχνηとχώραの変化を説明する。 |
| 9 | 風岡　祐貴 | 第一変化名詞（つづき） | θάλαττα とμοῖραの変化を説明する。 |
| 10 | 風岡　祐貴 | 前置詞 | 前置詞の格支配、母音の省略、接頭辞としての機能を説明する。 |
| 11 | 風岡　祐貴 | 形容詞の格変化とアクセント | ος - η - ονタイプとος - α - ονタイプを説明する。 |
| 12 | 風岡　祐貴 | 形容詞の用法、μέγαςとπολύς | 形容詞の限定用法と術語用法、ならびに名詞としての用法を説明する。 |
| 13 | 風岡　祐貴 | 中動態と受動態 | 中動態の役割と活用、能動態がない動詞について説明する。 |
| 14 | 風岡　祐貴 | 前期のまとめ | 前期の学習内容の定着度を測る。 |
| 15 | 風岡　祐貴 | 解説 | 解説と確認 |
| 16 | 風岡　祐貴 | 人称代名詞とαὐτός | 人称代名詞の格変化と用法を説明する。 |
| 17 | 風岡　祐貴 | 第三変化名詞 | ῥήτωρ、ἐλπίς、σώμαの変化、κ/γ/χやπ/β/φとσの接触について説明する。 |
| 18 | 風岡　祐貴 | 第三変化名詞（つづき） | ντ語幹と代償延長、χάρις、πατήρ、μήτηρ の変化について説明する。 |
| 19 | 風岡　祐貴 | 疑問代名詞と不定代名詞 | τίςとτιςの変化を説明する。 |
| 20 | 風岡　祐貴 | 母音融合タイプの動詞 | -αω、-εω、-οωタイプの動詞について説明する。 |
| 21 | 風岡　祐貴 | 母音融合タイプの名詞と形容詞 | νοῦςとὀστοῦνの変化を説明する。 |
| 22 | 風岡　祐貴 | 再帰代名詞と相互代名詞 | αὐτόςをもとに再帰代名詞の変化を説明する。 |
| 23 | 風岡　祐貴 | 第三変化名詞（つづき） | 音韻変化を伴う第三変化名詞について説明する。 |
| 24 | 風岡　祐貴 | 第三変化の形容詞 | ων - ονタイプとη - εςタイプの形容詞、υς - εια - υタイプとων - ουσα - ονタイプの形容詞について説明する。 |
| 25 | 風岡　祐貴 | 様々な副詞表現 | 形容詞と副詞の対応、特定の格形による副詞表現、接尾辞による副詞について説明する。 |
| 26 | 風岡　祐貴 | 比較級と最上級 | 比較級と最上級の語形ならびに格変化を説明する。 |
| 27 | 風岡　祐貴 | 数詞 | 基数詞、序数詞、数副詞について説明する。 |
| 28 | 風岡　祐貴 | 動詞の未来形 | 未来形の特徴と不規則な未来形について説明する。 |
| 29 | 風岡　祐貴 | 後期のまとめ | 後期の学習内容の定着度を測る。 |
| 30 | 風岡　祐貴 | 解説 | 解説と確認 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ・初級の古典ギリシャ語の力（ヨーロッパのほかの言語でCEFRのAと同じ程度）をつける。<br>・辞書を引きながら、古典ギリシャ語の文章が理解できるようになる。<br>・外国語を学ぶ意義と楽しさを知り、それについて自分の言葉で表現することができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>前期試験（50%）と後期試験（50%）<br>欠席ならびに授業態度に問題のある場合は減点とします。欠席は1点減点とし、15分以上の遅刻は欠席扱いとします。途中退出は減点の対象となるので、体調の悪い人は予め申し出てください。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 古典ギリシャ語は話者がいない言葉です。そのため英語やそのほかの外国語とは本質的に異なります。ほかの外国語と比較しても暗記すべきことが非常に多い言葉です。第1回目の講義で教科書を提示しますので受講選択の参考にして下さい。また一次抽選にもれて二次抽選を希望する学生も初回の授業には必ず出席して下さい。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | しっかり学ぶ初級古典ギリシャ語 | 堀川宏 | ベレ出版 | 2,500円 |

# 教養演習A（ベルギー･フランス語圏の社会と文学）

Liberal Arts and Sciences Seminar A

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　火２／［自由］M学部　火２／［自由］ET学科　火２／［自由］PT専攻　火２／［自由］ST専攻　火２／［自由］OV専攻　火２／［自由］FR学部　火２

**科目責任者：** 三田　順

**担当者：** 三田　順

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME02／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | ・ベルギー・フランス語圏の歴史的背景、社会、言語問題の構造を学ぶ・<br>・パワーポイントを用いた実践的プレゼンテーション方法を学ぶ。<br>・文学作品を鑑賞する力を身に付ける。<br>・批評的文章の書き方を習得する。<br>・フランス語の基礎を習得する。 |
| **教育内容** | ・講義形式でベルギーの歴史、社会についての基礎知識を学ぶ。<br>・学生自身がベルギー・フランス語圏の街と文化について調べ、パワーポイントを使用したプレゼンテーションで成果を発表する。<br>・ベルギーのフランス語作家によって書かれた文学作品の邦訳を鑑賞し、この地域の文化に深く親しむ。<br>・ 文学作品の鑑賞を通じてクリティカルシンキング、クリティカルリーディング、クリティカルライディング能力を養成する。<br>・フランス語の初歩を学び、異なる言語文化への関心を育む。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>【前期】建国から現代に至るベルギーの歴史、社会構造、文化について教員が講義形式で解説する。学生によるプレゼンテーション。<br>【後期】扱う文学作品の時代背景について教員が解説した後、原則一つの短編を二回に分けて鑑賞する。各作品について短い作文課題を出し、段階的に批評的文章を書く力を身に付けて行く。<br>【フィードバックの方法】<br>リアクションペーパー、LMSを活用する。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】<br>予習：プレゼンテーション（二回）の準備。次回扱うテーマ、作品について調べておく。<br>復習：提出課題のフィードバックを確認する。授業で扱った作品に関連する他の作品を鑑賞する。小テストの準備。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 三田　順 | 導入<br>ベルギーの歴史①<br>Leçon 1 | 授業の内容と進め方について<br>建国以前のベルギーの歴史<br>アルファベ |
| 2 | 三田　順 | ベルギーの歴史②<br>Leçon 2 | 十九世紀前半<br>発音の規則 |
| 3 | 三田　順 | ベルギーの歴史③<br>Leçon 3 | 十九世紀後半<br>名詞の性と冠詞 |
| 4 | 三田　順 | ベルギーの歴史④<br>Leçon 4 | 二十世紀前半<br>être動詞<br>学生発表① |
| 5 | 三田　順 | ベルギーの歴史⑤<br>Leçon 5 | 二十世紀後半<br>否定形、強勢形<br>学生発表① |
| 6 | 三田　順 | ベルギーの社会①<br>Leçon 6 | ベルギーの「地域」<br>所有形容詞<br>学生発表① |
| 7 | 三田　順 | ベルギーの社会②<br>Leçon 7 | ベルギーの「言語共同体」<br>場所を表す前置詞<br>学生発表① |
| 8 | 三田　順 | ベルギーの社会③<br>Leçon 8 | ベルギーの「言語戦争」<br>数字1-10<br>学生発表① |
| 9 | 三田　順 | ベルギーの地域①<br>Leçon 9 | ワロニー・ブラバン州、リエージュ州、エノー州、ナミュール州、リュクサンブール州<br>-er動詞、疑問文の作り方<br>学生発表② |
| 10 | 三田　順 | ベルギーの地域③<br>Leçon 10 | ヴラーンデレン・ブラーバント州、アントウェルペン州、東ヴラーンデレン州、西ヴラーンデレン州、リンビュルフ州<br>avoir, faire<br>学生発表② |
| 11 | 三田　順 | ベルギーの美術①<br>Leçon 11 | 初期フランドル絵画<br>数字11-20、年齢<br>学生発表② |
| 12 | 三田　順 | ベルギーの美術②<br>Leçon 12 | バロック絵画<br>aller, venir<br>学生発表② |
| 13 | 三田　順 | ベルギーの美術③<br>Leçon 13 | 世紀末、現代絵画<br>近接未来、近接過去<br>学生発表② |
| 14 | 三田　順 | まとめ | 前期の総括 |
| 15 | 三田　順 | 解説と確認 | 個別指導 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 16 | 三田　順 | 後期の授業の進め方<br>Leçon 14 | 文学とは<br>前期の復習、大きな数字、年月日 |
| 17 | 三田　順 | 19世紀末：ジョルジュ・ローデンバック①<br>Leçon 15 | 作品の時代背景<br>-ir動詞 |
| 18 | 三田　順 | 19世紀末：ジョルジュ・ローデンバック②<br>Leçon 16 | 感想文①<br>数字21-99 |
| 19 | 三田　順 | 20世紀初頭：マリー・ゲヴェルス①<br>Leçon 17 | 作品の時代背景<br>pouvoir/vouloir |
| 20 | 三田　順 | 20世紀初頭：マリー・ゲヴェルス②<br>Leçon 18 | 感想文②<br>比較級 |
| 21 | 三田　順 | 戦間期①：フランス・エレンス①<br>Leçon 19 | 作品の時代背景<br>prendre |
| 22 | 三田　順 | 戦間期②：フランス・エレンス②<br>Leçon 20 | 解釈文①<br>最上級 |
| 23 | 三田　順 | 戦後①：ジュルジュ・シムノン①<br>Leçon 21 | 作品の時代背景<br>直接目的補語 |
| 24 | 三田　順 | 戦後①：ジュルジュ・シムノン②<br>Leçon 22 | 解釈文②<br>時間の表現 |
| 25 | 三田　順 | 戦後②：マルグリット・ユルスナール①<br>Leçon 23 | 作品の時代背景<br>間接目的補語 |
| 26 | 三田　順 | 戦後②：マルグリット・ユルスナール②<br>Leçon 24 | 批評文①<br>過去分詞の作り方 |
| 27 | 三田　順 | 現代：ジャン＝フィリップ・トゥサン①<br>Leçon 25 | 作品の時代背景<br>複合過去 |
| 28 | 三田　順 | 現代：ジャン＝フィリップ・トゥサン②<br>Leçon 26 | 批評文②<br>受動表現 |
| 29 | 三田　順 | まとめ | 後期の総括 |
| 30 | 三田　順 | 解説と確認 | 個別指導 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ベルギー、特にフランス語圏の歴史、社会の仕組み、言語対立の構造が理解できる。<br>文学作品について批評的文章が書けるようになる。<br>フランス語の初級文法、発音の規則に習熟し、自己紹介、レストランの注文などの簡単な会話ができるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験　実施時期：試験期間内<br>学期末試験40%<br>小テスト　10%<br>プレゼンテーション　20%<br>作文課題　30%<br>[定員20名] |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | ワッフルやチョコレートの国として日本でもよく知られているベルギーは小さいながら、複雑な歴史と多様な文化を持つ魅力的な国です。前期は歴史や各地域の特徴について学び、後期には短い文学作品を一緒に読みながらベルギーの文化に直接触れてみます。<br>（各作品が扱うテーマ、ジャンルの特性上、鑑賞者によっては不快に感じる描写、内容を扱う可能性があります。この点を了承した上で受講して下さい）<br>ベルギーには現在公用語が三つありますが、その一つで、世界的に多くの国や地域で使用されているフランス語をゆっくりと学びます。外国語の習得に特別な才能は必要ありません。新しい言語文化に好奇心を持つ学生を歓迎します。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 授業時に配付する資料 | | | |
| **参考書** | ベルギーを知るための52章 | 小川秀樹 | 明石書店 | |
| **参考書** | 物語 ベルギーの歴史 | 松尾秀哉 | 中央公論新社 | |
| **参考書** | 批評理論入門―『フランケンシュタイン』解剖講義 | 廣野由美子 | 中央公論新社 | |
| **参考書** | ベルギーの歴史を知るための50章 | 松尾秀哉 | 明石書店 | |
| **参考書** | 図説 ベルギー 美術と歴史の旅 | 森洋子 | 河出書房新社 | |

# 教養演習A（法制度の調査･考察を通して身につける学びのスキル）

Liberal Arts and Sciences Seminar A

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　木1／［自由］M学部　木1／［自由］ET学科　木1／［自由］PT専攻　木1／［自由］ST専攻　木1／［自由］OV専攻　木1／［自由］FR学部　木1

**科目責任者：** 猪瀬　貴道

**担当者：** 猪瀬　貴道

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME01／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 大学において主体的、効果的に学ぶために必要な「調べ方」「まとめ方」「書き方」「伝え方」などについて、法的問題をテーマとして前期・後期を通して実践することによって身につける。 |
| **教育内容** | 履修者の関心のある法制度（たとえば「医薬品特許制度」「健康食品制度」「公的医療保険制度」「人獣共通感染症対策」「遺伝子組換食品規制」「気候変動対策」「海洋生物資源保護」「タバコ規制」など）について図書館やインターネット上の資料を用いて調査と整理を行いながら、口頭発表やディベートなどによる議論を通して考察を深めて、最終的にレポートにまとめる。その準備作業と実践により、情報の収集・整理・記録・管理、スケジュール管理、文書作成、発表と議論など学びのスキルのトレーニングを行う。 |
| **教育方法** | 【対面授業科目】<br>本科目は、原則として教室での対面方式で実施する。ただし、教室での授業においてもインターネットを用いた学習管理システム（Learning Management System, LMS）を用いる。授業におけるLMSを用いた実践や作業においても必要なため、最新のブラウザを利用可能なノートPC（または大きめのタブレット＋キーボードでも可）を用意して持参することが求められる（持参できない場合には貸出等で対応できる場合があるので相談すること）。<br>教員からの説明を聞くだけではなく、学生が主体的に参加して教員とともに課題を解決する演習方式で行う。教員によるポイントの解説、学生による課題の実践（グループワーク、発表やレポートなど）、学生同士による質疑応答と議論などを予定する。なお、履修者数によって内容や進め方については調整する（※下記の「授業計画」の内容については履修者数に応じて変更する必要があるので履修者数が確定した時点であらためて授業計画を配布する）。<br><br>【フィードバックの方法】<br>授業や課題の実践においてフィードバックを行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】<br>※文部科学省が単位認定に必要としている学修活動時間から算出したもので、予習・復習合わせて各回あたり約４時間の自己学習を想定している。ただし、期末レポート作成なども含めて自由に配分して良い。また、以下の内容は参考例として記載するが履修者が自分で考えて下記の「到達目標」の達成に必要と思われる内容で自由に実施する。<br>予習：教科書の関連部分に目を通す。LMS で示される参考資料や参考書に目を通して概要を把握する。<br>復習：課題に取り組むとともに学んだことをふまえて教養図書館やインターネットなどを利用して参考資料を読む。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 猪瀬　貴道 | 科目説明と導入 | 演習の目的、進め方、受講上の注意などを説明する。事前抽選対象科目となっているため、履修希望者は履修登録前に必ず手続をして当選した場合に出席すること。（抽選を実施した場合、当選者のみ履修登録できる）。 |
| 2 | 猪瀬　貴道 | プレゼンテーション（1） | 最も基本的なプレゼンテーションである自己紹介をあらかじめ作成した資料に基づいて行う。 |
| 3 | 猪瀬　貴道 | プレゼンテーション（2） | 参加人数が多い場合に備えて自己紹介の予備日（またプレゼンテーションの基本的ポイントを解説する） |
| 4 | 猪瀬　貴道 | テーマ決定とレポート作成手順 | 履修者が、この科目でそれぞれ調べてまとめて発表する法制度の決定とレポート作成に必要な手順について確認する。 |
| 5 | 猪瀬　貴道 | 目標設定と時間管理 | 目標設定の重要性やスケジュール作成の際に必要な事項を学んだうえで、レポートのためのスケジュールを作成する。 |
| 6 | 猪瀬　貴道 | 情報収集 | （教科書第３章）情報収集の方法（大学の授業、教養図書館、インターネットなど）を確認した上で実践する。 |
| 7 | 猪瀬　貴道 | 情報整理と記録 | （教科書第５章）ノート、カードやパソコンなどを使った情報整理と情報管理の方法について学ぶ。 |
| 8 | 猪瀬　貴道 | 論理的説明 | （教科書第６章）論理的にものを考えて表現する方法について学んだうえで、文章表現の演習を行う。 |
| 9 | 猪瀬　貴道 | レポート作成の基本 | （教科書第８章）レポートにおける表現方法や形式について確認する。 |
| 10 | 猪瀬　貴道 | テキストの読み方 | （教科書第４章）文章を読んで正しく理解するための方法（クリティカル・リーディング）について学ぶ。 |
| 11 | 猪瀬　貴道 | クリティカル・レビュー（1） | 自分のテーマに関連する資料（図書館の「新書」または「ブックレット」を予定）を用いてクリティカル・レビューを作成する。 |
| 12 | 猪瀬　貴道 | クリティカル・レビュー（2） | 自分のテーマに関連する資料（図書館の「新書」または「ブックレット」を予定）を用いてクリティカル・レビューを作成する。 |
| 13 | 猪瀬　貴道 | クリティカル・レビュー（3） | 自分のテーマに関連する資料（図書館の「新書」または「ブックレット」を予定）を用いてクリティカル・レビューを作成する。 |
| 14 | 猪瀬　貴道 | プレゼンテーションの基礎 | （教科書第７章）プレゼンテーションの方法について学んだ上で、クリティカル・レビューに基づいたスライドを作成する。 |
| 15 | 猪瀬　貴道 | 前期のまとめ | 前期のまとめと個別の質問対応を行う。 |
| 16 | 猪瀬　貴道 | 後期ガイダンス | 後期の授業の進め方について説明する。 |
| 17 | 猪瀬　貴道 | クリティカル・レビューに基づくプレゼン（1） | 前期に取り組んだクリティカル・レビューのプレゼンテーションを行う。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 18 | 猪瀬　貴道 | クリティカル・レビューに基づくプレゼン（2） | 前期に取り組んだクリティカル・レビューのプレゼンテーションを行う。 |
| 19 | 猪瀬　貴道 | クリティカル・レビューに基づくプレゼン（3） | 前期に取り組んだクリティカル・レビューのプレゼンテーションを行う。また、教員から最終レポート作成について説明する。 |
| 20 | 猪瀬　貴道 | レポートにおける「問い」 | レポートにおける「問い」と「答え」について学び、最終レポートで取り組むテーマについて「問い」を考え、どのような「答え」がありうるか検討する。 |
| 21 | 猪瀬　貴道 | レポートにおける「骨格」 | レポートにおける「問い」に対する「答え」を導くための「骨格（レポートの構成）」について学び、最終レポートに向けて骨格を作成する。 |
| 22 | 猪瀬　貴道 | レポートにおける「引用」 | レポートにおける「答え」を根拠づける統計データや先行研究の探し方、引用の方法について学び、最終レポートに作成において実践する。 |
| 23 | 猪瀬　貴道 | レポートにおける「考察」 | 統計データや先行研究などの根拠に基づいてレポートにおける「答え」を導き出すための「考察」について学び、最終レポート作成において実践する。 |
| 24 | 猪瀬　貴道 | ピア・レビュー | この段階の最終レポートを他の履修者と交換して相互批評を行う。 |
| 25 | 猪瀬　貴道 | レポート発表準備 | 最終レポートに基づいた口頭発表のためのスライドを準備する。 |
| 26 | 猪瀬　貴道 | レポート発表（1） | 最終レポートに基づいた口頭発表を行う。 |
| 27 | 猪瀬　貴道 | レポート発表（2） | 最終レポートに基づいた口頭発表を行う。 |
| 28 | 猪瀬　貴道 | レポート発表（3） | 最終レポートに基づいた口頭発表、および、レポートの最終修正などを行う。 |
| 29 | 猪瀬　貴道 | 後期のまとめ | 後期のまとめとレポート講評など |
| 30 | 猪瀬　貴道 | 解説と確認 | 演習全体の振り返り（拡大オフィスアワー） |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 社会における法的問題について授業、参考文献（教養図書館の図書を含む）、インターネットなどから必要かつ有用な情報を収集して、内容を理解した上で整理できる。社会において実際に運用されている法制度の特徴や問題点について論理的で説得的なわかりやすい伝わる文章を根拠に基づいて書くことができる。指定された形式のレポート作成や発表技法を身につける。これらを大学生活での問題解決に活用できるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：その他<br>授業での活動（発言や質問など）（20 ～ 30%程度）、課題（［1］クリティカル・レビュー・レポートおよび［2］発表スライド、［3］クリティカル・レビューにもとづく口頭発表、［4］最終レポートおよび［5］発表スライド、［6］最終口頭発表）（70 ～ 80%程度）から総合的に評価する。授業内の演習での活動については、毎回の授業に単に出席するだけでなく準備をしっかりとしてきちんと参加することが前提となる。スライドや口頭発表、レポートなどの課題は、授業で学んだ内容をきちんと反映させたかたちで作成していることを基準として、内容の正確性、論拠の説得力、比較の巧みさなどにより評価する。表現の稚拙さ、余計な表現・表記や誤字・脱字などは減点する。ただし、成績評価の割合等は履修者数による授業計画の変更に応じて変更する場合がある。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 法や裁判について自分にはあまり関係ないと思っていませんか。皆さんがこれから専門的に学んでいく学問分野においてもさまざまな「法」が関わります。さらに日本でも「法化社会」の進展とともに普段の生活においても法や裁判が身近になってきています。また、調べた根拠に基づいて主張する、相手の主張に適切に反論するという法や裁判の方法は、大学での学びにも役に立ちます。コミュニケーションやグループワークに苦手意識がある人も、学問において求められるコミュニケーション能力（聴く、調べる、まとめる、考える、伝える）や将来必要になるであろう他の人と協力して何かをするという能力のトレーニングをしてみませんか。「教養演習」科目が選択科目となっている学部学科はもちろん、自由科目の学部学科の皆さんの参加も歓迎します。抽選対象科目なので履修した場合には、途中放棄せずに通年継続することが求められます。関連科目として「法律の役割 A・B」などがあります。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門』（第 3 版） | 佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦 | 慶應義塾大学出版会 | 1,100円 |
| **参考書** | 『はじめよう、ロジカル・ライティング』 | 名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科 | ひつじ書房 | 1,728円 |
| **参考書** | 『学生による学生のためのダメレポート脱出法』 | 慶應義塾大学教養研究センター（監修）／慶應義塾大学日吉キャンパス学習相談員（著） | 慶應義塾大学出版会 | 1,320円 |
| **参考書** | 『理科系の作文技術』 | 木下是雄 | 中央公論新社（中公新書） | 770円 |
| **参考書** | その他の参考書、参考資料は授業や LMS で紹介する。 | | | |

# 教養演習B（初等整数論入門）

Liberal Arts and Sciences Seminar B

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　火２／［自由］M学部　火２／［自由］ET学科　火２／［自由］PT専攻　火２／［自由］ST専攻　火２／［自由］OV専攻　火２／［自由］FR学部　火２

**科目責任者：** 酒井　祐貴子

**担当者：** 酒井　祐貴子

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME02／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 「自分で理解したこと、自分で考えていることを、人にわかりやすく伝える」というスキルはどのような専門に進む人にとっても、社会に出てからも、非常に重要である。この授業では、整数論の初歩的な教材を用いて数学の基本的な考え方や証明方法を理解し、論理的な思考力を身につけると同時に、「自分で理解したことを、自分の言葉で人にわかりやすく伝える能力」の向上を目指す。人前で話す能力には個人差があるので、それぞれのレベルに合わせて少しでも能力が向上することを目指す。 |
| **教育内容** | 既に親しみのあるピタゴラスの定理（三平方の定理）を再考することから始め、整数の最大公約数を求めるユークリッドの互除法、素数の無限性の証明、ペル方程式、フィボナッチ数、3 次方程式・4 次方程式の解法といった整数論の初歩的な内容をゼミ形式で学んでいく。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>事前に各学生に教科書の担当箇所を割り当て、個々の学生が自分の担当箇所を理解し、他の学生に向かって発表する（ゼミ形式）。適宜解説を加え、社会の中でどのように整数論が役立っているのかも紹介したい。<br>【フィードバックの方法】 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：発表者はもちろんのこと、その日の発表担当でない人も授業前準備としてテキストをしっかり読んでおく。わからない箇所があった場合はどこまで分かって、どこからわからないのかをはっきりとさせておく。発表者は教科書を持たずに発表ができるよう、該当箇所をよく読み、適宜情報収集をした上で、十分に時間をかけ万全の準備をして発表に臨むこと。<br>復習：その日の発表でわからない箇所があった場合は、発表者や教員に質問するなど、理解に努めること。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 酒井　祐貴子 | ガイダンス | 整数論とはどういうものか、セミナー発表による授業の進め方、教科書の選定 |
| 2 | 酒井　祐貴子 | ピタゴラスの定理とピタゴラス数 | ピタゴラスの定理の証明、ピタゴラスとプラトンによるピタゴラス数、「原論」に見られるピタゴラス数 |
| 3 | 酒井　祐貴子 | ユークリッドの互除法 | 素因数分解、最大公約数、ユークリッドの互助法 |
| 4 | 酒井　祐貴子 | 整数論の基本定理 | 整数論の基本定理、最小公倍数 |
| 5 | 酒井　祐貴子 | 素数の無限性・完全数 | エラトステネスの篩、素数の無限性の証明、完全数、メルセンヌ素数 |
| 6 | 酒井　祐貴子 | 平方根と無理数・平方根の分数近似 | 有理数、無理数、平方根、ヘロンによる平方根の分数近似、連分数による平方根の分数近似 |
| 7 | 酒井　祐貴子 | ペル方程式とディオファントス | ペル方程式、アルキメデスの家畜問題 |
| 8 | 酒井　祐貴子 | フィボナッチ数とその約数（1） | フィボナッチ数列、フィボナッチ数に関連する定理（1） |
| 9 | 酒井　祐貴子 | フィボナッチ数とその約数（2） | フィボナッチ数に関連する定理（2） |
| 10 | 酒井　祐貴子 | 黄金分割とフィボナッチ数・フィボナッチ数と連分数 | 黄金分割、黄金比とフィボナッチ数 |
| 11 | 酒井　祐貴子 | ルネッサンス時代の数学とフェルマー | 3 次方程式の解法、4 次方程式の解法、数学者フェルマー |
| 12 | 酒井　祐貴子 | 合同式 | 合同、同値関係、ライプニッツの公式 |
| 13 | 酒井　祐貴子 | メルセンヌ素数とフェルマーの小定理 | フェルマーの小定理、フェルマー数 |
| 14 | 酒井　祐貴子 | ウィルソンの定理 | ウィルソンの定理 |
| 15 | 酒井　祐貴子 | 解説と確認 | 全体の総括 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 自分の理解した事をまとめ、それを他人にわかりやすく説明することができるようになる。数学の基本的な考え方や証明方法の理解を通して論理的な思考力を身につける。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし　実施時期：なし<br>授業内での発表への取り組み・姿勢 (100%) で成績評価を行う。<br>（ゼミ形式の授業の特性上、授業への遅刻や欠席では大幅な減点を行う。） |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 教科書の内容をそのまま板書したり、教科書に沿って説明すれば人に伝わるか、というと決してそうではありません。前もってテキストをしっかり読み、どのような発表をすれば人にわかりやすく伝わるか、工夫をしながら発表の準備をしてください。他の人が発表する時も、必ずテキストを一読してからゼミに臨むこと。学生同士が自由に質問できるようなゼミができればいいと思っています。みんなで協力し合いながら学んでいきましょう。整数論には説明するだけでも多くの専門的知識を必要とする問題がある一方、一般の人でも問題の内容は理解できるが未解決な問題も数多く存在します。歴史的な背景も踏まえながら数学の美しさ、楽しさを少しでも感じ取ってもらいたいと思います。<br>注意事項<br>教科書は第 1 回目の授業を受講した後に用意してください。1 回目の授業を欠席した人の受講は原則として認めません。教科書は変更する可能性もあります。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 初回授業時にアナウンスします。 | | | |
| 参考書 | めくるめく数学。 | 嶽村智子、大山口菜津美、酒井祐貴子 | 明日香出版 | 1760 |

# 教養演習B（論理的思考のトレーニングⅠ）

Liberal Arts and Sciences Seminar B

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　水２／［自由］M学部　水２／［自由］ET学科　水２／［自由］PT専攻　水２／［自由］ST専攻　水２／［自由］OV専攻　水２／［自由］FR学部　水２

**科目責任者：** 大石　敏広

**担当者：** 大石　敏広

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME02／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 私たちの社会は科学（技術）と切っても切れない関係にあります。科学（技術）なしくて現代社会は成立せず、科学（技術）は社会的要素を組み込んで成立しています。また、現代はグローバル化の時代だと言われ、一国での出来事は同時に世界全体に影響を及ぼす可能性があります。このような複雑な状況のなかで、この社会には様々な深刻な問題が生じてきています。例えば、AI（Artificial Intelligence：人工知能）は、人類の生活様式を根本的に変える可能性があります。これらの問題を解決するためには、私たちは、思考力を鍛え、自律の精神を養わなければなりません。本演習では、論理的な思考能力を鍛えることによって自律的精神の涵養を目指します。 |
| **教育内容** | まず、個人個人のワークとして、平易な文章を少しずつ着実に理解しながら読み進めて、課題について考えてもらいます。次に、課題の解答について検討し、何か問題点・疑問点がないかどうかについて考察してもらいます。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>教科書は使用せず、パワーポイントの資料やプリントを配布します。平易な文章を取り上げ、特に論理に着目しながら読解をしていきます。そして、単に読解を進めていくだけではなく、できる限り読解力を高めていくために、文章について批判するという作業を行ってもらいます。<br>【フィードバックの方法】<br>問題について講義内で解答を提示し、それについて皆で議論をします。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：講義において紹介された文献の読解を進める。<br>復習：講義の内容を再度確認しておく。問題点・疑問点を書き出しておく。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 大石　敏広 | ガイダンス | 演習の目標・内容、教育方法、評価方法などを説明します。その他、受講上の注意点について説明します。 |
| 2 | 大石　敏広 | 入門 | 簡単な文章を読みながら、論理的思考とは何かを理解する。 |
| 3 | 大石　敏広 | 接続表現の役割 | 接続表現の働きを学び、その重要性を理解する。 |
| 4 | 大石　敏広 | 基本的な接続表現 | 問題を解きながら、基本的な接続表現の働きを理解する。 |
| 5 | 大石　敏広 | 付加・転換・補足 | 問題を解きながら、付加・転換・補足の表現の働きを理解する。 |
| 6 | 大石　敏広 | 接続表現の復習 | 問題を解きながら接続表現の復習をする。 |
| 7 | 大石　敏広 | 実践トレーニング | 少し長めの問題を解きながら、論理的思考のトレーニングをする。 |
| 8 | 大石　敏広 | 議論ユニット | 議論を構成するユニットについて理解する。 |
| 9 | 大石　敏広 | 実践トレーニング | 少し長めの文章を読解しながら、これまで学んだことの復習をする。 |
| 10 | 大石　敏広 | 論証の構造 | 問題を解きながら、論証のパターンについて学ぶ。 |
| 11 | 大石　敏広 | 実践トレーニング | 少し長めの文章を読解しながら、論証のパターンの復習をする。 |
| 12 | 大石　敏広 | 論証：演繹と推測 | 論証における演繹と推測の違いを理解し、使い分けができるようにする。 |
| 13 | 大石　敏広 | 総復習Ⅰ | 問題を解きながら、これまで学んだことの総復習をする。 |
| 14 | 大石　敏広 | 総復習Ⅱ | 少し長めの文章を使い、これまで学んだことの総復習をする。 |
| 15 | 大石　敏広 | まとめ | これまでの演習の総括を行い、問題点について皆で議論をする。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 文章読解の力を高めることができる。<br>自分の意見をまとめることができる。<br>自分の考えを提示し、自分の考えを発展させることができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>最終確認テスト（50%）、課題の取り組み（50%）によって成績評価します。なお、欠席は減点となります。<br>最終確認テストでは、講義で学んだことが身に付いているかどうかをテストします。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 後期開講の「教養演習C：論理的思考のトレーニングⅡ」も受講することが望ましい。両方の講義を受けることによって論理的思考がより鍛えられます。<br>積極的に演習に参加してくれる人を希望します。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 使用しません。演習において読んでいく文献は私がその都度用意します。 | | | 円 |
| **参考書** | 講義中に紹介します。 | | | 円 |

# 教養演習B（大学生のストレスとストレスマネジメント）

Liberal Arts and Sciences Seminar B

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　水２／［自由］M学部　水２／［自由］ET学科　水２／［自由］PT専攻　水２／［自由］ST専攻　水２／［自由］OV専攻　水２／［自由］FR学部　水２

**科目責任者：** 山田　裕子

**担当者：** 山田　裕子※

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME02／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 多くの人にとって、大学生の時期は子どもから大人への移行期とされる「青年期」にあたります。身体的・心理的・社会的な変化が大きく、様々なストレスを感じやすい時期です。ストレスに圧倒されると、集中力が低下したり、気持ちがイライラして疲れてしまったり等、うまくいかないように感じるかもしれません。一方、適度なストレスは人生を豊かにすると言われています。本授業の目的は、大学生活で直面しやすいストレスについて学び、ストレスと上手に付き合う方法を習得することです。同じ出来事でも、そのストレスから受ける影響は一人一人異なりますので、まず自分自身とストレスとの関係について理解を深め、ストレス対処の様々な方法について学ぶことを目指します。 |
| **教育内容** | はじめに、ストレスとは何か、ストレスの影響とはどういうものかについて、また、一般的に大学生活の中で出会いやすいストレスについて学びます。次に、自分にとって何がストレスになるのかを探り、自分が現在行っているストレスの対処法について振り返ります。最終的には、ストレスを減らす（適度にする）ための方法について、様々な観点から学びます。講義、ワークシート、体験を組み合わせて双方向的に行います。体験したこと、思ったことや感じたこと等を小グループで話し合ったり、全体でシェアリングしたりする等、学生同士でも互いに学びあうことを通して、個別性と共通の人間性についても理解を深めていきます。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】自己理解を深めるには、他者との関わりを通して自分を振り返る作業が重要ですので、原則、対面で授業を行います。パワーポイントを用いて講義を行い、その中で指示するワークに適宜取り組んで頂き、学習を進めます。安全に配慮しながら、参加者間（小グループもしくは全体）で思ったこと・感じたことのシェアリングを取り入れます。小レポート等で示された質問や重要な内容については、次の授業のはじめに匿名で全体にフィードバックし、参加者の理解を確認しながら進めます。授業の初回と最後の回にストレス等に関する質問票を実施し、ストレス対処に関する各自の成長について個別にフィードバックします。 |
| **準備学習（予習・復習）** | 【授業時間外に必要な学習の総時間数：15時間】※授業時間外学習には、試験レポートへの取り組み時間も含む。予習：前回の授業内容を見直し、次回の授業テーマについて自分と照らし合わせて考えてみること。復習：その授業で学んだこと、気づいたこと、考えたこと、感じたこと等を振り返り、小レポートにまとめて提出すること。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 山田　裕子 | オリエンテーション・ガイダンス | 授業の目的と全体の概要、主要テーマであるストレスについて、評価方法、授業の進め方、受講上の注意点等説明する。ストレス等に関する質問票1回目を行う。 |
| 2 | 山田　裕子 | ストレスとは何か？ | 今後の授業に向けてのウォーミングアップ。ストレスについて正しく理解し、どのように心や体に影響を及ぼすのかについて学習する。 |
| 3 | 山田　裕子 | 大学生が出会うストレス①　新しい生活への適応について | 大学生活の初期に影響を受けやすい「新しい生活や環境に適応していく際に生じるストレス」について主に学ぶ。 |
| 4 | 山田　裕子 | 大学生が出会うストレス②　学生生活における様々な場面について | 大学生活における学業と課外活動、アルバイト、趣味、また、それらのバランス等に関連するストレスについて学ぶ。 |
| 5 | 山田　裕子 | 大学生が出会うストレス③　対人関係について | 青年期の友人関係、親との関係、恋愛関係等の特徴と、対人関係にまつわるストレスについて学ぶ。 |
| 6 | 山田　裕子 | 自分にとってのストレス、ストレスとの関わり方について | 自分のストレスについて振り返り、ストレス対処の際に生じる葛藤の仕組みを理解する。ストレス対処における自身のリソースを探す。 |
| 7 | 山田　裕子 | ストレス対処法を身につける①：ライフスタイルと時間管理 | 睡眠や食事、運動などのライフスタイルとストレスとの関係について、自分自身の日常生活を振り返りながら学ぶ。 |
| 8 | 山田　裕子 | ストレス対処法を身につける②：問題解決技法 | 現実的な問題がある場合に有効なストレス対処法として、問題を見極めて、解決策となる方法を捻出し、行動計画を立てて実施する方法を学ぶ。 |
| 9 | 山田　裕子 | ストレス対処法を身につける③：思考のクセを見直す | 認知行動療法をベースに自分の考え方のクセを見直す。物事の捉え方でストレスを増幅させている場合の対処法を学ぶ。 |
| 10 | 山田　裕子 | ストレス対処法を身につける④：アサーション | 他者との交流におけるストレスを軽減させるために、コミュニケーションスタイルや適切な自己主張、聴き方、話し方について学ぶ。 |
| 11 | 山田　裕子 | ストレス対処法を身につける⑤：マインドフルネス　Part1 | マルチタスクによる脳疲労について理解し、マインドフルネス（今、ここの体験に意図的に注意を向け、評価や判断を加えずありのままを受け入れる力）を育む重要性について学ぶ。 |
| 12 | 山田　裕子 | ストレス対処法を身につける⑥：マインドフルネス　Part2 | マインドフルネスの基礎である、「今、ここ」に好奇心をもって注意を向けることを体験的に学ぶ。 |
| 13 | 山田　裕子 | ストレス対処法を身につける⑦：マインドフルネス　Part3 | 評価や判断を手放して、「今、ここ」の体験（シングルタスク）に注意を集中することを体験的に学ぶ。 |
| 14 | 山田　裕子 | ストレス対処法を身につける⑧：セルフ・コンパッション | ストレスや失敗、困難に直面した際、自分を責めるのではなく肯定的に受け入れ、精神的回復力を育むセルフ・コンパッションについて学ぶ。ストレス等に関する質問票2回目を行う。 |
| 15 | 山田　裕子 | 解説と確認 | 授業に関する質問や期末レポートについての解説等を個別に行う。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①全般的なストレスと大学生活で出会いやすいストレスについての知識を得る。②自分にとって何がストレスになるのか、どのように影響を受け、どのように対処しているのかについて、好奇心を持って探索できる。③自分にとっての新しいストレス対処法を1つ以上習得できる。④人の多様性や共通の人間性について理解し、自分の考えや意見を大切にしながら、自分とは異なる他者の価値や意見を認めることができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：レポート 実施時期：試験期間内<br>ワークシート等の課題の実行20%（取り組むべき課題に取り組んだ）、小レポート30%（講義内容をきちんと振り返り、小レポートを丁寧に記述し、自己探索に取り組んだ）、期末レポート50%（自分のストレスと対処法について本授業で得た自己理解に基づいた自己分析を示した）。以上の点を総合的に判断して評価します。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 「ストレスについて学びたい」「ストレスマネジメントに興味・関心がある」「自分を知り成長する機会にしたい」等、テーマに少しでも関心のある方を歓迎します。皆さんが好奇心をもって楽しみながら取り組めるよう心がけますが、多少なりとも自分が抱えるストレスと向き合うことになりますので、心配事がある方は事前にご相談ください。体調に留意して参加してください。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 臨床心理士／公認心理師として、心理学の知識や手法を取り入れながら、皆さんが自分のストレスとその付き合い方について探索し、成長していくお手伝いができればと思っています。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | 大学生のストレスマネジメント　自助の力と援助の力 | 齋藤憲司・石垣琢磨・高野明 | 有斐閣 | 2,200円（税込） |
| **参考書** | 知的生きかた文庫　疲れない脳をつくる生活習慣―働く人のためのマインドフルネス講座 | 石川善樹 | 三笠書房 | 715円（税込） |
| **参考書** | がんばりすぎるあなたへ　完璧主義を健全な習慣に変える方法 | ジェフ・シマンスキー | 阪急コミュニケーションズ | 1980円（税込） |
| **参考書** | 心のざわざわ・イライラを消す　がんばりすぎない休み方 | 荻野淳也 | 文響社 | 1210円（税込） |

# 教養演習B（大学数学に触れてみよう）

Liberal Arts and Sciences Seminar B

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　木２／［自由］M学部　木２／［自由］ET学科　木２／［自由］PT専攻　木２／［自由］ST専攻　木２／［自由］OV専攻　木２／［自由］FR学部　木２

**科目責任者：** 米山　泰祐

**担当者：** 米山　泰祐

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME02／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | バーゼル問題を中心に解析学における級数や複素関数論に関する高等数学を理解する。 |
| **教育内容** | 高等学校で学んだ数学Ⅲを基により発展した解析学を紹介する。<br>高等数学は証明や細かい議論が多いが、そこはできるだけ回避し、高等数学の面白さを中心に解説する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義形式で行うが、演習時間や討論時間を設ける。<br>【フィードバックの方法】<br>講義内で課題を出しそれを回収し、その内容を確認して簡単な解説を行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：次回予告ようのプリントや資料を読む。<br>復習：授業中の板書の行間を理解する。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 米山　泰祐 | 級数とは１ | 級数を定義し、級数の種類や性質について解説を行う。 |
| 2 | 米山　泰祐 | 級数とは２ | 級数の種類や性質について解説を行い、バーゼル問題を紹介する。 |
| 3 | 米山　泰祐 | 微分法の復習 | 解析学を行う上での基本となる微分法の復習やより高度な微分法を紹介する。 |
| 4 | 米山　泰祐 | 積分法の復習 | 解析学を行う上での基本となる積分法の復習やより高度な積分法を紹介する。 |
| 5 | 米山　泰祐 | 収束半径、テイラー展開 | テイラー展開、マクローリン展開、収束判定を定義する。 |
| 6 | 米山　泰祐 | テイラー展開 | マクローリン展開による諸問題を解説する。 |
| 7 | 米山　泰祐 | 前半まとめ | 前半のまとめを行う。 |
| 8 | 米山　泰祐 | フーリエ級数１ | フーリエ級数を定義し、簡単な問題を解く。 |
| 9 | 米山　泰祐 | フーリエ級数２ | フーリエ級数を用いたバーゼル問題の解法を紹介する。 |
| 10 | 米山　泰祐 | 多変数の微分法 | 複素関数に対する微分積分学を行うため、多変数の微分を簡単に紹介する。 |
| 11 | 米山　泰祐 | 多変数の積分法 | 複素関数に対する微分積分学を行うため、多変数の積分を簡単に紹介する。 |
| 12 | 米山　泰祐 | 位相とは | 高等数学における最初の難関の位相空間について説明する。 |
| 13 | 米山　泰祐 | 複素関数１ | 複素関数に対する微分・積分を定義する。 |
| 14 | 米山　泰祐 | 複素関数２ | 複素関数に対する微分積分学を用いて、バーゼル問題を解く。 |
| 15 | 米山　泰祐 | まとめ | 全体のまとめを行う。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | １．簡単な級数の値が求められる。<br>２．級数の収束の違いを理解する。<br>３．複素積分の計算ができるようになる。<br>４．留数定理を使えるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：レポート(50%)および授業中の課題(50%)で評価を行う。試験は実施しない。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 数学Ⅲより発展した高等数学の面白さを知りたい人はぜひ受講してください。<br>数学が得意でなくとも問題ありませんが、教科書レベルの数Ⅲの知識が必要です。<br>講義内容は上記の予定と若干ずれる場合もあります。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 指定しない | | | |

# 教養演習B（食べ物をつうじてみる世界史）

Liberal Arts and Sciences Seminar B

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　金２／［自由］M学部　金２／［自由］ET学科　金２／［自由］PT専攻　金２／［自由］ST専攻　金２／［自由］OV専攻　金２／［自由］FR学部　金２

**科目責任者：** 畠山　禎

**担当者：** 畠山　禎

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME02／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | われわれの身近にある食べ物の由来や歴史を振り返ることで、現在の世界がどのように形作られてきたのかを理解し、「食」に対する問題意識を高めていきます。また、調査・発表・ディスカッションの技法を習得します。 |
| **教育内容** | 砂糖の世界史に関する入門書を読み、砂糖の普及が世界各地にどのような影響を与えたのか、今日われわれが抱えている「食」をめぐる問題を解決するためにはどのような対策が必要なのかを考えていきます。ジャガイモなど、砂糖以外のモノについても調査します。〈キーワード：近代世界システム／食／砂糖／ジャガイモ〉 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>参加者が分担して教科書の各章のレジュメを作成して発表し、つづいて報告の内容について全員でディスカッションします。「食」の問題を扱ったドキュメンタリー教材を視聴し、内容についてディスカッションします。終盤では、各自が自由にテーマを設定して調査を行い、その結果を報告します。小論文やレポートの書き方についてポイントをわかりやすく説明します。<br>フィードバックの方法：ワークシートやレポートを採点して返却し、よかった点、工夫が必要な点についてコメントします。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 課題図書：川北稔『砂糖の世界史』。参考書を授業中に紹介します。<br>予習：教科書に目を通し、概要を把握して下さい。発表担当者は必ずレジュメ等の準備をして下さい。<br>復習：授業内容を振り返り、疑問点・不明点や意見などをまとめて下さい。授業で学んだことに留意しながら課題に取り組んで下さい。<br>予習・復習に必要な時間：15時間。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 畠山　禎 | ガイダンス | 授業の内容と進め方／参加者の自己紹介／話題提供（昆虫食） |
| 2 | 畠山　禎 | 「世界商品」とは | 『砂糖の世界史』（プロローグ　砂糖のふしぎ）についての発表・討論 |
| 3 | 畠山　禎 | ドキュメンタリー教材の視聴 | ドキュメンタリー教材の視聴（内容未定）／内容に関するディスカッション |
| 4 | 畠山　禎 | 砂糖きびがアメリカ大陸に渡るまで | 『砂糖の世界史』（第１章　ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか）についての発表・討論 |
| 5 | 畠山　禎 | カリブ海諸島の砂糖生産と「三角貿易」 | 『砂糖の世界史』（第２章　カリブ海と砂糖）についての発表・討論 |
| 6 | 畠山　禎 | ドキュメンタリー教材の視聴 | ドキュメンタリー教材の視聴（内容未定）／内容に関するディスカッション |
| 7 | 畠山　禎 | ヨーロッパにおける砂糖と茶の普及／コーヒーハウス | 『砂糖の世界史』（第３章　砂糖と茶の遭遇、第４章　コーヒーハウスが育んだ近代文化）についての発表・討論 |
| 8 | 畠山　禎 | なぜイギリスの家庭でお茶が飲まれるようになったのか／黒人奴隷 | 『砂糖の世界史』（第５章　茶・コーヒー・チョコレート、第６章　砂糖のあるところに、奴隷あり）についての発表・討論 |
| 9 | 畠山　禎 | ドキュメンタリー教材の視聴 | ドキュメンタリー教材の視聴（内容未定）／内容に関するディスカッション |
| 10 | 畠山　禎 | 都市労働者と「砂糖入り紅茶」／砂糖の関税引き下げと奴隷制度の廃止 | 『砂糖の世界史』（第７章　イギリス風の朝食と「お茶の休み」――労働者のお茶、第８章　奴隷と砂糖をめぐる政治）についての発表・討論 |
| 11 | 畠山　禎 | レポート課題（１） | レポート課題の中間発表会 |
| 12 | 畠山　禎 | ビートの栽培 | 『砂糖の世界史』（第９章　砂糖きびの旅の終わり――ビートの挑戦、エピローグ　モノをつうじてみる世界史――世界史をどう学ぶべきか）についての発表・討論 |
| 13 | 畠山　禎 | レポート課題（２） | レポート課題の発表会 |
| 14 | 畠山　禎 | レポート課題（３） | レポート課題の発表会 |
| 15 | 畠山　禎 | 総括 | 授業全体の振り返り、個別指導 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①身近なモノをつうじて、現在の世界がどのように形作られてきたのか、考えることができる。<br>②決められた時間内でわかりやすい内容の発表をすることができる。<br>③積極的に討論に参加することができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他　実施時期：<br>演習時の発表や提出物の内容、ディスカッションへの参加態度（55%）、最終レポートとそのレポートのテーマについての発表（45%）にもとづき、総合的に判断します。ただし、最終レポート未提出の場合は単位を修得できません。欠席回数に応じて減点します。<br>授業への積極的な参加を高く評価します。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | この演習では、モノをつうじて歴史の問題を考えていきます。とくに、「食」にかかわるさまざまな問題を取り上げます。演習はみなさんの主体的な参加なしには成り立ちません。どうぞよろしくお願いします。<br>オフィスアワーは火曜日の昼休み～午後２時半、金曜日の午後４時半～　です。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 砂糖の世界史 | 川北稔 | 岩波ジュニア新書 | 700円 |
| 参考書 | ジャガイモのきた道――文明・飢饉・戦争 | 山本紀夫 | 岩波新書 | 740円 |
| 参考書 | その他の参考書は教養図書館の「授業ナビ」コーナーにあります。 | | | 0円 |

# 教養演習C（共に学ぼう）

Liberal Arts and Sciences Seminar C

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　月２／［自由］M学部　月２／［自由］ET学科　月２／［自由］PT専攻　月２／［自由］ST専攻　月２／［自由］OV専攻　月２／［自由］FR学部　月２

**科目責任者：** 安倍　希美

**担当者：** 安倍　希美

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME03／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | これからの新しい社会はどのようなものなのでしょうか？多くの課題を解決して持続可能な社会を実現するためには、分野を超えた知の連携が求められます。この授業では、対面とLMS（学習支援ソフト）によるオンデマンド型オンラインを併用し、複数の方法で人と繋がり、時に他者に寄り添い心を通わせ助け合いながら、最善・最適と思われる方向性を深慮して課題を解決し、未来の希望への邂逅を共に学びます。 |
| **教育内容** | 以下を課題とし、対面とオンライン共に全体・グループで相談しながら、自分の役割を認識し共に学びます　①交流：手話を含め使用する身体部位の拡大と感情の変化・文字による自己表現と交流の深化を学ぶ　②食の文化と調理：食の文化的背景・屋外と災害時での食と調理、オンライン調理、について学ぶ　③相模原の水：時空を超えた波及的な繋がりと将来予測について学ぶ　④救命：心肺蘇生法と三角巾法、安全第一に究極的な命の優先順位に向き合いながら協力して命をつなぐ事を学ぶ、オンラインでは医学映像教育センター配信映像を利用する場合もあります。 |
| **教育方法** | 【この授業は対面とオンラインを併用して実施します】<br>①オンライン：歴史背景や技術等の基本事項の学習、授業の確認・意見交換・合意形成等　②対面：全体・グループ（6-8名程度を目安に適宜変更）での体験学習と意見交換・合意形成等　③連絡等：対面とLMSの両方にて実施<br>【フィードバックの方法】適宜の相談・意見交換やアンケート等、またそれらに対し必要に応じ教員が示す総括的な意見等、これらより他者を理解し自己を見つめ善悪の判断基準を形成する一助とします。<br>【Google Classloomクラスコード】後期授業開始までにWebシラバス、一般教育部授業情報サイトに掲載 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：授業1回に20分。日頃より身近に存在する人・ものに興味を抱き、全体が良い方向に向かうために必要な事、そのために自分が寄与できそうな事などをイメージする。<br>復習：同40分、振り返りのアンケート回答・文字での意見交換、オンライン調理の準備・役割遂行、調理過程の記録と報告などより、他者と自己の関係性を俯瞰的に捉え将来に繋がるイメージを形成する。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 安倍　希美 | ガイダンス～皆に出会う【オンライン】 | 履修者の確認、教員紹介、授業内容・方法、服装・シューズ、評価基準、諸注意、運動と感情、簡単な手話の紹介等 |
| 2 | 安倍　希美 | 交流1～身体と運動と感情　【対面】（体育館1Fロビーに10:50頃集合） | 手話～軽運動～バドミントン等と、使用する身体部位の拡大と感情の変化を体感しながら自己紹介、身体を動かし心を動かす |
| 3 | 安倍　希美 | 交流2～交流の深まり　【対面】 | 手話を増やし軽運動・フリスビー等にて交流を深める |
| 4 | 安倍　希美 | 季節と地域の食文化～一汁三菜・五節句からみる縁起　【オンライン】 | 日本の季節による食と文化、五節句等の年中行事と食、一汁三菜、郷土料理の意義、日常の食事の注意点、海外の食文化等 |
| 5 | 安倍　希美 | 交流3～調理に向けて　【対面】 | 運動等での交流後、調理テーマ・グループの意向調査 |
| 6 | 安倍　希美 | 調理1に向けて～和食：伝統料理・郷土料理・家庭料理等を目指す【対面】 | 運動後に１回目調理グループ決定、役割（リーダー・サブリーダー・テーマ・日時MG・オンラインMG・背景・ワード等）と実施への相談等、調理は各自宅で11月4-5週の週末を予定 |
| 7 | 安倍　希美 | 野外・非常時の食、相模原の水の歴史と文化～極限の健康とは　【オンライン】 | 野外での調理と食事、マナー、薪割り、災害時・非常時の調理と食事・注意点、キャンパス周辺の水に込められた先人の思い |
| 8 | 安倍　希美 | 調理2に向けて～クリスマス会・野外炊き出し等を目指す　【対面】 | 諸活動後に2回目調理グループを決め1回目同様の相談、調理は各自宅で12月1-2週末予定、食材費は1-2回共に千円以下程度 |
| 9 | 安倍　希美 | 生命の源～相模原の水に出会う【対面】 | キャンパス周辺の「さがみの仲よし小道」「水道道緑道」等から、相模原の水と将来予測について実地的に学ぶ |
| 10 | 安倍　希美 | 救命～命の優先順位に向き合いながら最善を尽くす　【オンライン】 | 心肺蘇生法：乳児・小児・成人・感染症対応、外傷：出血・捻挫・骨折への対応、三角巾法等、救命の歴史、命の優先順位 |
| 11 | 安倍　希美 | 救命実習～協力の輪と救命の輪を繋ぐ【対面】 | 心肺蘇生法：乳児・小児・成人・感染症対応と三角巾法、グループ内外で安全に協力の輪を回しながら救命の輪を繋ぐ |
| 12 | 安倍　希美 | 調理1&2の確認、救命予備　【対面】 | 調理1&2の役割・日時・方法・記録法等の確認、救命予備 |
| 13 | 安倍　希美 | 調理関連～総仕上げ　【オンライン】 | 調理1&2の報告書作成・提出・記載内容等の最終確認等 |
| 14 | 安倍　希美 | 総括～繋がりの広がりへの希望【対面】 | 調理報告会、授業全体の意見交換会、今後の広がりに向けて |
| 15 | 安倍　希美 | 個別指導　【対面】 | 調理レポート・まとめと今後について等の個別指導等 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1）対面・オンライン共に仲間と積極的に交流・協力して共に学び、他者理解と自己認識に努める<br>2）交流・救命・調理等の具体的事項の知識・手技の修得、歴史的背景の理解にも意欲的に取組める<br>3）本授業で得た知識と能力を応用し、地域・未来に向けて具現化しようと思える |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>1）様々な状況・方法で人と繋がり意見交換しながら、共に学ぶ意義を認識(30～40%)<br>2）交流・救命・食と水への理解、グループでのオンライン調理を成功させる協力的な言動(30～40%)<br>3）現在と将来の状況に応じて時に他者に寄り添い、未来への深慮と希望(20～40%) |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 様々な人とどうやって安全に繋がるの？人は何を考えている？自分って何？幸福って？将来は？等と思っている貴方、一緒に答えを探しませんか！対面授業の主な実施場所は体育館1Fと屋外等の臨機応変で、天候等による授業内容・計画の一部変更等を含め事前周知します。食材費は自己負担ですが工夫して節約しましょうね。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | いちばんやさしい料理の教科書 | 田中京子 | 成美堂出版 | 1,000円 |
| 参考書 | 調理の科学　-基礎から実践まで- | 吉田勉監修 | 学文社 | 2,600円 |
| 参考書 | 日本の食文化　「和食」の継承と食育 | 江原絢子　石川尚子編著 | アイ・ケイコーポレーション | 2,500円 |
| 参考書 | JRC蘇生ガイドライン2020 | 一般社団法人日本蘇生協議会 | 医学書院 | 5,500円 |
| 参考書 | 実践！ウエルビーング診断 | 前野隆司 | ビジネス社 | 1,870円 |

# 教養演習C（データサイエンスとAI）

Liberal Arts and Sciences Seminar C

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く），月２or土５／［自由］M学部　月２or土５／［自由］ET学科　月２or土５／［自由］PT専攻　月２or土５／［自由］ST専攻　月２or土５／［自由］OV専攻　月２or土５／［自由］FR学部　月２or土５

**科目責任者：** 高野　保真

**担当者：** 高野　保真※

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME03／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 現在注目されているデータサイエンスと人工知能（AI）とアルゴリズムについて学びます．本講義では，教養としてデータサイエンス/AI の技術的・社会的な意義を理解と，既存アルゴリズムを用いた論理的な思考力の養成を目的とします．また，授業内に出題される問題を自発的に解くことで，今後の生活で必要となる「考える力」を身に付けることを目指します． |
| **教育内容** | 各回は，オムニバス形式で，データサイエンスとAIに関連するトピックについて浅く広く紹介します．AI の理解のためにはアルゴリズムの基礎を知っていたほうがよいので，アルゴリズムの基礎についても解説します．扱うトピックは以下のとおりです．<br>・大量のデータを対象とするデータサイエンスがどのように社会で活用されているのか解説します．<br>・データを処理する方法について，基礎的な内容を概観します．<br>・アルゴリズムとは何かを解説します．<br>・AI についての基礎技術・関連技術・社会的な意義について解説します．<br>・今後の AI との付き合い方について，考える機会を提供します． |
| **教育方法** | 【この授業は全てオンラインで実施します】<br>・スライド資料/ビデオ教材によるオンデマンド形式で講義を行います．<br>【フィードバックの方法】<br>・各授業で，課題を出題し，提出結果に対して個別のメッセージという形でフィードバックを行います．<br>・全2回のレポートを予定しており，それぞれのレポート採点後に採点基準を発表し，全体向けの講評を行います．<br>【Google Classloomクラスコード】月２・土５共通：pjcjxyx |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習（総計7.5時間）：講義資料を事前にe-learningシステム上に公開するので，各回30分程度で授業の概要を把握しておいてください．<br>復習（総計7.5時間）：オムニバス形式で，トピックが各回で完結します．各回30分程度の復習が必要です．<br>課題作成（総計15時間）：全2回のレポートそれぞれについて，計画を立てて進める必要があります．レポートはそこまでの授業内容をふまえた小問から構成されます． |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 高野　保真 | オリエンテーション | この授業の紹介． |
| 2 | 高野　保真 | 社会におけるデータの活用 | この授業で扱うデータとは何かを解説する．<br>身近な生活にあるデータやその活用事例について調査し，AIに関連して社会で起きている変化について考える． |
| 3 | 高野　保真 | データサイエンスとは | 大量のデータを扱う方法について考える．データを正しく見るために，相関関係と因果関係の違いについて学ぶ． |
| 4 | 高野　保真 | データ処理入門（1） | Excel/R/JMPなどのツールを用いてデータを処理する方法について学ぶ． |
| 5 | 高野　保真 | データ処理入門（2） | プログラミング言語Pythonを用いた基本的なプログラムの書き方を学ぶ． |
| 6 | 高野　保真 | データ処理入門（3） | プログラミング言語Pythonを用いてデータを処理する方法について学ぶ． |
| 7 | 高野　保真 | レポート作成（1） | ここまで学んだ内容を元に，レポート課題に答える． |
| 8 | 高野　保真 | アルゴリズムとは | アルゴリズムとは何かを解説する．アルゴリズムを考える上で必要な構成要素について解説する． |
| 9 | 高野　保真 | 探索問題<br>ゲームのアルゴリズム | データの中から目的のものを探すアルゴリズムについて考える．<br>ゲームのコンピュータプレーヤーに相当するゲームのアルゴリズムを考える． |
| 10 | 高野　保真 | AIとは | AIの基礎技術について解説する．<br>AIの限界となりうる「知識」とは何か，という問題について考える． |
| 11 | 高野　保真 | 機械学習 | AI を支える技術である機械学習について概観する． |
| 12 | 高野　保真 | 遺伝的アルゴリズム<br>文書類似度 | AI に関連した実践的なアルゴリズムについて理解する． |
| 13 | 高野　保真 | AIとヘルスケア | 現在，AIの活用が進められているヘルスケアの分野について事例を調査する． |
| 14 | 高野　保真 | まとめ・レポート作成（2） | 全体のまとめ． |
| 15 | 高野　保真 | 解説 | 講義全体の内容に対して，個別の質問に対応する． |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ・データを正しく読み，扱えるようになる．<br>・人工知能の関連技術・社会的意義について考え，自分なりの意見が持てるようになる． |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>授業回ごとの課題 (40%), レポート (60%，計2回で各30%)の配分で評価する予定です．それぞれの課題は，論理的な説明ができているかを元に採点します．他人の課題のコピーについては厳しく対処します．<br>未提出の課題についても厳しく対処し，追加の課題などで単位を認定することはありません．<br>オンデマンド形式の授業とはいえ，課題がかなり出ますので自発的に学習を進められる学生を対象とします． |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | データサイエンス/AI に関しては，今後さらに重要となってくると考えられますので，専門としない人でも教養として知っておくべき内容が数多くあります．本講義では，初心者でも分かるように解説しますので，個人が今後 AI とどう付き合っていくか考えるきっかけにできたらよいと思っています． |
| **実務経験の授業への活用方法** | ベンチャー企業でマネージャー/プログラマとして働いていました．その経験を活かして，実社会でも使われるようなツールを使って実践的な内容を紹介できる内容にしたいと思っています． |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | 教養としてのデータサイエンス (データサイエンス入門シリーズ) | 内田誠一 (著) ほか | 講談社 | 1,980円 |
| **参考書** | データ分析の力 因果関係に迫る思考法 | 伊藤公一朗 | 光文社新書 | 780円 |
| **参考書** | FACTFULNESS(ファクトフルネス) 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣 | ハンス・ロスリング (著) ほか | 日経BP | 1,980円 |

# 教養演習C（音楽分析入門／歌とコード）

Liberal Arts and Sciences Seminar C

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　火２／［自由］M学部　火２／［自由］ET学科　火２／［自由］PT専攻　火２／［自由］ST専攻　火２／［自由］OV専攻　火２／［自由］FR学部　火２

**科目責任者：** 安川　智子

**担当者：** 安川　智子

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME03／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | クラシックの世界における「和声法」と、ジャズ・ポピュラーで用いられる「コード」。これらは全く別物ではなく、基本の考え方は共通しています。<br>この演習授業では、音楽経験者にはギター音楽やポピュラー音楽でも有用なコード理論を、クラシックの基礎と比較しつつ学び、自らの選んだ楽曲について調べ、分析したり、演奏することで深く理解できるようになることを目指します。また経験者でない人も、古今東西に存在する「歌」をテーマに、問題提起から資料調査、文献講読、分析、議論、発表、レポート作成といった音楽学の基礎的な方法と技術を学びます。 |
| **教育内容** | 授業に実践的に参加する演習形式です。歌の伴奏としての「コード」（和声法）についての基礎知識や分析法を学び、実際の音楽を使って理解します。参加者は各自で一つのテーマを設定し、段階を追って音楽を用いたプレゼンテーションができるようにしていきます。ギターやピアノ経験者は、個人またはグループで、好きな楽曲の演奏やコード分析に挑戦してみましょう。またコードや和声はちょっと難しいという人は、クラシック、ポピュラー、民族音楽、民謡、などジャンルを限定せず、それぞれがもっとも好きな「歌」をテーマに発表し、議論し合うことで、歌と伴奏という音楽のもっとも普遍的なあり方について理解を深めます。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>演習形式。各人が調べ、発表し、議論をします。演奏のできる人は、演奏や歌を交えて、そうでなければＣＤ等音源を利用した音楽付きのプレゼンテーションを行います。各人の発表に対して、講師及び受講生がお互いにフィードバックをしあい、全体としてよりよいプレゼンテーションを作っていきます。<br>【フィードバックの方法】各学生の発表に対して、他の受講生が感想や改善点をコメント用紙に記入し、発表者本人に手渡します。講師は随時口頭でコメントを伝えます。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：発表担当者は事前の準備を入念に行う。担当者以外も、予想されるテーマについて、考え、議論の準備をしておく。<br>復習：発表担当者は先生や学生から得られた意見やアドバイスをじっくり吟味し、反省をして次回に生かす。また担当者以外も、良い点と改善点についてよく考え、自分の回に生かす。<br>1コマあたり最低1時間の授業時間外学習が期待される。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 安川　智子 | ガイダンス | 参加者の自己紹介や、授業の進め方、次回の授業のための課題について説明します。 |
| 2 | 安川　智子 | 情報収集の方法（楽譜と音源、文献） | 参加者それぞれの好きな「うた」について、楽譜や文献、音源などを持ち寄り、情報交換します。音楽にかかわる文献収集の実践が目的です。また参加者の音楽知識や経験値に合わせて、音楽理論の基礎、楽譜の読み方などについて解説します。 |
| 3 | 安川　智子 | 音楽の研究法（導入）　King Gnu「ねっこ」を例に | 音楽を研究する・分析するとはどういうことかを、身近なJ-POPを素材にみんなで考えてみます。また参考書を用いて、コード理論の基本的な仕組みを学びます。 |
| 4 | 安川　智子 | プレゼンテーションの準備と方法について | 引き続き文献を収集・講読しつつ、各自が発表したい歌のジャンルとテーマを決定します。プレゼンテーションの準備と方法について、講義します。 |
| 5 | 安川　智子 | 発表と討論（１） | 担当学生による発表と討論。 |
| 6 | 安川　智子 | 発表と討論（２） | 担当学生による発表と討論。 |
| 7 | 安川　智子 | 発表と討論（３） | 担当学生による発表と討論。 |
| 8 | 安川　智子 | 発表と討論（４） | 担当学生による発表と討論。 |
| 9 | 安川　智子 | 発表と討論（５） | 担当学生による発表と討論。 |
| 10 | 安川　智子 | 発表と討論（６） | 担当学生による発表と討論。 |
| 11 | 安川　智子 | 発表と討論（７） | 担当学生による発表と討論。 |
| 12 | 安川　智子 | プレゼンテーション方法について（振り返り） | これまでの発表を踏まえて、プレゼンテーションの方法や組み立て方について、改善していきます。また理解の及ばなかったコード理論について洗い出しを行います。 |
| 13 | 安川　智子 | 音楽についての文章表現について（レポート作成法） | 各自の発表内容をもとに、文章化の方法を学びます。 |
| 14 | 安川　智子 | 歌のジャンルやコード分析についてのまとめと復習 | レポートやプレゼンテーションをもとに、内容と方法について、まとめと復習、フィードバックを行います。 |
| 15 | 安川　智子 | まとめ | 前期の授業全体の総括を行います。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 音楽を用いて、問題提起、資料調査、文献講読、音楽の分析、議論、発表といった一通りの音楽学の方法を身につけることができる。世界各国の様々な歌について知識を深める。コード、和声の基本的な知識を身につける。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>発表内容や提出物（70%）、議論への参加状況（30%）などをもとに総合的に判断する。発表日に無断で欠席した場合は単位を付与しない。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 音楽を楽しみながら、社会人としても役立つ学問的スキルや、一生の趣味になる知識を身につけていきましょう。授業計画は、履修メンバーに応じて柔軟に変更します。うたの好きな方、ギターやピアノの弾ける方歓迎します。<br>講義科目の「芸術の楽しみA（安川）」「芸術の楽しみB（安川）」を合わせて受講すると、音楽史の基礎知識から、実践的なプレゼンテーションまでを体系的に修得することができます（必須ではありません）。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | コード理論大全 | 清水響 | リットーミュージック | 3,024円 |
| 参考書 | ハーモニー探究の歴史―思想としての和声理論 | 西田紘子・安川智子編著 | 音楽之友社 | 2,700円 |
| 参考書 | 憂愁と官能を教えた学校（上・下） | 菊池成孔・大谷能生 | 河出書房新社 | 1,026円 |
| 参考書 | 改訂新版　音楽の文章術　論文・レポートの執筆から文献表記法まで | リチャード・J・ウィンジェル | 春秋社 | 3,080円 |
| 参考書 | 大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法（改訂第二版） | 松本茂・河野哲也 | 玉川大学出版部 | 1,500円 |

# 教養演習C（ライフスタイルの選択）

Liberal Arts and Sciences Seminar C

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　火５／［自由］M学部　火５／［自由］ET学科　火５／［自由］PT専攻　火５／［自由］ST専攻　火５／［自由］OV専攻　火５／［自由］FR学部　火５

**科目責任者：** 赤澤　とし子

**担当者：** 赤澤　とし子

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME03／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 少子高齢化・人口減少社会、世界経済の変動、AI、IoT時代の到来など、私たちを取り巻く社会構造の変化や科学技術革新、変わりゆく社会経済情勢は、私たちの暮らしのさまざまな側面に影響を及ぼす。本演習では、私たちを取り巻く社会経済環境の変化を理解するとともに、「人生100年時代」と言われる今日、自らの20年後30年後40年後、・・・の未来を想像しながら、人生におけるイベントや直面し得るさまざまな問題について考えていく。自分ならその問題にどう対処するだろうか、自ら考え自分なりの対応策を見出すことを目標とする。また、人前で自分の考え・意見を論理的にはっきりと述べられるようになることを目指す。 |
| **教育内容** | 各回のテーマについての議論に入る前に、まず、その準備・予備知識として、少子高齢化・人口減少社会、近年の社会経済情勢を概観する。続く各回では、ライフイベント、直面し得る問題のいくつかを取り上げ、受講生間での議論を通して、その問題の背景を読み解きながら、自分自身の選択行動、多面的な視点からの解決策を探っていく。また、人前で話す機会をなるべく作るため、1分間あるいは3分間スピーチの時間を取る。 |
| **教育方法** | この演習は「対面」で行う。<br>はじめに、各回で取り上げるテーマに関する基本的情報を教員が提供する（データ・資料に基づき解説する）。適宜、教材としてビデオも活用する。設定されたテーマについて、受講生の間で議論する。各回の議論を通して得られた知見、自らの意見等をまとめ、演習時間内やGoogle Classroom上に提出する。そして最後に、各人が特に興味を持ったテーマをひとつ選び、新たな情報を入手したり、再吟味し、より掘り下げた形での最終レポートを提出する。Google Classroomを利用するので、受講生は必ず登録すること。クラスコードの提示等詳細は初回のオリエンテーション時に説明する。<br>【フィードバックの方法】<br>提出された意見や課題に対しては、主要な意見や特徴的な興味深い見解の紹介、誤解のある点にコメントするなど演習時間内に講評を行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【予習】その回で取り上げるテーマについて下調べをしておくこと。<br>【復習】新たに得られた知見や自分の考え・意見をまとめておくこと。<br>【予習・復習のほか、最終レポートの作成に向けた資料収集や執筆の時間を含め授業時間以外に必要な学習の総時間は15時間】 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 赤澤　とし子 | オリエンテーション | 演習の目的や内容、進め方、受講上の注意等について説明する。<br>学生の自己紹介をする。 |
| 2 | 赤澤　とし子 | 自分の将来予想 | 2040年、2050年、2060年、2070年の自分（どんな仕事をしているか、結婚しているか？子どもはいるか？どんな生き方をしたいかなど）を想像し、2040年、50年、60年、70年という時代に生きる自分を語る。 |
| 3 | 赤澤　とし子 | 議論のための準備：<br>社会経済情勢① | 少子高齢化・人口減社会（人口の規模・構造の過去・現在・未来）<br>少子高齢化・人口減少が社会経済に与える影響 |
| 4 | 赤澤　とし子 | 議論のための準備：<br>社会経済情勢② | 日本経済の状況、格差社会、ネット社会など社会の諸相について |
| 5 | 赤澤　とし子 | 社会人とは | 「大人とは？」、「社会人とは？」、「18歳成人」など、社会人として生きるということについて、各種意識調査の結果なども参考にしながら議論する。 |
| 6 | 赤澤　とし子 | 働くということ・働き方 | 働くとは？働くことの意味を考える。雇用形態の多様化・雇用の流動化、働き方改革をキーワードに、「働き方」について議論する。 |
| 7 | 赤澤　とし子 | 結婚と家族 | 晩婚化・非婚化（未婚率，生涯未婚率の上昇）、所得水準と結婚、結婚観や家族観、選択的夫婦別姓などをキーワードに、「結婚と家族」について議論する。 |
| 8 | 赤澤　とし子 | 出産・子育て | 夫婦出生力の低下、ワーク・ライフ・バランス、男性の育児参加、養育費・教育費、子育て支援策などをキーワードに、「出産・子育て」について議論する。 |
| 9 | 赤澤　とし子 | 家族の介護 | 遠距離介護、シングル介護・男の介護、介護離職、介護者の支援などをキーワードに、「家族の介護」についてを議論する。 |
| 10 | 赤澤　とし子 | 高齢期の医療と介護 | 医療と介護の連携、医療保険制度・介護保険制度、在宅医療・介護、認知症などをキーワードに、「医療と介護サービス」について議論する。 |
| 11 | 赤澤　とし子 | 高齢期の住まい方 | 高齢単独世帯の増加、高齢者向けの住宅などをキーワードに、「老後、どこで誰と暮らすか（生活基盤としての住まい）」について議論する。 |
| 12 | 赤澤　とし子 | 高齢期の社会生活 | 生涯現役社会、社会参加、居場所づくり、高齢者の貧困、社会からの孤立などをキーワードに、「高齢者の就労、生きがい、地域づくり」について議論する。 |
| 13 | 赤澤　とし子 | 人生最期の選択 | 病院死・在宅死、在宅での看取り、ターミナルケア、リビング・ウィル、ACP（Advance Care Planning）などをキーワードに、「最期をどこで、どのように迎えるか、そのとき家族は・・・」について議論する。 |
| 14 | 赤澤　とし子 | 最終レポートについて | 各人が最終レポートのテーマについて、その概略を発表し、その後質疑応答。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 15 | 赤澤　とし子 | 演習全体を振り返って | 全体を通しての質疑応答など。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 取り上げたテーマの現状や問題点を説明できる。<br>取り上げたテーマについて、自分の考え・意見を論理的に述べることができるようになる。<br>積極的に議論に参加できるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：<br>受講態度・議論への参加度、テーマごとのリアクション・ペーパー、課題など平常点（55%）、最終レポート（45%）により総合的に評価する。最終レポート未提出の場合は単位を修得できない。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 「人前で話すのがどうも苦手で・・・」という人、まずは、人前で話すことに「慣れ」ましょう。「場数を踏む」という表現があるように、この演習の時間（機会）を大いに活用して、恥ずかしがらず、躊躇せず、どんどん話してみてください。<br>受講にあたってのより詳細な注意事項等は初回のガイダンスの際にお伝えします。<br>なお、演習内容・演習計画については、進捗状況などによって、多少変更する場合もあり得ますこと、ご了承ください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 教科書は使用せず、適宜資料を配付する。 | | | 円 |
| **参考書** | 参考書は適宜紹介する。 | | | 円 |

# 教養演習C（音から楽譜へ--音の記録術）

Liberal Arts and Sciences Seminar C

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　火５／［自由］M学部　火５／［自由］ET学科　火５／［自由］PT専攻　火５／［自由］ST専攻　火５／［自由］OV専攻　火５／［自由］FR学部　火５

**科目責任者：** 田中　伸明

**担当者：** 田中　伸明

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME03／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 音、あるいは音楽は、世界各地でさまざまな方法で記録されてきました。今日私たちが「楽譜」という言葉でイメージするものは、西洋で誕生した記録法の一つに過ぎません。これまで音・音楽は、どのように記録されてきたのでしょうか。そして、どのような過程を経て、私たちに理解可能な「楽譜」になるのでしょうか。<br>この演習授業は、大きく３つの部分に分かれます。最初の５回では、世界各地のさまざまな記譜法について調査・発表し、世界の文化的多様性について知識と理解を深めます。次の５回では、西洋の記譜法に注目し、現代の記譜法が確立されるまでの歴史的な紆余曲折を、実際に音楽をいろいろ聞きながら追体験していきます。いわゆる「クラシック」と一括りにされる音楽でも、時代・地域ごとに大きな差があることがわかるでしょう。最後の５回では、図書館に眠っているような歴史的史料を実際に楽譜にしていくまでの過程を紹介し、人文学が蓄積してきた知的営みの一端を覗いてもらいたいと思います。 |
| **教育内容** | ①世界の文化的多様性を、記譜法・楽譜を軸として伝える。<br>②特に西洋の記譜法について、現在のものが確立されるまでの歴史・経緯を、音楽的な具体例とともに伝える。<br>③指定された題材に対するレジュメ作成と口頭報告の実践をさせる。 |
| **教育方法** | この授業は「対面」で行う。受講学生に質問を投げかけ、積極的に発言を促していく。Google Classroomを通じた口頭報告用レジュメ提出（計３回）。<br><br>【フィードバックの方法】<br>口頭報告に対する授業内でのコメント。その他オフィスアワーを通じた学習サポート（提出課題の準備や期末レポート作成のためのアドヴァイス）。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：次回授業内容の確認<br>復習：取り扱われた内容の確認・復習<br>その他：口頭報告のためのレジュメの準備と提出 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 田中　伸明 | オリエンテーション | 参加者との懇談・自己紹介; 授業内容の説明<br>「世界のさまざまな楽譜①-④」担当者の決定 |
| 2 | 田中　伸明 | 世界のさまざまな楽譜①（アジア・アフリカ地域） | アジア・アフリカ地域の記譜法に関する口頭報告・教員による補足 |
| 3 | 田中　伸明 | 世界のさまざまな楽譜②（アジア・アフリカ地域） | アジア・アフリカ地域の記譜法に関する口頭報告・教員による補足 |
| 4 | 田中　伸明 | 世界のさまざまな楽譜③（ヨーロッパ・アメリカ地域） | ヨーロッパ・アメリカ地域の記譜法に関する口頭報告・教員による補足 |
| 5 | 田中　伸明 | 世界のさまざまな楽譜④（ヨーロッパ・アメリカ地域） | ヨーロッパ・アメリカ地域の記譜法に関する口頭報告・教員による補足 |
| 6 | 田中　伸明 | 西洋における記譜法・概説 | ネウマ譜から五線譜まで--発展の概要<br>「西洋における記譜法①-④」担当者の決定 |
| 7 | 田中　伸明 | 西洋における記譜法① | 古ネウマ・四角譜の時代・口頭報告と教員による補足 |
| 8 | 田中　伸明 | 西洋における記譜法② | 計量記譜の時代(1)・口頭報告と教員による補足 |
| 9 | 田中　伸明 | 西洋における記譜法③ | 計量記譜の時代(2)・口頭報告と教員による補足 |
| 10 | 田中　伸明 | 西洋における記譜法④ | 17世紀の記譜と現代の比較・口頭報告と教員による補足・「楽譜の校訂①-④」担当者の決定 |
| 11 | 田中　伸明 | 楽譜の校訂① | 文献学とは何か・口頭報告と教員による補足 |
| 12 | 田中　伸明 | 楽譜の校訂② | 「原典」とは？「正しい」楽譜とは？口頭報告と教員による補足 |
| 13 | 田中　伸明 | 楽譜の校訂③ | 史料が語ること・語らないこと(1)・口頭報告と教員による補足 |
| 14 | 田中　伸明 | 楽譜の校訂④ | 史料が語ること・語らないこと(2) ・口頭報告と教員による補足 |
| 15 | 田中　伸明 | まとめ | 学習内容の振り返り |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 記譜法というツールを通じ、世界にさまざまな（音楽）文化が存在していることを知る。今日の「楽譜」が誕生するまでには長い歴史の蓄積があり、それぞれの時代の音楽を記録し表現するのに最も適した形を探って進化を続けてきたことを知る。現在の一般的感覚では読めない楽譜について、現代の楽譜に変換・再現する方法が存在していることを知ることで、人文学がこれまで重ねてきた学問的蓄積を理解する。 |
| **成績評価の方法と基準** | ・口頭発表のためのレジュメ提出と発表（25%×3）<br>・期末レポート 25%（3000字程度・内容については担当教員と個別に面談の上で決定する）<br>*全体の2/3以上に出席が認められない限り、単位認定を行わない。授業滞在時間が75分に満たなかった者は遅刻・早退の扱いとし、これを３回重ねた場合１回欠席したものとみなす。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 授業では、楽譜を中心的な題材として扱うことになります。楽譜が正確に読めなくても問題はありませんが（楽譜がスムーズに読めることを前提とした授業はしません）、音楽や世界史に興味のない学生は履修に向かないでしょう。また、授業はあえて「西洋かぶれ」なやり方で実施します。授業中の講師側からの問いかけに対し、みなさんの積極的な発言を求めていく、ということです。欧米圏の大学では、発言をせず黙っているだけでは授業に参加しているとは見做されません。今後みなさんが欧米圏へ留学・研究滞在する機会の準備になってほしいという思いで、講師もドイツ滞在中に参加し大きく成長できた、「本場のゼミナール」をこの授業を通じて体験してほしいと思います。ただし、発言が苦手だから、大勢の前での質問は恥ずかしいと思ってしまうから、といった理由で履修を見送ることはしないでください。発言や質問は強制しませんし、講師側からアシストして発言してもらうなど、様々な工夫をおこなって皆さんの授業参加を促していきます。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 教科書は使用せず、適宜資料を配付する。 | | | 円 |
| 参考書 | 楽譜の校訂術<br>―音楽における本文批判：その歴史・方法・実践 | ジェイムズ・グリーア（著）<br>高久 桂（訳） | 道和書院 | 4,180円 |

# 教養演習C（多角的な視点による持続可能な未来への道標）

Liberal Arts and Sciences Seminar C

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　水１／［自由］M学部　水１／［自由］ET学科　水１／［自由］PT専攻　水１／［自由］ST専攻　水１／［自由］OV専攻　水１／［自由］FR学部　水１

**科目責任者：** 北川　淳

**担当者：** 伊藤　真吾／山本　洋／大極　光太／坂田　剛／畠山　禎／北川　淳／J.A.ガダード／渡辺　一雄／髙橋　勇

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME03／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | これからの世の中においては、自分の専門分野に留まらず、分野横断的に学び、様々な角度から問題点を発見・考察し、そして自らその問題を解決できる能力を備えた人材が求められる。このような能力を養う一助として、多様な教員が所属する一般教育部の利点を活かし、SDGsを題材に様々な専門分野の教員の視点によるオムニバス形式の講義を行うことで多角的な視点を養うとともに、自分の専門分野がSDGsの目標とどう関わっているのか、また自分がSDGsとどう関わることができるかを考える。 |
| **教育内容** | 初回の授業ではSDGsの全体的な概略について学習する。第2回から第14回の授業では、専門分野の異なる教員8名が、それぞれの研究分野の視点からSDGsを題材として多様な内容で講義を実施する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義形式で行う。適宜、演習の時間を設け、自分の意見をまとめたり、学生同士の意見交換を行ったりする場合がある。<br>【フィードバックの方法】小テスト、レポート等については添削したものを１～２週間を目途に返却する。リアクションペーパーへの質問等については、次回授業時やGoogle Classroom を通して回答する。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：下記に挙げた参考書等、SDGsに関連した文献を精読し、SDGsに関する知識を広げる。<br>復習：講義を受けて考えたことや重要だと感じたことについて、自分なりの意見をまとめる。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 伊藤　真吾 | ガイダンス、SDGsについて | ガイダンス及びSDGsについての概略を学ぶ。 |
| 2 | 大極　光太 | 水とSDGs1（水の基本知識とSDGsに関する問題）（化学単位） | 水の性質・水の循環・資源としての水など、水に関する基礎知識を学ぶ。さらに水に関する様々な問題や課題について学ぶ。 |
| 3 | 大極　光太 | 水とSDGs2（水問題への取り組みについて）（化学単位） | 水問題に関連する具体的な取り組み事例、特に浄化の化学と技術について学ぶ。また、我々個人ができる取り組みにはどのようなものがあるか、各自考えたものを提出する。 |
| 4 | 畠山　禎 | ジェンダー平等を実現しよう（その１）（人文社会科学単位） | ジェンダーとは何か。ジェンダーの視点から現在の日本社会について考える。 |
| 5 | 畠山　禎 | ジェンダー平等を実現しよう（その２）（人文社会科学単位） | 現在の男女の関係性はどのようにして形成されたのか。ジェンダーの歴史について学ぶ。 |
| 6 | 山本　洋 | 地球温暖化について（物理学単位） | 温暖化の現状について学び、熱収支としての温暖化の理解に必要な熱の法則について理解する。さらに、太陽放射エネルギーと赤外での地球放射についてや温暖化ガスの影響・海の影響、またその対策について学ぶ。 |
| 7 | J.A.ガダード | Critical Analysis of SDGs I（英語単位） | Video viewing as a class (topic introduction), Short Discussion, Reading and Quiz.<br>Homework: Choose and analyze the positives and negatives of an SDG example. |
| 8 | J.A.ガダード | Critical Analysis of SDGs II（英語単位） | Student Presentations in English. Students present research projects in small groups of 4-6 students. (60 mins)<br>Short written feedback. Describe how your thinking may have changed about SDGs. (30 mins) |
| 9 | 坂田　剛 | 大気と生物（生物学単位） | 地球大気について学び、地球大気に生物が与えてきた影響を理解する。また、生物の進化と大気の関りや、現在の大気環境への生物の適応について学ぶ。 |
| 10 | 坂田　剛 | 気候変動と人間活動（生物学単位） | 気候変動と人間活動について考える。気候変動の進行は予測できるか。気候変動の原因は人間の活動とみなせるのか。地球の歴史からみた気候変動について考える。 |
| 11 | 北川　淳 | 50年後，寝たきりにならないために（基礎編）（健康科学単位） | 全ての人に健康と福祉を提供できる方法について考える。運動器（骨と筋肉）の老化が進行すると，骨粗鬆症やサルコペニアなどが発症する。これら疾患の概要について学ぶ。 |
| 12 | 北川　淳 | 50年後，寝たきりにならないために（応用編）（健康科学単位） | 引き続き，運動器疾患の予防等について理解するとともに，自身の筋力や身体組成（体脂肪量，筋肉量）などを測定し，現状を知る。 |
| 13 | 渡辺　一雄 | 微分方程式の解の性質（数学単位） | 人口増加, 化学反応などを数理モデルとして、微分方程式を立てる方法を考える。実際に、その解が初等関数で表せるものに関して、何を意味しているか考察する。 |
| 14 | 髙橋　勇 | 復習・まとめ（情報科学単位） | 自分自身がSDGsの17の目標のうちのどの目標とどうかかわっているか、意見を交換して考えをまとめる。 |
| 15 | 北川　淳 | 総括 | 授業全体の振り返り/個別指導 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①SDGsについて理解する。<br>②いま現在の自分よりも多角的な視点で、SDGsについて考えることができる。<br>③SDGsについて自分がどう関わることができるかを説明できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 第2回から第13回までの7名の各担当教員が課すレポート（各14.3%）の合計で評価する（100%を超えた端数は切り捨てる）。なお、 担当教員によってはレポートの代わりに<br>小テストまたはプレゼンテーションを実施する場合がある。 詳細は授業時に伝達する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 一般教育部には、多様な研究背景を持つ教員が所属しています。担当教員それぞれの専門知識を活かすことでみなさんの知的好奇心を刺激し、単一の領域に留まることなく様々な分野に触れ、広い視野で物事を見る機会を提供したいと考えています。ぜひ受講してみてください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | なし | | | |
| 参考書 | 60分でわかる！SDGs超入門 | バウンド | 技術評論社 | 1,188円 |
| 参考書 | SDGs（持続可能な開発目標） | 蟹江憲史 | 中央公論新社 | 1,012円 |
| 参考書 | その他、講義内で適宜紹介する。 | | | |

# 教養演習C（自分を知り人間関係を考える）

Liberal Arts and Sciences Seminar C

**科 目 概 要 ：** 2025年度　後期／1単位

**授 業 対 象 ：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　水２／［自由］M学部　水２／［自由］ET学科　水２／［自由］PT専攻　水２／［自由］ST専攻　水２／［自由］OV専攻　水２／［自由］FR学部　水２

**科目責任者 ：** 石塚　昌保

**担　当　者 ：** 石塚　昌保※

**備　　考 ：** 科目ナンバリング：L102-ME03／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 人間関係を考える上で、自分が自分自身や他者をどのように捉える傾向があるのか、自分がどのようなコミュニケーションをとる傾向があるのか、自分が人と関係を作っていく際にどのような『癖』を持っているのかを知ることはとても重要です。本演習では、そのような自分の『癖』について、心理学の視点から学び体験する中で、自己理解や他者理解を深めることを目的としています。自分自身を知ることを通して、自分の長所および短所を肯定的に捉え直す機会とし、人間関係を再考するきっかけにしてもらいたいと思います。 |
| **教育内容** | はじめに、各回の講義テーマに沿って、心理学の視点ではどのように理解されているのかといった基礎知識を学びます。その後、そのテーマに沿った演習（ペアもしくはグループワーク）を行い、その演習に対しての振り返りを行うことが、毎回の講義の流れです。テーマとしては、感情をどのように理解するか、性格とは何か、自分の印象は相手にどのように形成されるのか、ストレスを軽減する方法は何かなど、様々なテーマを設定しております。 |
| **教育方法** | 全ての講義を【対面】で実施します。毎回の講義テーマに沿った資料を配布して、パワーポイントを使い講義形式でそのテーマに関する基礎知識を学びます。そして、毎回の講義で、その回のテーマに応じた演習（ペアまたはグループワーク）を行います。演習が終わったら、講義形式で行った基礎知識と結び付け、振り返り（個人振り返りもしくはグループディスカッション）を行い、毎回、小レポートを講義終了直後に提出して頂きます。<br>【フィードバックの方法】<br>小レポートは、GoogleClassroomに提出していただき、次回の講義までに講義担当者が毎回コメントを記載し返却します。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習（0.5時間）：参考書の次回講義に関連する箇所を熟読すること。すでに配布している資料に目を通し、前回の講義内容を見直すこと。<br>復習（0.5時間）：配布した資料に目を通し、講義内容を振り返ること。小レポートに記載された講義担当者からのコメントを熟読し、自己理解を深めること。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 石塚　昌保 | オリエンテーション | 講義の概要や講義を通しての目標、評価方法について説明します。<br>また、毎講義の進め方やGoogleClassroomの使い方などについて説明を行います。 |
| 2 | 石塚　昌保 | 自分の捉え方を知る | 自分自身が自分のことをどのように捉えているのかを考えます。 |
| 3 | 石塚　昌保 | 自分の感情を知る | 自分の中にどのような感情があるのかを考えます。 |
| 4 | 石塚　昌保 | 自分の感じ方を知る | 物事の捉え方や感じ方は、人それぞれで異なります。心理テストを体験する演習を通して、自分自身の捉え方や感じ方の癖について考えます。 |
| 5 | 石塚　昌保 | 自分への評価を知る | 自己肯定感や自尊感情などの視点から、自分への評価について考えます |
| 6 | 石塚　昌保 | 自分の思考を知る | こころの中で考えていることを文字にする演習を行います。<br>その演習から、自分の思考の癖について考えます。 |
| 7 | 石塚　昌保 | 自分の身体を知る | 実際に自分の身体を動かす演習や臨床動作法の考え方を通して、普段は無意識に動かしていることが多い自分の身体への理解を深めます。その演習から、自分の身体の癖について考えます。 |
| 8 | 石塚　昌保 | 他者との距離感を考える | 他者との距離感や関係性の視点から、自分の対人関係について考えます。 |
| 9 | 石塚　昌保 | 人に与える印象を考える | 普段自分が他者にどのような印象を与えているのかについて考えます。 |
| 10 | 石塚　昌保 | 社会的スキル | 社会的スキルの視点から、自分のコミュニケーションについて考えます。 |
| 11 | 石塚　昌保 | コーピング（ストレス対処） | ストレスコーピングの視点から、自分のストレス対処法について考えます。 |
| 12 | 石塚　昌保 | コミュニケーション（交流分析） | 交流分析の考え方を学び、人間関係の中で起きるコミュニケーション上の齟齬について考えます。 |
| 13 | 石塚　昌保 | 集団とリーダーシップⅠ | 集団力動やリーダーシップ論、マイノリティについて考えます。 |
| 14 | 石塚　昌保 | 集団とリーダーシップⅡ | 全体グループディスカッションの演習の中で、自分の課題に取り組みます。 |
| 15 | 石塚　昌保 | まとめ | 自己理解や他者理解がどのように深まったのか、講義全体のまとめを行います。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 自分の考え方や感じ方、コミュニケーション上の癖についての自己理解および他者理解を深め、自分自身の課題を見いだせるようになること。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：レポート 実施時期：試験期間内<br>成績評価の割合は、小レポート50%・期末レポート50%とします。<br>小レポートは、毎回の講義の中で気づいた自己理解や他者理解に関する考察がどの程度述べられているかを評価基準とします。期末レポートは、講義を通じて気付いた自分自身のコミュニケーション上の課題を取り上げ、その課題に対する理解と具体的な対応策がどの程度述べられているかを評価基準とします。<br>なお、欠席および遅刻は減点対象とします。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 講義に関する積極的な質問や意見を歓迎します。<br>自分自身の嫌いなところ、認めたくないところも含めて、自分や他者を知り、人付き合いが少しでも楽になるような参加型の講義にしていきたいと思います。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 大学の学生相談機関および精神科医療機関でのカウンセリングやグループワーク等の臨床経験から学んだことを、毎回の講義の演習内に組み込み、日常的に活用可能な心理学として解説を行います。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | ワークショップ心理学 | 藤本忠明 | ナカニシヤ出版 | 2,160円 |
| **参考書** | リラクセーション-緊張を自分で弛める法 | 成瀬悟策 | 講談社 | 977円 |
| **参考書** | 臨床動作法への招待 | 鶴光代 | 金剛出版 | 3,200円 |

# 教養演習C（自らの読書を問い直す）

Liberal Arts and Sciences Seminar C

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　水２／［自由］M学部　水２／［自由］ET学科　水２／［自由］PT専攻　水２／［自由］ST専攻　水２／［自由］OV専攻　水２／［自由］FR学部　水２

**科目責任者：** 猪原　敬介

**担当者：** 猪原　敬介

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME03／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 大学入学後も読書習慣を維持し，自らの読書経験を他者に伝え，他者の読書経験を知ることで，改めて自らの読書を問い直す機会とする。 |
| **教育内容** | 互いの読書経験を発表し合うことで，自分の本の選び方にある偏りに気づき，本の読み方にも様々な観点があることを知る。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>自らが選んだ本の魅力や，どのように自分にとって有益であったかを，お互いに発表し合うプレゼンテーション中心の授業である。少人数授業なので，人数や進捗に応じて各回の授業内容は調整する。<br>【フィードバックの方法】<br>行われたプレゼンテーションに対して，より良くするための改善案を，担当教員から，そして受講者間のコメントという形でフィードバックを行う。フィードバックは，発表の直後に授業内で行われる。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：読書課題に取り組む。<br>復習：自らのプレゼンテーションへの指摘や質問について回答する。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 猪原　敬介 | オリエンテーション | 授業の目的と進め方／受講上の注意点／受講生の自己紹介 |
| 2 | 猪原　敬介 | テキスト読書会１ | 同一のテキストを使う「テキスト読書会」の準備を行う。短く読みやすいテキストを教員が用意する。 |
| 3 | 猪原　敬介 | テキスト読書会２ | テキスト読書会を行う。自他の発表により，同一のテキストについて，多様な観点があることを知る。 |
| 4 | 猪原　敬介 | 自由読書会１：予告 | 受講生自身が本を選ぶ「自由読書会」を行う（ただし，ジャンルやテーマを教員が限定することはある）。概要を説明する。 |
| 5 | 猪原　敬介 | 自由読書会２：発表本の決定１ | 図書館へ出向き，発表する本を探す。 |
| 6 | 猪原　敬介 | 自由読書会３：発表本の決定２ | 引き続き，発表する本を探す。 |
| 7 | 猪原　敬介 | 自由読書会４：資料作成 | 発表のための本を読み，発表資料を作る時間を設ける。 |
| 8 | 猪原　敬介 | 自由読書会５：中間発表１ | 中間発表を行う。 |
| 9 | 猪原　敬介 | 自由読書会６：中間発表２ | 中間発表を行う。 |
| 10 | 猪原　敬介 | 自由読書会７：評価基準 | ルーブリックに基づく評価について説明し，中間発表を元に独自のルーブリックを作成する。 |
| 11 | 猪原　敬介 | 自由読書会８：予告 | 期末発表について予告し，発表本を決めてもらう。 |
| 12 | 猪原　敬介 | 自由読書会９：資料作成 | 発表のための本を読み，発表資料を作る時間を設ける。 |
| 13 | 猪原　敬介 | 自由読書会10：期末発表１ | 期末発表を行う。 |
| 14 | 猪原　敬介 | 自由読書会11：期末発表２ | 期末発表を行う。 |
| 15 | 猪原　敬介 | 総括 | これまでの授業の振り返りを行う。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 自らの読書について見なおし，今後の読書活動の指針を立てることができる。また，聞き手にとって分かりやすく，興味の持てるプレゼンテーションができるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>毎回の課題提出(70%)，中間・期末での発表(30%) により総合評価する。発表の評価は，授業中に明示された評価基準に基づいて評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 何事もそうですが，インプットとアウトプットには相互作用があります。アウトプットである発表（プレゼンテーション）を意識することで，インプットである読書の意識も劇的に変わります。これを繰り返すことで，文章を理解する力そのものも一段上のレベルに上がります。読書する力を自分の強みにしたい人，自分が読書をするきっかけが欲しい人，本について人と話してみたい人に履修してもらいたいと思います。<br>なお，下記の本は「参考書」であり，購入の必要はありません。図書館に入れてもらっていますので，興味のある人は読んでみてください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | 読書効果の科学：読書の“穏やかな"力を活かす3原則 | 猪原敬介 | 京都大学学術出版会 | 3300円 |

# 教養演習C（論理的思考のトレーニングⅡ）

Liberal Arts and Sciences Seminar C

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　水２／［自由］M学部　水２／［自由］ET学科　水２／［自由］PT専攻　水２／［自由］ST専攻　水２／［自由］OV専攻　水２／［自由］FR学部　水２

**科目責任者：** 大石　敏広

**担当者：** 大石　敏広

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME03／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 私たちの社会は科学（技術）と切っても切れない関係にあります。科学（技術）なしくて現代社会は成立せず、科学（技術）は社会的要素を組み込んで成立しています。また、現代はグローバル化の時代だと言われ、一国での出来事は同時に世界全体に影響を及ぼす可能性があります。このような複雑な状況のなかで、この社会には様々な深刻な問題が生じてきています。例えば、AI（Artificial Intelligence：人工知能）は、人類の生活様式を根本的に変える可能性があります。これらの問題を解決するためには、私たちは、思考能力を鍛え、自律の精神を養わなければなりません。本演習では、論理的な思考能力を鍛えることによって自律の精神の涵養を目指します。 |
| **教育内容** | 文章を少しずつ着実に理解しながら読み進めて、論理的思考とは何かを理解してもらいます。また、その都度、問題点・疑問点について考えて、それらを基に議論することによって、論理的思考を実践してもらい、論理的思考能力の向上を図ります。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>教科書は使用せず、パワーポイントを使用します。必要に応じてプリントを配布します。平易な文章を取り上げ、特に論理に着目しながら読解をしていきます。問題点・疑問点などを明確にし、それに基づいて皆で議論をしていきます。<br>【フィードバックの方法】<br>問題の解答を講義内で示し、それについて皆で議論をする。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：講義において紹介された文献の読解を進める。<br>復習：講義の内容を再度確認しておく。問題点・疑問点を書き出しておく。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 大石　敏広 | ガイダンス | 演習の目標・内容、教育方法、評価方法などを説明します。自己紹介もします。 |
| 2 | 大石　敏広 | 逆・裏・対偶 | 問題を解きながら、逆・裏・対偶の論理的関係を理解する。 |
| 3 | 大石　敏広 | 「のみ」と「だけ」の働き | 「のみ」・「だけ」が文章の中でどのような働きをするかについて理解する。 |
| 4 | 大石　敏広 | 演繹 | 少し難しい問題を解きながら、演繹について確認をする。 |
| 5 | 大石　敏広 | 論証の隠れた前提 | 論証では、前提が明記されないことがある。問題を解きながら、隠された前提を明らかにする。 |
| 6 | 大石　敏広 | 推測の構造 | 問題を解きながら、推測がどのような構造になっているのかを理解する。 |
| 7 | 大石　敏広 | 代替仮説 | 推測によって仮説が形成される。形成された仮説とは別の仮説の可能性について考える。 |
| 8 | 大石　敏広 | 推測と因果関係 | 推測には因果関係が関わってくることがある。問題を解きながら、推測における因果関係の役割について理解する。 |
| 9 | 大石　敏広 | 復習 | これまで学んだことについて総復習をする。 |
| 10 | 大石　敏広 | 論証の批判 | 批判の重要要素である「質問」を理解する。 |
| 11 | 大石　敏広 | 立論・異論・批判 | 問題を解きながら、立論・異論・批判の違いを理解する。 |
| 12 | 大石　敏広 | 批判の練習 | 少し長めの文章を読解しながら、批判の練習をする。 |
| 13 | 大石　敏広 | 実践トレーニング | 隠れた前提と批判について復習をする。 |
| 14 | 大石　敏広 | 総復習 | これまで学んだことの総復習をする。 |
| 15 | 大石　敏広 | まとめ | これまでの演習の総括を行い、問題点について議論する。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 文章読解の力を高めることができる。<br>自分の意見をまとめることができる。<br>自分の考えを提示し、他者との討論を通じて、自分の考えを発展させることができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>最終確認テスト（50%）、課題の取り組み（50%）によって成績評価します。なお、欠席は減点となります。<br>最終確認テストでは、講義で学んだことが身に付いているかどうかをテストします。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | この講義だけでも論理的思考のトレーニングになりますが、前期開講の「教養演習Ｂ：論理的思考のトレーニングⅠ」を受講しておいたほうがより理解が深まり、論理的思考がより鍛えられます。<br>積極的に演習に参加してくれる人を希望します。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 教科書は使用しません。演習において読んでいく文献は私がその都度用意します。 | | | 円 |
| **参考書** | 講義中に紹介します。 | | | 円 |

# 教養演習C（代数学の考え方）

Liberal Arts and Sciences Seminar C

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　水２／［自由］M学部　水２／［自由］ET学科　水２／［自由］PT専攻　水２／［自由］ST専攻　水２／［自由］OV専攻　水２／［自由］FR学部　水２

**科目責任者：** 宮﨑　直

**担当者：** 宮﨑　直

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME03／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 対称性を記述するために生まれた「群」という数学的概念について学ぶ。対称性とは「ある変換をしても変化しない」という性質のことであり、対称性を持つ図形や事柄は興味深い性質を持つことが多い。この授業では、具体例を通して群論の初歩とその応用について学び、代数学的な物事の考え方を身に付けることを目標とする。 |
| **教育内容** | 典型的な有限群の例である対称群と2 面体群の場合に限定して、群論の基本事項を学ぶ。また、その応用として、思い通りのあみだくじの描き方、平面図形の対称性の分類、代数方程式の解の公式などを学ぶ。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>授業の前半に板書による説明を行い、後半にそれに関する問題演習を行う。毎回、教科書代わりのプリントを配布するため、教科書を買う必要はない。また、授業時間内に問題演習が終わらなかった場合は宿題となる。<br>【フィードバックの方法】問題演習の答案は添削して返却する。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【講義時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：授業前に配布されたプリントやノートを見返して、前の授業で学んだ事を理解しておくこと。<br>復習：問題演習で間違えた部分は直して、その問題を必ず自分で解けるようにしておくこと。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 宮﨑　直 | ガイダンス | 授業の内容と進め方を説明する。また、集合の定義と記号を紹介する。 |
| 2 | 宮﨑　直 | 置換とあみだくじ | 置換という概念を定義し、置換とあみだくじの関係を説明する。 |
| 3 | 宮﨑　直 | 思い通りのあみだくじの描き方 | 置換を隣接互換の積に分解する方法を紹介し、それを用いて思い通りの並び替えをするあみだくじを描く。 |
| 4 | 宮﨑　直 | 2 変数の対称式 | 2 変数の対称式の定義と基本定理を紹介する。 |
| 5 | 宮﨑　直 | 3 変数の対称式 | 3 変数の対称式の定義と基本定理を紹介する。 |
| 6 | 宮﨑　直 | 群の定義 | 群という概念を定義し、その例として対称群と 2 面体群を紹介する。 |
| 7 | 宮﨑　直 | 部分群 | 部分群の定義と性質を紹介する。 |
| 8 | 宮﨑　直 | ハッセ図 | ハッセ図の描き方を説明する。また、4 次二面体群のハッセ図を描き、四角形の対称性を分類する。 |
| 9 | 宮﨑　直 | 複素数 | 複素数と複素平面の定義と複素数の極形式表示について説明する。 |
| 10 | 宮﨑　直 | 複素数の累乗根 | 極形式表示を用いて、複素数の累乗根について考察する。 |
| 11 | 宮﨑　直 | 解と係数の関係 | 一般の次数の代数方程式について、解と係数の関係を説明する。 |
| 12 | 宮﨑　直 | 対称群の作用と不変式 | 対称群の作用と不変式について説明する。 |
| 13 | 宮﨑　直 | 3 次方程式の解の公式 | 3 次方程式の解の公式を構成する。さらに、正規部分群の定義を説明する。 |
| 14 | 宮﨑　直 | 4 次方程式の解の公式 | 4 次方程式の解の公式を構成し、5 次方程式の解の公式がない理由を説明する。 |
| 15 | 宮﨑　直 | 個別指導 | 個別に授業内容の確認や指導を行う。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1．群論を用いて、対称性がどのように記述されるかを理解できる。<br>2．読み手を意識して、問題の解答を書くことができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>筆記試験は行わず、授業内で行う演習とレポート（80%）、授業態度（20%）で総合的に評価する。なお、欠席は減点する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 何かのデザインをしたり、パズルを解いたりするときに、私達は対称性を意識しています。対称性を理論的に扱うことのできる群論的な物の考え方は、様々な分野で役立つものだと思います。興味のある方は是非聴講して下さい。この授業は高校で数学 II・B を履修していることを前提として行います。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | 【完全版】天才ガロアの発想力 | 小島　寛之 | 技術評論社 | 1,958円 |

# 大学基礎演習（大学生としての学び方）

Academic Skills Seminar

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，N学部，ET学科，OT専攻，OV専攻，FR学部を除く），火２／［自由］M学部　火２／［自由］N学部　火２／［自由］ET学科　火２／［自由］OV専攻　火２／［自由］FR学部　火２

**科目責任者：** 安川　智子

**担当者：** 安川　智子

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME04／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | ①大学で積極的に学ぶために必要な技法（アカデミック・スキル）を実践的に身につける。<br>②情報にあふれる現代において、必要な情報を集め、整理し、他者の意見を的確に理解した上で、自身の意見を構築し、伝わる文章を書くための基礎を学ぶ。<br>③自身の弱点を補強し、長所をさらに伸ばして後期および2年次に備える。 |
| **教育内容** | 教科書および講師が配布・指定する文献や参考書をもとに、情報の整理の仕方、よい文章の見分け方、要点のまとめ方、目的に応じた文章の組み立て方などについて講義を行い、それを踏まえて、毎時間課題を実践します。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義と演習。課題の実践、発表、ディスカッションを組み合わせて進行します。毎時間、授業内で互いにチェック、または講師に提出してもらい、次の時間にそれらをもとに、フィードバックを行い、ディスカッションを経て改善していきます。<br>授業において躓いたこと、さらに深めたいことなど、聞き取りを行いながら、適宜グループを分け、人数に応じて個別指導も行います。<br>【フィードバックの方法】最終発表では、発表者に対する感想、改善点などを、受講生自らコメント用紙に記入し、発表者本人に手渡します。各課題に対して、講師はGoogle Classroom上や口頭でのコメント、あるいは提出物への赤字コメントを返却することでフィードバックします。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：事前に教科書の該当箇所に目を通し、前の授業で課された課題に取り組む。<br>復習：授業で学んだこと、及び課題へのフィードバックを確認し、納得するまで課題に取り組む。<br>1コマあたり最低1時間の授業時間外学習が期待される。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 安川　智子 | オリエンテーション | 参加者の自己紹介や、授業の進め方、次回の授業のための課題などについて説明します。 |
| 2 | 安川　智子 | メディア・リテラシーについて | メディア・リテラシーとは何か。溢れかえる情報とのつきあい方。インターネットやSNSとの適切な付き合い方、活用法。心を病まないために気をつけること。 |
| 3 | 安川　智子 | 目標の設定とスケジューリング/ノート・テイキング | 1日、1週間、1年間、4年間を有意義に過ごすための計画の重要性と、計画遂行のために必要な技術の確認。<br>講義（または講演、口頭発表）を聞きながら理解するためのコツ。自分に合ったノートの選択とノートの取り方。教科書第1、２章。 |
| 4 | 安川　智子 | テキストを読む（１） | テキストの種類に応じた読み方を身につける。時間と目的に応じた読書法。教科書第3章（リーディングの基本スキル）。 |
| 5 | 安川　智子 | 情報収集の方法 | 図書館における情報収集（希望者）。インターネットを利用した情報収集。教科書第5章、第6章。 |
| 6 | 安川　智子 | 情報整理の方法 | 文献リストの作成。エクセルやカードを用いた情報整理。様々なツールの開拓。教科書第7章。 |
| 7 | 安川　智子 | テキストを読む（２） | 要約を作成する。読んで得た知見を自分の中に吸収するための読書法。自分の意見と照らし合わせながら読む。より複雑な文章の読解。教科書第4章（より深いリーディングのために） |
| 8 | 安川　智子 | レポート作成法 | レポートの基本的な作法。構想から執筆まで。英語と日本語の違い、日本語の特殊性。教科書第8章。 |
| 9 | 安川　智子 | レポート実践（１） | 実際に小レポートを書いてみる。自分自身の長所を見つける。パソコンによる基本的なライティング・スキルを身につける。教科書第9章、第10章。 |
| 10 | 安川　智子 | プレゼンテーションの基礎 | 作成中のレポートについて口頭で紹介する。プレゼンテーションの基本的なスキルを学ぶ。レジュメ（ハンドアウト）の作成法。時間配分と準備の重要性。教科書第11章、第12章。 |
| 11 | 安川　智子 | プレゼンテーションの実践 | ハンドアウトやパワーポイントを用いて、作成中のレポートについて中間発表を行う。互いに講評し合い、フィードバックをレポートにいかす。 |
| 12 | 安川　智子 | レポート実践（２） | 中間発表で得たアドバイスを反映させたレポート（第1稿）を互いに講評し合い、改善していく。推敲を重ね、提出する。（講師のチェックを受けて、期日までに最終版を提出する。） |
| 13 | 安川　智子 | 最終発表会 | レポート課題についての最終的なプレゼンテーション。 |
| 14 | 安川　智子 | 最終発表会２ | レポート課題についての最終的なプレゼンテーション。 |
| 15 | 安川　智子 | まとめとフィードバック | 授業のまとめと、レポートに対するフィードバックを行う。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①講義、文献、インターネットなどから適切に情報を収集し、整理したうえで内容を理解し、要点をまとめることができる。<br>②新聞・雑誌、論文、一般書、ブログなど、活字メディアの特徴と違いを理解し、それらに応じた読み方ができるようになる。<br>③他者の意見と自分の意見を区別し、目的や指示に応じて適切な文章を書くことができる。<br>④締め切りや字数など、規定に沿って目標と計画を立て、無理なく遂行することができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>毎回の授業における活動と提出された課題（60%）、発表や議論の内容（40%）に基づき、総合的に評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 大学での学びは、社会に出るための準備でもあります。社会には様々な立場の人がいて、誤解やトラブルを防ぐためにも、適切に言葉を理解し、自分から発信することのできるスキルが必要です。履修者に応じて、基礎的なスキルが身についたと判断した場合は、より複雑な文章や文学的・詩的な表現にも対応できるよう進めていきます。理系や実験に特化したスキルを学びたい人には適しません。配布文献や参考資料は履修者に応じて適宜決定します。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 知へのステップ―大学生からのスタディ・スキルズ（第5版） | 学習技術研究会編著 | くろしお出版 | 1,800円 |
| **教科書** | レポート作成のためのガイドライン（大学から配布） | 北里大学一般教育部／高等教育開発センター | 北里大学高等教育開発センター | 0円 |
| **参考書** | アカデミック・スキルズ（第3版） | 佐藤望編 | 慶應義塾大学出版会 | 1,100円 |
| **参考書** | その他参考書は適宜紹介する。 | | | |

# 大学基礎演習（学術的な文章読解･作成術を身につける）

Academic Skills Seminar

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，N学部，ET学科，OT専攻，OV専攻，FR学部を除く），火５／［自由］M学部　火５／［自由］N学部　火５／［自由］ET学科　火５／［自由］OV専攻　火５／［自由］FR学部　火５

**科目責任者：** 田中　伸明

**担当者：** 田中　伸明

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME04／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | この授業では、アカデミック・ライティング（学術的文章作法）の基礎を、西洋の歴史・文化に関する題材への取り組みを通じ身につけることを目指します。今後の大学生活・社会生活の中で、みなさんはさまざまな種類の文章を書くことを求められます。自分の意見や考えは関係なく、事実の報告のみを淡々と求められる場合もあれば、自身の見解や意見を中心とした文章を求められる場合もあるでしょう。ところが、事実の報告「だけ」といっても、どこまでが客観的事実でどこからがそうでないか、を区別するというのは存外難しく、また、自分の判断や感想を説得力や客観性を伴って相手に伝える、ということも決して簡単ではありません。この授業ではまず、学術的に書かれた文献への豊富な事例検討を通じ、「事実」と言える事柄と著者（あるいは引用者）の「見解」と言える事柄の区別をする訓練を行っていきます。あわせて、ある定められたテーマに対して、事実の報告のみを行う文章、また他者の意見を参考にしながら自身の見解を述べる文章を作成する練習を行うことで、学術的文章作法の基礎確立を図ります。その集大成として2,000字前後の「エッセイ*」を書き提出することが、この授業の最終目標です。<br>授業中に読み、また書いてもらう題材は、基本的に西洋の歴史・文化を扱ったものから採ることとします。文章読解・作成技術の向上と同時に、西洋の重要な歴史的・文化的事象に関する知識を増やし、みなさんの「教養」を今後深めていくための材料を提供することも、この授業のもう一つの目的です。また、読む題材としては時折、英語の文献も混ぜていきます。大学以降の学習では、学術界における標準言語である英語を避けて通ることはできません。翻訳がない場合など、日本語で事足りない場合は、英語であっても臆すことなく読むモチヴェーションを持つ必要があります。授業を通じ、大学で学ぶ際の基礎姿勢も身につけてもらえればと思います。<br>* エッセイ Essayとは、学術的に書かれた意見文・小論のことで、アメリカやイギリスの高校・大学におけるレポートの一般的な形式として知られています。この形式は、現在自然科学系の諸分野で用いられる論文フォーマットの基礎となっているため、「エッセイ」の文章形式に慣れることは、今後みなさんが本格的に論文を執筆する際大きく役立つものとなるでしょう。なお、Essayの邦語「随想」が意味する文学形式とは大きく異なります。 |
| **教育内容** | ①「事実」と「見解」を適切に区別して文章を読む能力を身につけさせるため、各回予習として文献の事前リーディングを指示する。教科的に英語に触れる次元を脱してもらうため、英語のリーディング課題も一定数課す。<br>②アカデミック・ライティングの基礎を、以下の３点を中心に身につけさせるため、各履修学生に対して少なくとも３回、要約や報告、小レポートの提出を指示する。<br>a. 効果的な要約と引用の方法 b. 客観性を担保しつつ自らの見解を表明する手法 c. 自らの見解に説得力を持たせる手法<br>③西洋の歴史・文化に関する題材に関する講義を、文章読解・作成技術の向上に関するそれと併せて行う。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】初回を除き、毎回の授業は以下のような流れで進行します。<br>【予習】指定された文献を読む; 対象者は報告や要約、小レポートといった課題を事前に執筆し提出（各履修生は学期中少なくとも３回、課題提出の必要があります）<br>【授業中】提出された報告や要約、小レポートを紹介・添削; 指定の文献内容に沿った歴史・文化的な題材に関する講義; 次回授業の文献紹介と配布; 文献を読む際の注意事項や課題への取り組み方法の伝達<br><br>文章を書く技法の指導に際しては、米英の大学で広く使われているThey say I sayを参考書として使用します（購入の必要はありません）。<br><br>【フィードバックの方法】Google Classroomを通じ提出された小レポート課題（計３回）への授業内での添削。最終エッセイのための個人面談。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：指定した文献の読解<br>復習：取り扱われた内容の確認・復習<br>その他：指定された文章の執筆と提出・最終エッセイの準備と提出 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 田中　伸明 | オリエンテーション | 参加者との懇談・自己紹介; 授業内容の説明と課題担当箇所の決定 |
| 2 | 田中　伸明 | 古典古代--ギリシャ・ローマの歴史と文化① | 「事実」と著者の「見解」を見分ける; 書物・人物に関する「報告」を書く; 取り扱われた題材に関する見識の強化 |
| 3 | 田中　伸明 | 古典古代--ギリシャ・ローマの歴史と文化② | 「事実」と著者の「見解」を見分ける; 書物・人物に関する「報告」を書く; 取り扱われた題材に関する見識の強化 |
| 4 | 田中　伸明 | 停滞の時代？-- 中世とキリスト教①（They say I say; section 1 and 2: “they say” & “Her point is”） | 「事実」と著者の「見解」を見分ける; 記述における著者の見解を要約する; 取り扱われた題材に関する見識の強化 |
| 5 | 田中　伸明 | 停滞の時代？-- 中世とキリスト教②（They say I say; section 1 and 2: “they say” & “Her point is”） | 「事実」と著者の「見解」を見分ける; 記述における著者の見解を要約する; 取り扱われた題材に関する見識の強化 |
| 6 | 田中　伸明 | ルネサンスと宗教改革①（They say I say; section 3: “As he himself puts it”） | 「事実」と著者の「見解」を見分ける;著者の見解を引用を行いながら要約する; 取り扱われた題材に関する見識の強化 |
| 7 | 田中　伸明 | ルネサンスと宗教改革②（They say I say; section 3: “As he himself puts it”） | 「事実」と著者の「見解」を見分ける;著者の見解を引用を行いながら要約する; 取り扱われた題材に関する見識の強化 |
| 8 | 田中　伸明 | 前半学習内容のまとめ（They say I say; section 1, 2 and 3） | 文章に対する批判的読み方; これまで取り扱われた題材に関する見識の強化 |
| 9 | 田中　伸明 | 宗教改革後のキリスト教（They say I say; section 4: “Yes/No/OK, But”） | ある見解・立場に対する自分の意見を表明する;取り扱われた題材に関する見識の強化 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 10 | 田中　伸明 | 18世紀①（絶対王政の盛衰）<br>（They say I say; section 4: “Yes/No/OK, But”） | ある見解・立場に対する自分の意見を表明する;取り扱われた題材に関する見識の強化 |
| 11 | 田中　伸明 | 18世紀②（アメリカの誕生とフランス革命）<br>（They say I say; section 5: “Distinguishing what you say from what they say”） | ある見解・立場に対する自分の意見を、他者の意見を援用したり批判したりしながら表明する; 取り扱われた題材に関する見識の強化 |
| 12 | 田中　伸明 | 産業革命前後--19世紀<br>（They say I say; section 5: “Distinguishing what you say from what they say”） | ある見解・立場に対する自分の意見を、他者の意見を援用したり批判したりしながら表明する; 取り扱われた題材に関する見識の強化 |
| 13 | 田中　伸明 | 歴史を踏まえて現在を見る①<br>（They say I say; section 6 and 7: “Skeptics may object” & “So what? Who cares?”） | ある見解・立場に対する自分の意見を論理的かつ説得的に披露する; 取り扱われた題材に関する見識の強化 |
| 14 | 田中　伸明 | 歴史を踏まえて現在を見る②<br>（They say I say; section 6 and 7: “Skeptics may object” & “So what? Who cares?”） | ある見解・立場に対する自分の意見を論理的かつ説得的に披露する;取り扱われた題材に関する見識の強化 |
| 15 | 田中　伸明 | 後半学習内容のまとめ<br>（They say I say; section 1, 2 and 3） | 文章の効果的・説得的な形成の仕方; これまで取り扱われた題材に関する見識の強化 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①「事実」と「見解」を適切に区別して文章を読む能力が身に付く。<br>②アカデミック・ライティングの基礎を身につけて、効果的・説得的な学術的文章を書けるようになる。<br>③現在の学術界において主流を占める米英風の議論構築法に、リーディングや課題実施を通じて慣れると同時に、その学習成果をエッセイ執筆を通じアウトプットできるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | ・担当箇所の報告、要約、小レポート等の提出（計３回：15%×3）<br>・期末エッセイ 55%（2,000字程度・内容については担当教員と個別に面談の上で決定する）<br>*全体の2/3以上に出席が認められない限り、単位認定を行わない。授業滞在時間が75分に満たなかった者は遅刻・早退の扱いとし、これを３回重ねた場合１回欠席したものとみなす。なお、担当を指定された以外の箇所で報告、要約、小レポート等の提出があった場合、ボーナス点を加点します。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 実際に課題を書いて提出するのは計４回（学期中３回・期末エッセイ１回）ですが、授業にはリーディング課題を必ず読んだ上で臨んでください。授業は、みなさんが課題を読んだ前提で進めます。課題を読んでいないと追いつくのが難しく、理解も中途半端になってしまうでしょう。また、授業はあえて「西洋かぶれ」なやり方で実施します。授業中の講師側からの問いかけに対し、みなさんの積極的な発言を求めていく、ということです。欧米圏の大学では、発言をせず黙っているだけでは授業に参加しているとは見做されません。今後みなさんが欧米圏へ留学・研究滞在する機会の準備になってほしいという思いで、講師もドイツ滞在中に参加し大きく成長できた、「本場のゼミナール」をこの授業を通じて体験してほしいと思います。ただし、発言が苦手だから、大勢の前での質問は恥ずかしいと思ってしまうから、といった理由で履修を見送ることはしないでください。発言や質問は強制しませんし、講師側からアシストして発言してもらうなど、様々な工夫をおこなって皆さんの授業参加を促していきます。<br>なお、提出してもらった課題の紹介と添削を毎回の授業で行います。匿名ではありますが、提出された文章が履修学生全体に紹介されることになりますので、そのことを了解できる方に履修をお願いしたいと思います。なお、時間が限られることもあり、提出課題一つ一つに対して丁寧な添削をおこなっている時間は授業中にはありません。詳細なフィードバックを希望する人は、個別に時間をとりますので、Google Classroomから面談の予約をとってください（約15分程度）。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 教科書は使用しない。リーディング課題・参考書については授業中に適宜指示する。 | | | |
| **参考書** | “They Say/I Say” The Moves that Matter in Academic Writing | Gerald Graff and Cathy Birkenstein | W. W. Norton & Company | 3,796 |

# 大学基礎演習（理系スタイルのスタディ･スキル #リケスタ）

Academic Skills Seminar

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，N学部，ET学科，OT専攻，OV専攻，FR学部を除く），火５／［自由］M学部　火５／［自由］N学部　火５／［自由］ET学科　火５／［自由］OV専攻　火５／［自由］FR学部　火５

**科目責任者：** 野島　高彦

**担当者：** 野島　高彦※

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME04／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | (1) 情報を探し，集め，記録し，整理し，活用する方法を学ぶ.<br>(2) 実験実習科目の準備，観察，記録，レポート作成，考察ネタ探し方法を学ぶ.<br>(3) 検索エンジン，e-mail，SNSなどのオンラインサービスを用いた情報収集，情報交換，情報発信方法を学ぶ.<br>(4) 日本語による伝わる文章およびメッセージの組み立て方を学ぶ.<br>(5) 異なる立場からの異なる結論をとりいれて，主観的に意思決定を下す方法を学ぶ. |
| **教育内容** | 書籍，メディア，インターネット，授業などから目的とする情報を探り出し，課題，レポート，ディスカッション，ディベート，試験勉強などに活用する方法を解説する．相手に伝わる言葉や文章の組み立て方を解説する．客観的な判断と主観的な決定をする能力を身につける方法を解説する．＜キーワード＞ e-mail，SNS，インタビュー，インターネット，グループワーク，考察ネタ探し，コミュニケーション，実験ノート，実験レポート，文章作成，メモ，ノート，レポート |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>スライドを用いたポイント解説，演習，グループによる共同作業とディスカッションを組み合わせて運営する.<br>【フィードバックの方法】全3回のレポート課題は添削したうえで返却する.<br>【Classroom クラスコード】gxpy3lk |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>課題図書：適宜紹介する.<br>予習：授業終了時に課題を課すので次回授業までに取り組むこと.<br>復習：学んだスキルを次回授業までに確かめてみること. |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 野島　高彦 | オリエンテーション | 半年間，何のために何をめざすのか / 受講するうえでの注意事項は何か / 他己紹介:取材「する」と取材「される」 |
| 2 | 野島　高彦 | インターネットは頼れるパートナー | e-mailによる連絡を円滑におこなうために何を知っていなければならないのか / オンライン上の行動で人生を破滅に導かないためにはどのような考え方をすればよいのか |
| 3 | 野島　高彦 | 高校から大学へ | 実際に2週間送ってみた大学生活は高校生活とどのように違っていたか / 日頃ヒマなわりには〆切前に苦しい思いをするのはなぜか / どうすれば目標をムリなく達成する計画を立てられるのか |
| 4 | 野島　高彦 | 授業ノートは役立つ記録その1 | 大学ではどのような形式の講義が行われているのか / 何のためにノートをとるのか / ノートに記録を残すときにどのような工夫をするとよいのか |
| 5 | 野島　高彦 | 授業ノートは役立つ記録その2 | スライドショーで高速進行する講義でノートに記録を残すにはどうすればよいのか / とったノートはどのように活用できるのか / まわりの人々は大学の講義でどのようなノートをとっているのか |
| 6 | 野島　高彦 | 文章に記されている内容の読み解き方 | 文章に記されていない重要事項を文章中から探り当てるにはどうすればよいのか / 作業を順調に進めるための手順書を書くにはどうすればよいのか |
| 7 | 野島　高彦 | 実験実習科目対策講座その1 | 実験レポートとは何なのか / 実験ノートには何を記録するのか / 考察ネタ探しはどうやればよいのか / 実験科目はどのように予習すればよいのか |
| 8 | 野島　高彦 | 実験実習科目対策講座その2 | グループで模擬実験を実際にやってみて何がわかるのか / どのような実験記録が残るのか / 実験を通して何を見いだしたのか |
| 9 | 野島　高彦 | 実験実習科目対策講座その3 + 論理的に考える | どのような実験レポートが完成したのか / 何を真実と「みなす」のか / 自然科学や医療を学ぶ大学生はどのようにものごとを考えられなければならないのか |
| 10 | 野島　高彦 | 伝わるメッセージの組み立て方 | 相手を動かす言葉を組み立てるにはどうすればよいのか / ピンチをチャンスに変える言葉を組み立てるにはどうすればよいのか / 簡潔に用件を伝えるにはどうすればよいのか |
| 11 | 野島　高彦 | 主観的に結論を下すその1 | 「あなたはどうするか」の問いに答えるためにはどうすればよいのか / 自分とは異なる意見を尊重することが重要なのはなぜか / 適切なサイズのテーマをレポートで設定するためにはどうすればよいのか |
| 12 | 野島　高彦 | 主観的に結論を下すその2 + 調査レポートのテーマを決める | いったん下した結論について調査をおこない再度結論を主観的に下すとどうなるか / どのようなテーマを選ぶのか / 限られた持ち時間で要望を相手に伝えるにはどのようなストーリーを組み立てればよいのか |
| 13 | 野島　高彦 | 調査レポートの内容に基づく30秒間トーク | 持ち時間30秒間をどこまで有効に使えるか / 事実と意見を分けて説明しなければならないのはなぜか / 議論と討論と口論は何が違うのか |
| 14 | 野島　高彦 | 調査レポートの講評 ＋ 学んだ内容の再構成 | どのような調査レポートが提出されたのか / 共に学んだ仲間の書いたレポートからは今後のレポート制作に参考になるどのようなヒントが見つかるか / この授業で学んだことを実際に活かしてみてどうだったか，これからどうなりそうか，どのように成長したか |
| 15 | 野島　高彦 | まとめ | まとめ |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | (1) 講義，文献，インターネットなどから有用な情報を探り出し，内容を整理および理解し，課題，試験対策，レポート提出，その他の大学生活全般の問題解決に活用することができるようになる．<br>(2) 明確な日本語で伝わるメールや伝わるメモを書き，伝わるメッセージを組み立てることができるようになる．<br>(3) 定められた形式に従ってレポートを作成できるようになる．<br>(4) 目標に向かって無理なく実行可能な計画を立てられるようになる．<br>(5) 主観的に意志を決定できるようになる． |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>課題60 %，授業内でのプレゼンテーション40 %． |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | この科目の決まり事や考え方の説明動画があります．これを観て理解したうえで履修登録したものと判断します→ https://youtu.be/SYg5qGFKalY<br>高校までに経験することの無かったタイプの，そして大学で開講されている他の科目とも違ったタイプの授業です．好奇心旺盛な学生，新しいものが好きな学生，そういう学生になってみたい学生，大学入学を機会に自分をちょっと変えてみたいと考えている学生，を歓迎します．ほとんどの回でグループワークやグループディスカッションをおこないます．全員が2回以上のトークおよびショートプレゼンテーションをおこないます．2回連続無断欠席で不可とします． |
| **実務経験の授業への活用方法** | 公的研究機関での研究経験にもとづき，情報を探り出し活用する方法，論理的なものごとの考え方，客観的および主観的結論の下しかたなどを解説する． |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | 理科系の作文技術 | 木下是雄 | 中公新書 | 770円 |
| **参考書** | <新版>日本語の作文技術 | 本多勝一 | 朝日文庫 | 660円 |
| **参考書** | 誰も教えてくれなかった実験ノートの書き方 | 野島 高彦 | 化学同人 | 1,320円 |
| **参考書** | イシューからはじめよ―知的生産の「シンプルな本質」 | 安宅和人 | 英治出版 | 1,980円 |
| **参考書** | カーネギー 心を動かす話し方―一瞬で人を惹きつける秘訣 | デール カーネギー | ダイヤモンド社 | 1,760円 |

# 大学基礎演習（大学生のための文章作成トレーニング）

Academic Skills Seminar

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，N学部，ET学科，OT専攻，OV専攻，FR学部を除く），水２／［自由］M学部　水２／［自由］N学部　水２／［自由］ET学科　水２／［自由］OV専攻　水２／［自由］FR学部　水２

**科目責任者：** 猪原　敬介

**担当者：** 猪原　敬介

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME04／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 在学中の学びと卒業後に活かせる文章力を身につける。 |
| **教育内容** | 「読み手が理解しやすい文章」を書けるようになるために，文章作成・添削・修正・推敲を繰り返して文章力を高める。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>まず文章作成についての参考書の一部を履修者で輪読（分担して読み，担当部分を他の履修者に説明すること）する。その内容を踏まえて，各自の関心のあるテーマについてのレポート作成を行う。作成されたレポートについて，履修者間での相互評価（レポートをプロジェクターに映し，履修者間で意見を出し合う）を行う。そこで得られた意見を元に修正を行い，修正による改善具合を再び履修者同士で共有する。<br>【フィードバックの方法】<br>文章作成課題への添削を通してフィードバックを行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：文章作成課題に取り組む。<br>復習：自らの書いた文章と添削内容を見直す。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 猪原　敬介 | 自己紹介文１（オリエンテーション） | 授業の目的と進め方／受講上の注意点／受講生の自己紹介 |
| 2 | 猪原　敬介 | 自己紹介文２（フィードバック） | 第1回で書いた自己紹介文を元に，履修者間で意見交換を行う。 |
| 3 | 猪原　敬介 | 文章作成論１（文章作成のための思考法） | 参考書の一部を輪読する。教員による講義と履修者による発表を行う。 |
| 4 | 猪原　敬介 | 文章作成についての講義２（文章構成の方法） | 参考書の一部を輪読する。教員による講義と履修者による発表を行う。 |
| 5 | 猪原　敬介 | 文章作成についての講義３（文章構成の方法） | 参考書の一部を輪読する。教員による講義と履修者による発表を行う。 |
| 6 | 猪原　敬介 | 文章作成についての講義４（文章構成の方法） | 参考書の一部を輪読する。教員による講義と履修者による発表を行う。 |
| 7 | 猪原　敬介 | 調べ物レポート１（導入） | 調べものレポートのテーマを決めるため，図書館へ赴く。 |
| 8 | 猪原　敬介 | 調べ物レポート２（文章作成作業） | 調べものレポートを授業中に作成しながら，教員からアドバイスを受ける。 |
| 9 | 猪原　敬介 | 調べ物レポート３（文章作成作業） | 調べものレポートを授業中に作成しながら，教員からアドバイスを受ける。 |
| 10 | 猪原　敬介 | 調べ物レポート４（文章作成作業） | 調べものレポートを授業中に作成しながら，教員からアドバイスを受ける。 |
| 11 | 猪原　敬介 | 調べ物レポート５（ピアレビュー） | 履修者間で感想・修正箇所の指摘を行う。レポートをプロジェクターに投射し，履修者全員で読み込んでいく。 |
| 12 | 猪原　敬介 | 調べ物レポート６（ピアレビュー） | 履修者間で感想・修正箇所の指摘を行う。レポートをプロジェクターに投射し，履修者全員で読み込んでいく。 |
| 13 | 猪原　敬介 | 調べ物レポート７（修正作業） | ピアレビューにより明らかになった修正箇所を修正する。 |
| 14 | 猪原　敬介 | 調べ物レポート８（ピアレビュー） | どのように修正を行ったのか，再びレポートをプロジェクターに投射し，履修者全員で読み込んでいく。 |
| 15 | 猪原　敬介 | 調べ物レポート９（ピアレビュー） | どのように修正を行ったのか，再びレポートをプロジェクターに投射し，履修者全員で読み込んでいく。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 「読み手が理解しやすい文章」を書けるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：レポート 実施時期：試験期間外<br>毎回の提出物にもとづく評価(70%)，学期末レポート(30%)により総合評価する。提出物の評価は，授業のポイントをきちんと押さえた文章作成ができているかという観点から評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 文章力は，文章作成・添削・修正・推敲を地道に繰り返すことで高まりますが，文章をじっくりと見てもらえる機会は，卒業後はもちろん，大学生活でもそれほど多くあるわけではありません。そうした機会を貴重と思える人に履修してもらいたいと思います。<br>＊少人数授業となるので，履修者数や進捗状況に応じて各授業回の内容は調整します。<br>＊この授業では，各自のノートパソコンを教室に持って来てもらい，作業を行ってもらうことが多くあります。<br>＊この授業では，書いた文章が名前あるいは学籍番号をオープンにした状態で授業内で回覧されます。このことを了承した人だけが履修してください。<br>＊下記で紹介している本は「参考書」であり，購入必須ではありません。図書館にも入れてありますので，興味のある人はそちらでまず読んでみると良いと思います。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | 図解でわかる！理工系のためのよい文章の書き方 論文・レポートを自力で書けるようになる方法 | 福地 健太郎 (著), 園山 隆輔 (著) | 翔泳社 | 1,980円 |

# 大学基礎演習（大学生としての学び方）

Academic Skills Seminar

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位
**授業対象：** 指定なし（M学部，N学部，ET学科，OT専攻，OV専攻，FR学部を除く），木２／［自由］M学部　木２／［自由］N学部　木２／［自由］ET学科　木２／［自由］OV専攻　木２／［自由］FR学部　木２
**科目責任者：** 塩沢　健太
**担当者：** 塩沢　健太※
**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME04／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | ノートおよびレポートの書き方を実践し、大学生として主体的に学んでいくための基礎を身につける。 |
| **教育内容** | メモやノートを用いて、知識を整理して体系化する方法を教える。これを応用し、資料の収集やその内容の理解を通じて、レポート執筆のための作文技術を教える。また、学生自身がレポートを添削できるよう、その方法を扱う。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>文章やレポートの書き方についての講義と、レポート執筆などの課題の演習を組み合わせて授業を行う。<br>【フィードバックの方法】提出されたレポート課題を添削して返却する。その他の課題に対してGoogle Classroomや口頭でのコメントを通じてフィードバックを行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：15時間】<br>予習：その回のシラバスに目を通し、前回授業で課された課題に取り組む。<br>復習：授業中のノートを見直し、授業内容を復習する。また、フィードバックを確認する。レポート作成の疑問点があれば、対面もしくはメールで教員に質問する。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 塩沢　健太 | オリエンテーション | 授業の内容、進め方、成績評価の方法、受講上の注意点などの説明をする。 |
| 2 | 塩沢　健太 | ノート・レポートの書き方① | 講義ノート、実験ノート、実験レポートの書き方を学ぶ。 |
| 3 | 塩沢　健太 | ノート・レポートの書き方② | 簡単な課題を行い、ノートとレポートを作成する。 |
| 4 | 塩沢　健太 | ノート・レポートの書き方③ | 前回作成したレポートを自分自身で添削する。 |
| 5 | 塩沢　健太 | レポート作成の準備作業① | 文書の役割と一般的なレポートの種類について学ぶ。 |
| 6 | 塩沢　健太 | レポート作成の準備作業② | レポート作成手順の紹介をし、テーマ（主題）選定とメッセージ（目標規定文）の決め方について学ぶ。 |
| 7 | 塩沢　健太 | レポート作成の準備作業③ | レポート作成のための情報収集の方法（文献調査、テキストの読み方、メモの取り方など）を紹介する。 |
| 8 | 塩沢　健太 | 文章の組み立て① | アウトラインの作り方と三部構成（序論、本論、結論）を理解する。 |
| 9 | 塩沢　健太 | 文章の組み立て② | 文章の構成を学び、叙述の順序を理解する。文章の構成要素としてのパラグラフと、その内部構造について理解する。 |
| 10 | 塩沢　健太 | 文章の書き方 | ロジックについて理解する。わかりやすく簡潔な表現の仕方を身につける。 |
| 11 | 塩沢　健太 | 文章の推敲 | レポートなどの文章の推敲に関する基本的なやり方を紹介する。 |
| 12 | 塩沢　健太 | 科学文書と論文 | 様々な科学文書の種類を紹介する。論文に基づく科学の営みについて理解する。 |
| 13 | 塩沢　健太 | 演習 | これまでの授業内容を演習形式で確認する。 |
| 14 | 塩沢　健太 | 確認テストとまとめ | これまでの授業内容の確認テストをし、解説と授業のまとめを行う。 |
| 15 | 塩沢　健太 | フィードバックと個別指導 | 添削したレポートを返却し、個別にフィードバック等を行う。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 過不足なく、簡潔で分かりやすい文章を書くことができる。レポートを作成し、自ら添削することができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>成績評価はレポート課題等の提出物に基づく評価（70%）と授業時間内に行う確認テスト（30%）により総合評価する。欠席した場合は欠席回数に応じて減点する。その他の詳細については初回授業で説明を行う。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | ・本授業では、読み書き等に関する基本的な事項を取り扱う。<br>・少人数授業のため、学生の理解度や進度に応じて、各回の内容を調整することがある。<br>・レポートの作成はパソコンの使用を前提としている。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 一般企業での業務経験等に基づき、大学卒業後にも有用な文書作成スキルを解説する。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | レポート作成のためのガイドライン（入学時配布） | 北里大学一般教育部／高等教育開発センター編 | | |
| 参考書 | 理科系の作文技術 | 木下是雄 | 中公新書 | 924円 |
| 参考書 | 数学文章作法基礎編 | 結城浩 | ちくま学芸文庫 | 950円 |

# 大学基礎演習（大学生としての学び方）

Academic Skills Seminar

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位

**授業対象：** 指定なし（M学部，N学部，ET学科，OT専攻，OV専攻，FR学部を除く），金５／［自由］M学部　金５／［自由］N学部　金５／［自由］ET学科　金５／［自由］OV専攻　金５／［自由］FR学部　金５

**科目責任者：** 前田　崇

**担当者：** 前田　崇

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME04／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | この授業の目的は、学生がこの授業の修了時に、社会学・教育社会学の基礎知識を活用して、対話・議論しながら、社会現象や社会問題を複眼的・批判的(クリティ カル)に捉え、根拠に基づいて論理的に考察し、それを表現することができるようになることである。 |
| **教育内容** | 社会学・教育社会学の基礎を学びながら、以下の４点に関する実践的な演習を行う。1. 社会学・教育社会学の基本的知識を活用して社会現象を考察し、それを表現すること、2. 論理的思考力、批判的・複眼的思考力、問題発見・問題解決力、3. 大学生としての基本的なスタディスキル(情報収集、テキストの読み方、レポートの書き方、プレゼンテーション、コメント、司会の仕方)。４．市民として必要な他者との連携・対話の経験。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義、ゼミ方式、対話・議論、プレゼンテーション。<br>【フィードバックの方法】発表やディスカッションの内容に対して、口頭で随時コメントやアドバイスをする。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 授業で提示された課題(報告資料の作成、レポートの作成、課題文献や関連文献の講読など)を行う。受講者全員が授業前に課題文献の指定部分を読むことを前提とし、全員が事前に疑問、批判、自分の考えとその根拠などをメモして準備する。文献講読の報告者は指定文献の担当 部分を読み、疑問や批判、自分の考えとその根拠、解説などをレジュメにまとめる。授業終了後、疑問や興味を持った内容についてさらに調べて考える。<br>【授業時間外に必要な学習の時間:15 時間】 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 前田　崇 | ガイダンス | 演習の目的と到達目標、演習の進め方、受講上の注意などの説明を行う。自己紹介。 |
| 2 | 前田　崇 | 情報収集の方法 | 図書館の利用法、資料検索、資料収集の方法を学習する。教養図書館ツアーを行う。 |
| 3 | 前田　崇 | テキストの読み方、コメントと司会の仕方 | 批判的読書のコツを説明する。報告の担当箇所と発表順、司会の順番を決める。レジュメ を用いた報告の基本を説明する。コメントと司会の仕方を説明する。文献講読のレジュメの作成方法を説明する。講読文献は受講者の興味・関心のあるものを話し合って選定する。 |
| 4 | 前田　崇 | レポートの書き方、プレゼンテーションの方法 | レポートと感想文の違いを知り、レポートとは何かを説明する。論理的に文章を書くための方法を説明する。問いを立て、展開させていくための方法を 説明する。報告のやり方を説明する。自分たちで教育に関して興味関心のあるテーマの問いを立ててみる。レポートの問いを立てる。 |
| 5 | 前田　崇 | 文献講読とディスカッション① | 教育に関する社会学・教育社会学の文献の講読を行う。報告担当者が発表資料を作成して、 解説、疑問点、議題、考え等について報告する。グループあるいは全体で質疑応答や対話・ディスカッションを行う。 |
| 6 | 前田　崇 | 文献講読とディスカッション② | 教育に関する社会学・教育社会学の文献の講読を行う。報告担当者が発表資料を作成して、 解説、疑問点、議題、考え等について報告する。グループあるいは全体で質疑応答や対話・ディスカッションを行う。 |
| 7 | 前田　崇 | 文献講読とディスカッション③ | 教育に関する社会学・教育社会学の文献の講読を行う。報告担当者が発表資料を作成して、 解説、疑問点、議題、考え等について報告する。グループあるいは全体で質疑応答や対話・ディスカッションを行う。 |
| 8 | 前田　崇 | 文献講読とディスカッション④ | 教育に関する社会学・教育社会学の文献の講読を行う。報告担当者が発表資料を作成して、 解説、疑問点、議題、考え等について報告する。グループあるいは全体で質疑応答や対話・ディスカッションを行う。 |
| 9 | 前田　崇 | 文献講読とディスカッション⑤ | 教育に関する社会学・教育社会学の文献の講読を行う。報告担当者が発表資料を作成して、 解説、疑問点、議題、考え等について報告する。グループあるいは全体で質疑応答や対話・ディスカッションを行う。 |
| 10 | 前田　崇 | 文献講読とディスカッション⑥ | 教育に関する社会学・教育社会学の文献の講読を行う。報告担当者が発表資料を作成して、 解説、疑問点、議題、考え等について報告する。グループあるいは全体で質疑応答や対話・ディスカッションを行う。 |
| 11 | 前田　崇 | 文献講読とディスカッション⑦ | 教育に関する社会学・教育社会学の文献の講読を行う。報告担当者が発表資料を作成して、 解説、疑問点、議題、考え等について報告する。グループあるいは全体で質疑応答や対話・ディスカッションを行う。 |
| 12 | 前田　崇 | 文献講読とディスカッション⑧ | 教育に関する社会学・教育社会学の文献の講読を行う。報告担当者が発表資料を作成して、 解説、疑問点、議題、考え等について報告する。グループあるいは全体で質疑応答や対話・ディスカッションを行う。 |
| 13 | 前田　崇 | 文献講読とディスカッション⑨ | 教育に関する社会学・教育社会学の文献の講読を行う。報告担当者が発表資料を作成して、 解説、疑問点、議題、考え等について報告する。グループあるいは全体で質疑応答や対話・ディスカッションを行う。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 14 | 前田　崇 | 文献講読とディスカッション⑩ | 教育に関する社会学・教育社会学の文献の講読を行う。報告担当者が発表資料を作成して、 解説、疑問点、議題、考え等について報告する。グループあるいは全体で質疑応答や対話・ディスカッションを行う。 |
| 15 | 前田　崇 | まとめ | まとめを行う。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 学生はこの授業の修了時に、社会学・教育社会学の基礎知識を活用して、他の受講者と連携・対話しながら、社会現象や社会問題を複眼的・批判的(クリティ カル)に捉え、根拠に基づいて論理的に考察し、それを表現することができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：試験期間外<br>発表の内容、対話・ディスカッションでの発言と準備メモ(50%) とレポート(50%)。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 身近な社会現象や社会問題に対するステレオタイプな見方や偏見から自由になって、複眼的・批判的に物事を考えられるようになってください。多様な考えを知るために、対話やディスカッションを行います。演習形式の授業ですので、授業に積極的に参加してください。教職課程の科目ではありませんが、教員志望の学生さんはぜひ受講してください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 教科書は使用しない。参考書については授業中に適宜指示する。 | | | |

# 大学基礎演習（大学生としての学び方）

Academic Skills Seminar

**科 目 概 要 ：** 2025年度　後期／1単位

**授 業 対 象 ：** 指定なし（M学部，N学部，ET学科，OV専攻，FR学部を除く）　火５／［自由］M学部　火５／［自由］N学部　火５／［自由］ET学科　火５／［自由］OV専攻　火５／［自由］FR学部　火５

**科目責任者 ：** 畠山　禎

**担　当　者 ：** 畠山　禎

**備　　考 ：** 科目ナンバリング：L102-ME04／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 大学で積極的に学ぶために必要な技法（学習スキル）を、実践的に身につけていきます。 |
| **教育内容** | ①大学での「学び」とはどのようなものか。<br>②ノートの取り方やテキストの読み方。<br>③図書館の利用方法、情報の収集方法。<br>④レポートやプレゼンテーションなど学術的表現の基礎。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>参加者が分担して教科書の各章のレジュメを作成して発表し、つづいて報告の内容について全員でディスカッションします。その上で、各自が授業で学んだことを確認しながら、ワークシート、レポート、発表などの課題に取り組んでいきます。小論文やレポートの書き方についてわかりやすく説明します。<br>フィードバックの方法：ワークシートやレポートを採点して返却し、よかった点、工夫が必要な点についてコメントします。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 教科書：学習技術研究会『知へのステップ――大学生からのスタディ・スキルズ』。<br>予習：教科書に目を通し、概要を把握して下さい。<br>復習：授業で学んだことに注意しながら、課題に取り組んで下さい。<br>予習・復習に必要な時間：15時間。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 畠山　禎 | オリエンテーション | 演習の目的と進め方／受講上の注意点／受講生の自己紹介 |
| 2 | 畠山　禎 | 高校から大学へ | 第１章　スタディ・スキルズとは<br>大学で学ぶことの意義や目的とは？／大学生活の目標／どのように行動すれば目標を達成できるのか？ |
| 3 | 畠山　禎 | ノートの取り方 | 第２章　ノート・テイキング<br>高校と大学の授業の違い／授業タイプに合わせたノートの取り方／試験の際に活用できるノートとは？／自分のノートの添削／良い点・改善すべき点についての意見交換 |
| 4 | 畠山　禎 | テキストの読み方（１） | 第３章　リーディングの基本スキル<br>文章を正しく理解するための方法／文章の内容を自分の言葉でまとめ直す方法 |
| 5 | 畠山　禎 | テキストの読み方（２） | 第４章　より深いリーディングのために<br>要約の方法／文章中の「事実について書いている部分」と「著者の意見を書いている部分」とを区別するポイント／文章の中からキーワードを見つけるためのポイント |
| 6 | 畠山　禎 | 情報収集の方法（１） | 第５章　大学図書館における情報収集<br>第６章　インターネットによる情報収集<br>大学の図書館の利用法／資料検索の方法 |
| 7 | 畠山　禎 | 情報収集の方法（２） | 第７章　情報の整理<br>集めた情報の整理方法／文献一覧表の作成方法 |
| 8 | 畠山　禎 | レポートの書き方 | 第８章　アカデミック・ライティングの基本スキル<br>レポートとはどのようなものか？／レポートと感想文はどこが違うのか？／レポート作成の流れ |
| 9 | 畠山　禎 | 文章表現法（１） | 第９章　効果的なアカデミック・ライティングのために<br>文章表現の基礎 |
| 10 | 畠山　禎 | 文章表現法（２） | 第１０章　パソコンによるライティング・スキル<br>わかりやすい文章を書くために注意すべき点 |
| 11 | 畠山　禎 | プレゼンテーション（１） | 第１１章　プレゼンテーションの基本スキル<br>レジュメとは何か？／わかりやすいレジュメを書くにはどうすればよいのか？ |
| 12 | 畠山　禎 | プレゼンテーション（２） | 第１２章　わかりやすいプレゼンテーションのために<br>聞き手にとってわかりやすい、印象に残る発表にするためのコツ |
| 13 | 畠山　禎 | 発表会（１） | レポート課題の発表会 |
| 14 | 畠山　禎 | 発表会（２） | レポート課題の発表会 |
| 15 | 畠山　禎 | 総括 | 授業全体の振り返り／個別指導 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ①簡潔かつ明快で、要点を押さえた文章を書くことができる。<br>②「課題の設定」、「関連資料の調査と分析」、「考察」、「結論」といった調査・研究の一連の手順を習得する。<br>③資料を活用して、作法に従ったレポートを作成することができる。<br>④決められた時間内でわかりやすい内容の発表をすることができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：<br>演習時の発表や提出物の内容、ディスカッションへの参加態度（55%）、最終レポートとそのレポートのテーマについての発表（45%）にもとづき、総合的に判断します。ただし、最終レポート未提出の場合は単位を修得できません。欠席回数に応じて減点します。<br>授業への積極的な参加を高く評価します。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 学習スキルは大学での勉学・研究のためだけでなく、卒業後の社会人生活のためにも必ず身につけなくてはならないものです。学習スキルの習得をめざして、積極的な態度で演習に参加してください。みなさんが「自ら考える力」や「自ら学ぶ力」を伸ばせるように、担当者としてできるかぎり支援していくつもりです。<br>オフィスアワーは火曜日の昼休み～午後２時半、金曜日の昼休み～午後２時半、午後４時半～　です。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 知へのステップ――大学生からのスタディ・スキルズ | 学習技術研究会 | くろしお出版 | 1,890円 |
| 教科書 | レポート作成のためのガイドライン | 北里大学一般教育部／高等教育開発センター | 北里大学高等教育開発センター | 0円 |

# 言語と文化A･B

## 1. 教科の勉学に対する総論

「言語と文化Ａ・Ｂ」では、ドイツ語・フランス語・オランダ語・中国語・韓国語という五種類の外国語を学べるようになっています。履修の方法に関しては学部・学科・専攻によって異なるので、下記の「言語と文化Ａ・Ｂ」履修の手引きをよく読んで履修して下さい。

皆さんの多くは、外国語としてこれまでに英語を勉強してきたと思います。現状では、英語が一番有効な国際的共通語といえますが、本当に英語だけ知ってさえいれば十分なのでしょうか。国連加盟国は 193 か国に達しており、それらの国々では合計 2000～3000 種類もの言語が話されていると推定されています。最も国際的に通用する言語である英語にしても、基本的にはそうした多様な人間の言語のうちの一つであるに過ぎません。大学生となり、広い視野に立って多様な国際社会へ目を向けてみようと考えている皆さんには、さらに一歩進んで、ぜひ英語以外の新しい言語にも挑戦して欲しいと思います。新しい言語を学ぶことによって得られる視野の広がりは、直接的、間接的に人生を豊かなものとしてくれるでしょう。

## 2.「言語と文化A･B」履修の手引き

「言語と文化Ａ・Ｂ」の履修を希望する場合は、以下の手引きおよび各学部・学科・専攻の学修要項をよく読み、誤りのないように抽選に参加してください。

### 2－1.「言語と文化A」と「言語と文化B」の違い

「言語と文化Ａ・Ｂ」は共に通年科目で、一年間通して履修し、試験等に合格して単位を認められると、二単位が認定されます。「言語と文化Ａ・Ｂ」には五つの言語が用意されていて、それぞれシラバスの科目名には「言語と文化Ａ」（ドイツ語）・「言語と文化Ｂ」（中国語圏文化）等と記載されています。「Ａ」も「Ｂ」も、どちらもはじめてその言語を学ぶ人のための初習（初級）外国語科目であることには変わりなく、「Ａ」だけを履修することも「Ｂ」だけを履修することも、どちらも可能です。また、「Ａ」と「Ｂ」を一つずつ履修することもできます。「Ａ」と「Ｂ」の内容上の違いは、「Ａ」では各言語の基本文法の学習に重点が置かれているのに対し、「Ｂ」では各言語の文化的背景の学習やコミュニケーション能力の向上に重点が置かれているという点にあります。このバランスやコンセプトは担当者によって異なるので、シラバスをよく読み、内容を確認して下さい。

**【注意1】**それぞれの言語をしっかりと学びたいと考えている人には、各言語の「Ａ」と「Ｂ」を両方とも履修することを勧めます。また、そのように考えている人には、後で説明するリンククラスも用意されていますので、リンククラスを履修することをさらに勧めます。

**【注意2】**「Ａ」と「Ｂ」はそれぞれ一科目（一授業）ずつ履修することができます。しかし、たとえば「Ａ」（ドイツ語）と「Ａ」（フランス語）を一緒に履修することはできません。「Ａ」の中で一科目（一授業）、「Ｂ」の中で一科目（一授業）履修することができます。したがって、たとえば「Ａ」（ドイツ語）と「Ｂ」（フランス語圏文化）を一緒に履修することは可能です。

## 2－2.「言語と文化A･B」に関する学部･学科別の単位の扱い

「言語と文化Ａ・Ｂ」は全学部・学科の学生が履修できます。ただし、学部・学科によって選択必修か自由選択か異なることに加え、履修は可能でも卒業要件単位として認定されない学部・学科もありますから、各学部・学科・専攻の学修要項をよく読んで下さい。

## 2―3. リンククラスについて

リンククラスは、三つの言語（ドイツ語・フランス語・中国語）それぞれの「言語と文化Ａ」と「言語と文化Ｂ」を二科目セットで履修するクラスです。どちらか一方の科目のみを履修することはできません。つまり、各言語の授業を週二回受けることになりますが、リンククラスの場合、週二回の各授業を同じ教員が担当することになります。したがって、たとえば異なる教員が受け持つ「言語と文化Ａ」（ドイツ語）と「言語と文化Ｂ」（ドイツ語）をそれぞれ個別に選択して履修する場合よりも、無駄なく各言語を学ぶことができます。各言語をしっかりと学び、検定試験の合格を目指したいと考える人には、リンククラスを履修することを強く勧めます。

## 2－4.「言語と文化A･B」の各授業の履修上の注意

「言語と文化Ａ・Ｂ」の各授業の履修希望者は、４月第１週目に実施される抽選に参加してください。

### リンククラス（セットで履修が必要）

| 担当科目 | 曜日時限 | 担当科目 | 曜日時限 | 受入人数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 言語と文化A（ドイツ語-リンク1） | 火４ | 言語と文化B（ドイツ語圏文化-リンク1） | 金２ | １８ | 三田 |
| 言語と文化A（ドイツ語-リンク2） | 木１ | 言語と文化B（ドイツ語圏文化-リンク2） | 火２ | ２４ | 田中 |
| 言語と文化A（フランス語-リンク3） | 火１ | 言語と文化B（フランス語圏文化-リンク3） | 木１ | ３０ | 真部 |
| 言語と文化A（中国語-リンク４） | 水２ | 言語と文化B（中国語圏文化-リンク４） | 木１ | ３０ | 司馬 |

### その他

| 担当科目 | 曜日時限 | 受入人数 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 言語と文化A（ドイツ語） | 水1/水2 | ２８ | 井口 |
| 言語と文化A（ドイツ語） | 金２ | ３２ | 橋本 |
| 言語と文化B（ドイツ語圏文化） | 火１ | ２４ | 田中 |
| 言語と文化A（フランス語） | 火２/木２ | ３０ | 真部 |
| 言語と文化A（フランス語） | 木１ | ２５ | 黒木 |
| 言語と文化B（フランス語圏文化） | 木２ | ２５ | 黒木 |

| 担当科目 | 曜日時限 | 受入人数 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 言語と文化B（オランダ語圏文化） | 火５ | ２５ | 三田 |
| 言語と文化A（中国語） | 水１/木２ | ３０ | 司馬 |
| 言語と文化A（韓国語） | 月１/月２ | ３０ | 鄭 |

# 言語と文化A(ドイツ語ーリンク2)（ドイツ語四技能のバランスの良い習得）

Language and Culture A(German)

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位

**授業対象：** 指定なし（Z学科，G学科，M学部，MB学部，N学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　木１／［自由］Z学科　木１／［自由］G学科　木１／［自由］MB学部　木１／［自由］N学部　木１／［自由］ET学科　木１／［自由］PT専攻　木１／［自由］ST専攻　木１／［自由］OV専攻　木１／［自由］FR学部　木１

**科目責任者：** 田中　伸明

**担当者：** 田中　伸明

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME05／授業形態：演習／注意：この授業は言語と文化Ｂ（田中）火2とセット履修

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | ※このシラバスは火曜２限とセット履修の、木曜１限に開講するクラスのものです。単独で開講される同一教員による同クラス名のシラバスとは内容が異なっていますので、注意してください。<br><br>ドイツ語の運用能力を、CEFR A1*水準で身につけることを目指すと同時に、ドイツの文化・社会・歴史に関する理解を、日本との比較を軸として深めることを目標とします。「A」では、文法・会話いずれも重視しながら、ドイツ語の「四技能（読む・書く・話す・聞く）」すべてのバランスの良い習得を目指していきます。「B」では、「A」で学んだ文法・表現上の学習事項をさらに深めたコミュニケーション練習を行うほか、講義や学生の皆さんによるグループ発表を通じ、先述のドイツ文化・社会面に関する理解を深めていきます。<br>* CEFR: 欧州言語共通参照枠。言語運用能力の指標として国際的に通用しており、A1は一番基礎の段階。A1, A2, B1, B2, C1, C2となるにつれ水準が上がっていく。英検でいうと３級合格がA1に相当するといわれている。 |
| **教育内容** | ①ドイツ語文法の講義<br>②ドイツ語音声を放送し、設問への回答やディクテーションを行わせる<br>③プリント教材等を用い、ペア・グループワークを通じた会話練習を行わせる<br>④教科書の問題への演習を課し、整序・部分・自由独作文に取り組ませる<br>（②・④は宿題としても実施させる） |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>この授業は基本的に３回で教科書の１課（Lektion/Kapitel）を扱います。各課の進め方は概ね以下の通りです。その課で習う文法事項の解説→教科書・問題集への取り組み（各自で行う文法問題演習から、ペア・グループで行う会話練習まで、多様な形で課題に取り組み「四技能」のバランスの取れた修得を目指していく。さらに実践的な会話・コミュニケーション、また文化的な話題については「B」で学習）→総括として、その課で学習した文法事項・新規語彙の復習<br>【フィードバックの方法】<br>各学生に指名を通じた問題への回答を促すほか、問題演習・グループワーク中に教室内を巡回し、質問や疑問点の拾い上げに努める。Google Classroomやオフィスアワー活用して授業時間外でも質問を受け付け、回答する。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30 時間】<br>予習：教科書に目を通しておく。<br>復習：学んだ文法知識を定着させるための課題（宿題）の実施。必ず発音もしながら行うこと。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 田中　伸明 | ガイダンス | 大学で学ぶということ　なぜドイツ語を学ぶか　授業や試験の運営・評価方針 |
| 2 | 田中　伸明 | Lektion 1 | あいさつ; 自己・他己紹介<br>人称代名詞（１）・動詞の現在人称変化：規則動詞　W-疑問文 Ja-Nein疑問　語順（１） |
| 3 | 田中　伸明 | Lektion 1 | あいさつ; 自己・他己紹介<br>人称代名詞（１）　動詞の現在人称変化：規則動詞　W-疑問文 Ja-Nein疑問　語順（１） |
| 4 | 田中　伸明 | Lektion 1 | あいさつ; 自己・他己紹介<br>人称代名詞（１）・動詞の現在人称変化：規則動詞　W-疑問文 Ja-Nein疑問　語順（１） |
| 5 | 田中　伸明 | Lektion 2 | 自由時間の過ごし方; 年齢・住所・電話番号を伝える; 申し込み用紙を書く; 綴り・職業を言う; 自己紹介のEmailを書く; 統計を読む<br>人称代名詞（２）　動詞の現在人称変化：不規則動詞　gern の使い方 nichtの使い方　男性形と女性形 |
| 6 | 田中　伸明 | Lektion 2 | 自由時間の過ごし方; 年齢・住所・電話番号を伝える; 申し込み用紙を書く; 綴り・職業を言う; 自己紹介のEmailを書く; 統計を読む<br>人称代名詞（２）　動詞の現在人称変化：不規則動詞　gern の使い方 nichtの使い方　男性形と女性形 |
| 7 | 田中　伸明 | Lektion 2 | 自由時間の過ごし方; 年齢・住所・電話番号を伝える; 申し込み用紙を書く; 綴り・職業を言う; 自己紹介のEmailを書く; 統計を読む<br>人称代名詞（２）　動詞の現在人称変化：不規則動詞　gern の使い方 nichtの使い方　男性形と女性形 |
| 8 | 田中　伸明 | Lektion 3 | 時間表現を使う　日常の行動について表現する　１週間の予定を述べる　会う約束をする　できること・しなければならないこと・したいことを表現する<br>分離動詞　語順（２）　話法の助動詞：können, müssen, möchten |
| 9 | 田中　伸明 | Lektion 3 | 時間表現を使う　日常の行動について表現する　１週間の予定を述べる　会う約束をする　できること・しなければならないこと・したいことを表現する<br>分離動詞　語順（２）　話法の助動詞：können, müssen, möchten |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 10 | 田中　伸明 | Lektion 3 | 時間表現を使う　日常の行動について表現する　１週間の予定を述べる　会う約束をする　できること・しなければならないこと・したいことを表現する<br>分離動詞　語順（２）　話法の助動詞：können, müssen, möchten |
| 11 | 田中　伸明 | Lektion 4 | 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる　住居の広告を理解する<br>名詞の性と格　定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格（対格）　所有冠詞の主格・目的格（対格） |
| 12 | 田中　伸明 | Lektion 4 | 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる　住居の広告を理解する<br>名詞の性と格　定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格（対格）　所有冠詞の主格・目的格（対格） |
| 13 | 田中　伸明 | Lektion 4 | 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる　住居の広告を理解する<br>名詞の性と格　定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格（対格）　所有冠詞の主格・目的格（対格） |
| 14 | 田中　伸明 | Lektion 1 – 4（学習事項の総復習） | 前期に学習した文法・表現事項を総点検する。 |
| 15 | 田中　伸明 | 前期学習項目のまとめ | 前期に学習した文法・表現の定着・到達度を小テストによって確認する。 |
| 16 | 田中　伸明 | 前期学習項目の振り返り | 後期の開始にあたり、前期に学習した文法・表現事項を総点検する。 |
| 17 | 田中　伸明 | Lektion 5 (mit *Kapitel 5) | 食習慣について話す　カフェで注文する・支払う<br>mögen 不定冠詞と定冠詞の目的格（対格）　無冠詞　名詞と三人称の人称代名詞　形容詞* |
| 18 | 田中　伸明 | Lektion 5 (mit *Kapitel 5) | 食習慣について話す　カフェで注文する・支払う<br>mögen 不定冠詞と定冠詞の目的格（対格）　無冠詞　名詞と三人称の人称代名詞　形容詞* |
| 19 | 田中　伸明 | Lektion 5 (mit *Kapitel 5) | 食習慣について話す　カフェで注文する・支払う<br>mögen 不定冠詞と定冠詞の目的格（対格）　無冠詞　名詞と三人称の人称代名詞　形容詞* |
| 20 | 田中　伸明 | Lektion 6 | どこで何を買うことができるかを話す　スーパーの広告を理解する　何がどこにあるかを表現する　営業時間を理解する<br>場所を表す前置詞　不定冠詞・定冠詞の与格　指示代名詞の主格と目的格（対格） |
| 21 | 田中　伸明 | Lektion 6 | どこで何を買うことができるかを話す　スーパーの広告を理解する　何がどこにあるかを表現する　営業時間を理解する<br>場所を表す前置詞　不定冠詞・定冠詞の与格　指示代名詞の主格と目的格（対格） |
| 22 | 田中　伸明 | Lektion 6 | どこで何を買うことができるかを話す　スーパーの広告を理解する　何がどこにあるかを表現する　営業時間を理解する<br>場所を表す前置詞　不定冠詞・定冠詞の与格　指示代名詞の主格と目的格（対格） |
| 23 | 田中　伸明 | *Kapitel 6 | 過去の活動について話す・質問する　大学に関する会話をする　一日の出来事・学業に関するテキストを理解する<br>完了形　過去分詞　habenとseinの過去形 |
| 24 | 田中　伸明 | *Kapitel 6 | 過去の活動について話す・質問する　大学に関する会話をする　一日の出来事・学業に関するテキストを理解する<br>完了形　過去分詞　habenとseinの過去形 |
| 25 | 田中　伸明 | *Kapitel 6 | 過去の活動について話す・質問する　大学に関する会話をする　一日の出来事・学業に関するテキストを理解する<br>完了形　過去分詞　habenとseinの過去形 |
| 26 | 田中　伸明 | Lektion 7 | 家族を紹介する　前後左右の位置関係を表現する　誕生日に招待する　招待に対する返事のEmailを書く　統計を読む（２）<br>所有冠詞の主格・目的格（対格）２　人称代名詞の主格と目的格（対格）　序数 |
| 27 | 田中　伸明 | Lektion 7 | 家族を紹介する　前後左右の位置関係を表現する　誕生日に招待する　招待に対する返事のEmailを書く　統計を読む（２）<br>所有冠詞の主格・目的格（対格）２　人称代名詞の主格と目的格（対格）　序数 |
| 28 | 田中　伸明 | Lektion 7 | 家族を紹介する　前後左右の位置関係を表現する　誕生日に招待する　招待に対する返事のEmailを書く　統計を読む（２）<br>所有冠詞の主格・目的格（対格）２　人称代名詞の主格と目的格（対格）　序数 |
| 29 | 田中　伸明 | Lektion 1–7; *Kapitel 5 und 6（学習事項の総復習） | これまでに学習した文法・表現事項を総点検する。 |
| 30 | 田中　伸明 | Lektion 1–7; *Kapitel5 und 6（学習事項の総復習） | これまでに学習した文法・表現事項を総点検する。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ドイツ語の運用能力を、四技能いずれの面においてもCEFR A1水準で身につける。具体的には：<br>①日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになる。（読む・話す）<br>②自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできる。（話す・書く・聞く）<br>③食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れる。（話す・聞く） |
| **成績評価の方法と基準** | 平常点40%＋小テスト・期末試験60%　で評価する。<br>*平常点は、毎回授業終わりに提出する課題シートをA, B, C の三段階で評価することによって採点し、授業への参加・貢献度を評価する（A: 十分に取り組みが見られる 100%; B: 取り組みが半分程度しか認められない 50%; C: 取り組みが半分以下しか認められない 0%）。<br>*小テストは、前期の学習内容を振り返る内容で、多肢選択式・記述双方を混ぜ合わせた問題とする。<br>*期末試験は、以下の二つの部分から構成される。<br>a. CEFR A1修得のために実施される資格試験 Start Deutsch A1 の形式に準拠して作成された問題（全体の75%: 読解・聞き取りは多肢選択式、作文は全文記述式）<br>b. CEFR A1修得のために必要となる文法事項の理解力を問う問題部分（全体の25%）<br>*小テストの得点は３割、期末試験の得点は７割に圧縮された上で、全体成績に反映される。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 　ドイツ語はかつて、あらゆる学問分野で最も指導的な言語の一つでした。本学の祖である北里柴三郎が、自身の研究成果をほとんどドイツ語で発表していたのも、その当時の医学で最も影響力があり、多くの読者に届く言語がドイツ語であったためです。また、日本は明治以降の近代化に際しドイツ（プロイセン）からの影響を強く受けているほか、共に第二次対戦で敗れつつ、戦後主に機械や重化学産業で成功し、復興・経済成長を遂げたことにも類似点があります。一方、個人主義や労働観・宗教観に関しては両国間に大きな違いがあり、一概に似ているとは言い切れない部分もかなりあります。この授業では、ドイツ語の四技能を基礎レヴェルでバランスよく身につけることを目指しつつ、ドイツの文化や社会についても学ぶ機会を多く設けることで、日本とドイツの共通点や違いについて、みなさん自身に実感を通じて理解してもらうことを目標にしていきます。この授業はセット履修で、「A」で主に語学、「B」でコミュニケーションや文化を扱っていくので、ABどちらかを単独履修するよりも、ドイツ語・ドイツ文化について深くじっくり学んでいくことが可能になります。<br>※指定の教科書は必ず購入してください。シラバスのうち、*がついてる章・課は、参考書に示してあるSpektrum A1+から該当部分をコピーし配布します。購入の必要はありません。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | スタート！1　ノイ<br>コミュニケーション活動で学ぶドイツ語<br>Start frei! 1 Neu<br>（ISBN: 978-4-384-12312-8 C1084） | 藤原三枝子ほか | 三修社 | 2,970円 |
| **参考書** | Spektrum Deutsch A1+: Teilband 1: Integriertes Kurs- und Arbeitsbuch fuer Deutsch als Fremdsprache<br>（ISBN-13: 978-3969150610） | Anne Buscha (著), Szilvia Szita (著) | Schubert Verlag GmbH & Co; 2.版 | |
| **参考書** | スタート！1　ノイ　ワークブック<br>コミュニケーション活動で学ぶドイツ語<br>Start frei! 1 Neu Arbeitsbuch<br>（ISBN: 978-4-384-12313-5 C1084） | 藤原三枝子ほか | 三修社 | 2,970円 |
| **参考書** | 必携ドイツ文法総まとめ | | 白水社 | |

# 言語と文化B(ドイツ語圏文化ーリンク2)（時代･テーマごとに日独を比較する）

Language and Culture B(German culture)

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位

**授業対象：** 指定なし（Z学科，G学科，M学部，MB学部，N学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　火２／［自由］Z学科　火２／［自由］G学科　火２／［自由］MB学部　火２／［自由］N学部　火２／［自由］ET学科　火２／［自由］PT専攻　火２／［自由］ST専攻　火２／［自由］OV専攻　火２／［自由］FR学部　火２

**科目責任者：** 田中　伸明

**担当者：** 田中　伸明

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME06／授業形態：演習／注意：この授業は言語と文化Ａ（田中）木１とセット履修

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | * このシラバスは木曜１限とセット履修の、火曜２限に開講するクラスのものです。単独で開講される同一教員による同クラス名のシラバスとは内容が異なっていますので、注意してください。<br><br>ドイツ語の運用能力を、CEFR A1*水準で身につけることを目指すと同時に、ドイツの文化・社会・歴史に関する理解を、日本との比較を軸として深めることを目標とします。「A」では、文法・会話いずれも重視しながら、ドイツ語の「四技能（読む・書く・話す・聞く）」すべてのバランスの良い習得を目指していきます。「B」では、「A」で学んだ文法・表現上の学習事項をさらに深めたコミュニケーション練習を行うほか、講義や学生の皆さんによるグループ発表を通じ、先述のドイツ文化・社会面に関する理解を深めていきます。<br>* CEFR: 欧州言語共通参照枠。言語運用能力の指標として国際的に通用しており、A1は一番基礎の段階。A1, A2, B1, B2, C1, C2となるにつれ水準が上がっていく。英検でいうと３級合格がA1に相当するといわれている。 |
| **教育内容** | ①プリント教材等を用い、ペア・グループワークを通じた会話練習を行わせる<br>②日本との比較を軸としたドイツの文化・社会・歴史に関する講義<br>③ ②の内容と対応させ、参加学生にグループ・プレゼンテーションを実施させる |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>この授業は初回を除き、前半1/3で「A」の学習範囲と関連したコミュニケーション練習（ペア・グループワーク）、後半2/3でドイツの文化・社会等に関する講義・プレゼンテーションを実施することを基本とします。履修人数にもよりますが、クラスを3〜5人程度のグループ６つにわけ、それぞれのグループには20分程度、指定の題材に対するプレゼンテーションを計２回行ってもらいます（成績評価基準の欄も参照）。<br>【フィードバックの方法】<br>各学生に指名を通じた問題への回答を促すほか、問題演習・グループワーク中に教室内を巡回し、質問や疑問点の拾い上げに努める。Google Classroomやオフィスアワー活用して授業時間外でも質問を受け付け、回答する。実施されたプレゼンテーションに対し講評を行い、優秀な点や改善点を指摘する。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30 時間】<br>予習：教科書（リンクの「言語と文化A」で使用のもの）に目を通しておく。<br>復習：学んだ知識を定着させるための課題（宿題）の実施。必ず発音もしながら行うこと。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 田中　伸明 | ガイダンス | 大学で学ぶということ　なぜドイツ語を学ぶか　授業や試験の運営・評価方針　グループの決定 |
| 2 | 田中　伸明 | Lektion 1<br>時代ごとの日本とドイツ① | あいさつ; 自己・他己紹介<br>日本とドイツを比較する--時代とテーマごとに見る意味（導入講義） |
| 3 | 田中　伸明 | Lektion 1<br>時代ごとの日本とドイツ② | あいさつ; 自己・他己紹介<br>中世以前の日本とドイツ |
| 4 | 田中　伸明 | Lektion 1<br>時代ごとの日本とドイツ③ | あいさつ; 自己・他己紹介<br>中世の日本とドイツ |
| 5 | 田中　伸明 | Lektion 2<br>時代ごとの日本とドイツ④ | 自由時間の過ごし方; 年齢・住所・電話番号を伝える; 申し込み用紙を書く; 綴り・職業を言う; 自己紹介のEmailを書く; 統計を読む<br>16世紀前後の日本とドイツ |
| 6 | 田中　伸明 | Lektion 2<br>時代ごとの日本とドイツ⑤ | 自由時間の過ごし方; 年齢・住所・電話番号を伝える; 申し込み用紙を書く; 綴り・職業を言う; 自己紹介のEmailを書く; 統計を読む<br>日本とドイツ 1600年ごろ |
| 7 | 田中　伸明 | Lektion 2<br>時代ごとの日本とドイツ⑥ | 自由時間の過ごし方; 年齢・住所・電話番号を伝える; 申し込み用紙を書く; 綴り・職業を言う; 自己紹介のEmailを書く; 統計を読む<br>近世の日本とドイツ① |
| 8 | 田中　伸明 | Lektion 3<br>時代ごとの日本とドイツ⑦ | 時間表現を使う　日常の行動について表現する　１週間の予定を述べる　会う約束をする　できること・しなければならないこと・したいことを表現する<br>近世の日本とドイツ② |
| 9 | 田中　伸明 | Lektion 3<br>時代ごとの日本とドイツ⑧ | 時間表現を使う　日常の行動について表現する　１週間の予定を述べる　会う約束をする　できること・しなければならないこと・したいことを表現する<br>開国期の日本とドイツからの影響 |
| 10 | 田中　伸明 | Lektion 3<br>時代ごとの日本とドイツ⑨ | 時間表現を使う　日常の行動について表現する　１週間の予定を述べる　会う約束をする　できること・しなければならないこと・したいことを表現する<br>北里柴三郎が見たドイツ--先進国vs. 後進国？ |
| 11 | 田中　伸明 | Lektion 4<br>時代ごとの日本とドイツ⑩ | 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる　住居の広告を理解する<br>第一次大戦と日独 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 12 | 田中　伸明 | Lektion 4<br>時代ごとの日本とドイツ⑪ | 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる　住居の広告を理解する<br>日独の接近と第二次大戦 |
| 13 | 田中　伸明 | Lektion 4<br>時代ごとの日本とドイツ⑫ | 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる　住居の広告を理解する<br>戦後復興と日独 |
| 14 | 田中　伸明 | Lektion 1 – 4（学習事項の総復習）・グループ発表 | 前期に学習した表現事項を総点検する。<br>時代ごとの日独比較を通じ得られた知見をグループで発表する（グループ１から３） |
| 15 | 田中　伸明 | Lektion 1 – 4（学習事項の総復習）・グループ発表 | 前期に学習した表現事項を総点検する。<br>時代ごとの日独比較を通じ得られた知見をグループで発表する（グループ４から６） |
| 16 | 田中　伸明 | 前期学習項目の振り返り | 後期の開始にあたり、前期に学習した表現事項・日独比較の知識や論点を総点検する。 |
| 17 | 田中　伸明 | Lektion 5 (mit *Kapitel 5)<br>テーマごとの日本とドイツ① | 食習慣について話す　カフェで注文する・支払う<br>日本とドイツの地理・風土・気候 |
| 18 | 田中　伸明 | Lektion 5 (mit *Kapitel 5)<br>テーマごとの日本とドイツ② | 食習慣について話す　カフェで注文する・支払う<br>日本とドイツの交通 |
| 19 | 田中　伸明 | Lektion 5 (mit *Kapitel 5)<br>テーマごとの日本とドイツ③ | 食習慣について話す　カフェで注文する・支払う<br>日本とドイツの言語（環境） |
| 20 | 田中　伸明 | Lektion 6<br>テーマごとの日本とドイツ④ | どこで何を買うことができるかを話す　スーパーの広告を理解する　何がどこにあるかを表現する　営業時間を理解する<br>日本とドイツの政治①（国家） |
| 21 | 田中　伸明 | Lektion 6<br>テーマごとの日本とドイツ⑤ | どこで何を買うことができるかを話す　スーパーの広告を理解する　何がどこにあるかを表現する　営業時間を理解する<br>日本とドイツの政治②（地方自治） |
| 22 | 田中　伸明 | Lektion 6<br>テーマごとの日本とドイツ⑥ | どこで何を買うことができるかを話す　スーパーの広告を理解する　何がどこにあるかを表現する　営業時間を理解する<br>日本とドイツの家族制度 |
| 23 | 田中　伸明 | *Kapitel 6<br>テーマごとの日本とドイツ⑦ | 過去の活動について話す・質問する　大学に関する会話をする　一日の出来事・学業に関するテキストを理解する<br>日本とドイツの教育制度 |
| 24 | 田中　伸明 | *Kapitel 6<br>テーマごとの日本とドイツ⑧ | 過去の活動について話す・質問する　大学に関する会話をする　一日の出来事・学業に関するテキストを理解する<br>日本とドイツの産業 |
| 25 | 田中　伸明 | *Kapitel 6<br>テーマごとの日本とドイツ⑨ | 過去の活動について話す・質問する　大学に関する会話をする　一日の出来事・学業に関するテキストを理解する<br>日本とドイツの文化① |
| 26 | 田中　伸明 | Lektion 7<br>テーマごとの日本とドイツ⑩ | 家族を紹介する　前後左右の位置関係を表現する　誕生日に招待する　招待に対する返事のEmailを書く　統計を読む（２）<br>日本とドイツの文化② |
| 27 | 田中　伸明 | Lektion 7<br>テーマごとの日本とドイツ⑪ | 家族を紹介する　前後左右の位置関係を表現する　誕生日に招待する　招待に対する返事のEmailを書く　統計を読む（２）<br>日本とドイツの宗教 |
| 28 | 田中　伸明 | Lektion 7<br>テーマごとの日本とドイツ⑫ | 家族を紹介する　前後左右の位置関係を表現する　誕生日に招待する　招待に対する返事のEmailを書く　統計を読む（２）<br>日本とドイツの生活様式 |
| 29 | 田中　伸明 | Lektion 1–7; *Kapitel 5 und 6（学習事項の総復習）・グループ発表 | これまでに学習した表現事項を総点検する。<br>テーマごとの日独比較を通じ得られた知見をグループで発表する（グループ１から３） |
| 30 | 田中　伸明 | Lektion 1–7; *Kapitel5 und 6（学習事項の総復習）・グループ発表 | これまでに学習した表現事項を総点検する。<br>テーマごとの日独比較を通じ得られた知見をグループで発表する（グループ４から６） |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ・ドイツ語の運用能力を、特に会話・コミュニケーション面で上達させる。<br>・ドイツの文化や社会、また歴史の特徴や日本との相違点・共通点について正確な知識に基づいて話せるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 平常点20%＋グループ発表30%＋期末試験50%　で評価する。<br>*平常点は、毎回授業終わりに提出する課題シートをA, B, C の三段階で評価することによって採点し、授業への参加・貢献度を評価する（A: 十分に取り組みが見られる 100%; B: 取り組みが半分程度しか認められない 50%; C: 取り組みが半分以下しか認められない 0%）。<br>*グループ発表：クラスを６つのグループに分け（１グループ 3-5人程度）、担当する内容に関するプレゼンテーションを約20分間、前期・後期それぞれで１回ずつ実施してもらう。プレゼンテーションは、特にその論理性・明快性によって評価される（評価基準は授業中に追って指示する）。<br>*期末試験は、以下の二つの部分から構成される。<br>a. CEFR A1取得のために実施される資格試験 Start Deutsch A1 の形式に準拠して行われる口頭試問（全体の50%。学生2人に対し教員一人が対峙・採点する。学生の組み合わせはランダムに指定される）<br>b. ドイツの文化・社会等に関し授業内で扱ったことを題材とした論述試験（全体の50%。詳細な内容は追って指示する） |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 　ドイツ語はかつて、あらゆる学問分野で最も指導的な言語の一つでした。本学の祖である北里柴三郎が、自身の研究成果をほとんどドイツ語で発表していたのも、その当時の医学で最も影響力があり、多くの読者に届く言語がドイツ語であったためです。また、日本は明治以降の近代化に際しドイツ（プロイセン）からの影響を強く受けているほか、共に第二次対戦で敗れつつ、戦後主に機械や重化学産業で成功し、復興・経済成長を遂げたことにも類似点があります。一方、個人主義や労働観・宗教観に関しては両国間に大きな違いがあり、一概に似ているとは言い切れない部分もかなりあります。この授業では、ドイツ語の四技能を基礎レヴェルでバランスよく身につけることを目指しつつ、ドイツの文化や社会についても学ぶ機会を多く設けることで、日本とドイツの共通点や違いについて、みなさん自身に実感を通じて理解してもらうことを目標にしていきます。この授業はセット履修で、「A」で主に語学、「B」でコミュニケーションや文化を扱っていくので、ABどちらかを単独履修するよりも、ドイツ語・ドイツ文化について深くじっくり学んでいくことが可能になります。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | Landeskunde Deutschland<br>Politik - Wirtschaft - Kultur<br>ISBN 978-3-19-461741-4 | Renate Luscher | Verlag für Deutsch Renate Luscher e.K | |

# 言語と文化B(ドイツ語圏文化)(ドイツ語四技能のバランスの良い習得)

Language and Culture B(German culture)

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位

**授業対象：** 指定なし（Z学科，G学科，M学部，MB学部，N学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　火１／［自由］Z学科　火１／［自由］G学科　火１／［自由］MB学部　火１／［自由］N学部　火１／［自由］ET学科　火１／［自由］PT専攻　火１／［自由］ST専攻　火１／［自由］OV専攻　火１／［自由］FR学部　火１

**科目責任者：** 田中　伸明

**担当者：** 田中　伸明

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME05／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | ドイツ語の運用能力を、CEFR A1*水準で身につけることを目指します。会話や文化学習を中心とすることにはなってはいますが、文法の基礎教授もしっかり行うことで、「四技能（読む・書く・話す・聞く）」すべてのバランスの良い習得を目指していきます。あわせて、ドイツの文化や社会、歴史についても紹介し、科学や医学への貢献、日本との関係といった視点からもドイツに関する理解を深めていきます。<br>* CEFR: 欧州言語共通参照枠。言語運用能力の指標として国際的に通用しており、A1は一番基礎の段階。A1, A2, B1, B2, C1, C2となるにつれ水準が上がっていく。英検でいうと３級合格がA1に相当するといわれている。 |
| **教育内容** | ①ドイツ語文法の講義、またドイツの文化・社会・歴史に関する基礎知識の講義<br>②ドイツ語音声を放送し、設問への回答やディクテーションを行わせる<br>③プリント教材等を用い、ペア・グループワークを通じた会話練習を行わせる<br>④教科書の問題への演習を課し、整序・部分・自由独作文に取り組ませる<br>（②・④は宿題としても実施させる） |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>この授業は基本的に３回で教科書の１課（Lektion/Kapitel）を扱います。各課の進め方は概ね以下の通りです。<br>その課で習う文法事項の解説→教科書・問題集への取り組み（各自で行う文法問題演習から、ペア・グループで行う会話練習まで、多様な形で課題に取り組み「四技能」のバランスの取れた修得を目指していく）→語学学習と並行して、ドイツの文化・社会的な話題への言及→総括として、その課で学習した文法事項・新規語彙の復習<br>【フィードバックの方法】<br>各学生に指名を通じた問題への回答を促すほか、問題演習・グループワーク中に教室内を巡回し、質問や疑問点の拾い上げに努める。Google Classroomやオフィスアワー活用して授業時間外でも質問を受け付け、回答する。 |
| **準備学習（予習・復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30 時間】<br>予習：教科書に目を通しておく。<br>復習：学んだ知識を定着させるための課題（宿題）の実施。必ず発音もしながら行うこと。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 田中　伸明 | ガイダンス | 大学で学ぶということ　なぜドイツ語を学ぶか　授業や試験の運営・評価方針 |
| 2 | 田中　伸明 | Lektion 1 | あいさつ; 自己・他己紹介<br>人称代名詞（１）・動詞の現在人称変化：規則動詞　W-疑問文 Ja-Nein疑問　語順（１） |
| 3 | 田中　伸明 | Lektion 1 | あいさつ; 自己・他己紹介<br>人称代名詞（１）　動詞の現在人称変化：規則動詞　W-疑問文 Ja-Nein疑問　語順（１）<br>ドイツ文化・社会紹介① |
| 4 | 田中　伸明 | Lektion 1 | あいさつ; 自己・他己紹介<br>人称代名詞（１）・動詞の現在人称変化：規則動詞　W-疑問文 Ja-Nein疑問　語順（１） |
| 5 | 田中　伸明 | Lektion 2 | 自由時間の過ごし方; 年齢・住所・電話番号を伝える; 申し込み用紙を書く; 綴り・職業を言う; 自己紹介のEmailを書く; 統計を読む<br>人称代名詞（２）　動詞の現在人称変化：不規則動詞　gern の使い方 nichtの使い方　男性形と女性形 |
| 6 | 田中　伸明 | Lektion 2 | 自由時間の過ごし方; 年齢・住所・電話番号を伝える; 申し込み用紙を書く; 綴り・職業を言う; 自己紹介のEmailを書く; 統計を読む<br>人称代名詞（２）　動詞の現在人称変化：不規則動詞　gern の使い方 nichtの使い方　男性形と女性形<br>ドイツ文化・社会紹介② |
| 7 | 田中　伸明 | Lektion 2 | 自由時間の過ごし方; 年齢・住所・電話番号を伝える; 申し込み用紙を書く; 綴り・職業を言う; 自己紹介のEmailを書く; 統計を読む<br>人称代名詞（２）　動詞の現在人称変化：不規則動詞　gern の使い方 nichtの使い方　男性形と女性形 |
| 8 | 田中　伸明 | Lektion 3 | 時間表現を使う　日常の行動について表現する　１週間の予定を述べる　会う約束をする　できること・しなければならないこと・したいことを表現する<br>分離動詞　語順（２）　話法の助動詞：können, müssen, möchten |
| 9 | 田中　伸明 | Lektion 3 | 時間表現を使う　日常の行動について表現する　１週間の予定を述べる　会う約束をする　できること・しなければならないこと・したいことを表現する<br>分離動詞　語順（２）　話法の助動詞：können, müssen, möchten<br>ドイツ文化・社会紹介③ |
| 10 | 田中　伸明 | Lektion 3 | 時間表現を使う　日常の行動について表現する　１週間の予定を述べる　会う約束をする　できること・しなければならないこと・したいことを表現する<br>分離動詞　語順（２）　話法の助動詞：können, müssen, möchten |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 11 | 田中　伸明 | Lektion 4 | 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる　住居の広告を理解する<br>名詞の性と格　定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格（対格）　所有冠詞の主格・目的格（対格） |
| 12 | 田中　伸明 | Lektion 4 | 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる　住居の広告を理解する<br>名詞の性と格　定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格（対格）　所有冠詞の主格・目的格（対格）<br>ドイツ文化・社会紹介④ |
| 13 | 田中　伸明 | Lektion 4 | 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる　住居の広告を理解する<br>名詞の性と格　定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格（対格）　所有冠詞の主格・目的格（対格） |
| 14 | 田中　伸明 | Lektion 1 – 4（学習事項の総復習） | 前期に学習した文法・表現事項を総点検する。<br>ドイツ文化・社会紹介⑤ |
| 15 | 田中　伸明 | 前期学習項目のまとめ | 前期に学習した文法・表現の定着・到達度を小テストによって確認する。 |
| 16 | 田中　伸明 | 前期学習項目の振り返り | 後期の開始にあたり、前期に学習した文法・表現事項を総点検する。 |
| 17 | 田中　伸明 | Lektion 5 (mit *Kapitel 5) | 食習慣について話す　カフェで注文する・支払う<br>mögen 不定冠詞と定冠詞の目的格（対格）　無冠詞　名詞と三人称の人称代名詞　形容詞* |
| 18 | 田中　伸明 | Lektion 5 (mit *Kapitel 5) | 食習慣について話す　カフェで注文する・支払う<br>mögen 不定冠詞と定冠詞の目的格（対格）　無冠詞　名詞と三人称の人称代名詞　形容詞*<br>ドイツ文化・社会紹介⑥ |
| 19 | 田中　伸明 | Lektion 5 (mit *Kapitel 5) | 食習慣について話す　カフェで注文する・支払う<br>mögen 不定冠詞と定冠詞の目的格（対格）　無冠詞　名詞と三人称の人称代名詞　形容詞* |
| 20 | 田中　伸明 | Lektion 6 | どこで何を買うことができるかを話す　スーパーの広告を理解する　何がどこにあるかを表現する　営業時間を理解する<br>場所を表す前置詞　不定冠詞・定冠詞の与格　指示代名詞の主格と目的格（対格） |
| 21 | 田中　伸明 | Lektion 6 | どこで何を買うことができるかを話す　スーパーの広告を理解する　何がどこにあるかを表現する　営業時間を理解する<br>場所を表す前置詞　不定冠詞・定冠詞の与格　指示代名詞の主格と目的格（対格）<br>ドイツ文化・社会紹介⑦ |
| 22 | 田中　伸明 | Lektion 6 | どこで何を買うことができるかを話す　スーパーの広告を理解する　何がどこにあるかを表現する　営業時間を理解する<br>場所を表す前置詞　不定冠詞・定冠詞の与格　指示代名詞の主格と目的格（対格） |
| 23 | 田中　伸明 | *Kapitel 6 | 過去の活動について話す・質問する　大学に関する会話をする　一日の出来事・学業に関するテキストを理解する<br>完了形　過去分詞　habenとseinの過去形 |
| 24 | 田中　伸明 | *Kapitel 6 | 過去の活動について話す・質問する　大学に関する会話をする　一日の出来事・学業に関するテキストを理解する<br>完了形　過去分詞　habenとseinの過去形<br>ドイツ文化・社会紹介⑧ |
| 25 | 田中　伸明 | *Kapitel 6 | 過去の活動について話す・質問する　大学に関する会話をする　一日の出来事・学業に関するテキストを理解する<br>完了形　過去分詞　habenとseinの過去形 |
| 26 | 田中　伸明 | Lektion 7 | 家族を紹介する　前後左右の位置関係を表現する　誕生日に招待する　招待に対する返事のEmailを書く　統計を読む（２）<br>所有冠詞の主格・目的格（対格）２　人称代名詞の主格と目的格（対格）　序数 |
| 27 | 田中　伸明 | Lektion 7 | 家族を紹介する　前後左右の位置関係を表現する　誕生日に招待する　招待に対する返事のEmailを書く　統計を読む（２）<br>所有冠詞の主格・目的格（対格）２　人称代名詞の主格と目的格（対格）　序数<br>ドイツ文化・社会紹介⑨ |
| 28 | 田中　伸明 | Lektion 7 | 家族を紹介する　前後左右の位置関係を表現する　誕生日に招待する　招待に対する返事のEmailを書く　統計を読む（２）<br>所有冠詞の主格・目的格（対格）２　人称代名詞の主格と目的格（対格）　序数 |
| 29 | 田中　伸明 | Lektion 1–7; *Kapitel 5 und 6（学習事項の総復習） | これまでに学習した文法・表現事項を総点検する。<br>ドイツ文化・社会紹介⑩ |
| 30 | 田中　伸明 | Lektion 1–7; *Kapitel 5 und 6（学習事項の総復習） | これまでに学習した文法・表現事項を総点検する。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ・ドイツ語の運用能力を、四技能いずれの面においてもCEFR A1水準で身につける。具体的には：<br>①日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになる。（読む・話す）<br>②自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできる。（話す・書く・聞く）<br>③食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れる。（話す・聞く）<br>・ドイツの文化や社会、また歴史の特徴や日本との相違点・共通点について正確な知識に基づいて話せるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 平常点40%＋小テスト・期末試験60%　で評価する。<br>*平常点は、毎回授業終わりに提出する課題シートをA, B, C の三段階で評価することによって採点し、授業への参加・貢献度を評価する（A: 十分に取り組みが見られる 100%; B: 取り組みが半分程度しか認められない 50%; C: 取り組みが半分以下しか認められない 0%）。<br>*小テストは、前期の学習内容を振り返る内容で、多肢選択式・記述双方を混ぜ合わせた問題とする。<br>*期末試験は、以下の二つの部分から構成される。<br>a. CEFR A1取得のために実施される資格試験 Start Deutsch A1 の形式に準拠して作成された筆記問題（全体の75%: 読解・聞き取りは多肢選択式、作文は全文記述式）。<br>b. CEFR A1取得のために実施される資格試験 Start Deutsch A1 の形式に準拠して行われる口頭試問（全体の25%: 学生2人に対し教員一人が対峙・採点する。学生の組み合わせはランダムに指定される）<br>*小テストの得点は３割、期末試験の得点は７割に圧縮された上で、全体成績に反映される。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 　ドイツ語はかつて、あらゆる学問分野で最も指導的な言語の一つでした。本学の祖である北里柴三郎が、自身の研究成果をほとんどドイツ語で発表していたのも、その当時の医学で最も影響力があり、多くの読者に届く言語がドイツ語であったためです。また、日本は明治以降の近代化に際しドイツ（プロイセン）からの影響を強く受けているほか、共に第二次対戦で敗れつつ、戦後主に機械や重化学産業で成功し、復興・経済成長を遂げたことにも類似点があります。一方、個人主義や労働観・宗教観に関しては両国間に大きな違いがあり、一概に似ているとは言い切れない部分もかなりあります。この授業では、ドイツ語の四技能を基礎レヴェルでバランスよく身につけることを目指しつつ、ドイツの文化や社会についても学ぶ機会を多く設けることで、日本とドイツの共通点や違いについて、みなさん自身に実感を通じて理解してもらうことを目標にしていきます。<br>※指定の教科書は必ず購入してください。シラバスのうち、*がついてる章・課は、参考書に示してある Spektrum A1+から該当部分をコピーし配布します。購入の必要はありません。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | スタート！1　ノイ<br>コミュニケーション活動で学ぶドイツ語<br>Start frei! 1 Neu<br>（ISBN: 978-4-384-12312-8 C1084） | 藤原三枝子ほか | 三修社 | 2,970円 |
| **参考書** | Spektrum Deutsch A1+: Teilband 1: Integriertes Kurs- und Arbeitsbuch fuer Deutsch als Fremdsprache<br>（ISBN-13: 978-3969150610） | Anne Buscha (著), Szilvia Szita (著) | Schubert Verlag GmbH & Co | |
| **参考書** | スタート！1　ノイ　ワークブック<br>コミュニケーション活動で学ぶドイツ語<br>Start frei! 1 Neu Arbeitsbuch<br>（ISBN: 978-4-384-12313-5 C1084） | 藤原三枝子ほか | 三修社 | 1,320 |
| **参考書** | 必携ドイツ文法総まとめ | | 白水社 | |

# 言語と文化A(ドイツ語)(ドイツ語の文法を知って、使ってみよう、話してみよう!)

Language and Culture A(German)

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位

**授業対象：** 指定なし（Z学科，G学科，M学部，MB学部，N学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く），水１or水２／［自由］Z学科　水１or水２／［自由］G学科　水１or水２／［自由］MB学部　水１or水２／［自由］N学部　水１or水２／［自由］ET学科　水１or水２／［自由］PT専攻　水１or水２／［自由］ST専攻　水１or水２／［自由］OV専攻　水１or水２／［自由］FR学部　水１or水２

**科目責任者：** 井口　三奈子

**担当者：** 井口　三奈子

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME05／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 母語や英語と比較しながらドイツ語の単語、文法のしくみを知る。実際に発音し、他の履修者とドイツ語で話をしてみる。またドイツ語が使われている国、地域についての文化を知り、自分の文化と比較したり、関心をもった事柄について積極的に調べていく、未知のことについて知見を広げていこうとする意欲、素地を培う。 |
| **教育内容** | ドイツ語が話されている国、地域について知り、ドイツ語の発音の仕方を学ぶ。各課で自分の表現したいこと、相手から聞き出したい、相手と話したいと思う内容を引き出すために必要な文法事項を知り、それを理解したら、実際に言ってみる、答えてみる。別の人にも聞いてみる、答えてみる。そのような反復を通して、頭だけでなく身体全体を使いドイツ語に親しんでいく。その際には、母語や英語との共通点、違いを発見、確認することもしていく。時に、文化的な事柄、時事的内容も取り上げる。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>発音の導入から始め、授業2回分で教科書の1課を進めていく予定。１回目に文法事項と設問に取り掛かり、２回目には、設問の残りを行い、語彙を増やして会話練習を行う。会話練習の時には、ペア（あるいはグループ）になってもらい、会話の練習を繰り返し行う。コミュニケーション能力を身につけてもらうためにも、友達と会話の練習を通して、文法的にわからないことも一緒に考えて乗り越えて行く。授業中にはドイツ語音声または動画を用いることで、よりドイツ語圏の文化が身近になるように努めたい。<br>【フィードバックの方法】提出物は確認、コメントをつけて返却する。<br>【Google classroomのクラスコード】水１　vlxuybr　　水２　z27ipx6 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】<br>日常の生活の中に、また各自の専攻分野の専門用語の中で使われているドイツ語を見つけたり、なぜそうなのか考えてみる。ニュースや情報を通じて、ドイツ語圏や多文化に関心を広げる。<br>予習（30分）：（１）教科書の内容に目を通すのではなく、何度も発音してみる。<br>（２）既習の外国語「英語」と比較しながら、ドイツ語の持つ「文の構造」に注目し理解する。<br>復習（30分）：（１）授業中に扱った表現を発音して確認する。ドイツ語で数を数えるなど、実生活で運用する。<br>（２）授業中に理解したことを自分でまとめ直し復習しておく。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 井口　三奈子 | ガイダンス　自己PRカード　日常生活の中のドイツ語 | ・日本の日常生活の中で使われているドイツ語<br>・ドイツ語の発音のルールを発見しよう<br>・普段の生活の中で使われているドイツ語を再認識し、どんな分野なのか、自分の専門分野にはないか探る。<br>・ドイツ語の読み方、発音の特徴を学ぶ。 |
| 2 | 井口　三奈子 | Lektion 0　アルファベート<br>ドイツ語の発音の特徴 | ・ドイツ語のアルファベートの発音、ドイツ語の特殊文字を知ろう。<br>・日常生活のドイツ語をドイツ語の発音ルールに沿って発音しよう、英語と比べてみよう |
| 3 | 井口　三奈子 | Lektion０　いろいろな場面でのあいさつ<br>数詞、ドイツの位置、ドイツ語圏 | ・あいさつ表現を覚えて、お互いに場面に合わせて言ってみよう、使ってみよう。<br>・数を使って遊んでみよう。 |
| 4 | 井口　三奈子 | Lektion 1　Woher kommst du? | ・人称代名詞の種類　　・ドイツ語の動詞と人称変化<br>・ドイツ語の語順　　・疑問詞 |
| 5 | 井口　三奈子 | Lektion 1 Woher kommst du? | ・練習問題　　・様々な専攻名<br>・会話　　・会話のヴァリエーション |
| 6 | 井口　三奈子 | Lektion 2　Was studiert er? | ・人称代名詞と人称変化<br>・規則変化動詞の人称変化<br>・不規則変化動詞（重要な動詞habenとsein）<br>・国名と地名 |
| 7 | 井口　三奈子 | Lektion 2 Was studiert er? | ・練習問題　　・会話<br>・会話のヴァリエーション |
| 8 | 井口　三奈子 | Lektion 3 Was isst du gern? | ・不規則変化動詞<br>・食べ物・飲み物の表現 |
| 9 | 井口　三奈子 | Lektion 3　Was isst du gern? | ・練習問題　　・会話<br>・会話のヴァリエーション<br>・好きな食べ物・飲み物を尋ねて、第三者に説明する |
| 10 | 井口　三奈子 | Lektion４　Ich habe einen Bruder. | ・格とは？　　・定冠詞・不定冠詞と格変化<br>・様々な職業の表現とその女性形 |
| 11 | 井口　三奈子 | Lektion４　Ich habe einen Bruder. | ・練習問題　　・名詞の複数形<br>・会話　　・何を食べ、何を買い、何を持っているか？<br>・形容詞 |
| 12 | 井口　三奈子 | Lektion 5 Kannst du Klavier spielen? | ・話法の助動詞<br>・勉強や趣味、アルバイトなどの活動の表現 |
| 13 | 井口　三奈子 | Lektion 5 Kannst du Klavier spielen? | ・練習問題<br>・会話　　・会話のヴァリエーション<br>・前期に扱った文法の復習、会話表現の復習 |
| 14 | 井口　三奈子 | 前期に扱った表現のまとめ | 前期に扱った表現のドイツ語を聞き取り、書き取り、<br>自分の答えを書く。<br>文法事項を体系立てて理解し、運用する。 |
| 15 | 井口　三奈子 | 解説と確認 | 解説と確認 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 16 | 井口　三奈子 | Lektion 6 Mein Vater ist Ingenieur. | ・所有冠詞と否定冠詞　　・家族の表現 |
| 17 | 井口　三奈子 | Lektion 6　Mein Vater ist Ingenieur. | ・練習問題　　・会話　家族の職業<br>・会話のヴァリエーション　誰に何を贈る？ |
| 18 | 井口　三奈子 | Lektion 7 Wie findest du diese Krawatte? | ・定冠詞類　　・人称代名詞の3・4格<br>・身の回りのもの、服などの表現 |
| 19 | 井口　三奈子 | Lektion 7 Wie findest du diese Krawatte? | ・練習問題　　・会話<br>・会話のヴァリエーション　　・物の値段きく、答える |
| 20 | 井口　三奈子 | Lektion 8 Ich komme mit dem Zug zur Uni. | ・前置詞の格変化　　・前置詞と定冠詞の融合形<br>・公共の施設、街にあるもの　　・交通手段についての単語 |
| 21 | 井口　三奈子 | Lektion 8 Ich komme mit dem Zug zur Uni. | ・練習問題　　・会話<br>・会話のヴァリエーション（大学までの道順とかかる時間） |
| 22 | 井口　三奈子 | Lektion 9 Wann fährt der Zug ab? | ・分離動詞　　・分離動詞を含む文の作り方<br>・話法の助動詞を含む文の場合　　・非分離動詞 |
| 23 | 井口　三奈子 | Lektion 9 Wann fährt der Zug ab? | ・練習問題　　・会話<br>・時刻の表現　　・会話のヴァリエーション |
| 24 | 井口　三奈子 | Lektion 10 Was hast du in den Ferien gemacht? | ・動詞の三基本形　　・現在完了形<br>・現在完了形の作り方 |
| 25 | 井口　三奈子 | Lektion 10 Was hast du in den Ferien gemacht? | ・練習問題　　・会話<br>・会話のヴァリエーション |
| 26 | 井口　三奈子 | Lektion 11 Hast du Lust, mit mir ins Kunstmuseun zu gehen? | ・並列接続詞　　・従属接続詞<br>・zu不定詞　　・zu不定詞句 |
| 27 | 井口　三奈子 | Lektion 11 Hast du Lust, mit mir ins Kunstmuseun zu gehen? | ・練習問題　　・熟語的な表現<br>・会話　　・会話のヴァリエーション |
| 28 | 井口　三奈子 | 後期に扱った表現の復習 | 後期に扱った文法の復習、会話表現の復習 |
| 29 | 井口　三奈子 | 後期のまとめ | 後期に扱った表現を使って、決まったテーマについてドイツ語で説明する。 |
| 30 | 井口　三奈子 | 解説と確認 | 解説と確認 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1)前期終了時期にはドイツ語で自己紹介（名前、出身、住まい、専攻、趣味）ができたり、相手から聞き出すことができるようになる。<br>2)後期には日常的な内容についてドイツ語で表現できるようになり、相手にきくこと、答えることができる（誰に何をプレゼントする？　物の値段を尋ねる・答える、道順、休みにしたこと・予定を説明する）ようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>1)質問内容の書き取りとその答えを含む筆記試験（８０%）で評価する。<br>2)授業態度、授業内に行われる小テストやリアクションペーパー（２０%）<br>3)理由のない欠席は減点する。積極的な授業への取り組みは加点の対象とする。<br>＊　授業回数の３分の１以上欠席した場合（遅刻、早退は3回で1回の欠席とみなす）には成績はつかない。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | （1）英語との共通点の多いドイツ語を学ぶことにより、日本が取り入れてきたドイツの医療系学問の根源、本学創設者の北里柴三郎が留学し研究した国の世界に触れてもらい、各人の学問的関心へとつなげてもらいたい。<br>（2）声に出してドイツ語を発音し、母語や英語との共通点、違いに気付き、自文化と比較しつつ楽しんでドイツ語に取り組んでもらいたい。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | ミニマムドイツ語12 | 熊谷哲哉 | 朝日出版社 | 2,530円 |
| **参考書** | 独和辞書（授業中に案内する） | | | 4,400円 |
| **参考書** | 知ってほしい国ドイツ | 新野守広・飯田道子・梅田紅子 | 高文研 | 1,870円 |
| **参考書** | ドイツの歴史を知るための50章 | 森井裕一 | 明石書店 | 2,200円 |
| **参考書** | ドイツ文学旅日記――日独比較文化の視点から―― | 小林英起子 | 未知谷 | 1,800円 |

# 言語と文化A(フランス語)

Language and Culture A(French)

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位

**授業対象：** 指定なし（Z学科，G学科，M学部，MB学部，N学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　火２or木２／［自由］Z学科　火２or木２／［自由］G学科　火２or木２／［自由］MB学部　火２or木２／［自由］N学部　火２or木２／［自由］ET学科　火２or木２／［自由］PT専攻　火２or木２／［自由］ST専攻　火２or木２／［自由］OV専攻　火２or木２／［自由］FR学部　火２or木２

**科目責任者：** 真部　清孝

**担当者：** 真部　清孝

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME05／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 初めてフランス語に接する学習者が対象です。<br>基本的な文法事項を学びながら、初歩的なフランス語の運用能力（フランス語検定５級レベル）を身につけることを目的とします。 |
| **教育内容** | 文法事項を中心に学習しながら、日常生活のいろいろな場面におけるフランス語での表現を練習します。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>教科書にしたがい、板書と聴覚メディアを活用しながら講義形式ですすめます。<br>【フィードバックの方法】試験の答案を採点後返却し、解説を行います。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】<br>予習：教科書に目を通し、概要を把握しておくこと。<br>復習：授業内容をまとめ、文法的な重要事項や重要表現は暗記すること。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 真部　清孝 | Introduction | フランス語の綴り字と発音の基礎 |
| 2 | 真部　清孝 | Unité 1 | 文法：名詞の性と数、不定冠詞<br>表現：目の前にあるものを語る |
| 3 | 真部　清孝 | Unité 2 | 文法：定冠詞、前置詞<br>表現：目の前にあるものについて質問する |
| 4 | 真部　清孝 | Unité 1, 2の復習と応用 | Unité 1, 2で学習したことを応用したフランス語表現の練習 |
| 5 | 真部　清孝 | Unité 3 | 文法：主語人称代名詞、動詞être<br>表現：自己紹介する |
| 6 | 真部　清孝 | Unité 4 | 文法：形容詞、副詞 |
| 7 | 真部　清孝 | Unité 3, 4の復習と応用 | Unité 3, 4で学習したことを応用したフランス語表現の練習 |
| 8 | 真部　清孝 | Unité 5 | 文法：動詞avoir、否定形<br>表現：家族のことを語る |
| 9 | 真部　清孝 | Unité 6 | 文法：-er動詞、縮約<br>表現：人物の外見について語る |
| 10 | 真部　清孝 | Unité 5, 6の復習と応用 | Unité 5, 6で学習したことを応用したフランス語表現の練習 |
| 11 | 真部　清孝 | Unité 7 | 文法：指示形容詞、強勢形<br>表現：値段を尋ねる |
| 12 | 真部　清孝 | Unité 8 | 文法：所有形容詞、動詞aller<br>表現：人物を紹介する |
| 13 | 真部　清孝 | Unité 7, 8の復習と応用 | Unité 7, 8で学習したことを応用したフランス語表現の練習 |
| 14 | 真部　清孝 | まとめ | まとめ |
| 15 | 真部　清孝 | 個別指導 | 個別指導 |
| 16 | 真部　清孝 | Unité 9 | 文法：動詞venir、疑問形容詞<br>表現：カフェに誘う |
| 17 | 真部　清孝 | Unité 10 | 文法：不規則動詞（prendre, faire）、部分冠詞<br>表現：飲み物について尋ねる |
| 18 | 真部　清孝 | Unité 11 | 文法：複合過去（助動詞avoirの場合）、-ir動詞<br>表現：過去のことを語る（１） |
| 19 | 真部　清孝 | Unité 9, 10, 11の復習と応用 | Unité 9, 10, 11で学習したことを応用したフランス語表現の練習 |
| 20 | 真部　清孝 | Unité 12 | 文法：複合過去（助動詞êtreの場合）、不規則動詞（partir, savoir）<br>表現：過去のことを語る（２） |
| 21 | 真部　清孝 | Unité 13 | 文法：直接目的の人称代名詞、不規則動詞（connaître, voir）<br>表現：好意を伝える |
| 22 | 真部　清孝 | Unité 14 | 文法：間接目的の人称代名詞、不規則動詞（écrire, dire）<br>表現：人について尋ねる |
| 23 | 真部　清孝 | Unité 12, 13, 14の復習と応用 | Unité 12, 13, 14で学習したことを応用したフランス語表現の練習 |
| 24 | 真部　清孝 | Unité 15 | 文法：文法：代名動詞、疑問代名詞<br>表現：生活習慣について語る |
| 25 | 真部　清孝 | Unité 16 | 文法：非人称表現、命令形<br>表現：天気について話す |
| 26 | 真部　清孝 | Unité 15, 16 の復習と応用 | Unité 15, 16で学習したことを応用したフランス語表現の練習 |
| 27 | 真部　清孝 | Unité 17 | 文法：半過去、不規則動詞（vouloir, pouvoir）<br>表現：過去のことを語る（３） |
| 28 | 真部　清孝 | Unité 18 | 文法：関係代名詞<br>表現：映画について語る |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 29 | 真部　清孝 | まとめ | まとめ |
| 30 | 真部　清孝 | 個別指導 | 個別指導 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | （1）フランス語の基本的な発音ができるようになる。<br>（2）英語及び日本語と比較して、フランス語の文法的特性の違いを説明できる。<br>（3）身近な事柄を簡単なフランス語で表現できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>平常点（40%）、定期試験（60%）。<br>平常点：講義に対する取り組み（講義での発言、提出された課題等）を評価します。<br>定期試験：文法事項の理解度、フランス語での表現力を評価します。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 授業の予習よりも復習に重点を置いてやってください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | アベセデ　フランセ（改訂版） | 佐藤久美子・佐藤領時 | 白水社 | 2,530円 |

# 言語と文化A(フランス語ーリンク3)

Language and Culture A(French)

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位

**授業対象：** 指定なし（Z学科，G学科，M学部，MB学部，N学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　火１／［自由］Z学科　火１／［自由］G学科　火１／［自由］MB学部　火１／［自由］N学部　火１／［自由］ET学科　火１／［自由］PT専攻　火１／［自由］ST専攻　火１／［自由］OV専攻　火１／［自由］FR学部　火１

**科目責任者：** 真部　清孝

**担当者：** 真部　清孝

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME05／授業形態：演習／注意：この授業は言語と文化Ｂ（真部）木１とセット履修

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 初めてフランス語に接する学習者が対象です。<br>文法事項の基礎を体系的に学び、フランス語の初歩的な運用能力（フランス語検定４級レベル）を身につけることを目標とします。 |
| **教育内容** | フランス語の初級文法を段階的に説明します。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>教科書にしたがい、板書と聴覚メディアを活用しながら講義形式ですすめます。木曜1限の「言語と文化B」と連動したかたちで授業を進行します。<br>【フィードバックの方法】授業時に課題を回収したら、授業のなかで解答を検討します。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】<br>予習：教科書に目を通し、概要を把握しておくこと。<br>復習：授業内容をまとめ、文法的な重要事項や重要表現は暗記すること。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 真部　清孝 | Unité 0 | 綴り字の読み方の基本について理解する |
| 2 | 真部　清孝 | Unité 1-1 | 不定冠詞・定冠詞、名詞の性と数について学ぶ |
| 3 | 真部　清孝 | Unité 1-2 | 主語人称代名詞、être、縮約について学ぶ |
| 4 | 真部　清孝 | Unité 2-1 | avoir、疑問文、強勢形、形容詞について学ぶ |
| 5 | 真部　清孝 | Unité 2-2 | 否定文の作り方を理解する |
| 6 | 真部　清孝 | Unité 3-1 | 第1群規則動詞、指示形容詞について学ぶ |
| 7 | 真部　清孝 | Unité 3-2 | 第2群規則動詞、所有形容詞、部分冠詞について学ぶ |
| 8 | 真部　清孝 | 補遺 1 | 疑問詞を整理して、使い方を理解する |
| 9 | 真部　清孝 | Unité 4-1 | 不規則動詞（aller, venir, faire, prendre）の使い方を理解する |
| 10 | 真部　清孝 | Unité 4-2 | 非人称表現、命令法について学ぶ |
| 11 | 真部　清孝 | Unité 5-1 | 人称代名詞（直接目的補語）、比較級について学ぶ |
| 12 | 真部　清孝 | Unité 5-2 | 人称代名詞（間接目的補語）、最上級について学ぶ |
| 13 | 真部　清孝 | 補遺 2 | 人称代名詞を整理して、使い方を理解する |
| 14 | 真部　清孝 | まとめ | 理解できていない点を確認する |
| 15 | 真部　清孝 | 個別指導 | 理解できていない点について検討する |
| 16 | 真部　清孝 | Unité 6-1 | 代名動詞について理解する |
| 17 | 真部　清孝 | Unité 6-2 | 不規則動詞（pouvoir, vouloir, devoir）、疑問形容詞について学ぶ |
| 18 | 真部　清孝 | 補遺 3 | 動詞の直説法現在形を整理しながら記憶する |
| 19 | 真部　清孝 | Unité 7-1 | 複合過去（助動詞avoir＋過去分詞）の使い方を理解する |
| 20 | 真部　清孝 | Unité 7-2 | 複合過去（助動詞être＋過去分詞）の使い方を理解する |
| 21 | 真部　清孝 | Unité 8-1 | 半過去、関係代名詞、強調構文について学ぶ |
| 22 | 真部　清孝 | Unité 8-2 | 受動態について理解する |
| 23 | 真部　清孝 | 補遺 4 | 複合過去と半過去の使い分けを理解する |
| 24 | 真部　清孝 | Unité 9-1 | 単純未来について学ぶ |
| 25 | 真部　清孝 | Unité 9-2 | ジェロンディフ、感嘆文、中性代名詞（y, en）について学ぶ |
| 26 | 真部　清孝 | Unité 10-1 | 条件法現在について理解する |
| 27 | 真部　清孝 | Unité 10-2 | 接続法現在について理解する |
| 28 | 真部　清孝 | 補遺 5 | 動詞の時制について整理して、理解する |
| 29 | 真部　清孝 | まとめ | 理解できていない点を確認する |
| 30 | 真部　清孝 | 個別指導 | 理解できていない点について検討する |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | （1）フランス語の基本的な発音ができるようになる。<br>（2）英語及び日本語と比較して、フランス語の文法的特性の違いを説明できる。<br>（3）身近な事柄を簡単なフランス語で表現できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>平常点（40%）、定期試験（60%）。<br>平常点：講義に対する取り組み（講義での発言、提出された課題等）を評価します。<br>定期試験：文法事項の理解度、フランス語での表現力を評価します。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 授業の予習よりも復習に重点を置いてやってください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | アミカルマン（プリュス）：フランス語・フランス文化への誘い | 澤田直他 | 駿河台出版社 | 2,860円 |

# 言語と文化B(フランス語圏文化ーリンク3)

Language and Culture B(French culture)

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位

**授業対象：** 指定なし（Z学科，G学科，M学部，MB学部，N学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　木１／［自由］Z学科　木１／［自由］G学科　木１／［自由］MB学部　木１／［自由］N学部　木１／［自由］ET学科　木１／［自由］PT専攻　木１／［自由］ST専攻　木１／［自由］OV専攻　木１／［自由］FR学部　木１

**科目責任者：** 真部　清孝

**担当者：** 真部　清孝

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME06／授業形態：演習／注意：この授業は言語と文化Ａ（真部）火１とセット履修

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | フランス文化の特色を理解しながら、フランス語の初歩的な運用能力（フランス語検定４級レベル）を身につけることを目標とします。 |
| **教育内容** | フランス文化の色々な側面を取り上げつつ、フランス語の基本文法の学習、表現の練習を行います。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>教科書にしたがい、板書と聴覚メディアを活用しながら講義形式ですすめます。火曜1限の「言語と文化A」と連動したかたちで授業を進行します。<br>【フィードバックの方法】試験の答案を採点後返却し、解説を行います。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】<br>予習：教科書に目を通し、概要を把握しておくこと。<br>復習：授業内容をまとめ、文法的な重要事項や重要表現は暗記すること。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 真部　清孝 | Introduction | フランスとフランス語に親しむ |
| 2 | 真部　清孝 | Bonjour Madame | 挨拶する、パン屋で注文 |
| 3 | 真部　清孝 | Dans le Quartier Latin | 相手の職業などをたずねる |
| 4 | 真部　清孝 | Les deux amis au téléphone | 電話で話す |
| 5 | 真部　清孝 | Un Anglais à Paris | 年齢などをたずねる |
| 6 | 真部　清孝 | A la boutique du musée | 買い物をする（１） |
| 7 | 真部　清孝 | La jolie robe | 買い物をする（２） |
| 8 | 真部　清孝 | Paris | パリについて |
| 9 | 真部　清孝 | Nathalie appelle un taxi | タクシーを呼ぶ |
| 10 | 真部　清孝 | Dans le taxi | タクシーの中で |
| 11 | 真部　清孝 | Les cafés | カフェについて |
| 12 | 真部　清孝 | Bon anniversaire ! | 誕生日のパーティー |
| 13 | 真部　清孝 | L'addition, s'il vous plaît ! | レストランで注文する |
| 14 | 真部　清孝 | まとめ | まとめ |
| 15 | 真部　清孝 | 個別指導 | 個別指導 |
| 16 | 真部　清孝 | L'interview d'un champion de judo | 柔道家へのインタビュー |
| 17 | 真部　清孝 | Le cours de tennis | テニススクールにて |
| 18 | 真部　清孝 | La Bretagne | ブルターニュ地方について |
| 19 | 真部　清孝 | A la cinémathèque | 映画を見る |
| 20 | 真部　清孝 | Après le film | 映画についての感想を語る |
| 21 | 真部　清孝 | La Provence | プロヴァンス地方について |
| 22 | 真部　清孝 | Philippe à Nancy | ナンシーに旅行する |
| 23 | 真部　清孝 | Chère Aki | メールを書く |
| 24 | 真部　清孝 | L'Alsace | アルザス地方について |
| 25 | 真部　清孝 | Le programme des visites | ナンシー観光 |
| 26 | 真部　清孝 | Le dîner en famille | 夕食に招かれる |
| 27 | 真部　清孝 | Une invitation | 旅行に誘う |
| 28 | 真部　清孝 | La fin des vacances | ヴァカンスの終わり |
| 29 | 真部　清孝 | まとめ | まとめ |
| 30 | 真部　清孝 | 個別指導 | 個別指導 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | （１）日本文化及び英語圏文化と比較して、フランス文化の特性を説明できる。<br>（２）初歩的なフランス語文法を理解したうえで、簡単なフランス語での会話ができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>平常点（40%）、定期試験（60%）。<br>平常点：講義に対する取り組み（講義での発言、提出された課題等）を評価します。<br>定期試験：文法事項の理解度、フランス語での表現力を評価します。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 授業の予習よりも復習に重点を置いてやってください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | アミカルマン（プリュス）：フランス語・フランス文化への誘い | 澤田直他著 | 駿河台出版社 | 2,860円 |

# 言語と文化A(フランス語)(体で感じるフランス語文法!!)

Language and Culture A(French)

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位

**授業対象：** 指定なし（Z学科，G学科，M学部，MB学部，N学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　木１／［自由］Z学科　木１／［自由］G学科　木１／［自由］MB学部　木１／［自由］N学部　木１／［自由］ET学科　木１／［自由］PT専攻　木１／［自由］ST専攻　木１／［自由］OV専攻　木１／［自由］FR学部　木１

**科目責任者：** 黒木　朋興

**担当者：** 黒木　朋興※

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME05／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | フランス語の基礎文法を学びます。フランス語を、日本語や英語と比べてみることで、英語だけやっていたのでは分からない、多元的な世界を認識することが出来るようにします。新しい世界が開けて来るでしょう。文法事項をただ頭で理解するだけではなく、例文を実際に声に出して読み正しく発音することによって、フランス語の意味世界を体で感じ取ってもらうことを目標とします。<br>フランス語を学ぶことにより、国際社会のグローバル化に対応するための多文化主義について理解することを目的とします。 |
| **教育内容** | 外国語の学習は体育だと思います。この授業では、例文を音読出来るようにすることによって、基本的な文法を学びます。まず簡単なことを口で言えるようにし、その上で筆記の練習をし、基本例文を暗記することでフランス文法の仕組みを理解できるようにします。また、フランス語の理解に役立つ文化的背景などについても理解できるようになり、国際社会のグローバル化に対応できる能力の育成を目指します。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>板書と画像・動画を活用しながら講義形式ですすめます。フランス語の文法を説明し、発音の仕方を解説し、実際にフランス語の文を音読できるように練習します。さらに例文を参考にしながら、仏作文を行い、それを音読できるように練習します。とにかく文法を口で覚えることを目指します。実際に練習問題を学生に音読してもらいます。<br>【フィードバックの方法】<br>その度ごとに発音を修正したり助言やコメントを与えます。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】<br>予習90分、復習90分を基本とします。<br>予習：課題としてあげた練習問題を準備してきてください。<br>復習：付属CDやWEBに上がっている音声ファイルなどを使って、発音練習を繰り返してください。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒木　朋興 | ガイダンス<br>１課-1 | 名詞の性と数、冠詞 |
| 2 | 黒木　朋興 | １課-2<br>２課-1 | 冠詞：「数えられない名詞」って何でしょう？<br>所有形容詞、指示形容詞 |
| 3 | 黒木　朋興 | ２課-2 | 所有形容詞、指示形容詞：男性／女性の区別について |
| 4 | 黒木　朋興 | ３課-1 | 代名詞、être動詞、冠詞の縮約：être（英語のbe動詞）の意味って何でしょう？？ |
| 5 | 黒木　朋興 | ３課-2 | 代名詞、être動詞、冠詞の縮約 |
| 6 | 黒木　朋興 | ４課-1 | 形容詞いろいろ：形容詞って名詞の後ろからかかるって知ってました？ |
| 7 | 黒木　朋興 | ４課-2 | 形容詞いろいろ |
| 8 | 黒木　朋興 | ５課-1 | avoir動詞、否定文：「ない」という日本語がいかに便利かが分かります |
| 9 | 黒木　朋興 | ５課-2 | avoir動詞、否定文 |
| 10 | 黒木　朋興 | ６課-1 | 規則動詞、比較：フランス語は語尾にerをつければ動詞を作れる |
| 11 | 黒木　朋興 | ６課-2 | 規則動詞、比較 |
| 12 | 黒木　朋興 | 7課-1 | 疑問文、命令文：命令文って習うけど、日常会話ではあまり使わないんです |
| 13 | 黒木　朋興 | 7課-2 | 疑問文、命令文 |
| 14 | 黒木　朋興 | 前期のまとめ | まとめ |
| 15 | 黒木　朋興 | 解説と確認 | 前期学習内容の復習 |
| 16 | 黒木　朋興 | 8課-1 | 動詞aller, venir、その他の規則動詞：第一群規則動詞以外の動詞にフランス語動詞の神髄あり！！ |
| 17 | 黒木　朋興 | 8課-2 | 動詞aller, venir、その他の規則動詞 |
| 18 | 黒木　朋興 | 9課-1 | 目的語、その他の動詞：英語よりも簡単フランス語の目的語！ |
| 19 | 黒木　朋興 | 9課-2 | 目的語、その他の動詞 |
| 20 | 黒木　朋興 | 10課-1 | 代名動詞、現在分詞、ジェロンディフ：とにかく後ろからかかるフランス語の形容詞 |
| 21 | 黒木　朋興 | 10課-2 | 代名動詞、現在分詞、ジェロンディフ |
| 22 | 黒木　朋興 | 過去形プリント | 半過去と複合過去の対比からフランス語の過去形を理解します。芝居や絵画の話を交えながら、フランス語の世界を理解します |
| 23 | 黒木　朋興 | 11課-1 | 複合過去 |
| 24 | 黒木　朋興 | 11課-2 | 複合過去 |
| 25 | 黒木　朋興 | 12課-1 | 半過去、関係代名詞 |
| 26 | 黒木　朋興 | 12課-2 | 半過去、関係代名詞 |
| 27 | 黒木　朋興 | 13課-1 | 直説法未来形、条件法現在：日本語に未来形はありません |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 28 | 黒木　朋興 | 13課-2 | 直説法未来形、条件法現在：条件法と英語の仮定法ってどう違うんだろうね？　仮定法が苦手だった人も眼から鱗が落ちます。 |
| 29 | 黒木　朋興 | 後期のまとめ | まとめ |
| 30 | 黒木　朋興 | 解説と確認 | 後期学習内容の復習 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 幅広い視野と豊かな人間性を涵養する教養教育と、学部教育へのスムーズな橋渡しを可能にする基礎教育を両立させた教育機能を備え、全人的な教養を身につけた生命科学を志向する学生の育成を目的とします。そのために、この授業ではフランス語の学習を中心とした高度基礎教育の実践を教育研究上の目的としています。<br>具体的には、学生がフランス語の基礎例文を覚えることによって、ヨーロッパ言語共通参照枠のA1レヴェルの文法力を身につけることを目指します。フランス語の発音の法則を学び、きちんと音読ができるようになることを目的とします。フランス文化についての説明を聞き、日本ともアメリカやイギリスとも違うフランス文化の特徴を理解できるようになることを目的とします。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>平常点２０%、試験、課題あるいはレポート８０%。授業への積極的な参加を求めます。授業参加状況は重視します。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 外国語が苦手な人でも、心配しないで下さい。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 仏米経済研究所であるクルノ・センターでの翻訳業務、仏人ミュージシャン来日公演の通訳業務の経験を説明することによって、外国語を使って仕事をすることの困難さやコツなどや異文化交流の実際について解説します。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | Superrapide | 小畑・寺家村・久保 | 駿河台出版社 | 2,376円 |

# 言語と文化B（オランダ語圏文化）（オランダ語/ネーデルラント語入門）

Language and Culture B(Dutch culture)

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位

**授業対象：** 指定なし（Z学科，G学科，M学部，MB学部，N学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　火５／［自由］Z学科　火５／［自由］G学科　火５／［自由］MB学部　火５／［自由］N学部　火５／［自由］ET学科　火５／［自由］PT専攻　火５／［自由］ST専攻　火５／［自由］OV専攻　火５／［自由］FR学部　火５

**科目責任者：** 三田　順

**担当者：** 三田　順

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME05／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 1.新しい言語を学ぶことで、異なる言語文化への関心を育み、母語や英語を相対化する。<br>2.新しい言語を０から学びながら「効率の良い外国語の学び方」を身につける。<br>3.新しい言語を習得する手応えを通じ、「外国語コンプ レックス」を解消する切掛けを見つける。<br>4.無駄のない継続的な学習こそ最も効率が良く、楽な方法であることを体得する。 |
| **教育内容** | 二学期間で初級文法を一通り学び、会話練習等を通じて能動的な言語運用能力を養うことで、オランダ語の基礎を総合的に習得する。<br>異なる言語文化への関心を育むと共に、母語および英語の特殊性を相対的に見る視野を獲得する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>文法解説の後、練習問題で理解度を深め、小テストで知識の定着を図る。<br>作文問題、ペアワーク、グループワークでの会話練習を通じて能動的な運用能力を高める。<br>適宜、視聴覚資料を用いてネーデルラント（低地諸国）の文化についての知見を深める。<br><br>【フィードバックの方法】<br>リアクションペーパーを用いて教員と学生間の双方向理解に努める。<br>Google Classroom、メールで授業時間外でも質問を受け付け、回答する。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】<br>予習：Google Classroomで配布される資料や、次回の学習範囲に目を通しておく。授業で紹介するインターネット上の様々なツールや映画、映像資料等を活用し、オランダ(ネーデルラント)語およびオランダ語圏(ベルギー、オランダ)の文化に親しむ。<br>復習：適宜出される課題を行う。小テストの準備をする。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 三田　順 | les 01 | ガイダンス、アルファベット |
| 2 | 三田　順 | les 02 | 発音の規則、数字0-12 |
| 3 | 三田　順 | les 03 | 人称代名詞、zijn動詞 |
| 4 | 三田　順 | les 04 | 規則動詞の変化①　語順、疑問文の作り方 |
| 5 | 三田　順 | les 05 | hebben動詞、複数形 |
| 6 | 三田　順 | les 06 | 名詞の性と冠詞<br>並列の接続詞 |
| 7 | 三田　順 | les 07 | 綴りの規則 |
| 8 | 三田　順 | les 08 | 規則動詞の変化② |
| 9 | 三田　順 | les 09 | 人称代名詞② |
| 10 | 三田　順 | les 10 | 所有冠詞 |
| 11 | 三田　順 | les 11 | 場所を表す前置詞 |
| 12 | 三田　順 | les 12 | 助動詞 |
| 13 | 三田　順 | les 13 | 形容詞 |
| 14 | 三田　順 | 前期のまとめ | まとめ |
| 15 | 三田　順 | 解説と確認 | 期末試験の解説、個別指導 |
| 16 | 三田　順 | les 14<br>前期の復習 | 前期の復習、大きな数字と年月日 |
| 17 | 三田　順 | les 15 | 分離動詞、時間の表現 |
| 18 | 三田　順 | les 16 | 比較級と最上級、三基本形 |
| 19 | 三田　順 | les 17 | 過去形 |
| 20 | 三田　順 | les 18 | 現在完了形 |
| 21 | 三田　順 | les 19 | 受動文 |
| 22 | 三田　順 | les 20 | 間接疑問文 |
| 23 | 三田　順 | les 21 | 副文、従属接続詞 |
| 24 | 三田　順 | les 22 | om te 不定詞 |
| 25 | 三田　順 | les 23 | 命令形 |
| 26 | 三田　順 | les 24 | 関係代名詞① |
| 27 | 三田　順 | les 25 | 関係代名詞② |
| 28 | 三田　順 | les 26 | 再帰代名詞、再帰動詞 |
| 29 | 三田　順 | 後期のまとめ | まとめ |
| 30 | 三田　順 | 解説と確認 | 期末試験の解説、個別指導 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | ・オランダ語（ネーデルラント語）文法の基礎、発音の規則を習得し、自己紹介、旅行先で使用できる程度の簡単な会話ができるようになる。<br>・ネーデルラント（低地諸国）の文化についての基本的な知識、および母語、英語を相対的に見る視野を獲得する。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間内<br>小テスト20%+口頭試験20%+筆記試験60% |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | オランダ語（ネーデルラント語）は、現在ベルギーとオランダの公用語として2000 万人以上が使用しているヨーロッパ有数の言語です。<br>英語によく似ており、学びやすい言語です。(英語：Thank you! / オランダ語：Dank u! ダンキュー!)<br>加えてオランダ語は「蘭学」の言葉として、北里大学の学祖、北里柴三郎博士が最初に学んだ西洋語であることでも知られるように、歴史的に日本との結び付きが深く、コーヒー（koffie）、ビール（bier）、メス（mes）等、オランダ語から日本語に取り入れられた単語は沢山あります。<br><br>外国語の習得に特別な才能は必要ありません。全員ゼロからのスタートですから、心配せずに新しい言語と、その文化に触れることのできる貴重な機会を楽しんでください。<br>英語と似ているオランダ語を学ぶことで、英語の仕組みもクリアに見えてきますから、英語に苦手意識のある人にこそ履修を勧めます。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 『integratie v.7』授業時に配付 | | | 0円 |
| **参考書** | オランダ語辞典 | | 講談社 | |
| **参考書** | オランダ語の基礎（新版） | クレインス 桂子他 | 白水社 | |
| **参考書** | 旅の指さし会話帳　ベルギー | 福田由紀子他 | 情報センター出版局 | |

# 言語と文化A(中国語)

Language and Culture A(Chinese)

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位

**授業対象：** 指定なし（Z学科，G学科，M学部，MB学部，N学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く），水１or木２／［自由］Z学科　水１or木２／［自由］G学科　水１or木２／［自由］MB学部　水１or木２／［自由］N学部　水１or木２／［自由］ET学科　水１or木２／［自由］PT専攻　水１or木２／［自由］ST専攻　水１or木２／［自由］OV専攻　水１or木２／［自由］FR学部　水１or木２

**科目責任者：** 司馬　虹

**担当者：** 司馬　虹

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME05／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 本講義は中国語講読をはじめて学ぶ人を対象とし、一年間の授業を通じて簡単な中国語を読み、書くことががができる必要な基本表現を身につける。 |
| **教育内容** | １．中国語の発音記号を習得する。<br>２．中検４級レベルの語彙と文法事項を習得する。<br>３．中国の文化や最新事情を紹介し、中国語と日本語の表現の違いを習得する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>教科書の各課を順に学習し、音読・暗唱・ドリル・ロールプレー・聞き取り・応用会話等の練習を行う、学生参加型の授業を行う。<br>学んだ単語や表現を随時に授業中に応用することで、授業における達成度を向上させることができます。<br>フィードバックの方法：小テストを通じて学生の達成度を把握し、テストを回収したら、直ちに回答と間違えやすい点について解説を行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】<br>予習：教科書に目を通し、新しい単語を音声を利用して予習しておくこと。<br>復習：音声を利用して、単語と重要表現を再確認し、本文を暗唱すること。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 司馬　虹 | 講義のガイダンス<br>第1課 | 中国語の特徴、講義の進め方、試験、評価基準などについて説明する。<br>中国語の発音記号「ピンイン」声調と母音 |
| 2 | 司馬　虹 | 第２課 | 子音 |
| 3 | 司馬　虹 | 第２課 | 鼻母音 |
| 4 | 司馬　虹 | 第３課<br>第４課 | 軽声と声調変化<br>数の言い方 |
| 5 | 司馬　虹 | 第４課 | 数を使う表現 |
| 6 | 司馬　虹 | 第５課 | 代名詞　　「～は…である」の”是”　　主語＋動詞（述語）＋目的語　　疑問詞疑問文 |
| 7 | 司馬　虹 | 第６課 | 第５課小テスト<br>副詞“也” “不” “都”と文中の位置　文末の“吧” “吗” “呢” |
| 8 | 司馬　虹 | 第７課 | 第６課小テスト<br>”的”の省略　　所在と存在を表す表現　　形容詞述語文　場所を表す代名詞　　疑問文５　選択疑問文”A还是B" |
| 9 | 司馬　虹 | 第７課 | 練習 |
| 10 | 司馬　虹 | 第８課 | 第７課小テスト<br>名詞述語文　　量詞　　比較文　　疑問文６　反復疑問文 |
| 11 | 司馬　虹 | 第８課 | 練習 |
| 12 | 司馬　虹 | 第９課 | 第８課小テスト<br>介詞“离” “从” “到”　　時刻と文中の位置　　連動文　　時間の長さと文中での位置 |
| 13 | 司馬　虹 | 第９課 | 練習 |
| 14 | 司馬　虹 | まとめ | 第9課小テスト<br>まとめ |
| 15 | 司馬　虹 | まとめ | 個別指導　解説　確認 |
| 16 | 司馬　虹 | 復習 | 復習 |
| 17 | 司馬　虹 | 第10課 | 介詞“在”　　二重目的語をとる文　　数量補語<br>助動詞　願望を表す“想” |
| 18 | 司馬　虹 | 第10課 | 練習 |
| 19 | 司馬　虹 | 第11課 | 第10課小テスト<br>進行を表す表現　　“了”１　動作の完了・実現<br>結果補語　　経験　動詞＋“过”　　動詞の重ね型 |
| 20 | 司馬　虹 | 第11課 | 練習 |
| 21 | 司馬　虹 | 第12課 | 第11課小テスト<br>助動詞　　“了”２文末で変化を表す　　方位詞　場所を表す表現<br>持続を表す助詞“着”　　修飾語と被修飾語をつなぐ“的” |
| 22 | 司馬　虹 | 第12課 | 練習 |
| 23 | 司馬　虹 | 第13課 | 第12課小テスト<br>方向補語　　可能補語 |
| 24 | 司馬　虹 | 第13課 | 使役動詞“让”<br>主述述語文　　介詞“把” |
| 25 | 司馬　虹 | 第13課 | 練習　復習 |
| 26 | 司馬　虹 | 第14課 | 第13課小テスト<br>様態補語　　様態補語副詞“又” “再” |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 27 | 司馬　虹 | 第14課 | “（是）～的”　　受け身　　近未来表現 |
| 28 | 司馬　虹 | 第14課 | 練習　復習 |
| 29 | 司馬　虹 | 第14課 | 第14課小テスト<br>まとめ |
| 30 | 司馬　虹 | まとめ | 個別指導　解説　確認 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 中国語の発音記号を正確に発音し、書く、聞くことができるようになることを目標とする。<br>基本的な文法事項を理解し、中国語の基礎表現を身につけるようになることを目標とする。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>小テストの総合点で評価する。<br>正当な理由で授業や小テストを欠席した学生に対しては、再テストのチャンスを与え、成績評価を行う。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 毎日10分間音声を聴き、５分間教科書を感情をこめて音読すると上達が早くなります。<br>NHKのラジオまたはテレビの中国語講座を是非利用してください。<br>授業では間違いを恐れず、口を大きく開けて、大きな声で発音をしてください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 初級中国語　購読編　改訂版<br>～自分のことばで表現する中国語～ | 奥村佳代子・塩山正純・張軼欧 | KINSEDO | 2,400円 |

# 言語と文化A(中国語ーリンク4)

Language and Culture A(Chinese)

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位

**授業対象：** 指定なし（Z学科，G学科，M学部，MB学部，N学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　水２／［自由］Z学科　水２／［自由］G学科　水２／［自由］MB学部　水２／［自由］N学部　水２／［自由］ET学科　水２／［自由］PT専攻　水２／［自由］ST専攻　水２／［自由］OV専攻　水２／［自由］FR学部　水２

**科目責任者：** 司馬　虹

**担当者：** 司馬　虹

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME05／授業形態：演習／注意：この授業は言語と文化Ｂ（司馬）木１とセット履修

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 本講義は中国語購読をはじめて学ぶ人を対象とし、一年間の授業を通じて簡単な中国語を読み、書くことができる必要な基本表現を身に着ける。 |
| **教育内容** | １．中国語の発音記号を習得する。<br>２．中検４級レベルの語彙と文法事項を習得する。<br>３．中国の文化や最新事情を紹介し、中国語と日本語の表現の違いを習得する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>教科書の各課を順に学習し、音読・暗唱・聞き取り・ドリル・作文などの練習を行う。学生参加型の授業を行う。<br>学んだ単語や表現を随時に授業中に応用することで、授業における達成度を把握し、向上させることができます。<br>フィードバック方法：小テストを通じて学生の達成度を把握し、テストを回収したら、直ちに回答と間違えやすい点について解説を行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】１時間/１コマ<br>予習：教科書に目を通し、新しい単語を音声を利用して予習しておくこと。<br>復習：音声を利用して、単語と重要表現を再確認し、会話本文を暗唱すること。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 司馬　虹 | 講義のガイダンス<br>第1課 | 中国語の特徴、講義の進め方、試験、評価基準などについて説明する。<br>中国語の発音記号「ピンイン」声調と母音 |
| 2 | 司馬　虹 | 第２課 | 子音 |
| 3 | 司馬　虹 | 第２課 | 鼻母音 |
| 4 | 司馬　虹 | 第３課<br>第４課 | 軽声と声調変化<br>数の言い方 |
| 5 | 司馬　虹 | 第４課 | 数を使う表現 |
| 6 | 司馬　虹 | 第５課 | 代名詞　　「～は・・・である」の“是”　　主語＋動詞（述語）＋目的語<br>疑問詞疑問文 |
| 7 | 司馬　虹 | 第６課 | 第５課小テスト<br>副詞“也”“不”“都”と文中の位置　　文末の“吧”“吗”“呢” |
| 8 | 司馬　虹 | 第７課 | 第６課小テスト<br>“的”の省略　　所在と存在を表す表現　　形容詞述語文　　場所を表す代名詞　　選択疑問文 |
| 9 | 司馬　虹 | 第７課 | 練習　ドリル |
| 10 | 司馬　虹 | 第８課 | 第７課小テスト<br>名詞述語文　　量詞　　比較文　　反復疑問文 |
| 11 | 司馬　虹 | 第８課 | 練習　ドリル |
| 12 | 司馬　虹 | 第９課 | 第８課小テスト<br>介詞“离”“从”“到”　　時刻と文中の位置　　連動文　　時間の長さと文中での位置 |
| 13 | 司馬　虹 | 第９課 | 練習　ドリル |
| 14 | 司馬　虹 | 第9課 | 第９課小テスト<br>まとめ |
| 15 | 司馬　虹 | まとめ | 個別指導　解説　確認 |
| 16 | 司馬　虹 | 復習 | 復習 |
| 17 | 司馬　虹 | 第10課 | 介詞“在”　　二重目的語をとる文　　数量補語　　助動詞　願望を表す“想” |
| 18 | 司馬　虹 | 第10課 | 練習　ドリル |
| 19 | 司馬　虹 | 第11課 | 第10課小テスト<br>進行を表す表現　　“了”１ 動作の完了・実現　　結果補語　　経験　動詞＋“过”　　動詞の重ね型 |
| 20 | 司馬　虹 | 第11課 | 練習　ドリル |
| 21 | 司馬　虹 | 第12課 | 第11課小テスト<br>助動詞“会”“能”“可以”　　“了”２ 文末で変化を表す　　方位詞　場所を表す表現　　持続を表す助詞“着”<br>修飾語と被修飾語をつなぐ“的” |
| 22 | 司馬　虹 | 第12課 | 練習　ドリル |
| 23 | 司馬　虹 | 第13課 | 第12課小テスト<br>方向補語　　可能補語 |
| 24 | 司馬　虹 | 第13課 | 使役動詞“让”　　主述述語文　　介詞“把” |
| 25 | 司馬　虹 | 第13課 | 練習・ドリル |
| 26 | 司馬　虹 | 第14課 | 第13課小テスト<br>様態補語　　様態補語副詞“又”“再” |
| 27 | 司馬　虹 | 第14課 | “（是）～的”　　受け身　　近未来表現 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 28 | 司馬　虹 | 第14課 | 練習　復習 |
| 29 | 司馬　虹 | まとめ | 第14課小テスト<br>まとめ |
| 30 | 司馬　虹 | まとめ | 個別指導　解説　確認 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 中国語の発音記号を正確に発音し、書く、聞くことができるようになる。<br>基本的な文法を理解し、中検４級レベルの読み書きができるようになる。<br>中国語の基礎表現がしっかりできるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>小テストの総合点で評価する。<br>正当な理由で授業やテストを欠席した学生に対しては、再テストのチャンスを与え、成績評価を行う。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 毎日10分間音声を聴き、５分間教科書を感情をこめて音読すると上達が早くなります。<br>NHKのラジオまたはテレビの中国語講座を是非利用してください。<br>授業では間違いを恐れず、大声を出して発音をしてください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 初級中国語　購読編　改訂版<br>～自分のことばで表現する中国語～ | 奥村佳代子・塩山正純・張軼州 | KINSEIDO | 2,400円 |

# 言語と文化B（中国語圏文化ーリンク4）

Language and Culture B(Chinese culture)

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位

**授業対象：** 指定なし（Z学科，G学科，M学部，MB学部，N学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　木１／［自由］Z学科　木１／［自由］G学科　木１／［自由］MB学部　木１／［自由］N学部　木１／［自由］ET学科　木１／［自由］PT専攻　木１／［自由］ST専攻　木１／［自由］OV専攻　木１／［自由］FR学部　木１

**科目責任者：** 司馬　虹

**担当者：** 司馬　虹

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME06／授業形態：演習／注意：この授業は言語と文化A（司馬）水２とセット履修

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 本講義は中国語会話を初めて学ぶ人を対象として、一年間の授業を通じて、中国語圏文化を理解するために必要な中国語の基礎をしっかりと習得すると共に、現地の人と簡単な会話ができるコミュニケーション能力を養う。 |
| **教育内容** | １．発音記号、基本文型、文法、日常会話に必要な基本的な語彙について学習する。<br><br>２．中国語圏における文化の特色と最新事情について学習する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>教科書の各課について、中国語と日本語の発音や表現の違いを分かり易く解説し、中国語の基礎学力を身に着けてもらう。<br>リピートやロールプレー形式を用いて、発音、基礎会話、場面に応じたミニ応用会話の訓練を行い、基本的な語彙と文型の重要性を理解し、会話に役立てもらう。<br>【フィードバック方法】<br>小テスト終了後、直ちに回答と間違えやすい点について解説する。<br>学習した単語や表現の場面に応じた使用例を随時提示し、解説する。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】１時間/１コマ<br>予習：教科書に目を通し、新しい単語を音声を利用して予習しておくこと。<br>復習：音声を利用して、単語と重要表現を再確認し、会話文を暗唱すること。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 司馬　虹 | 講義のガイダンス<br>第１課 | 中国語の特徴、講義の進め方、試験、評価基準などについて説明する。中国語の発音記号「ピンイン」の声調と母音 |
| 2 | 司馬　虹 | 第２課 | 子音 |
| 3 | 司馬　虹 | 第２課 | 鼻母音 |
| 4 | 司馬　虹 | 第３課<br>第４課 | 軽声と声調変化<br>数の言い方 |
| 5 | 司馬　虹 | 第４課 | 数を使う表現 |
| 6 | 司馬　虹 | 第５課 | 代名詞　　疑問詞疑問文　　「～は・・・である」の“是” |
| 7 | 司馬　虹 | 第６課 | 第５課小テスト<br>副詞“也” “不” “都”文中における副詞の位置<br>疑問文に使う文末助詞“吗” “吧” “呢” |
| 8 | 司馬　虹 | 第７課 | 第６課小テスト<br>場所を表す代名詞　　”的”の省略　　選択疑問文　　形容詞述語文 |
| 9 | 司馬　虹 | 第７課 | 練習　ドリル |
| 10 | 司馬　虹 | 第８課 | 第７課小テスト<br>反復疑問文　　量詞　　名詞述語文　　比較文 |
| 11 | 司馬　虹 | 第８課 | 練習　ドリル |
| 12 | 司馬　虹 | 第９課 | 第８課小テスト<br>介詞“离” “从” “到”　　時刻と文中の位置<br>時間の長さと文中での位置　　連動文 |
| 13 | 司馬　虹 | 第９課 | 練習　ドリル |
| 14 | 司馬　虹 | 第9課 | 第９課小テスト<br>まとめ |
| 15 | 司馬　虹 | まとめ | 個別指導　解説　確認 |
| 16 | 司馬　虹 | 復習 | 復習 |
| 17 | 司馬　虹 | 第１０課 | 介詞“在”　　二重目的語をとる文　　数量補語<br>所在と存在を表す表現“有” “在”　　助動詞　願望を表す“想” |
| 18 | 司馬　虹 | 第10課 | 練習　ドリル |
| 19 | 司馬　虹 | 第11課 | 第10課小テスト<br>“了”１　　動作の完了・実現　　結果補語<br>動詞の重ね型　　進行を表す表現<br>経験　動詞＋“过” |
| 20 | 司馬　虹 | 第11課 | 練習　ドリル |
| 21 | 司馬　虹 | 第12課 | 第11課小テスト<br>方位詞　　場所を表す表現　　持続を表す助詞“着”<br>助動詞“会” “能” “可以”　　“了”２文末で変化を表す<br>修飾語と被修飾語をつなぐ“的” |
| 22 | 司馬　虹 | 第12課 | 練習　ドリル |
| 23 | 司馬　虹 | 第13課 | 第12課小テスト<br>介詞“把”　　方向補語 |
| 24 | 司馬　虹 | 第13課 | 主述述語文　　使役動詞“让”　　可能補語 |
| 25 | 司馬　虹 | 第13課 | 練習　ドリル |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 26 | 司馬　虹 | 第14課 | 第13課小テスト<br>受け身　　様態補語　　“（是）～的” |
| 27 | 司馬　虹 | 第14課 | 近未来表現　　副詞“又”“再” |
| 28 | 司馬　虹 | 第14課 | 練習　ドリル |
| 29 | 司馬　虹 | 第14課 | 第14課小テスト<br>まとめ |
| 30 | 司馬　虹 | まとめ | 個別指導　解説　確認 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 中国語の発音記号を正確に発音し、聞き取ることができるようになる。<br>教科書の内容を用いて実践的な会話をすることができるようになる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>「授業への参加50%」と「テストの成績50%」を総合的評価する。<br>正当な理由で授業やテストを欠席した学生に対しては、課題や再テストのチャンスを与え、成績評価を行う。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 毎日10分間音声を聴き、5分間教科書を感情をこめて音読すると上達が早くなります。<br>NHKのラジオまたはテレビの中国語講座を是非利用してください。<br>授業では間違いを恐れず、口を大きく開けて、大きな声で発音してください。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | 初級中国語　会話編　改訂版<br>～自分のことばで話す中国語～ | 奥村佳代子・塩山正純・張軼欧 | KINSEIDO | 2,400円 |

# 言語と文化A(韓国語)

Language and Culture A(Korean)

**科目概要：** 2025年度　通年／2単位

**授業対象：** 指定なし（Z学科，G学科，M学部，MB学部，N学部，ET学科，PT専攻，ST専攻，OV専攻，FR学部を除く）　月1or月2／［自由］Z学科　月1or月2／［自由］G学科　月1or月2／［自由］MB学部　月1or月2／［自由］N学部　月1or月2／［自由］ET学科　月1or月2／［自由］PT専攻　月1or月2／［自由］ST専攻　月1or月2／［自由］OV専攻　月1or月2／［自由］FR学部　月1or月2

**科目責任者：** 鄭　賢熙

**担当者：** 鄭　賢熙

**備考：** 科目ナンバリング：L102-ME05／授業形態：演習

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 韓国語を用いて、さまざまな状況や文脈の中で韓国人と効果的にコミュニケーションを取るために必要な語学的、文化・社会的知識を身につけることを目指します。<br>多文化主義的な視点から、韓国語の背景となる韓国文化に対する認識の幅を広げ、理解を深めます。 |
| **教育内容** | 韓国語入門者を対象に、韓国語の文字・発音から、基礎レベルの「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能を指導します。<br>韓国語を使って、簡単な自己紹介をはじめ、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、身近で簡単な日常表現や基礎的な語彙、文法などについて理解し、実際にやりとりを行います。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>講義、ペアワーク、グループワーク、個人発表（プレゼンテーション）、課題<br>【フィードバックの方法】<br>各単元の初めに語彙や文法のワークシートを配布し、単元終了後に提出します。提出されたワークシートは添削し、答えとともに返却します。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間:30時間】<br>予習：テキストの音源を聞き、各単元の新しい語彙の読み方を確認しておくと、授業がスムーズに進みます。<br>復習：授業で扱わなかった練習問題（教科書やワークシートの既習課にある問題）は宿題として出題します。また、各単元ごとに小テストを実施し、その対策として復習を促します。さらに、既習課を定期試験の出題範囲として復習を促します。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 鄭　賢熙 | 文字１ | ハングルの仕組み<br>母音字①（短母音） |
| 2 | 鄭　賢熙 | 文字２ | 子音字①（鼻音・流音・平音）<br>「ちょこっと話してみよう！韓国語」 |
| 3 | 鄭　賢熙 | 文字３ | 母音字②（二重母音字）<br>「ちょこっと話してみよう！韓国語」 |
| 4 | 鄭　賢熙 | 文字４ | 子音字②(激音、濃音)<br>「ちょこっと話してみよう！韓国語」 |
| 5 | 鄭　賢熙 | 文字５ | 終声子音字（パッチム）<br>「ちょこっと話してみよう！韓国語」 |
| 6 | 鄭　賢熙 | 文字６ | 文字の復習<br>発音規則（連音化など）<br>「ちょこっと話してみよう！韓国語」 |
| 7 | 鄭　賢熙 | 第１課　안녕하세요? こんにちは。 | 語彙（国＆人、職業）<br>文法（～は、～です、～ですか）<br>「ちょこっと話してみよう！韓国語」 |
| 8 | 鄭　賢熙 | 第１課　안녕하세요? こんにちは。 | 表現（～はどこの国の人ですか、出身地を伝え合おう）<br>文法（否定形～ではありません）<br>「ちょこっと話してみよう！韓国語」 |
| 9 | 鄭　賢熙 | 第２課　콘서트장에 가요. コンサート会場に行きます。 | 語彙（色々な名詞、動詞①）<br>文法（用言の活用「해요」体、～を）<br>「ちょこっと話してみよう！韓国語」 |
| 10 | 鄭　賢熙 | 第２課　콘서트장에 가요. コンサート会場に行きます。 | 語彙（場所①）<br>文法（～に行く/来る、用言の「안」否定形）<br>「ちょこっと話してみよう！韓国語」 |
| 11 | 鄭　賢熙 | 第３課　어디에 있어요? どこにありますか。 | 語彙（教室のもの）<br>文法［～がある（いる）・ない（いない）］ |
| 12 | 鄭　賢熙 | 第３課　어디에 있어요? どこにありますか。 | 語彙（位置）<br>文法［～にある（いる）・ない（いない）］<br>タスク活動（教室や部屋の様子を説明する） |
| 13 | 鄭　賢熙 | プレゼンテーションの準備 | 前期の内容を基に、自己紹介の作文を作成する |
| 14 | 鄭　賢熙 | まとめ | 復習 |
| 15 | 鄭　賢熙 | 説明と確認 | 質問に応じて説明を行い、その理解度を確認する |
| 16 | 鄭　賢熙 | 発表 | 自己紹介のプレゼンテーション |
| 17 | 鄭　賢熙 | 第４課　수능이 언제예요? スヌンはいつですか。 | 語彙（漢字語数詞、月＆日、曜日＆週）<br>文法（数を尋ねる） |
| 18 | 鄭　賢熙 | 第４課　수능이 언제예요? スヌンはいつですか。 | 文法［～に（時間）］<br>タスク活動（一週間のスケジュールを伝え合う） |
| 19 | 鄭　賢熙 | 第５課　동아리는 몇 시부터예요? サークルは何時からですか。 | 語彙（固有語数詞、時＆分）<br>文法（時間を伝え合う） |
| 20 | 鄭　賢熙 | 第５課　동아리는 몇 시부터예요? サークルは何時からですか。 | 語彙（動詞②）<br>文法（から　～まで）<br>タスク活動（私の一日について紹介する） |
| 21 | 鄭　賢熙 | 第６課　아메리카노 두 잔 주세요. アメリカ―ノ2杯ください。 | 語彙（品物と単位名詞、貨幣）<br>文法（用言の活用「합니다」体） |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 22 | 鄭　賢熙 | 第６課　아메리카노 두 잔 주세요. アメリカ―ノ2杯ください。 | 文法（～と①、ください）<br>タスク活動①（友だちをインタビューする）<br>タスク活動②（お店で注文する） |
| 23 | 鄭　賢熙 | 第７課　주말에 친구하고 같이 점심을 먹었어요. 週末に友だちとお昼を食べました。 | 語彙（形容詞、動詞③）<br>文法（用言の過去形、～と②） |
| 24 | 鄭　賢熙 | 第７課　주말에 친구하고 같이 점심을 먹었어요. 週末に友だちとお昼を食べました。 | 文法（～で）<br>タスク活動（過去のことについて話し合う） |
| 25 | 鄭　賢熙 | 第８課　이건 우리 가족 사진이에요. これは、私の家族写真です。 | 語彙（家族、趣味）<br>文法（～の、この、その、あの） |
| 26 | 鄭　賢熙 | 第８課　이건 우리 가족 사진이에요. これは、私の家族写真です。 | タスク活動（架空の家族紹介） |
| 27 | 鄭　賢熙 | 第９課　여름 방학 때 서울에 갈 거예요. 夏休みのとき、ソウルに行くつもりです。 | 語彙（場所②、動詞④）<br>文法（～するつもりです、～も） |
| 28 | 鄭　賢熙 | 第９課　여름 방학 때 서울에 갈 거예요. 夏休みのとき、ソウルに行くつもりです。 | 文法（～たいです）<br>タスク活動（週末や休みの計画について話し合う） |
| 29 | 鄭　賢熙 | まとめ | 復習 |
| 30 | 鄭　賢熙 | 説明と確認 | 質問に応じて説明を行い、その理解度を確認する |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 授業の目的を達成するために、次のような目標を設定します。<br>１．ハングル字母の読み書きができる。<br>２．挨拶表現及び教室で使う表現を知り、状況に合わせて使うことができる。<br>３．韓国語で自己紹介ができ、基礎的な個人身上についてやりとりができる。<br>４．コミュニケーションが行われる目的や場面、状況によって身近で簡単な日常表現と基礎的である語彙や文法を理解して使うことができる。<br>５．相手の助けを求めながら自分の考えや気分を伝えたり、簡単なやりとりができる。<br>６．韓国語とその背景にある韓国文化について理解し、他者を配慮しながら主体的にコミュニケーションできる態度を涵養することができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：筆記試験 実施時期：試験期間外<br>１）定期試験（50%）<br>２）単元の小テスト（20%）<br>３）作文・プレゼンテーション（10%）<br>４）宿題（10%）：授業中、教科書やワークシートで扱っていない練習問題を実施すること<br>５）平常点（10%）：授業で積極的に発言し、ペアワークにも積極的に参加すること |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | ＊前期（1回～15回）の授業では、ハングル字母の読み書きから始めます。授業中には、音声や音節の構造など、日本語との違いや類似点を発見しながら学習を進めてください。また、文字を覚えて使えるようになるためには、授業時間外での学習が必要です。前回の内容を復習して忘れないようにすれば、無理なくついていけると思います。後期（16回～30回）も前期と同様に、授業中に集中して学習し、復習をすることが求められます。さらに、積極的にペアワークを行うことが大切です。<br>＊授業スケジュールは進行状況によって変更される場合があります。<br>なお、本講義の定員は30名です。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **教科書** | おっハングル | 鄭 賢熙（チョン・ヒョンヒ）、チョ・ヒチョル | 駿河台出版社 | 2000円＋税 |

# 薬 学 2 群 科 目

科 目 名　**化学（Chemistry）**
科目概要　**１年前期　必修(薬学科、生命創薬科学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎牧野一石(医薬品化学・教授)**
開講日等　**A，B，C，D，Sクラス：月曜日５時限**
　　**A，B，C，D，Sクラス：金曜日３時限**
そ の 他　**〔科目ナンバリング：PP201-CH01，PL201-CH01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

「化学」は原子や分子が相互作用し、あらたな物質が生み出される変化を説明する学問である。現在では原子や分子が引き起こす化学的変化を予測し、自在に制御することが可能となる時代となった。薬学部において、新薬の開発や医薬品の薬理活性、さらには生命現象や疾病を原子・分子レベルで理解するために「化学」は必須の学問である。
本講義では、原子や分子の物理化学的性質や反応性を理解するために、原子の電子配置の変化にもとづく化学結合の形成や分子の立体化学についての基本事項を修得する。
科目の位置付け：化学系専門科目
この科目は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の薬学科④、生命創薬科学科①に関連する。

**教育内容**

物質の構成単位である原子は、原子核と電子からなる。電子が原子にどのように収容されるかを知ることで、原子の性質を理解することができる。本講義では、原子の電子配置と分子を形成する際の化学結合の形成について解説する。
また、薬の多くは有機化合物（炭素を含む分子）である。分子の構造は紙面上に二次元で描かれているが、実際には三次元的に広がった構造（立体構造）をしている。それは、炭素の４本の手は中心から正四面体の頂点に伸びているからである。分子に不斉炭素（炭素の４本の手にすべて異なる原子や原子団が結合）があるとき立体異性体が生じる。薬学の中心となる薬（有機化合物）と生体成分との関係について化学的な視点でとらえるとき、立体化学（立体異性体）の理解が必要である。ここでは、立体異性体（エナンチオマー、ジアステレオマーなど）の見分け方、分類および物理的・化学的性質について、また医薬品の薬理活性や副作用がその立体構造に影響されうることを講義する。

授業終了時に課した課題については、次回の授業前日までに回収し、授業開始時に模範解答・解説を配布，またはWeb動画にて解説する。

**学習の到達目標**

A: 原子に関する用語を理解し、結合・線式での化学構造式の書くことができるようになることで、医薬品や生理活性物質を分子として認識ができるようになる。
B:化学結合であるイオン結合、共有結合、金属結合、配位結合を理解することで、原子間にどのような引き合う力が働くのか知ることができるようになる。
C:共鳴の概念や電子の動きを理解することで、化学結合の性質や反応機構の基礎を説明できるようになる。
D:原子軌道と混成軌道の概念を理解することで、分子の三次元構造を説明できるようになる。
E:有機化合物が三次元構造であることを理解し、立体配置と立体配座の違いを説明できるようになる。
F:キラリティと光学活性の関係を説明でき、絶対立体配置を決定できるようになる。
G:立体異性体（エナンチオマー、ジアステレオマー、ラセミ体、メソ体）の特徴や関係性、さらに医薬品の立体構造が、主作用・副作用など体内動態に影響することを説明できるようになる。
H:破線-くさび系表記、ニューマン投影式及びフィッシャー投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができるようになる。

**教育方法**

パワーポイントと配布資料を活用しながら講義形式ですすめる。また、分子を立体的に見えるようにするために、分子模型を用いて実際に分子を組み立てる。
課題の模範解答については、次回の授業時に解答ならびに解説をプリントしたものを配布または動画にて解説する。質問は常時受け付ける（メール対応可）。
対面授業として実施する。（収録動画等配信なし）

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 化学と薬学，原子の構造 | 牧野　一石 | 4/11③ | 薬学の基礎としての化学の重要性を理解し、化学構造式の意味を学ぶ。<br>原子の構造、質量数、原子量、同位体、原子番号、価電子、貴ガス、オクテット則について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスと教科書に目を通しておく。<br>【復習】課題を行ない、原子の構造について理解を深める。<br>【到達目標】Aに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2 | 化学結合① | 牧野　一石 | 4/14⑤ | 原子間結合であるイオン結合と共有結合について学ぶ。<br>電気陰性度に基づいてイオン結合と共有結合の連続性について学ぶ。<br>ルイス構造式、形式電荷について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスと教科書に目を通しておく。<br>【復習】課題を行ない、イオン結合と共有結合，形式電荷について理解を深める。<br>【到達目標】Bに関連する。 |
| 3 | 原子の電子配置① | 牧野　一石 | 4/18③ | オクテット則を満たさない分子の例を列挙し、その理由を学ぶ。<br>ルイス酸、ルイス塩基について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスと教科書に目を通しておく。<br>【復習】課題を行ない、ルイス酸・ルイス塩基について理解を深める。<br>【到達目標】Dに関連する。 |
| 4 | 原子の電子配置② | 牧野　一石 | 4/21⑤ | 「カーブした矢印」で電子の流れを表し、共鳴理論について学ぶ。<br>原子間結合である金属結合、配位結合について学ぶ。<br>イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスと教科書に目を通しておく。<br>【復習】課題を行ない、「カーブした矢印」で電子の流れを表記できるようになる。<br>【到達目標】Cに関連する。 |
| 5 | 化学結合② | 牧野　一石 | 4/25③ | 原子軌道（電子軌道）を構成する殻（K殻，L殻，M殻，N殻）と、副殻（s軌道，p軌道，d軌道）について学ぶ。<br>組立て原理、パウリの排他原理、フントの規則について学ぶ。<br>原子の電子配置について学ぶ。<br>量子論に基づた電子の「波」と「粒子」の二重性について学ぶ。<br>原子価結合法（VB法）と分子軌道法（MO法）について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスと教科書に目を通しておく。<br>【復習】課題を行ない、原子の電子配置について理解を深める。<br>【到達目標】Dに関連する。 |
| 6 | 化学結合③ | 牧野　一石 | 4/28⑤ | メタン、エタン、アセチレンの立体構造と混成軌道（sp3混成軌道，sp2混成軌道，sp混成軌道）について学ぶ。<br>二重結合の幾何異性（E / Z表示）について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスと教科書に目を通しておく。<br>【復習】課題を行ない、炭素の混成軌道について理解を深める。<br>【到達目標】Dに関連する。 |
| 7 | 化学結合④ | 牧野　一石 | 5/2③ | 水、アンモニア、三フッ化ホウ素、二酸化炭素の立体構造と混成軌道について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスと教科書に目を通しておく。<br>【復習】課題を行ない、酸素や窒素、ホウ素混の成軌道について理解を深める。<br>【到達目標】Dに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 8 | 化学結合⑤ | 牧野　一石 | 5/9③ | メチルカチオン、メチルアニオン、メチルラジカルの立体構造と混成軌道について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスと教科書に目を通しておく。<br>【復習】課題を行ない、メチルカチオン、メチルアニオン、メチルラジカルの炭素の混成軌道について理解を深める。<br>【到達目標】Dに関連する。 |
| 9 | 分子の性質 | 牧野　一石 | 5/12⑤ | 分子間相互作用であるイオン間力、双極子－双極子相互作用、水素結合、分散力（London力）、疎水性相互作用、イオン－双極子相互作用、電荷移動錯体（CT complex）について学ぶ。<br>物質の沸点および水への溶解度と分子間相互作用について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスと教科書に目を通しておく。<br>【復習】課題を行ない、分子間相互作用について理解を深める。<br>【到達目標】Aに関連する。 |
| 10 | 立体化学① | 牧野　一石 | 5/26⑤ | 構造異性体と立体異性体について学ぶ。<br>キラリティーの概念を理解し、エナンチオマーについて学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスと教科書に目を通しておく。<br>【復習】課題を行ない、キラルとアキラルの区別、エナンチオマーの関係にあるものを見つけられるようにする。<br>【到達目標】E、F、Gに関連する。 |
| 11 | 立体化学② | 牧野　一石 | 5/30⑤ | 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点（とくに立体構造）について学ぶ。<br>絶対立体配置（R/S）の決め方を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスと教科書および配布資料の該当ページに目を通しておく。<br>【復習】課題を行ない、キラル中心の絶対立体配置を決められるようにする。<br>【到達目標】E、F、Gに関連する。 |
| 12 | 立体化学③ | 牧野　一石 | 6/2⑤ | ジアステレオマー、ラセミ体、メソ化合物について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスと教科書および配布資料の該当ページに目を通しておく。<br>【復習】課題を行ない、ジアステレオマーの関係、ラセミ体およびメソ化合物を見つけられるようにする。<br>【到達目標】E、F、Gに関連する。 |
| 13 | 立体化学④ | 牧野　一石 | 6/6③ | 三次元分子をフィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて二次元で表現する方法を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスと教科書および配布資料の該当ページに目を通しておく。<br>【復習】課題を行ない、三次元構造式ーフィッシャー投影式ーニューマン投影式を相互に変換できるようにする。<br>【到達目標】F、G、Hに関連する。 |
| 14 | 立体化学⑤ | 牧野　一石 | 6/9⑤ | 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について学ぶ。<br>二置換シクロヘキサンの立体異性について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスと教科書および配布資料の該当ページに目を通しておく。<br>【復習】課題を行ない、置換シクロヘキサンの異性体についての理解を深める。<br>【到達目標】E、F、Gに関連する。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **定期試験** | 講義内容およびソロモンの新有機化学Ⅰ第11版の問題から出題する。試験（100%）として評価する。 |
| **その他** | 課題の提出は必須とする。未提出の場合は単位を修得できません。 |

**学生へのメッセージ**

混成軌道や共鳴理論、「カーブした矢印」で電子の流れを表すことは大学の「化学」で初めて学ぶ概念になります。時間をかけて丁寧に説明しますので注意して聴講するようにしてください。
はじめは分子を平面ではなく立体的に捉えることは難しいですが、分子模型を用いて、分子を三次元的に見えるようにしていきます。

**準備学習(予習・復習）・その他**

【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】
予習として教科書や配布資料を読んでおくこと。講義終了後には復習として教科書の問題演習および課題演習をすること。
復習の方法としては課題問題や「ソロモンの新有機化学第9版上」の補充問題を解くこと。さらに、以下に示した複数の参考書（図書館に所蔵，個人で購入する必要はありません）を通読することを薦める。
立体化学を理解するには、分子を分子模型を用いて組み立て、動かし、眺めることを薦める。

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | 薬学有機化学と無機化学の基本（２年次前期医薬品化学実習，3年次前期医薬品構造学Iでも使用する。） | 牧野一石 | 京都廣川書店 |
| **教科書** | ソロモンの新有機化学Ⅰ第11版（2年次後期まで継続して教科書として使用する。） | ソロモン著　花房、奥山、上西、池田　監訳 | 廣川書店 |
| **教科書** | 分子模型セット（化学に関するすべての講義で使用する。） | | |
| **参考書** | 薬学教室へようこそ いのちを守るクスリを知る旅（ブルーバックス） | 二井 將光 | 講談社 |
| **参考書** | 基礎有機化学 | 小林進、三巻祥浩　編 | 培風館 |
| **参考書** | ベーシック薬学教科書シリーズ5 有機化学 | 夏苅英昭、高橋秀依　編 | 化学同人 |
| **参考書** | スミス基礎有機化学第3版　上 | Smith J. G. | 化学同人 |
| **参考書** | 無機化合物・錯体-生物無機化学の基礎-第3版 | 梶英輔　編 | 廣川書店 |
| **参考書** | 第6版ボルハルト・ショアー現代有機化学　上 | 古賀憲司、野依良治、村橋俊一監訳 | 化学同人 |
| **参考書** | ブルース有機化学第7版　上 | Bruice, P. Y. | 化学同人 |
| **参考書** | ジョーンズ有機化学第5版　上 | Jones, Jr. M. | 東京化学同人 |
| **参考書** | 立体化学の基礎 | Morris, D.G. 著、石川勉 訳 | 化学同人 |
| **参考書** | よくある質問　立体化学入門 | 竹内敬人 | 講談社サイエンティフィク |
| **参考書** | 有機化学　1000本ノック【立体化学編】 | 矢野将文 | 化学同人 |

科 目 名　**基礎有機化学（Fundamental Organic Chemistry）**
科目概要　**１年前期　必修(薬学科、生命創薬科学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎長光亨(薬品製造化学・教授）有馬志保(薬品製造化学・助教)**
開講日等　**A，B，C，D，Sクラス：月曜日５時限**
　　**A，B，C，D，Sクラス：金曜日３時限**
そ の 他　**〔科目ナンバリング：PP201-CH01，PL201-CH01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

薬剤師は医師や看護師と異なり、有機化学に精通し、医療現場で医薬品の構造を理解し、その化学的性質等を理解できる唯一の存在である。また創薬開発において、有機化学者は医薬品候補化合物の創製に欠かせない存在である。本講義では、その有機化学を今後深く理解できるようになるために、必要な基礎知識（命名法、立体配座、酸・塩基、ハロゲン化アルキルの求核置換反応及び脱離反応）を修得する。
科目の位置付け：化学系専門科目
この科目は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の薬学科④、生命創薬科学科①に関連する。

**教育内容**

今後大学で有機化学を広く、深く理解するために必要な有機化学の基礎的な内容を講義する。

**学習の到達目標**

A：代表的なアルカン、アルケン及びアルキンをIUPAC の規則に従って命名することができ、関連する他の化合物の命名にも応用することができる。
B：エタン、ブタン及びシクロヘキサンの立体配座を理解し、その安定性について説明することができる。
C：代表的な化合物やイオンの共鳴構造と電子の移動を示す矢印を書くことができ、非局在化による化合物やイオンの安定化が様々な化学的性質に影響を与えることを理解できる。
D：ブレンステッド酸・塩基及びルイス酸・塩基を正しく判断でき、様々な酸塩基反応が生じることを理解できる。
E：酸性度定数、pKa値、電気陰性度、結合の強さ等々から酸、塩基の強さを判断することができ、様々な酸塩基反応に応用して化学的に理解できる。
F：求核置換反応（SN1とSN2）及び脱離反応（E1とE2）における脱離基と求核剤（または塩基）の化学的性質（脱離能及び求核性（または塩基性）など）を理解できる。
G：求核置換反応及び脱離反応の反応機構を理解して電子の移動を示す曲がった矢印を用いて示すことができる。
H：求核置換反応及び脱離反応を理解し、生体内反応として生じていることや、医薬品合成中に実際に利用されていることを理解できる。

**教育方法**

基本講義形式（対面）で進める。適宜講義中に問題を提示するので友人らと討議してもらい、その後解説を行う。適宜課題も与え（指定された日時までに提出）、提出日後の講義（Google classroom内への投稿を含む）で解答を配付するとともに、重要な問題や正答率の低い問題について解説を行う。
対面授業として実施する。（収録動画の配信なし）

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 命名法① | 有馬　志保 | 5/16③ | アルカンの基本的な性質及びIUPAC命名法について学ぶ。<br>【予習】前もって配布する講義補助資料およびソロモンの新有機化学 I に目を通しておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、命名について自分で調べ考える。<br>【到達目標】Aに関連する。 |
| 2 | 命名法②　立体配座① | 有馬　志保 | 5/19⑤ | アルケン及びアルキンのIUPAC命名法について学ぶ。<br>分子模型を使って、分子の三次元構造（混成軌道）を確認して、エタン及びブタンの立体配座とその安定生にについて学ぶ。<br>【予習】前もって配布する講義補助資料およびソロモンの新有機化学 I に目を通しておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、命名と立体配座について自分で調べ考える。<br>【到達目標】A、Bに関連する。 |
| 3 | 立体配座② | 有馬　志保 | 5/23③ | 分子模型を使って、シクロヘキサンの立体配座とその安定性について学ぶ。<br>【予習】前もって配布する講義補助資料およびソロモンの新有機化学 I に目を通しておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、立体配座について自分で調べ考える。<br>【到達目標】Bに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 酸・塩基① | 長光　亨 | 6/13③ | 反応機構における曲がった矢印について学ぶ。<br>【予習】前もって配布する講義補助資料およびソロモンの新有機化学 I に目を通しておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、関連する反応の反応機構について自分で調べ考える。<br>【到達目標】C、Dに関連する。 |
| 5 | 酸・塩基② | 長光　亨 | 6/16⑤ | ブレンステッド・ローリーの酸塩基について学ぶ。<br>【予習】前もって配布する講義補助資料およびソロモンの新有機化学 I に目を通しておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、ブレンステッド・ローリーの酸塩基について自分で調べ考える。<br>【到達目表】C、D、Eに関連する。 |
| 6 | 酸・塩基③ | 長光　亨 | 6/20③ | 酸の強さと pKa について学ぶ。<br>【予習】前もって配布する講義補助資料およびソロモンの新有機化学 I に目を通しておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、酸の強さと pKa について自分で調べ考える。<br>【到達目標】C、D、Eに関連する。 |
| 7 | 酸・塩基④ | 長光　亨 | 6/23⑤ | ルイス酸塩基について学ぶ。<br>【予習】前もって配布する講義補助資料およびソロモンの新有機化学 I に目を通しておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、ルイス酸塩基について自分で調べ考える。<br>【到達目標】C、D、Eに関連する。 |
| 8 | 脱離基 | 長光　亨 | 6/27③ | 脱離基及び脱離能について学ぶ。<br>【予習】前もって配布する講義補助資料およびソロモンの新有機化学 I に目を通しておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、脱離基及び脱離能について自分で調べ考える。<br>【到達目標】F、Gに関連する。 |
| 9 | 求核試薬 | 長光　亨 | 6/30⑤ | 求核性について学ぶ。<br>【予習】前もって配布する講義補助資料およびソロモンの新有機化学 I に目を通しておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、求核性について自分で調べ考える。<br>【到達目標】F、Gに関連する。 |
| 10 | ハロゲン化アルキルの求核置換反応① | 長光　亨 | 7/4③ | SN2 反応ついて学ぶ。<br>【予習】前もって配布する講義補助資料およびソロモンの新有機化学 I に目を通しておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、SN2 反応について自分で調べ考える。<br>【到達目標】F、G、Hに関連する。 |
| 11 | ハロゲン化アルキルの求核置換反応② | 長光　亨 | 7/7⑤ | SN2 反応ついて学ぶ。<br>【予習】前もって配布する講義補助資料およびソロモンの新有機化学 I に目を通しておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、SN2 反応について自分で調べ考える。<br>【到達目標】F、G、Hに関連する。 |
| 12 | ハロゲン化アルキルの求核置換反応③ | 長光　亨 | 7/11③ | SN1 反応ついて学ぶ。<br>【予習】前もって配布する講義補助資料およびソロモンの新有機化学 I に目を通しておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、SN1 反応について自分で調べ考える。<br>【到達目標】F、G、Hに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 13 | ハロゲン化アルキルの脱離反応①② | 長光　亨 | 7/14⑤ | E2 反応及びE1 反応ついて学ぶ。<br>第8回から第13回までの内容の総合問題演習も行う。<br>【予習】前もって配布する講義補助資料およびソロモンの新有機化学 I に目を通しておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、E2 反応及びE1 反応について自分で調べ考える。<br>【到達目標】F、G、Hに関連する。 |
| 14 | 予備日 | 長光　亨 | 7/21⑤ | 予備日 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **定期試験** | 定期試験（95%） |
| **授業** | 課題（5%） |
| **その他** | 適宜講義内で演習問題を解いてもらう。その際、友人らとディスカッションしながら解答を導き出すこと。<br>不定期ではあるが、課題も課すので、定められた日時までに提出すること。<br>学生からの講義内容の質問、演習問題及び課題については、適宜講義内で解説をする。<br>正当な理由なき欠席及び遅刻は減点する。 |

**学生へのメッセージ**

大学の有機化学系の講義では、数多くの反応を通じて、様々な化合物の反応性（物理化学的な性質）を学んでいくことになります。数多くの反応を理解するためには、丸暗記だけでは対処しきれません。ぜひ、なぜそのような結果を与えたのか、すなわち、「理由」も合わせて覚えてください。その「理由」に相当するのが、「反応機構」です。今後皆さんが学ぶ反応が数多くあっても、実は反応機構は（一部）そっくりという反応は多いのです。反応機構をしっかりおさえておけば、反応に関して覚える量も減り、それぞれの理解も非常に深まるはずです。ぜひ試してみてください。

**準備学習(予習・復習）・その他**

【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】
① 毎回ソロモンの新有機化学 I の該当する範囲を予習してから講義に臨むこと。
② 配布する資料も熟読し、講義に出席すること。
③ 毎回講義内容についてしっかり復習をすること（配布資料、ノート等を見直すこと。演習問題を繰り返し解いてみること）。
④ 講義の初回に質問専用のメールアドレスを知らせるので、分からない点については積極的に質問して理解すること。

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | ソロモンの新有機化学（Ⅰ、Ⅱ） | 花房昭静、池田正澄、上西潤一　監訳 | 廣川書店 |
| **教科書** | 配布資料 | | |
| **教科書** | 分子模型セット | | |
| **参考書** | スミス基礎有機化学　上 | Janice Gorzynski Smith 著、山本　尚 監訳 | 化学同人 |
| **参考書** | 有機化学 （ベーシック薬学教科書シリーズ 5） | 夏苅 英昭、高橋 秀依 （著、編集） | 化学同人 |

科 目 名　**代数学（Linear Algebra）**
科目概要　**１年後期　必修(薬学科、生命創薬科学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎酒井祐貴子(一般教育部) 宮崎直(一般教育部)**
開講日等　**A，S1クラス：木曜日３時限**
**B，S2クラス：木曜日３時限**
**C，S3クラス：木曜日４時限**
**D，S4クラス：木曜日４時限**
そ の 他　**〔科目ナンバリング：PP201-IM01，PL201-IM01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

自然現象・社会現象は、線形化されたモデルを用いることにより、ベクトル・行列の理論が適用でき、その理解が容易になることが多い。この講義では、ベクトル・行列、更には線形空間について理解をするために、ベクトル・行列の計算、それらの特性値（固有値や固有ベクトル）の計算、そして線形空間の一般論などを修得する。
科目の位置付け：数理・情報系専門科目
この科目は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の薬学科④、生命創薬科学科①に関連する。

**教育内容**

前半の講義では行列の演算、基本的性質の説明から始め、行列を用いた連立1次方程式の解法や行列式の計算、基本的性質について講義する。後半の講義では線形空間や線形写像といった抽象的な数学の概念を紹介しながら、固有値と固有ベクトルの理論、対称行列の対角化について説明する。

**学習の到達目標**

A: 行列の基本事項を理解し、演算や基本的な行列の定義や性質を説明できる。
B: 連立一次方程式を行の基本変形により解くことができる。
C: 行列式の定義や性質が説明でき、行列式の性質を利用して、行列式を工夫して計算できる。
D: 連立一次方程式の解と行列の階数の関係が理解できる。
E: 線形空間に関する基本事項を理解し、定義を説明できる。
F: 固有値と固有ベクトルの概念を理解し、正方行列や実対称行列の対角化ができる。

**教育方法**

主に、板書を使った対面での講義形式で行い、講義時間内に演習の時間を設ける。担当教員によっては授業内で提出を伴う課題を課したり、小テストを行ったりすることがある。課題や小テストは採点の上、次回の講義で返却し、適宜解説を行う。対面授業として実施する。（収録動画等配信なし）

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 行列とベクトル（1） | 酒井　祐貴子<br>宮崎　直 | 9/11③④ | ベクトル、行列の定義、及びその基本的な演算方法を学ぶ。<br><br>【予習】<br>シラバスの確認<br><br>【復習】<br>ノートおよび配布資料に基づいた講義内容の復習<br><br>【到達目標】Aに関連する。 |
| 2 | 行列とベクトル（2） | 酒井　祐貴子<br>宮崎　直 | 9/18③④ | 単位行列、逆行列、対称行列、直交行列の定義や意味、及び性質を学ぶ。<br><br>【予習】<br>シラバスおよび配布資料に基づいた講義内容の確認<br><br>【復習】<br>ノートおよび配布資料に基づいた講義内容の復習<br><br>【到達目標】Aに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 連立1次方程式（1） | 酒井　祐貴子<br>宮﨑　直 | 9/25③④ | 行の基本変形の原理を理解し、行の基本変形を用いた連立1次方程式の解法を学ぶ。<br><br>【予習】<br>シラバスおよび配布資料に基づいた講義内容の確認<br><br>【復習】<br>ノートおよび配布資料に基づいた講義内容の復習<br><br>【到達目標】Bに関連する。 |
| 4 | 連立1次方程式（2） | 酒井　祐貴子<br>宮﨑　直 | 10/2③④ | 行列の階数の概念を学び、連立1次方程式の解と行列の階数の関係を理解する。<br><br>【予習】<br>シラバスおよび配布資料に基づいた講義内容の確認<br><br>【復習】<br>ノートおよび配布資料に基づいた講義内容の復習<br><br>【到達目標】B、Dに関連する。 |
| 5 | 連立1次方程式（3） | 酒井　祐貴子<br>宮﨑　直 | 10/9③④ | 行の基本変形と基本行列の関係を理解し、行の基本変形を用いて逆行列を求める方法を学ぶ。<br><br>【予習】<br>シラバスおよび配布資料に基づいた講義内容の確認<br><br>【復習】<br>ノートおよび配布資料に基づいた講義内容の復習<br><br>【到達目標】Bに関連する。 |
| 6 | 行列式（1） | 酒井　祐貴子<br>宮﨑　直 | 10/16③④ | 行列式の定義を学び、2次、3次の行列式の計算演習を行う。<br><br>【予習】<br>シラバスおよび配布資料に基づいた講義内容の確認<br><br>【復習】<br>ノートおよび配布資料に基づいた講義内容の復習<br><br>【到達目標】Cに関連する。 |
| 7 | 行列式（2） | 酒井　祐貴子<br>宮﨑　直 | 10/23③④ | 行列式の性質を理解し、行列式の性質を利用して、行列式を工夫して計算する方法を学ぶ。<br><br>【予習】<br>シラバスおよび配布資料に基づいた講義内容の確認<br><br>【復習】<br>ノートおよび配布資料に基づいた講義内容の復習<br><br>【到達目標】Cに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 8 | 行列式（3） | 酒井　祐貴子<br>宮﨑　直 | 10/30③④ | 余因子展開の方法を学び、それを応用して行列式を計算できるよう総合演習を行う。<br><br>【予習】<br>シラバスおよび配布資料に基づいた講義内容の確認<br><br>【復習】<br>ノートおよび配布資料に基づいた講義内容の復習<br><br>【到達目標】Cに関連する。 |
| 9 | 行列式（4） | 酒井　祐貴子<br>宮﨑　直 | 11/6③④ | クラメルの公式による連立1次方程式の解法を学ぶ。行列式と連立1次方程式についての総合演習を行う。<br><br>【予習】<br>シラバスおよび配布資料に基づいた講義内容の確認<br><br>【復習】<br>ノートおよび配布資料に基づいた講義内容の復習<br><br>【到達目標】B、C、Dに関連する。 |
| 10 | 線形空間（1） | 酒井　祐貴子<br>宮﨑　直 | 11/13③④ | 線形空間と部分空間の定義を理解する。ベクトルの1次独立、1次従属の定義、及びその判定法を学ぶ。<br><br>【予習】<br>シラバスおよび配布資料に基づいた講義内容の確認<br><br>【復習】<br>ノートおよび配布資料に基づいた講義内容の復習<br><br>【到達目標】Eに関連する。 |
| 11 | 線形空間（2） | 酒井　祐貴子<br>宮﨑　直 | 11/20③④ | 線形空間の基底と次元の定義、及び一次変換の簡単な例について学ぶ。<br><br>【予習】<br>シラバスおよび配布資料に基づいた講義内容の確認<br><br>【復習】<br>ノートおよび配布資料に基づいた講義内容の復習<br><br>【到達目標】Eに関連する。 |
| 12 | 固有値とその応用（1） | 酒井　祐貴子<br>宮﨑　直 | 11/27③④ | 固有値と固有ベクトルの定義を理解した上で計算演習を行う。<br><br>【予習】<br>シラバスおよび配布資料に基づいた講義内容の確認<br><br>【復習】<br>ノートおよび配布資料に基づいた講義内容の復習<br><br>【到達目標】Fに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 13 | 固有値とその応用（2） | 酒井　祐貴子<br>宮﨑　直 | 12/4③④ | 正方行列の対角化について学ぶ。<br><br>【予習】<br>シラバスおよび配布資料に基づいた講義内容の確認<br><br>【復習】<br>ノートおよび配布資料に基づいた講義内容の復習<br><br>【到達目標】Fに関連する。 |
| 14 | 固有値とその応用（3） | 酒井　祐貴子<br>宮﨑　直 | 12/11③④ | 実対称行列の直交行列による対角化、及び2次形式への応用について学ぶ。<br><br>【予習】<br>シラバスおよび配布資料に基づいた講義内容の確認<br><br>【復習】<br>ノートおよび配布資料に基づいた講義内容の復習<br><br>【到達目標】Fに関連する。 |
| 15 | まとめ | 酒井　祐貴子<br>宮﨑　直 | ③④ | 授業内容のまとめを行う。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **定期試験** | 講義範囲から出題し、記述方式で行う。詳細は各担当者ごとに説明する。 |
| **授業** | 授業回数14回＋定期試験 |
| **その他** | 定期試験（85％）、授業内で行う小テストや演習問題（15％）で評価を行う。担当者により±5％程の配分の差がある。評価方法の詳細については1回目の授業時において担当者ごとに説明する。 |

**学生へのメッセージ**

授業内でも演習の時間は設けますが、その演習だけで全てを理解するのは不可能です。数学は自分の頭で考え、手を動かすことによって身に付きます。なるべく自分で手を動かし、わからない箇所に遭遇したら、どこまでわかってどこからわからないのかを自分で考えてみましょう。その上で疑問が生じた場合は積極的に質問してください。この講義を通して、自分で問題が解けることの楽しさ、理論を理解することの面白さを味わってもらいたいと思います。

**準備学習(予習・復習）・その他**

【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】
授業前にどのようなことを学ぶか教科書の該当部分に目を通しておく。担当者によっては講義内で演習問題や小テストを行うので、間違えた問題は次週までに解きなおし、理解しておくこと。また、教科書の問題を解くなど、自発的に十分な演習を行うことが望ましい。

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | 初めて学ぶ線形代数 | 宮﨑直、勝野恵子、酒井祐貴子 | 培風館 |
| **参考書** | 線型代数入門 | 齋藤正彦 | 東京大学出版会 |

科 目 名　**統計学（Biostatistics）**
科目概要　**１年後期　必修(薬学科、生命創薬科学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎道前洋史(臨床統計学・講師) 牛渡愛(臨床統計学・助教)**
開講日等　**A，B，C，D，Sクラス：金曜日３時限2301大講義室**
そ の 他　**〔科目ナンバリング：PP201-IM01，PL201-IM01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

授業の目的は、統計学の基礎知識と実践的な活用方法を修得し、薬学・医療分野における研究計画の立案や適切なデータ解析を実施できるようになることである。記述統計学及び推測統計学の実用例の紹介や適宜演習問題を実施することで統計学の理解を深める。
科目の位置付け：数理・情報系専門科目
この科目は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の薬学科④、生命創薬科学科①に関連する。

**教育内容**

第1回～5回では、データを整理・要約するために必要な記述統計学の知識とその活用方法を講義する。また、統計学の基礎となる確率論や確率分布の知識を講義する。第6回～第10回では、標本に基づいて母集団の特徴を推測するために、基礎的な推測統計学の知識とその活用方法を講義する。

**学習の到達目標**

A：記述統計を理解し、医療データを度数分布やヒストグラムを活用することで視覚的に捉えることができる。
B：記述統計を理解し、医療データを平均や分散など要約統計量を活用することで数値的に捉えることができる。
C：統計学の基礎となる確率論や確率分布（離散型・連続型）を理解できる。
D：統計的推測の3手法（点推定、区間推定、仮説検定）を理解できる。

**教育方法**

・パワーポイントと配布資料を用いて講義形式ですすめる。
・適宜練習問題を実施し、授業の中で解答を検討する。
・対面授業で実施する。

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | データの整理 | 道前　洋史 | 9/12③ | 度数分布表やヒストグラムを学ぶ。平均や分散など要約尺度を学ぶ。<br>予習は教科書を熟読の上、教科書の問題を解く。<br>復習は講義資料を熟読の上、講義資料の問題を解く。<br>【到達目標】A、Bに関連する。 |
| 2 | 確率１ | 道前　洋史 | 9/19③ | 集合と場合の数を学ぶ。事象と確率の関係を学ぶ。条件付き確率と乗法の定理を学ぶ。<br>予習は教科書を熟読の上、教科書の問題を解く。<br>復習は講義資料を熟読の上、講義資料の問題を解く。<br>【到達目標】Cに関連する。 |
| 3 | 確率２ | 道前　洋史 | 9/26③ | ベイズの定理と反復試行の確率を学ぶ。<br>予習は教科書を熟読の上、教科書の問題を解く。<br>復習は講義資料を熟読の上、講義資料の問題を解く。<br>【到達目標】Cに関連する。 |
| 4 | 確率分布１ | 道前　洋史 | 10/3③ | 確率変数と確率分布の関係を学ぶ。離散型確率分布、特に二項分布やポアソン分布を学ぶ。<br>予習は教科書を熟読の上、教科書の問題を解く。<br>復習は講義資料を熟読の上、講義資料の問題を解く。<br>【到達目標】Cに関連する。 |
| 5 | 確率分布２ | 道前　洋史 | 10/10③ | 連続型確率分布、特に正規分布を学ぶ。<br>予習は教科書を熟読の上、教科書の問題を解く。<br>復習は講義資料を熟読の上、講義資料の問題を解く。<br>【到達目標】Cに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 6 | 標本分布１ | 牛渡　愛 | 10/17③ | 母集団分布と標本分布の違いを学ぶ。中心極限定理を学ぶ。<br>予習は教科書を熟読の上、教科書の問題を解く。<br>復習は講義資料を熟読の上、講義資料の問題を解く。<br>【到達目標】C、Dに関連する。 |
| 7 | 標本分布２ | 牛渡　愛 | 11/7③ | 母比率と標本比率を学ぶ。標準正規分布とカイ2乗分布、t分布、F分布の関係を学ぶ。<br>予習は教科書を熟読の上、教科書の問題を解く。<br>復習は講義資料を熟読の上、講義資料の問題を解く。<br>【到達目標】C、Dに関連する。 |
| 8 | 推定 | 牛渡　愛 | 11/14③ | 点推定と区間推定の違いを学ぶ。<br>予習は教科書を熟読の上、教科書の問題を解く。<br>復習は講義資料を熟読の上、講義資料の問題を解く。<br>【到達目標】C、Dに関連する。 |
| 9 | 仮説検定１ | 牛渡　愛 | 11/21③ | 仮説検定の考え方を学ぶ。母平均の検定、母分散の検定、母比率の検定を学ぶ。<br>予習は教科書を熟読の上、教科書の問題を解く。<br>復習は講義資料を熟読の上、講義資料の問題を解く。<br>【到達目標】C、Dに関連する。 |
| 10 | 仮説検定２ | 牛渡　愛 | 11/28③ | 母平均の差の検定、等分散の検定、適合度の検定、独立性の検定を学ぶ。<br>予習は教科書を熟読の上、教科書の問題を解く。<br>復習は講義資料を熟読の上、講義資料の問題を解く。<br>【到達目標】C、Dに関連する。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **定期試験** | ・定期試験（100%）<br>・講義範囲から出題する。マークシート。持ち込みは関数電卓のみ。 |
| **授業** | ・授業回数10回＋定期試験。 |
| **その他** | ・定期試験の結果（100％）に基づいて評価する。 |

**学生へのメッセージ**

統計学での学習内容は、２年生前期の「薬学統計学」で学ぶ推測統計学の基本となるため、しっかり身に付けてください。

**準備学習(予習・復習）・その他**

【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】
・教科書の講義該当箇所をよく読んで予習し、必ず練習問題を解くこと。
・講義で配布したプリントをしっかり復習し、必ず練習問題を解くこと。
・分からない箇所は講義後、またはオフィスアワーなどを最大限利用して、必ず質問すること。

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | はじめての統計学 | 道家瑛幸・伊藤真吾・宮崎直・酒井祐貴子　共著 | コロナ社 |
| **参考書** | 確率・統計 | 岩佐学・薩摩順吉・林利治　共著 | 裳華房 |

科 目 名　**有機化学Ⅰ（Organic Chemistry Ⅰ）**
科目概要　**１年後期　必修(薬学科、生命創薬科学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎藤井秀明(生命薬化学・教授) 伊藤謙之介(生命薬化学・准教授)**
**水口貴章(生命薬化学・助教)**
開講日等　**A, B, S1, S2クラス：月曜日４時限**
**C, D, S3, S4クラス：月曜日３時限**
そ の 他　**〔科目ナンバリング：PP201-CH01, PL201-CH01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

薬剤師は薬物の構造と薬理作用の関係を十分理解し、医師に説明できる能力を修得する必要がある。
また、有機化学は薬学におけるすべての科目の基礎となる学問であり、生命の深い理解のために必要な学問である。
本講義では、医薬品の安定性、作用機序、薬物動態、および生体内における様々な酵素反応や生合成等を理解するため、さらには創薬研究（医薬品開発）のために重要な有機化学的知識であるアルケン・アルキンの性質と反応、ラジカル反応、およびアルコール・エーテル・チオールの性質と反応について理解し、修得する。
科目の位置付け：化学系専門科目
この科目は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の薬学科④、生命創薬科学科①に関連する。

**教育内容**

有機化学の基礎的な知識および概念のうち、主に脱離反応、求電子付加反応、およびラジカル反応に関して講義する。
化合物の性質および反応機構を理解することを通して、主生成物を論理的に説明する能力を修得する。

**学習の到達目標**

A：化合物を見て命名する、または逆に化合物名を見て構造式を書くことができる。
B：化合物の構造と安定性、酸性度の関係について説明できる。
C：脱離反応の反応機構を理解し、その特徴ついて説明できる。
D：求電子付加反応の反応機構を理解し、その特徴について説明できる。
E：反応物の構造（立体化学）または反応条件が主生成物の構造や反応効率に及ぼす影響について説明できる。
F：アルコール、エーテルおよびチオールの性質を理解し、種々の反応を説明できる。
G：イオンとラジカルの違いについて理解し、反応機構や主生成物の違いについて説明できる。
H：学んだ反応が、生体内化合物の生合成等に深くかかわっていることを理解できる。

**教育方法**

パワーポイントと配布資料を用いて、講義形式ですすめる。
分子模型を用いたり、反応機構の矢印の動きを書き示すことにより、視覚的に理解できるように説明を行う。
課題に対する全ての解答は、次回の講義資料に添付する。また、必要に応じて、次回の講義で課題中の特徴的な見解や誤解について解説する。
対面授業として実施する。（収録動画等配信なし）

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | アルケンとアルキン Ⅰ. 性質と合成① | 伊藤　謙之介 | 9/8③④ | アルケンやアルキンの命名を学ぶ。<br>二重結合、三重結合の安定性について学ぶ。<br>【予習】シラバスに目を通し、講義内容に該当する教科書の部分を熟読する。<br>【復習】講義資料を参考に講義内容を振り返り、講義中に示した練習問題に取り組み、理解を深める。<br>【到達目標】A、Bに関連する。 |
| 2 | アルケンとアルキン Ⅰ. 性質と合成② | 伊藤　謙之介 | 9/22③④ | 二重結合、三重結合の合成反応について学ぶ。<br>鎖状のハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化によるアルケンの合成反応について学ぶ。<br>Zaitsev 則について学ぶ。<br>【予習】シラバスに目を通し、講義内容に該当する教科書の部分を熟読する。<br>【復習】講義資料を参考に講義内容を振り返り、講義中に示した練習問題に取り組み、理解を深める。<br>【到達目標】C、Eに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3 | アルケンとアルキン Ⅰ．性質と合成④ | 伊藤　謙之介 | 9/29③④ | 二重結合、三重結合の合成反応について学ぶ。<br>末端アルキンの酸性度について学ぶ。<br>vic-ジハロゲン化物の脱離反応によるアルキンの合成反応について学ぶ。<br>アルキニドイオンとハロゲン化アルキルの SN2 反応について学ぶ。<br>アルケンおよびアルキンの水素化について学ぶ。<br>【予習】シラバスに目を通し、講義内容に該当する教科書の部分を熟読する。<br>【復習】講義資料を参考に講義内容を振り返り、講義中に示した練習問題に取り組み、理解を深める。<br>【到達目標】B、C、Eに関連する。 |
| 4 | アルケンとアルキン Ⅰ．性質と合成③ | 伊藤　謙之介 | 10/6③④ | 二重結合、三重結合の合成反応について学ぶ。<br>シクロアルカンを含むハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化によるアルケンの合成反応について学ぶ。<br>アルコールの酸触媒脱水反応によるアルケンの合成反応について学ぶ。<br>【予習】シラバスに目を通し、講義内容に該当する教科書の部分を熟読する。<br>【復習】講義資料を参考に講義内容を振り返り、講義中に示した練習問題に取り組み、理解を深める。<br>【到達目標】C、Eに関連する。 |
| 5 | 休講 | | 10/13③④ | |
| 6 | アルケンとアルキン Ⅱ 付加反応① | 伊藤　謙之介 | 10/20③④ | 二重結合、三重結合の付加反応の生成物について学ぶ。<br>アルケンへのハロゲン化水素の求電子付加によるハロゲン化アルキルの合成反応について学ぶ。<br>Markovnikov 則について学ぶ。<br>アルケンへのハロゲン化水素の求電子付加の立体化学について学ぶ。<br>【予習】シラバスに目を通し、講義内容に該当する教科書の部分を熟読する。<br>【復習】講義資料を参考に講義内容を振り返り、講義中に示した練習問題に取り組み、理解を深める。<br>【到達目標】D、Eに関連する。 |
| 7 | アルケンとアルキン Ⅱ 付加反応② | 伊藤　謙之介 | 10/27③④ | 二重結合、三重結合における付加反応の生成物について学ぶ。<br>アルケンの酸触媒水和によるアルコールの合成反応について学ぶ。<br>酸触媒水和の際に起こる転位反応について学ぶ。<br>【予習】シラバスに目を通し、講義内容に該当する教科書の部分を熟読する。<br>【復習】講義資料を参考に講義内容を振り返り、講義中に示した練習問題に取り組み、理解を深める。<br>【到達目標】B、D、Eに関連する。 |
| 8 | ラジカル反応 | 水口　貴章 | 11/10③④ | イオンとラジカルの違いについて学ぶ。<br>ラジカル反応の特徴について学ぶ。<br>アルケンへの臭化水素の求電子付加では、過酸化物の有無により生成物が異なることを学ぶ。<br>【予習】シラバスに目を通し、講義内容に該当する教科書の部分を熟読する。<br>【復習】講義資料を参考に講義内容を振り返り、講義中に示した練習問題に取り組み、理解を深める。<br>【到達目標】B、G、Hに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 9 | アルケンとアルキン II 付加反応③ | 伊藤　謙之介 | 11/17③④ | 二重結合、三重結合の付加反応の生成物について学ぶ。<br>アルケンのオキシ水銀化－脱水銀化によるアルコールの合成反応について学ぶ。<br>アルケンのヒドロホウ素化－酸化によるアルコールの合成反応について学ぶ。<br>【予習】シラバスに目を通し、講義内容に該当する教科書の部分を熟読する。<br>【復習】講義資料を参考に講義内容を振り返り、講義中に示した練習問題に取り組み、理解を深める。<br>【到達目標】B、D、Eに関連する。 |
| 10 | 休講 | | 11/24③④ | |
| 11 | アルケンとアルキン II 付加反応④ | 伊藤　謙之介 | 12/1③④ | 二重結合、三重結合の付加反応の生成物について学ぶ。<br>非求核性溶媒中におけるアルケンへの臭素の付加による vic-ジブロミドの合成について学ぶ。<br>求核性溶媒中におけるアルケンへの臭素の付加によるブロモヒドリンの合成について学ぶ。<br>立体特異的反応について学ぶ。<br>【予習】シラバスに目を通し、講義内容に該当する教科書の部分を熟読する。<br>【復習】講義資料を参考に講義内容を振り返り、講義中に示した練習問題に取り組み、理解を深める。<br>【到達目標】B、D、Eに関連する。 |
| 12 | アルコール、エーテルおよびチオール① | 伊藤　謙之介 | 12/8③④ | アルコール、エーテルおよびチオールの命名を学ぶ。<br>チオールの性質、合成、反応について学ぶ。<br>アルコールの酸性度について学ぶ。<br>アルコールからハロゲン化アルキルへの変換反応について学ぶ。<br>【予習】シラバスに目を通し、講義内容に該当する教科書の部分を熟読する。<br>【復習】講義資料を参考に講義内容を振り返り、講義中に示した練習問題に取り組み、理解を深める。<br>【到達目標】A、B、Fに関連する。 |
| 13 | アルコール、エーテルおよびチオール② | 伊藤　謙之介 | 12/15③④ | アルコールの性質、合成、反応について学ぶ。<br>よい脱離基をもつアルコール誘導体の合成反応について学ぶ。<br>よい脱離基をもつアルコール誘導体と種々の求核剤との SN2 反応について学ぶ。<br>Williamson のエーテル合成について学ぶ。<br>【予習】シラバスに目を通し、講義内容に該当する教科書の部分を熟読する。<br>【復習】講義資料を参考に講義内容を振り返り、講義中に示した練習問題に取り組み、理解を深める。<br>【到達目標】E、Fに関連する。 |
| 14 | アルコール、エーテルおよびチオール③ | 伊藤　謙之介 | 12/18③④ | エーテルの性質、合成、反応について学ぶ。<br>アルケンをアンチまたはシン選択的に1,2-ジオール化する方法について学ぶ。<br>立体特異的反応について学ぶ。<br>チオールの物理化学的性質およびチオールの合成について学ぶ。<br>【予習】シラバスに目を通し、講義内容に該当する教科書の部分を熟読する。<br>【復習】講義資料を参考に講義内容を振り返り、講義中に示した練習問題に取り組み、理解を深める。<br>【到達目標】E、F、Hに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 15 | 総合解説 | 伊藤　謙之介 | 12/22③④ | 一年生後期の講義内容を総合的に学び、復習する。<br>【予習】シラバスに目を通し、講義内容に該当する教科書の部分を熟読する。<br>【復習】講義資料を参考に講義内容を振り返り、講義中に示した練習問題に取り組み、理解を深める。<br>【到達目標】A、B、C、D、E、F、G、Hに関連する。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **定期試験** | 定期試験（80％） |
| **授業** | レポート（20％、2回以上のレポート提出を必須とします。）<br>レポートは、第4回、第8回および第12回（合計3回）に課す予定です。<br>＊レポートは、指定のファイル名を付けて GoogleClassroom から提出してください。書式が正しくない、指定したファイル形式とは異なる場合は、減点対象とします。提出期限を過ぎての提出も減点対象とします。<br>講義中の態度が悪い場合は、減点の対象となります。 |
| **その他** | 欠席が多いと減点対象とします。キャンパス手帳を用いて出席をとります。トラブル等で接続できなかった時は、講義終了時に申し出ること。 |

**学生へのメッセージ**

有機化学Ⅰでは、求核置換反応や脱離反応などの重要かつ基礎的な反応を学びます。丸暗記ではなく、電子の動き（矢印）に注目して反応を理解するように心がけましょう。

**準備学習(予習・復習）・その他**

【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】
①　（予習）次回の講義範囲を教科書のページ数で示すので、教科書の該当箇所を読んでから講義に臨むこと。
②　（復習）講義後にも教科書や配付資料を読み、学んだ知識・概念を整理すること。
③　（復習）配布資料に記載の練習問題を利用して、理解を深めること。
④　②、③項により、わからないことが出てきたら、積極的に質問にくること。

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | ソロモンの新有機化学第11版 Ⅰ | ソロモン著　花房、西出、奥山、上西、池田　監訳 | 廣川書店 |
| **参考書** | （なし） | | |

科 目 名　**情報リテラシー（演習含）（Information Literacy）**
科目概要　**１年後期　必修(薬学科、生命創薬科学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎志鷹真由子(生物分子設計学・教授) 山乙教之(創薬物理化学・准教授)**
**清田泰臣(生物分子設計学・講師) 若杉昌輝(生物分子設計学・助教)**
**小林慎平(生物分子設計学・助教) 水口貴章(生命薬化学・助教) 伊藤雅洋(微生物学・助教)**
**吉田智喜(創薬物理化学・助教) 西端芳彦(非常勤教員)**
開講日等　**A，B，C，D，Sクラス：金曜日４・５限2301大講義室**
そ の 他　**〔科目ナンバリング：PP201-IM01,PL201-IM01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

薬学分野において必要な情報を適切に活用するため、コンピュータの活用に関する基本的知識・技術を修得する。
科目の位置付け：数理・情報系専門科目
この科目は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の薬学科④、生命創薬科学科①に関連する。

**教育内容**

パソコン操作や情報の適切な活用に関する基本的知識・技術について講義を行う。また、実際にパソコンを用いた演習（実技指導）も行う。

**学習の到達目標**

A：ソフトのインストールができる。
B：コンピュータの基本操作ができる。
C：Excelを用いて、データ処理・グラフ作成ができる。
D：ChemDrawを用いて、化学構造式の作成ができる。
E：Microsoft Officeを用いて、図表や数式などを含む文書を作成することができる。
F：適切な情報の活用について理解し、説明することができる。
G：パソコンを用いて、演習課題を実施することができる。

**教育方法**

パワーポイントと講義資料などを用いて、講義形式ですすめる。また、実際にパソコンを用いた演習（実技指導）も行う。講義・演習で生じた疑問点については速やかにコメントする。
対面授業とオンデマンド型遠隔授業を組み合わせて実施する。

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ソフトのインストール・コンピュータの基本操作１ | 志鷹　真由子 | 9/12④⑤ | ソフトのインストールを行う。コンピュータの基本操作を学ぶ。<br>【予習】講義資料などを用いた講義内容の予習<br>【復習】講義中に実施したパソコン操作の復習<br>【到達目標】A、B、Gに関連する。 |
| 2 | ソフトのインストール・コンピュータの基本操作２ | 志鷹　真由子 | 9/19④⑤ | ソフトのインストールを行う。コンピュータの基本操作を学ぶ。<br>【予習】講義資料などを用いた講義内容の予習<br>【復習】講義中に実施したパソコン操作の復習<br>【到達目標】A、B、Gに関連する。 |
| 3 | Excelを用いたデータ処理・グラフ作成１ | 志鷹　真由子 | 9/26④⑤ | 表計算ソフトを用いて、データ処理、グラフ作成を行う。<br>【予習】講義資料などを用いた講義内容の予習<br>【復習】講義中に実施したパソコン操作の復習<br>【到達目標】C、Gに関連する。 |
| 4 | Excelを用いたデータ処理・グラフ作成２ | 志鷹　真由子 | 10/3④⑤ | 表計算ソフトを用いて、データ処理、グラフ作成を行う。<br>【予習】講義資料などを用いた講義内容の予習<br>【復習】講義中に実施したパソコン操作の復習<br>【到達目標】C、Gに関連する。 |
| 5 | ChemDrawを用いた化学構造式の作成１ | 志鷹　真由子 | 10/10④⑤ | 化学構造式描画ソフトを用いて、化学構造の描画を行う。<br>【予習】講義資料などを用いた講義内容の予習<br>【復習】講義中に実施したパソコン操作の復習<br>【到達目標】D、Gに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 6 | ChemDrawを用いた化学構造式の作成２ | 志鷹　真由子 | 10/17④⑤ | 化学構造式描画ソフトを用いて、化学構造の描画を行う。<br>【予習】講義資料などを用いた講義内容の予習<br>【復習】講義中に実施したパソコン操作の復習<br>【到達目標】D、Gに関連する。 |
| 7 | Microsoft Officeの活用１ | 志鷹　真由子 | 11/7④⑤ | Microsoft Officeを用いて、図表や数式などを含む文書を作成する。<br>【予習】講義資料などを用いた講義内容の予習<br>【復習】講義中に実施したパソコン操作の復習<br>【到達目標】E、Gに関連する。 |
| 8 | Microsoft Officeの活用２ | 志鷹　真由子 | 11/14④⑤ | Microsoft Officeを用いて、図表や数式などを含む文書を作成する。<br>【予習】講義資料などを用いた講義内容の予習<br>【復習】講義中に実施したパソコン操作の復習<br>【到達目標】E、Gに関連する。 |
| 9 | 適切な情報の活用１ | 志鷹　真由子 | 11/21④⑤ | 薬学分野に必要な情報を適切に活用するための基本知識を学ぶ。<br>【予習】講義資料などを用いた講義内容の予習<br>【復習】講義中に実施したパソコン操作の復習<br>【到達目標】F、Gに関連する。 |
| 10 | 適切な情報の活用２<br>※オンデマンド型遠隔授業として実施 | 志鷹　真由子 | 11/28④⑤ | 薬学分野に必要な情報を適切に活用するための基本知識を学ぶ。<br>【予習】講義資料などを用いた講義内容の予習<br>【復習】講義中に実施したパソコン操作の復習<br>【到達目標】F、Gに関連する。 |
| 11 | 予備日 | | 12/5④⑤ | |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **授業** | 受講態度・レポート内容（100%）により評価する。<br>無断欠席・遅刻・早退などは減点対象となる。 |

**学生へのメッセージ**

あらゆる学習・研究において、コンピュータの活用は必要です。今後の学生生活に欠かせない基礎となりますので、実際にパソコン操作を行いながら、基本的知識・技術を身につけましょう。
わからない点があれば、質問に来てください。

**準備学習(予習・復習）・その他**

【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】
【予習】シラバスを用いて、講義内容の確認を行ってください。前回までの講義内容を理解しておいてください。
【復習】講義資料やパソコンなどを用いて、講義内容や演習課題の復習をしてください。
講義でノートパソコンを使います。毎回、ノートパソコン、電源ケーブル、マウスを持って来て下さい。
講義の詳細日程は、後日案内する。

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | （なし） | | |
| **参考書** | 薬学生のための基礎シリーズ８<br>情報リテラシー | 宮崎智・和田義親・本間浩 | 培風館 |

# 薬学３群科目

科 目 名　**薬学概論（Introduction to Pharmaceutical Sciences）**
科目概要　**１年前期　必修(薬学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎田辺光男(薬理学・教授) 藤井秀明(生命薬化学・教授)**
**尾鳥勝也※(薬物治療学Ⅰ・教授) 成川衛※(医薬開発学・教授) 清野正子(公衆衛生学・教授)**
**長光亨(薬品製造化学・教授) 根岸健一※(地域医療薬学・教授) 阿部章夫(感染制御科学府)**
**氏原淳※(北里研究所病院) 田中美加※(非常勤教員)**
**神奈川県庁保健福祉局生活衛生部薬務課献血・薬物対策グループ※(特別講師)**
開講日等　**A，B，C，Dクラス：月曜日４時限L1-63**
そ の 他　**実務経験のある教員による授業科目（担当者に付されている※印は実務経験のある教員を表す）**
**〔科目ナンバリング：PP301-is01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

薬学の発展はめざましく、その領域も拡大しつつあるため、幅広い知識が要求される。そこで、本講義では、薬学の学問領域全般を正しく理解し、薬学専門科目を学ぶにあたり必要な入門的知識を修得する。特に、創薬における基礎薬学の重要性及び医療人としての薬剤師の役割と社会的責務を理解し、修得する。
科目の位置付け：総合領域科目
この科目は学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)の薬学科①②③④に関連する。

**教育内容**

薬学で学ぶ学問領域、薬学が活躍できる職業、社会から期待される薬剤師の役割など、薬学全般について修得する。

**学習の到達目標**

A: 医療、保健、介護、福祉を担う薬剤師を目指す学生として、薬学という学問の歴史、薬剤師の責務、求められる社会性、社会・地域における活動などについて理解し、説明できる。
B: 自然から産み出される物質は、古来から医薬品として利用され、現在でも臨床で用いられる医薬品として重要であることから、生薬学・天然物化学が薬学の中で果たす役割を理解し、説明できる。
C: 基礎研究から承認、市販後までの医薬品の開発過程や国内外の動向、さらに研究倫理、法規制や制度を理解し、説明できる。
D: 社会・集団における環境要因によって起こる疾病の予防や健康被害の防止、感染症の予防・まん延防止、健康の維持・増進に必要な栄養・食品衛生、人の健康に影響を与える化学物質の適正な管理と使用、環境保全等について理解し、説明できる。
E: 薬物は有益である一方、有害反応(副作用)、相互作用、薬物中毒なども引き起こすことから、これらが社会に与える影響として、薬害、薬物乱用、ポリファーマシーの原因、問題点や課題を理解し、説明できる。

**教育方法**

パワーポイントと講義資料を用いた講義形式で行う。課題に対しては、提出後、担当教員から評価コメントを掲示する。対面講義にて実施する。（収録動画の配信なし）

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 北里大学薬学部の紹介 | 田辺　光男 | 4/14④ | 北里大学と薬学部薬学科の沿革、薬学という学問の歴史などを理解するとともに、これから学ぶ薬学概論の内容を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通しておくこと。<br>【復習】講義内容を踏まえ、興味のある内容について大学及び薬学部ホームページで調べ、さらに理解を深める。<br>【到達目標】Aに関連する。 |
| 2 | 感染症と感染予防 | 阿部　章夫 | 4/21④ | 感染症の歴史と感染予防について説明できる。また、北里大学における感染症への取組を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通しておくこと。<br>【復習】講義内容を踏まえて、感染症について興味をもったことをさらに調べ、理解を深める。<br>【到達目標】Dに関連する。 |
| 3 | 薬の歴史 | 田辺　光男 | 4/28④ | 人類の歴史における薬の役割を理解し、医薬品の現状と将来を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通し、人類と薬との関わりについて調べておく。<br>【復習】講義プリントを再度チェックし、薬の歴史について理解を深める。<br>【到達目標】A、Bに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 天然有機化合物と創薬 | 長光　亨 | 5/12④ | 微生物や植物由来の天然有機化合物を利用した創薬について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通し、微生物や植物由来の天然有機化合物を利用した創薬について調べておく。<br>【復習】講義プリントを再度チェックし、天然有機化合物を利用した創薬について理解を深める。<br>【到達目標】Bに関連する。 |
| 5 | 新薬の探索研究から臨床開発まで | 藤井　秀明 | 5/19④ | 新薬の設計、研究開発、臨床試験及び承認申請までの過程を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通し、医薬開発について調べておく。<br>【復習】講義資料を参考に講義内容を振り返り、新薬の探索研究から臨床開発までについて理解し、レポートを作成する。<br>【到達目標】Cに関連する。 |
| 6 | 研究倫理 | 氏原　淳 | 5/26④ | 学生の研究者倫理に関する規範意識について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通しておくこと。<br>【復習】講義内容を踏まえて、研究倫理の意義と重要性についてレポートにまとめる。<br>【到達目標】Cに関連する。 |
| 7 | 社会に貢献する薬剤師② | 尾鳥　勝也 | 6/2④ | 病院薬剤師の役割について説明できる。今後の薬剤師に期待されることについて学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通し、その内容に関連するキーワードを抽出し調べておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、病院薬剤師の役割と今後に期待されることをまとめる。<br>【到達目標】Aに関連する。 |
| 8 | 社会に貢献する薬剤師① | 根岸　健一 | 6/9④ | 薬局薬剤師の任務と義務について理解し、これからの薬剤師に期待されることを学ぶ。<br>【予習】シラバスに目を通しておくこと。<br>【復習】薬局薬剤師の役割とこれから期待されることについて、配布資料と講義内容を復習し、まとめること。<br>【到達目標】Aに関連する（D,Eに関連する内容も含む）。 |
| 9 | 薬物乱用防止と薬剤師の役割 | 神奈川県庁保健福祉局 生活衛生部薬務課 献血・薬物対策グループ | 6/16④ | 薬物乱用の現状と行政の対応について理解するとともに、今後、薬剤師として期待される役割について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通しておくこと。<br>【復習】講義内容を踏まえて、薬物乱用の危険性や薬剤師の関わりについてレポートにまとめる。<br>【到達目標】A、D、Eに関連する。 |
| 10 | 薬学と社会 | 清野　正子 | 6/23④ | 薬学領域における公衆衛生分野で期待される役割について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通しておくこと。<br>【復習】講義内容を踏まえて、薬学領域における公衆衛生分野に関して興味をもったことをさらに調べてみる。<br>【到達目標】Dに関連する。 |
| 11 | 薬学と化粧品開発 | 田中　美加 | 6/30④ | 薬学分野における化粧品研究・開発への関わり合いについて学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通しておくこと。<br>【復習】講義内容を踏まえて、化粧品の開発に関して興味をもったことをさらに調べ、理解を深める。<br>【到達目標】Cに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 12 | 薬学と医薬品行政 | 成川　衛 | 7/7④ | 医薬品は生命関連商品であり、薬事法(医薬品医療機器等法)をはじめとして、様々な規制や行政措置の対象となっている。行政と薬学サイエンスとの関わりの重要性について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通し、医薬品と行政との関わりについて興味をもったことを調べておく。<br>【復習】提出したレポートに記載した事項で興味をもったことをさらに調べてみる。<br>【到達目標】Cに関連する。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **授業** | 理由なき欠席及び遅刻、レポート未提出の場合は減点する。 |
| **その他** | 原則70 分講義を行い、20 分でレポート(要点及び感想)を書き提出する。ただし、90分講義を行う場合は、期限までにレポート(要点及び感想)を書き提出する。単位評価はこのレポートの内容で行う(100 %)。<br>レポートは、グーグルクラスルームに4日後の金曜日の17時までに提出すること。 |

**学生へのメッセージ**

医療、基礎研究、行政など、広範囲な「薬学」の領域に関わる先生方の講義を聴き、これから諸君が学ぼうとしている「薬学」が、どういう学問なのかを感じ取ってもらいたいと思います。

**準備学習(予習・復習)・その他**

【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】
予習：各項目における講義内容から、それぞれキーワードを抽出し調べておく。
復習：講義終了後は、講義プリントを参考に、要点をまとめておくこと。また、提出レポートの見直しを行う。
【実務経験のある教員による授業】（※印が付された担当者）
製薬関連企業における創薬研究や医薬品開発などの業務経験を踏まえて、創薬、医薬品開発、品質管理などの業務内容を薬学領域との関連で講義する。

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | 配布資料 | | |
| **参考書** | 6年制薬学ガイド2024 | 一般社団法人　日本私立薬科大学協会　編 | （株）エニイクリエイティブ |

科 目 名　**薬学概論（Introduction to Pharmaceutical Sciences）**
科目概要　**１年前期　必修(生命創薬科学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎田辺光男(薬理学・教授) 藤井秀明(生命薬化学・教授)**
**尾鳥勝也※(薬物治療学Ⅰ・教授) 成川衛※(医薬開発学・教授) 清野正子(公衆衛生学・教授)**
**長光亨(薬品製造化学・教授) 根岸健一※(地域医療薬学・教授) 阿部章夫(感染制御科学府)**
**氏原淳※(北里研究所病院) 田中美加※(非常勤教員)**
**神奈川県庁保健福祉局生活衛生部薬務課献血・薬物対策グループ※(特別講師)**
開講日等　**Sクラス：月曜日４時限L1-63**
そ の 他　**創薬の4/10はL1-42教室**
**実務経験のある教員による授業科目（担当者に付されている※印は実務経験のある教員を表す）**
**〔科目ナンバリング：PL301-is01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

薬学の発展はめざましく、その領域も拡大しつつあるため、幅広い知識が要求される。そこで、本講義では、薬学の学問領域全般を正しく理解し、薬学専門科目を学ぶにあたり必要な入門的知識を修得する。特に、創薬における基礎薬学の重要性及び医療人としての薬剤師の役割と社会的責務を理解し、修得する。
科目の位置付け：総合領域科目
この科目は学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)の生命創薬科学科①②に関連する。

**教育内容**

薬学で学ぶ学問領域、薬学が活躍できる職業、薬学の知識・技術をもつ研究者・技術者が社会から期待される役割など、薬学全般について説明する。

**学習の到達目標**

A: 医療、保健、介護、福祉を担う薬剤師や薬学領域で活躍する研究者・技術者を目指す学生として、薬学という学問の歴史、薬剤師の責務、求められる社会性、社会・地域における活動などについて理解し、説明できる。
B: 自然から産み出される物質は、古来から医薬品として利用され、現在でも臨床で用いられる医薬品として重要であることから、生薬学・天然物化学が薬学の中で果たす役割を理解し、説明できる。
C: 基礎研究から承認、市販後までの医薬品の開発過程や国内外の動向、さらに研究倫理、法規制や制度を理解し、説明できる。
D: 社会・集団における環境要因によって起こる疾病の予防や健康被害の防止、感染症の予防・まん延防止、健康の維持・増進に必要な栄養・食品衛生、人の健康に影響を与える化学物質の適正な管理と使用、環境保全等について理解し、説明できる。
E: 薬物は有益である一方、有害反応(副作用)、相互作用、薬物中毒なども引き起こすことから、これらが社会に与える影響として、薬害、薬物乱用、ポリファーマシーの原因、問題点や課題を理解し、説明できる。

**教育方法**

パワーポイントと講義資料を用いた講義形式で行う。課題に対しては、提出後、担当教員から評価コメントを掲示する。対面講義にて実施する。（収録動画の配信なし）

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 北里大学薬学部の紹介<br>※生命創薬科学科はL1-42教室で実施 | 藤井　秀明 | 4/14④ | 北里大学と薬学部生命創薬科学科の沿革、薬学という学問の歴史などを理解するとともに、これから学ぶ薬学概論の内容を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通しておくこと。<br>【復習】講義内容を踏まえ、興味のある内容について大学及び薬学部ホームページで調べ、さらに理解を深める。<br>【到達目標】Aに関連する。 |
| 2 | 感染症と感染予防 | 阿部　章夫 | 4/21④ | 感染症の歴史と感染予防について説明できる。また、北里大学における感染症への取組を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通しておくこと。<br>【復習】講義内容を踏まえて、感染症について興味をもったことをさらに調べ、理解を深める。<br>【到達目標】Dに関連する。 |
| 3 | 薬の歴史 | 田辺　光男 | 4/28④ | 人類の歴史における薬の役割を理解し、医薬品の現状と将来を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通し、人類と薬との関わりについて調べておく。<br>【復習】講義プリントを再度チェックし、薬の歴史について理解を深める。<br>【到達目標】A、Bに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 天然有機化合物と創薬 | 長光　亨 | 5/12④ | 微生物や植物由来の天然有機化合物を利用した創薬について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通し、微生物や植物由来の天然有機化合物を利用した創薬について調べておく。<br>【復習】講義プリントを再度チェックし、天然有機化合物を利用した創薬について理解を深める。<br>【到達目標】Bに関連する。 |
| 5 | 新薬の探索研究から臨床開発まで | 藤井　秀明 | 5/19④ | 新薬の設計、研究開発、臨床試験及び承認申請までの過程を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通し、医薬開発について調べておく。<br>【復習】講義資料を参考に講義内容を振り返り、新薬の探索研究から臨床開発までについて理解し、レポートを作成する。<br>【到達目標】Cに関連する。 |
| 6 | 研究倫理 | 氏原　淳 | 5/26④ | 学生の研究者倫理に関する規範意識について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通しておくこと。<br>【復習】講義内容を踏まえて、研究倫理の意義と重要性についてレポートにまとめる。<br>【到達目標】Cに関連する。 |
| 7 | 社会に貢献する薬剤師② | 尾鳥　勝也 | 6/2④ | 病院薬剤師の役割について説明できる。今後の薬剤師に期待されることについて学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通し、その内容に関連するキーワードを抽出し調べておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、病院薬剤師の役割と今後に期待されることをまとめる。<br>【到達目標】Aに関連する。 |
| 8 | 社会に貢献する薬剤師① | 根岸　健一 | 6/9④ | 薬局薬剤師の任務と義務について理解し、これからの薬剤師に期待されることを学ぶ。<br>【予習】シラバスに目を通しておくこと。<br>【復習】薬局薬剤師の役割とこれから期待されることについて、配布資料と講義内容を復習し、まとめること。<br>【到達目標】Aに関連する（D,Eに関連する内容も含む）。 |
| 9 | 薬物乱用防止と薬剤師の役割 | 神奈川県庁保健福祉局 生活衛生部薬務課 献血・薬物対策グループ | 6/16④ | 薬物乱用の現状と行政の対応について理解するとともに、今後、薬剤師として期待される役割について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通しておくこと。<br>【復習】講義内容を踏まえて、薬物乱用の危険性や薬剤師の関わりについてレポートにまとめる。<br>【到達目標】A、D、Eに関連する。 |
| 10 | 薬学と社会 | 清野　正子 | 6/23④ | 薬学領域における公衆衛生分野で期待される役割について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通しておくこと。<br>【復習】講義内容を踏まえて、薬学領域における公衆衛生分野に関して興味をもったことをさらに調べてみる。<br>【到達目標】Dに関連する。 |
| 11 | 薬学と化粧品開発 | 田中　美加 | 6/30④ | 薬学分野における化粧品研究・開発への関わり合いについて学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通しておくこと。<br>【復習】講義内容を踏まえて、化粧品の開発に関して興味をもったことをさらに調べ、理解を深める。<br>【到達目標】Cに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 12 | 薬学と医薬品行政 | 成川　衛 | 7/7④ | 医薬品は生命関連商品であり、薬事法(医薬品医療機器等法)をはじめとして、様々な規制や行政措置の対象となっている。行政と薬学サイエンスとの関わりの重要性について学ぶ。<br>【予習】事前にシラバスに目を通し、医薬品と行政との関わりについて興味をもったことを調べておく。<br>【復習】提出したレポートに記載した事項で興味をもったことをさらに調べてみる。<br>【到達目標】Cに関連する。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **授業** | 理由なき欠席及び遅刻、レポート未提出の場合は減点する。 |
| **その他** | 原則70 分講義を行い、20 分でレポート(要点及び感想)を書き提出する。ただし、90分講義を行う場合は、期限までにレポート(要点及び感想)を書き提出する。単位評価はこのレポートの内容で行う(100 %)。<br>レポートは、グーグルクラスルームに4日後の金曜日の17時までに提出すること。 |

**学生へのメッセージ**

医療、基礎研究、行政など、広範囲な「薬学」の領域に関わる先生方の講義を聴き、これから諸君が学ぼうとしている「薬学」が、どういう学問なのかを感じ取ってもらいたいと思います。

**準備学習(予習・復習)・その他**

【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】
予習：各項目における講義内容から、それぞれキーワードを抽出し調べておく。
復習：講義終了後は、講義プリントを参考に、要点をまとめておくこと。また、提出レポートの見直しを行う。
【実務経験のある教員による授業】（※印が付された担当者）
製薬関連企業における創薬研究や医薬品開発などの業務経験を踏まえて、創薬、医薬品開発、品質管理などの業務内容を薬学領域との関連で講義する。

**（書名）　　（著者・編者）　　（発行所）**

**教科書**　配布資料

**参考書**　（なし）

科 目 名　**薬用植物学（Medicinal Botany）**
科目概要　**１年前期　必修(薬学科、生命創薬科学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎小林義典※(生薬学・教授) 古平栄一※(薬用植物園・准教授) 石川寛(薬用植物園・助教)**
開講日等　**A，B，C，D，Sクラス：金曜日４時限**
そ の 他　**漢方医薬学履修プログラム対応科目**
**実務経験のある教員による授業科目（担当者に付されている※印は実務経験のある教員を表す）**
**〔科目ナンバリング：PP301-CH01，PL301-CH01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

薬用植物は、医薬品原料としてだけでなく、生薬・漢方薬として、また機能性を有する食品や香粧品などとして活用されている。
薬剤師や薬学研究者は、薬用植物に精通し、薬用資源として確保したり、有害な作用を予防したり、食品との相互作用を予測したり、さらには医薬品開発原料のリソースとして活用したりして、薬用植物を有効かつ安全に活用をする上で極めて重要な役割を果たしている。
本講義では、医薬品の原料となる植物、漢方薬に使用される生薬の基原植物、医薬品開発のリード化合物となった植物成分を含有する植物等について、基本的性質を理解する。
科目の位置付け：化学系専門科目
この科目は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の薬学科④、生命創薬科学科①に関連する。

**教育内容**

薬用植物を生薬として活用するために必要な、分類、形態、含有成分、生理活性、歴史的背景などについての基本知識及び医薬学分野における役割について理解し、薬用植物を活用するための基礎的能力を習得する。

**学習の到達目標**

A　植物の分類体系や種の学名及びその命名法について概説できる。
B　代表的な漢方薬について例示し、概説できる。
C　生薬（全形・粉末・基原植物）の性状について、植物の器官、組織の観点から概説できる。
D　繁用生薬の用途、基原植物の同定と指標成分に基づく品質評価について概説できる。
E　毒薬、劇薬について例示し、概説できる。
F　麻薬・向精神薬・指定薬物等原料植物において、それらの規制法や種の鑑別法、主要成分について概説できる。
G　植物成分による有害作用、薬物相互作用について例示できる。
H　伝統薬や毒物から開発された医薬品を例示して概説できる。

**教育方法**

講義形式、およびスモールグループでの薬用植物園観察実習。
適宜、予習・復習のための課題を与え、次回、課題の中の特徴的な見解や誤解に対してコメントする。
対面授業として実施する。（収録動画等配信なし）

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 薬用植物とは何か（1） | 小林　義典<br>古平　栄一 | 4/11④ | 漢方を学ぶために必要な知識、勉強方法について学ぶ。植物の分類体系や種の学名及びその命名法について学ぶ。<br>予習：高等学校までの植物分類学の基礎を見直して理解しておく（1時間）。<br>復習：配布資料及びパートナー生薬学 3から8、31から40、46から50、125から130ページの内容をもとに植物と生薬の分類を整理して理解する（1時間）。課題図書「薬学教室へようこそ いのちを守るクスリを知る旅」の関連部分（スライドの内容、キーワードに関わる部分）を確認する（1時間）。<br>【到達目標】A、Bに関連する。 |
| 2 | クスリとリスク、薬と毒 | 小林　義典 | 4/18④ | 植物成分による有害作用、薬物相互作用について例示して学ぶ（caffeine）。アルカロイド、フラノクマリンについて学ぶ。毒薬、劇薬について学ぶ。<br>予習：配布資料及びパートナー生薬学37から39、50から52、53から55ページを読んでおく(1時間)。<br>復習：講義で学習した植物を薬用植物園で確認する（1時間）。課題図書「薬学教室へようこそ いのちを守るクスリを知る旅」の関連部分（スライドの内容、キーワードに関わる部分）を確認する（1時間）。<br>【到達目標】E、Gに関連する。 |
| 3 | 瀉下作用・健胃作用を有する植物成分 | 小林　義典 | 4/25④ | 瀉下作用を有する植物とその成分について学ぶ。（barbaloin, emodin, rhein, sennoside A, sennoside B）。また、健胃薬として利用される植物をリストアップして学ぶ。<br>予習：配布資料及びパートナー生薬学の上記成分に関する部分を索引で調べ、読んでおく(1時間)。<br>復習：講義で学習した植物を薬用植物園で確認する（1時間）。課題図書「薬学教室へようこそ いのちを守るクスリを知る旅」の関連部分（スライドの内容、キーワードに関わる部分）を確認する（1時間）。<br>【到達目標】E、Hに関連する。 |
| 4 | 休講 | | 5/2④ | |
| 5 | 薬用植物とは何か（2） | 古平　栄一 | 5/9④ | ケシ・アサ及び麻薬・向精神薬・指定薬物等原料植物において、それらの規制法や種の鑑別法について学ぶ。アヘンアルカロイド（morphine, codeine）、カンナビノイド（tetrahydrocannabinol）をはじめとする成分について学ぶ。<br>予習：配布資料及びパートナー生薬学の50から54、137から139、177から178、208から209ページを読み、規制法に抵触する植物を把握しておく（1時間）。<br>復習：規制法ごとに成分や作用性、部位、鑑別法を整理して理解する（1時間）。課題図書「薬学教室へようこそ いのちを守るクスリを知る旅」の関連部分（スライドの内容、キーワードに関わる部分）を確認する（1時間）。<br>【到達目標】Fに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 6 | 自律神経（交感神経系）に作用する植物成分 | 小林　義典 | 5/16④ | 自律神経系（交感神経系）に作用する植物成分について学ぶ。（ephedrine, reserpine, ajmaline, ergometrine, ergotamine, higenamine, および yohimbine）。<br>予習：配布資料及びパートナー生薬学（および参考資料など）の上記成分に関する部分を索引で調べ、読んでおく(1時間）。<br>復習：講義で学習した植物を薬用植物園で確認する（1時間）。課題図書「薬学教室へようこそ いのちを守るクスリを知る旅」の関連部分（スライドの内容、キーワードに関わる部分）を確認する（1時間）<br>【到達目標】E、Hに関連する。 |
| 7 | 自律神経（副交感神経系）に作用する植物成分 | 小林　義典 | 5/23④ | 自律神経系（副交感神経系）に作用する植物成分について学ぶ。（nicotine. atropine, hyoscyamine, scopolamine, pilocarpine, physostigmine, および muscarine）。<br>予習：配布資料及びパートナー生薬学（および参考資料など）の上記成分に関する部分を索引で調べ、読んでおく(1時間）。<br>復習：講義で学習した植物を薬用植物園で確認する（1時間）。課題図書「薬学教室へようこそ いのちを守るクスリを知る旅」の関連部分（スライドの内容、キーワードに関わる部分）を確認する（1時間）。<br>【到達目標】E、Hに関連する。 |
| 8 | 生薬の性状と植物の器官，組織（1） | 石川　寛 | 5/30④ | 代表的な漢方薬について概説できる。全形生薬の性状について、植物の器官、組織の観点から例示して学ぶ。<br>予習：配布資料及びパートナー生薬学31から40ページを読んでおく(1時間）。<br>復習：講義で学習した植物を薬用植物園で確認する。（1時間）。課題図書「薬学教室へようこそ いのちを守るクスリを知る旅」の関連部分（スライドの内容、キーワードに関わる部分）を確認する（1時間）。<br>【到達目標】A、B、Cに関連する。 |
| 9 | 生薬の性状と植物の器官，組織（2） | 石川　寛 | 6/6④ | 粉末生薬の性状について、植物の器官、組織の観点から例示して学ぶ。<br>予習：配布資料及びパートナー生薬学40から46ページを読んでおく(1時間）。<br>復習：講義で学習した植物を薬用植物園で確認する（1時間）。課題図書「薬学教室へようこそ いのちを守るクスリを知る旅」の関連部分（スライドの内容、キーワードに関わる部分）を確認する（1時間）。<br>【到達目標】Cに関連する。 |
| 10 | 伝統薬、矢毒と薬 | 小林　義典 | 6/13④ | 伝統薬から開発された医薬品を例示して学ぶ。（quinine, quinidine, strychinine, digitoxin, digoxin）<br>矢毒から開発された医薬品を例示して学ぶ。（tubocurarine, aconitine, および G-strophanthin）<br>予習：配布資料及びパートナー生薬学（および参考資料など）の上記成分に関する部分を索引で調べ、読んでおく(1時間）。<br>復習：講義で学習した植物を薬用植物園で確認する（1時間）。課題図書「薬学教室へようこそ いのちを守るクスリを知る旅」の関連部分（スライドの内容、キーワードに関わる部分）を確認する（1時間）。<br>【到達目標】E、Hに関連する。 |
| 11 | 植物成分をリード化合物として開発された代表的な医薬品 | 小林　義典 | 6/20④ | 植物成分をリード化合物として開発された代表的な医薬品について学ぶ。（morphine, cocaine, papaverine, noscapine, aspirin, etoposide, warfarin, taxol, irinotecan, vincristine, vinblastine）<br>予習：配布資料及びパートナー生薬学（および参考資料など）の上記成分に関する部分を索引で調べ、読んでおく(1時間）。<br>復習：講義で学習した植物を薬用植物園で確認する（1時間）。課題図書「薬学教室へようこそ いのちを守るクスリを知る旅」の関連部分（スライドの内容、キーワードに関わる部分）を確認する（1時間）。<br>【到達目標】E、Hに関連する。 |
| 12 | 生薬の同定と品質評価（1） | 古平　栄一 | 6/27④ | 繁用生薬、主に虚弱体質の改善が期待される生薬、主に呼吸器機能の改善が期待される生薬の基原植物において、それらの同定と指標成分に基づく品質評価について学ぶ。<br>予習：配布資料とパートナー生薬学の各論（131から357ページの配布資料該当部分）を読み、本講義で扱う生薬の概要を理解しておく（1時間）。<br>復習：本講義で扱った生薬の薬効や部位、副作用、用いられる漢方処方を整理して理解する（1時間）。課題図書「薬学教室へようこそ いのちを守るクスリを知る旅」の関連部分（スライドの内容、キーワードに関わる部分）を確認する（1時間）。<br>【到達目標】Dに関連する。 |
| 13 | 生薬の同定と品質評価（2） | 古平　栄一 | 7/4④ | 主に婦人科疾患の改善が期待される生薬、主に代謝機能の改善が期待される生薬の基原植物において、それらの同定と指標成分に基づく品質評価について学ぶ。<br>予習：配布資料とパートナー生薬学の各論（131から357ページの配布資料該当部分）を読み、本講義で扱う生薬の概要を理解しておく（1時間）。<br>復習：本講義で扱った生薬の薬効や部位、副作用、用いられる漢方処方を整理して理解する（1時間）。課題図書「薬学教室へようこそ いのちを守るクスリを知る旅」の関連部分（スライドの内容、キーワードに関わる部分）を確認する（1時間）。<br>【到達目標】Dに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 14 | 生薬の同定と品質評価（3） | 古平　栄一 | 7/11④ | 主に消化器機能の改善が期待される生薬の基原植物において、それらの同定と指標成分に基づく品質評価について学ぶ。<br>予習：配布資料とパートナー生薬学の各論（131から357ページの配布資料該当部分）を読み、本講義で扱う生薬の概要を理解しておく（1時間）。復習：本講義で扱った生薬の薬効や部位、副作用、用いられる漢方処方を整理して理解する（1時間）。課題図書「薬学教室へようこそ いのちを守るクスリを知る旅」の関連部分（スライドの内容、キーワードに関わる部分）を確認する（1時間）。<br>【到達目標】Dに関連する。 |
| 15 | 薬用植物園観察実習<br>※5/9～7/11金曜日の放課後（5限目）に実施 | 石川　寛 | ⑤ | 薬用植物園でのフィールドワークを行い、生薬の基原植物について学ぶ。（少人数制で、放課後等に実施する。日程は別途、講義中に連絡する。）<br>予習：実習参加以前に学習した植物の分類、薬用部位、成分等を確認しておく（1時間）。<br>復習：実習で観察した植物の学名、成分等を整理して、レポートを提出する（2時間）。<br>【到達目標】A、Cに関連する。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **定期試験** | 講義範囲から出題する。マークシート方式。持ち込み禁止。 |
| **授業** | 講義回数13回＋薬用植物園観察実習1回＋定期試験。 |
| **その他** | 期末試験（90％）及び提出課題（薬用植物園観察実習レポートを含む、10％）にて評価する。<br>但し、毎回の課題提出を持って出席とし、出席率（課題提出率）が60%未満の場合は、単位を取得できない（定期試験は0点となる）ので、必ず毎回の課題を提出すること。 |

**学生へのメッセージ**

まずは、薬用植物の利用の歴史を通じて、人類の病との闘いの歴史を理解しましょう。

**準備学習(予習・復習）・その他**

【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】
入学前事前学習の課題図書「薬学教室へようこそ　いのちを守るクスリを知る旅（ブルーバックス）」をしっかり読んで理解しておくこと。
小林担当部分の講義で学習する薬用植物については、「化合物名、構造式、活性、用途、基原植物（和名、学名、科名）、薬用部位」を必ず、全て覚えておくこと。
なお、これらはいずれも２年次以降、生薬学関連以外の専門科目（基礎系・実務系）でも頻出の重要な医薬品に関するものである。
古平担当部分の講義で学習する薬用植物については、「基原植物（和名、学名、科名）、薬用部位とその指標成分及び期待される効果、副作用」を必ず、全て覚えておくこと。
なお、これらはいずれも２年次以降、生薬学関連以外の専門科目（基礎系・実務系）でも頻出の重要な医薬品に関するものである。
生薬の同定や良否の判断は、医薬品としての品質管理に必須の知識・技能であり、２年次後期の生薬学実習では、実際に鑑別や確認試験を行うが、ここではその基礎を学習する。
教科書中の「講義で学習した植物」に関する箇所を熟読し、また、学習した植物は実物を植物園で確認しておくこと。
「講義で学習した植物」が教科書に記載されていない場合もあるが、図書館等を活用し、「生薬学」や「和漢薬」、「薬用植物」、「天然資源学」、「日本薬局方」などに関する書籍で、学習すること。
　座学とは別に、「薬用植物園観察実習」を実施している。10数名のグループに分け、課目開講時間以外に放課後等を利用して、薬用植物園での観察を行い、レポートを作成する。各自必ず1回参加し、レポートを提出すること。なお、班分け、集合時間等については随時連絡するので指示に従うこと。また、5月10日（土）、17日（土）に東京都薬用植物園において、麻薬原料植物であるケシの観察「ケシ特別講習」を予定している。詳細は掲示等で連絡する。薬用植物園観察実習への参加とレポート提出、ケシの観察への参加（レポートなし）も採点の対象である。
【実務経験のある教員による授業】（※印が付された担当者）
協和醗酵工業筑波研究所における研究員としての機能性素材（食品を含む）の開発や、東洋医学総合研究所における薬剤師としての東洋医学の実践の経験を踏まえて、薬用植物の利活用について解説する。
武田薬品工業京都薬用植物園における研究員として薬用植物の試験栽培と品質評価を行っていた経験を活かし、漢方薬の原料となる薬用植物の特徴や効果効能の実際を解説する。

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | | | |
| **教科書** | パートナー生薬学 | 竹谷孝一・木内文之・小松かつ子編（著、小林　義典 他） | 南江堂 |
| **参考書** | | | |
| **参考書** | 第18改正日本薬局方 | 厚生労働省 | https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bu からダウンロード |
| **参考書** | 天然医薬資源学 | 小林義典　他 | 廣川書店 |
| **参考書** | 超図解 薬はなぜ効くか | 田中正敏 | 講談社 |
| **参考書** | 薬学教室へようこそ　いのちを守るクスリを知る旅（ブルーバックス） | 二井将光 | 講談社 |

科 目 名　**薬と仕事Ⅰ（Career Development as Pharmacy Profession Ⅰ）**
科目概要　**１年前期　必修(薬学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎尾鳥勝也※(薬物治療学Ⅰ・教授) 久保田理恵※(臨床薬学教育部門・教授)**
**平山武司※(薬物治療学Ⅲ・教授) 根岸健一※(地域医療薬学・教授)**
**小林昌宏※(薬物動態学・准教授) 菅原充広※(薬物治療学Ⅳ・准教授)**
**川上美好※(地域医療薬学・准教授) 岩澤真紀子※(医薬品情報学・准教授)**
**毛利順一※(薬物治療学Ⅰ・講師) 井上岳※(薬物治療学Ⅲ・講師)**
**向井潤一※(臨床薬学教育部門・講師) 青木学一※(薬物治療学Ⅳ・講師)**
**前田実花※(臨床薬剤疫学・講師) 熊谷剛(臨床薬学研究部門・講師)**
**鈴木絢子※(薬物動態学・講師) 春日井公美※(薬物治療学Ⅰ・助教)**
**東山倫子※(薬物治療学Ⅰ・助教) 川野千尋※(薬物治療学Ⅰ・助教)**
**山本悠樹※(薬物治療学Ⅰ・助教) 長崎郁美※(薬物治療学Ⅰ・助教)**
**婦川貴博※(医療安全管理学・助教) 飛田夕紀※(薬物治療学Ⅲ・助教)**
**井口智恵※(薬物治療学Ⅲ・助教) 藤尾千裕※(薬物治療学Ⅲ・助教)**
**宮下博幸※(薬物治療学Ⅲ・助教) 塩見めぐみ※(薬物治療学Ⅳ・助教)**
**安藤航※(薬物治療学Ⅳ・助教) 作玲奈※(薬物治療学Ⅳ・助教)**
**山田路子※(臨床薬学教育部門・助教) 吉野裕梨佳※(臨床薬学教育部門・助教)**
**岡村央※(臨床薬学教育部門・助教) 森大輝※(地域医療薬学・助教)**
**齋藤美希※(地域医療薬学・助教)**
開講日等　**A，B，C，Dクラス：集中１・２・３・４・５限**
そ の 他　**実務経験のある教員による授業科目（担当者に付されている※印は実務経験のある教員を表す）**
**〔科目ナンバリング：PP301-CP01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

薬剤師が活躍する医療現場を見聞・体験すると共に、他者との円滑で効果的なコミュニケーション力を身に付け、薬剤師として求められる基本的な資質・能力を生涯にわたって培うための基盤を築く。
科目の位置付け：臨床薬学系専門科目
この科目は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の薬学科①②③④⑤に関連する。

**教育内容**

医療の担い手としての病院・薬局薬剤師の役割を講義する。
薬学生として相応しいマナー（態度、身だしなみ、言葉遣い）を講義する。
社会で活躍する薬剤師の姿を見聞するために、病院および薬局見学の機会を設ける。
他者と円滑で効果的なコミュニケーションを体験するために、小グループ討論（SGD:Small Group Discussion）の機会を設ける。

**学習の到達目標**

A：薬剤師に求められる社会的使命、遵守すべき行動規範を学び、患者・生活者の健康な生活を確保する薬剤師の任務と責任を理解できる。
B：医療人としての感性を養い、プロフェッショナルとしての行動を理解できる。
C：他者の心理、立場、環境、状態に配慮し、非言語コミュニケーションを含めた適切なコミュニケーションを図り、良好な人間関係を構築できる。
D：地域の保健・医療の現状と課題、良質な医療を確保するための枠組み、地域における薬局の機能と薬剤師の役割を理解できる。
E：薬剤師として求められる責任を自覚し、自らを律して行動できる。

**教育方法**

病院・薬局薬剤師の役割と、マナー（態度、身だしなみ、言葉遣い）についての講義はオンデマンド形式で実施する。
見学前に、医療現場見学で心掛けること、見聞することに関する課題を実施する。
病院や薬局を見学し、薬剤師の役割を見聞する。
見学後に、医療現場見学で学んだことを小グループで討論し、発表する。
体験したことを報告書に整理し、まとめる。
※ 課題に対するフィードバック：
SGD後の発表会で、発表内容に対する補足や誤り等についてコメントする。

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|
| 1 | 入学直後導入講義 | 「薬と仕事Ⅰ（早期体験学習）」の目的や薬学部卒業生の仕事について学ぶ。<br>対面形式で実施する。<br>【予習】事前にシラバスに目を通しておく。<br>【復習】講義内容を復習し、まとめる。<br>【到達目標】A、Dに関連する。 |
| 2 | 事前ガイダンス（諸注意、SGD テーマの提示、見学施設の発表等） | 「薬と仕事Ⅰ（早期体験学習）」の目的や実施内容を確認し、医療現場における見学時の諸注意を学ぶ。<br>対面形式で実施する。<br>【予習】事前にシラバス・前回講義内容に目を通しておく。<br>【復習】講義内容を復習し、まとめる。見学時の諸注意に伴う準備をする。<br>【到達目標】A、Dに関連する。 |

| | | |
|---|---|---|
| 3 | 薬と仕事Ⅰ（早期体験学習）概要<br>マナー講義<br>見学前課題 | 社会で求められるマナーを学ぶ。<br>医療現場見学で見聞してくることを、課題を通じてまとめる。<br>オンデマンド形式で実施する。<br>【予習】課題に対する自分の考えをまとめておく。<br>【復習】医療現場見学で必要なマナーを実践できるようにする。<br>【到達目標】A、B、C、D、Eに関連する。 |
| 4 | 医療現場見学（病院・薬局）<br>※ 見学施設・日時は、別途提示する。 | 病院・薬局薬剤師の業務や、社会において果たしている役割について見聞する。<br>対面形式で実施する。<br>【予習】見学の目的を再確認しておく。見聞する内容を確認しておく。<br>【復習】医療現場見学で見聞したことを、見学後SGDで活かせるようにまとめる。<br>【到達目標】A、B、C、D、Eに関連する。 |
| 5 | 見学後SGD | 医療現場見学で見聞したこと、感じたことを、SGDを通じてまとめる。<br>対面またはオンライン形式で実施する。<br>【予習】テーマに対する自分の考えをまとめておく。<br>【復習】授業前後の考え方の変化をまとめる。報告書を作成し提出する。<br>【到達目標】A、B、C、D、Eに関連する。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **その他** | 講義・課題・医療現場見学・SGDの参加態度（80%）、報告書（20%）により評価する。ただし、報告書の提出は必須とする。<br>欠席・遅刻・早退、態度不良、忘れ物は減点する。<br>回答必須アンケートの未回答・回答遅延、報告書等の提出遅延も減点する。 |

**学生へのメッセージ**

医療現場見学に際しては、見学前課題でまとめた内容を踏まえ、目的意識を持って見聞してくること。
将来医療に携わる職種に就くことを自覚し、見学施設では患者さんが近くにいること、業務中であることを意識して行動すること。

**準備学習(予習・復習）・その他**

【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】
医療現場見学で医療人として適切な振る舞いができるよう、講義や課題に真摯に取り組むこと。
見学後SGDに積極的に参加できるよう、テーマに対する自分の考えをまとめておくこと。
【実務経験のある教員による授業】（※印の付された担当者）
薬剤師としての経験かつ医療現場における薬学生への指導経験を踏まえて、1年生の医療現場見学に必要な知識、態度を指導します。

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | パンフレット（医療の担い手としての薬剤師） | | |
| **教科書** | 配付資料 | | |
| **参考書** | （なし） | | |

科 目 名　**解剖学（Human Structure(Anatomy)）**
科目概要　**１年後期　必修(薬学科、生命創薬科学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎門谷裕一(非常勤教員)**
開講日等　**A，B，C，D，Sクラス：木曜日５時限**
そ の 他　**健康食品管理士養成講座対応科目**
**〔科目ナンバリング：PP301-PH01，PL301-PH01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

人体の成り立ちを個体・器官・細胞の各レベルで理解できるようになるために、人体解剖学の基本的事項を修得する。
科目の位置付け：生理・薬理系専門科目
この科目は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の薬学科④、生命創薬科学科①に関連する。

**教育内容**

解剖学の基礎知識を器官系別に講義する。

**学習の到達目標**

A 組織、器官を構成する代表的な細胞を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。
B 人体の主要な器官、器官系について、構造を説明できる。
C 人体を構成する器官・器官系の相互関係を形態学的に説明できる。

**教育方法**

パワーポイントを用いた講義形式で進める。定期試験終了後模範解答を開示する。対面授業として実施する(収録動画等配信なし)。

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 組織と細胞 | 門谷　裕一 | 9/11⑤ | 組織と器官を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴について学ぶ。<br>【予習】教科書5-22ページを読む。<br>【復習】講義内容をまとめたノートを作成する。<br>【到達目標】Aに関連する。 |
| 2 | 筋・骨格系1（頭と体幹） | 門谷　裕一 | 9/18⑤ | 頭と体幹の骨・筋の名称とそれぞれの作用について学ぶ。<br>【予習】教科書23-30、31-63、83-99ページを読む。<br>【復習】講義内容をまとめたノートを作成する。<br>【到達目標】B、Cに関連する。 |
| 3 | 筋・骨格系2（上肢と下肢） | 門谷　裕一 | 9/25⑤ | 上肢と下肢の骨・筋の名称とそれぞれの作用について学ぶ。<br>【予習】教科書64-81、99-119ページを読む。<br>【復習】講義内容をまとめたノートを作成する。<br>【到達目標】B、Cに関連する。 |
| 4 | 神経系１（中枢神経） | 門谷　裕一 | 10/2⑤ | 神経系の構成、脳と脊髄の構造について学ぶ。<br>【予習】教科書279-311、340-345、348-349ページを読む。<br>【復習】講義内容をまとめたノートを作成する。<br>【到達目標】Bに関連する。 |
| 5 | 神経系２（末梢神経） | 門谷　裕一 | 10/9⑤ | 脳神経、脊髄神経、自律神経の構造について学ぶ。<br>【予習】教科書312-340ページを読む。<br>【復習】講義内容をまとめたノートを作成する。<br>【到達目標】B、Cに関連する。 |
| 6 | 皮膚、感覚器系 | 門谷　裕一 | 10/16⑤ | 皮膚、主な感覚器（視覚器・平衡聴覚器）の構造について学ぶ。<br>【予習】教科書353-375ページを読む。<br>【復習】講義内容をまとめたノートを作成する。<br>【到達目標】Bに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 7 | 循環器系1 | 門谷　裕一 | 10/23⑤ | 心臓の構造、血管の構造について学ぶ。動脈系について学ぶ。<br>【予習】教科書121-147ページを読む。<br>【復習】講義内容をまとめたノートを作成する。<br>【到達目標】B、Cに関連する。 |
| 8 | 循環器系2、リンパ系 | 門谷　裕一 | 10/30⑤ | 静脈系、血液（血球）、リンパ系について学ぶ。。リンパ性器官の構造について学ぶ。<br>【予習】教科書147-169ページを読む。<br>【復習】講義内容をまとめたノートを作成する。<br>【到達目標】B、Cに関連する。 |
| 9 | 消化器系 | 門谷　裕一 | 11/6⑤ | 消化管（食道～直腸）、主な消化器付属腺（肝臓・膵臓等）、腹膜の構造について学ぶ。<br>【予習】教科書171-174、188-210、261-263ページを読む。<br>【復習】講義内容をまとめたノートを作成する。<br>【到達目標】Bに関連する。 |
| 10 | 呼吸器系 | 門谷　裕一 | 11/13⑤ | 口腔、咽頭、気道、肺の構造について学ぶ。<br>【予習】教科書174-187、217-233ページを読む。<br>【復習】講義内容をまとめたノートを作成する。<br>【到達目標】Bに関連する。 |
| 11 | 泌尿器系、内分泌系 | 門谷　裕一 | 11/20⑤ | 腎臓と尿路（尿管・膀胱・尿道）、並びに主な内分泌器官（下垂体・甲状腺・副腎）の位置と構造について学ぶ。<br>【予習】教科書235-243、265-278ページを読む。<br>【復習】講義内容をまとめたノートを作成する。<br>【到達目標】Bに関連する。 |
| 12 | 生殖器系 | 門谷　裕一 | 11/27⑤ | 男性生殖器（精巣・精路）と女性生殖器（卵巣・子宮）の構造について学ぶ。<br>【予習】教科書245-260ページを読む。<br>【復習】講義内容をまとめたノートを作成する。<br>【到達目標】Bに関連する。 |
| 13 | 休講 | | ⑤ | |
| 14 | 休講 | | ⑤ | |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **定期試験** | 定期試験で評価する(100%)。 |
| **その他** | 定期試験終了後、模範解答を掲示する。 |

**学生へのメッセージ**

教科書を開いてみてください。400ページ、索引には2000語を超える事項があげられています。ここから厳選したエッセンスを全12コマに凝縮したのが本講義です。主体的な受講を歓迎します。

**準備学習(予習・復習）・その他**

【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】
（予習）講義項目について教科書の当該ページを読んでおく。
（復習）毎回学習項目を記したプリントを配布するので、講義内容をまとめたノートを作成する。

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | 入門人体解剖学（改訂第６版） | （著）藤田恒夫 （改訂）藤田信也 | 南江堂 |
| **参考書** | | | |

科 目 名　**生化学Ⅰ（Biochemistry Ⅰ）**
科目概要　**１年後期　必修(薬学科、生命創薬科学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎柴垣芳夫(生化学・講師)**
開講日等　**A，B，C，D，Sクラス：金曜日２時限大村記念ホール**
そ の 他　**健康食品管理士養成講座対応科目**
**〔科目ナンバリング：PP301-BI01，PL301-BI01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

薬学を学んでいく上に重要となる生命科学の基礎を身に付けるために、生化学の基本的な知識を修得する。生化学Ⅰでは特に、生命体の構造単位である細胞の構造を理解し、生体を構成する成分の化学的性質について説明できるようにする。また生体高分子が示す特徴的な性質を理解し、生体内で行われる化学反応、特に酵素反応について分子レベルで考察できるようにする。科目の位置付け：生物・生理系専門科目
この科目は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の薬学科④、生命創薬科学科①に関連する。

**教育内容**

生化学Iは生体の構成成分特に、アミノ酸、タンパク質、核酸の化学的、物理的な性質について講義する。また生体内で行われる触媒反応の中心的な役割を果たす酵素について反応機構及び制御機構について説明する。

**学習の到達目標**

A： 薬学を学んでいく上に重要となる基本的な生体成分アミノ酸、タンパク質、核酸の化学的、物理的な性質を理解できる。
B：薬物の作用機作を細胞レベルの代謝機構を踏まえて理解する基礎を身に着けられる。
C：薬物の作用機作をインターネット、文献読み解き、自分で調べることができる。

**教育方法**

パワーポイントと配布資料を中心に、教科書であるレーニンジャーの新生化学の各章をまとめて講義を進める。講義中に教科書をすべて網羅することは難しいので各章でポイントとなる図を説明し、教科書の該当ページを示しながら、復習がしやすいように配慮する。講義中にクイズ形式のスライドをまじえて受講者が理解度を確認できるようにする。また、課題で問題のある場合は、次回の講義の際に指摘する。
対面講義として実施する。

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 生化学の基礎と生物の進化 | 柴垣　芳夫 | 9/12② | 古典的な生化学の芽生えから現代の分子生物学までの流れについて学ぶ。<br>【予習】事前に教科書の該当箇所に目を通しておく。<br>【復習】講義で指摘した教科書の項目をよく読んでおく。<br>【到達目標】Cに関連する。 |
| 2 | 細胞の構造 | 柴垣　芳夫 | 9/19② | 原核細胞と真核細胞における基本構造、オルガネラとその機能について学ぶ。<br>【予習】事前に教科書の該当箇所に目を通しておく。<br>【復習】講義で指摘した教科書の項目をよく読んでおく。<br>【到達目標】Bに関連する。 |
| 3 | 生化学における水の役割 | 柴垣　芳夫 | 9/26② | 生体成分の化学構造、化学反応性、水溶液中における性質について学ぶ。<br>水溶液中でみられる4 つの弱い相互作用について学ぶ。<br>【予習】事前に教科書の該当箇所に目を通しておく。<br>【復習】講義で指摘した教科書の項目をよく読んでおく。<br>【到達目標】Aに関連する。 |
| 4 | アミノ酸とペプチド | 柴垣　芳夫 | 10/3② | アミノ酸を化学的性質と構造から分類し、構造を学ぶ。<br>各アミノ酸の特徴を化学的性質を理解し、学ぶ。各アミノ酸の特徴をタンパク質の性質と関連づけて学ぶ。<br>ペプチド結合について学ぶ。<br>アミノ酸の滴定曲線の特徴をアミノ酸のイオンの構造から学ぶ。<br>【予習】事前に教科書の該当箇所に目を通しておく。<br>【復習】講義で指摘した教科書の項目をよく読んでおく。<br>【到達目標】Aに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 5 | タンパク質の精製法 | 柴垣　芳夫 | 10/10② | タンパク質の分離・精製法について学ぶ。<br>タンパク質の一次構造の決定法について学ぶ。<br>【予習】事前に教科書の該当箇所に目を通しておく。<br>【復習】講義で指摘した教科書の項目をよく読んでおく。<br>【到達目標】Aに関連する。 |
| 6 | タンパク質の分析方法 | 柴垣　芳夫 | 10/17② | タンパク質・ペプチドの定量法について学ぶ。<br>タンパク質の二次構造、三次構造、四次構造について学ぶ。<br>【予習】事前に教科書の該当箇所に目を通しておく。<br>【復習】講義で指摘した教科書の項目をよく読んでおく。<br>【到達目標】Aに関連する。 |
| 7 | タンパク質の三次元構造 | 柴垣　芳夫 | 11/7② | タンパク質の折りたたみと変性について学ぶ。<br>タンパク質-リガンド相互作用について定量的な扱いができ、その意味について学ぶ。<br>【予習】事前に教科書の該当箇所に目を通しておく。<br>【復習】講義で指摘した教科書の項目をよく読んでおく。<br>【到達目標】Bに関連する。 |
| 8 | タンパク質の機能 | 柴垣　芳夫 | 11/14② | アロステリック効果について例をあげて学ぶ。<br>ヘモグロビンを例に挙げて外的条件がタンパク質の機能にどのような影響を与えるのかについて学ぶ。<br>Kd の意味について学ぶ。<br>【予習】事前に教科書の該当箇所に目を通しておく。<br>【復習】講義で指摘した教科書の項目をよく読んでおく。<br>【到達目標】B及びCに関連する。 |
| 9 | 酵素反応と速度論 | 柴垣　芳夫 | 11/21② | 酵素の一般的な性質について学ぶ。活性化エネルギーと結合エネルギー、酵素の基質特異性など酵素触媒の分子機構について学ぶ。<br>ミカエリス- メンテン式の意味について学ぶ。<br>【予習】事前に教科書の該当箇所に目を通しておく。<br>【復習】講義で指摘した教科書の項目をよく読んでおく。<br>【到達目標】A、B、Cについて関連する。 |
| 10 | 酵素の阻害反応と活性調節 | 柴垣　芳夫 | 11/28② | 二重逆数プロットの式を導くことができ、式を使って酵素の動力学的定数の計算法について学ぶ。<br>【予習】事前に教科書の該当箇所に目を通しておく。<br>【復習】講義で指摘した教科書の項目をよく読んでおく。<br>【到達目標】B、Cについて関連する。 |
| 11 | ヌクレオチドと核酸 I | 柴垣　芳夫 | 12/5② | ヌクレオチド、DNA, RNA の化学的性質と構造の特徴について学ぶ。<br>核酸の高次構造について説明できる。<br>核酸の変性について説明できる。<br>【予習】事前に教科書の該当箇所に目を通しておく。<br>【復習】講義で指摘した教科書の項目をよく読んでおく。<br>【到達目標】Aに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 12 | ヌクレオチドと核酸 II | 柴垣　芳夫 | 12/12② | 核酸に変異を与える物質について学ぶ。<br>DNA の塩基配列決定法について学ぶ。<br>簡単な遺伝子工学の方法論について学ぶ。<br>【予習】事前に教科書の該当箇所に目を通しておく。<br>【復習】講義で指摘した教科書の項目をよく読んでおく。<br>【到達目標】Aに関連する。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **定期試験** | マークシート形式と記述問題を出題する。（100％） |
| **授業** | 授業において理解度のチェックを適宜クイズ形式で行う。 |

**学生へのメッセージ**

生化学 I は、これから薬学を学ぶ上での基礎となる科目です。レーニンジャーの新生化学は教科書として膨大な量です。すべてを理解することは難しいですが、講義を通じて将来他の分野でわからないことがあったときにこの教科書を使いこなす力を養ってください。

**準備学習(予習・復習）・その他**

【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】
高校の生物を学んだ諸君は、もう一度教科書を見直すことを薦める。復習として、講義中に指摘した部分の教科書を必ず読むこと。

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | レーニンジャーの新生化学 （上） 第7版 | D. L. Nelson and M. M. Cox（山　廣川書店<br>科郁男監修） | |
| **参考書** | （なし） | | |

科 目 名　**生理学Ⅰ（Physiology Ⅰ）**
科目概要　**１年後期　必修(薬学科、生命創薬科学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎中原努(分子薬理学・教授) 比留間弘美(非常勤教員)**
**緒形雅則(医療衛生学部) 片倉隆(非常勤教員)**
開講日等　**A，B，C，D，Sクラス：水曜日３時限**
そ の 他　**健康食品管理士養成講座対応科目**
**〔科目ナンバリング：PP301-PH01，PL301-PH01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

生命体の最小単位である細胞を構成する成分と機能を理解する。そして細胞が組織や器官の構造や機能の基盤であること、細胞の異常が組織や器官の機能的・器質的異常につながることを理解し、疾患の予防・治療を学ぶ基盤を形成する。神経系、内分泌系、筋系、生殖器系においては構成する器官の構造や機能を理解し、それぞれに関連する病態を学ぶ基盤を形成する。
科目の位置付け：生物系専門科目
この科目は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の薬学科④、生命創薬科学科①に関連する。

**教育内容**

医療薬学・臨床薬学の学修に必要な生理学知識と考え方を身に付けるために、人体内に備わる様々な生命現象のメカニズムを学ぶ。

**学習の到達目標**

A: 細胞を構成する成分及び細胞の機能を理解している。
B: 代表的な生体内化学反応、細胞内、細胞間及び組織間情報伝達の機構を理解している。
C: 神経系を構成する細胞や器官の構造や機能、神経系による調節の特徴を理解している。
D: 人体における3種類の筋（骨格筋、心筋、平滑筋）の構造と機能、収縮機構と神経支配を理解している。
E: 内分泌器官の構造と産生されるホルモン及びその作用を理解している。
F: 生殖器系を構成する器官の構造や機能、精子形成、女性の性周期及び妊娠とホルモン調節を理解している。

**教育方法**

パワーポイント、プリント、板書を活用しながら講義形式で進める（オムニバス方式）。質問を随時、受け付け、その都度あるいは次回の授業で解説し、疑問点を解消できるように指導する。
対面授業として実施する。（収録動画の配信なし）

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 細胞から個体へ | 中原　努 | 9/10③ | 細胞の構造、多細胞生物、体液並びにホメオスタシスについて学ぶ。<br>【予習】教科書の「1．生理学の基礎 1~3」を読み、わからない部分を整理しておく。<br>【復習】講義内容を教科書・参考書・配布資料等を利用して理解を深める。疑問点は担当教員に質問して解決する。<br>【到達目標】Aに関連する。 |
| 2 | 細胞内情報伝達 | 中原　努 | 9/17③ | 細胞機能の発現に関連する情報伝達経路の基礎について学ぶ。<br>【予習】教科書の「1．生理学の基礎 4~5」を読み、わからない部分を整理しておく。<br>【復習】講義内容を教科書・参考書・配布資料等を利用して理解を深める。疑問点は担当教員に質問して解決する。<br>【到達目標】A、Bに関連する。 |
| 3 | 栄養と代謝 | 中原　努 | 9/24③ | 生体の構成成分と栄養素、代謝、中間代謝並びにエネルギー代謝について学ぶ。<br>【予習】教科書の「12．栄養と代謝」を読み、わからない部分を整理しておく。<br>【復習】講義内容を教科書・参考書・配布資料等を利用して理解を深める。疑問点は担当教員に質問して解決する。<br>【到達目標】Bに関連する。 |
| 4 | 神経 | 片倉　隆 | 10/1③ | ニューロンの形態、膜電位並びに興奮の伝導と伝達について学ぶ。<br>【予習】教科書の「2．神経の基本的機能」を読み、わからない部分を整理しておく。<br>【復習】講義内容を教科書・参考書・配布資料等を利用して理解を深める。疑問点は担当教員に質問して解決する。<br>【到達目標】Cに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 神経系（１） | 片倉　隆 | 10/8③ | 体性神経系と自律神経系について学ぶ。<br>【予習】教科書の「5．神経系の構成４」を読み、わからない部分を整理しておく。<br>【復習】講義内容を教科書・参考書・配布資料等を利用して理解を深める。疑問点は担当教員に質問して解決する。<br>【到達目標】Cに関連する。 |
| 6 | 神経系（２） | 片倉　隆 | 10/15③ | 骨格筋の感覚器、体性反射と中枢、脊髄並びに脳幹について学ぶ。<br>【予習】教科書の「4．筋肉の基本的機能1~2」を読み、わからない部分を整理しておく。<br>【復習】講義内容を教科書・参考書・配布資料等を利用して理解を深める。疑問点は担当教員に質問して解決する。<br>【到達目標】C、Dに関連する。 |
| 7 | 筋肉 | 片倉　隆 | 10/22③ | 筋収縮の機序並びに骨格筋・心筋・平滑筋の構造と機能について学ぶ。<br>【予習】教科書の「4．筋肉の基本的機能1~4」を読み、わからない部分を整理しておく。<br>【復習】講義内容を教科書・参考書・配布資料等を利用して理解を深める。疑問点は担当教員に質問して解決する。<br>【到達目標】Dに関連する。 |
| 8 | 随意運動の制御機構 | 緒形　雅則 | 10/29③ | 小脳、大脳基底核並びに大脳皮質運動野について学ぶ。<br>【予習】教科書の「8．体性神経系と運動機能1~7」を読み、わからない部分を整理しておく。<br>【復習】講義内容を教科書・参考書・配布資料等を利用して理解を深める。疑問点は担当教員に質問して解決する。<br>【到達目標】Cに関連する。 |
| 9 | 中枢神経系の高次機能（１） | 緒形　雅則 | 11/12③ | 新皮質の機能分化、脳波、覚醒と睡眠について学ぶ。<br>【予習】教科書の「9．中枢神経系の高次機能」を読み、わからない部分を整理しておく。<br>【復習】講義内容を教科書・参考書・配布資料等を利用して理解を深める。疑問点は担当教員に質問して解決する。<br>【到達目標】Cに関連する。 |
| 10 | 中枢神経系の高次機能（２） | 緒形　雅則 | 11/19③ | 新皮質連合野の統合機能、辺縁系と視床下部の機能について学ぶ。<br>【予習】教科書の「8．体性神経系と運動機能8」を読み、わからない部分を整理しておく。<br>【復習】講義内容を教科書・参考書・配布資料等を利用して理解を深める。疑問点は担当教員に質問して解決する。<br>【到達目標】Cに関連する。 |
| 11 | 内分泌（１） | 比留間　弘美 | 11/26③ | ホルモンの一般的性質、視床下部並びに下垂体ホルモンについて学ぶ。<br>【予習】教科書の「10．内分泌系の機能1~5」を読み、わからない部分を整理しておく。<br>【復習】講義内容を教科書・参考書・配布資料等を利用して理解を深める。疑問点は担当教員に質問して解決する。<br>【到達目標】Eに関連する。 |
| 12 | 内分泌（２） | 比留間　弘美 | 12/3③ | 甲状腺のホルモン、カルシウム代謝、副腎皮質並びに副腎髄質のホルモンについて学ぶ。<br>【予習】教科書の「10．内分泌系の機能6~9」を読み、わからない部分を整理しておく。<br>【復習】講義内容を教科書・参考書・配布資料等を利用して理解を深める。疑問点は担当教員に質問して解決する。<br>【到達目標】Eに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 13 | 内分泌（３） | 比留間　弘美 | 12/10③ | 膵臓のホルモン並びに血糖の調節について学ぶ。<br>【予習】教科書の「10．内分泌系の機能 10~11」を読み、わからない部分を整理しておく。<br>【復習】講義内容を教科書・参考書・配布資料等を利用して理解を深める。疑問点は担当教員に質問して解決する。<br>【到達目標】Eに関連する。 |
| 14 | 内分泌（４） | 比留間　弘美 | 12/17③ | 生殖機能の調節について学ぶ。<br>【予習】教科書の「11．生殖機能」を読み、わからない部分を整理しておく。<br>【復習】講義内容を教科書・参考書・配布資料等を利用して理解を深める。疑問点は担当教員に質問して解決する。<br>【到達目標】Fに関連する。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **定期試験** | 定期試験の成績で評価する（100%）。 |

**学生へのメッセージ**

本講義を通じて薬理学・薬物治療学の講義を理解するために必要な基礎知識を修得してください。

**準備学習(予習・復習）・その他**

【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】
（予習）シラバスに目を通して講義内容を把握して、教科書を読み、わからない部分を整理しておく。
（復習）講義内容を教科書・参考書・配布資料等を利用して理解を深める。わからない部分は担当教員に質問する。

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | シンプル生理学 | 貴邑 冨久子、 根来 英雄 | 南江堂 |
| **参考書** | グラフィカル機能形態学 | 馬場 広子 | 京都廣川書店 |

科 目 名　**チーム医療論（Interprofessional Health Care）**
科目概要　**１年後期　必修(薬学科)選択(生命創薬科学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎尾鳥勝也※(薬物治療学Ⅰ・教授) 市川尊文(副学長)**
**松永篤彦※(医療衛生学部・教授) 別府千恵※(北里大学病院・看護部長)**
**田ヶ谷浩邦※(医療衛生学部・教授) 五味勉※(医療衛生学部・教授)**
**金子博徳※(北里研究所病院・病院長) 阿古潤哉※(KMC病院・病院長)**
**山岡邦宏※(北里大学病院・病院長) 内山勝文※(医学部・教授)**
**齋藤有紀子※(医学部・准教授) 渡邉達也※(医学部・講師) 左右田哲※(北里大学病院・MSW)**
**有田悦子※(医療心理学部門・教授) 守屋達美※(北里大学名誉教授)**
開講日等　**A，B，C，D，Sクラス：月曜日５時限**
そ の 他　**実務経験のある教員による授業科目（担当者に付されている※印は実務経験のある教員を表す）**
**〔科目ナンバリング：PP301-CP01，PL301-CP01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

近年の生命科学、医学の進展に伴って医療は急速に高度化・細分化している。また、疾病構造や人口構造も大きく変ってきており、医療は複数の医療専門職の知を結集して行わなければその実施は困難である。さらに、医療に対する社会のニーズも大きく変化してきており、単に病気を治すばかりでなく、どのように診断・治療が行われるかというプロセス、倫理的、心理的、社会的な側面も含めた対応が必要になる等、医療の質が大きく問われている。このように、患者を中心にした最適な医療を実践するためには、多種類の医療専門職の協働（チーム医療）が不可欠であり、そのための優れた人材の育成が急務である。
北里大学では、医療系学部と専門学校を擁し、15に及ぶ医療専門職を育成する教育を展開している。また、大学附属の３つの病院と連携した臨床教育も大きな特徴となっている。このような環境のもとに、本講義では、チーム医療の構成員として自身の専門性を活かし積極的に医療に参画し、より安全で質の高い医療を実践できるように、医療の流れ、医療チーム構成員とその職能・役割、医療倫理をはじめとしてチーム医療に関する基本的知識を修得する。
科目の位置付け：臨床薬学系専門科目
この科目は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の薬学科①②③④⑤、生命創薬科学科①②③④に関連する。

**教育内容**

日本の医療システム概要（保健福祉システムとの関連）、専門職種の理解（医療関連職種の職能、役割等）、疾患と医療チーム（医療現場で形成される医療チームとその構成員の連係プレーの具体例）、クリティカルパス、医療倫理、コミュニケーション論、先進医療におけるチーム医療の例等、チーム医療に関する共通認識を深めるための内容を講義する。

**学習の到達目標**

患者を指向した質の高い医療の提供を目標に、チーム医療の構成員として自身の専門性を活かし積極的に医療に参画する事ができるようになるために、医療の流れ、各医療職の職能、医療倫理、コミュニケーションなどのチーム医療に関する基礎知識を修得する。
・学生がチーム医療の構成員として自身の専門職の専門性を説明することができる。
・学生がチーム医療の構成員として自身の専門職の専門性を意識した論点を述べることができる。
・学生がチーム医療の構成員としてリーダーシップ、メンバーシップを意識してディスカッションに参画することができる。
・学生が他の学生の意見を真摯に聞くことができる。
・学生が自身の意見と異なる意見を尊重した態度で聞くことができる。

**教育方法**

各学部および医療現場からの教員による主にパワーポイント、プリント等を用いた講義（オムニバス方式、一部演習も含む）映像をオンデマンド形式で配信する。前回の講義内容の復習、とくにキーワードについて整理しておくこと。
教育効果を高めるため、各講師より講義課題が提示され、レポート提出を課す。
【フィードバックの方法】科目責任者より、総評がGoogle Classroomなどにより、フィードバックされる。

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | イントロダクション | 市川　尊文 | 9/8⑤ | 科目概要の説明、チーム医療の必要性とその意義、北里大学の医療系学部・専門学校とチーム医療教育を紹介する。 |
| 2 | 専門職種の理解-1 | 松永　篤彦 | 9/22⑤ | 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士 の教育体系、役割、機能、権限、医療チーム内位置付けを説明する。 |
| 3 | 専門職種の理解-2 | 別府　千恵 | 9/29⑤ | 病院施設における看護職の役割および他職種がどのようなチームを構成し、医療の質や安全を保証しているかを解説する。 |
| 4 | 保健・医療・福祉システム概要 | 田ヶ谷　浩邦 | 10/6⑤ | 我が国の保健・医療・福祉システムについて、システム・成員の連携、外国との比較等を説明する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 専門職種の理解-3 | 五味　勉 | 10/13⑤ | 保健衛生学科の概要と教育内容、取得可能資格、医療チーム内での位置付けおよび臨床検査技師、臨床工学技士、診療放射線技師の教育体系、役割、機能、権限、医療チーム内での位置付けを説明する。 |
| 6 | 疾患と医療チーム-1 | 金子　博徳 | 10/20⑤ | 北里研究所病院の特徴と、特にチーム医療病院実習を説明する。 |
| 7 | 疾患と医療チーム-2 | 阿古　潤哉 | 10/27⑤ | 北里大学メディカルセンター（KMC）の特徴と、地域医療支援病院におけるチーム医療を説明する。（大学病院との相違等） |
| 8 | 疾患と医療チーム-3 | 山岡　邦宏 | 11/10⑤ | 北里大学病院の特徴と、大学病院の特性から見たチーム医療を説明する。 |
| 9 | 組織移植医療におけるチーム医療 | 内山　勝文 | 11/17⑤ | 臓器移植、骨移植におけるチーム医療の大切さとその構成職種を解説する。 |
| 10 | 医療倫理 | 齋藤　有紀子<br>渡邉　達也 | 11/24⑤ | 治験におけるチーム医療の特徴について解説し、患者の人権を尊重する説明文書のあり方と、患者のインフォームドコンセントの大切さを説明する。 |
| 11 | 専門職種の理解-4 | 左右田　哲 | 12/1⑤ | 医療ソーシャルワーカーの役割、機能および病院内医療チームおよび地域の保健福祉・医療チームとの連携の実際を説明する。 |
| 12 | 専門職種の理解-5 | 尾鳥　勝也 | 12/8⑤ | 薬剤師と法、6年制薬学教育の概要、医療環境の変化と薬剤師、チーム医療における薬剤師の仕事、薬剤師としての医療への貢献等を説明する。 |
| 13 | 医療安全 | 内山　勝文 | 12/15⑤ | 医療におけるリスクマネジメントを説明する。 |
| 14 | チーム医療における<br>コミュニケーション | 有田　悦子 | 12/22⑤ | 専門職間のコミュニケーション、患者とのコミュニケーション、患者の心理、言語・非言語コミュニケーション等を説明する。 |
| 15 | チーム医療の科学的・客観的検証 | 守屋　達美 | 1/5⑤ | 糖尿病性腎症におけるチーム医療を例に挙げて、チーム医療の科学的・客観的検証の必要性を解説する。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **その他** | 毎回の講義レポートを総合的に評価する。（100％）なお、欠席は減点をする。 |

**学生へのメッセージ**

チーム医療の必要性や意義を理解し、医療の場におけるチームワークが医療の質と安全性の向上、患者のQOLの向上に大きく貢献することを認識してほしい。本学のチーム医療教育プログラムは、15にも及ぶ医療専門職の教育を行っている大学ならではの特色ある教育プログラムであり、本講義で学んだ基礎知識とチーム医療に関する認識を、高学年で行う「オール北里チーム医療演習」、「チーム医療病院実習」「国際チーム医療演習」等で存分に発揮して、社会に出てからの糧としていただきたい。

**準備学習(予習・復習)・その他**

【授業時間外に必要な学習時間：15時間】
1.　予習（30分程度）
自分の職種の医療現場における役割、専門性を調べて臨む。
他の医療保健福祉専門職の役割、専門性を調べて臨む。
2.　復習（30分程度）
講義内容・配布資料をもとに、講義終了後、講義で学んだこと、議論したことを見直し、自分の考えを整理し、理解を深める。
また、ニュース、新聞等から現在の医療現場におけるチーム医療の課題について考え、望ましい将来のチーム医療について考察し、次の講義に臨む。
【実務経験のある教員による授業科目】（※印の付された担当者）
【松永　篤彦】病院での経験を踏まえ、リハビリテーションを展開する際のチーム医療について説明する。
【別府　千恵】病院での臨床経験を踏まえ、病院施設での看護職と他職種のチームによる医療の質・安全の保証について説明する。
【田ヶ谷浩邦】病院での臨床経験を踏まえ、我が国の保健・医療・福祉システムにおける成員の連携・外国との比較等について説明する。
【五味　　勉】病院での臨床経験を踏まえ、臨床検査技師、臨床工学技士、診療放射線技師の医療チーム内での位置付け等を説明する。
【金子　博徳】病院での臨床経験を踏まえ、北里研究所病院の特徴と、チーム医療病院実習について説明する。
【阿古　潤哉】病院での臨床経験を踏まえ、地域医療支援病院である北里大学メディカルセンターの特徴とチーム医療について説明する。
【山岡　邦宏】病院での臨床経験を踏まえ、北里大学病院の特徴と、大学病院の特性から見たチーム医療について説明する。
【内山　勝文（第9回）】病院での臨床経験を踏まえ、移植医療におけるチーム医療の大切さを説明する。
【齋藤　有紀子】病院・研究機関での倫理審査の経験を踏まえ、臨床・研究におけるICの意義と重要性について説明する。
【渡邉　達也】病院での実務経験を踏まえ、治験におけるチーム医療の実際とCRCの役割について説明する。
【左右田　哲】病院での臨床経験を踏まえ、MSWの役割、機能、病院内医療チーム及び地域の保健福祉・医療チームとの連携の実際を説明する。
【尾鳥　勝也】病院での臨床経験を踏まえ、チーム医療における薬剤師の役割と業務の実状を説明する。
【内山　勝文（第13回）】病院の医療安全推進室長としての実務経験から、医療におけるリスクマネジメントを説明する。
【有田　悦子】病院での臨床教育経験を踏まえ、チーム医療におけるコミュニケーションの意義と重要性について説明する。
【守屋　達美】病院における糖尿病性腎症診療の経験を踏まえ、チーム医療の科学的・客観的検証の必要性を解説する。

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | （なし） | | |
| **参考書** | 『実践 チーム医療論』 インタープロフェッショナル・ヘルスケア―実際と教育プログラム | 水本清久、他　編著 | 医歯薬出版 |
| **参考書** | IPW を学ぶ | 埼玉県立大学　編 | 中央法規 |

科 目 名　**臨床心理学入門（Introduction to Clinical Psychology）**
科目概要　**１年後期　選択(薬学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎内田尚宏(北里大学健康管理センター)**
開講日等　**A，B，C，Dクラス：金曜日１時限1203講義室**
そ の 他　**〔科目ナンバリング：PP301-HU01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

生命科学の進歩が著しい中、医療人として人と関わる上で基本的に持つべき資質として、人を理解し尊重することができ、様々な職種や立場の人々とよりよいコミュニケーションをとれることが求められている。そこで本講義では、自らが関与する様々な人々(患者、患者家族、他職種など)と良好な関係性を築くため、人の行動と心理について、その背景や文脈を見据えた対応ができるような考え方や方法を身につける。そのため、主に臨床心理学的視点から、その基本的な知識、信頼関係の構築に必要な自己理解と人の多様性への洞察を深めるための能力を修得する。
科目の位置付け：ヒューマニズム系専門科目
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）：薬学科②③に関連する。

**教育内容**

前半は、臨床心理学を理解する上で必要な心理学的知識や臨床心理学の基礎的な理論を説明する。
後半は、代表的な精神的障害や症状の概略と特徴、その対応例や今後の課題について説明する。それらを通して人々の生活や背景を想像し、多様性の理解や自己理解につながる洞察力を習得する。

**学習の到達目標**

A.医療人として、人を理解するために心理的な背景を把握し支援をする能力を身につける。
B.人の社会的な文脈を理解することで円滑なコミュニケーションを通じ良好な関係を築き配慮ある実践につなげる。
C.人の環境からの影響やそこから生じる疾病についての基本的な知識と対策などについて説明する。
D.人の心理的・身体的な反応や、疾患に至るメカニズムの理解を通じ、病態を説明する。
E.ライフサイクルや多様性・個別性について理解し、人への継続的な支援の実現に寄与する。
F.生活者として存在する人の特徴を把握し、心理的に受け止め寄り添うことで、全人的な支援を行う。

**教育方法**

パワーポイントと配布資料を用い、講義形式ですすめる。映像資料の活用や、ワークシートを用いて内容を深めていく。また、数回グループワークを行い、その体験を発表し共有する。講義の終わりに小レポート課題を提示し、提出されたレポートの内容について講義中に紹介しコメントする。
対面授業（収録動画の配信なし）とオンデマンド型遠隔授業を組み合わせて実施する。

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 心理学の基礎① | 内田　尚宏 | 9/12① | オリエンテーション。心理学について、医療人として心理学を学ぶ意味を自ら考える方法を学ぶ。<br>【予習】<br>事前にシラバスに目を通し関連する論文等を調べる。<br>【復習】<br>配布資料を基に講義内容の復習とまとめを行い、紹介された論文等を一読する<br>【到達目標】Aに関連する。 |
| 2 | 心理学の基礎② | 内田　尚宏 | 9/19① | 行動と知覚、学習、記憶、認知、性格等との関係について学ぶ。<br>【予習】<br>事前にシラバスに目を通し関連する論文等を調べる。<br>【復習】<br>配布資料を基に講義内容の復習とまとめを行い、紹介された論文等を一読する。<br>【到達目標】A、Eに関連する。 |
| 3 | 臨床心理学について | 内田　尚宏 | 9/26① | 臨床心理学の学問的意味、主な歴史や人物と理論について学ぶ。<br>【予習】<br>事前にシラバスに目を通し関連する論文等を調べる。<br>【復習】<br>配布資料を基に講義内容の復習とまとめを行い、紹介された論文等を一読する。<br>【到達目標】A、B、Eに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4 | パーソナリティ | 内田　尚宏 | 10/3① | 主なパーソナリティ理論について学ぶ。<br>【予習】<br>事前にシラバスに目を通し関連する論文等を調べる。<br>【復習】<br>配布資料を基に講義内容の復習とまとめを行い、紹介された論文等を一読する。<br>【到達目標】A、E、Fに関連する。 |
| 5 | 生涯発達① | 内田　尚宏 | 10/10① | 乳児期、幼児期の心理的発達や主な理論について学ぶ。<br>【予習】<br>事前にシラバスに目を通し関連する論文等を調べる。<br>【復習】<br>配布資料を基に講義内容の復習とまとめを行い、紹介された論文等を一読する。<br>【到達目標】A、B、C、E、Fに関連する。 |
| 6 | 生涯発達②<br>※オンデマンド型遠隔授業 | 内田　尚宏 | 10/17① | 児童期、青年期以降の心理的発達や主な理論について学ぶ。<br>【予習】<br>事前にシラバスに目を通し関連する論文等を調べる。<br>【復習】<br>配布資料を基に講義内容の復習とまとめを行い、紹介された論文等を一読する。<br>【到達目標】A、B、C、E、Fに関連する。 |
| 7 | 動機づけとストレス | 内田　尚宏 | 11/7① | 動機づけの主な理論と、ストレスの考え方といくつかの対処法について学ぶ。<br>【予習】<br>事前にシラバスに目を通し関連する論文等を調べる。<br>【復習】<br>配布資料を基に講義内容の復習とまとめを行い、紹介された論文等を一読する。<br>【到達目標】A、B、C、D、Fに関連する。 |
| 8 | アセスメント<br>※オンデマンド型遠隔授業 | 内田　尚宏 | 11/14① | アセスメントを行う意義と、いくつかのアセスメントツールについて学ぶ。<br>【予習】<br>事前にシラバスに目を通し関連する論文等を調べる。<br>【復習】<br>配布資料を基に講義内容の復習とまとめを行い、紹介された論文等を一読する。<br>【到達目標】A、D、Fに関連する。 |
| 9 | 代表的な心の問題①<br>※オンデマンド型遠隔授業 | 内田　尚宏 | 11/21① | うつ、双極症、統合失調症ついて概要を学ぶ。<br>【予習】<br>事前にシラバスに目を通し関連する論文等を調べる。<br>【復習】<br>配布資料を基に講義内容の復習とまとめを行い、紹介された論文等を一読する。<br>【到達目標】A、C、D、Fに関連する。 |
| 10 | 代表的な心の問題② | 内田　尚宏 | 11/28① | ASD、LD、ADHD、不安症、強迫症等の概要について学ぶ。<br>【予習】<br>事前にシラバスに目を通し関連する論文等を調べる。<br>【復習】<br>配布資料を基に講義内容の復習とまとめを行い、紹介された論文等を一読する。<br>【到達目標】A、C、D、Fに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 心理療法の基礎理論 | 内田　尚宏 | 12/5① | 精神分析療法、認知行動療法、来談者中心療法等の心理療法についての概要とその代表的な活用について学ぶ。<br>【予習】<br>事前にシラバスに目を通し関連する論文等を調べる。<br>【復習】<br>配布資料を基に講義内容の復習とまとめを行い、紹介された論文等を一読する。<br>【到達目標】A、B、C、Fに関連する。 |
| 12 | 依存とグループアプローチ | 内田　尚宏 | 12/12① | 依存のメカニズムについての概要と、グループアプローチの活用について学ぶ。<br>【予習】<br>事前にシラバスに目を通し関連する論文等を調べる。<br>【復習】<br>配布資料を基に講義内容の復習とまとめを行い、紹介された論文等を一読する。<br>【到達目標】A、C、D、Fに関連する。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **授業** | 授業態度(10％)、講義期間中に提示する数回のショートレポート課題(50％)、講義期間中の小テスト(20％)。 |
| **その他** | 全講義終了後に提示するレポート課題(20％)。<br>なお、レポート類は以下の基準を基に評価を行う。<br>①テーマに沿っていること②授業内容を踏まえていること③具体的な個人の見解を述べていること |

**学生へのメッセージ**

本講義は、人の心と行動に関わることを網羅的に扱うもので、今回学んだことを今後活かしていくための基礎となるものと位置づけています。自分自身の経験と照らし合わせ、自己を含めた「人」に対する理解を深めながら、自分に合った適切な関係性の構築に役立つことを希望しています。

**準備学習(予習・復習)・その他**

【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】
・授業はプリント等を配布する。
・授業に臨むにあたり、シラバスに目を通して該当箇所を概括し、前回配布されたプリントを一読しておくこと。
・配布された資料は講義終了後に見返し、空欄やわからない箇所、ワークで取り組んだ内容を確認しておくこと。
・授業の進捗状況によって、補講を行うこともある。その場合は予め掲示する。
・少人数制により実施します（最大50名）。希望者が多い場合は、受講にあたってのレポートを提出してもらい、その内容により受講者を決定します。

**（書名）　　（著者・編者）　　（発行所）**

**教科書**　配布資料

**参考書**　特になし

科 目 名　**創薬科学への招待（Invitation to Pharmaceutical Life Sciences）**
科目概要　**１年後期　必修(生命創薬科学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎藤井秀明(生命薬化学・教授）前田和哉(薬剤学・教授)**
**髙根沢康一(公衆衛生学・准教授）田中丸真琴※(非常勤教員）他**
開講日等　**Sクラス：集中１・２・３・４・５限**
そ の 他　**実務経験のある教員による授業科目（担当者に付されている※印は実務経験のある教員を表す）**
**〔科目ナンバリング：PL301-is01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

国公立や企業の研究所等を訪問し、研究者の生活、研究環境や研究内容を見聞する体験を通して、研究者としての将来像を具体的に理解する。
科目の位置付け：総合領域科目
この科目は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の生命創薬科学科①④に関連する。

**教育内容**

自分自身の将来を描く一助として、国公立や企業の研究所を訪問し、研究者の生活、研究環境や研究内容を見聞する。
また、スモール・グループ・ディスカッション（SGD）により、自分自身の将来像について討論する。

**学習の到達目標**

A：訪問先の研究所で行われている研究について説明できる。
B：講義や研究所見学を通して、研究者としての将来像を具体的に考える。
C：考えた研究者としての将来像を実現するためには、どのようなことを実行すべきかを具体的に考える。
D：社会人としてのマナーを身につけ、実践する。

**教育方法**

訪問先の担当研究者は、パワーポイントと配布資料（訪問先の都合により、資料を配布できない場合があります）を用いて、講義形式ですすめる。
訪問先の担当研究者による講義を受けた後、研究所訪問に行く。
自分自身の将来像等に関する討論は、スモール・グループ・ディスカッション（SGD）により実施する。
各グループのSGDの成果発表後、ファシリテーターから討議・発表内容に関するコメントを行う。
対面授業として実施する。（収録動画等配信なし）

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス<br>スモール・グループ・ディスカッション（SGD）① | 藤井　秀明<br>前田　和哉<br>髙根沢　康一<br>他 | 12/12③④⑤ | 授業の目的を学び、自分の将来像について考える。<br>SGDを行い、講義や研究所見学において見聞するポイントについて議論する。<br>【予習】シラバスに目を通すとともに、研究者としての将来像、講義や研究所見学において見聞するポイントについて自分なりに考えて講義に臨む。<br>【復習】講義内容を振り返り、講義や研究所見学において見聞するポイントをまとめる。<br>【到達目標】Bに関連する。 |
| 2 | 研究機関における現状と将来展望<br>（講師の都合により、開講日が変更になる場合があります） | 藤井　秀明<br>前田　和哉<br>髙根沢　康一<br>他 | 12/19③④⑤ | 訪問先（研究所等）の社会的役割および将来展望について学ぶ。<br>【予習】事前に配布する講義資料（ガイダンス）とシラバスに目を通しておく。また、SGDで討論した講義や研究所見学において見聞するポイントを念頭におき、訪問先の研究所や企業のホームページを閲覧する。<br>【復習】講義内容を振り返り、レポートを作成する。<br>【到達目標】A、B、Cに関連する。 |
| 3 | マナー講義 | 田中丸　真琴 | 1/16①② | 研究所見学に備え、社会で求められるマナーについて学ぶ。<br>【予習】シラバスに目を通すとともに、社会で求められるマナーにはどのようなものがあるかを自分なりに考えて講義に臨む。<br>【復習】講義内容を振り返り、研究所見学時に実践してみる。<br>【到達目標】Dに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 研究所見学：（訪問先が決定次第、連絡します） | 藤井　秀明<br>前田　和哉<br>髙根沢　康一<br>他 | 1/16③④⑤ | 研究者としての将来像を具体的に理解するために、国公立や企業の研究所を訪問し、研究者の生活、研究環境や研究内容を体験する。<br>【予習】訪問先の担当研究者による講義内容を振り返るとともに、訪問先の研究所や企業のホームページを閲覧する。<br>【復習】研究所見学を振り返り、レポートを作成する。<br>【到達目標】A、B、C、Dに関連する。 |
| 5 | 研究所見学：（訪問先が決定次第、連絡します） | 藤井　秀明<br>前田　和哉<br>髙根沢　康一<br>他 | 1/19③④⑤ | 研究者としての将来像を具体的に理解するために、国公立や企業の研究所を訪問し、研究者の生活、研究環境や研究内容を体験する。<br>【予習】訪問先の担当研究者による講義内容を振り返るとともに、訪問先の研究所や企業のホームページを閲覧する。<br>【復習】研究所見学を振り返り、レポートを作成する。<br>【到達目標】A、B、C、Dに関連する。 |
| 6 | 研究所見学：（訪問先が決定次第、連絡します） | 藤井　秀明<br>前田　和哉<br>髙根沢　康一<br>他 | 1/20③④⑤ | 研究者としての将来像を具体的に理解するために、国公立や企業の研究所を訪問し、研究者の生活、研究環境や研究内容を体験する。<br>【予習】訪問先の担当研究者による講義内容を振り返るとともに、訪問先の研究所や企業のホームページを閲覧する。<br>【復習】研究所見学を振り返り、レポートを作成する。<br>【到達目標】A、B、C、Dに関連する。 |
| 7 | スモール・グループ・ディスカッション（SGD）② | 藤井　秀明<br>前田　和哉<br>髙根沢　康一<br>他 | 1/21①②③④ | 講義や研究所訪問で見聞したことを踏まえて、自分自身の将来像について討論する。<br>【予習】訪問先の担当研究者による講義内容や研究所見学を振り返り、自分自身の将来像について考えをまとめる。<br>【復習】SGDを振り返り、自分の考えと同じ点、相違点について考察する。<br>【到達目標】A、B、Cに関連する。 |
| 8 | スモール・グループ・ディスカッション（SGD）③とSGDの成果発表 | 藤井　秀明<br>前田　和哉<br>髙根沢　康一<br>他 | 1/22①②③④ | 自分自身の将来像について討論し、発表できるようにまとめる。<br>SGDにおいて討論した内容を発表する。<br>【予習】前日のSGDを振り返り、自分の考えと同じ点、相違点について考察しておくこと。<br>【復習】各グループのSGDの成果発表内容を振り返り、自分および自分のグループの考えと同じ点、相違点について考察し、重要と感じたことを今後の学生生活において実践していく。<br>【到達目標】A、B、Cに関連する。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **定期試験** | 実施しない。 |
| **その他** | レポート（100％、2/3以上のレポート提出を必須とする）により評価する。講義やSGDの成果発表会の際、積極的な質問は加点対象とする。なお、受講態度により減点することがある。また、遅刻、早退、欠席は減点する。 |

**学生へのメッセージ**

生命創薬科学科の学生は、少なからず研究に興味を持って入学してきた方々である。本講義は、学生自身の将来像を具体的にイメージしてもらうきっかけとして、企業や研究所で活躍する研究者を身近に感じていただくために企画されたものである。学外の研究者と直接話すことができる貴重な機会であり、積極的に取り組んで欲しい。

**準備学習(予習・復習)・その他**

【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】
訪問先の研究所や企業のホームページを閲覧しておくこと。
・訪問先の担当研究者による講義内容をよく復習し、見学に臨むこと。
・訪問先の見学から戻ったら、訪問先のホームページ等を利用して、しっかり振り返ること。
・SGDで出てきた他者または他グループの意見を自分自身のこととしてとらえなおし、自分自身の将来像を考えること。
【実務経験のある教員による授業】（※印の付された教員）
キャリアカウンセラーとしての経験から、社会で求められる実践的なマナーを教える。

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | （なし） | | |
| **参考書** | （なし） | | |

科 目 名　**生命創薬科学研究概説（Introduction on Pharmaceutical Sciences）**
科目概要　**１年後期　必修(生命創薬科学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎今井浩孝(衛生化学・教授) 飯田直幸(生化学・講師)**
**田中丸真琴※(非常勤教員) 未定**
開講日等　**Sクラス：金曜日１時限1202講義室**
そ の 他　**実務経験のある教員による授業科目（担当者に付されている※印は実務経験のある教員を表す）**
**〔科目ナンバリング：PL301-is01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

薬学部における研究のおもしろさや研究の本質を知り、様々な分野での研究に興味を持つことができるようになるため、生命科学分野のノーベル賞受賞となった業績についての基礎知識とその領域の学問の発展過程を学習する。またプレゼンテーションや質疑応答を体験し、スキルの向上をはかる。
科目の位置付け：総合領域専門科目
この科目は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の生命創薬科学科①②に関連する。

**教育内容**

ノーベル賞を受賞した研究業績について調査し、まとめ、発表する。さらに、質疑応答により発表内容を理解する。プレゼンテーションに必要な基礎的な知識を修得する。

**学習の到達目標**

A:ノーベル賞を受賞した研究業績について調査し、とりまとめることができる。
B:研究成果のプレゼンテーションの基礎知識を身につけて、研究内容を発表できる。
C:研究発表を聞き、研究内容について質疑応答ができる。
D:ノーベル賞の原理、技術を理解し、研究の面白さについて理解し、研究への意欲を身につける。

**教育方法**

医療分野を含む生物・化学・物理学領域においてノーベル賞を受賞した研究業績について、各自調べたことを発表する。
課題は、担当教員が添削後、返却する。小テストは、解答を掲示する。
対面授業として実施する（収録動画等配信なし）。

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | プレゼンテーションの準備 | 今井　浩孝<br>飯田　直幸<br>田中丸　真琴 | 9/12① | プレゼンテーションのために必要な基本的な知識を学び、パワーポイントを用いたプレゼンテーションの準備ができる。<br>【予習】事前にシラバスを見て、講義内容を確認する。<br>【復習】講義内容を踏まえて、効果的なプレゼンテーションのためのポイントをまとめておく。<br>【到達目標】A,Bに関連する。 |
| 2 | 伝わるプレゼンテーション | 今井　浩孝<br>飯田　直幸<br>田中丸　真琴 | 9/19① | 話し方、発表態度、プレゼンファイルの作成法など、わかりやすく、正確かつ効果的に伝えるためのプレゼンテーションの技術を修得する。<br>【予習】事前にシラバスを見て、講義内容を確認する。<br>【復習】講義内容を踏まえて、プレゼンテーションの効果的な発表方法のポイントをまとめておく。<br>【到達目標】A,Bに関連する。 |
| 3 | ノーベル賞の科学研究（生理学医学賞）1<br>※担当者：衛生化学教室 | 未定 | 9/26① | ノーベル賞の科学研究（生理学医学賞）に関連する発表を聞き、受賞研究の内容を理解し、概略を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバス及び発表要旨を見て、キーワードについて調べておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、発表内容のなかで興味のあることをさらに調べてみる。<br>【到達目標】A,B,C,Dに関連する。 |
| 4 | ノーベル賞の科学研究（生理学医学賞）2<br>※担当者：公衆衛生学教室 | 未定 | 10/3① | ノーベル賞の科学研究（生理学医学賞）に関連する発表を聞き、受賞研究の内容を理解し、概略を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバス及び発表要旨を見て、キーワードについて調べておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、発表内容のなかで興味のあることをさらに調べてみる。<br>【到達目標】A,B,C,Dに関連する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 5 | ノーベル賞の科学研究（生理学医学賞）3<br>※担当者：分析化学教室 | 未定 | 10/10① | ノーベル賞の科学研究（生理学医学賞）に関連する発表を聞き、受賞研究の内容を理解し、概略を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバス及び発表要旨を見て、キーワードについて調べておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、発表内容のなかで興味のあることをさらに調べてみる。<br>【到達目標】A,B,C,Dに関連する。 |
| 6 | ノーベル賞の科学研究（生理学医学賞）4<br>※担当者：臨床統計学教室 | 未定 | 10/17① | ノーベル賞の科学研究（生理学医学賞）に関連する発表を聞き、受賞研究の内容を理解し、概略を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバス及び発表要旨を見て、キーワードについて調べておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、発表内容のなかで興味のあることをさらに調べてみる。<br>【到達目標】A,B,C,Dに関連する。 |
| 7 | ノーベル賞の科学研究（化学賞）1<br>※担当者：薬品製造化学教室 | 未定 | 11/7① | ノーベル賞の科学研究（化学賞）に関連する発表を聞き、受賞研究の内容を理解し、概略を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバス及び発表要旨を見て、キーワードについて調べておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、発表内容のなかで興味のあることをさらに調べてみる。<br>【到達目標】A,B,C,Dに関連する。 |
| 8 | ノーベル賞の科学研究（化学賞）2<br>※担当者：創薬物理化学教室 | 未定 | 11/14① | ノーベル賞の科学研究（化学賞）に関連する発表を聞き、受賞研究の内容を理解し、概略を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバス及び発表要旨を見て、キーワードについて調べておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、発表内容のなかで興味のあることをさらに調べてみる。<br>【到達目標】A,B,C,Dに関連する。 |
| 9 | ノーベル賞の科学研究（化学賞）3<br>※担当者：薬剤学教室 | 未定 | 11/21① | ノーベル賞の科学研究（化学賞）に関連する発表を聞き、受賞研究の内容を理解し、概略を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバス及び発表要旨を見て、キーワードについて調べておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、発表内容のなかで興味のあることをさらに調べてみる。<br>【到達目標】A,B,C,Dに関連する。 |
| 10 | ノーベル賞の科学研究（化学賞）4<br>※担当者：生化学教室 | 未定 | 11/28① | ノーベル賞の科学研究（化学賞）に関連する発表を聞き、受賞研究の内容を理解し、概略を学ぶ。<br>【予習】事前にシラバス及び発表要旨を見て、キーワードについて調べておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、発表内容のなかで興味のあることをさらに調べてみる。<br>【到達目標】A,B,C,Dに関連する。 |
| 11 | ノーベル賞の科学研究（予備日） | 未定 | 12/5① | ノーベル賞の科学研究に関連する発表を聞き、受賞研究の内容を理解し、概略を学ぶ。（予備日）<br>【予習】事前にシラバス及び発表要旨を見て、キーワードについて調べておく。<br>【復習】講義内容を踏まえて、発表内容のなかで興味のあることをさらに調べてみる。<br>【到達目標】A,B,C,Dに関連する。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **その他** | （１）発表（35点）　（２）質問（質問回数：5回以下は0点、6回は25点、7回以上は35点）　（３）提出物（10点）　（４）小テスト（10点）　（５）講義１、２回目におけるSGD（10点）（６）チューターへの連絡、提出物の遅れは、減点（5点）　（７）欠席は1回につき5点減点、遅刻は3回で欠席1回に相当<br>発表形式、質問、提出物の期限などの詳細については、４月に説明会を行う。 |

**学生へのメッセージ**

プレゼンテーションは面白い。内容や見せ方は、一人ひとり異なるものです。充分に準備をして、自分らしい発表を見せてください。でも、理解しているのは自分だけ？　時間をかけて調べたことを、理解してもらえないなんて、とてもがっかりです。説明を聞く側の人のことも考えて、わかりやすい発表を心がけましょう。

**準備学習(予習・復習)・その他**

【授業時間外に必要な学習の時間：30時間】
予め自分が担当するテーマについて、参考図書等を用いて10分間で発表できるようにまとめておく。発表後は、質疑応答の内容をを加味して発表内容を加筆・修正しておくこと。わからないことがあったら積極的に、担当教室の教員に質問すること。
各講義の発表テーマに関して、予め関連事項を各自で調べておくこと。また、講義終了後は、キーワードに関して、簡単にまとめておく。
【実務経験のある教員による授業】（※印の付された担当者）
キャリアカウンセラーとしての経験から、実践的なプレゼンテーションを教える。

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | （なし） | | |
| **参考書** | ノーベル賞の科学（医学生理学賞編） | 矢沢サイエンスオフィス　著 | 技術評論社 |
| **参考書** | ノーベル賞の科学（化学賞編） | 矢沢サイエンスオフィス　著 | 技術評論社 |
| **参考書** | ノーベル賞の生命科学入門　遺伝子工学の衝撃 | 石田寅夫　著 | 講談社 |
| **参考書** | ノーベル賞の生命科学入門　がんの謎に迫る | 石田寅夫　著 | 講談社 |
| **参考書** | ノーベル賞の生命科学入門　RNAが拓く新世界 | 菊池洋　著 | 講談社 |
| **参考書** | ノーベル賞の生命科学入門　免疫のしくみ | 石田寅夫　著 | 講談社 |
| **参考書** | ノーベル賞からみた遺伝子の分子生物学入門 | 石田寅夫　著 | 化学同人 |
| **参考書** | 細胞の分子生物学第４版 | 中村桂子、松原健一　翻訳 | ニュートンプレス |

# 薬学４群科目

科 目 名　**日本語Ⅰ（Japanese Language Ⅰ）**
科目概要　**修士課程(医薬開発学履修コース)後期修士課程(臨床統計学履修コース)後期修士課程(薬科学履修コース）（薬学科、生命創薬科学科、薬科学履修コース、臨床統計学履修コース、医薬開発学履修コース、薬学履修コース） 後期　演習　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎高田史男(医療系研究科・教授） 小寺淳子※(一般教育部)**
開講日等　**火曜日６時限**
**木曜日６時限**
そ の 他　**実務経験のある教員による授業科目（担当者に付されている※印は実務経験のある教員を表す）〔科目ナンバリング：PP402-LA01,PL402-LA01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

留学生を対象に、日常生活や学内でのコミュニケーションがスムーズに行えるよう日本語の基礎から学習する。
「言葉は文化」であることを踏まえ、日本語の表現や文法のバックグラウンドには日本の習慣や文化が色濃く影響していることを折に触れ意識させる。
「日本語Ⅰ」ではＮ２レベルの文法を学びながら「読む、聞く、話す、書く」を総合的に学習し、ＪＬＰＴ対策にもつなげていく。

**教育内容**

前期で学んだことを踏まえ、初級レベルから中級レベルへの日本語をステップアップしていく。
【卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連】自由科目のため該当なし

**学習の到達目標**

場面別に相応しい表現を学び、それを使えるようになる。ＪＬＰＴＮ２レベルの文法表現を学ぶ。

**教育方法**

教育効果向上のため、現地参加を基本とするが、遠隔地からの参加者についてはオンラインでの参加も可能とする。（対面ハイブリッド）
学習者が積極的に発話する機会を作り、日本語に対する苦手意識をなるべく取り除くようにする。
学習内容に沿った課題については、授業中に模範解答の提示やフィードバックを行う。
宿題に関しては添削を行い、間違いの多い課題に対しては次の時間にフィードバック、解説をする。

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | １．スタッフ募集のお知らせ | 小寺　淳子 | 9/9⑥ | お知らせを読んで、大切な情報を読み取る。 |
| 2 | ２．転任のあいさつ（１） | 小寺　淳子 | 9/11⑥ | 改まった形で思い出話などをして、お別れのスピーチができる。 |
| 3 | ２．転任のあいさつ（２） | 小寺　淳子 | 9/16⑥ | 改まった形で今後の展望などを話し、お礼のあいさつができる。 |
| 4 | ３．ホテルの仕事 | 小寺　淳子 | 9/18⑥ | 仕事などの社会生活の場面での心構えを聞いて理解できる。 |
| 5 | ４．台風情報 | 小寺　淳子 | 9/25⑥ | 天気予報、台風情報などのニュースを聞いて理解できる。 |
| 6 | ５．就職活動（１） | 小寺　淳子 | 9/30⑥ | 自分の困った状況が友達に説明できる。 |
| 7 | ５．就職活動（２） | 小寺　淳子 | 10/2⑥ | 自分の困った状況が友達に説明できる。友達の話に共感して励ますことができる。 |
| 8 | ６．苦労した５年間（１） | 小寺　淳子 | 10/7⑥ | 自分の困った状況、気持ちを友達に説明できる。友達の状況に共感して励ますことができる。 |
| 9 | ６．苦労した５年間（２） | 小寺　淳子 | 10/9⑥ | 自分の状況や決意したことを友達に話せる。 |
| 10 | ７．オオカミと生態系（１） | 小寺　淳子 | 10/14⑥ | レポートや論説文のこれまでの経緯や状況の説明が理解できる。 |
| 11 | ７．オオカミと生態系（２） | 小寺　淳子 | 10/16⑥ | レポートや論説文の説明が理解できる。 |
| 12 | ８．取引先で | 小寺　淳子 | 10/21⑥ | ビジネス場面で社会の人との簡単な受け答えができる。 |
| 13 | ９．食べ放題（１） | 小寺　淳子 | 10/23⑥ | 身近な話題について、友達と自然な表現を使って話せる。 |
| 14 | ９．食べ放題（２） | 小寺　淳子 | 10/28⑥ | 身近な話題について、友達と自然な表現を使って話せる。 |
| 15 | 10．満員電車（１） | 小寺　淳子 | 10/30⑥ | エッセーを読んで、筆者の考え方や感じ方が理解できる。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **定期試験** | なし |
| **授業** | 講義中の課題と宿題で評価する。講義中の課題４０％、宿題６０％。 |

**学生へのメッセージ**

日本留学のチャンスを活かし、日本語を正しく覚え日本語でコミュニケーションが取れるようになりましょう。

**準備学習(予習・復習）・その他**

予習は困難だが、復習は宿題（プリント）などで随時学習項目の定着を図る。
語彙や漢字については、講義時間内で多くの時間をかけて取り扱うことはせず、学習者の自宅学習に期待する。【授業外学習時間：15時間】
【実務経験のある教員による授業】（※印の付された担当者）
日本語教師を２０年以上しています。大学や大学院に進学する留学生を数多く指導してきた経験を活かし、現場で必要とされる日本語をお届けします。

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | 講義時配布資料 | | |
| **参考書** | ＴＲＹ！日本語能力試験Ｎ２ | ＡＢＫ | アスク |

科 目 名　**日本語Ⅱ（Japanese LanguageⅡ）**
科目概要　**修士課程(医薬開発学履修コース)後期修士課程(臨床統計学履修コース)後期修士課程(薬科学履修コース）（薬学科、生命創薬科学科、薬科学履修コース、臨床統計学履修コース、医薬開発学履修コース、薬学履修コース） 後期　演習　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎高田史男(医療系研究科・教授） 小寺淳子※(一般教育部)**
開講日等　**火曜日６時限**
**木曜日６時限**
そ の 他　**実務経験のある教員による授業科目（担当者に付されている※印は実務経験のある教員を表す）〔科目ナンバリング：PP402-LA01,PL402-LA01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

留学生を対象に、日常生活や学内でのコミュニケーションがスムーズに行えるよう日本語の基礎から学習する。
「言葉は文化」であることを踏まえ、日本語の表現や文法のバックグラウンドには日本の習慣や文化が色濃く影響していることを折に触れ意識させる。
「日本語Ⅱ」ではＮ２レベルの文法を学びながら「読む、聞く、話す、書く」を総合的に学習するとともに、JLPTN2対策のための練習問題を行い、合格を目指す。

**教育内容**

前期で学んだことを踏まえ、初級レベルから中級レベルへの日本語にステップアップしていく。同時にJLPTN2出題形式の練習問題も行っていく。JLPT終了後は、敬語の使い方の練習をし、研究室や日本社会でのコミュニケーションを円滑にするための表現を学ぶ。
【卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連】自由科目のため該当なし

**学習の到達目標**

場面別に相応しい表現を学び、それを使えるようになる。ＪＬＰＴＮ２レベルの日本語力を身につける。

**教育方法**

教育効果向上のため、現地参加を基本とするが、遠隔地からの参加者についてはオンラインでの参加も可能とする。（対面ハイブリッド）
学習者が積極的に発話する機会を作り、日本語に対する苦手意識をなるべく取り除くようにする。
学習内容に沿った課題については、授業中に模範解答の提示やフィードバックを行う。
宿題に関しては、間違いの多い課題に対しては次の時間にフィードバック、解説をする。

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 10.満員電車（２） | 小寺　淳子 | 11/4⑥ | エッセーを読んで、筆者の考え方や感じ方が理解できる。 |
| 2 | 11.ラーメンの紹介 | 小寺　淳子 | 11/6⑥ | 雑誌やインターネット上などの紹介記事を読んで理解できる。 |
| 3 | 12.ウォーキングシューズの開発（１） | 小寺　淳子 | 11/11⑥ | 会議で説明したり、意見を言ったりできる。 |
| 4 | 12.ウォーキングシューズの開発（２） | 小寺　淳子 | 11/13⑥ | 会議で説明したり、意見を言ったりできる。 |
| 5 | 13.人生の転機（１） | 小寺　淳子 | 11/18⑥ | ストーリーの展開を追って読める。登場人物の心情が理解できる。 |
| 6 | 13.人生の転機（２） | 小寺　淳子 | 11/20⑥ | ストーリーの展開を追って読める。登場人物の心情や決意表明などを理解できる。 |
| 7 | 14.オリンピックの開催について | 小寺　淳子 | 11/25⑥ | 新聞のコラムや社説を読んで、筆者の説明と主張が理解できる。 |
| 8 | JLPTN2対策 | 小寺　淳子 | 11/27⑥ | JLPTN2の実践問題形式の練習 |
| 9 | JLPTN2対策 | 小寺　淳子 | 12/2⑥ | JLPTN2の実践問題形式の練習 |
| 10 | JLPTN2対策 | 小寺　淳子 | 12/4⑥ | JLPTN2の実践問題形式の練習 |
| 11 | 敬　語 | 小寺　淳子 | 12/9⑥ | 敬語の種類（尊敬語・謙譲語・丁寧語）について理解する。 |
| 12 | 敬　語 | 小寺　淳子 | 12/11⑥ | 尊敬表現について理解する。どのような時に尊敬表現を使うのか、理解できる。 |
| 13 | 敬　語 | 小寺　淳子 | 12/16⑥ | 謙譲表現について理解する。どのような時に謙譲表現を使うのか、理解する。 |
| 14 | 敬　語 | 小寺　淳子 | 1/6⑥ | 丁寧表現について理解する。どのような丁寧表現があり、どのような時につかうのかを理解できる。 |
| 15 | 敬　語（まとめ） | 小寺　淳子 | 1/8⑥ | 日本語でのメールの書き方、電話の応答などが敬語を使ってできるようになる。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **定期試験** | なし |
| **授業** | 講義中の課題と宿題で評価する。講義中の課題４０％、宿題６０％。 |

**学生へのメッセージ**

日本留学のチャンスを活かし、日本語を正しく覚え日本語でコミュニケーションが取れるようになりましょう。

**準備学習(予習・復習）・その他**

予習は困難だが、復習は宿題（プリント）などで随時学習項目の定着を図る。
語彙や漢字については、講義時間内で多くの時間をかけて取り扱うことはせず、学習者の自宅学習に期待する。【授業外学習時間：15時間】
【実務経験のある教員による授業】（※印の付された担当者）
日本語教師を２０年以上しています。大学や大学院に進学する留学生を数多く指導してきた経験を活かし、現場で必要とされる日本語をお届けします

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | 講義時配布資料 | | |
| **参考書** | ＴＲＹ！日本語能力試験Ｎ２ | ＡＢＫ | アスク |

科 目 名　**日本語入門Ⅰ（Introduction to Japanese LanguageⅠ）**
科目概要　**修士課程(医薬開発学履修コース)前期修士課程(臨床統計学履修コース)前期修士課程(薬科学履修コース）（薬学科、生命創薬科学科、薬科学履修コース、臨床統計学履修コース、医薬開発学履修コース、薬学履修コース） 前期　演習　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎高田史男(医療系研究科・教授） 小寺淳子※(一般教育部)**
開講日等　**火曜日６時限**
**木曜日６時限**
そ の 他　**実務経験のある教員による授業科目（担当者に付されている※印は実務経験のある教員を表す）〔科目ナンバリング：PP402-LA01,PL402-LA01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

留学生を対象に、日常生活や学内でのコミュニケーションがスムーズに行えるよう日本語の基礎から学習する。
「言葉は文化」であることを踏まえ、日本語の表現や文法のバックグラウンドには日本の習慣や文化が色濃く影響していることを折に触れ意識させる。
「日本語入門」では初級で学習する項目を中心に学習するが、後期に行う初級から中級への橋渡し、JLPTN2対策を念頭に置いた基礎固めと理解してほしい。

**教育内容**

初級日本語から「読む、聞く、話す、書く」の四技能を伸ばす。漢字に関しては、書くことより読むことを重視する。
【卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連】自由科目のため該当なし

**学習の到達目標**

日本語で自分の意見を話したり、人の意見を聞いたりできるようになる。また、一般的に日本の大学進学や就職に必要をされているJLPTN2に合格することを目標としたい。

**教育方法**

教育効果向上のため、現地参加を基本とするが、遠隔地からの参加者についてはオンラインでの参加も可能とする。（対面ハイブリッド）
学習者が積極的に発話する機会を作り、日本語に対する苦手意識をなるべく取り除くようにする。
学習内容に沿った課題については、授業中に模範解答の提示やフィードバックを行う。
宿題に関しては添削を行い、間違いの多い課題に関しては次の時間にフィードバック、解説をする。

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 数字・時間・月日・曜日、名詞文 | 小寺　淳子 | 4/10⑥ | 数字、時間、月日、曜日など日常的によく使う表現を学ぶ。名詞文「～は・・・です。」 |
| 2 | こ・そ・あ | 小寺　淳子 | 4/15⑥ | 「こ・そ・あ」の使い方。物を指し示して、それが何かを聞ける。物の持ち主が言える。 |
| 3 | 名詞文（場所・所属） | 小寺　淳子 | 4/17⑥ | 場所が示せる。場所が尋ねられる。所属（国・会社・大学など）が言える。 |
| 4 | 動詞文① | 小寺　淳子 | 4/22⑥ | 「ます形」の導入。簡単な日常の行動が言える。 |
| 5 | 動詞文② | 小寺　淳子 | 4/24⑥ | 日常的によく使う動詞を学んで、簡単な日常の行動が言える。 |
| 6 | 動詞文③ | 小寺　淳子 | 5/8⑥ | 目的地と、そこへ行く交通手段が言える。乗り物を利用して、目的地へ行ける。 |
| 7 | 形容詞文 | 小寺　淳子 | 5/13⑥ | 形容詞を使って、身の回りの事物の様子、感想が簡単に言える。 |
| 8 | 存　在 | 小寺　淳子 | 5/15⑥ | 「いる」「ある」を使って、人（動物）や物の存在、所在について言える。 |
| 9 | 比　較 | 小寺　淳子 | 5/20⑥ | 身近なことについて簡単な比較ができる。 |
| 10 | 授　受 | 小寺　淳子 | 5/22⑥ | 「あげる・くれる・もらう」を使ってもののやり取りについて話せる。 |
| 11 | て形① | 小寺　淳子 | 5/27⑥ | 動詞「て形」のグループ分けができるようになる。 |
| 12 | て形② | 小寺　淳子 | 5/29⑥ | 依頼表現「～てください」、「～て、・・・」のような連続する二つ以上の動作を次々に言える。 |
| 13 | ない形 | 小寺　淳子 | 6/3⑥ | 規則や禁止事項が理解できる。しなければならないこと、する必要がないことが確認できる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 14 | 辞書形 | 小寺　淳子 | 6/5⑥ | できること、できないこと、趣味について簡単に話せる。行為や出来事の前後関係が言える（～まえに） |
| 15 | た　形 | 小寺　淳子 | 6/10⑥ | 経験の有無が言える。物事の状況の変化が言える。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **定期試験** | なし |
| **授業** | 講義中の課題と宿題で評価する。課題４０％、宿題６０％。 |

**学生へのメッセージ**

日本留学のチャンスを活かし、日本語を正しく覚え日本語でコミュニケーションが取れるようになりましょう。

**準備学習(予習・復習）・その他**

初級日本語で予習は困難だが、復習は宿題（プリント）などで随時学習項目の定着を図る。
語彙や漢字については、講義時間内で多くの時間をかけて取り扱うことはせず、学習者の自宅学習を期待する。【授業外学習時間：15時間】
【実務経験のある教員による授業】（※印の付された担当者）
日本語教師を２０年以上しています。大学や大学院に進学する留学生を数多く指導してきた経験を活かし、現場で必要とされる日本語をお届けします。

**（書名）　　（著者・編者）　　（発行所）**

**教科書**　講義時配布資料

**参考書**

科 目 名　**日本語入門Ⅱ（Introduction to Japanese LanguageⅡ）**
科目概要　**修士課程(医薬開発学履修コース)前期修士課程(臨床統計学履修コース)前期修士課程(薬科学履修コース）（薬学科、生命創薬科学科、薬科学履修コース、臨床統計学履修コース、医薬開発学履修コース、薬学履修コース） 前期　演習　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎高田史男(医療系研究科・教授） 小寺淳子※(一般教育部)**
開講日等　**火曜日６時限**
**木曜日６時限**
そ の 他　**実務経験のある教員による授業科目（担当者に付されている※印は実務経験のある教員を表す）**
**〔科目ナンバリング：PP402-LA01,PL402-LA01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

留学生を対象に、日常生活や学内でのコミュニケーションがスムーズに行えるよう日本語の基礎から学習する。
「言葉は文化」であることを踏まえ、日本語の表現や文法のバックグラウンドには日本の習慣や文化が色濃く影響していることを折に触れ意識させる。
「日本語入門」では初級で学習する項目を中心に学習するが、後期に行う初級から中級への橋渡し、ＪＬＰＴＮ２対策を念頭に置いた基礎固めと理解してほしい。

**教育内容**

初級日本語から「読む、聞く、話す、書く」の四技能を伸ばす。漢字に関しては、書くことより読むことを重視する。
【卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連】自由科目のため該当なし

**学習の到達目標**

日本語で自分の意見を話したり、人の意見を聞いたりできるようになる。また、一般的に日本の大学進学や就職に必要とされているＪＬＰＴＮ２に合格することを目標としたい。

**教育方法**

教育効果向上のため、現地参加を基本とするが、遠隔地からの参加者についてはオンラインでの参加も可能とする。（対面ハイブリッド）
学習者が積極的に発話する機会を作り、日本語に対する苦手意識をなるべく取り除くようにする。
学習内容に沿った課題については、授業中に模範解答の提示やフィードバックを行う。
宿題に関しては添削を行い、間違いの多い課題に対しては次の時間にフィードバック、解説をする。

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 普通形① | 小寺　淳子 | 6/12⑥ | 普通形が作れるようになる。文の丁寧体、普通体の違い。親しい人と普通体で会話ができる。 |
| 2 | 普通形② | 小寺　淳子 | 6/17⑥ | 簡単な意見、感想、予想が言えるようになる。人の発言を他の人に伝えることができる。 |
| 3 | 名詞修飾 | 小寺　淳子 | 6/19⑥ | 人や物のより詳しい描写、説明ができる。 |
| 4 | 許可・禁止 | 小寺　淳子 | 6/24⑥ | あることをしてもいいかどうか、許可を得る。してはいけないこと（禁止事項）が理解できる。 |
| 5 | 可能動詞 | 小寺　淳子 | 6/26⑥ | 動詞の可能形を使って能力、状況、特性・体質、ものの状態、許可・規則が言える。 |
| 6 | 自動詞・他動詞 | 小寺　淳子 | 7/1⑥ | 目に入る事物の状態が「～ています」「～てあります」を用いて描写できる。 |
| 7 | 意向形 | 小寺　淳子 | 7/3⑥ | 動詞の意向形を覚える。自分の意志、計画や予定を意向形を用いて言う。 |
| 8 | 条件文① | 小寺　淳子 | 7/8⑥ | あることを仮定して、その条件の下での判断、決定などが言える。 |
| 9 | 様　態 | 小寺　淳子 | 7/10⑥ | 「～そうです」を用いて、変化を起こす兆候や、外観の様子からその状態や性質を推察して述べる。 |
| 10 | 推　量 | 小寺　淳子 | 7/15⑥ | 「～そうです」を用いて第三者から得た情報をそのまま伝える。「～ようです」を用いてその場の状況に基づく判断を述べることができる。 |
| 11 | 行為の授受 | 小寺　淳子 | 7/17⑥ | ものの授受について話す。恩恵を与えたり、受けたりしたことを表現できる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 12 | 理由・変化 | 小寺　淳子 | 7/22⑥ | 「～ので、～て、～ために」を使って理由を述べることができる。「～になる・～ようになる」を使って変化を述べることができる。 |
| 13 | 条件文② | 小寺　淳子 | 7/24⑥ | ある事柄を実現させるために必要な仮定条件を「～ば、～なら」を用いて述べることができる。 |
| 14 | 受　身 | 小寺　淳子 | 7/29⑥ | 人から受けた行為、迷惑に感じた体験を受身の表現を使って述べる。物事の状況や事実を受身表現を使って客観的に説明できる。 |
| 15 | 使　役 | 小寺　淳子 | 7/31⑥ | 行為の強制や容認、許可を使役文を用いて表す。許可を求める場合に使役動詞を用いて丁寧に述べることができる。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **定期試験** | なし |
| **授業** | 講義中の課題と宿題で評価する。講義中の課題４０％、宿題６０％ |

**学生へのメッセージ**

日本留学のチャンスを活かし、日本語を正しく覚え日本語でコミュニケーションが取れるようになりましょう。

**準備学習(予習・復習）・その他**

初級日本語で予習は困難だが、復習は宿題（プリント）などで随時学習項目の定着を図る。
語彙や漢字については、講義時間内で多くの時間をかけて取り扱うことはせず、学習者の自宅学習に期待する。【授業外学習時間：15時間】
【実務経験のある教員による授業】（※印の付された担当者）
日本語教師を２０年以上しています。大学や大学院に進学する留学生を数多く指導してきた経験を活かし、現場で必要とされる日本語をお届けします。

**（書名）　　（著者・編者）　　（発行所）**

**教科書**　講義時配布資料

**参考書**

# 特色ある教育科目

本学では、特色ある教育科目として「北里の世界」「農医連携論」「仕事と人生」「チーム医療論」を展開しています。

## 「北里の世界」

細菌学･免疫学の基礎を築き、予防医学の面で多くの人命を救った北里柴三郎の事績を学び、その理念が結実した本学の現況を理解するとともに、生命科学系総合大学に学ぶ私たちに求められている『生命科学･医学の進展と制御』、また、その『両者の調和』を図ることを学ぶ。

## 「農医連携論」

農医連携ってなに？と疑問を持つ一年生の皆さんは多いことでしょう。「農」を食・環境・多様な生命、「医」を人の健康の維持・増進ととらえれば、農医連携の目指すところは「あらゆる生命との共存を図りながら、食・環境と人の健康の維持・増進とのつながりを考えるための連携」と理解できます。今後、豊かで持続可能な健康な社会を作るために農医連携は大きなヒントを与えてくれるでしょう。ぜひ受講して下さい。

## 「仕事と人生(未来への羅針盤)」

「仕事と人生」の底流は、科学と技術の進化にしたがう社会構造の移り変わり、あるいはジェンダー等の理解を含む個と集団のつながりの変化にともない、常に変動する。生命科学を基盤とする様々な分野の話から、未知の世界を見聞して視野を広げ、「未来への羅針盤」として自身の今後の人生を考える契機とすることを学ぶ。

## 「チーム医療論」

生命科学、医学の進展に伴って医療は急速に高度化・細分化しており、多様な医療専門職の知を結集して行わなければ個々の患者に対して最善の医療を提供することは困難となっている。さらに、医療に対する社会のニーズも大きく変化しており、単に病気を治すばかりでなく、どのように診断・治療が行われるか、倫理的、心理的、社会的な側面も含めた対応が求められており、医療の質が大きく問われている。

患者を中心にした最適な医療を実践するために、医療の流れ、医療チーム構成員とその職能、役割、医療倫理をはじめとしたチーム医療に関する基本的知識を学ぶ。

# 北里の世界

The World of Kitasato

**科目概要：** 2025年度　前期・後期／1単位
**授業対象：** 指定なし（P学部を除く）　金２　【前期】／［必修］P学部　木２　【後期】
**科目責任者：** 市川　尊文
**担当者：** 砂塚　敏明／市川　尊文／大村　智／石多　正男／檀原　宏文※／森　孝之／岡　浩太郎／浅見　行弘／阿見彌　典子
**備考：** 科目ナンバリング：L101-IS01／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 1年次の皆さんが、これから4年間あるいは6年間を北里大学ですごし、それぞれの専門課程へ進むにあたり、生物界の一部としての人類を見つめ、サイエンスやテクノロジーとの調和を図りながら「生命に対する畏敬の念」を持つという視点から、科学に基づいて考え行動する力を養成するために、以下のことを目標とします。<br>１．近代日本医学の黎明期を支え、免疫動物の血清を用いた画期的な予防治療法を発見し、細菌学・免疫学の基礎を築いた学祖・北里柴三郎の事績や生きた時代、そこに込められた思い、さらに、北里の学統を継承し、2015年ノーベル生理学医学賞を受賞した大村智特別栄誉教授の研究業績や、本学における学部・大学院の最先端の研究内容などを知ることにより、医療従事者・研究者・教育者などを志す者として、人類に恩恵を与える生命科学・医学の進展とその制御の重要性を理解する。<br>２．大学の理念は、基礎研究や応用を通して社会貢献をすることである。しかし、最先端の科学は、時として人間による制御を越えて自己増殖する危険性をはらんでおり、大きな倫理的な問題も惹起する。研究倫理を遵守することや大学という最高学府で学ぶことの意義を理解し、今後の学習に対する目標やモチベーションを獲得する。 |
| **教育内容** | 科学者としての北里柴三郎とその弟子たち、柴三郎が生きた時代背景を知り、北里研究所および北里大学の歩みをたどるとともに、生命科学・医学の最先端を知り、科学的なものの見方、考え方、学ぶことの面白さを理解する。<br>（キーワード）生命科学／北里柴三郎／細菌学／免疫学／感染制御／チーム医療／農医連携／創薬／臨床研究／福沢諭吉 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>学長、副学長をはじめ、大村特別栄誉教授、本学の教員、名誉教授、北里柴三郎記念博物館の職員など多彩な講師による多面的な視点によりオムニバス形式の講義を展開し、北里大学全体を俯瞰する。また教育効果を高めるため、課題を提示し、小論文試験を課す。講義はプリントやPC(プレゼンテーション)による講義形式、記念博物館見学によるフィールドワークで行う。<br>【フィードバックの方法】小論文の採点結果について、講師から総評としてコメントをGoogleClassroomでフィードバックする。 |
| **準備学習（予習・復習）** | 予習:授業内容に関連した文献を読んでおくこと。復習:授業中に取り上げた文献を読み直し自分の考えをまとめる。<br>授業時間外学習：29時間 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 砂塚　敏明<br>大村　智 | 【前期】4/11【後期】9/11<br>イントロダクション・<br>北里柴三郎先生の実学と私の研究 | イントロダクション、科目「北里の世界」について。<br>北里柴三郎博士の実学の思想を受け継いだ研究人生において数多く発見した化合物の中でも、特にノーベル賞受賞対象となったIvermectinと、その他代表的な化合物としてStaurosporineについて、どのように社会貢献しているかを述べる。 |
| 2 | 石多　正男 | 【前期】4/18【後期】9/18<br>北里柴三郎が生きた社会と文化 | 北里柴三郎が生きた1853年～1931年の日本、そしてヨーロッパの社会や文化はどのようなものだったのか。学祖の人格、そしてあのパワーを生み出した時代の諸相を考える。 |
| 3 | 檀原　宏文 | 【前期】4/25【後期】9/25<br>細菌学者としての北里柴三郎<br>～北里柴三郎の教育が<br>今に伝えること～ | ペスト菌は北里柴三郎とエルサンがそれぞれ独立に香港で発見した。しかし、ペスト菌の学名はYersinia pestis（エルサンのペスト菌）である。何故か。そして、北里柴三郎の教育が今に伝えること、とは何か。 |
| 4 | 森　孝之 | 【前期】5/2【後期】10/2<br>北里柴三郎による伝染病対策の基本 | 医療体制が未成熟な明治・大正時代に感染症と戦った細菌学者の生涯を辿る。<br>紆余曲折の人生を歩み現在に繋がる医療の安心・安全の基盤を築いた学祖・北里柴三郎の「実学の精神」を学ぶ。 |
| 5 | 岡　浩太郎 | 【前期】5/9【後期】10/9<br>北里柴三郎が現代に研究をしたのなら… | 北里柴三郎は嫌気性培養セットや亀の子シャーレを開発し、破傷風菌の純粋培養に成功した「創意と工夫」のひとであった。もし北里が現代に研究を行なっていたら、データサイエンスにも興味を持ったことであろう。学祖の研究に触れながらデータサイエンスと生命科学との関わりについて考えたい。 |
| 6 | 浅見　行弘 | 【前期】5/16【後期】10/16<br>研究者とは？科学者とは？研究とは？ | 研究者とは？科学者とは？について議論したい。特に、研究、記号論理学、討論の重要性について説明し、口頭発表における心構えを学ぶ。そして、現在の大村智記念研究所で行われている研究について紹介したい。 |
| 7 | 阿見彌　典子 | 【前期】5/23【後期】10/23<br>魚類の行動生理学研究を水産分野で役立てるために | 魚類を飼育して観察・解析することで何が得られるのか。どのようなことまでわかるのか。飼育実験の面白さと、水産への応用について考える。 |
| 8 | 市川　尊文 | 北里柴三郎記念博物館見学 | 資料・書簡・北里博士が実際に使用した実験器具等に接し、業績とその生涯を実感する。興味を持った点、感銘を受けた点などをレポートとして提出。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 1．これから何をめざして進むべきか、自己探求のきっかけをつかみ、北里大学で学ぶことの意義や学び方を理解できる。<br>2．この授業で学修したことにより、自分は北里大学の学生として、どのように過ごすか。また、就職活動や留学の際などに「北里大学って、どんな大学ですか？何を学びましたか？」という質問に、どう回答するかを結び付けて考えることができる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：その他 実施時期：試験期間外<br>①小論文試験：A4判　約1,200文字。出題担当者：石多、檀原、森。小論文提出：各課題提示の別途指示する。採点：各担当者の採点を合計して90点とする。②北里柴三郎記念博物館見学：10点（白金キャンパス、記念博物館内にて出欠を取る）。後期の見学期間等の詳細は別途掲示する。成績評価は①小論文試験と②記念博物館見学の合計100点満点で評価する。なお、小論文・見学課題をGoogleClassroomに提出できなかった場合に対しては、一切の救済措置はとらないので注意すること。また、小論文を出題する回の講義に出席していない者については、小論文の提出を認めない（履修変更により第3回から出席する学生について、第2回講義において出題される小論文課題に関しては別途措置を設けることとする）。見学課題についても、記念博物館内にて出席登録をしていない者の提出を認めない。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 積極的に取り組めば学生生活に自信と誇りが生まれる。自分の中の秘められた可能性を見つけてほしい。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 【檀原　宏文】<br>研究所での細菌研究を通して北里博士の功績に触れ、細菌学者としての北里博士や細菌学的意義を概説する。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | ラウソンレポート | 檀原宏文 | 北里柴三郎記念会発行 | |
| **参考書** | 北里柴三郎学術論文集 | 林志津江、森孝之、檀原宏文、手塚甫 | 学校法人北里研究所発行 | |
| **参考書** | 北里柴三郎　／　増補　北里柴三郎とその一門 | 長木大三 | 慶応義塾大学出版会 | |
| **参考書** | 破傷風菌論 | 北里柴三郎、中村桂子 | 哲学書房 | |
| **参考書** | 資料から見る北里柴三郎の功績 | 森孝之 | 学校法人北里研究所発行 | |

# 農医連携論
Agromedicine

**科目概要：** 2025年度　後期／1単位
**授業対象：** 指定なし　火２　《履修推奨科目》
**科目責任者：** 向井　孝夫
**担　当　者：** 向井　孝夫／堤　明純※／齋藤　有紀子／吉永　龍起／伊藤　道彦／清　和成※／柿野　亘／小林　義典※／饗庭　尚子※／学事企画部
**備　　考：** 科目ナンバリング：L101-IS03／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 農医連携ってなんだろう？という疑問を持つ学生諸君も多いだろう。本学がすすめる農医連携は農を「食・環境・多様な生命」、「医」を「人の健康の維持・増進」と捉え、両者が互いに理解しあい密接に結びつくことで、持続可能な健康長寿社会の土台をつくることを目指している。本講義では、生命科学を基軸に学ぶ本学の学生が、持続可能な健康長寿社会をつくるために食や環境と心身の健康のつながりを理解することがいかに重要であるかを学び、現代社会あるいは将来起こり得る問題を幅広い視点で理解する。また、グループワーク、ディスカッションや発表を通して自分の意見を論理的に話す基礎能力を身につけることを最終目的とする。 |
| **教育内容** | 人の健康とは何かを解説した上で、健康に及ぼす正と負の影響に関する食や環境問題の現状を紹介する。また、学生諸君においても、身近な健康問題と食や環境とのつながりを自発的に調べてもらい、問題解決への道筋を議論し考えてもらう。なお、本講義は、種々の専門を持つ教員が担当することで、学生諸君は自身の専門外に目を向け、幅広い柔軟な考えを身に着けることができるようになることを期待する。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>複数教員によるオムニバス方式の講義を実施する。また、あらかじめ提示された課題に対するレポートを提出する。最終講義日に課題についてグループワークを通して個人の意見を提示するとともに一つの意見に集約し、プレゼンテーションを行う。<br>【フィードバックの方法】グループごとにまとめられた発表に対して、複数の教員によるフィードバックをリアルタイムで行う。 |
| **準備学習（予習･復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：25時間】<br>予習：ガイダンス時に紹介する授業内容に関連した文献を読んでおくこと。<br>復習：授業中に取り上げた資料や文献を読み直すこと。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 向井　孝夫 | いまなぜ農医連携か？<br>～北里大学発　農医連携（概説）～ | 北里大学で農医連携を推進する意義を理解する。 |
| 2 | 堤　明純 | 健康とは？<br>～医学からみた農医連携～ | 健康とは何かを理解するとともに、疾病を予防し、健康な状態で生命を延伸し、身体的・精神的機能の増進をはかるために、食に関わる健康リスクと予防について視野を広げる。 |
| 3 | 吉永　龍起 | 海洋生物の多様性と健康とのつながり | 陸上の動植物と比べ、海洋生物は天然資源が多く利用されている。一方、海洋の生物資源は大変動する特性を持ち、また人間活動による影響も生じている。食料としてのみならず医薬品の開発にも重要な海洋生物の多様性を理解し、持続的に利用する方法について考える。 |
| 4 | 伊藤　道彦 | 陸生生物の多様性と健康とのつながり | 地球上には200万種ほどの生物種が存在すると考えられている。生命進化と生物多様性について、環境とゲノム進化という観点から概説する。さらに、生物の多様性・食・環境・疾病とのつながりを進化学的観点から考える。 |
| 5 | 清　和成 | 環境汚染と私たちの健康 | 人類は産業革命以後、物質的な豊かさの恩恵には恵まれたが、一方では有害物質の的確な管理や制御ができず、環境汚染や職業性暴露から多くの被害者を発生させてきた。また、開発途上国では、今なお基本的な衛生問題に直面している。現在の環境問題や衛生問題を、世界を見渡して解説・議論する。 |
| 6 | 柿野　亘 | SDG'sと持続可能な水田稲作農法 | SDG'sにおける目指すべきゴールのひとつである陸上生態系の保護・回復および持続可能な利用の推進に大きく影響を与える稲作農法を紹介し、今後の生態系保全と私たちの健康にも関わる稲作のあり方について考える。 |
| 7 | 堤　明純 | 医学からみた食の安全・安心 | 公衆衛生学的な視点から、食品の安全・衛生と食行動を材料に、健康障害の予防について考える。食品中の化学物質、微生物が健康に及ぼす影響及び評価について理解し、リスク回避のために生産、加工・流通、消費に渡って取るべき行動について考える。 |
| 8 | 小林　義典 | 食と医薬、生活習慣と健康<br>～東洋医学の視点から～ | 「健康長寿」は、現代人が実現すべき大きな目標の１つである。古来、人類は「不老長生」を夢とし、それを実現するために、様々な考察や試みが行われてきた。本講義では、「健康長寿」を実現するためのツールとしての食と医薬、生活習慣の改善について講義し、東洋医学の視点から考察する。 |
| 9 | 向井　孝夫<br>饗庭　尚子 | 農医連携による新しい試み<br>～動物介在療法の実践的取組～ | 北里大学メディカルセンターで実践している動物介在療法を紹介するとともに、その意義について理解する。 |
| 10 | 向井　孝夫<br>齋藤　有紀子 | 総合討論 | 21世紀における農医連携のあるべき姿を考える。そのために、学生の意見をとりまとめ、討論・発表する場を設置する。履修者数によってグループ分けし、数回に分けて行う。<br>【注意事項】<br>この講義は全10回です。10回目の最終講義は、履修者数によりグループ分けし、グループ毎に講義日が異なります（曜日・時限は変更なし）。<br>グループ及び10回目の講義日については後日掲示にてお知らせします。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 21世紀には農医連携の科学が不可欠であるとの理解ができる。農と医の歴史的背景が理解できる。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：なし 実施時期：<br>評価はレポート60%（各講義のまとめ60%　課題に対するまとめ40%）と最後の講義時間に課すグループワークによる発表40%により評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 専門分野の境界を超えて、課題を解決する力をつけることが大切であることを伝えたいと思います。分野を超えた北里ならではの考え方が「農医連携」です。ぜひ受講して下さい。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | 1）地域における食生活を含めた予防活動および食中毒に関する治療経験から食と健康とのつながりを解説する（堤）。2）JICA専門家として派遣された、タイ、ネパールでの環境問題、衛生問題に関する教育と調査、研究の経験を踏まえ、開発途上国の環境問題、衛生問題の実際について概説する（清）。3）民間企業研究所における機能性素材（食品を含む）の開発や薬剤師および太極拳指導員としての東洋医学の実践の経験を踏まえて、生活習慣の予防について、東洋医学の視点から考察する（小林）。4）病院での臨床経験を踏まえ、動物介在療法の意義及び実際の動物介在療法がどのように展開されるのかを概説する（饗庭）。 |

| 種別 | 書名 | 著者･編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| **参考書** | 北里大学農医連携学術叢書第1号～第8号 | 陽　捷行 | 養賢堂 | |

# 仕事と人生（～未来への羅針盤～）

Vocational Education

**科目概要：** 2025年度　前期／1単位
**授業対象：** 指定なし　金２／［必修］PL学科　金２　《履修推奨科目》
**科目責任者：** 向井　孝夫
**担当者：** 向井　孝夫／髙橋　香代子※／中村　陽子※／伊藤　道彦※／金原　嘉子※／青木　友寛※／清野　正子※／佐々木　洋武※
**備考：** 科目ナンバリング：L101-IS02／授業形態：講義

| | |
|---|---|
| **授業の目的** | 「仕事と人生」の底流は、科学と技術の進化にしたがう社会構造の移り変わり、あるいはジェンダー等の理解を含む個と集団のつながりの変化にともない、常に変動する。生命科学を基盤とする様々な分野の話から、未知の世界を見聞して視野を広げ、「未来への羅針盤」として自身の今後の人生を考える契機とすることを、この講義の目的とする。 |
| **教育内容** | 北里大学の理念「いのちを尊び、生命の真理を探究し、実学の精神をもって社会に貢献する」に則り、多様な社会で働く人の生き方を見聞させることにより、夢や希望を抱かせ、向学心を高める。また、社会や考え方の多様性を認識させる。さらに、未知の世界を知らせ、視野や思考経路を広げることにより、社会を生き抜くための「理系＋αの知識と思考力・創造力」の必要性を理解させる。 |
| **教育方法** | 【この授業は全て対面で実施します】<br>下記にあげる参考書等を材料とする、学内外の講師によるオムニバス形式の講義。<br>【フィードバックの方法】初回講義に課題を出し、それに対するレポートの内容を次回以降の講義内容に反映する。<br>【Google Classroomクラスコード】ygnu7bq |
| **準備学習（予習・復習）** | 【授業時間外に必要な学習の時間：29時間】<br>予習：下記の「授業内容」にあげた参考書等の精読。　復習：講義を受け考えたこと、重要だと感じたことのまとめ。 |

| 回 | 担当者 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 向井　孝夫<br>髙橋　香代子 | オリエンテーション<br>【学長補佐・就職センター長】<br>出会いの一つ一つが自分にとっての「仕事」をかたどっていく<br>【医療衛生学部 教授】（5/30） | 講師を紹介し、本講義の目的と全体像を示す。(講義ガイダンス)<br>作業療法士を目指して北里に入学し、大学から大学院へ進学、さらに米国留学へ。役割という意味での「仕事」の概念の変遷を、ライフステージにおける様々な出会いを通して紹介する。 |
| 2 | 中村　陽子 | 誰かとつながる、誰かに届ける<br>【健康管理センター 講師】（6/6） | 変動する社会で心理職の動向はどう変遷してきたのか、また、自分が心理職として様々な現場で仕事をしながらどのようなことを感じ、考えてきたのかを紹介する。 |
| 3 | 伊藤　道彦 | Passion・Art・Love・Scienceと仕事<br>【理学部 准教授】（6/13） | 研究・教育者・人間として、仕事と人生と世界への個人的アフォリズムを紹介：時代を、AIを楽しみ、未来を想像しよう！君の脳はDNAを凌駕する！ミームを変えよう！ |
| 4 | 金原　嘉子 | 「自分らしく幸せな働き方」を実現させるためのマインドを磨こう<br>【㈱サクセスフルエイジングサポート代表取締役】（6/20） | 看護師・保健師としての経験から学んだ「自分らしく幸せな働き 方」とは？そして、今から実践できる、その働き方を実現させるためのマインドの磨き方を紹介・体験する。 |
| 5 | 青木　友寛 | 私たちと食の未来～好きなことを仕事に選んだ私がさかなを通じて人生をデザインしていくまで～<br>【水産庁 漁政部 漁政課 広報班】<br>（6/27） | 世界の食料問題や我が国の食料事情等について概説したうえで、我が国の農林水産業、特に水産業の現状や課題について掘り下げて紹介する。その中で、国家公務員を就職先として選んだ経緯や水産庁で働いてきた自身の経験等を振り返り、受講者に向けて自分の人生やキャリアをデザインするためのヒントやそれらを考えてもらうためのきっかけを提供する。 |
| 6 | 清野　正子 | 薬学と仕事～北里生の未来について～<br>【薬学部 教授】（7/4） | 北里生のみなさんが、社会人として活躍する場所（仕事）を明確化・実現化するために、今、何を学び・経験するべきかを意識することができる。薬に魅力を感じて入学した薬学での学び（大学、大学院）やアメリカ留学を振り返り、今の仕事にどう繋がったのかを紹介する。 |
| 7 | 佐々木　洋武 | 『夢と現実』今の自分に出来る事<br>【Meiji Seikaファルマ(株) MR】<br>（7/11） | もしも自分の想い描いていた未来と少し違う場所に行きついてしまったら！？『将来の夢≠仕事』だとしても、やり抜く事と志の重要性を紹介する。 |
| 8 | 向井　孝夫 | まとめ（7/18） | 本講義での疑問、質問を受け付ける。 |

| | |
|---|---|
| **到達目標** | 自分に与えられた時間と環境を認識し、自己の特性を理解したうえで将来の進路選択を含め、大学生活4年間（あるいは6年間）でやるべきことを自ら考え、人生計画の概要を設計できるようにする。 |
| **成績評価の方法と基準** | 試験方法：レポート 実施時期：試験期間外<br>学期末レポート（90点）、課題レポート（10点）により評価する。 |
| **学生へのメッセージ（その他注意等）** | 講義から様々なことを学び、学生生活を有意義に過ごすためのプランをつくり、実践していくことを望みます。また、目標へ到達する道筋は一つではないので、受講後には是非とも友人とディスカッションをしてみてください。 |
| **実務経験の授業への活用方法** | [高橋 香代子]　大学病院や医療衛生学部での実務経験から、北里大学での学生時代の経験が、どのように現在の仕事へと繋がっているか紹介する。　[中村 陽子]　医療機関や教育機関などで心理士（師）として仕事をした経験を伝える。　[伊藤 道彦]　研究所での基礎研究経験と本学での研究経験が、自身の研究人生（仕事）にどう関わってきたかを話す。　[金原 嘉子]　健康支援の実務経験、更に病院→行政→独立という働き方の変化から得られた学びと気づきを伝える。　[青木 友寛]　国家公務員として働いてきた経験等を紹介し、キャリアや人生をデザインすることについて考えてもらうヒントやきっかけを提供する。　[清野 正子]　大学にて教育と研究に従事してきた約30年間の経験について、自分の視点から、また送り出した卒業生の視点から、それぞれ話す。　[佐々木 洋武]　製薬会社での実務体験を踏まえ、激変する社会環境に於いて働くことの意義や心構え等を会社員の立場から紹介する。 |

| 種別 | 書名 | 著者・編者 | 発行所 | 定価(円) |
|---|---|---|---|---|
| 参考書 | 仕事が人をつくる（第1回） | 小関 智弘 | 岩波書店 | |
| 参考書 | 古くてあたらしい仕事（第2回） | 島田 潤一郎 | 新潮文庫 | |
| 参考書 | オス脳ミーム～男が戦争をする理由を進化学から解く～（第3回） | 伊藤 道彦 | 幻冬舎メディアコンサルティング | |
| 参考書 | どんな仕事も楽しくなる３つの物語（第4回） | 福島 正伸 | きこ書房 | |
| 参考書 | 道をひらく（第5回） | 松下 幸之助 | PHP研究所 | |
| 参考書 | チーズはどこへ消えた？（第6回） | スペンサー・ジョンソン | 扶桑社 | |
| 参考書 | すべては導かれている 逆境を超え、人生を拓く五つの覚悟（第7回） | 田坂 広志 | 小学館 | |

科 目 名　**チーム医療論（Interprofessional Health Care）**
科目概要　**１年後期　必修(薬学科)選択(生命創薬科学科)　講義　１単位**
担 当 者　**（◎は責任者）◎尾鳥勝也※(薬物治療学Ⅰ・教授) 市川尊文(副学長)**
**松永篤彦※(医療衛生学部・教授) 別府千恵※(北里大学病院・看護部長)**
**田ヶ谷浩邦※(医療衛生学部・教授) 五味勉※(医療衛生学部・教授)**
**金子博徳※(北里研究所病院・病院長) 阿古潤哉※(KMC病院・病院長)**
**山岡邦宏※(北里大学病院・病院長) 内山勝文※(医学部・教授)**
**齋藤有紀子※(医学部・准教授) 渡邉達也※(医学部・講師) 左右田哲※(北里大学病院・MSW)**
**有田悦子※(医療心理学部門・教授) 守屋達美※(北里大学名誉教授)**
開講日等　**A，B，C，D，Sクラス：月曜日５時限**
そ の 他　**実務経験のある教員による授業科目（担当者に付されている※印は実務経験のある教員を表す）**
**〔科目ナンバリング：PP301-CP01，PL301-CP01〕**

**授業の目的（科目のねらい）**

近年の生命科学、医学の進展に伴って医療は急速に高度化・細分化している。また、疾病構造や人口構造も大きく変ってきており、医療は複数の医療専門職の知を結集して行わなければその実施は困難である。さらに、医療に対する社会のニーズも大きく変化してきており、単に病気を治すばかりでなく、どのように診断・治療が行われるかというプロセス、倫理的、心理的、社会的な側面も含めた対応が必要になる等、医療の質が大きく問われている。このように、患者を中心にした最適な医療を実践するためには、多種類の医療専門職の協働（チーム医療）が不可欠であり、そのための優れた人材の育成が急務である。
北里大学では、医療系学部と専門学校を擁し、15に及ぶ医療専門職を育成する教育を展開している。また、大学附属の３つの病院と連携した臨床教育も大きな特徴となっている。このような環境のもとに、本講義では、チーム医療の構成員として自身の専門性を活かし積極的に医療に参画し、より安全で質の高い医療を実践できるように、医療の流れ、医療チーム構成員とその職能・役割、医療倫理をはじめとしてチーム医療に関する基本的知識を修得する。
科目の位置付け：臨床薬学系専門科目
この科目は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の薬学科①②③④⑤、生命創薬科学科①②③④に関連する。

**教育内容**

日本の医療システム概要（保健福祉システムとの関連）、専門職種の理解（医療関連職種の職能、役割等）、疾患と医療チーム（医療現場で形成される医療チームとその構成員の連係プレーの具体例）、クリティカルパス、医療倫理、コミュニケーション論、先進医療におけるチーム医療の例等、チーム医療に関する共通認識を深めるための内容を講義する。

**学習の到達目標**

患者を指向した質の高い医療の提供を目標に、チーム医療の構成員として自身の専門性を活かし積極的に医療に参画する事ができるようになるために、医療の流れ、各医療職の職能、医療倫理、コミュニケーションなどのチーム医療に関する基礎知識を修得する。
・学生がチーム医療の構成員として自身の専門職の専門性を説明することができる。
・学生がチーム医療の構成員として自身の専門職の専門性を意識した論点を述べることができる。
・学生がチーム医療の構成員としてリーダーシップ、メンバーシップを意識してディスカッションに参画することができる。
・学生が他の学生の意見を真摯に聞くことができる。
・学生が自身の意見と異なる意見を尊重した態度で聞くことができる。

**教育方法**

各学部および医療現場からの教員による主にパワーポイント、プリント等を用いた講義（オムニバス方式、一部演習も含む）映像をオンデマンド形式で配信する。前回の講義内容の復習、とくにキーワードについて整理しておくこと。
教育効果を高めるため、各講師より講義課題が提示され、レポート提出を課す。
【フィードバックの方法】科目責任者より、総評がGoogle Classroomなどにより、フィードバックされる。

**講義内容**

| No. | 講義項目 | 担当者 | 開講日 | 授業内容・方法 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | イントロダクション | 市川　尊文 | 9/8⑤ | 科目概要の説明、チーム医療の必要性とその意義、北里大学の医療系学部・専門学校とチーム医療教育を紹介する。 |
| 2 | 専門職種の理解-1 | 松永　篤彦 | 9/22⑤ | 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士 の教育体系、役割、機能、権限、医療チーム内位置付けを説明する。 |
| 3 | 専門職種の理解-2 | 別府　千恵 | 9/29⑤ | 病院施設における看護職の役割および他職種がどのようなチームを構成し、医療の質や安全を保証しているかを解説する。 |
| 4 | 保健・医療・福祉システム概要 | 田ヶ谷　浩邦 | 10/6⑤ | 我が国の保健・医療・福祉システムについて、システム・成員の連携、外国との比較等を説明する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 専門職種の理解-3 | 五味　勉 | 10/13⑤ | 保健衛生学科の概要と教育内容、取得可能資格、医療チーム内での位置付けおよび臨床検査技師、臨床工学技士、診療放射線技師の教育体系、役割、機能、権限、医療チーム内での位置付けを説明する。 |
| 6 | 疾患と医療チーム-1 | 金子　博徳 | 10/20⑤ | 北里研究所病院の特徴と、特にチーム医療病院実習を説明する。 |
| 7 | 疾患と医療チーム-2 | 阿古　潤哉 | 10/27⑤ | 北里大学メディカルセンター（KMC）の特徴と、地域医療支援病院におけるチーム医療を説明する。（大学病院との相違等） |
| 8 | 疾患と医療チーム-3 | 山岡　邦宏 | 11/10⑤ | 北里大学病院の特徴と、大学病院の特性から見たチーム医療を説明する。 |
| 9 | 組織移植医療におけるチーム医療 | 内山　勝文 | 11/17⑤ | 臓器移植、骨移植におけるチーム医療の大切さとその構成職種を解説する。 |
| 10 | 医療倫理 | 齋藤　有紀子<br>渡邉　達也 | 11/24⑤ | 治験におけるチーム医療の特徴について解説し、患者の人権を尊重する説明文書のあり方と、患者のインフォームドコンセントの大切さを説明する。 |
| 11 | 専門職種の理解-4 | 左右田　哲 | 12/1⑤ | 医療ソーシャルワーカーの役割、機能および病院内医療チームおよび地域の保健福祉・医療チームとの連携の実際を説明する。 |
| 12 | 専門職種の理解-5 | 尾鳥　勝也 | 12/8⑤ | 薬剤師と法、6年制薬学教育の概要、医療環境の変化と薬剤師、チーム医療における薬剤師の仕事、薬剤師としての医療への貢献等を説明する。 |
| 13 | 医療安全 | 内山　勝文 | 12/15⑤ | 医療におけるリスクマネジメントを説明する。 |
| 14 | チーム医療における<br>コミュニケーション | 有田　悦子 | 12/22⑤ | 専門職間のコミュニケーション、患者とのコミュニケーション、患者の心理、言語・非言語コミュニケーション等を説明する。 |
| 15 | チーム医療の科学的・客観的検証 | 守屋　達美 | 1/5⑤ | 糖尿病性腎症におけるチーム医療を例に挙げて、チーム医療の科学的・客観的検証の必要性を解説する。 |

**評価方法と基準**

| | |
|---|---|
| **その他** | 毎回の講義レポートを総合的に評価する。（100％）なお、欠席は減点をする。 |

**学生へのメッセージ**

チーム医療の必要性や意義を理解し、医療の場におけるチームワークが医療の質と安全性の向上、患者のQOLの向上に大きく貢献することを認識してほしい。本学のチーム医療教育プログラムは、15にも及ぶ医療専門職の教育を行っている大学ならではの特色ある教育プログラムであり、本講義で学んだ基礎知識とチーム医療に関する認識を、高学年で行う「オール北里チーム医療演習」、「チーム医療病院実習」「国際チーム医療演習」等で存分に発揮して、社会に出てからの糧としていただきたい。

**準備学習(予習・復習)・その他**

【授業時間外に必要な学習時間：15時間】
1.　予習（30分程度）
自分の職種の医療現場における役割、専門性を調べて臨む。
他の医療保健福祉専門職の役割、専門性を調べて臨む。
2.　復習（30分程度）
講義内容・配布資料をもとに、講義終了後、講義で学んだこと、議論したことを見直し、自分の考えを整理し、理解を深める。
また、ニュース、新聞等から現在の医療現場におけるチーム医療の課題について考え、望ましい将来のチーム医療について考察し、次の講義に臨む。
【実務経験のある教員による授業科目】（※印の付された担当者）
【松永　篤彦】病院での経験を踏まえ、リハビリテーションを展開する際のチーム医療について説明する。
【別府　千恵】病院での臨床経験を踏まえ、病院施設での看護職と他職種のチームによる医療の質・安全の保証について説明する。
【田ヶ谷浩邦】病院での臨床経験を踏まえ、我が国の保健・医療・福祉システムにおける成員の連携・外国との比較等について説明する。
【五味　　勉】病院での臨床経験を踏まえ、臨床検査技師、臨床工学技士、診療放射線技師の医療チーム内での位置付け等を説明する。
【金子　博徳】病院での臨床経験を踏まえ、北里研究所病院の特徴と、チーム医療病院実習について説明する。
【阿古　潤哉】病院での臨床経験を踏まえ、地域医療支援病院である北里大学メディカルセンターの特徴とチーム医療について説明する。
【山岡　邦宏】病院での臨床経験を踏まえ、北里大学病院の特徴と、大学病院の特性から見たチーム医療について説明する。
【内山　勝文（第9回）】病院での臨床経験を踏まえ、移植医療におけるチーム医療の大切さを説明する。
【齋藤　有紀子】病院・研究機関での倫理審査の経験を踏まえ、臨床・研究におけるICの意義と重要性について説明する。
【渡邉　達也】病院での実務経験を踏まえ、治験におけるチーム医療の実際とCRCの役割について説明する。
【左右田　哲】病院での臨床経験を踏まえ、MSWの役割、機能、病院内医療チーム及び地域の保健福祉・医療チームとの連携の実際を説明する。
【尾鳥　勝也】病院での臨床経験を踏まえ、チーム医療における薬剤師の役割と業務の実状を説明する。
【内山　勝文（第13回）】病院の医療安全推進室長としての実務経験から、医療におけるリスクマネジメントを説明する。
【有田　悦子】病院での臨床教育経験を踏まえ、チーム医療におけるコミュニケーションの意義と重要性について説明する。
【守屋　達美】病院における糖尿病性腎症診療の経験を踏まえ、チーム医療の科学的・客観的検証の必要性を解説する。

| | （書名） | （著者・編者） | （発行所） |
|---|---|---|---|
| **教科書** | （なし） | | |
| **参考書** | 『実践 チーム医療論』 インタープロフェッショナル・ヘルスケア―実際と教育プログラム | 水本清久、他　編著 | 医歯薬出版 |
| **参考書** | IPW を学ぶ | 埼玉県立大学　編 | 中央法規 |

◎：必修、※：自由

| 2020年度入学生（2025年度6年生 20000番台） | | | | 2021年度入学生（2025年度5年生 21000番台） | | | | 2022年度入学生（2025年度4年生 22000番台） | | | | 2023年度入学生（2025年度3年生 23000番台） | | | | 2024年度入学生（2025年度2年生 24000番台） | | | | 2025年度入学生（2025年度1年生 25000番台） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目 | | 単位 | 学年 | 科目 | | 単位 | 学年 | 科目 | | 単位 | 学年 | 科目 | | 単位 | 学年 | 科目 | | 単位 | 学年 | 科目 | | 単位 | 学年 |
| ◎ | 北里の世界 | 1 | 1年 | ◎ | 北里の世界 | 1 | 1年 | ◎ | 北里の世界 | 1 | 1年 | ◎ | 北里の世界 | 1 | 1年 | ◎ | 北里の世界 | 1 | 1年 | ◎ | 北里の世界 | 1 | 1年 |
| ◎ | 英語ＡⅠ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＡⅠ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＡⅠ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＡⅠ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＡⅠ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＡⅠ | 1 | 1年 |
| ◎ | 英語ＡⅡ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＡⅡ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＡⅡ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＡⅡ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＡⅡ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＡⅡ | 1 | 1年 |
| ◎ | 英語ＢⅠ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＢⅠ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＢⅠ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＢⅠ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＢⅠ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＢⅠ | 1 | 1年 |
| ◎ | 英語ＢⅡ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＢⅡ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＢⅡ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＢⅡ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＢⅡ | 1 | 1年 | ◎ | 英語ＢⅡ | 1 | 1年 |
| ◎ | 物理学 | 4 | 1年 | ◎ | 物理学 | 4 | 1年 | ◎ | 物理学 | 4 | 1年 | ◎ | 物理学 | 4 | 1年 | ◎ | 物理学 | 4 | 1年 | ◎ | 物理学 | 4 | 1年 |
| ◎ | 物理学実験 | 1 | 1年 | ◎ | 物理学実験 | 1 | 1年 | ◎ | 物理学実験 | 1 | 1年 | ◎ | 物理学実験 | 1 | 1年 | ◎ | 物理学実験 | 1 | 1年 | ◎ | 物理学実験 | 1 | 1年 |
| ◎ | 生物学 | 4 | 1年 | ◎ | 生物学 | 4 | 1年 | ◎ | 生物学 | 4 | 1年 | ◎ | 生物学 | 4 | 1年 | ◎ | 生物学 | 4 | 1年 | ◎ | 生物学 | 4 | 1年 |
| ◎ | 生物学実験 | 1 | 1年 | ◎ | 生物学実験 | 1 | 1年 | ◎ | 生物学実験 | 1 | 1年 | ◎ | 生物学実験 | 1 | 1年 | ◎ | 生物学実験 | 1 | 1年 | ◎ | 生物学実験 | 1 | 1年 |
| ◎ | 化学 | 1 | 1年 | ◎ | 化学 | 1 | 1年 | ◎ | 化学 | 1 | 1年 | ◎ | 化学 | 1 | 1年 | ◎ | 化学 | 1 | 1年 | ◎ | 化学 | 1 | 1年 |
| ◎ | 基礎有機化学 | 1 | 1年 | ◎ | 基礎有機化学 | 1 | 1年 | ◎ | 基礎有機化学 | 1 | 1年 | ◎ | 基礎有機化学 | 1 | 1年 | ◎ | 基礎有機化学 | 1 | 1年 | ◎ | 基礎有機化学 | 1 | 1年 |
| ◎ | 代数学 | 1 | 1年 | ◎ | 代数学 | 1 | 1年 | ◎ | 代数学 | 1 | 1年 | ◎ | 代数学 | 1 | 1年 | ◎ | 代数学 | 1 | 1年 | ◎ | 代数学 | 1 | 1年 |
| ◎ | 統計学 | 1 | 1年 | ◎ | 統計学 | 1 | 1年 | ◎ | 統計学 | 1 | 1年 | ◎ | 統計学 | 1 | 1年 | ◎ | 統計学 | 1 | 1年 | ◎ | 統計学 | 1 | 1年 |
| ◎ | 有機化学Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 有機化学Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 有機化学Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 有機化学Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 有機化学Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 有機化学Ⅰ | 1 | 1年 |
| ◎ | 情報リテラシーⅠ | 1 | 1年 | ◎ | 情報リテラシーⅠ | 1 | 1年 | ◎ | 情報リテラシーⅠ | 1 | 1年 | ◎ | 情報リテラシーⅠ | 1 | 1年 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| ◎ | 情報リテラシーⅡ | 1 | 1年 | ◎ | 情報リテラシーⅡ | 1 | 1年 | ◎ | 情報リテラシーⅡ | 1 | 1年 | ◎ | 情報リテラシーⅡ | 1 | 1年 | ◎ | 情報リテラシー（演習含） | 1 | 1年 | ◎ | 情報リテラシー（演習含） | 1 | 1年 |
| ◎ | 薬学概論 | 1 | 1年 | ◎ | 薬学概論 | 1 | 1年 | ◎ | 薬学概論 | 1 | 1年 | ◎ | 薬学概論 | 1 | 1年 | ◎ | 薬学概論 | 1 | 1年 | ◎ | 薬学概論 | 1 | 1年 |
| ◎ | 薬用植物学 | 1 | 1年 | ◎ | 薬用植物学 | 1 | 1年 | ◎ | 薬用植物学 | 1 | 1年 | ◎ | 薬用植物学 | 1 | 1年 | ◎ | 薬用植物学 | 1 | 1年 | ◎ | 薬用植物学 | 1 | 1年 |
| ◎ | 薬と仕事Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 薬と仕事Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 薬と仕事Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 薬と仕事Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 薬と仕事Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 薬と仕事Ⅰ | 1 | 1年 |
| ◎ | 解剖学 | 1 | 1年 | ◎ | 解剖学 | 1 | 1年 | ◎ | 解剖学 | 1 | 1年 | ◎ | 解剖学 | 1 | 1年 | ◎ | 解剖学 | 1 | 1年 | ◎ | 解剖学 | 1 | 1年 |
| ◎ | 生化学Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 生化学Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 生化学Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 生化学Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 生化学Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 生化学Ⅰ | 1 | 1年 |
| ◎ | 生理学Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 生理学Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 生理学Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 生理学Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 生理学Ⅰ | 1 | 1年 | ◎ | 生理学Ⅰ | 1 | 1年 |
| ◎ | チーム医療論 | 1 | 1年 | ◎ | チーム医療論 | 1 | 1年 | ◎ | チーム医療論 | 1 | 1年 | ◎ | チーム医療論 | 1 | 1年 | ◎ | チーム医療論 | 1 | 1年 | ◎ | チーム医療論 | 1 | 1年 |
| | 臨床心理学入門 | 1 | 1年 | | 臨床心理学入門 | 1 | 1年 | | 臨床心理学入門 | 1 | 1年 | | 臨床心理学入門 | 1 | 1年 | | 臨床心理学入門 | 1 | 1年 | | 臨床心理学入門 | 1 | 1年 |
| ※ | 基礎有機化学演習 | 1 | 1年 | ※ | 基礎有機化学演習 | 1 | 1年 | ※ | 基礎有機化学演習 | 1 | 1年 | ※ | 基礎有機化学演習 | 1 | 1年 | ※ | 基礎有機化学演習 | 1 | 1年 | － | － | － | － |
| ◎ | 英語CⅠ | 1 | 2年 | ◎ | 英語CⅠ | 1 | 2年 | ◎ | 英語CⅠ | 1 | 2年 | ◎ | 英語CⅠ | 1 | 2年 | ◎ | 英語CⅠ | 1 | 2年 | ◎ | 英語CⅠ | 1 | 2年 |
| ◎ | 英語CⅡ | 1 | 2年 | ◎ | 英語CⅡ | 1 | 2年 | ◎ | 英語CⅡ | 1 | 2年 | ◎ | 英語CⅡ | 1 | 2年 | ◎ | 英語CⅡ | 1 | 2年 | ◎ | 英語CⅡ | 1 | 2年 |
| ◎ | 有機化学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 有機化学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 有機化学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 有機化学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 有機化学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 有機化学Ⅱ | 1 | 2年 |
| ◎ | 分析科学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 分析科学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 分析科学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 分析科学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 分析科学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 分析科学Ⅰ | 1 | 2年 |
| ◎ | 生薬学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 生薬学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 生薬学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 生薬学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 生薬学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 生薬学Ⅰ | 1 | 2年 |
| ◎ | 生命物理化学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 生命物理化学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 生命物理化学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 生命物理化学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 生命物理化学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 生命物理化学Ⅰ | 1 | 2年 |
| ◎ | 生化学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生化学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生化学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生化学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生化学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生化学Ⅱ | 1 | 2年 |
| ◎ | 微生物学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 微生物学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 微生物学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 微生物学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 微生物学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 微生物学Ⅰ | 1 | 2年 |
| ◎ | 生理学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生理学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生理学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生理学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生理学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生理学Ⅱ | 1 | 2年 |
| ◎ | 薬理学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 薬理学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 薬理学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 薬理学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 薬理学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 薬理学Ⅰ | 1 | 2年 |
| ◎ | 病理学 | 1 | 2年 | ◎ | 病理学 | 1 | 2年 | ◎ | 病理学 | 1 | 2年 | ◎ | 病理学 | 1 | 2年 | ◎ | 病理学 | 1 | 2年 | ◎ | 病理学 | 1 | 2年 |
| ◎ | 薬学統計学 | 1 | 2年 | ◎ | 薬学統計学 | 1 | 2年 | ◎ | 薬学統計学 | 1 | 2年 | ◎ | 薬学統計学 | 1 | 2年 | ◎ | 薬学統計学 | 1 | 2年 | ◎ | 薬学統計学 | 1 | 2年 |
| ◎ | 薬と仕事Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 薬と仕事Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 薬と仕事Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 薬と仕事Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 薬と仕事Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 薬と仕事Ⅱ | 1 | 2年 |
| | 健康科学 | 1 | 2年 | | 健康科学 | 1 | 2年 | | 健康科学 | 1 | 2年 | | 健康科学 | 1 | 2年 | | 健康科学 | 1 | 2年 | | 健康科学 | 1 | 2年 |
| ◎ | 医薬品化学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 医薬品化学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 医薬品化学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 医薬品化学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 医薬品化学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 医薬品化学実習 | 1 | 2年 |
| ◎ | 有機分析実習 | 1 | 2年 | ◎ | 有機分析実習 | 1 | 2年 | ◎ | 有機分析実習 | 1 | 2年 | ◎ | 有機分析実習 | 1 | 2年 | ◎ | 有機分析実習 | 1 | 2年 | ◎ | 有機分析実習 | 1 | 2年 |
| ◎ | 定量分析実習 | 1 | 2年 | ◎ | 定量分析実習 | 1 | 2年 | ◎ | 定量分析実習 | 1 | 2年 | ◎ | 定量分析実習 | 1 | 2年 | ◎ | 定量分析実習 | 1 | 2年 | ◎ | 定量分析実習 | 1 | 2年 |
| ◎ | 社会薬学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 社会薬学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 社会薬学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 社会薬学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 社会薬学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 社会薬学実習 | 1 | 2年 |
| ◎ | 有機化学Ⅲ | 1 | 2年 | ◎ | 有機化学Ⅲ | 1 | 2年 | ◎ | 有機化学Ⅲ | 1 | 2年 | ◎ | 有機化学Ⅲ | 1 | 2年 | ◎ | 有機化学Ⅲ | 1 | 2年 | ◎ | 有機化学Ⅲ | 1 | 2年 |
| ◎ | 分析科学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 分析科学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 分析科学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 分析科学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 分析科学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 分析科学Ⅱ | 1 | 2年 |
| ◎ | 生薬学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生薬学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生薬学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生薬学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生薬学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生薬学Ⅱ | 1 | 2年 |
| ◎ | 生命物理化学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生命物理化学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生命物理化学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生命物理化学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生命物理化学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 生命物理化学Ⅱ | 1 | 2年 |
| ◎ | 生化学Ⅲ | 1 | 2年 | ◎ | 生化学Ⅲ | 1 | 2年 | ◎ | 生化学Ⅲ | 1 | 2年 | ◎ | 生化学Ⅲ | 1 | 2年 | ◎ | 生化学Ⅲ | 1 | 2年 | ◎ | 生化学Ⅲ | 1 | 2年 |
| ◎ | 微生物学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 微生物学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 微生物学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 微生物学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 微生物学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 微生物学Ⅱ | 1 | 2年 |
| ◎ | 化学療法学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 化学療法学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 化学療法学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 化学療法学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 化学療法学Ⅰ | 1 | 2年 | ◎ | 化学療法学Ⅰ | 1 | 2年 |
| ◎ | 薬理学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 薬理学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 薬理学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 薬理学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 薬理学Ⅱ | 1 | 2年 | ◎ | 薬理学Ⅱ | 1 | 2年 |
| ◎ | 病態評価学 | 1 | 2年 | ◎ | 病態評価学 | 1 | 2年 | ◎ | 病態評価学 | 1 | 2年 | ◎ | 病態評価学 | 1 | 2年 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| ◎ | 医療コミュニケーション論 | 1 | 2年 | ◎ | 医療コミュニケーション論 | 1 | 2年 | ◎ | 医療コミュニケーション論 | 1 | 2年 | ◎ | 医療コミュニケーション論 | 1 | 2年 | ◎ | 医療コミュニケーション論 | 1 | 2年 | ◎ | 医療コミュニケーション論 | 1 | 2年 |
| ◎ | ゲノム医学 | 1 | 3年 | ◎ | ゲノム医学 | 1 | 3年 | ◎ | ゲノム医学 | 1 | 3年 | ◎ | ゲノム医学 | 1 | 3年 | ◎ | ゲノム医学 | 1 | 3年 | ◎ | ゲノム医学 | 1 | 3年 |
| ◎ | 生命物理化学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 生命物理化学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 生命物理化学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 生命物理化学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 生命物理化学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 生命物理化学実習 | 1 | 2年 |
| ◎ | 生薬学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 生薬学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 生薬学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 生薬学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 生薬学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 生薬学実習 | 1 | 2年 |
| ◎ | 生化学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 生化学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 生化学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 生化学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 生化学実習 | 1 | 2年 | ◎ | 生化学実習 | 1 | 2年 |
| ◎ | 有機合成実習 | 1 | 2年 | ◎ | 有機合成実習 | 1 | 2年 | ◎ | 有機合成実習 | 1 | 2年 | ◎ | 有機合成実習 | 1 | 2年 | ◎ | 有機合成実習 | 1 | 2年 | ◎ | 有機合成実習 | 1 | 2年 |
| ※ | 初級太極拳演習（養生法演習） | 1 | 2年 | ※ | 初級太極拳演習（養生法演習） | 1 | 2年 | ※ | 初級太極拳演習（養生法演習） | 1 | 2年 | ※ | 初級太極拳演習（養生法演習） | 1 | 2年 | ※ | 初級太極拳演習（養生法演習） | 1 | 2年 | ※ | 初級太極拳演習（養生法演習） | 1 | 2年 |
| ◎ | 医薬品構造学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 医薬品構造学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 医薬品構造学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 医薬品構造学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 医薬品構造学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 医薬品構造学Ⅰ | 1 | 3年 |
| ◎ | 分析科学Ⅲ | 1 | 3年 | ◎ | 分析科学Ⅲ | 1 | 3年 | ◎ | 分析科学Ⅲ | 1 | 3年 | ◎ | 分析科学Ⅲ | 1 | 3年 | ◎ | 分析科学Ⅲ | 1 | 3年 | ◎ | 分析科学Ⅲ | 1 | 3年 |
| ◎ | 合成化学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 合成化学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 合成化学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 合成化学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 合成化学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 合成化学Ⅰ | 1 | 3年 |
| ◎ | 衛生化学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 衛生化学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 衛生化学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 衛生化学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 衛生化学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 衛生化学Ⅰ | 1 | 3年 |
| ◎ | 放射薬品学 | 1 | 3年 | ◎ | 放射薬品学 | 1 | 3年 | ◎ | 放射薬品学 | 1 | 3年 | ◎ | 放射薬品学 | 1 | 3年 | ◎ | 放射薬品学 | 1 | 3年 | ◎ | 放射薬品学 | 1 | 3年 |
| ◎ | 免疫学 | 1 | 3年 | ◎ | 免疫学 | 1 | 3年 | ◎ | 免疫学 | 1 | 3年 | ◎ | 免疫学 | 1 | 3年 | ◎ | 免疫学 | 1 | 3年 | ◎ | 免疫学 | 1 | 3年 |
| ◎ | 化学療法学Ⅱ | 1 | 3年 | ◎ | 化学療法学Ⅱ | 1 | 3年 | ◎ | 化学療法学Ⅱ | 1 | 3年 | ◎ | 化学療法学Ⅱ | 1 | 3年 | ◎ | 化学療法学Ⅱ | 1 | 3年 | ◎ | 化学療法学Ⅱ | 1 | 3年 |
| ◎ | 薬理学Ⅲ | 1 | 3年 | ◎ | 薬理学Ⅲ | 1 | 3年 | ◎ | 薬理学Ⅲ | 1 | 3年 | ◎ | 薬理学Ⅲ | 1 | 3年 | ◎ | 薬理学Ⅲ | 1 | 3年 | ◎ | 薬理学Ⅲ | 1 | 3年 |
| ◎ | 臨床医学概論Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 臨床医学概論Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 臨床医学概論Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 臨床医学概論Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 臨床医学概論Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 臨床医学概論Ⅰ | 1 | 3年 |
| ◎ | 物理薬剤学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 物理薬剤学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 物理薬剤学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 物理薬剤学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 物理薬剤学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 物理薬剤学Ⅰ | 1 | 3年 |
| ◎ | 薬物治療学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 薬物治療学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 薬物治療学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 薬物治療学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 薬物治療学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 薬物治療学Ⅰ | 1 | 3年 |
| ◎ | 医療心理学 | 1 | 3年 | ◎ | 医療心理学 | 1 | 3年 | ◎ | 医療心理学 | 1 | 3年 | ◎ | 医療心理学 | 1 | 3年 | ◎ | 医療心理学 | 1 | 3年 | ◎ | 医療心理学 | 1 | 3年 |
| ◎ | 臨床検査学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 臨床検査学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 臨床検査学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 臨床検査学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 臨床検査学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 臨床検査学Ⅰ | 1 | 3年 |
| ◎ | 公衆衛生学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 公衆衛生学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 公衆衛生学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 公衆衛生学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 公衆衛生学Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 公衆衛生学Ⅰ | 1 | 3年 |
| ◎ | 微生物学実習Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 微生物学実習Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 微生物学実習Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 微生物学実習Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 微生物学実習Ⅰ | 1 | 3年 | ◎ | 微生物学実習Ⅰ | 1 | 3年 |
| ◎ | 微生物学実習Ⅱ | 1 | 3年 | ◎ | 微生物学実習Ⅱ | 1 | 3年 | ◎ | 微生物学実習Ⅱ | 1 | 3年 | ◎ | 微生物学実習Ⅱ | 1 | 3年 | ◎ | 微生物学実習Ⅱ | 1 | 3年 | ◎ | 微生物学実習Ⅱ | 1 | 3年 |
| ◎ | 物理薬剤学実習 | 1 | 3年 | ◎ | 物理薬剤学実習 | 1 | 3年 | ◎ | 物理薬剤学実習 | 1 | 3年 | ◎ | 物理薬剤学実習 | 1 | 3年 | ◎ | 物理薬剤学実習 | 1 | 3年 | ◎ | 物理薬剤学実習 | 1 | 3年 |
| | 薬学英語Ⅰ | 1 | 3年 | | 薬学英語Ⅰ | 1 | 3年 | | 薬学英語Ⅰ | 1 | 3年 | | 薬学英語Ⅰ | 1 | 3年 | | 薬学英語Ⅰ | 1 | 3年 | | 薬学英語Ⅰ | 1 | 3年 |
| | 細胞生物学 | 1 | 2年 | | 細胞生物学 | 1 | 2年 | | 細胞生物学 | 1 | 2年 | | 細胞生物学 | 1 | 2年 | | 細胞生物学 | 1 | 2年 | | 細胞生物学 | 1 | 2年 |
| | 構造生命科学 | 1 | 3年 | | 構造生命科学 | 1 | 3年 | | 構造生命科学 | 1 | 3年 | | 構造生命科学 | 1 | 3年 | | 構造生命科学 | 1 | 3年 | | 構造生命科学 | 1 | 3年 |
| | 放射薬品学実習 | 1 | 3年 | | 放射薬品学実習 | 1 | 3年 | | 放射薬品学実習 | 1 | 3年 | | 放射薬品学実習 | 1 | 3年 | | 放射薬品学実習 | 1 | 3年 | | 放射薬品学実習 | 1 | 3年 |
| | 文献講読ゼミⅠ | 1 | 3年 | | 文献講読ゼミⅠ | 1 | 3年 | | 文献講読ゼミⅠ | 1 | 3年 | | 文献講読ゼミⅠ | 1 | 3年 | | 文献講読ゼミⅠ | 1 | 3年 | | 文献講読ゼミⅠ | 1 | 3年 |
| | 医療ボランティア実習Ａ | 1 | 3年 | | 医療ボランティア実習Ａ | 1 | 3年 | | 医療ボランティア実習Ａ | 1 | 3年 | | 医療ボランティア実習Ａ | 1 | 3年 | | 医療ボランティア実習Ａ | 1 | 3年 | | 医療ボランティア実習Ａ | 1 | 3年 |
| ◎ | 製剤学 | 1 | 3年 | ◎ | 製剤学 | 1 | 3年 | ◎ | 製剤学 | 1 | 3年 | ◎ | 製剤学 | 1 | 3年 | ◎ | 製剤学 | 1 | 3年 | ◎ | 製剤学 | 1 | 3年 |
| ◎ | 合成化学Ⅱ | 1 | 3年 | ◎ | 合成化学Ⅱ | 1 | 3年 | ◎ | 合成化学Ⅱ | 1 | 3年 | ◎ | 合成化学Ⅱ | 1 | 3年 | ◎ | 合成化学Ⅱ | 1 | 3年 | ◎ | 合成化学Ⅱ | 1 | 3年 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎ | 東洋医学概論 | 1 | 3年 | → | ◎ | 東洋医学概論 | 1 | 3年 | → | ◎ | 東洋医学概論 | 1 | 3年 | → | ◎ | 東洋医学概論 | 1 | 3年 | → | ◎ | 東洋医学概論 | 1 | 3年 |
| ◎ | 生物薬剤学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 生物薬剤学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 生物薬剤学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 生物薬剤学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 生物薬剤学 | 1 | 3年 |
| ◎ | 衛生化学Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 衛生化学Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 衛生化学Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 衛生化学Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 衛生化学Ⅱ | 1 | 3年 |
| ◎ | 臨床医学概論Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 臨床医学概論Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 臨床医学概論Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 臨床医学概論Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 臨床医学概論Ⅱ | 1 | 3年 |
| ◎ | 疾病解析学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 疾病解析学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 疾病解析学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 疾病解析学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 疾病解析学 | 1 | 3年 |
| ◎ | 薬物治療学Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬物治療学Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬物治療学Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬物治療学Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬物治療学Ⅱ | 1 | 3年 |
| ◎ | 調剤学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 調剤学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 調剤学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 調剤学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 調剤学 | 1 | 3年 |
| － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － |
| ◎ | 地域医療薬学Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 地域医療薬学Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 地域医療薬学Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 地域医療薬学Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 地域医療薬学Ⅰ | 1 | 3年 |
| ◎ | 衛生化学実習 | 1 | 3年 | → | ◎ | 衛生化学実習 | 1 | 3年 | → | ◎ | 衛生化学実習 | 1 | 3年 | → | ◎ | 衛生化学実習 | 1 | 3年 | → | ◎ | 衛生化学実習 | 1 | 3年 |
| ◎ | 公衆衛生学実習 | 1 | 3年 | → | ◎ | 公衆衛生学実習 | 1 | 3年 | → | ◎ | 公衆衛生学実習 | 1 | 3年 | → | ◎ | 公衆衛生学実習 | 1 | 3年 | → | ◎ | 公衆衛生学実習 | 1 | 3年 |
| ◎ | 薬理学実習Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬理学実習Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬理学実習Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬理学実習Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬理学実習Ⅰ | 1 | 3年 |
| ◎ | 薬理学実習Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬理学実習Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬理学実習Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬理学実習Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬理学実習Ⅱ | 1 | 3年 |
| － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | ◎ | 薬剤学実習 | 1 | 3年 |
| | 薬学英語Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 薬学英語Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 薬学英語Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 薬学英語Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 薬学英語Ⅱ | 1 | 3年 |
| | 医薬品構造学Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 医薬品構造学Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 医薬品構造学Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 医薬品構造学Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 医薬品構造学Ⅱ | 1 | 3年 |
| | 臨床生理学Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 臨床生理学Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 臨床生理学Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 臨床生理学Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 臨床生理学Ⅰ | 1 | 3年 |
| | 臨床生化学 | 1 | 3年 | → | | 臨床生化学 | 1 | 3年 | → | | 臨床生化学 | 1 | 3年 | → | | 臨床生化学 | 1 | 3年 | → | | 臨床生化学 | 1 | 3年 |
| | 文献講読ゼミB | 1 | 3年 | → | | 文献講読ゼミB | 1 | 3年 | → | | 文献講読ゼミB | 1 | 3年 | → | | 文献講読ゼミB | 1 | 3年 | → | | 文献講読ゼミB | 1 | 3年 |
| | 医療ボランティア実習B | 1 | 3年 | → | | 医療ボランティア実習B | 1 | 3年 | → | | 医療ボランティア実習B | 1 | 3年 | → | | 医療ボランティア実習B | 1 | 3年 | → | | 医療ボランティア実習B | 1 | 3年 |
| ◎ | 医薬品化学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬品化学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬品化学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬品化学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬品化学 | 1 | 4年 |
| ◎ | 薬物速度論 | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物速度論 | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物速度論 | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物速度論 | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物速度論 | 1 | 4年 |
| ◎ | 公衆衛生学Ⅱ | 1 | 4年 | → | ◎ | 公衆衛生学Ⅱ | 1 | 4年 | → | ◎ | 公衆衛生学Ⅱ | 1 | 4年 | → | ◎ | 公衆衛生学Ⅱ | 1 | 4年 | → | ◎ | 公衆衛生学Ⅱ | 1 | 4年 |
| ◎ | 臨床医学概論Ⅲ | 1 | 4年 | → | ◎ | 臨床医学概論Ⅲ | 1 | 4年 | → | ◎ | 臨床医学概論Ⅲ | 1 | 4年 | → | ◎ | 臨床医学概論Ⅲ | 1 | 4年 | → | ◎ | 臨床医学概論Ⅲ | 1 | 4年 |
| ◎ | 医薬品安全性学Ⅰ | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬品安全性学Ⅰ | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬品安全性学Ⅰ | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬品安全性学Ⅰ | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬品安全性学Ⅰ | 1 | 4年 |
| ◎ | 医薬品情報学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬品情報学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬品情報学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬品情報学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬品情報学 | 1 | 4年 |
| ◎ | 薬事関係法規 | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬事関係法規 | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬事関係法規 | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬事関係法規 | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬事関係法規 | 1 | 4年 |
| ◎ | 薬物治療学Ⅲ | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物治療学Ⅲ | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物治療学Ⅲ | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物治療学Ⅲ | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物治療学Ⅲ | 1 | 4年 |
| ◎ | 地域医療薬学Ⅱ(※1) | 1 | 4年 | → | ◎ | 地域医療薬学Ⅱ(※1) | 1 | 4年 | → | ◎ | 地域医療薬学Ⅱ(※1) | 1 | 4年 | → | ◎ | 地域医療薬学Ⅱ(※1) | 1 | 4年 | → | ◎ | 地域医療薬学Ⅱ(※1) | 1 | 4年 |
| ◎ | 地域医療薬学Ⅲ(※1) | 1 | 4年 | → | ◎ | 地域医療薬学Ⅲ(※1) | 1 | 4年 | → | ◎ | 地域医療薬学Ⅲ(※1) | 1 | 4年 | → | ◎ | 地域医療薬学Ⅲ(※1) | 1 | 4年 | → | ◎ | 地域医療薬学Ⅲ(※1) | 1 | 4年 |
| － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － |
| ◎ | 医療薬学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医療薬学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医療薬学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医療薬学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医療薬学 | 1 | 4年 |
| ◎ | プレゼンテーション実習 | 1 | 4年 | → | ◎ | プレゼンテーション実習 | 1 | 4年 | → | ◎ | プレゼンテーション実習 | 1 | 4年 | → | ◎ | プレゼンテーション実習 | 1 | 4年 | → | ◎ | プレゼンテーション実習 | 1 | 4年 |
| | 看護学 | 1 | 4年 | → | | 看護学 | 1 | 4年 | → | | 看護学 | 1 | 4年 | → | | 看護学 | 1 | 4年 | → | | 看護学 | 1 | 4年 |
| | 物理薬剤学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 物理薬剤学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 物理薬剤学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 物理薬剤学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 物理薬剤学Ⅱ | 1 | 4年 |
| | 健康食品論 | 1 | 4年 | → | | 健康食品論 | 1 | 4年 | → | | 健康食品論 | 1 | 4年 | → | | 健康食品論 | 1 | 4年 | → | | 健康食品論 | 1 | 4年 |
| | 臨床生理学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 臨床生理学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 臨床生理学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 臨床生理学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 臨床生理学Ⅱ | 1 | 4年 |
| | 文献講読ゼミC | 1 | 4年 | → | | 文献講読ゼミC | 1 | 4年 | → | | 文献講読ゼミC | 1 | 4年 | → | | 文献講読ゼミC | 1 | 4年 | → | | 文献講読ゼミC | 1 | 4年 |
| | 医療ボランティア実習C | 1 | 4年 | → | | 医療ボランティア実習C | 1 | 4年 | → | | 医療ボランティア実習C | 1 | 4年 | → | | 医療ボランティア実習C | 1 | 4年 | → | | 医療ボランティア実習C | 1 | 4年 |
| ◎ | 医薬品安全性学Ⅱ | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬品安全性学Ⅱ | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬品安全性学Ⅱ | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬品安全性学Ⅱ | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬品安全性学Ⅱ | 1 | 4年 |
| ◎ | 医薬関連制度 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬関連制度 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬関連制度 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬関連制度 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬関連制度 | 1 | 4年 |
| ◎ | 臨床薬物動態学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 臨床薬物動態学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 臨床薬物動態学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 臨床薬物動態学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 臨床薬物動態学 | 1 | 4年 |
| ◎ | 薬物治療学Ⅳ | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物治療学Ⅳ | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物治療学Ⅳ | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物治療学Ⅳ | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物治療学Ⅳ | 1 | 4年 |
| ◎ | 医療倫理学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医療倫理学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医療倫理学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医療倫理学 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医療倫理学 | 1 | 4年 |
| ◎ | 病院・薬局実習事前実習 | 4 | 4年 | → | ◎ | 病院・薬局実習事前実習 | 4 | 4年 | → | ◎ | 病院・薬局実習事前実習 | 4 | 4年 | → | ◎ | 病院・薬局実習事前実習 | 4 | 4年 | → | ◎ | 病院・薬局実習事前実習 | 4 | 4年 |
| | 薬品製造化学 | 1 | 4年 | → | | 薬品製造化学 | 1 | 4年 | → | | 薬品製造化学 | 1 | 4年 | → | | 薬品製造化学 | 1 | 4年 | → | | 薬品製造化学 | 1 | 4年 |
| | 臨床試験総論 | 1 | 4年 | → | | 臨床試験総論 | 1 | 4年 | → | | 臨床試験総論 | 1 | 4年 | → | | 臨床試験総論 | 1 | 4年 | → | | 臨床試験総論 | 1 | 4年 |
| | 臨床栄養学 | 1 | 4年 | → | | 臨床栄養学 | 1 | 4年 | → | | 臨床栄養学 | 1 | 4年 | → | | 臨床栄養学 | 1 | 4年 | → | | 臨床栄養学 | 1 | 4年 |
| | 救急治療・臨床中毒学 | 1 | 4年 | → | | 救急治療・臨床中毒学 | 1 | 4年 | → | | 救急治療・臨床中毒学 | 1 | 4年 | → | | 救急治療・臨床中毒学 | 1 | 4年 | → | | 救急治療・臨床中毒学 | 1 | 4年 |
| | 創薬化学 | 1 | 4年 | → | | 創薬化学 | 1 | 4年 | → | | 創薬化学 | 1 | 4年 | → | | 創薬化学 | 1 | 4年 | → | | 創薬化学 | 1 | 4年 |
| | リハビリテーション論 | 1 | 4年 | → | | リハビリテーション論 | 1 | 4年 | → | | リハビリテーション論 | 1 | 4年 | → | | リハビリテーション論 | 1 | 4年 | → | | リハビリテーション論 | 1 | 4年 |
| | 文献講読ゼミD | 1 | 4年 | → | | 文献講読ゼミD | 1 | 4年 | → | | 文献講読ゼミD | 1 | 4年 | → | | 文献講読ゼミD | 1 | 4年 | → | | 文献講読ゼミD | 1 | 4年 |
| | 医療ボランティア実習D | 1 | 4年 | → | | 医療ボランティア実習D | 1 | 4年 | → | | 医療ボランティア実習D | 1 | 4年 | → | | 医療ボランティア実習D | 1 | 4年 | → | | 医療ボランティア実習D | 1 | 4年 |
| ◎ | 病院・薬局実習 | 20 | 5年 | → | ◎ | 病院・薬局実習 | 20 | 5年 | → | ◎ | 病院・薬局実習 | 20 | 5年 | → | ◎ | 病院・薬局実習 | 20 | 5年 | → | ◎ | 病院・薬局実習 | 20 | 5年 |
| ◎ | 薬事行政 | 1 | 6年 | → | － | 薬事行政 | 1 | 6年 | → | － | 薬事行政 | 1 | 6年 | → | － | 薬事行政 | 1 | 6年 | → | － | 薬事行政 | 1 | 6年 |
| － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － |
| － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － |
| | 臨床統計学 | 1 | 5・6年 | → | | 臨床統計学 | 1 | 5・6年 | → | | 臨床統計学 | 1 | 5・6年 | → | | 臨床統計学 | 1 | 5・6年 | → | | 臨床統計学 | 1 | 5・6年 |
| － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － |
| | ケミカルバイオロジー論 | 1 | 5・6年 | → | | ケミカルバイオロジー論 | 1 | 5・6年 | → | | ケミカルバイオロジー論 | 1 | 5・6年 | → | | ケミカルバイオロジー論 | 1 | 5・6年 | → | | ケミカルバイオロジー論 | 1 | 5・6年 |
| | 香粧品学 | 1 | 5・6年 | → | | 香粧品学 | 1 | 5・6年 | → | | 香粧品学 | 1 | 5・6年 | → | | 香粧品学 | 1 | 5・6年 | → | | 香粧品学 | 1 | 5・6年 |
| | 医薬品マーケティング論 | 1 | 5・6年 | → | | 医薬品マーケティング論 | 1 | 5・6年 | → | | 医薬品マーケティング論 | 1 | 5・6年 | → | | 医薬品マーケティング論 | 1 | 5・6年 | → | | 医薬品マーケティング論 | 1 | 5・6年 |
| | 医療薬学英語 | 1 | 5・6年 | → | | 医療薬学英語 | 1 | 5・6年 | → | | 医療薬学英語 | 1 | 5・6年 | → | | 医療薬学英語 | 1 | 5・6年 | → | | 医療薬学英語 | 1 | 5・6年 |
| | 終末期・緩和医療論 | 1 | 5・6年 | → | | 終末期・緩和医療論 | 1 | 5・6年 | → | | 終末期・緩和医療論 | 1 | 5・6年 | → | | 終末期・緩和医療論 | 1 | 5・6年 | → | | 終末期・緩和医療論 | 1 | 5・6年 |
| | 生薬・東洋医学精説 | 1 | 5・6年 | → | | 生薬・東洋医学精説 | 1 | 5・6年 | → | | 生薬・東洋医学精説 | 1 | 5・6年 | → | | 生薬・東洋医学精説 | 1 | 5・6年 | → | | 生薬・東洋医学精説 | 1 | 5・6年 |
| | 感染制御学 | 1 | 5・6年 | → | | 感染制御学 | 1 | 5・6年 | → | | 感染制御学 | 1 | 5・6年 | → | | 感染制御学 | 1 | 5・6年 | → | | 感染制御学 | 1 | 5・6年 |
| | 実践薬学概論 | 1 | 5・6年 | → | | 実践薬学概論 | 1 | 5・6年 | → | | 実践薬学概論 | 1 | 5・6年 | → | | 実践薬学概論 | 1 | 5・6年 | → | | 実践薬学概論 | 1 | 5・6年 |
| ◎ | 薬物治療学演習Ⅰ | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物治療学演習Ⅰ | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物治療学演習Ⅰ | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物治療学演習Ⅰ | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物治療学演習Ⅰ | 1 | 4年 |
| ◎ | 薬物治療学演習Ⅱ | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物治療学演習Ⅱ | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物治療学演習Ⅱ | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物治療学演習Ⅱ | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬物治療学演習Ⅱ | 1 | 4年 |
| ◎ | チーム医療演習 | 1 | 6年 | → | ◎ | チーム医療演習 | 1 | 6年 | → | ◎ | チーム医療演習 | 1 | 6年 | → | ◎ | チーム医療演習 | 1 | 6年 | → | ◎ | チーム医療演習 | 1 | 6年 |
| | 医療コミュニケーション演習 | 1 | 6年 | → | | 医療コミュニケーション演習 | 1 | 6年 | → | | 医療コミュニケーション演習 | 1 | 6年 | → | | 医療コミュニケーション演習 | 1 | 6年 | → | | 医療コミュニケーション演習 | 1 | 6年 |
| | 薬局管理学 | 1 | 6年 | → | | 薬局管理学 | 1 | 6年 | → | | 薬局管理学 | 1 | 6年 | → | | 薬局管理学 | 1 | 6年 | → | | 薬局管理学 | 1 | 6年 |
| | 臨床検査学Ⅱ | 1 | 6年 | → | | 臨床検査学Ⅱ | 1 | 6年 | → | | 臨床検査学Ⅱ | 1 | 6年 | → | | 臨床検査学Ⅱ | 1 | 6年 | → | | 臨床検査学Ⅱ | 1 | 6年 |
| | 臨床病理学 | 1 | 6年 | → | | 臨床病理学 | 1 | 6年 | → | | 臨床病理学 | 1 | 6年 | → | | 臨床病理学 | 1 | 6年 | → | | 臨床病理学 | 1 | 6年 |
| ◎ | 薬学卒業特別実習 | 10 | 5・6年 | → | ◎ | 薬学卒業特別実習 | 10 | 5・6年 | → | ◎ | 薬学卒業特別実習 | 10 | 5・6年 | → | ◎ | 薬学卒業特別実習 | 10 | 5・6年 | → | ◎ | 薬学卒業特別実習 | 15 | 5・6年 |
| ◎ | 薬学総合演習 | 20 | 6年 | → | ◎ | 薬学総合演習 | 20 | 6年 | → | ◎ | 薬学総合演習 | 20 | 6年 | → | ◎ | 薬学総合演習 | 20 | 6年 | → | ◎ | 薬学総合講義 | 15 | 6年 |
| ※ | 漢方調剤薬局実務演習 | 1 | 6年 | → | ※ | 漢方調剤薬局実務演習 | 1 | 6年 | → | ※ | 漢方調剤薬局実務演習 | 1 | 6年 | → | ※ | 漢方調剤薬局実務演習 | 1 | 6年 | → | ※ | 漢方調剤薬局実務演習 | 1 | 6年 |
| ※ | 臨床生理学実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 臨床生理学実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 臨床生理学実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 臨床生理学実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 臨床生理学実習 | 1 | 6年 |
| ※ | 臨床検査学実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 臨床検査学実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 臨床検査学実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 臨床検査学実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 臨床検査学実習 | 1 | 6年 |
| ※ | 臨床化学実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 臨床化学実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 臨床化学実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 臨床化学実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 臨床化学実習 | 1 | 6年 |
| ※ | 医用工学概論実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 医用工学概論実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 医用工学概論実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 医用工学概論実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 医用工学概論実習 | 1 | 6年 |
| ※ | 臨床検査総論実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 臨床検査総論実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 臨床検査総論実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 臨床検査総論実習 | 1 | 6年 | → | ※ | 臨床検査総論実習 | 1 | 6年 |
| － | － | － | － | → | ※ | 国際チーム医療演習 | 1 | 4・5年 | → | ※ | 国際チーム医療演習 | 1 | 4・5年 | → | ※ | 国際チーム医療演習 | 1 | 4・5年 | → | ※ | 国際チーム医療演習 | 1 | 4・5年 |
| ※ | 日本語入門Ⅰ | 1 | 1～6年 | → | ※ | 日本語入門Ⅰ | 1 | 1～6年 | → | ※ | 日本語入門Ⅰ | 1 | 1～6年 | → | ※ | 日本語入門Ⅰ | 1 | 1～6年 | → | ※ | 日本語入門Ⅰ | 1 | 1～6年 |
| ※ | 日本語入門Ⅱ | 1 | 1～6年 | → | ※ | 日本語入門Ⅱ | 1 | 1～6年 | → | ※ | 日本語入門Ⅱ | 1 | 1～6年 | → | ※ | 日本語入門Ⅱ | 1 | 1～6年 | → | ※ | 日本語入門Ⅱ | 1 | 1～6年 |
| ※ | 日本語Ⅰ | 1 | 1～6年 | → | ※ | 日本語Ⅰ | 1 | 1～6年 | → | ※ | 日本語Ⅰ | 1 | 1～6年 | → | ※ | 日本語Ⅰ | 1 | 1～6年 | → | ※ | 日本語Ⅰ | 1 | 1～6年 |
| ※ | 日本語Ⅱ | 1 | 1～6年 | → | ※ | 日本語Ⅱ | 1 | 1～6年 | → | ※ | 日本語Ⅱ | 1 | 1～6年 | → | ※ | 日本語Ⅱ | 1 | 1～6年 | → | ※ | 日本語Ⅱ | 1 | 1～6年 |

◎：必修、※：自由

| 2022年度入学生（2025年度4年生 22700番台） | | | | | 2023年度入学生（2025年度3年生 23700番台） | | | | | 2024年度入学生（2025年度2年生 24700番台） | | | | | 2025年度入学生（2025年度1年生 25700番台） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 科目 | 単位 | 学年 | | | 科目 | 単位 | 学年 | | | 科目 | 単位 | 学年 | | | 科目 | 単位 | 学年 |
| ◎ | 北里の世界 | 1 | 1年 | → | ◎ | 北里の世界 | 1 | 1年 | → | ◎ | 北里の世界 | 1 | 1年 | → | ◎ | 北里の世界 | 1 | 1年 |
| ◎ | 仕事と人生 | 1 | 1年 | → | ◎ | 仕事と人生 | 1 | 1年 | → | ◎ | 仕事と人生 | 1 | 1年 | → | ◎ | 仕事と人生 | 1 | 1年 |
| ◎ | 英語ＡⅠ | 1 | 1年 | → | ◎ | 英語ＡⅠ | 1 | 1年 | → | ◎ | 英語ＡⅠ | 1 | 1年 | → | ◎ | 英語ＡⅠ | 1 | 1年 |
| ◎ | 英語ＡⅡ | 1 | 1年 | → | ◎ | 英語ＡⅡ | 1 | 1年 | → | ◎ | 英語ＡⅡ | 1 | 1年 | → | ◎ | 英語ＡⅡ | 1 | 1年 |
| ◎ | 英語ＢⅠ | 1 | 1年 | → | ◎ | 英語ＢⅠ | 1 | 1年 | → | ◎ | 英語ＢⅠ | 1 | 1年 | → | ◎ | 英語ＢⅠ | 1 | 1年 |
| ◎ | 英語ＢⅡ | 1 | 1年 | → | ◎ | 英語ＢⅡ | 1 | 1年 | → | ◎ | 英語ＢⅡ | 1 | 1年 | → | ◎ | 英語ＢⅡ | 1 | 1年 |
| ◎ | 物理学 | 4 | 1年 | → | ◎ | 物理学 | 4 | 1年 | → | ◎ | 物理学 | 4 | 1年 | → | ◎ | 物理学 | 4 | 1年 |
| ◎ | 物理学実験 | 1 | 1年 | → | ◎ | 物理学実験 | 1 | 1年 | → | ◎ | 物理学実験 | 1 | 1年 | → | ◎ | 物理学実験 | 1 | 1年 |
| ◎ | 生物学 | 4 | 1年 | → | ◎ | 生物学 | 4 | 1年 | → | ◎ | 生物学 | 4 | 1年 | → | ◎ | 生物学 | 4 | 1年 |
| ◎ | 生物学実験 | 1 | 1年 | → | ◎ | 生物学実験 | 1 | 1年 | → | ◎ | 生物学実験 | 1 | 1年 | → | ◎ | 生物学実験 | 1 | 1年 |
| ◎ | 化学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 化学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 化学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 化学 | 1 | 1年 |
| ◎ | 基礎有機化学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 基礎有機化学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 基礎有機化学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 基礎有機化学 | 1 | 1年 |
| ◎ | 代数学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 代数学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 代数学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 代数学 | 1 | 1年 |
| ◎ | 統計学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 統計学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 統計学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 統計学 | 1 | 1年 |
| ◎ | 有機化学Ⅰ | 1 | 1年 | → | ◎ | 有機化学Ⅰ | 1 | 1年 | → | ◎ | 有機化学Ⅰ | 1 | 1年 | → | ◎ | 有機化学Ⅰ | 1 | 1年 |
| ◎ | 情報リテラシーⅠ | 1 | 1年 | → | ◎ | 情報リテラシーⅠ | 1 | 1年 | | － | － | － | － | | － | － | － | － |
| ◎ | 情報リテラシーⅡ | 1 | 1年 | → | ◎ | 情報リテラシーⅡ | 1 | 1年 | → | ◎ | 情報リテラシー（演習含） | 1 | 1年 | → | ◎ | 情報リテラシー（演習含） | 1 | 1年 |
| ◎ | 薬学概論 | 1 | 1年 | → | ◎ | 薬学概論 | 1 | 1年 | → | ◎ | 薬学概論 | 1 | 1年 | → | ◎ | 薬学概論 | 1 | 1年 |
| ◎ | 薬用植物学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 薬用植物学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 薬用植物学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 薬用植物学 | 1 | 1年 |
| ◎ | 創薬科学への招待 | 1 | 1年 | → | ◎ | 創薬科学への招待 | 1 | 1年 | → | ◎ | 創薬科学への招待 | 1 | 1年 | → | ◎ | 創薬科学への招待 | 1 | 1年 |
| ◎ | 解剖学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 解剖学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 解剖学 | 1 | 1年 | → | ◎ | 解剖学 | 1 | 1年 |
| ◎ | 生化学Ⅰ | 1 | 1年 | → | ◎ | 生化学Ⅰ | 1 | 1年 | → | ◎ | 生化学Ⅰ | 1 | 1年 | → | ◎ | 生化学Ⅰ | 1 | 1年 |
| ◎ | 生理学Ⅰ | 1 | 1年 | → | ◎ | 生理学Ⅰ | 1 | 1年 | → | ◎ | 生理学Ⅰ | 1 | 1年 | → | ◎ | 生理学Ⅰ | 1 | 1年 |
| ◎ | 生命創薬科学研究概説 | 1 | 1年 | → | ◎ | 生命創薬科学研究概説 | 1 | 1年 | → | ◎ | 生命創薬科学研究概説 | 1 | 1年 | → | ◎ | 生命創薬科学研究概説 | 1 | 1年 |
| | チーム医療論 | 1 | 1年 | → | | チーム医療論 | 1 | 1年 | → | | チーム医療論 | 1 | 1年 | → | | チーム医療論 | 1 | 1年 |
| ※ | 基礎有機化学演習 | 1 | 1年 | → | ※ | 基礎有機化学演習 | 1 | 1年 | → | ※ | 基礎有機化学演習 | 1 | 1年 | → | － | － | － | － |
| ◎ | 英語CⅠ | 1 | 2年 | → | ◎ | 英語CⅠ | 1 | 2年 | → | ◎ | 英語CⅠ | 1 | 2年 | → | ◎ | 英語CⅠ | 1 | 2年 |
| ◎ | 英語CⅡ | 1 | 2年 | → | ◎ | 英語CⅡ | 1 | 2年 | → | ◎ | 英語CⅡ | 1 | 2年 | → | ◎ | 英語CⅡ | 1 | 2年 |
| ◎ | 有機化学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 有機化学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 有機化学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 有機化学Ⅱ | 1 | 2年 |
| ◎ | 分析科学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 分析科学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 分析科学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 分析科学Ⅰ | 1 | 2年 |
| ◎ | 生薬学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生薬学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生薬学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生薬学Ⅰ | 1 | 2年 |
| ◎ | 生命物理化学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生命物理化学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生命物理化学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生命物理化学Ⅰ | 1 | 2年 |
| ◎ | 生化学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生化学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生化学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生化学Ⅱ | 1 | 2年 |
| ◎ | 微生物学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 微生物学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 微生物学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 微生物学Ⅰ | 1 | 2年 |
| ◎ | 生理学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生理学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生理学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生理学Ⅱ | 1 | 2年 |
| ◎ | 薬理学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 薬理学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 薬理学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 薬理学Ⅰ | 1 | 2年 |
| ◎ | 薬学統計学 | 1 | 2年 | → | ◎ | 薬学統計学 | 1 | 2年 | → | ◎ | 薬学統計学 | 1 | 2年 | → | ◎ | 薬学統計学 | 1 | 2年 |
| ◎ | 生命創薬科学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生命創薬科学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生命創薬科学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生命創薬科学Ⅰ | 1 | 2年 |
| | 病理学 | 1 | 2年 | → | | 病理学 | 1 | 2年 | → | | 病理学 | 1 | 2年 | → | | 病理学 | 1 | 2年 |
| | 健康科学 | 1 | 2年 | → | | 健康科学 | 1 | 2年 | → | | 健康科学 | 1 | 2年 | → | | 健康科学 | 1 | 2年 |
| ◎ | 医薬品化学実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 医薬品化学実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 医薬品化学実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 医薬品化学実習 | 1 | 2年 |
| ◎ | 有機分析実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 有機分析実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 有機分析実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 有機分析実習 | 1 | 2年 |
| ◎ | 定量分析実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 定量分析実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 定量分析実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 定量分析実習 | 1 | 2年 |
| | 社会薬学実習 | 1 | 2年 | → | | 社会薬学実習 | 1 | 2年 | → | | 社会薬学実習 | 1 | 2年 | → | | 社会薬学実習 | 1 | 2年 |
| ◎ | 有機化学Ⅲ | 1 | 2年 | → | ◎ | 有機化学Ⅲ | 1 | 2年 | → | ◎ | 有機化学Ⅲ | 1 | 2年 | → | ◎ | 有機化学Ⅲ | 1 | 2年 |
| ◎ | 分析科学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 分析科学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 分析科学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 分析科学Ⅱ | 1 | 2年 |
| ◎ | 生薬学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生薬学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生薬学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生薬学Ⅱ | 1 | 2年 |
| ◎ | 生命物理化学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生命物理化学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生命物理化学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生命物理化学Ⅱ | 1 | 2年 |
| ◎ | 生化学Ⅲ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生化学Ⅲ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生化学Ⅲ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生化学Ⅲ | 1 | 2年 |
| ◎ | 微生物学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 微生物学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 微生物学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 微生物学Ⅱ | 1 | 2年 |
| ◎ | 化学療法学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 化学療法学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 化学療法学Ⅰ | 1 | 2年 | → | ◎ | 化学療法学Ⅰ | 1 | 2年 |
| ◎ | 薬理学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 薬理学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 薬理学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 薬理学Ⅱ | 1 | 2年 |
| ◎ | ゲノム医学 | 1 | 3年 | → | ◎ | ゲノム医学 | 1 | 3年 | → | ◎ | ゲノム医学 | 1 | 3年 | → | ◎ | ゲノム医学 | 1 | 3年 |
| ◎ | 生命創薬科学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生命創薬科学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生命創薬科学Ⅱ | 1 | 2年 | → | ◎ | 生命創薬科学Ⅱ | 1 | 2年 |
| ◎ | 生命物理化学実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 生命物理化学実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 生命物理化学実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 生命物理化学実習 | 1 | 2年 |
| ◎ | 生薬学実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 生薬学実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 生薬学実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 生薬学実習 | 1 | 2年 |
| ◎ | 生化学実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 生化学実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 生化学実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 生化学実習 | 1 | 2年 |
| ◎ | 有機合成実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 有機合成実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 有機合成実習 | 1 | 2年 | → | ◎ | 有機合成実習 | 1 | 2年 |
| | 病態評価学 | 1 | 2年 | → | | 病態評価学 | 1 | 2年 | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － |
| | 医療コミュニケーション論 | 1 | 2年 | → | | 医療コミュニケーション論 | 1 | 2年 | → | | 医療コミュニケーション論 | 1 | 2年 | → | | 医療コミュニケーション論 | 1 | 2年 |
| ◎ | 医薬品構造学Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 医薬品構造学Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 医薬品構造学Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 医薬品構造学Ⅰ | 1 | 3年 |
| ◎ | 分析科学Ⅲ | 1 | 3年 | → | ◎ | 分析科学Ⅲ | 1 | 3年 | → | ◎ | 分析科学Ⅲ | 1 | 3年 | → | ◎ | 分析科学Ⅲ | 1 | 3年 |
| ◎ | 合成化学Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 合成化学Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 合成化学Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 合成化学Ⅰ | 1 | 3年 |
| ◎ | 衛生化学Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 衛生化学Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 衛生化学Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 衛生化学Ⅰ | 1 | 3年 |
| ◎ | 放射薬品学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 放射薬品学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 放射薬品学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 放射薬品学 | 1 | 3年 |
| ◎ | 免疫学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 免疫学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 免疫学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 免疫学 | 1 | 3年 |
| ◎ | 化学療法学Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 化学療法学Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 化学療法学Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 化学療法学Ⅱ | 1 | 3年 |
| ◎ | 薬理学Ⅲ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬理学Ⅲ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬理学Ⅲ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬理学Ⅲ | 1 | 3年 |
| ◎ | 細胞生物学 | 1 | 2年 | → | ◎ | 細胞生物学 | 1 | 2年 | → | ◎ | 細胞生物学 | 1 | 2年 | → | ◎ | 細胞生物学 | 1 | 2年 |
| ◎ | 構造生命科学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 構造生命科学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 構造生命科学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 構造生命科学 | 1 | 3年 |
| ◎ | 創薬情報科学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 創薬情報科学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 創薬情報科学 | 1 | 3年 | → | ◎ | 創薬情報科学 | 1 | 3年 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎ | 公衆衛生学Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 公衆衛生学Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 公衆衛生学Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 公衆衛生学Ⅰ | 1 | 3年 |
| ◎ | 文献講読ゼミA | 1 | 3年 | → | ◎ | 文献講読ゼミA | 1 | 3年 | → | ◎ | 文献講読ゼミA | 1 | 3年 | → | － | － | － | － |
| ◎ | 微生物学実習Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 微生物学実習Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 微生物学実習Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 微生物学実習Ⅰ | 1 | 3年 |
| ◎ | 微生物学実習Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 微生物学実習Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 微生物学実習Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 微生物学実習Ⅱ | 1 | 3年 |
| ◎ | 物理薬剤学実習 | 1 | 3年 | → | ◎ | 物理薬剤学実習 | 1 | 3年 | → | ◎ | 物理薬剤学実習 | 1 | 3年 | → | ◎ | 物理薬剤学実習 | 1 | 3年 |
| | 物理薬剤学Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 物理薬剤学Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 物理薬剤学Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 物理薬剤学Ⅰ | 1 | 3年 |
| | 薬物治療学Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 薬物治療学Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 薬物治療学Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 薬物治療学Ⅰ | 1 | 3年 |
| | 医療心理学 | 1 | 3年 | → | | 医療心理学 | 1 | 3年 | → | | 医療心理学 | 1 | 3年 | → | | 医療心理学 | 1 | 3年 |
| － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － |
| | 臨床医学概論Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 臨床医学概論Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 臨床医学概論Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 臨床医学概論Ⅰ | 1 | 3年 |
| | 薬学英語Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 薬学英語Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 薬学英語Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 薬学英語Ⅰ | 1 | 3年 |
| | 放射薬品学実習 | 1 | 3年 | → | | 放射薬品学実習 | 1 | 3年 | → | | 放射薬品学実習 | 1 | 3年 | → | | 放射薬品学実習 | 1 | 3年 |
| ◎ | 合成化学Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 合成化学Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 合成化学Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 合成化学Ⅱ | 1 | 3年 |
| ◎ | 衛生化学Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 衛生化学Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 衛生化学Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 衛生化学Ⅱ | 1 | 3年 |
| ◎ | 衛生化学実習 | 1 | 3年 | → | ◎ | 衛生化学実習 | 1 | 3年 | → | ◎ | 衛生化学実習 | 1 | 3年 | → | ◎ | 衛生化学実習 | 1 | 3年 |
| ◎ | 公衆衛生学実習 | 1 | 3年 | → | ◎ | 公衆衛生学実習 | 1 | 3年 | → | ◎ | 公衆衛生学実習 | 1 | 3年 | → | ◎ | 公衆衛生学実習 | 1 | 3年 |
| ◎ | 薬理学実習Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬理学実習Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬理学実習Ⅰ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬理学実習Ⅰ | 1 | 3年 |
| ◎ | 薬理学実習Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬理学実習Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬理学実習Ⅱ | 1 | 3年 | → | ◎ | 薬理学実習Ⅱ | 1 | 3年 |
| ◎ | 文献講読ゼミB | 1 | 3年 | → | ◎ | 文献講読ゼミB | 1 | 3年 | → | ◎ | 文献講読ゼミB | 1 | 3年 | → | － | － | － | － |
| | 製剤学 | 1 | 3年 | → | | 製剤学 | 1 | 3年 | → | | 製剤学 | 1 | 3年 | → | | 製剤学 | 1 | 3年 |
| | 東洋医学概論 | 1 | 3年 | → | | 東洋医学概論 | 1 | 3年 | → | | 東洋医学概論 | 1 | 3年 | → | | 東洋医学概論 | 1 | 3年 |
| | 生物薬剤学 | 1 | 3年 | → | | 生物薬剤学 | 1 | 3年 | → | | 生物薬剤学 | 1 | 3年 | → | | 生物薬剤学 | 1 | 3年 |
| | 臨床医学概論Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 臨床医学概論Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 臨床医学概論Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 臨床医学概論Ⅱ | 1 | 3年 |
| | 疾病解析学 | 1 | 3年 | → | | 疾病解析学 | 1 | 3年 | → | | 疾病解析学 | 1 | 3年 | → | | 疾病解析学 | 1 | 3年 |
| | 薬学英語Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 薬学英語Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 薬学英語Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 薬学英語Ⅱ | 1 | 3年 |
| | 医薬品構造学Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 医薬品構造学Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 医薬品構造学Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 医薬品構造学Ⅱ | 1 | 3年 |
| | 臨床生理学Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 臨床生理学Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 臨床生理学Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 臨床生理学Ⅰ | 1 | 3年 |
| | 臨床生化学 | 1 | 3年 | → | | 臨床生化学 | 1 | 3年 | → | | 臨床生化学 | 1 | 3年 | → | | 臨床生化学 | 1 | 3年 |
| | 理論分子設計学 | 1 | 3年 | → | | 理論分子設計学 | 1 | 3年 | → | | 理論分子設計学 | 1 | 3年 | → | | 理論分子設計学 | 1 | 3年 |
| | 創薬化学 | 1 | 3年 | → | | 創薬化学 | 1 | 3年 | → | | 創薬化学 | 1 | 3年 | → | | 創薬化学 | 1 | 3年 |
| | 薬物治療学Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 薬物治療学Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 薬物治療学Ⅱ | 1 | 3年 | → | | 薬物治療学Ⅱ | 1 | 3年 |
| | 調剤学 | 1 | 3年 | → | | 調剤学 | 1 | 3年 | → | | 調剤学 | 1 | 3年 | → | | 調剤学 | 1 | 3年 |
| | 地域医療薬学Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 地域医療薬学Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 地域医療薬学Ⅰ | 1 | 3年 | → | | 地域医療薬学Ⅰ | 1 | 3年 |
| | － | － | － | | | － | － | － | | | 薬剤学実習 | 1 | 3年 | | | 薬剤学実習 | 1 | 3年 |
| ◎ | 薬事行政 | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬事行政 | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬事行政 | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬事行政 | 1 | 4年 |
| ◎ | 薬事関係法規 | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬事関係法規 | 1 | 4年 | → | ◎ | 薬事関係法規 | 1 | 4年 | → | | 薬事関係法規 | 1 | 4年 |
| | 医薬品化学 | 1 | 4年 | → | | 医薬品化学 | 1 | 4年 | → | | 医薬品化学 | 1 | 4年 | → | | 医薬品化学 | 1 | 4年 |
| | 公衆衛生学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 公衆衛生学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 公衆衛生学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 公衆衛生学Ⅱ | 1 | 4年 |
| | 医薬品安全性学Ⅰ | 1 | 4年 | → | | 医薬品安全性学Ⅰ | 1 | 4年 | → | | 医薬品安全性学Ⅰ | 1 | 4年 | → | | 医薬品安全性学Ⅰ | 1 | 4年 |
| | 医薬品情報学 | 1 | 4年 | → | | 医薬品情報学 | 1 | 4年 | → | | 医薬品情報学 | 1 | 4年 | → | | 医薬品情報学 | 1 | 4年 |
| | 薬物速度論 | 1 | 4年 | → | | 薬物速度論 | 1 | 4年 | → | | 薬物速度論 | 1 | 4年 | → | | 薬物速度論 | 1 | 4年 |
| | 臨床医学概論Ⅲ | 1 | 4年 | → | | 臨床医学概論Ⅲ | 1 | 4年 | → | | 臨床医学概論Ⅲ | 1 | 4年 | → | | 臨床医学概論Ⅲ | 1 | 4年 |
| | 看護学 | 1 | 4年 | → | | 看護学 | 1 | 4年 | → | | 看護学 | 1 | 4年 | → | | 看護学 | 1 | 4年 |
| | 物理薬剤学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 物理薬剤学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 物理薬剤学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 物理薬剤学Ⅱ | 1 | 4年 |
| － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － |
| | 健康食品論 | 1 | 4年 | → | | 健康食品論 | 1 | 4年 | → | | 健康食品論 | 1 | 4年 | → | | 健康食品論 | 1 | 4年 |
| － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － | → | － | － | － | － |
| | 臨床病理学 | 1 | 4年 | → | | 臨床病理学 | 1 | 4年 | → | | 臨床病理学 | 1 | 4年 | → | | 臨床病理学 | 1 | 4年 |
| | 臨床統計学 | 1 | 4年 | → | | 臨床統計学 | 1 | 4年 | → | | 臨床統計学 | 1 | 4年 | → | | 臨床統計学 | 1 | 4年 |
| | ケミカルバイオロジー論 | 1 | 4年 | → | | ケミカルバイオロジー論 | 1 | 4年 | → | | ケミカルバイオロジー論 | 1 | 4年 | → | | ケミカルバイオロジー論 | 1 | 4年 |
| | 香粧品学 | 1 | 4年 | → | | 香粧品学 | 1 | 4年 | → | | 香粧品学 | 1 | 4年 | → | | 香粧品学 | 1 | 4年 |
| | 医薬品マーケティング論 | 1 | 4年 | → | | 医薬品マーケティング論 | 1 | 4年 | → | | 医薬品マーケティング論 | 1 | 4年 | → | | 医薬品マーケティング論 | 1 | 4年 |
| | 生薬・東洋医学精説 | 1 | 4年 | → | | 生薬・東洋医学精説 | 1 | 4年 | → | | 生薬・東洋医学精説 | 1 | 4年 | → | | 生薬・東洋医学精説 | 1 | 4年 |
| | 感染制御学 | 1 | 4年 | → | | 感染制御学 | 1 | 4年 | → | | 感染制御学 | 1 | 4年 | → | | 感染制御学 | 1 | 4年 |
| | 薬物治療学Ⅲ | 1 | 4年 | → | | 薬物治療学Ⅲ | 1 | 4年 | → | | 薬物治療学Ⅲ | 1 | 4年 | → | | 薬物治療学Ⅲ | 1 | 4年 |
| | 地域医療薬学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 地域医療薬学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 地域医療薬学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 地域医療薬学Ⅱ | 1 | 4年 |
| | 医療薬学 | 1 | 4年 | → | | 医療薬学 | 1 | 4年 | → | | 医療薬学 | 1 | 4年 | → | | 医療薬学 | 1 | 4年 |
| | 臨床生理学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 臨床生理学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 臨床生理学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 臨床生理学Ⅱ | 1 | 4年 |
| ◎ | 医薬関連制度 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬関連制度 | 1 | 4年 | → | ◎ | 医薬関連制度 | 1 | 4年 | → | | 医薬関連制度 | 1 | 4年 |
| | 医薬品安全性学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 医薬品安全性学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 医薬品安全性学Ⅱ | 1 | 4年 | → | | 医薬品安全性学Ⅱ | 1 | 4年 |
| | 薬品製造化学 | 1 | 4年 | → | | 薬品製造化学 | 1 | 4年 | → | | 薬品製造化学 | 1 | 4年 | → | | 薬品製造化学 | 1 | 4年 |
| | 臨床薬物動態学 | 1 | 4年 | → | | 臨床薬物動態学 | 1 | 4年 | → | | 臨床薬物動態学 | 1 | 4年 | → | | 臨床薬物動態学 | 1 | 4年 |
| | 臨床試験総論 | 1 | 4年 | → | | 臨床試験総論 | 1 | 4年 | → | | 臨床試験総論 | 1 | 4年 | → | | 臨床試験総論 | 1 | 4年 |
| | 臨床栄養学 | 1 | 4年 | → | | 臨床栄養学 | 1 | 4年 | → | | 臨床栄養学 | 1 | 4年 | → | | 臨床栄養学 | 1 | 4年 |
| | 救急治療・臨床中毒学 | 1 | 4年 | → | | 救急治療・臨床中毒学 | 1 | 4年 | → | | 救急治療・臨床中毒学 | 1 | 4年 | → | | 救急治療・臨床中毒学 | 1 | 4年 |
| | リハビリテーション論 | 1 | 4年 | → | | リハビリテーション論 | 1 | 4年 | → | | リハビリテーション論 | 1 | 4年 | → | | リハビリテーション論 | 1 | 4年 |
| | 薬物治療学Ⅳ | 1 | 4年 | → | | 薬物治療学Ⅳ | 1 | 4年 | → | | 薬物治療学Ⅳ | 1 | 4年 | → | | 薬物治療学Ⅳ | 1 | 4年 |
| | 地域医療薬学Ⅲ | 1 | 4年 | → | | 地域医療薬学Ⅲ | 1 | 4年 | → | | 地域医療薬学Ⅲ | 1 | 4年 | → | | 地域医療薬学Ⅲ | 1 | 4年 |
| | 医療倫理学 | 1 | 4年 | → | | 医療倫理学 | 1 | 4年 | → | | 医療倫理学 | 1 | 4年 | → | | 医療倫理学 | 1 | 4年 |
| ◎ | 生命創薬科学特別演習 | 2 | 4年 | → | ◎ | 生命創薬科学特別演習 | 2 | 4年 | → | ◎ | 生命創薬科学特別演習 | 2 | 4年 | → | ◎ | 生命創薬科学特別演習 | 2 | 4年 |
| ◎ | 生命創薬科学卒業特別実習 | 10 | 4年 | → | ◎ | 生命創薬科学卒業特別実習 | 10 | 4年 | → | ◎ | 生命創薬科学卒業特別実習 | 10 | 4年 | → | ◎ | 生命創薬科学卒業特別実習 | 15 | 4年 |
| ※ | 日本語入門Ⅰ | 1 | 1～4年 | → | ※ | 日本語入門Ⅰ | 1 | 1～4年 | → | ※ | 日本語入門Ⅰ | 1 | 1～4年 | → | ※ | 日本語入門Ⅰ | 1 | 1～4年 |
| ※ | 日本語入門Ⅱ | 1 | 1～4年 | → | ※ | 日本語入門Ⅱ | 1 | 1～4年 | → | ※ | 日本語入門Ⅱ | 1 | 1～4年 | → | ※ | 日本語入門Ⅱ | 1 | 1～4年 |
| ※ | 日本語Ⅰ | 1 | 1～4年 | → | ※ | 日本語Ⅰ | 1 | 1～4年 | → | ※ | 日本語Ⅰ | 1 | 1～4年 | → | ※ | 日本語Ⅰ | 1 | 1～4年 |
| ※ | 日本語Ⅱ | 1 | 1～4年 | → | ※ | 日本語Ⅱ | 1 | 1～4年 | → | ※ | 日本語Ⅱ | 1 | 1～4年 | → | ※ | 日本語Ⅱ | 1 | 1～4年 |

# 薬剤師国家試験出題基準

薬剤師国家試験出題基準（以下、「出題基準」という。）は、薬剤師試験委員が試験問題を作成するうえで「妥当な出題範囲」と「ほぼ一定の問題水準」を保つために策定される基準であり、その内容については、学術の進歩及び薬剤師業務の変化に伴い、おおむね４年を目途に見直しを行い、薬剤師国家試験の改善を図っていくこととされている。

平成２２年９月に策定された出題基準は、平成１８年度に薬学教育の修業年限が６年間となり、平成２３年度に、６年制課程を修了する薬学生が国家試験を受験することを前提としたものである。平成２５年１２月に薬学教育モデル・コアカリキュラムが６年制課程に特化した内容に改訂され（以下、「改訂モデル・コアカリキュラム」という。）、平成３２年度には、改訂モデル・コアカリキュラムの下で６年制課程を修了する薬学生が国家試験を受験することから、医道審議会薬剤師分科会薬剤師国家試験出題基準改定部会において出題基準の改定に向けた検討を行った。

本出題基準は、医道審議会薬剤師分科会薬剤師国家試験制度改善検討部会において、平成２８年２月にまとめられた「薬剤師国家試験のあり方に関する基本方針」に基づき、改訂モデル・コアカリキュラムの内容を基本とし、医学・薬学の進歩と現状を踏まえて策定したものである。

## （１） 試験科目

試験科目は、薬剤師法施行規則の規定により、「物理・化学・生物」、「衛生」、「薬理」、「薬剤」、「病態・薬物治療」、「法規・制度・倫理」及び「実務」とする。

## （２） 出題項目

今回の出題基準見直しの基本的な考え方は、改訂モデル･コアカリキュラムを基本とし、医療や制度の現状を考慮し策定したものである。なお、各科目の出題項目は、現行の出題基準の体系を参考に、必要に応じて項目間の入れ替え等を適切に行った上で、「大項目」、「中項目」、「小項目」及び「小項目の例示」として整理したものであり、必ずしも改訂モデル･コアカリキュラムの記載順等に対応するものではない。また、出題項目は、あくまでも出題に際し、準拠すべき基準であって、出題がすべてこの範囲に拘束されるものではない。

各科目の出題項目は、別表Ⅰ～Ⅶに示すとおりである。

（３） 出題の考え方

① 全般的な出題の考え方

・　薬剤師として具備しなければならない基本的な知識、技能及び態度を評価する問題とする。
・　高い倫理観、医療人としての教養及び医療現場で通用する実践力を確認することに配慮する。
・　７科目の内容については、相互に関連していることから、具体的な問題の作成に当たっては、重複のないよう科目間の調整には十分な配慮が必要である。
・　資格試験として過度に難解な問題は避ける。
・　問題の文章構成や条件設定に留意し、解答すべき設問肢の数が１つではない場合には、正解数を明記することを基本とする。
・　分野ごとに問題の難易度が偏らないことを基本とする。
・　可能な限り、正しいもの（又は正しいものの組合せ）を問う問題とする。
・　画像や写真等を利用した問題の出題も検討する。
・　各種基準等の数値は、記憶することが必須又は極めて有用な数値である場合を除いて、数値そのものを問う出題はしないこととする。
・　各試験法を問う出題については、保健衛生上の意義が大きく、かつ、当該科目において汎用されているもの、又は原理的に重要なもののみを出題し、その意義、測定原理等、試験又は測定実施のために必要とされる基礎知識を問うこととする。また、専門業務において習得すべき操作等の詳細は出題しないこととする。
・　末梢的な事項や、一部の例外的な事項を取り上げるような問題の出題はできるだけ避ける。

② 必須問題及び一般問題における出題の考え方

【必須問題】

・　必須問題は、医療の担い手である薬剤師として特に必要不可欠な基本的な資質を確認するものであることにかんがみ、各科目における基礎的な内容を問うものとする。
・　五肢択一形式で問うことを基本とする。なお、正しい解答肢の組合せを問う形式や、解答肢の正誤の組合せを問う形式はとらない。

【一般問題】

・　一般問題は、薬剤師が直面する一般的な課題を解釈・解決するための資質を確認するものであることにかんがみ、一般問題（薬学理論問題）は各科目における技能・態度を含む薬学の理論に基づいた問題となるよう留意する。

・　一般問題（薬学実践問題）は、医療や公衆衛生等の実務において直面する一般的な課題を解決するための基礎力、実践力及び総合力を確認するため、症例、事例を挙げる等、実践に則した問題となるよう留意する。

③ 各科目における出題の考え方

【物理・化学・生物】

・　「物理」は、医薬品を含む化学物質を理解する上で必要な物理化学的・分析化学的な基礎知識及び考え方が身についているかどうかを問うことに重点を置いた問題を中心に出題する。
・　「化学」は、「医薬品・生体分子の性質を理解すること」を主題とし、有機化合物としての医薬品・生体分子の物性、反応性及び分子レベルでの作用機序等に関する基礎の理解と、基本的な知識を複数組み合わせた応用力を問う問題を中心に出題する。
・　「生物」は、生体の構造、機能及び生体成分の代謝等に関する基礎知識を問う問題を中心に出題する。また、感染症の病原体、免疫の仕組み等に関する基礎知識を問う問題を出題する。
・　物理、化学及び生物それぞれの問題数が偏らないように留意して出題する。
・　「物理・化学・生物」では、小項目ごとに記載された留意事項を考慮しながら、薬剤師の臨床現場との関連性が高い問題を出題する。

【衛生】

・　「衛生」は、薬剤師による健康増進・疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる基礎科学である衛生化学・公衆衛生学、栄養化学、環境科学、毒性学、環境微生物学、疫学及び生態学等の基礎知識について出題する。
・　衛生関係法規として、食品衛生法、食品表示法、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、予防接種法、健康増進法、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律、有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律、環境基本法その他環境保全に係る法規、及び学校保健安全法については、「衛生」において出題する。
・　医薬品の体内動態は原則として「薬剤」で出題されるが、薬毒物を含む代表的な有害化学物質の体内動態は「衛生」において出題する。また、栄養化学については、構造等の基本的な知識は原則として「物理・化学・生物」において、その栄養学的内容は「衛生」において出題する。
・　「衛生」では、小項目ごとに記載された留意事項を考慮しながら、薬剤師の臨床現場との関連性が高い問題を出題する。

【薬理】
・　「薬理」は、薬理作用や作用機序に関する基礎知識（総論）及び代表的な治療薬の薬理作用や作用機序（各論）を中心に出題する。
・　臨床適用時の副作用・相互作用や剤形が問題となる場合を除いて、薬物名は塩等を付さない薬物本体のみを表記することを基本とする。

【薬剤】
・　「薬剤」は、薬物の体内動態及び製剤に関する基礎知識を問う問題とする。また、これらの問題数が偏らないように留意して出題する。

【病態・薬物治療】
・　「病態・薬物治療」は、患者の病態生理を理解し、適正かつ安全な薬物治療法の遂行等のために必要な知識を問うこととし、代表的な疾患の病態生理（基本的な臨床検査も含む）、適切な治療薬の選択と使用上の注意、薬物治療に役立つ情報（医薬品情報、患者情報、個別化医療）及び臨床研究デザインや生物統計について出題する。
・　治療薬の薬理作用や作用機序に関しては「薬理」において出題することを基本とする。

【法規・制度・倫理】
・　「法規・制度・倫理」は、薬剤師としての業務を遂行するために必要な法的知識及びこれらの関連する各種の制度並びに医療の担い手としての任務を遂行するために保持すべき倫理規範的知識や態度について問う問題を出題する。
・　法律等に照らして薬剤師の行動等の適正性を問うような問題も出題する。
・　法規制の原則又は例外に焦点を当てた問題を出題する場合には、場面設定を行う等、原則を問う問題か、例外を問う問題かが明確になるよう配慮する。
・　法令、制度の新設や改正内容に関する設問は、当該法令等の改正内容が周知されるまでの間は、原則として出題しないものとする。
・　法律のうち、衛生科目で出題される法規は原則として出題しないものとする。

【実務】
・　「実務」は、医療や公衆衛生等に携わる薬剤師の業務に関する基礎的及び実践的な知識、技能及び態度を問う問題を出題する。
・　「実務」は、薬剤師が、医薬品を一商品としてではなく、生命と関連性が高いものであることを常に意識し、患者を支援し、副作用の早期発

見・発生防止に努めることを含め、医薬品の安全性と有効性の確保のために薬の専門家として業務に携わるべきことを理解しているかを問うこととする。

・　患者の希望に沿った医療に貢献できるよう人間関係の必要性を理解し、薬物の適正使用のための情報提供ができるか等を問う問題を出題することとする。

・　実践に即した問題抽出・解決能力を確認する観点から、実践の場で取り得る解答肢の中から最も適切なものを選択する問題も出題する。

・　「実務」は、他科目すべてと関連することから、重複のないよう科目間の調整には十分な配慮が必要となる。

（４） 適用時期と次回改定

本出題基準については、第１０６回薬剤師国家試験（平成３２年度実施）から適用する。また、出題基準については、学術の進歩及び薬剤師業務の変化に伴い、おおむね４年を目途に改定する。

【別表Ⅰ　物理・化学・生物】

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | 小項目の例示 |
|---|---|---|---|
| 物質の物理的性質 | 物質の構造 | 化学結合<br>ヒトの体及び薬物の基本的性質・特性を理解するために必要な基礎知識を問う | 化学結合の様式について説明できる。 |
| | | | 分子軌道の基本概念及び軌道の混成について説明できる。 |
| | | | 共役や共鳴の概念を説明できる。 |
| | | 分子間相互作用<br>生命現象や薬物の薬効発現を理解するために必要な基礎知識を問う | ファンデルワールス力の概要を説明できる。 |
| | | | 静電相互作用について例を挙げて説明できる。 |
| | | | 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。 |
| | | | 分散力について例を挙げて説明できる。 |
| | | | 水素結合について例を挙げて説明できる。 |
| | | | 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。 |
| | | | 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。 |
| | | 原子・分子の挙動<br>臨床で用いられる分析法を理解するために必要な基礎知識を問う | 電磁波の性質及び物質との相互作用を説明できる。 |
| | | | 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。 |
| | | | 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。 |
| | | | 光の屈折、偏光及び旋光性について説明できる。 |
| | | | 光の散乱及び干渉について説明できる。 |
| | | | 結晶構造と回折現象の概要を説明できる。 |
| | | 放射線と放射能<br>臨床で用いられる放射性物質の基本的性質を理解し、安全な取扱いに必要な基礎知識を問う | 原子の構造と放射壊変について説明できる。 |
| | | | 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質及び物質との相互作用について説明できる。 |
| | | | 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。 |
| | | | 核反応及び放射平衡について説明できる。 |
| | | | 放射線測定の原理と利用について概要を説明できる。 |
| | 物質のエネルギーと平衡 | 気体の微視的状態と巨視的状態<br>医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる気体の微視的状態と巨視的状態の基礎知識を問う | ファンデルワールスの状態方程式について概要を説明できる。 |
| | | | 気体の分子運動とエネルギーの関係について概要を説明できる。 |
| | | | エネルギーの量子化とボルツマン分布について概要を説明できる。 |
| | | エネルギー<br>医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる熱力学的な基礎知識を問う | 熱力学における系、外界、境界について説明できる。 |
| | | | 熱力学第一法則を説明できる。 |
| | | | 状態関数と経路関数の違いを説明できる。 |
| | | | 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。 |
| | | | 定容熱容量及び定圧熱容量について説明できる。 |
| | | | エンタルピーについて説明できる。 |
| | | | 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。 |
| | | 自発的な変化<br>医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる熱力学的な基礎知識を問う | エントロピーについて説明できる。 |
| | | | 熱力学第二法則について説明できる。 |
| | | | 熱力学第三法則について説明できる。 |
| | | | ギブズエネルギーについて説明できる。 |
| | | | 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。 |
| | | 化学平衡の原理<br>医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる熱力学的な基礎知識を問う | ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。 |
| | | | ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。 |
| | | | 平衡定数に及ぼす圧力及び温度の影響について説明できる。 |
| | | | 共役反応の原理について説明できる。 |
| | | 相平衡<br>医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる相平衡に関する基礎知識を問う | 相変化に伴う熱の移動について説明できる。 |
| | | | 相平衡と相律について説明できる。 |
| | | | 状態図について説明できる。 |
| | | 溶液の性質<br>医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる溶液の性質に関する基礎知識を問う | 希薄溶液の束一的性質について説明できる。 |
| | | | 活量と活量係数について説明できる。 |
| | | | 電解質溶液の電気伝導率及びモル伝導率の濃度による変化を説明できる。 |
| | | | イオン強度について説明できる。 |
| | | 電気化学<br>医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる酸化還元に関する基礎知識を問う | 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。 |
| | | | 電極電位（酸化還元電位）について説明できる。 |
| | 物質の変化 | 反応速度<br>医薬品を含む化学物質の変換過程を理解するために必要な基礎知識を問う | 反応次数と速度定数について説明できる。 |
| | | | 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。 |
| | | | 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。 |
| | | | 代表的な（擬）一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。 |
| | | | 代表的な複合反応（可逆反応、平行反応、連続反応等）の特徴について説明できる。 |
| | | | 反応速度と温度との関係を説明できる。 |
| | | | 代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応、酵素反応等）について説明できる。 |
| 化学物質の分析 | 分析の基礎 | 分析の基本<br>医薬品を含む化学物質の分析を正しく実施・解析するために必要な基礎知識を問う | 分析に用いる器具の正しい使用法を説明できる。 |
| | | | 測定値を適切に取り扱うことができる。 |
| | | | 分析法のバリデーションについて説明できる。 |
| | 溶液中の化学平衡 | 酸・塩基平衡<br>医薬品を含む化学物質の溶液中での酸・塩基平衡を理解するために必要な基礎知識を問う | 酸・塩基平衡の概念について説明できる。 |
| | | | pH及び解離定数について説明できる。 |
| | | | 溶液のpHの測定法を説明できる。 |
| | | | 緩衝作用や緩衝液について説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 各種の化学平衡<br>医薬品を含む化学物質の溶液中での酸・塩基平衡以外の化学平衡を理解するために必要な基礎知識を問う | 錯体・キレート生成平衡について説明できる。 |
| | | | 沈殿平衡について説明できる。 |
| | | | 酸化還元平衡について説明できる。 |
| | | | 分配平衡について説明できる。 |
| | 化学物質の定性分析・定量分析 | 定性分析<br>医薬品を含む化学物質の定性分析を正確に実施するために必要な基礎知識を問う | 代表的な無機イオンの定性反応の概要を説明できる。 |
| | | | 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容の概要を説明できる。 |
| | | 定量分析（容量分析・重量分析）<br>医薬品を含む化学物質の定量分析を正確に実施するために必要な基礎知識を問う | 中和滴定（非水滴定を含む）の原理、操作法及び応用例を説明できる。 |
| | | | キレート滴定の原理、操作法及び応用例を説明できる。 |
| | | | 沈殿滴定の原理、操作法及び応用例を説明できる。 |
| | | | 酸化還元滴定の原理、操作法及び応用例を説明できる。 |
| | | | 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析の内容を説明できる。 |
| | | | 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。 |
| | | | 日本薬局方収載の重量分析法の原理及び操作法を説明できる。 |
| | 機器を用いる分析法 | 分光分析法<br>医薬品を含む化学物質の分光分析を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う | 紫外可視吸光度測定法の原理及び応用例を説明できる。 |
| | | | 蛍光光度法の原理及び応用例を説明できる。 |
| | | | 赤外吸収（IR）スペクトル測定法の原理及び応用例を説明できる。 |
| | | | 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ（ICP）発光分光分析法及びICP質量分析法の原理及び応用例を説明できる。 |
| | | | 旋光度測定法（旋光分散）の原理及び応用例を説明できる。 |
| | | | 分光分析法を用いた日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析方法を説明できる。 |
| | | 核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法<br>医薬品を含む化学物質の核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う | 核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法の原理及び応用例について概要を説明できる。 |
| | | 質量分析法<br>医薬品を含む化学物質の質量分析を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う | 質量分析法の原理及び応用例を説明できる。 |
| | | X線分析法<br>医薬品を含む化学物質のX線分析を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う | X線結晶解析の原理及び応用例について概要を説明できる。 |
| | | | 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概要を説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 熱分析<br>医薬品を含む化学物質の熱分析を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う | 熱重量測定法の原理を説明できる。 |
| | | | 示差熱分析法及び示差走査熱量測定法の概要を説明できる。 |
| | 分離分析法 | クロマトグラフィー<br>医薬品を含む化学物質のクロマトグラフィーによる分離を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う | クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。 |
| | | | 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。 |
| | | | 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。 |
| | | | ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。 |
| | | | クロマトグラフィーを用いた試料の定性・定量法を説明できる。 |
| | | 電気泳動法<br>医薬品を含む化学物質の電気泳動による分離を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う | 電気泳動法の原理及び応用例を説明できる。 |
| | 臨床現場で用いる分析技術 | 分析の準備<br>基礎から応用への橋渡しを考慮して、臨床現場で用いられる代表的な分析技術の正しい実施に必要となる適切な準備を選択するための基礎知識を問う | 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。 |
| | | | 臨床分析における精度管理及び標準物質の意義を説明できる。 |
| | | 分析技術<br>基礎から応用への橋渡しを考慮して、臨床現場で用いられる代表的な分析技術を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う | 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。 |
| | | | 免疫化学的測定法の原理を説明できる。 |
| | | | 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。 |
| | | | 代表的なドライケミストリーについて概要を説明できる。 |
| | | | 代表的な画像診断技術（X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査等）について概要を説明できる。 |
| 化学物質の性質と反応 | 化学物質の基本的性質 | 基本事項<br>医薬品等の基本的性質を理解するために必要な基礎知識を問う | 代表的な化合物をIUPAC規則に基づいて命名することができる。 |
| | | | 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。 |
| | | | 基本的な化合物のルイス構造式について説明できる。 |
| | | | 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。 |
| | | | ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。 |
| | | | 基本的な有機反応（置換、付加、脱離）の特徴を理解し、分類できる。 |
| | | | 炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル）の構造と性質を説明できる。 |
| | | | 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。 |
| | | | 基本的な有機反応機構を表記する電子の動きについて説明できる。 |
| | | 有機化合物の立体構造<br>医薬品等の立体構造を理解するために必要な基礎知識を問う | 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。 |
| | | | キラリティーと光学活性の関係を説明できる。 |
| | | | エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。 |
| | | | ラセミ体とメソ体について説明できる。 |
| | | | 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を識別することができる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | 炭素－炭素二重結合の立体異性（*cis, trans*ならびに*E, Z*異性）について説明できる。 |
| | | | フィッシャー投影式とニューマン投影式で表記された有機化合物の構造を理解できる。 |
| | | | エタン、ブタン等の立体配座とその安定性について説明できる。 |
| | 有機化合物の基本骨格の構造と反応 | アルカン<br>医薬品等の基本骨格であるアルカンの性質を理解するために必要な基礎知識を問う | アルカンの基本的な性質について説明できる。 |
| | | | アルカンの構造異性体を列挙できる。 |
| | | | シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。 |
| | | | 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。 |
| | | アルケン・アルキン<br>医薬品等の基本骨格であるアルケン、アルキンの反応性を理解するために必要な基礎知識を問う | アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。 |
| | | | アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。 |
| | | | アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。 |
| | | 芳香族化合物<br>医薬品等の基本骨格である芳香族化合物の性質・反応性を理解するために必要な基礎知識を問う | 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。 |
| | | | 芳香族性の概念を説明できる。 |
| | | | 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。 |
| | | | 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。 |
| | | | 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。 |
| | 官能基の性質と反応 | 概説<br>医薬品等に含まれる代表的官能基の性質を理解するために必要な基礎知識を問う | 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。 |
| | | | 官能基の性質を利用した分離精製法を説明できる。 |
| | | 有機ハロゲン化合物<br>医薬品等に含まれるハロゲンの性質・反応性を理解するために必要な基礎知識を問う | 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。 |
| | | | 求核置換反応の特徴について説明できる。 |
| | | | 脱離反応の特徴について説明できる。 |
| | | アルコール・フェノール・エーテル<br>医薬品等に含まれるアルコール・フェノール・エーテルの性質・反応性を理解するために必要な基礎知識を問う | アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。 |
| | | | エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。 |
| | | アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体<br>医薬品等に含まれるアルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体の性質・反応性を理解するために必要な基礎知識を問う | アルデヒド類及びケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。 |
| | | | カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。 |
| | | | カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド）の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。 |
| | | アミン<br>医薬品等に含まれるアミンの性質を理解するために必要な基礎知識を問う | アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。 |
| | | 電子効果<br>医薬品等に含まれる代表的官能基の性質・反応性を理解するために必要な基礎知識を問う | 官能基が及ぼす電子効果について説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 酸性度・塩基性度<br>医薬品等の性質・反応性を理解するために必要な官能基の酸性度・塩基性度に関する基礎知識を問う | アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸等の酸性度を比較して説明できる。 |
| | | | 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。 |
| | 化学物質の構造決定 | 核磁気共鳴（NMR）<br>医薬品等の構造を確認するために必要な核磁気共鳴に関する基礎知識を問う | $^{1}$H及び$^{13}$C NMRスペクトルより得られる情報を説明できる。 |
| | | | 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。 |
| | | | $^{1}$H NMRの積分値の意味を説明できる。 |
| | | | $^{1}$H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂（カップリング）する基本的な分裂様式を説明できる。 |
| | | | 医薬品等の$^{1}$H NMRを解析できる。 |
| | | 赤外吸収（IR）<br>医薬品等の官能基を確認するために必要な赤外吸収に関する基礎知識を問う | IRスペクトルより得られる情報を説明できる。 |
| | | | IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。 |
| | | 質量分析<br>医薬品等の構造を確認するために必要な質量分析に関する基礎知識を問う | マススペクトルより得られる情報を説明できる。 |
| | | | 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。 |
| | | | ピークの種類（基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク）を説明できる。 |
| | | | 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。 |
| | 無機化合物・錯体の構造と性質 | 無機化合物・錯体<br>医薬品や生体内物質に含まれる無機化合物・錯体の性質を理解するために必要な基礎知識を問う | 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。 |
| | | | 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。 |
| | | | 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。 |
| | | | 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。 |
| | | | 医薬品として用いられる代表的な無機化合物及び錯体を列挙できる。 |
| 生体分子・医薬品の化学による理解 | 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質 | 医薬品の標的となる生体高分子の化学構造<br>医薬品が相互作用する生体高分子の構造を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う | 代表的な生体高分子を構成する小分子（アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチド等）の構造に基づく化学的性質を説明できる。 |
| | | | 医薬品の標的となる生体高分子（タンパク質、核酸等）の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。 |
| | | 生体内で機能する小分子<br>医薬品の機能と関連する生体内小分子の構造と性質を理解するために必要な基礎知識を問う | 細胞膜受容体及び細胞内（核内）受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について説明できる。 |
| | | | 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。 |
| | | | 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。 |
| | | | 生体内に存在する代表的な金属イオン及び錯体の機能を化学的に説明できる。 |
| | 生体反応の化学による理解 | 生体内で機能するリン、硫黄化合物<br>生体内物質・医薬品の部分構造であるリン、硫黄化合物の性質と機能を理解するために必要な基礎知識を問う | リン化合物（リン酸誘導体等）及び硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステル等）の構造と化学的性質を説明できる。 |
| | | | リン化合物（リン酸誘導体等）及び硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステル等）の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。 |
| | | 酵素阻害薬と作用様式<br>酵素阻害薬の構造を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う | 不可逆的酵素阻害薬の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。 |
| | | | 基質アナログが競合阻害薬となっている代表的な医薬品を列挙できる。 |
| | | | 遷移状態アナログが競合阻害薬となっている代表的な医薬品を列挙できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 受容体のアゴニスト及びアンタゴニスト<br>受容体に作用する医薬品の構造を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う | 代表的な受容体のアゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。 |
| | | | 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。 |
| | | 生体内で起こる有機反応<br>生体内物質、医薬品等の代謝反応を理解するために必要な基礎知識を問う | 代表的な生体分子（脂肪酸、コレステロール等）の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。 |
| | | | 異物代謝の反応（発がん性物質の代謝的活性化等）を有機化学の観点から説明できる。 |
| | 医薬品の化学構造と性質、作用 | 医薬品と生体分子の相互作用<br>医薬品と生体高分子の相互作用に影響を及ぼす因子を理解するために必要な基礎知識を問う | 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点（電子効果、立体効果等）から説明できる。 |
| | | 医薬品の化学構造に基づく性質<br>医薬品の物性、動態に影響を及ぼす化学構造を理解するために必要な基礎知識を問う | 医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親水性等）を説明できる。 |
| | | | プロドラッグ等の薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。 |
| | | 医薬品のコンポーネント<br>医薬品の薬効に関わる部分構造を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う | 代表的な医薬品のファーマコフォアについて説明できる。 |
| | | | バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて説明できる。 |
| | | | 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。 |
| | | 酵素に作用する医薬品の構造と性質<br>酵素を標的とする医薬品の基本構造と作用等の化学的な理解に必要な基礎知識を問う | ヌクレオシド及び核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 |
| | | | フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造等をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 |
| | | | スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 |
| | | | キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 |
| | | | $\beta$ －ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 |
| | | | ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 |
| | | | 酵素に作用するその他の代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 |
| | | 受容体に作用する医薬品の構造と性質<br>受容体を標的とする医薬品の基本構造と作用等の化学的な理解に必要な基礎知識を問う | カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 |
| | | | アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 |
| | | | ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 |
| | | | ベンゾジアゼピン骨格及びバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 |
| | | | オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 |
| | | | 受容体に作用するその他の代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 |
| | | DNAに作用する医薬品の構造と性質<br>DNAを標的とする医薬品の基本構造と作用等を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う | DNAと結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。 |
| | | | DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴と作用等を説明できる。 |
| | | | DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴と作用等を説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質<br>イオンチャネルを標的とする医薬品の基本構造と作用等を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う | イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジン等）の特徴と作用等を説明できる。 |
| 自然が生み出す薬物 | 薬になる動植鉱物 | 薬用植物<br>薬用植物に関して薬剤師に必要な基礎知識を問う | 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効等を挙げることができる。 |
| | | | 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。 |
| | | | 植物の主な内部形態について説明できる。 |
| | | | 法律によって取扱いが規制されている植物（ケシ、アサ）の特徴を説明できる。 |
| | | 生薬の基原・用途<br>代表的な生薬に関して必要な基礎知識を問う | 代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類由来）を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。 |
| | | | 代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来）の薬効、成分、用途等を説明できる。 |
| | | 生薬の副作用<br>生薬によって引き起こされる副作用のうち重要なものを問う | 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 |
| | | 生薬の同定と品質評価<br>代表的な生薬の品質を担保するために薬剤師に必要な基礎知識を問う | 生薬の同定と品質評価法について説明できる。 |
| | | | 日本薬局方の生薬総則及び生薬試験法について説明できる。 |
| | | | 代表的な生薬を鑑別できる。 |
| | | | 代表的な生薬の確認試験を説明できる。 |
| | | | 代表的な生薬の純度試験を説明できる。 |
| | 薬の宝庫としての天然物 | 生薬由来の生物活性物質の構造と作用<br>品質や薬理作用に関連する生薬の成分について基礎知識を問う | 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造と生合成経路に基づいて分類できる。 |
| | | | 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 |
| | | | 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 |
| | | | テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 |
| | | | アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 |
| | | 微生物由来の生物活性物質の構造と作用<br>微生物由来の代表的医薬品の化学構造と薬理作用に関する基礎知識を問う | 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。 |
| | | | 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 |
| | | 天然生物活性物質の利用<br>医薬品として使用されている天然物又はその誘導体を理解するために必要な基礎知識を問う | 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。 |
| | | | 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。 |
| | | | 農薬等で使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。 |
| 生命現象の基礎 | 細胞の構造と機能 | 細胞の基本<br>生命体の最小単位である細胞の構造と機能を理解するための基礎知識を問う | 細胞膜を構成する代表的な生体成分（膜脂質、膜タンパク質等）を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。 |
| | | | エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。 |
| | | | 細胞小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソーム等）やリボソームの構造と機能を説明できる。 |
| | | | 細胞骨格（微小管、中間径フィラメント、マイクロフィラメント）の構造と機能を説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 生命現象を担う分子 | 生体の主要構成分子<br>生命現象を担う主要構成分子の種類、構造、性質、役割を理解するための基礎知識を問う | 代表的な脂質の種類（リン脂質、糖脂質、コレステロール、脂肪酸、中性脂肪等）の種類、構造、性質、役割を説明できる。 |
| | | | 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。 |
| | | | 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。 |
| | | | アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。 |
| | | | タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。 |
| | | | ヌクレオチドと核酸（DNA、RNA）の種類、構造、性質を説明できる。 |
| | | | 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、核酸の定性又は定量試験の原理と方法を説明できる。 |
| | | 生体に必須な微量成分<br>生命現象を担う必須微量成分に関する基礎知識を問う | ビタミン（補酵素型を含む）の種類、構造、性質、役割を説明できる。 |
| | | | 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。 |
| | 生命活動を担うタンパク質 | タンパク質の基本<br>種々のタンパク質の機能、成熟・分解を理解するための基礎知識を問う | 多彩な機能を持つタンパク質（酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質）のそれぞれの役割を説明できる。 |
| | | | タンパク質の翻訳後の成熟過程（フォールディング、細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾）について説明できる。 |
| | | | タンパク質の細胞内での分解（リソソーム、プロテアソーム、オートファジー）について説明できる。 |
| | | | 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。 |
| | | | 血漿リポタンパク質（キロミクロン、VLDL、LDL、HDL）の構造、機能を説明できる。 |
| | | 酵素<br>酵素の機能と調節を理解するための基礎知識を問う | 酵素反応の特性と反応速度論、代表的な可逆的阻害を説明できる。 |
| | | | 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。 |
| | | | 代表的な酵素活性調節機構（アロステリック調節、化学修飾、チモーゲン等）を説明できる。 |
| | 生命情報を担う遺伝子 | 遺伝情報を担う分子<br>遺伝情報を担う核酸の機能を理解するための基礎知識を問う | DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。 |
| | | | 染色体の構造（ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメア等）を説明できる。 |
| | | | 遺伝子の構造（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロン等）を説明できる。 |
| | | | RNAの種類（hnRNA、mRNA、rRNA、tRNA、miRNA等）と機能について説明できる。 |
| | | 複製<br>DNA複製の過程と調節を理解するための基礎知識を問う | DNA複製の過程について説明できる。 |
| | | | テロメラーゼの機能について説明できる。 |
| | | | DNA変異に対する代表的な修復について説明できる。 |
| | | 転写・翻訳<br>遺伝子発現の過程と調節を理解するための基礎知識を問う | DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。 |
| | | | エピジェネティックな転写制御について説明できる。 |
| | | | 転写因子による転写制御について説明できる。 |
| | | | RNAのプロセシング（キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖等）について説明できる。 |
| | | | RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。 |
| | | 組換えDNA<br>遺伝子組換え技術の基本原理を理解するための基礎知識を問う | 遺伝子工学技術（遺伝子クローニング、cDNAクローニング、PCR、組換えタンパク質発現法等）を説明できる。 |
| | | | 遺伝子改変生物（遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物）について説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系 | ATPの産生と糖質代謝<br>糖からのエネルギー産生機構を理解するための基礎知識を問う | 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。 |
| | | | クエン酸回路（TCAサイクル）について説明できる。 |
| | | | 電子伝達系（酸化的リン酸化）とATP合成について説明できる。 |
| | | | グリコーゲンの代謝について説明できる。 |
| | | | 糖新生について説明できる。 |
| | | 脂質代謝<br>脂質の代謝を理解するための基礎知識を問う | 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。 |
| | | | コレステロールの生合成と代謝について説明できる。 |
| | | 飢餓状態と飽食状態<br>エネルギー状態による代謝調節を理解するための基礎知識を問う | 飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用等）について説明できる。 |
| | | | 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。 |
| | | その他の代謝系<br>主要生体構成成分の代謝を理解するための基礎知識を問う | アミノ酸分子中の炭素及び窒素の代謝（尿素回路等）について説明できる。 |
| | | | ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。 |
| | | | ペントースリン酸回路について説明できる。 |
| | 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達 | 細胞内情報伝達<br>細胞内情報伝達の過程と調節を理解するための基礎知識を問う | 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式（内分泌、パラクリン、オートクリン、接触型）を説明できる。 |
| | | | 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。 |
| | | | 細胞膜受容体からGタンパク質（Gs、Gi、Gq）を介する細胞内情報伝達について説明できる。 |
| | | | 細胞膜受容体タンパク質等のリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。 |
| | | | 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャー（cAMP、cGMP、DG、$IP_3$、$Ca^{2+}$、$PIP_3$）について説明できる。 |
| | | | 細胞内（核内）受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。 |
| | | 細胞間コミュニケーション<br>細胞間の接着に関する基本的理解を問う | 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。 |
| | | | 主な細胞外マトリックス分子の特徴を説明できる。 |
| | 細胞の分裂と死 | 細胞増殖の基本<br>細胞の増殖とその調節を理解するための基礎知識を問う | 細胞周期とその制御機構について説明できる。 |
| | | | 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。 |
| | | | 幹細胞、胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）について説明できる。 |
| | | | 細胞死（アポトーシスとネクローシス）について説明できる。 |
| | | | 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。 |
| | | | がん遺伝子とがん抑制遺伝子について説明できる。 |
| 人体の成り立ちと生体機能の調節 | 人体の成り立ち | 遺伝と発生<br>遺伝と発生を理解するための基礎知識を問う | 遺伝のしくみについて説明できる。 |
| | | | 遺伝子多型（一塩基多型を含む）について説明できる。 |
| | | | 代表的な遺伝疾患を列挙できる。 |
| | | | 個体発生について説明できる。 |
| | | | 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 器官系概論<br>人体組織に関する基本的理解を問う | 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置及び機能を説明できる。 |
| | | | 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類(上皮、内皮、間葉系等)と形態的及び機能的特徴を説明できる。 |
| | | 各器官の構造と機能<br>各器官に関する基本的理解を問う | 中枢神経系(組織の構造、構築細胞の種類と機能)について説明できる。 |
| | | | 末梢(体性・自律)神経系(組織の構造、構築細胞の種類と機能)について説明できる。 |
| | | | 骨、筋肉(組織の構造、構築細胞の種類と機能)について説明できる。 |
| | | | 代表的な骨格筋及び関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。 |
| | | | 筋収縮の調節機構について説明できる。 |
| | | | 皮膚(組織の構造、構築細胞の種類と機能)について説明できる。 |
| | | | 心臓(組織の構造と機能)について説明できる。 |
| | | | 血管系(組織の構造、構築細胞の種類と機能)について説明できる。 |
| | | | リンパ管系(組織の構造と機能)について説明できる。 |
| | | | 肺、気管支(組織の構造、構築細胞の種類と機能)について説明できる。 |
| | | | 胃、小腸、大腸等の消化管(組織の構造、構築細胞の種類と機能)について説明できる。 |
| | | | 肝臓、膵臓、胆嚢(組織の構造、構築細胞の種類と機能)について説明できる。 |
| | | | 泌尿器系(組織の構造、構築細胞の種類と機能)について説明できる。 |
| | | | 生殖器系(組織の構造と機能)について説明できる。 |
| | | | 内分泌系(組織の構造、構築細胞の種類と機能)について説明できる。 |
| | | | 感覚器系(組織の構造と機能)について説明できる。 |
| | | | 血液・造血器系(血液細胞の種類と機能)について説明できる。 |
| | 生体機能の調節 | 神経による調節機構<br>神経細胞と神経伝達を理解するための基礎知識を問う | 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。 |
| | | | 代表的な神経伝達物質(アセチルコリン、カテコールアミン、GABA等)を挙げ、生理活性及び作用機構について説明できる。 |
| | | | 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙できる。 |
| | | | 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。 |
| | | 生理活性物質による調節機構<br>生理活性物質とその生理作用を理解するための基礎知識を問う | 代表的なホルモンの産生器官、生理活性及び作用機構について説明できる。 |
| | | | 代表的なオータコイドの生理活性及び作用機構について説明できる。 |
| | | | 代表的なサイトカイン、増殖因子の生理活性及び作用機構について説明できる。 |
| | | 恒常性の調節機構<br>恒常性の調節機構を理解するための基礎知識を問う | 血圧の調節機構について説明できる。 |
| | | | 血糖の調節機構について説明できる。 |
| | | | 体液の調節機構について説明できる。 |
| | | | 尿の生成機構、尿量の調節機構について説明できる。 |
| | | | 体温の調節機構について説明できる。 |
| | | | 血液凝固・線溶系の機構について説明できる。 |
| | | | 性周期の調節機構について説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 生体防御と微生物 | 身体をまもる | 生体防御反応<br>免疫機構を理解するための基礎知識を問う | 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー及び補体の役割について説明できる。 |
| | | | 免疫反応の特徴(自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容)を説明できる。 |
| | | | 自然免疫と獲得免疫及び両者の関係を説明できる。 |
| | | | 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。 |
| | | 免疫を担当する組織・細胞<br>免疫機構を担う細胞の機能を理解するための基礎知識を問う | 免疫に関与する組織(脾臓、胸腺、リンパ節、パイエル板)を列挙し、その役割を説明できる。 |
| | | | 免疫担当細胞(Th1、Th2、キラーT、B、NK、樹状細胞、マクロファージ等)の種類と役割を説明できる。 |
| | | | 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。 |
| | | 分子レベルで見た免疫のしくみ<br>免疫機構を担う分子の機能を理解するための基礎知識を問う | 自然免疫及び獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。 |
| | | | MHC抗原の構造と機能及び抗原提示での役割について説明できる。 |
| | | | T細胞とB細胞による抗原認識の多様性(遺伝子再構成)と活性化について説明できる。 |
| | | | 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。 |
| | | | 免疫系に関わる主なサイトカイン(TNF-$\alpha$、IL-1、IL-2、IL-4、IL-5、IL-6、IL-10、IL-12、IFN-$\alpha$、IFN-$\beta$、IFN-$\gamma$等)の作用を説明できる。 |
| | 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用 | 免疫応答の制御と破綻<br>免疫機構に関わる疾患を理解するための基礎知識を問う<br>【注意】特に病態等に関して問題に含まれる疾患は、薬理、病態・薬物治療の出題基準を超えないこと | 炎症の一般的症状、担当細胞及び反応機構について説明できる。 |
| | | | アレルギーを4種類に分類し、担当細胞及び反応機構について説明できる。 |
| | | | 自己免疫疾患について説明できる。 |
| | | | 臓器移植と免疫反応の関わり(拒絶反応、免疫抑制薬等)について説明できる。 |
| | | | 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。 |
| | | | 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。 |
| | | 免疫反応の利用<br>抗体の医療への応用を理解するための基礎知識を問う | ワクチンの原理と種類(生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン等)について説明できる。 |
| | | | モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の違いと作製方法について説明できる。 |
| | | | 血清療法と抗体医薬の基礎について説明できる。 |
| | | | 抗原抗体反応を利用した検査方法(ELISA、ウエスタンブロット法等)について説明できる。 |
| | 微生物の基本 | 細菌<br>微生物を理解するための基礎知識を問う | 原核生物、真核生物、ウイルスの特徴を説明できる。 |
| | | | 細菌の分類や性質(系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌等)を説明できる。 |
| | | | 細菌の構造と増殖機構について説明できる。 |
| | | | 細菌の異化作用(呼吸と発酵)及び同化作用について説明できる。 |
| | | | 細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)について説明できる。 |
| | | | 薬剤耐性菌及び薬剤耐性化機構について説明できる。 |
| | | | 代表的な細菌毒素について説明できる。 |
| | | | グラム染色について説明できる。 |
| | | ウイルス<br>ウイルスを理解するための基礎知識を問う | ウイルスの構造、分類及び代表的なウイルスの増殖機構について説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 真菌・原虫・蠕虫<br>真菌・原虫・蠕虫に関する基礎知識を問う | 真菌の特徴を説明できる。 |
| | | | 原虫及び蠕虫の特徴を説明できる。 |
| | | 消毒と滅菌<br>消毒と滅菌に関する基本知識を問う | 滅菌、消毒及び殺菌、静菌の概念を説明できる。 |
| | | | 主な滅菌法及び消毒法について説明できる。 |
| | 病原体としての微生物 | 感染の成立と共生<br>感染に関する基本知識を問う | 感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸等）と共生（腸内細菌等）について説明できる。 |
| | | | 日和見感染と院内感染について説明できる。 |
| | | 代表的な病原体<br>種々の病原性微生物とそれによる感染症を理解するための基礎知識を問う<br><br>【注意】特に病態等に関して問題に含まれる疾患は、薬理、病態・薬物治療の小項目「細菌感染症の病態、薬物治療」「ウイルス感染症の病態、薬物治療」「真菌感染症の病態、薬物治療」「原虫・寄生虫感染症の病態、薬物治療」の出題基準を超えないこと | DNAウイルス（ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルス等）の特徴を説明できる。 |
| | | | RNAウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV等）の特徴を説明できる。 |
| | | | グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌等）及びグラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌等）の特徴を説明できる。 |
| | | | グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌等）及びグラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌等）の特徴を説明できる。 |
| | | | グラム陰性らせん菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリ等）及びスピロヘータの特徴を説明できる。 |
| | | | 抗酸菌（結核菌、らい菌等）の特徴を説明できる。 |
| | | | マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの特徴を説明できる。 |
| | | | 真菌（アスペルギルス、カンジダ、ムーコル、白癬菌等）の特徴を説明できる。 |
| | | | 原虫（マラリア原虫、膣トリコモナス、クリプトスポリジウム等）、蠕虫（アニサキス、エキノコックス等）の特徴を説明できる。 |

## 【別表Ⅱ　衛生】

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | 小項目の例示 |
|---|---|---|---|
| 健康 | 社会・集団と健康 | 健康と疾病の概念<br>薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる健康と疾病の概念について基礎知識を問う | 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。 |
| | | 保健統計<br>薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる保健統計の理解及び取扱いに関する基礎知識を問う | 集団の健康と疾病の現状及びその影響要因を把握する上での人口統計の意義を説明できる。 |
| | | | 人口統計及び傷病統計に関する指標について説明できる。 |
| | | | 人口動態（死因別死亡率等）の変遷について説明できる。 |
| | | 疫学<br>薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる疫学の理解及び取扱いに関する基礎知識を問う | 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。 |
| | | | 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。 |
| | | | 疫学の種類（記述疫学、分析疫学等）とその方法について説明できる。 |
| | | | リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度及び信頼区間について説明できる。 |
| | 疾病の予防 | 疾病の予防とは<br>薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要な基礎知識を問う | 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。 |
| | | | 健康増進政策（健康日本21等）について説明できる。 |
| | | 感染症とその予防<br>薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる感染症に関する基礎知識を問う | 現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症等）の特徴について説明できる。 |
| | | | 感染症法における感染症とその分類について説明できる。 |
| | | | 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。 |
| | | | 予防接種の意義と方法について説明できる。 |
| | | 生活習慣病とその予防<br>薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる生活習慣病に関する基礎知識を問う | 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。 |
| | | | 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。 |
| | | | 食生活や喫煙等の生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。 |
| | | 母子保健<br>薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる母子保健に関する基礎知識を問う | 新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。 |
| | | | 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。 |
| | | 労働衛生<br>薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる労働衛生に関する基礎知識を問う | 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。 |
| | | | 労働衛生管理について説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 栄養と健康 | 栄養<br>薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる栄養に関する基礎知識を問う | 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。 |
| | | | 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを説明できる。 |
| | | | 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。 |
| | | | 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質等）の機能について説明できる。 |
| | | | エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。 |
| | | | 日本人の食事摂取基準について説明できる。 |
| | | | 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。 |
| | | | 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。 |
| | | 食品機能と食品衛生<br>薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる食品機能と食品衛生に関する基礎知識を問う | 炭水化物、タンパク質が変質する機構について説明できる。 |
| | | | 油脂が変敗する機構及び油脂の変質試験について説明できる。 |
| | | | 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。 |
| | | | 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。 |
| | | | 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。 |
| | | | 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。 |
| | | | 食品衛生に関する法的規制について説明できる。 |
| | | 食中毒と食品汚染<br>薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる食中毒と食品汚染に関する基礎知識を問う | 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品及び予防方法について説明できる。 |
| | | | 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。 |
| | | | 化学物質（重金属、残留農薬等）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。 |
| 環境 | 化学物質・放射線の生体への影響 | 化学物質の毒性<br>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる環境化学物質や乱用薬物の毒性及び対処法を理解するための基礎知識を問う | 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。 |
| | | | 肝臓、腎臓、神経等に特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。 |
| | | | 重金属、PCB、ダイオキシン等の代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。 |
| | | | 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。 |
| | | | 薬物の乱用による健康への影響について説明できる。 |
| | | | 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。 |
| | | | 代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の試験法を列挙し、説明できる。 |
| | | 化学物質の安全性評価と適正使用<br>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる化学物質の安全性を理解するための基礎知識を問う | 個々の化学物質の使用目的にかんがみ、適正使用とリスクコミュニケーションの重要性について説明できる。 |
| | | | 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、説明できる。 |
| | | | 毒性試験の結果を評価するために必要な量－反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）等について説明できる。 |
| | | | 化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量等）について説明できる。 |
| | | | 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法、化管法等）を説明できる。 |
| | | 化学物質による発がん<br>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる化学発がんを理解するための基礎知識を問う | 発がん性物質等の代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。 |
| | | | 遺伝毒性試験（Ames試験等）の原理を説明できる。 |
| | | | 発がんに至る過程（イニシエーション、プロモーション等）について説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 放射線の生体への影響<br>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる放射線生体影響を理解するための基礎知識を問う | 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。 |
| | | | 代表的な放射性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。 |
| | | | 電離放射線を防御する方法について説明できる。 |
| | | | 非電離放射線（紫外線、赤外線等）を列挙し、生体への影響を説明できる。 |
| | 生活環境と健康 | 地球環境と生態系<br>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる地球環境・生態系及びそれらの保全を理解するための基礎知識を問う | 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。 |
| | | | 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。 |
| | | | 化学物質の環境内動態（生物濃縮等）について例を挙げて説明できる。 |
| | | | 地球環境の保全に関する国際的な取組について説明できる。 |
| | | | 人が生態系の一員であることを踏まえて環境問題を説明できる。 |
| | | 環境保全と法的規制<br>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる公害・環境汚染及びそれらを防止する法的規制を理解するための基礎知識を問う | 典型七公害とその現状及び四大公害について説明できる。 |
| | | | 環境基本法の理念を説明できる。 |
| | | | 環境汚染（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染等）を防止するための法規制について説明できる。 |
| | | 水環境<br>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる水環境や水質汚濁及び水の浄化法を理解するための基礎知識を問う | 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。 |
| | | | 水の浄化法、塩素処理について説明できる。 |
| | | | 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定法について説明できる。 |
| | | | 下水処理及び排水処理の主な方法について説明できる。 |
| | | | 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定法について説明できる。 |
| | | | 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。 |
| | | 大気環境<br>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる大気環境や大気汚染を理解するための基礎知識を問う | 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。 |
| | | | 主な大気汚染物質の測定法について説明できる。 |
| | | | 大気汚染に影響する気象要因（逆転層等）を説明できる。 |
| | | 室内環境<br>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる室内環境の保全及びその評価指標を理解するための基礎知識を問う | 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定法について説明できる。 |
| | | | 室内環境と健康との関係について説明できる。 |
| | | 廃棄物<br>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる廃棄物及びその取扱い法を理解するための基礎知識を問う | 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。 |
| | | | 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。 |
| | | | マニフェスト制度について説明できる。 |

【別表Ⅲ　薬理】

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | 小項目の例示 |
|---|---|---|---|
| 薬の作用と体の変化 | 薬の作用機序 | 用量と作用 | 薬の用量と作用の関係を説明できる。 |
| | | 薬物の標的分子 | 薬物が作用する仕組みについて、代表的な受容体、酵素、イオンチャネル及びトランスポーターを例に挙げて説明できる。 |
| | | 受容体 | アゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）について説明できる。 |
| | | | 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。 |
| | | 受容体と情報伝達系 | 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。 |
| | | 薬効に影響を及ぼす要因 | 薬物の選択（禁忌を含む）、用法、用量の変更が必要となる要因（年齢、疾病、妊娠等）について具体例を挙げて説明できる。 |
| | | 薬物相互作用 | 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。 |
| | | 薬理学実験 | 薬効や副作用に関する薬理実験の代表的な研究方法とデータの解析について説明できる。 |
| | 医薬品の安全性 | 薬物依存性・耐性 | 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。 |
| | | 副作用と毒性 | 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。 |
| | | 副作用と有害事象 | 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。 |
| 薬の効き方 | 神経系に作用する薬 | 自律神経系に作用する薬 | 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。 |
| | | | 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。 |
| | | | 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。 |
| | | 体性神経系に作用する薬・運動神経系及び骨格筋に作用する薬 | 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬等）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。 |
| | | | 運動神経系及び骨格筋に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。 |
| | | 中枢神経系に作用する薬 | 全身麻酔薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 睡眠障害治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 統合失調症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | うつ病・双極性障害治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 神経症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | てんかん治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | パーキンソン病治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 認知症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 脳内出血・脳梗塞等に関連する治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 片頭痛治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 中枢興奮薬、その他の中枢神経系に作用する薬物の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | 免疫・炎症・アレルギー及び骨・関節に作用する薬 | 抗炎症薬 | 抗炎症薬（ステロイド性及び非ステロイド性）及び解熱性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | 免疫・アレルギーに作用する薬 | アレルギー治療薬（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 免疫抑制薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 関節リウマチ治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | 骨・カルシウム代謝に作用する薬 | 骨粗しょう症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | カルシウム代謝異常に関連する治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系に作用する薬 | 循環器系に作用する薬 | 不整脈治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 心不全治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 虚血性心疾患治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 高血圧症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 低血圧治療薬・末梢血管拡張薬等の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | 血液・造血器系に作用する薬 | 止血薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 抗血栓薬、抗凝固薬及び血栓溶解薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 貧血治療薬・白血球減少症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | 泌尿器系・生殖器系に作用する薬 | 利尿薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 排尿障害治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 妊娠・分娩・避妊に関連する薬物の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | 呼吸器系・消化器系に作用する薬 | 呼吸器系に作用する薬 | 気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患の治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | 消化器系に作用する薬 | 胃・十二指腸潰瘍治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | その他の消化性疾患治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 制吐薬・催吐薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 肝疾患・膵臓疾患・胆道疾患治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | 代謝系・内分泌系に作用する薬 | 代謝系に作用する薬 | 糖尿病治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 脂質異常症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 高尿酸血症・痛風治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | 内分泌系に作用する薬 | 副腎皮質ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | 甲状腺ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | その他のホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | 感覚器系・皮膚に作用する薬 | 感覚器系に作用する薬 | 緑内障治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | その他の眼疾患（白内障・加齢性黄斑変性等）の治療薬、散瞳薬・縮瞳薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | | めまい（動揺病、メニエール病等）の治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | 皮膚に作用する薬 | 褥瘡・皮膚潰瘍治療薬、その他の皮膚疾患（アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬、尋常性痤瘡等）の治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）に作用する薬 | 抗菌薬 | 抗菌薬の薬理（薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用）を説明できる。 |
| | | 抗真菌薬 | 抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | 抗ウイルス薬 | ウイルス感染症（ヘルペスウイルス感染症、サイトメガロウイルス感染症、インフルエンザ、ウイルス性肝炎、HIV）治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | 原虫・寄生虫感染症治療薬 | 原虫感染症・寄生虫感染症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |
| | | 抗悪性腫瘍薬 | 抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 薬物の基本構造と薬効 | 化学構造と薬効の関連性 | 代表的な薬物の基本構造と薬効の関連を説明できる。 |

【別表Ⅳ　薬剤】

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | 小項目の例示 |
|---|---|---|---|
| 薬の生体内運命 | 薬物の体内動態 | 生体膜透過 | 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散及び能動輸送の特徴を説明できる。 |
| | | | 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。 |
| | | 吸収 | 経口投与された薬物の吸収について説明できる。 |
| | | | 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。 |
| | | | 薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因等）を列挙し、説明できる。 |
| | | | 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げて説明できる。 |
| | | | 初回通過効果について説明できる。 |
| | | 分布 | 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。 |
| | | | 薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合並びに組織結合との関係を定量的に説明できる。 |
| | | | 薬物のタンパク結合及び結合阻害の測定・解析方法を説明できる。 |
| | | | 血液－組織関門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。 |
| | | | 薬物のリンパ及び乳汁中への移行について説明できる。 |
| | | | 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げて説明できる。 |
| | | 代謝 | 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織並びに細胞内小器官、反応様式について説明できる。 |
| | | | 薬物代謝の第Ⅰ相反応（酸化・還元・加水分解）、第Ⅱ相反応（抱合）について、例を挙げて説明できる。 |
| | | | 代表的な薬物代謝酵素（分子種）により代謝される薬物を列挙できる。 |
| | | | プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。 |
| | | | 薬物代謝酵素の阻害及び誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げて説明できる。 |
| | | 排泄 | 薬物の尿中排泄機構について説明できる。 |
| | | | 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。 |
| | | | 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。 |
| | | | 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。 |
| | | | 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げて説明できる。 |
| | 薬物動態の解析 | 薬物速度論 | 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ（全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能等）を説明できる。 |
| | | | 線形1－コンパートメントモデルに基づいた解析ができる（急速静注・経口投与［単回及び反復投与］、定速静注）。 |
| | | | 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。 |
| | | | モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。 |
| | | | 組織クリアランス（肝、腎）及び固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。 |
| | | | 薬物動態学－薬力学解析（PK-PD解析）について説明できる。 |
| | | TDM（Therapeutic Drug Monitoring）と投与設計 | 治療薬物モニタリング（TDM）の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。 |
| | | | TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。 |
| | | | 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について説明できる。 |
| 製剤化のサイエンス | 製剤の性質 | 固形材料 | 粉体の性質について説明できる。 |
| | | | 結晶（安定形及び準安定形）や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。 |
| | | | 固形材料の溶解現象（溶解度、溶解平衡等）や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 |
| | | | 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子（pHや温度等）について説明できる。 |
| | | | 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。 |
| | | 半固形・液状材料 | 流動と変形（レオロジー）について説明できる。 |
| | | | 高分子の構造と高分子溶液の性質（粘度等）について説明できる。 |
| | | 分散系材料 | 界面の性質（界面張力、分配平衡、吸着等）や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 |
| | | | 代表的な分散系（分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤等）を列挙し、その性質について説明できる。 |
| | | | 分散した粒子の安定性と分離現象（沈降等）について説明できる。 |
| | | | 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。 |
| | | 薬物及び製剤材料の物性 | 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。 |
| | | | 薬物の安定性（反応速度、複合反応等）や安定性に影響を及ぼす因子（pH、温度等）について説明できる。 |
| | | | 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。 |
| | 製剤設計 | 代表的な製剤<br>（日本薬局方準拠） | 製剤化の概要と意義について説明できる。 |
| | | | 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。 |
| | | | 粘膜に適用する製剤（点眼剤、吸入剤等）の種類とその特性について説明できる。 |
| | | | 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。 |
| | | | 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。 |
| | | | その他の製剤（生薬関連製剤、透析に用いる製剤等）の種類と特性について説明できる。 |
| | | 製剤化と製剤試験法 | 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。 |
| | | | 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械及び代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。 |
| | | | 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。 |
| | | | 製剤に関連する試験法（日本薬局方準拠）を列挙し、説明できる。 |
| | | 生物学的同等性 | 製剤の特性（適用部位、製剤からの薬物の放出性等）を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。 |
| | DDS（Drug Delivery System：薬物送達システム） | DDSの必要性 | DDSの概念と有用性について説明できる。 |
| | | | 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 |
| | | コントロールドリリース（放出制御） | コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。 |
| | | | 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。 |
| | | | コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。 |
| | | ターゲティング（標的指向化） | ターゲティングの概要と意義について説明できる。 |
| | | | 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。 |
| | | | ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。 |
| | | 吸収改善 | 吸収改善の概要と意義について説明できる。 |
| | | | 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。 |

## 【別表Ⅴ　病態・薬物治療】

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | 小項目の例示 |
|---|---|---|---|
| 薬の作用と体の変化 | 身体の病的変化を知る | 症候 | 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。<br>ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害 |
| | | 病態・臨床検査 | 尿検査及び糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。 |
| | | | 血液検査、血液凝固機能検査及び脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。 |
| | | | 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。 |
| | | | 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。 |
| | | | 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。 |
| | | | 代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査及び画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。 |
| | | | 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。 |
| | | | 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。 |
| | 薬物治療の位置づけ | 薬物治療の位置づけ | 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療(外科手術、食事療法等)の位置づけを説明できる。 |
| | 医薬品の安全性 | 医薬品の安全性 | 以下の障害を呈する代表的な副作用について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見及び対処方法の概要を説明できる。<br>血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害、筋障害 |
| 病態・薬物治療 | 神経系の疾患 | 体性神経系・筋の疾患の病態、薬物治療 | 以下の疾患について、病態と治療の概要を説明できる。<br>進行性筋ジストロフィー、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症 |
| | | 中枢神経系の疾患の病態、薬物治療 | 統合失調症について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 神経症、不眠症について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | てんかんについて、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | パーキンソン病について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 認知症(アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症等)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 片頭痛について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 以下の疾患について、病態と治療の概要を説明できる。<br>脳炎・髄膜炎、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、ナルコレプシー、薬物依存症、アルコール依存症 |
| | 免疫・炎症・アレルギー及び骨・関節の疾患 | 炎症 | 炎症の病態(病態生理、症状等)を説明できる。 |
| | | | 創傷治癒の過程について説明できる。 |
| | | 免疫・炎症・アレルギー疾患の病態、薬物治療 | アナフィラキシーショックについて、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 関節リウマチについて、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 以下の全身性自己免疫疾患について、病態と治療の概要を説明できる。<br>全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、ベーチェット病 |
| | | | 臓器移植(腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血)について、拒絶反応及び移植片対宿主病(GVHD)の病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | 骨・関節疾患の病態、薬物治療 | 骨粗しょう症について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 以下の骨・関節疾患について、病態と治療の概要を説明できる。<br>変形性関節症、骨軟化症(くる病を含む) |
| | 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患 | 循環器系疾患の病態、薬物治療 | 不整脈について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 急性及び慢性心不全について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 高血圧症について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 以下の循環器系疾患について、病態と治療の概要を説明できる。<br>閉塞性動脈硬化症(ASO)、心原性ショック、弁膜症、感染性心内膜炎 |
| | | 血液・造血器系疾患の病態、薬物治療 | 以下の貧血について、病態と治療の概要を説明できる。<br>鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、腎性貧血 |
| | | | 播種性血管内凝固症候群(DIC)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 以下の血液系疾患について、病態と治療の概要を説明できる。<br>血友病、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、特発性血小板減少性紫斑病(ITP)、白血球減少症、血栓塞栓症 |
| | | 泌尿器系・生殖器系疾患の病態、薬物治療 | 急性及び慢性腎不全、慢性腎臓病(CKD)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | ネフローゼ症侯群について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 過活動膀胱及び低活動膀胱について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 以下の泌尿器系疾患について、病態と治療の概要を説明できる。<br>糸球体腎炎、糖尿病性腎症、薬剤性腎症、尿路感染症(腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎)、尿路結石 |
| | | | 前立腺肥大症について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 以下の生殖器系疾患について、病態と治療の概要を説明できる。<br>子宮内膜症、子宮筋腫 |
| | | | 以下の妊娠・分娩に関連する疾患について、病態と治療の概要を説明できる。<br>異常妊娠、異常分娩、不妊症、性機能不全 |
| | 呼吸器系・消化器系の疾患 | 呼吸器系疾患の病態、薬物治療 | 気管支喘息について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 慢性閉塞性肺疾患について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 間質性肺炎(肺線維症を含む)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 |
| | | | 以下の呼吸器疾患について、病態と治療の概要を説明できる。<br>上気道炎(かぜ症候群を含む)、気管支炎、肺炎、インフルエンザ、肺結核、胸膜炎 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 消化器系疾患の病態、薬物治療 | 以下の上部消化器疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。<br>胃食道逆流症（逆流性食道炎を含む）、消化性潰瘍、胃炎 |
| | | | 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 肝疾患（肝炎、肝硬変（ウイルス性を含む）、薬剤性肝障害）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 膵炎について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 胆道疾患（胆石症、胆道炎）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 機能性消化管障害（過敏性腸症候群を含む）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 以下の消化器疾患について、病態と治療の概要を説明できる。<br>慢性便秘、感染性腸炎、急性虫垂炎、腹膜炎 |
| | 代謝系・内分泌系の疾患 | 代謝系疾患の病態、薬物治療 | 糖尿病とその合併症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 脂質異常症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 高尿酸血症、痛風について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 低血糖症について、病態と治療の概要を説明できる。 |
| | | 内分泌系疾患の病態、薬物治療 | バセドウ病、慢性甲状腺炎（橋本病）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | クッシング症候群について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 以下の内分泌系疾患について、病態と治療の概要を説明できる。<br>先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、副甲状腺機能亢進症・低下症、粘液水腫、アジソン病、アルドステロン症、尿崩症、褐色細胞腫 |
| | 感覚器・皮膚の疾患 | 眼疾患の病態、薬物治療 | 緑内障について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 白内障について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 加齢性黄斑変性について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 以下の眼疾患について、病態と治療の概要を説明できる。<br>角膜炎、結膜炎、網膜症、網膜色素変性症 |
| | | 耳鼻咽喉疾患の病態、薬物治療 | めまい（動揺病、メニエール病等）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 以下の耳鼻咽喉疾患について、病態と治療の概要を説明できる。<br>アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎、口内炎・咽頭炎・扁桃炎 |
| | | 皮膚疾患の病態、薬物治療 | アトピー性皮膚炎について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 白癬について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 以下の皮膚疾患について、病態と治療の概要を説明できる。<br>蕁麻疹、接触性皮膚炎、薬疹（スティーブンス-ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症を含む）、尋常性乾癬、光線過敏症、褥瘡、尋常性痤瘡 |
| | 感染症・悪性新生物（がん） | 細菌感染症の病態、薬物治療 | 以下の呼吸器感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法及び薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。<br>扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、百日咳、マイコプラズマ肺炎 |
| | | | 以下の消化器感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。<br>急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、偽膜性大腸炎、腹膜炎 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | 以下の感覚器感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。<br>副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎 |
| | | | 以下の尿路感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。<br>腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎 |
| | | | 以下の性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法及び薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。<br>梅毒、淋病、クラミジア症 |
| | | | 髄膜炎について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 |
| | | | 以下の皮膚細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。<br>伝染性膿痂疹、蜂窩織炎 |
| | | | 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 |
| | | | 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。<br>MRSA、緑膿菌等 |
| | | | 以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法及び薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。<br>破傷風、敗血症 |
| | | ウイルス感染症の病態、薬物治療 | ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹、脳炎）について、予防方法及び病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 |
| | | | サイトメガロウイルス感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 |
| | | | インフルエンザについて、感染経路と予防方法及び病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、感染経路と予防方法及び病態（病態生理（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 後天性免疫不全症候群（AIDS）について、感染経路と予防方法及び病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 以下のウイルス感染症について、感染経路と予防方法及び病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。<br>伝染性単核球症、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、上気道炎（かぜ症候群を含む）、気管支炎 |
| | | 真菌感染症の病態、薬物治療 | 以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。<br>白癬、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症 |
| | | 原虫・寄生虫感染症の病態、薬物治療 | 以下の原虫・寄生虫感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。<br>マラリア、トリコモナス症、アニサキス症 |
| | | 悪性腫瘍 | 腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。 |
| | | | 悪性腫瘍について、以下の項目の概要を説明できる。<br>組織型分類及び病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状及びがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスク及び予防要因 |
| | | | 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概要を説明できる。 |
| | | 悪性腫瘍の病態、疾患 | 抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）とその軽減のための対処法を説明できる。 |
| | | | 代表的ながん化学療法のレジメンについて、構成薬物及びその役割、副作用、対象疾患の概要を説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | 以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。<br>急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病 |
| | | | 悪性リンパ腫及び多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 大腸癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。<br>胃癌、食道癌、肝癌、胆嚢・胆管癌、膵癌 |
| | | | 肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 以下の頭頚部の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。<br>脳腫瘍、喉頭・咽頭の悪性腫瘍 |
| | | | 乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 |
| | | | 以下の泌尿器・生殖器・皮膚の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。<br>腎癌、膀胱癌、前立腺癌、子宮癌、卵巣癌、悪性黒色腫 |
| | | がん終末期医療と緩和ケア | がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。 |
| | | | がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択、WHO三段階除痛ラダーを含む）を説明できる。 |
| | 医療の中の漢方薬 | 漢方薬の基礎 | 配合生薬の組合せによる漢方薬の系統的な分類について概要を説明できる。 |
| | | 漢方薬の応用 | 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方（陰陽、虚実、証等）、治療法について概要を説明できる。 |
| | | 漢方薬の注意点 | 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。 |
| | バイオ・細胞医薬品とゲノム情報 | 組換え体医薬品 | 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。 |
| | | | 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。 |
| | | | 組換え体医薬品の安全性について説明できる。 |
| | | 遺伝子治療 | 遺伝子治療の原理、現状及び倫理的問題点を説明できる。 |
| | | 細胞、組織を利用した移植医療 | 移植医療の現状及びゲノム情報の取扱いに関する倫理的問題点を説明できる。 |
| | | | 摘出及び培養組織を用いた移植医療について説明できる。 |
| | | | 臍帯血、末梢血及び骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。 |
| | | | 胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた細胞移植医療について説明できる。 |
| 薬物治療に役立つ情報 | 医薬品情報 | 情報 | 薬物治療に必須の医薬品情報を列挙できる。 |
| | | | 医薬品（後発医薬品等を含む）の開発過程で行われる試験（非臨床試験、臨床試験、安定性試験）の種類、目的と得られる医薬品情報について概要を説明できる。 |
| | | | 医薬品の市販後に行われる調査・試験の種類、目的と得られる医薬品情報について概要を説明できる。 |
| | | 情報源 | 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類法の概要と代表的な二次資料、三次資料の特徴を説明できる。 |
| | | | 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業等の発行する資料を列挙し、概要を説明できる。 |
| | | | 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけ及び各項目の記載内容・記載方法について説明できる。 |
| | | | 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。 |
| | | 収集・評価・加工・提供・管理 | 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒等）に適した主な情報源を列挙できる。 |
| | | | MEDLINE等の医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索法を説明できる。 |
| | | | 各種の医薬品情報（臨床試験等の原著論文を含む）の信頼性、科学的妥当性等を評価する際に必要な基本的項目を説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し、管理する際の方法と注意点（知的所有権、守秘義務等）について説明できる。 |
| | | EBM（Evidence-based Medicine） | EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。 |
| | | | 代表的な臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究等）の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概要を説明できる。 |
| | | | 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性（研究結果の正確度や再現性）と外的妥当性（研究結果の一般化の可能性）について概要を説明できる。 |
| | | | メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。 |
| | | 生物統計 | 臨床研究における基本的な統計量（平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間等）の意味と違いを説明できる。 |
| | | | 帰無仮説の概念及び検定と推定の違いを説明できる。 |
| | | | 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。 |
| | | | 主な回帰分析（直線回帰、ロジスティック回帰、Cox比例ハザード回帰等）と相関係数の検定について概要を説明できる。 |
| | | | 基本的な生存時間解析法（カプラン・マイヤー曲線等）について概要を説明できる。 |
| | | 臨床研究デザインと解析 | 臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴について概要を説明できる。 |
| | | | 臨床研究におけるバイアス・交絡とその回避法について概要を説明できる。 |
| | | | 観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究等）について概要を説明できる。 |
| | | | 副作用の因果関係の評価法（副作用判定アルゴリズム等）について概要を説明できる。 |
| | | | 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。 |
| | | | 介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化等）について概要を説明できる。 |
| | | | 介入研究の効果指標（真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント）の違いを例を挙げて説明できる。 |
| | | | 臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク減少、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率等）を説明し、計算できる。 |
| | | 医薬品の比較・評価 | 病院や薬局において医薬品を採用選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。 |
| | | | 医薬品情報に基づいて、代表的な医薬品間（同種同効薬、先発医薬品と後発医薬品等）の有効性や安全性について比較・評価するための項目を列挙できる。 |
| | 患者情報 | 情報と情報源 | 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。 |
| | | | 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。 |
| | | 収集・評価・管理 | 問題志向型システム（POS）を説明できる。 |
| | | | SOAP形式等の患者情報の記録方法について説明できる。 |
| | | | 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概要を説明できる。 |
| | | | 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 |
| | 個別化医療 | 遺伝的素因 | 薬物の主作用及び副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。 |
| | | | 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因（薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異等）について、例を挙げて説明できる。 |
| | | | コンパニオン診断に基づく薬物治療について、例を挙げて説明できる。 |
| | | 年齢的要因 | 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と薬物治療で注意すべき点を説明できる。 |
| | | | 高齢者における薬物動態と薬物治療で注意すべき点を説明できる。 |
| | | 臓器機能低下 | 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。 |
| | | | 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。 |
| | | その他の要因 | 薬物の効果に影響する生理的要因(性差、閉経、日内変動等)を列挙できる。 |
| | | | 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。 |
| | | | 栄養状態の異なる患者(肥満、低アルブミン血症、腹水等)における薬物動態と薬物治療で注意すべき点を説明できる。 |

## 【別表Ⅵ　法規・制度・倫理】

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | 小項目の例示 |
|---|---|---|---|
| プロフェッショナリズム | 薬剤師の使命 | 薬剤師の活動分野 | 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。 |
| | | 患者安全と薬害の防止 | 医薬品の役割とリスクについて説明できる。 |
| | | | WHOによる患者安全の基本的な考え方について説明できる。 |
| | | | 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。 |
| | | | 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。 |
| | | | 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を説明できる。 |
| | | | 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。 |
| | | | 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を説明できる。 |
| | | 薬学の歴史と未来 | 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。 |
| | | | 薬物療法の歴史と人類に与えてきた影響について説明できる。 |
| | | | 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。 |
| | | | 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について概要を説明できる。 |
| | 薬剤師に求められる倫理観 | 生命倫理 | 生命の尊厳について説明できる。 |
| | | | 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。 |
| | | | 生と死に関わる倫理的問題について概要を説明できる。 |
| | | | 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概要を説明できる。 |
| | | 医療倫理 | 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について説明できる。 |
| | | | 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。 |
| | | | 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。 |
| | | 患者の権利 | 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を説明できる。 |
| | | | 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。 |
| | | | 患者の自己決定権とインフォームド・コンセントの意義について説明できる。 |
| | | | 知り得た情報の適切な取扱い(守秘義務等)と患者等への情報提供の重要性について説明できる。 |
| | 薬学研究 | 薬学における研究の位置づけ | 医薬品の創製における基礎から臨床に至る研究の目的と薬剤師の役割について説明できる。 |
| | | | 研究における自立性と独創性の重要性について説明できる。 |
| | | 研究に必要な法規範と倫理 | 自らが実施する研究に係る法令、指針について説明できる。 |
| | | | 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 |
| | | | 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。 |
| | | | 人を対象とする研究において遵守すべき倫理指針の概要を説明できる。 |
| | | 研究の実践 | 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を守ることの重要性を説明できる。 |
| | | | 研究を実践するプロセスの概要を説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 信頼関係の構築 | コミュニケーション | 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。 |
| | | | 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。 |
| | | | 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションのあり方が異なることを例を挙げて説明できる。 |
| | | | 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について説明できる。 |
| | | | 相手の心理状態とその変化に配慮した対応の仕方について説明できる。 |
| | | | 自分の心理状態を意識して他者と接することの重要性を説明できる。 |
| | | | 相手の考えや感情を理解するための適切な聴き方、質問の仕方を説明できる。 |
| | | | 自分の考えや感情を相手に伝えるための適切な方法を説明できる。 |
| | | | 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決に導くための方法を説明できる。 |
| | 自己研鑽と次世代を担う人材の育成 | 学習のあり方 | 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。 |
| | | | 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。 |
| | | | 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともにわかりやすく表現できる。 |
| | | | インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。 |
| | | 薬学教育の概要 | 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。 |
| | | | 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。 |
| | | 生涯学習 | 生涯にわたって継続的に自ら学習する重要性を認識し、その方法と意義について説明できる。 |
| | | 次世代を担う人材の育成 | 後輩等への適切な指導方法について概要を説明できる。 |
| 薬学と社会 | 人と社会に関わる薬剤師 | 人と社会に関わる薬剤師 | 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。 |
| | | | 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について説明できる。 |
| | | | 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について説明できる。 |
| | | | 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について説明できる。 |
| | | | 倫理規範や法令に則した行動を説明できる。 |
| | 薬剤師と医薬品等に係る法規範 | 薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範 | 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。 |
| | | | 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。 |
| | | | 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。 |
| | | | 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について説明できる。 |
| | | | 医療提供施設の種類、定義と要件について説明できる。 |
| | | | 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 |
| | | | 医療の提供体制と安全の確保等に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 |
| | | | 個人情報の取扱いについて説明できる。 |
| | | | 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について説明できる。 |
| | | 医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範 | 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の定義について説明できる。 |
| | | | 医薬品等の開発から承認までのプロセスと法規範について説明できる。 |
| | | | 治験の意義と仕組みについて説明できる。 |
| | | | 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。 |
| | | | 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。 |
| | | | 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。 |
| | | | 日本薬局方の意義と構成について説明できる。 |
| | | | 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。 |
| | | | 健康被害救済制度について説明できる。 |
| | | | レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。 |
| | | 特別な管理を要する薬物等に係る法規範 | 麻薬、向精神薬、覚せい剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。 |
| | | | 覚せい剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について説明できる。 |
| | | | 毒物劇物の取扱いに係る規定について説明できる。 |
| | 社会保障制度と医療経済 | 医療、福祉、介護の制度 | 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。 |
| | | | 医療保険制度（成り立ち、種類、仕組み、現状）について説明できる。 |
| | | | 療養担当規則について説明できる。 |
| | | | 公費負担医療制度（生活保護等）について説明できる。 |
| | | | 介護保険制度の基本的な仕組みについて説明できる。 |
| | | | 薬価基準制度の概要を説明できる。 |
| | | | 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みの概要を説明できる。 |
| | | 医薬品と医療の経済性 | 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概要を説明できる。 |
| | | | 国民医療費の動向について概要を説明できる。 |
| | | | 後発医薬品とその役割について説明できる。 |
| | | | 薬物療法の経済評価手法について概要を説明できる。 |
| | 地域における薬局と薬剤師 | 地域における薬局の役割 | 地域における薬局（健康サポート薬局を含む）の機能と役割について説明できる。 |
| | | | 医薬分業の意義と動向を説明できる。 |
| | | | かかりつけ薬剤師・薬局による薬学的管理の意義について説明できる。 |
| | | | セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。 |
| | | | 災害時の薬局の役割について説明できる。 |
| | | | 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。 |
| | | 地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師 | 地域包括ケアの理念、薬局と薬剤師の役割について説明できる。 |
| | | | 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。 |
| | | | 学校薬剤師の役割について説明できる。 |
| | | | 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について説明できる。 |
| | | | 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について説明できる。 |

【別表Ⅶ 実務】

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | 小項目の例示 |
|---|---|---|---|
| 薬学臨床基本事項 | 医療人としての基本 | 医療人として | 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。 |
| | | | 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮した関わり方について説明できる。 |
| | | | 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を説明できる。 |
| | | | 現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を説明できる。 |
| | | | 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について個々の場面に合わせて説明できる。 |
| | | | 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい行動ができる。 |
| | | | 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める行動ができる。 |
| | | | チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすことができる。 |
| | | | チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚した行動ができる。 |
| | | | 薬学的管理を実施する際のインフォームド・コンセントについて具体的に説明できる。 |
| | | | 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。 |
| | | | 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動ができる。 |
| | | | 一次救命処置（心肺蘇生、外傷対応等）について説明できる。 |
| | 薬剤師業務の基礎 | 臨床業務の基礎 | 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。 |
| | | | 保険調剤における薬剤師業務を具体的に説明できる。 |
| | | | 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。 |
| | | | 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。 |
| | | | 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連づけて説明できる。 |
| | | | 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を具体的に説明できる。 |
| | | | 急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。 |
| | | | 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。 |
| | | | 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。 |
| | | | 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。 |
| 薬学臨床実践 | 処方箋に基づく調剤 | 処方箋と疑義照会 | 処方箋の記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。 |
| | | | 注射薬処方箋の記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。 |
| | | | 処方箋の監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。 |
| | | | 薬歴、診療録、患者の状態等から処方が妥当であるか判断できる。 |
| | | | 薬歴、診療録、患者の状態等から判断して適切に疑義照会ができる。 |
| | | 処方箋に基づく医薬品の調製 | 薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。 |
| | | | 適切な手順で後発医薬品を選択できる。 |
| | | | 処方箋に従って計数・計量調剤ができる。 |
| | | | 錠剤の粉砕及びカプセル剤の開封の可否を判断できる。 |
| | | | 一回量（一包化）調剤の必要性を判断できる。 |
| | | | 注射薬処方箋に従って注射薬調剤ができる。 |
| | | | 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。 |
| | | | 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。 |
| | | | 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。 |
| | | | 無菌操作の原理とその基本的な操作について具体的に説明できる。 |
| | | | 注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作について具体的に説明できる。 |
| | | | 抗悪性腫瘍薬等の取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を具体的に説明できる。 |
| | | | 特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。 |
| | | | 調製された薬剤の適切な鑑査について具体的に説明できる。 |
| | | 服薬指導 | 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。 |
| | | | 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。 |
| | | | 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。 |
| | | | 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施できる。 |
| | | | 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な応対ができる。 |
| | | | お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。 |
| | | | 収集した患者情報を薬歴や診療録等に適切に記録することができる。 |
| | | 医薬品の供給と管理 | 医薬品管理の流れを説明できる。 |
| | | | 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。 |
| | | | 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。 |
| | | | 医薬品の適切な在庫管理を実施できる。 |
| | | | 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。 |
| | | | 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬及び覚せい剤原料の適切な管理と取扱いができる。 |
| | | | 特定生物由来製品の適切な管理と取扱いができる。 |
| | | | 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。 |
| | | | 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理等について説明できる。 |
| | | | 薬局製剤（漢方製剤を含む）の取扱いについて説明できる。 |
| | | 安全管理 | 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。 |
| | | | 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。 |
| | | | インシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を実施することができる。 |
| | | | 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。 |
| | | | 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。 |
| | | | 代表的な消毒薬の用途、使用濃度及び調製時の注意点を説明できる。 |
| | | | 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。 |
| | | | 施設内での感染対策（予防、蔓延防止等）について具体的に説明できる。 |
| | 薬物療法の実践 | 患者情報の把握 | 患者・来局者及び種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。 |
| | | | 基本的な身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。 |
| | | | 患者の基本的な身体所見を観察・測定・評価し、薬学的管理に活かすことができる。 |
| | | 医薬品情報の収集と活用 | 医療スタッフ及び患者のニーズに合った医薬品情報が提供できる。 |
| | | | 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止等の緊急情報を適切に取り扱うことができる。 |
| | | 処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案） | 患者の診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。 |
| | | | 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、妊婦・授乳婦、小児、高齢者等の生理的特性、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。 |
| | | | 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。 |
| | | | 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。 |
| | | | 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。 |
| | | | アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。 |
| | | | 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足等が評価できる。 |
| | | | 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。 |
| | | | 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。 |
| | | 処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価） | 医薬品の効果と副作用について、モニタリングすべき症状と検査所見等を説明できる。 |
| | | | 治療薬物モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の提案ができる。 |
| | | | 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果、副作用及び相互作用について予測できる。 |
| | | | 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。 |
| | | | 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見等から評価できる。 |
| | | | 副作用の発現について、患者の症状や検査所見等から評価できる。 |
| | | | 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。 |
| | | | 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録できる。 |
| | | | 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に必要事項を記載し、報告できる。 |
| | チーム医療への参画 | 多職種連携協働とチーム医療 | 保健、医療における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。 |
| | | | 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。 |
| | | | チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。 |
| | | 医療機関におけるチーム医療 | 医療機関における多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の目的と構成、構成員の役割、その中での薬剤師の重要性を説明できる。 |
| | | | 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。 |
| | | | 他職種と患者の状態（病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等）、治療開始後の変化（治療効果、副作用、心理状態、QOL等）について情報共有の重要性を説明できる。 |
| | | | 他職種と連携・協力して、患者の最善の治療・ケアが提案できる。 |
| | | 地域におけるチーム医療 | 地域の保健、医療、介護、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）及びその意義について説明できる。 |
| | | | 地域住民への情報提供・健康教育の重要性を説明できる。 |
| | | | 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有ができる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | かかりつけ薬剤師・薬局の業務を具体的に説明できる。 |
| | | | 健康サポート薬局の具体的な業務を説明できる。 |
| | 地域の保健・医療・福祉への参画 | 在宅（訪問）医療・介護への参画 | 在宅医療・介護の目的、仕組み、関わる職種、支援の内容を説明できる。 |
| | | | 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。 |
| | | | 在宅医療・介護に関する薬剤師の役割と管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務、医療廃棄物の取扱い等）について説明できる。 |
| | | | 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集の方法、他職種との情報共有について説明できる。 |
| | | | 在宅患者の終末期医療について説明できる。 |
| | | 地域保健への参画 | 学校薬剤師が行う業務内容とその意義を説明できる。 |
| | | | 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。 |
| | | | 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品を使用する場合の危険行為等に対する対処法）における薬剤師活動を説明できる。 |
| | | プライマリケア・セルフメディケーション | 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を説明できる。 |
| | | | 薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品、一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等のリスクに応じた適切な取扱い、管理ができる。 |
| | | | 来局者から収集した情報や身体所見等に基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。 |
| | | | 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品、一般用医薬品及び検査薬等の推奨、生活指導等）を選択できる。 |
| | | | 選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品、一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点（副作用・相互作用等含む）等を来局者に適切にわかりやすく説明できる。 |
| | | | 疾病予防及び健康管理について適切な生活指導やアドバイスができる。 |
| | | 災害時医療と薬剤師 | 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。 |
| | | | 災害発生時における病院・薬局の役割と薬剤師の活動について説明できる。 |
| | | | 災害時に派遣される医療チームと薬剤師の関わりを説明できる。 |



北里大学 薬学部
Kitasato University School of Pharmacy

〒108-8641　東京都港区白金5-9-1
TEL 03-5791-6486
https://www.kitasato-u.ac.jp